FUJI Xerox

ApeosPort-VI C7771 DocuCentre-VI C7771
ApeosPort-VI C6671 DocuCentre-VI C6671
ApeosPort-VI C5571 DocuCentre-VI C5571
ApeosPort-VI C4471 DocuCentre-VI C4471
ApeosPort-VI C3371 DocuCentre-VI C3371
ApeosPort-VI C2271 DocuCentre-VI C2271

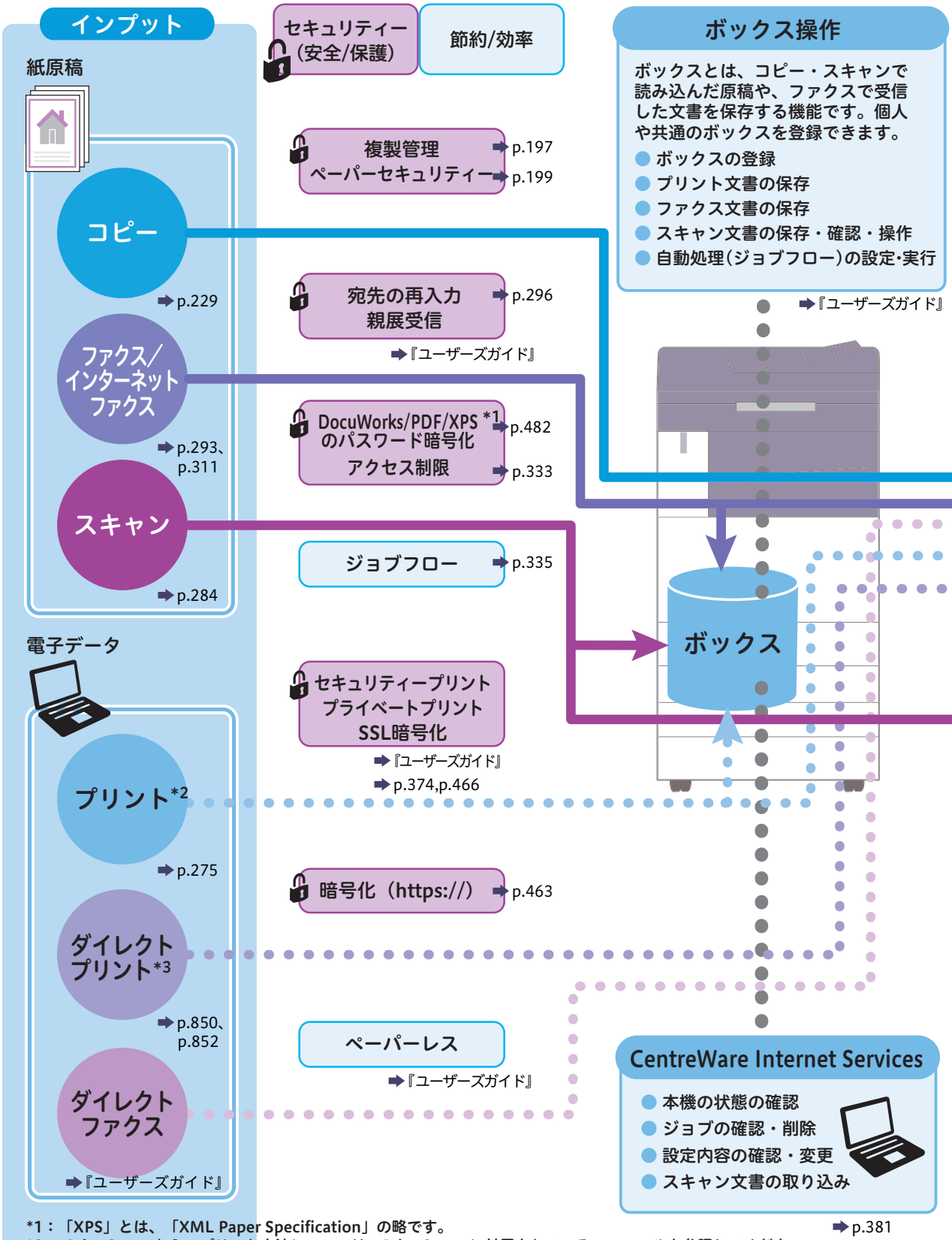
管理者ガイド

管理者の操作について説明しています。
コピー操作、スキャン操作などは
ユーザーズガイドをご覧ください。



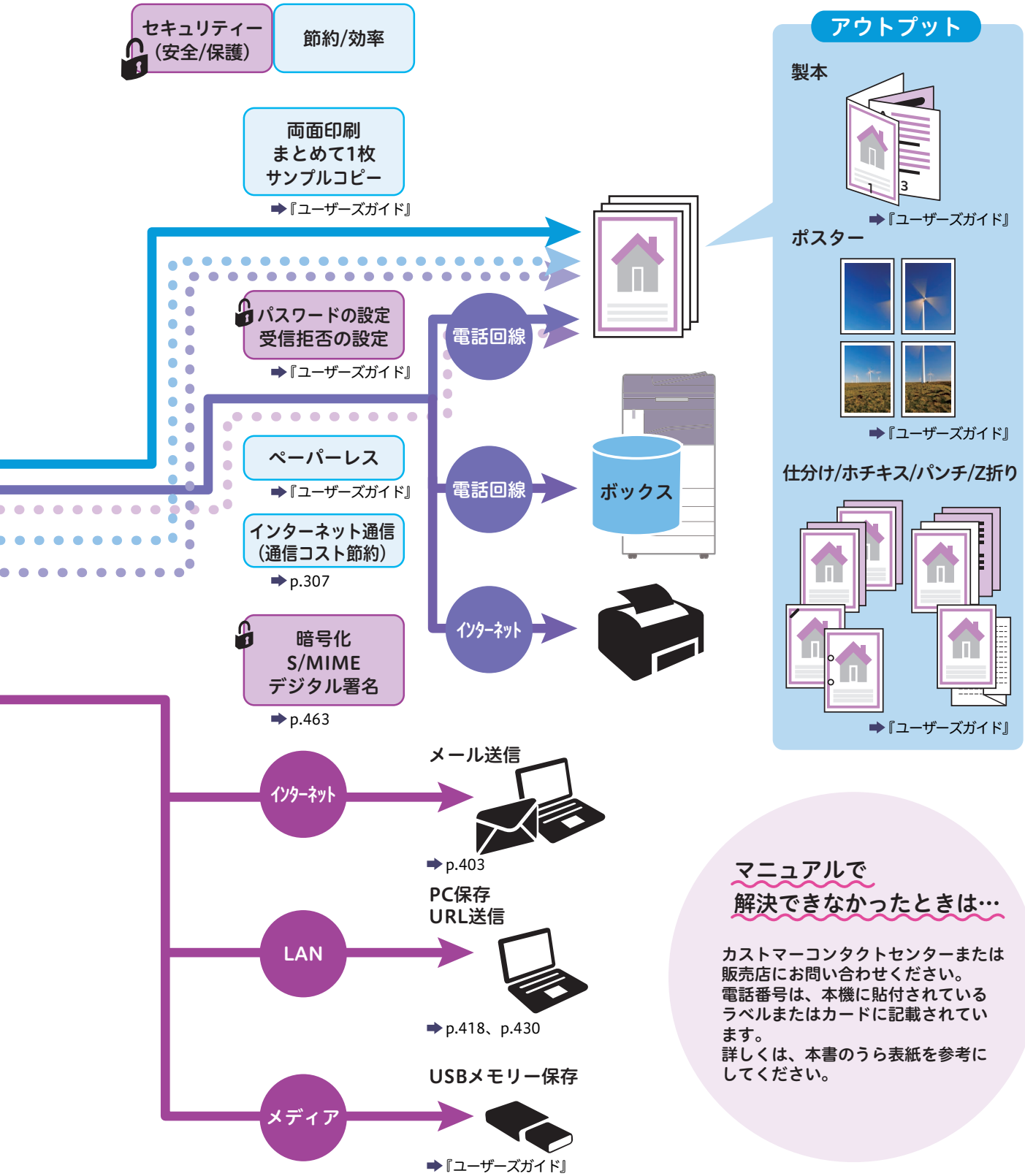
こんな機能があります

本機は、オフィス内のドキュメント出力や活用を、安全で効果的に実現するために、さまざまな機能を用意しています。
機種によっては、オプションが必要な機能があります。オプションについては、弊社の営業担当者にお尋ねください。



*1：「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
*2：Print Serverからのプリント方法については、Print Serverに付属されているマニュアルを参照してください。
*3：CentreWare Internet Servicesからのプリント指示

ページ番号を記載している機能は、この「管理者ガイド」で説明している機能です。今まで使わなかった機能など、是非ご利用ください。



マニュアルで解決できなかったときは…

カストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。
電話番号は、本機に貼付されているラベルまたはカードに記載されています。
詳しくは、本書のうら表紙を参考にしてください。

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、Internet Explorer は、
米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Adobe、Acrobat、Reader、PostScript、PostScript 3、PostScript ロゴは、
Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
Macintosh、Mac OS、OS X、macOS は、Apple Inc. の商標です。
HP、HP-GL、HP-GL/2 は、日本ヒューレット・パッカード社の登録商標です。
BMLinkS は、社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMIA）の商標です。
Unicode は、Unicode, Inc. の商標または登録商標です。
RSA および BSAFE は、EMC コーポレーションの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Cisco は、米国およびその他の地域における Cisco Systems, Inc. の登録商標です。
ThinPrint は、ThinPrint GmbH のドイツおよびその他の国における商標または登録商標です。
FeliCa は、ソニー株式会社が開発した非接触 IC カードの技術方式です。
FeliCa は、ソニー株式会社の登録商標です。
MIFARE は、NXP セミコンダクターズの登録商標です。
SSFC は、大日本印刷（株）の登録商標です。
Google Cloud Print、Gmail は、Google Inc. の登録商標または商標です。
Mopria ™は、Mopria ™ Alliance の登録商標です。
その他の社名、または商品名等は各社の登録商標または商標です。
Microsoft Corporation の許可を得て画面写真を使用しています。

ライセンスについては、別冊の『ライセンス』に記載しています。

万一本体の記憶媒体（ハードディスク等）に不具合が発生した場合、受信したデータ、蓄積されたデータ、設定登録されたデータ等が消失することがあります。データの消失による損害については、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

コンピューターウイルスや不正侵入などによって発生した障害については、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

この取扱説明書のなかで⚠と表記されている事項は、安全にご利用いただくための注意事項です。必ず操作を行う前にお読みいただき、指示をお守りください。

本機には偽造防止機能が搭載されているため、まれに原稿によっては適切なコピーやスキャンデータが得られないことがあります。

本機を輸出（又は非居住者との間で役務取引）する場合は我が国の外国為替及び外国貿易法及びこれに付随する法令等ならびに米国輸出管理規則を遵守してください。

平成明朝体™W3、平成角ゴシック体™W5 は、財団法人日本規格協会を中心に制作グループが共同開発したものです。なお、フォントの一部には、弊社でデザインした外字を含みます。許可なく複製することはできません。

ご注意

① 本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改変することはおやめください。ただし、本機をご利用いただくために本書を参照する場合に限り、本書を複製することができます。
② 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
③ 本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。
④ 本書に記載されていない方法で機械を操作しないでください。思わぬ故障や事故の原因となることがあります。万一故障などが発生した場合は、責任を負いかねることがありますので、ご了承ください。
⑤ 本製品は、日本国内において使用することを目的に製造されています。諸外国では電源仕様などが異なるため使用できません。
また、安全法規制（電波規制や材料規制など）は国によってそれぞれ異なります。本製品および、関連消耗品をこれらの規制に違反して諸外国へ持ち込むと、罰則が科せられることがあります。

Xerox、Xerox ロゴ、Fuji Xerox ロゴ、および CentreWare は、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。
Apeos は富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
PDF Bridge、ContentsBridge、ApeosWare、DocuLyzer、DocuShare、Smart WelcomEyes、および DocuWorks は、
富士ゼロックス株式会社の登録商標または商標です。

目次

1 お使いいただく前に 17

はじめに 18
マニュアル体系 19
本書の使い方 21
本書の構成 21
本書の表記 22
インターフェイスケーブルの接続 24
USB インターフェイスでの接続 24
Ethernet インターフェイスでの接続 25
節電機能について 28
節電モード移行時間を変更する 28
Smart WelcomEyes を無効にする 30
暖機モードについて 32
暖機モード動作を設定する 32
操作パネルの設定変更について 35
初期表示画面を変更する 35
自動リセット後の画面を変更する 36
機能ボタン / 補助機能ボタンの配列を変更する 38
〈登録〉ボタンに機能を割り当てる 43
画面の明るさを調整する 45
タッチパネルの使い方 46
本機を安全にご利用いただくために 49
文字の入力方法について 50

2 用紙のセット 51

用紙について 52
使用できる用紙の質量と枚数 52
使用できる用紙の種類 55
用紙をセットする 58
用紙トレイ 1 ～ 4 に用紙をセットする 59
用紙トレイ 3 に用紙をセットする（タンデムトレイモジュール装着時） 61
用紙トレイ 4 に用紙をセットする（タンデムトレイモジュール装着時） 63
用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする 64
用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））に用紙をセットする 66
用紙サイズを変更する 68
用紙トレイ 1 ～ 4 の用紙サイズを変更する 68
用紙トレイ 3 の用紙サイズを変更する（タンデムトレイモジュール装着時） 69
用紙トレイ 4 の用紙サイズを変更する（タンデムトレイモジュール装着時） 71
用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））の用紙サイズを変更する 72
用紙の設定を変更する 75

3 日常の管理 79

消耗品を交換する 80

トナーカートリッジを交換する 82
トナー回収ボトル［R5］を交換する 84
ドラムカートリッジ［R1］［R2］［R3］［R4］を交換する（スポット保守のお客様のみ） 87
ホチキスカートリッジを交換する（フィニッシャー A2 装着時） 92
ホチキスカートリッジを交換する（フィニッシャー B1 装着時） 94
平とじ用ホチキス針を交換する（フィニッシャー C3 、中とじフィニッシャー C3 装着時） 97
中とじホチキスカートリッジを交換する（フィニッシャー B1 中とじユニット装着時） 99
中とじ用ホチキス針を交換する（中とじフィニッシャー C3 装着時） 101
パンチダストボックスの切りくずを捨てる（フィニッシャー B1 装着時） 104
パンチダストボックスのパンチくずを捨てる（フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 装着時） 105
スタンプを交換する（自動両面原稿送り装置 B1-PC の場合） 107
スタンプを交換する（自動両面原稿送り装置 C1-PC の場合） 108

本体を清掃する 110

本体外部の清掃 110
本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃 111
タッチパネルの清掃 113
原稿カバー、原稿ガラスの清掃 114
フィルム、原稿読み取りガラスの清掃 116
原稿送り装置のローラー部の清掃 118

自動階調補正を行う 120

両面読み取り色補正を行う 124

レポート / リストをプリントする 127

誤った User ID を付けたプライベートプリントのジョブを削除する 128

設定復元ツール 129

4 機械確認 131

機械確認の概要 132

機械状態 / レポート出力 133

機械情報 133
用紙トレイ 135
レポート / リストの出力 135
自動的にプリントするレポート / リストについて 147
HDD の上書き消去 149
プリンターモード 149
ファクス受信モード 153

エラー情報 154

消耗品確認 155

メーター確認 157

メーター確認 157
ユーザー別メーター確認 158
機能別カウンターのリセット 159

5 仕様設定.....161

仕様設定の流れ.....162

Step1 機械管理者モードに入る.....162
Step2 機械管理者の User ID、パスワードを入力する.....162
Step3 ［仕様設定 / 登録］を選択する.....163
Step4 ［仕様設定 / 登録］画面から項目を選択する.....163
Step5 機能を設定する.....166
Step 6 機械管理者モードを終了する.....166

仕様設定メニュー一覧.....167

仕様設定メニュー一覧.....167
登録 / 変更.....169
集計管理.....169
認証 / セキュリティ設定.....170

共通設定.....171

システム時計 / タイマー設定.....171
節電モードの設定.....174
音の設定.....176
画面 / ボタンの設定.....178
用紙 / トレイの設定.....183
画質の設定 / 色・カラーレジの補正.....188
レポート設定.....191
保守.....192
複製管理.....197
ペーパーセキュリティー.....199
強制アノテーション.....202
UUID 印字.....204
イメージログ管理.....204
ジョブ終了時のメール通知設定.....207
プラグイン設定.....208
その他の設定.....208

コピー設定.....229

基本コピー画面の表示機能.....229
プリセットボタンの設定.....230
コピー機能設定初期値.....230
コピー動作制御.....235
原稿サイズボタン.....238
固定倍率ボタン.....238
登録色.....238
アノテーションスタンプ登録.....239

ネットワーク設定.....240

ポート設定.....240
無線 LAN 設定.....246
プロトコル設定.....247
本体メールアドレス / ホスト名.....252
プロキシサーバー設定.....253
EP プロキシサーバー設定.....254
次世代ネットワーク（NGN）設定.....255
SIP 設定.....256
T.38 設定.....259

メール送受信設定 260
外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定 262
セキュリティ設定 268
その他の設定 273
プリンター設定 275
メモリー設定 275
フォーム削除 277
Google クラウドプリント登録 278
その他の設定 278
スキャナー設定 284
スキャナー画面表示設定 284
スキャナー機能設定初期値 285
PC 保存機能設定初期値 288
読み取りサイズボタン 289
出力サイズボタン 289
固定倍率ボタン 289
その他の設定 290
ファクス設定 293
ファクス画面表示設定 293
ファクス機能設定初期値 294
ファクス動作制御 295
受信文書の保存先 / 排出先 303
固定倍率ボタン 305
読み取りサイズボタン 305
自局情報 306
インターネットファクス動作制御 307
メール / インターネットファクス設定 311
メール送信動作制御 311
宛先表設定 314
ボックス設定 315
ジョブフロー設定 317
メディアプリント設定 319
保存文書設定 320
外部アクセス設定 323
サーバー証明書の検証を行う場合の設定 323
接続先の登録 325
その他の設定 327
Web ブラウザー設定 328
BMLinkS 設定 330
リモートアシスタンス設定 331
サービス起動待ち時間の上限 331
登録 / 変更 332
ボックス登録 332
ジョブメモリー登録 335
ジョブフロー登録 335
ジョブフロー検索キーワード登録 345

宛先表登録（短縮宛先登録）....346
宛先グループ登録....355
コメント登録....356
用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定....356
集計管理....357
ユーザー登録 / 集計確認....357
登録内容の削除 / 集計リセット....361
機械管理者のコピー集計確認....362
集計管理機能の運用....362
集計管理情報の設定....363
ファクス課金データ設定....364
認証 / セキュリティ設定....366
機械管理者情報の設定....366
認証の設定....367
強制印字の一時解除....378
ジョブ操作の設定....378
ハードディスクの上書き消去設定....379

6 CentreWare Internet Services の設定....381
CentreWare Internet Services を使うための設置....382
事前準備....382
本体側の設定....382
CentreWare Internet Services を起動する....384
CentreWare Internet Services を使って設定する....385

7 プリント機能の設定....389
プリント機能の概要....390
USB での設置....393
Step1 事前準備....393
Step2 本体側の設定....393
Step3 コンピューター側の設定....394
CentreWare Internet Services で設定できる項目....394
TCP/IP（LPD/Port9100）での設置....395
Step1 事前準備....395
Step2 本体側の設定....395
Step3 コンピューター側の設定....396
CentreWare Internet Services で設定できる項目....397
インターネット印刷（IPP）での設置....399
Step1 事前準備....399
Step2 本体側の設定....399
Step3 コンピューター側の設定....400
CentreWare Internet Services で設定できる項目....400

8 メール機能の設定....403
メール機能の概要....404

事前準備 **406**
設定手順 **409**
Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定 409
Step2 メール環境の設定 410
CentreWare Internet Services で設定できる項目 412

9 スキャン機能の設定 **413**
スキャン機能の概要 **414**
スキャナー (ボックス保存) の設定 **416**
Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定 416
Step2 親展ボックスの登録 417
Step3 コンピューター側の設定 417
スキャナー (PC 保存) の設定 **418**
Step1 事前準備 418
Step2 ポートの起動と TCP/IP の設定 419
Step3 コンピューター側の設定 420
スキャナー (マイフォルダ保存) の設定 **421**
Step1 事前準備 421
Step2 SMB ポートの起動と TCP/IP の設定 421
Step3 外部認証の設定 422
Step4 スキャナー (マイフォルダ保存) の設定 424
Step 5 コンピューター側の設定 426
スキャナー (USB メモリー保存) の設定 **427**
使用できる USB メモリーの条件 427
CentreWare Internet Services で設定できる項目 427
ジョブフローの設定 **428**
Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定 428
Step2 SNMP ポートの設定 429
Step3 コンピューター側の設定 429
スキャナー (URL 送信) の設定 **430**
Step1 メールの設定 430
Step2 認証の設定 430
Step3 その他の設定 430
Step 4 CentreWare Internet Services で設定できる本体側の項目 430
スキャナー (WSD) の設定 **432**
Step1 事前準備 432
Step2 ポートの起動 432
Step3 コンピューター側での確認 433

10 BMLinkS 機能の設定 **435**
BMLinkS 機能の概要 **436**
BMLinkS の設定 **437**
Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定 437
Step2 SSDP プロトコルの設定 438
Step3 仕様設定 438

11 IP ファクス（SIP）の設定.....439

IP ファクス（SIP）の概要.....440

企業内の IP ネットワーク（イントラネット）を利用する.....441

必要な条件.....441
システム構成ごとの設定内容.....441

イントラネットを利用するための設定.....442

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定.....442
Step2 SIP 本体アドレスの設定.....443
Step3 ファクス環境の設定.....443
Step4 SIP サーバーの設定.....445
Step5 VoIP ゲートウェイの登録.....446

次世代ネットワーク（NGN）を利用する.....448

必要な条件.....448
設定内容.....448

NGN を利用するための設定.....449

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定.....449
Step2 次世代ネットワーク（NGN）設定.....450
Step3 SIP サーバーの設定.....451
Step4 ファクス環境の設定.....452

12 インターネットファクスの設定.....455

インターネットファクスの概要.....456

事前準備.....457

本機側に必要な条件.....457
メール環境について.....457

設定手順.....459

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定.....459
Step2 メール環境の設定.....460
Step3 インターネットファクステスト.....461

13 暗号化と署名機能の設定.....463

暗号化と署名機能の概要.....464

証明書の種類.....464
証明書の状態.....465
通信の暗号化機能.....466
スキャン文書の暗号化と署名機能.....468

HTTP の通信を暗号化するための設定.....469

設置手順の概要.....469
Step1 本体側の設定.....469
Step2 コンピューター側の設定.....471

IPsec を使用して暗号化するための設定.....473

設置手順の概要.....473
Step1 本体側の設定（証明書の設定）.....473
Step2 本体側の設定（IPsec の設定）.....474
Step3 コンピューター側の設定.....475

メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定 476
設置手順の概要 476
Step1 本体側の設定 477
Step2 送信元と送信先の設定 479
PDF 署名 /DocuWorks 署名 /XPS 署名をするための設定（ApeosPort シリーズのみ） 482
設置手順の概要 482
Step1 本体側の設定 483
Step2 コンピューター側の設定 484

14 認証と集計管理機能について 487
認証機能と集計管理機能の概要 488
ユーザーの種類について 488
管理の権限と権限グループについて 488
利用制限について 489
認証の種類について 490
集計管理機能について 492
認証機能を使ったサービスの利用制限 496
利用制限できるサービス 496
認証モードと集計管理モードの組み合わせ 496
ジョブフローと親展ボックスの認証 498
ジョブフローの作成 / 利用について 498
親展ボックスの作成 / 利用について 500
認証するための設定 501
設置手順の概要 501
認証の設定 501
デフォルト権限グループの変更 504
権限グループの追加 505
IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定 506
Step1 事前準備 506
Step2 IC カード使用時の認証解除の設定 507
Step3 IC カード情報の登録 507
集計管理するための設定 508
Step1 集計管理モードの設定 508
Step2 ユーザー情報の登録 508
ユーザー認証の操作 510
登録ユーザーの認証 510
パスワードの変更 511

15 トラブル対処 513
トラブルと思ったら 514
機械本体のトラブル 515
画質のトラブル 522
コピーのトラブル 529
コピーできない 529

思ったとおりのコピー結果にならない 530
プリンターのトラブル 534
プリントできない 534
思ったとおりのプリント結果にならない 535
ファクスのトラブル 537
送信時のトラブル 537
受信時のトラブル 541
スキャナーのトラブル 547
本機でスキャンできない 547
スキャン文書をコンピューターに取り込めない 548
スキャン文書をネットワーク転送（FTP/SMB）できない 549
メール送信できない 550
イメージが思ったとおりの結果にならない 550
ネットワークのトラブル 553
SMB を使用したときのトラブル 553
TCP/IP を使用したときのトラブル 553
CentreWare Internet Services を使用したときのトラブル 555
メール機能のトラブル 556
インターネット / イントラネット接続のトラブル 556
IPv4 または IPv6 接続のトラブル 558
ヘルプ接続時のトラブル 560
文書プリントのトラブル 561
デジカメプリントのトラブル 562
メールプリントのトラブル 563
エラーコード 564
その他のエラーについて 705
用紙が詰まった場合 706
サイドトレイでの紙づまり 706
本体の左側面上部カバー［A］での紙づまり 707
本体の左側面下部カバー［B］での紙づまり 712
用紙トレイ 1 ～ 4 での紙づまり 713
タンデムトレイモジュール内での紙づまり 713
用紙トレイ 5（手差し）での紙づまり 715
用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））での紙づまり 716
フィニッシャー A2 での紙づまり 719
フィニッシャー B1 での紙づまり 720
フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 での紙づまり 722
紙折りユニット CD1 での紙づまり 730
原稿が詰まった場合 735
自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション） 735
自動両面原稿送り装置 C1-PC 737
ホチキスがうまく留められないとき 740
ホチキスカートリッジの針づまり（フィニッシャー A2 の場合） 741
ホチキスカートリッジの針づまり（フィニッシャー B1 の場合） 742
平とじホチキスカートリッジの針づまり
（フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 装着時） 744
中とじホチキスカートリッジの針づまり（中とじフィニッシャー C3 装着時） 747

16 付録 751

主な仕様 752

基本機能 / コピー機能 752
プリント機能 760
スキャン機能（オプション） 763
ファクス機能（オプション） 765
ダイレクトファクス機能（オプション） 766
インターネットファクス機能（オプション） 767
IP ファクス（SIP）機能（オプション） 767
両面出力機能 768
自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション） 768
自動両面原稿送り装置 C1-PC 769
大容量給紙トレイ（1 段）（オプション） 770
サイドトレイ（オプション） 770
フィニッシャー A2（オプション）* 771
フィニッシャー B1（オプション）* 772
フィニッシャー C3（オプション） 774
中とじフィニッシャー C3（オプション） 776
紙折りユニット CD1（オプション） 778

プリント可能領域 780

標準印字領域 780
拡張印字領域 780

操作パネルで表示できる漢字一覧 781

漢字一覧表（第一水準） 782
漢字一覧表（第二水準） 785

内蔵フォント 786

アウトラインフォント 786

オプション製品一覧 788

出力イメージの自動位置調整（自動アライメント調整） 795

アライメント調整用チャートのプリント 795
原稿送り装置による調整用チャートの読み込み 797
原稿ガラスによる調整用チャートの読み込み 798
出力イメージの位置の微調整 799

出力イメージの手動位置調整（手動アライメント調整） 801

手動アライメント調整の種類 801
手動アライメント調整 801
直角度の調整 804
副走査方向倍率の調整 805
リード / サイドレジの調整 806

出力イメージの自動濃度調整（自動面内ムラ調整） 808

出力イメージの手動濃度調整（手動面内ムラ調整） 811

出力イメージの濃度調整（プリントヘッド縦ムラ調整） 814

紙折り位置の調整 816

紙折り位置の調整 816
二つ折りの位置調整 817
製本の位置調整 819
内三つ折りの位置調整 821

外三つ折りの位置調整 823
Z 折りの位置調整 825
転写出力調整 828
転写出力調整の設定 828
ESC/P エミュレーションを使用するには 834
エミュレーションについて 834
フォントについて 835
排出機能について 835
ESC/P エミュレーションモードでのプリント機能 836
ESC/P エミュレーションモード設定項目 836
倍率値一覧表 844
用紙サイズと印字可能桁数 848
PDF ダイレクトプリントを使用するには 850
PDF ダイレクトプリント機能の設定項目 850
DocuWorks ダイレクトプリントを使用するには 852
DocuWorks ダイレクトプリント機能の設定項目 852
PC-PR201H エミュレーションを使用するには 854
エミュレーションについて 854
フォントについて 854
排出機能について 855
PC-PR201H エミュレーションモードでのプリント機能 855
PC-PR201H エミュレーションのモード設定項目 856
倍率値一覧表 863
用紙サイズと印字可能桁数 867
国別コード表 870
PCL エミュレーションを使用するには 871
エミュレーションについて 871
フォントについて 871
排出機能について 872
PCL エミュレーションのモード設定項目 872
HP-GL/2 エミュレーションを使用するには 878
エミュレーションについて 878
フォントについて 878
排出機能について 879
工場出荷時の設定 879
HP-GL/2 エミュレーションのモード設定項目 880
ハードクリップエリア 886
印字可能エリア 887
オートレイアウト 889
注意制限事項について 897
本機使用上の注意 / 制限 897
コピー機能使用上の注意 / 制限 902
プリント機能使用上の注意 / 制限 903
スキャン機能使用上の注意 / 制限 907
ファクス機能使用上の注意 / 制限 912
メール / インターネットファクス機能使用上の注意 / 制限 914
IP ファクス（SIP）の注意 / 制限 920
次世代ネットワーク（NGN）の注意 / 制限 922

インターネットサービスプロバイダーに接続する場合の注意 / 制限 922
割り込み時の注意 / 制限 925
親展ボックスの注意 / 制限 926
インターネット / イントラネット接続の注意 / 制限 927
コンピューターから操作する場合の注意 / 制限 927
ジョブフローの注意 / 制限 929
セキュリティー機能使用上の注意 / 制限 930
認証 / 集計管理機能使用上の注意 / 制限 931
関連商品に関する注意 / 制限 931
SMB の注意 / 制限 932
TCP/IP の注意 / 制限 933
セカンダリーイーサネット（オプション）使用時の注意 / 制限 934
Bonjour の注意 / 制限 935
IPv6 接続の注意 / 制限 935
GS1-128（旧 UCC/EAN128）バーコード（コンビニバーコード）出力についての注意 / 制限 937
メールプリント機能使用上の注意 / 制限 937
電話のかけ方 / 取り方 938
電話のかけ方 938
電話の取り方 941
通信管理レポート 943
保守サービスについて 946
トータルサービス契約 946
スポット保守サービス方式 946
補修用性能部品の保有期間について 946
EP システムについて 947
メーターカウントの自動検針 947
機械の点検 / 修理依頼 947
機械異常時の自動通報 947
機械消耗品の適時配送 947
各種設定のリモート変更 948
ソフトウェアの更新 948
索引 949

1

お使いいただく前に

はじめに

このたびは ApeosPort-VI C7771/C6671/C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C7771/C6671/C5571/C4471/C3371/C2271（以降、本機と呼びます）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、本機を管理するかたを対象に、用紙や消耗品の交換方法、本機をネットワークで使用する場合の各種設定方法、トラブル対処などについて記載しています。

本書の内容は、お使いのパーソナルコンピューターの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法を習得されていることを前提に説明しています。お使いのパーソナルコンピューターの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法については、パーソナルコンピューター、オペレーティングシステム、ネットワークシステムなどに付属の説明書をお読みください。

本書は、読んだあとも必ず保管してください。本機をご使用中に、操作でわからないことや不具合が出たときに読み直してご活用いただけます。

コピー、プリント、スキャン、ファクス機能の操作方法などについては、『ユーザーズガイド』をご覧ください。プリント機能のオプション製品については、それぞれのオプション製品に同梱されているマニュアルも併せてご覧ください。

富士ゼロックス株式会社

弊社は、製品の研究開発から廃棄にいたる事業活動全般において、地球環境の保全を経営の重要課題のひとつに位置づけております。これまでも環境負荷を低減するために、生産施設におけるフロンの全廃など、さまざまな活動を展開してまいりました。
また、お客様の身近なところでは、複写機やプリンターで使用した用紙、消耗品のカートリッジやパーツなどのリサイクルを推進することにより、今後も資源の保護に積極的に取り組んでまいります。

マニュアル体系

本機には、次のマニュアルを用意しています。

本体同梱マニュアル

■はじめにお読みください

安全にお使いいただくための注意事項や、操作中に気をつけていただきたい注意制限事項などについて説明しています。必ずお読みください。

■マニュアルの種類と見方 / これだけ読めば使えます

本機をはじめてご使用になる方を対象に、マニュアルの種類と見方や、機械の電源、コピー / ファクス / プリント / スキャンの基本的な操作、消耗品の交換、エラーコードの対処方法を説明しています。

■わんぽいんとアドバイス

ちょっとしたことでトラブルが防げて、快適にお使いいただけます。お使いになる前にご覧ください。

■ソフトウェア / 製品マニュアル（DVD）

このメディアには、はじめにお読みください、使い方がわかる本、設定がわかる本、ユーザーズガイド、管理者ガイド、セキュリティ機能補足ガイド、他ドライバーヘルプ・マニュアル、オプション製品マニュアル・ヘルプが格納されています。

製品の機能や操作の詳しい説明については、メディア内の製品マニュアルをご覧ください。

本体 / ソフトウェアから直接見られるヘルプ

■本機本体のヘルプ

プリンタードライバーのインストール手順、プリンターの環境設定方法などについて説明しています。コピー、ファクス、スキャン、プリント、日常管理、宛先設定で、お問い合わせの多い項目を説明しています。メニュー画面の［ ヘルプ ］から見ることができます。

■プリンタードライバーのヘルプ

プリントの操作方法や、機能などについて説明しています。

■CentreWare Internet Services のヘルプ

コンピューターのブラウザーから本機への各種設定や、スキャン文書を取り込む操作などについて説明しています。

Print Server に付属のマニュアル

本機に接続する Print Server には、マニュアルが付属されています。

Print Server のマニュアルでは、Print Server の機能や設定、操作方法などについて説明しています。

補足

- Print Server のマニュアルは、ServerManager の［ヘルプ］メニューから表示させることができます。

オプション製品マニュアル

本機ではオプション製品を用意しています。オプション製品には、取扱説明書が同梱されているものがあります。

オプション製品マニュアルでは、オプション製品の操作方法、ソフトウェアのインストール手順などについて説明しています。

本書の使い方

本書の構成

本書は、次の構成になっています。

■1 お使いいただく前に

本書の構成や表記などについて説明しています。

■2 用紙のセット

本機で使用できる用紙の種類や、用紙をセットする方法について説明しています。

■3 日常の管理

消耗品を交換する方法や、本体を清掃する方法について説明しています。

■4 機械確認

本機のエラー情報を確認する方法や、レポート / リストをプリントする方法について説明しています。

■5 仕様設定

仕様設定の方法について説明しています。

■6 CentreWare Internet Services の設定

CentreWare Internet Services を利用する方法について説明しています。

■7 プリント機能の設定

プリント機能を利用するための設定方法について説明しています。

■8 メール機能の設定

メール機能を利用するための設定方法について説明しています。

■9 スキャン機能の設定

スキャン機能を利用するための設定方法について説明しています。

■10 BMLinkS 機能の設定

BMLinkS® 機能を利用するための設定方法について説明しています。

■11 IP ファクス（SIP）の設定

IP ファクス（SIP）機能を利用するための設定方法について説明しています。

■12 インターネットファクスの設定

インターネットファクス機能を利用するための設定方法について説明しています。

■13 暗号化と署名機能の設定

本機で暗号化と署名機能を利用するための設定方法について説明しています。

■14 認証と集計管理機能について

各機能を利用するときに利用に制限をかける認証機能と、認証機能を元にして、各機能の利用状況を管理する集計管理機能について説明しています。

■15 トラブル対処

本機に何らかのトラブルが発生した場合の対処方法について説明しています。

■16 付録

本機の主な仕様、オプション製品、保守サービスなどについて説明しています。

本書の表記

- 本書に記載している画面や本機のイラストは、各種オプション製品が装着された状態のものです。使用している機械の構成によっては、表示されない項目や使用できない機能があります。
- 各種ドライバーやユーティリティソフトウェアのバージョンアップによって、本書に記載している内容が、お客様がお使いのものと異なる場合があります。
- 本文中の「コンピューター」は、パーソナルコンピューターやワークステーションの総称です。
- 本文中では、説明する内容によって、次のマークを使用しています。

注記
- 注意すべき事項を記述しています。必ずお読みください。

補足
- 補足事項を記述しています。

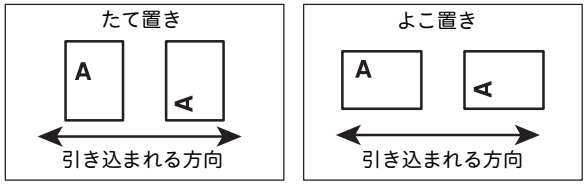
参照
- 参照先を記述しています。

- 本文中では、次の記号を使用しています。

「　」	• 本書内にある参照先を表しています。 • メディア、機能、タッチパネルディスプレイのメッセージなどの名称や入力文字などを表しています。
『　』	• 参照するマニュアルを表しています。
[　]	• 本機のタッチパネルディスプレイに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。 • コンピューターの画面に表示されるメニュー、ウィンドウ、ダイアログボックスなどの名称と、それらに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。
〈　〉 ボタン	• 操作パネル上のハードウェアボタンを表しています。
〈　〉 キー	• コンピューターのキーボード上のキーを表しています。
>	• 操作パネルで順に項目を選択する手順を、省略して表しています。 例：「[仕様設定 / 登録] > [登録 / 変更] > [ボックス登録] を選択します。」は、「[仕様設定 / 登録] を押して、[登録 / 変更] を押したあと、[ボックス登録] を選択します。」という手順を省略して記載したものです。 • コンピューターで順に項目をクリックする手順を、省略して表しています。 例：「[スタート] > [検索] > [他のコンピュータ] で検索します。」は、「[スタート] ボタンをクリックして、[検索]、[他のコンピュータ] を順にクリックして検索します。」という手順を省略して記載したものです。 • 参照先は、次のように表しています。 例：「『管理者ガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「仕様設定」>「共通設定」>「音の設定」を参照してください。」は、管理者ガイド（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「仕様設定」の章内の、「共通設定」での「音の設定」を参照することを表しています。

- 本文中では、原稿または用紙の向きを、次のように表しています。

、、たて置き	• 本機の正面から見て、原稿や用紙をたて長にセットした状態を表しています。
、、よこ置き	• 本機の正面から見て、原稿や用紙をよこ長にセットした状態を表しています。



インターフェイスケーブルの接続

コンピューターと本機を直接接続する場合は、USB インターフェイスを使います。
ネットワークに接続する場合は、Ethernet インターフェイスを使います。

USB インターフェイスでの接続

USB インターフェイスを使用するときの設置手順について説明します。

補足
- USB インターフェイスは、USB3.0 に対応しています。

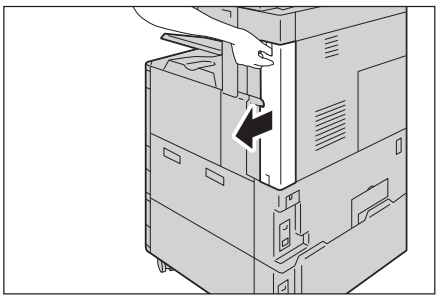
1 電源スイッチを押して、電源を切ります。

2 タッチパネルディスプレイ画面が消えていることと、〈節電〉ボタンが消灯していることを 確認します。

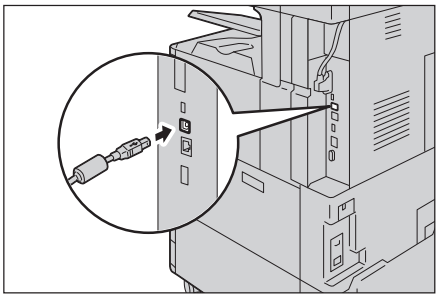
3 正面カバーを開けます。

4 主電源スイッチの［◯］側を押して、主電源を切ります。

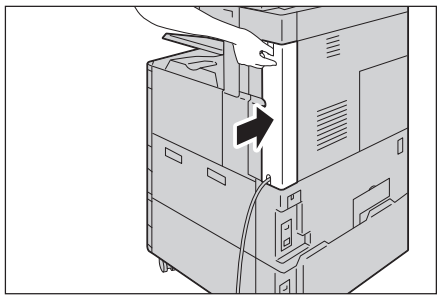
5 本機の右奥カバーを外します。



6 インターフェイスコネクターに、USB インターフェイスケーブルを接続します。



7 本機の右奥カバーを取り付けます。



8 コンピューターに、USB インターフェイスケーブルのもう一方のコネクターを接続します。

9 主電源スイッチの［｜］側を押して、主電源を入れます。

10 正面カバーを閉じます。

11 電源スイッチを押して、電源を入れます。

12 コンピューターを再起動します。

参照

- 設定項目の詳細は、「プリント機能の設定」(P.389) を参照してください。

Ethernet インターフェイスでの接続

Ethernet インターフェイスは、次の 3 種類に対応しています。

- 1000BASE-T
- 100BASE-TX
- 10BASE-T

補足

- 本機はデータ送受信が行われていないときにイーサネット機器の電力消費を低減する有線 LAN 準拠規格 IEEE802.3az に対応しています。この規格で節電効果を得るには接続する双方の機器が IEEE802.3az に対応している必要があります。
- 次の不具合が発生する場合、[仕様設定 / 登録] > [仕様設定] > [ネットワーク設定] > [プロトコル設定] > ［Ethernet 設定］ > ［Energy Efficient Ethernet］を［無効］に設定すると改善することがあります。工場出荷時は、この項目は［有効］に設定されています。
  - 本機のネットワーク接続が遅い
  - 本機のネットワーク接続が不安定で、頻繁にタイムアウトする
  - 長時間のスリープモードから復帰した後に、本機がネットワークに接続できなくなる

Ethernet インターフェイスを使用するときの設置手順について説明します。

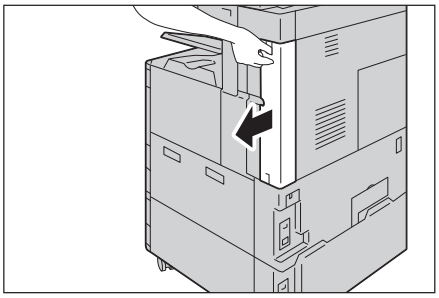
1 電源スイッチを押して、電源を切ります。

2 タッチパネルディスプレイ画面が消えていることと、〈節電〉ボタンが消灯していることを 確認します。

3 正面カバーを開けます。

4 主電源スイッチの［◯］側を押して、主電源を切ります。

5 本機の右奥カバーを外します。

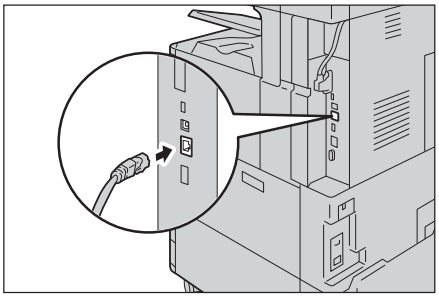


6 Ethernet インターフェイスのコネクターに、ネットワークケーブルを接続します。

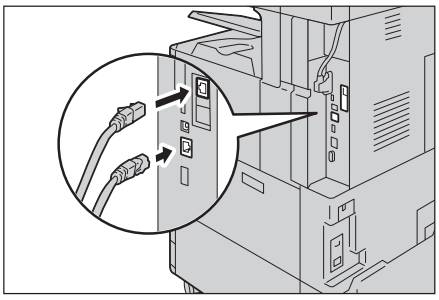
補足

- ネットワークケーブルは、お使いのネットワークの接続形態に合ったケーブルをご用意ください。また、ネットワークケーブルを交換する場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご相談ください。

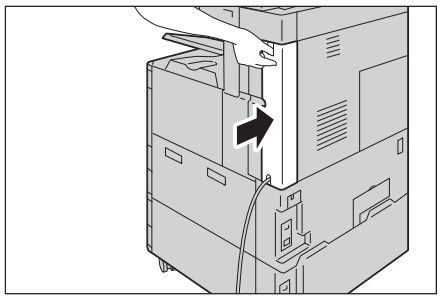
- セカンダリーイーサネットキット（オプション）を装着していない場合



- セカンダリーイーサネットキット（オプション）を装着している場合



7 本機の右奥カバーを取り付けます。



8 主電源スイッチの［｜］側を押して、主電源を入れます。

9 正面カバーを閉じます。

10 電源スイッチを押して、電源を入れます。

参照

- 設定項目の詳細は、「プリント機能の設定」(P.389) を参照してください。

節電機能について

本機には、しばらくの間コピーやプリントデータを受け付けないときに、機械の消費電力量を下げて電力を節約する、「節電機能」が搭載されています。

節電機能には、「低電力モード」と「スリープモード」があります。

本機を一定時間使用しないと、「低電力モード」に入り、そのあと、設定時間が経過すると、「スリープモード」に移行します。

補足

- Smart WelcomEyes が人を検知している間は、節電状態に移行するためのタイマーは働きません。

補足

- 暖機モード動作中は、スリープモードに移行しません。詳しくは、「暖機モードについて」(P.32) を参照してください。

節電モード移行時間を変更する

節電機能を設定する手順について説明します。

低電力モードに移行するまでの時間とスリープモードに移行するまでの時間は 1 ～ 240 分の範囲で、それぞれ 1 分単位で指定できます。

補足

- 低電力モードに移行するまでの時間と、スリープモードに移行するまでの時間を同じ設定にしている場合、低電力モードには移行せずにスリープモードに移行します。
- 操作パネルのディスプレイが消灯している状態で本機が節電中のとき、プリントやサンプルプリント、ファクス受信プリントをすると、出力部のみ節電状態から復帰します。この場合は、工場出荷時の設定では、15 秒後にスリープモードに移行します。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、[確定] を押します。パスワードを入力する場合は、[次へ] を押し、機械管理者のパスワードを入力して [確定] を押します。

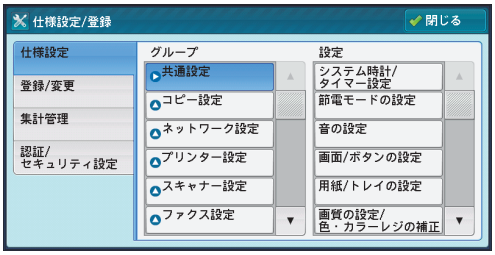
3 メニュー画面の [仕様設定 / 登録] を押します。



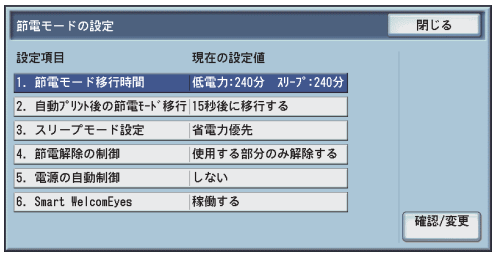
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

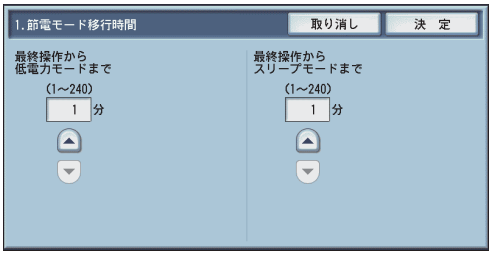
4 ［仕様設定］>［共通設定］>［節電モードの設定］を押します。



5 ［節電モード移行時間］を選択し、［確認 / 変更］を押します。



6 節電モード移行時間を、［▲］［▼］を使って、1 分単位で設定します。



■最終操作から低電力モードまで

最終操作から低電力モードに移行するまでの時間を設定します。

補足

- ［最終操作から低電力モードまで］の初期値は、［1］分です。低電力モードは「移行禁止」に設定できません。
- Smart　WelcomEyes が人を検知している間はタイマーが働きません。人を検知しているときは、Smart WelcomEyes の検知ランプが点灯します。

■最終操作からスリープモードまで

最終操作からスリープモードに移行するまでの時間を設定します。

補足

- ［最終操作からスリープモードまで］の初期値は、［1］分です。低電力モードに移行させたい場合は、［最終操作からスリープモードまで］の時間は、［最終操作から低電力モードまで］の時間よりも大きくなるように設定してください。
- Smart　WelcomEyes が人を検知している間はタイマーが働きません。人を検知しているときは、Smart WelcomEyes の検知ランプが点灯します。

7 ［決定］を押します。

8 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

9 ［閉じる］を押します。

Smart WelcomEyes を無効にする

Smart WelcomEyes を利用しない場合は、以下の手順で無効にできます。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

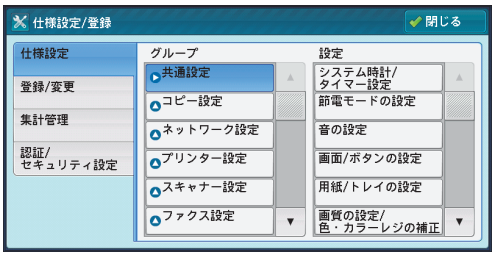
3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。



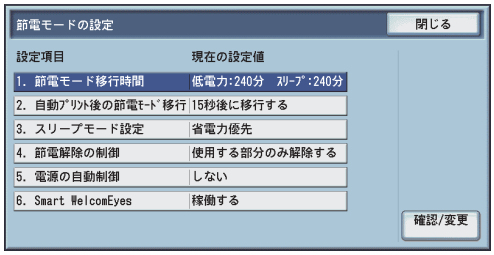
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

4 ［仕様設定］>［共通設定］>［節電モードの設定］を押します。



5 ［Smart WelcomEyes］を選択し、［確認 / 変更］を押します。



6 ［稼働しない］を選択し、［決定 ］を押します。

補足

- ［ 稼働しない］を選択するとSmart WelcomEyesを無効にできます。Smart WelcomEyesで節電制御する場合は［ 稼働する ］を選択します。詳しくは「Smart WelcomEyes」(P.175) を参照してください。



7 メニュー画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

補足

- ［仕様設定］以降または［登録 / 変更］以降の機能を設定した後で、〈メニュー〉ボタンを押すと 1 回でメニュー画面に戻ります。

暖機モードについて

使用環境によっては、スリープモードから復帰するときに、本機内の温度が上昇し、結露が発生する場合があります。暖機モードとは、結露の発生を防止または軽減する機能です。

季節の変わり目などに設定することをお勧めします。

補足

- お使いの製品によっては、カストマーエンジニアの設定が必要です。詳しくは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。
- 暖機モード動作中は、スリープモードに移行しません。
- お使いの環境によっては、消費電力が上がる場合があります。

暖機モード動作を設定する

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

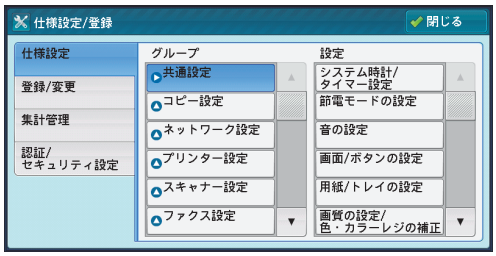
3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。



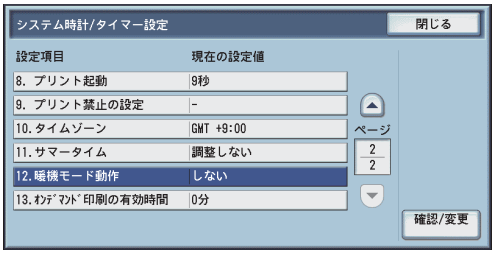
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

4 ［仕様設定］>［共通設定］>［システム時計 / タイマー設定］を押します。



5 ［暖機モード動作］を選択し、［確認 / 変更］を押します。



補足

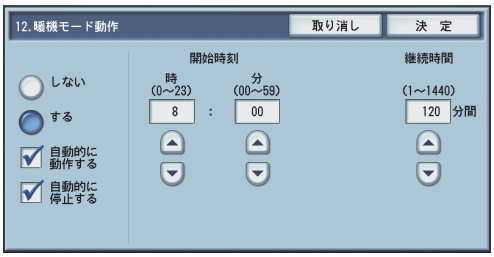
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

6 ［する］を押します。

補足

- ［しない］に設定すると暖機モードに移行しません。［結露注意の表示］にチェックを付けると、本機が結露発生の可能性を感知したときに、メッセージを表示してお知らせします。

7 暖機モードに移行する時間と継続時間を、［▲］と［▼］を使って設定します。



補足

- 暖機モードの開始時刻に本機の電源が入っていない場合は、暖機モードに移行しません。
- 暖機モードを使用しているときは、スリープモードへの移行を停止し、結露を防止します。

■開始時刻

暖機モードに移行する時間を設定します。

■継続時間

暖機モードの開始から終了するまでの時間を、1 ～ 1440 分（1 分単位）の間で設定します。

■自動的に動作する

チェックを付けると、結露の発生が一定期間続いたときに、自動で暖機モード動作を［する］に変更します。

■自動的に停止する

チェックを付けると、結露しない状態が一定期間続いたときに、自動で暖機モード動作を［しない］に変更します。

8 ［決定］を押します。

9 メニュー画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

補足

- ［仕様設定］以降または［登録 / 変更］以降の機能を設定した後で、〈メニュー〉ボタンを押すと 1 回でメニュー画面に戻ります。

操作パネルの設定変更について

本機を有効にお使いいただけるように、操作パネルの画面表示やボタンへの機能割り当てを変更できます。

ここでは、初期表示画面の変更、自動リセット後に表示される画面、メニュー画面に表示させる機能、〈登録〉ボタンに割り当てる機能などの変更方法および画面の明るさの調整方法について説明します。

補足

- そのほかの設定変更は、「画面 / ボタンの設定」(P.178) を参照してください。

初期表示画面を変更する

電源を入れたときや、節電状態から復帰したときに表示する画面を変更できます。工場出荷時には、メニュー画面が設定されています。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、[確定] を押します。

パスワードを入力する場合は、[次へ] を押し、機械管理者のパスワードを入力して [確定] を押します。

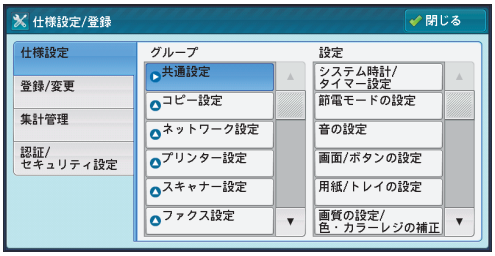
3 メニュー画面の [仕様設定 / 登録] を押します。



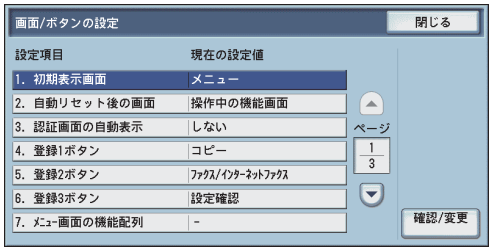
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

4 [仕様設定] > [共通設定] > [画面 / ボタンの設定] を押します。



5 ［初期表示画面］を押し、［確認 / 変更］を押します。



6 表示させる機能を押します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面が表示できます。

7 ［決定］を押します。

自動リセット後の画面を変更する

自動リセット後の画面を操作中の機能画面にするか、メニュー画面にするかを設定できます。

参照

- 自動リセットについては、「自動リセット」(P.172) を参照してください。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

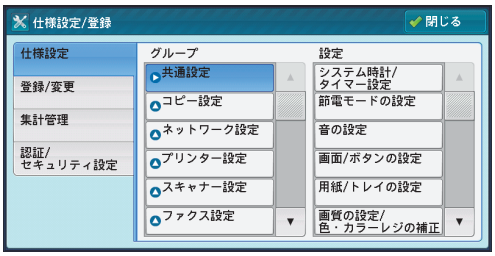
3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。



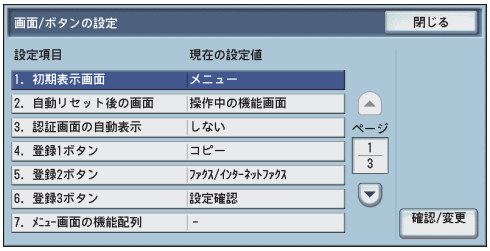
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

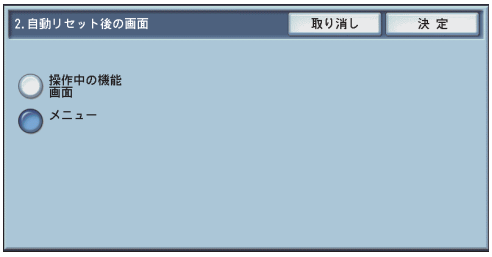
4 ［仕様設定］＞［共通設定］＞［画面 / ボタンの設定］を押します。



5 ［自動リセット後の画面］を押し、［確認 / 変更］を押します。



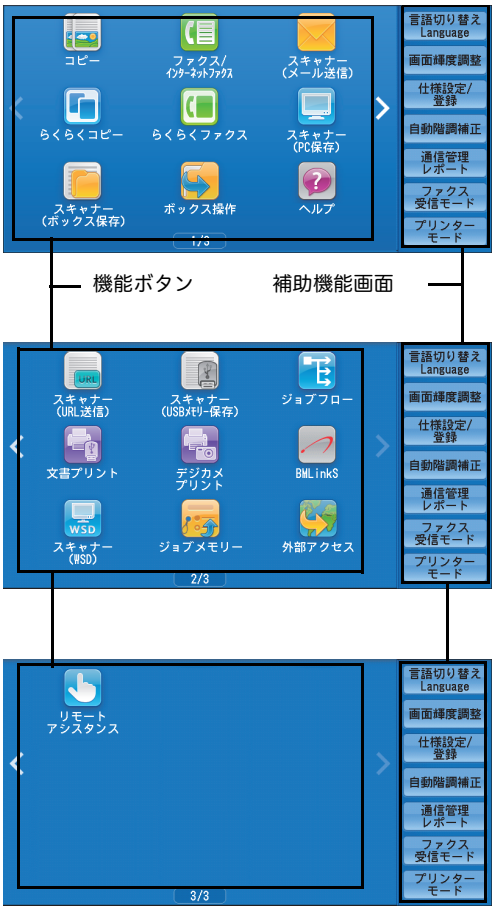
6 ［操作中の機能画面］または［メニュー］を押します。



7 ［決定］を押します。

機能ボタン / 補助機能ボタンの配列を変更する

操作パネルの〈メニュー〉ボタンを押したとき、メニュー画面に表示する機能ボタンや補助機能ボタンの種類や配列を変更できます。



補足

- 機能が使用できない場合は、ボタンは表示されません。また、故障中で使用できない機能はグレー表示になります。
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

機能ボタンに表示できる機能は以下のとおりです。

補足

- 表示できる機能は装着されているオプションによって異なります。

- ヘルプ
- コピー
- らくらくコピー
- ファクス / インターネットファクス
- らくらくファクス
- スキャナー（メール送信）
- スキャナー（ボックス保存）
- スキャナー（PC 保存）
- スキャナー（USB メモリー保存）

- スキャナー（URL 送信）

補足
- この機能は、ユーザー認証機能を使用している場合に表示されます。

- 文書プリント
- デジカメプリント
- セキュリティプリント
- サンプルプリント
- 時刻指定プリント
- 課金認証プリント
- プライベートプリント
- ボックス操作
- 受信回線 1 の保存先 -（親展ボックス NNN）
- 受信回線 2 の保存先 -（親展ボックス NNN）
- 受信回線 3 の保存先 -（親展ボックス NNN）
- 受信回線 SIP の保存先 -（親展ボックス NNN）

補足
- NNN には受信回線別ボックスセレクターで指定した親展ボックス番号が表示されます。親展ボックス番号が設定されていない場合は、（親展ボックス未設定）と表示されます。

- ジョブメモリー
- ジョブフロー（ApeosPort シリーズのみ）
- 外部アクセス（ApeosPort シリーズのみ）
- BMLinkS
- リモートアシスタンス
- カスタムサービス

補足
- お使いの機械にカスタムサービスをインストールしている場合に設定できます。詳しくは、弊社営業担当までお尋ねください。

機能補助ボタンに表示できる機能は以下のとおりです。

- 言語切り替え Language
- 登録 / 変更
- 画面輝度調整
- 自動階調補正
- プリンターモード
- 自動プリントを禁止する

補足
- この機能は工場出荷時は表示されません。表示させるには、［共通設定］>［システム時計 / タイマー設定］>［プリント禁止の設定］で［手動で禁止する］を選択したあと、［メニュー画面の補助機能配列］で配置してください。

- ファクス受信モード
- 通信管理レポート

メニュー画面の機能配列

メニュー画面に表示させる機能ボタンを選択できます。

［(未設定)］を選択すると、選択したボタンの場所は空欄になります。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

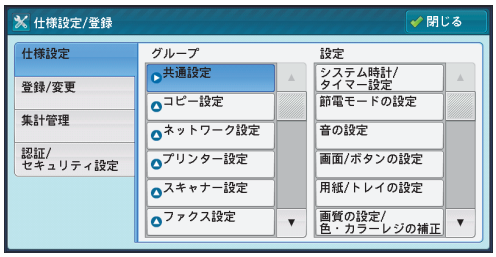
3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。



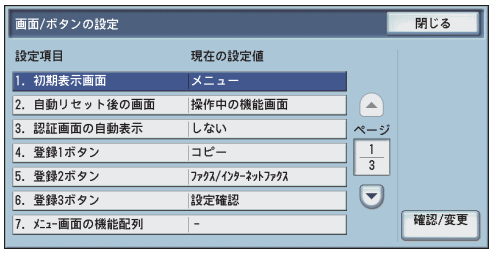
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

4 ［仕様設定］>［共通設定］>［画面 / ボタンの設定］を押します。



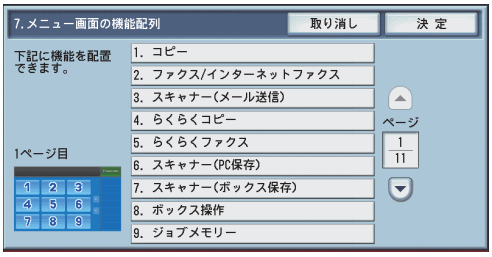
5 ［メニュー画面の機能配列］を押し、［確認 / 変更］を押します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

6 変更する機能（配置したい場所）を選択します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ［メニュー画面の機能配列］画面に表示されているボタンの位置は、メニュー画面に表示される機能のボタンの位置を表しています。

7 メニュー画面に表示させる機能を押します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 同じ機能を複数のボタンに登録できません。

8 ［閉じる］を押します。

9 ［決定］を押します。

メニュー画面の補助機能配列

メニュー画面に表示させる補助機能ボタンを選択できます。

［(未設定)］を選択すると、選択したボタンの場所は空欄になります。

［登録 / 変更］には、［(未設定)］を選択できません。［登録 / 変更］を表示させないときは、［機械管理者のみ表示］にチェックを付けます。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

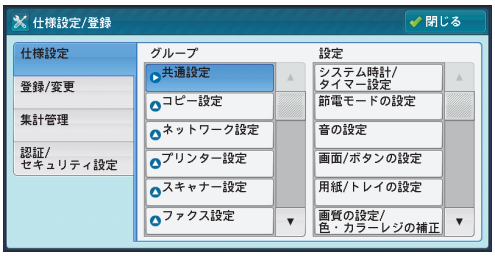
3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。



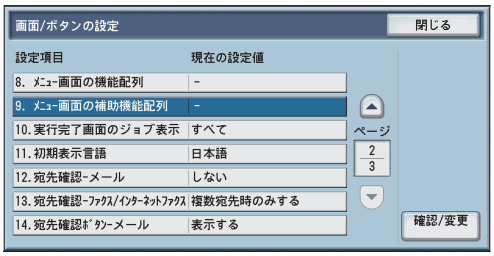
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

4 ［仕様設定］＞［共通設定］＞［画面 / ボタンの設定］を押します。



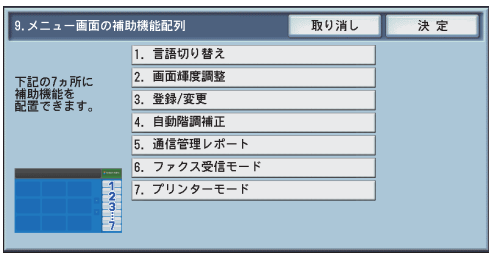
5 ［メニュー画面の補助機能配列］を押し、［確認 / 変更］を押します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

6 変更する補助機能（配置したい場所）を選択します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ［メニュー画面の補助機能配列］画面に表示されているボタンの位置は、メニュー画面に表示される補助機能のボタンの位置を表しています。

7 メニュー画面に表示させる補助機能を押します。



補足

- [▲] を押して前画面、[▼] を押して次画面を表示できます。
- 同じ機能を複数のボタンに登録できません。

8 [閉じる] を押します。

9 [決定] を押します。

〈登録〉ボタンに機能を割り当てる

操作パネルの登録ボタン「登録 1」～「登録 3」に、機能を割り当てることができます。

〈登録〉ボタンに機能を登録しておくと、機能を切り替えるときに、メニュー画面に戻らなくても、直接機能の画面を表示できます。機能を割り当てない場合は、[(未設定)] を選択します。

ここでは、「登録 2」に [ボックス操作] を割り当てる場合を例に説明します。

補足

- 登録内容を変更したときは、本体同梱の「操作パネル　機能名称貼り替えラベル」を貼ってください。ラベルにない機能を登録した場合は、未記入のラベルに油性ペンで機能を記入してご利用ください。

  なお、ラベルには、本機に搭載されていない機能やオプションで提供される機能も含まれています。
- ファクスが取り付けられている機種のみ、2 番めのボタンには「ファクス」が登録されています。操作パネル上の表示は「未設定」になっていますので、「ファクス」ラベルを貼ってご利用ください。ファクスが取り付けられていない機種の場合は、機能は登録されていません。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、[確定] を押します。

パスワードを入力する場合は、[次へ] を押し、機械管理者のパスワードを入力して [確定] を押します。

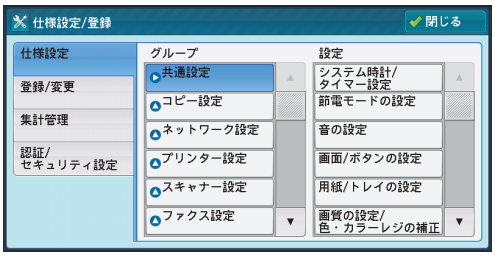
3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。



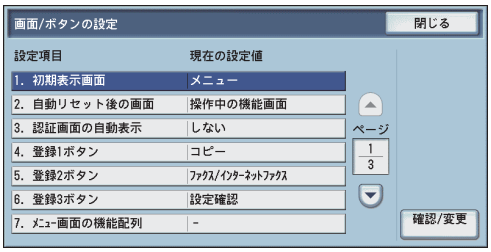
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

4 ［仕様設定］＞［共通設定］＞［画面 / ボタンの設定］を押します。



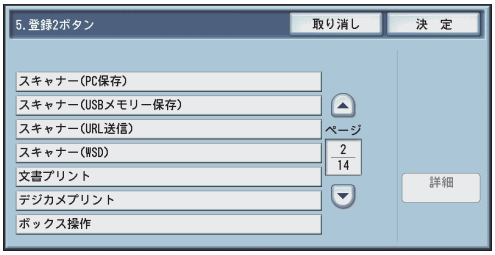
5 ［登録 2 ボタン］を押し、［確認 / 変更］を押します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

6 ［ボックス操作］を押します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

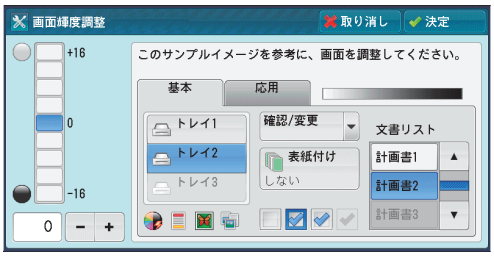
7 ［決定］を押します。

画面の明るさを調整する

操作パネルの表示画面の明るさを調整できます。

1 メニュー画面で［画面輝度調整］を押します。

2 ［+］、［－］を押して、明るさを調整します。



3 ［決定］を押します。

参照

- 仕様設定メニューからの調整方法は、「画面輝度調整」(P.179) を参照してください。

タッチパネルの使い方

本機のタッチパネルディスプレイでは、［▲］［▼］ボタンを押して操作する以外に、次のような操作でページの切り替えやリストのスクロールなどができます。

補足

- 本機の操作パネルは、画面を押す力に反応する感圧式タッチパネルです。画面に触れる力を加減して操作してください。
- フリック / ダブルタップ操作の有効 / 無効を切り替えることができます。詳しくは、「画面 / ボタンの設定」(P.178) を参照してください。

ドラッグ

タッチパネルディスプレイに軽く触れたままで、目的の位置まで指を移動させます。

メニュー画面では、左右にドラッグするとページの切り替えができます。

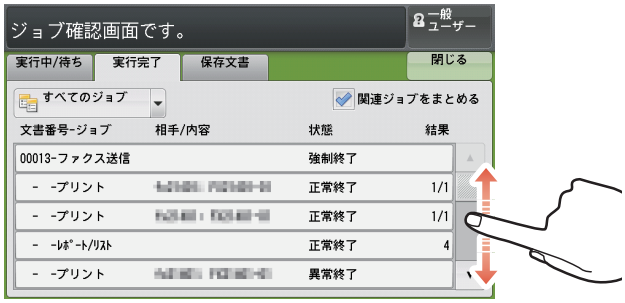
リスト表示画面では、上下にドラッグするとリストのスクロールができます。

機能選択画面やボックス操作画面では、上下にドラッグまたはフリック操作するとページの切り替えができます。

補足

- ドラッグ操作中に指を離すとスクロールが止まります。
- メニュー画面では、ドラッグの動作が十分でないと、ページが切り替わらない場合があります。
- リスト表示画面では、リスト上、またはスクロールバーのドラッグによるリストのスクロールができます。





フリック操作

タッチパネルディスプレイをはらうように指を動かします。

メニュー画面では、左右にフリック操作するとページの切り替えができます。

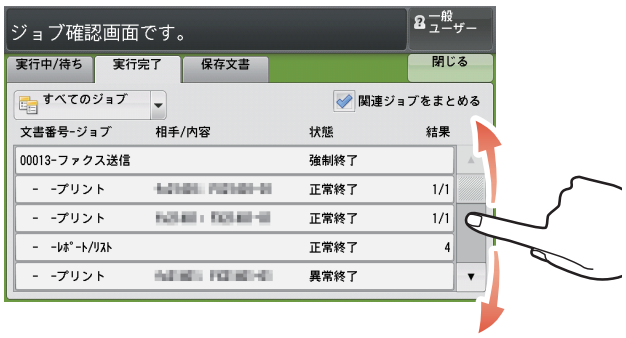
リスト表示画面では、上下にフリック操作するとリストのスクロールができます。

機能選択画面やボックス操作画面では、上下にドラッグまたはフリック操作するとページの切り替えができます。

補足

- フリック操作の場合は、指を離した後でも少しの間スクロールが継続します。





タップ / ダブルタップ

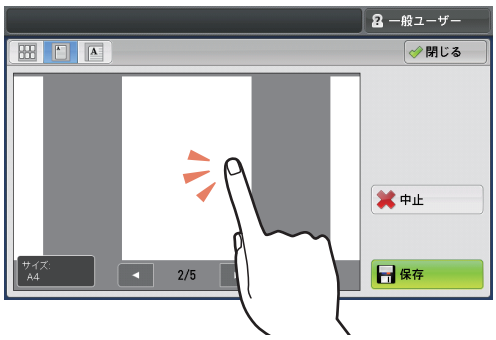
タッチパネルディスプレイに軽く触れ、すぐに指を離します。2回連続で同じ位置をタップする操作をダブルタップと呼びます。

プレビュー画像をダブルタップすると、画像サイズの拡大表示ができます。

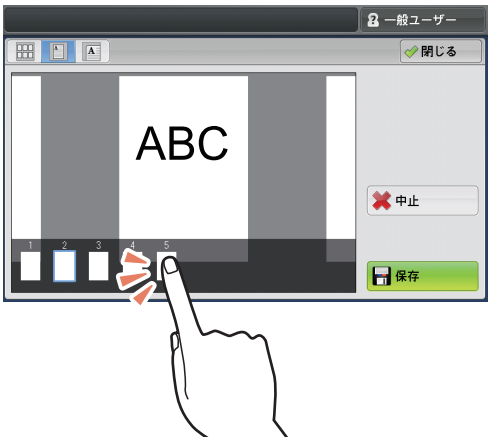
プレビューエリアをタップすると、サムネールバーの表示 / 非表示の切り替えができます。

補足

- ピンチアウト / ピンチイン(2本の指で画面をつまむように動かす操作)による画面サイズの拡大 / 縮小はできません。



サムネールバーの任意のサムネールをタップすると、選択したサムネールが表示されます。



本機を安全にご利用いただくために

本機の設定が以下のいずれかを満たす状態で機械管理者モードに入ると、メニュー画面の前にセキュリティ警告画面が表示されます。本機をより安全にご利用いただくために、本機を設置したあと、すぐに設定を変更することをお勧めします。

- 機械管理者の UserID とパスワードが初期値
- SNMP プロトコルの設定でコミュニティ名や認証用パスワードが初期値
- グローバル IP アドレスが設定され、かつ［認証方式の設定］が［認証しない］に設定されている

機械管理者の UserID とパスワードおよび、SNMP プロトコルのコミュニティ名や認証用パスワードの設定を初期値から変更することをお勧めします。これらの初期値を変更することで、悪意のある第三者による攻撃（設定変更や情報搾取など）を防ぐことが可能です。

補足

- 機械管理者の UserID とパスワード、SNMP プロトコルのコミュニティ名や認証用パスワードを初期値から変更すると、複合機と連携するソフトウェアやユーティリティーに動作に影響が出る場合があります。影響を確認のうえ、実施してください。

また、本機にグローバル IP アドレスを設定する場合、受付 I アドレス制限の設定を行うことにより、本機を外部ネットワークからの不正アクセス（ジョブ履歴の閲覧、親展ボックスへのアクセス）から防ぐことが可能です。

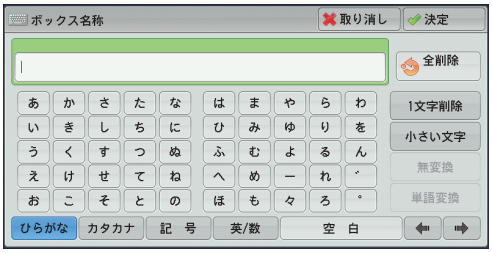
さらに、［認証方式の設定］を［本体認証］または［外部認証］に設定することをお勧めします。［本体認証］の場合、本機に登録したユーザー情報を使用して認証管理を行います。認証が成功したユーザーのみに機械の使用を制限することができます。ただし、使用時には操作パネルからユーザー ID を入力するか、IC カードの利用が必要となります。［外部認証］の場合、外部認証サーバーに登録されたユーザー情報を使用して認証管理を行います。

補足

- 機械管理者の UserID とパスワードの初期値は、機械に同梱されている『管理者ガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「機械管理者情報の設定」を参照してください。
- SNMP 認証データの変更については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
- 受付IP アドレス制限の設定については、CentreWare Internet Servicesのヘルプを参照してください。
- 認証方式の設定については、「認証の設定」（P.367）を参照してください。詳細は弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご相談ください。

文字の入力方法について

操作中に、文字を入力する画面が表示されることがあります。ここでは、文字を入力する方法について説明します。



入力できる文字は、ひらがな、カタカナ、漢字、数字、英字、記号です。

項　　目	説　　明
ひらがなの入力	［ひらがな］を押します。 小さいひらがな（っ、ゃ、ゅ、ょなど）を入力するときは、［小さい文字］を押します。元に戻すときは、もう一度［小さい文字］を押します。
カタカナの入力	［カタカナ］を押します。 小さいカタカナ（ッ、ャ、ュ、ョなど）を入力するときは、［小さい文字］を押します。元に戻すときは、もう一度［小さい文字］を押します。 カタカナの半角文字を入力するときは、［半角］を押します。元に戻すときは、もう一度［半角］を押します。
漢字の入力	ひらがなを入力したあと、［単語変換］を押します。 ［漢字変換］画面に該当する漢字が表示されるので、目的の漢字を選択します。 ［▼］で次の候補の漢字に進み、［▲］で前に表示した漢字に戻ります。 変換しない場合は、［無変換］を押します。
アルファベットや数字の入力	［英 / 数］を押します。 アルファベットの大文字を入力するときは、［シフト］を押します。元に戻すときは、もう一度［シフト］を押します。 アルファベットや数字の半角文字を入力するときは、［半角］を押します。元に戻すときは、もう一度［半角］を押します。
記号の入力	［記号］を押します。
スペースの入力	［空　白］を押します。
濁点、半濁点の入力	[゛]、[゜] を押します。
文字の消去	1 文字ずつ消去するときは、［1 文字削除］を押します。 全文字を消去するときは、［全削除］を押します。

注記

- 設定項目によって、入力できない文字やキーは表示されません。
- 「・」（中黒）は入力できません。

参照

- 入力できる漢字は、「操作パネルで表示できる漢字一覧」（P.781）を参照してください。

2

用紙のセット

用紙について

本機で使用できる用紙について説明します。

適正でない用紙を使用した場合、紙づまりや印字品質の低下、故障、および装置破損の原因になることがあります。本機の性能を効果的に活用するために、弊社推奨の紙をご利用いただくことをお勧めします。

なお、推奨の用紙以外を使用するときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

> ⚠警告
>
> 電気を通しやすい紙(折り紙 / カーボン紙 / 導電性コーティングを施された紙など)を使用しないでください。ショートして火災の原因となるおそれがあります。

注記

- 水、雨、蒸気などの水分により、印刷面の画像がはがれることがあります。詳しくは弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

使用できる用紙の質量と枚数

用紙トレイ	規格（メートル坪量連量）	セット可能枚数 *	用紙の種類
用紙トレイ 1 ～ 4	52 ～ 300g/m^2 連量：45 ～ 258kg	560 枚	普通紙（64 ～ 82g/m^2）、 上質紙（83 ～ 105g/m^2）、 再生紙（64 ～ 105g/m^2）、 うら紙（64 ～ 82g/m^2）、 うす紙（52 ～ 63g/m^2）、 厚紙 1（106 ～ 176g/m^2）、 厚紙 1（ウラ）（106 ～ 176g/m^2）、 厚紙 2（177 ～ 220g/m^2）、 厚紙 2（ウラ）（177 ～ 220g/m^2）、 厚紙 3（221 ～ 300g/m^2）、 厚紙 3（ウラ）（221 ～ 300g/m^2）、 ラベル紙 (106 ～ 176/m^2)、 はがき (106 ～ 220/m^2)*、 ユーザー定義用紙 1 ～ 5(64 ～ 105/m^2) *:タンデムトレイモジュールの用紙トレイ 3 と 4 では、はがきは使用できません。
タンデムトレイモジュール用紙トレイ 3		980 枚	
タンデムトレイモジュール用紙トレイ 4		1,280 枚	

用紙トレイ	規格（メートル坪量連量）	セット可能枚数 *	用紙の種類
用紙トレイ 5（手差し）	52 ～ 300g/m^2 連量：45 ～ 258kg	10mm まで 100 枚	普通紙（64 ～ 82g/m^2）、 上質紙（83 ～ 105g/m^2）、 再生紙（64 ～ 105g/m^2）、 うら紙（64 ～ 82g/m^2）、 うす紙（52 ～ 63g/m^2）、 厚紙 1（106 ～ 176/m^2）、 厚紙 1（ウラ）、 厚紙 2（177 ～ 220/m^2）、 厚紙 2（ウラ）、 厚紙 3（221 ～ 300/m^2）、 厚紙 3（ウラ）、 コート紙 1（106 ～ 176/m^2）、 コート紙 1（ウラ）、 コート紙 2（177 ～ 220/m^2）、 コート紙 2（ウラ）、 コート紙 3（221 ～ 300/m^2）、 コート紙 3（ウラ）、 ラベル紙（106 ～ 176/m^2）、 はがき（106 ～ 220/m^2）、 封筒、 ユーザー定義用紙 1 ～ 5(64 ～ 105/m^2)
用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ 1 段）（オプション）	55 ～ 216g/m^2 連量：47 ～ 186kg	2,300 枚	普通紙（64 ～ 82g/m^2）、 上質紙（83 ～ 105g/m^2）、 再生紙（64 ～ 105g/m^2）、 うす紙（55 ～ 63g/m^2）、 うら紙（64 ～ 82g/m^2）、 厚紙 1（106 ～ 176g/m^2）、 厚紙 1（ウラ）（106 ～ 176g/m^2）、 厚紙 2（177 ～ 220g/m^2）、 厚紙 2（ウラ）（177 ～ 220g/m^2）、 厚紙 3（221 ～ 300g/m^2）、 厚紙 3（ウラ）（221 ～ 300g/m^2）、 ラベル紙（106 ～ 176/m^2）、 ユーザー定義用紙 1 ～ 5(64 ～ 105/m^2)

*:弊社 P 紙の場合

用紙の種類と使用方法は、次のとおりです。

用紙種類	用紙種類別画質処理 初期値	備考
うす紙 (52 ～ 59g/m^2)	うす紙	
上質紙 (83 ～ 105/m^2)	上質紙 (B)	
普通紙 (64 ～ 82g/m^2)	普通紙 (A)	
再生紙 (64 ～ 105g/m^2)	再生紙 (A)	
うら紙 (64 ～ 82g/m^2)	普通紙 (A) うら	普通紙のうち片面が使用済みの際に設定します。自動両面はできません。
ユーザー定義用紙 1 ～ 5	普通紙 (A) または普通紙 (S)	お好みの名前をつけることができます。用紙は普通紙 (A) ～ (S) を設定できます。 **補足** • 用紙種類別画質処理の初期値は、ユーザー定義用紙 1 ～ 4 の場合は普通紙 (A)、ユーザー定義用紙 5 の場合は普通紙 (S) です。
厚紙 1(106 ～ 176g/m^2)	厚紙 1(A)	
厚紙 1(うら面) (106 ～ 176g/m^2)	厚紙 1(A) うら	厚紙 1 を手動で両面印刷する際に設定できます。
コート紙 1(106 ～ 176g/m^2)	コート紙 1(A)	
コート紙 1(うら面)	コート紙 1(A) うら	コート紙 1 を手動で両面印刷する際に設定します。
厚紙 2(177 ～ 220g/m^2)	厚紙 2(A)	
厚紙 2(うら面)	厚紙 2 うら	厚紙 2 を手動で両面印刷する際に設定します。
コート紙 2(177 ～ 220g/m^2)	コート紙 2(A)	
コート紙 2(うら面)	コート紙 2 うら	コート紙 2 を手動で両面印刷する際に設定します。
厚紙 3(221 ～ 300g/m^2)	厚紙 3(B)	自動両面はできません。
厚紙 3(うら面)	厚紙 3(B) うら	厚紙 3 を手動で両面印刷する際に設定します。自動両面はできません。
コート紙 3(221 ～ 300g/m^2)	コート紙 3(B)	自動両面はできません。
コート紙 3(うら面)	コート紙 3(B) うら	コート紙 3 を手動で両面印刷する際に設定します。自動両面はできません。
ラベル紙 (106 ～ 176g/m^2)	ラベル紙	自動両面はできません。
はがき (106 ～ 220g/m^2)	厚紙 2(A)	自動両面はできません。
封筒	封筒	自動両面はできません。

注記

• プリンタードライバーで選択した用紙サイズや用紙種類と異なる用紙でプリントしたり、適応していない用紙トレイにセットしてプリントしたりすると、紙づまりの原因になります。適正なプリントをするために、正しい用紙サイズ、用紙種類、用紙トレイを選択してください。

補足

• メートル坪量とは、1m^2 の用紙 1 枚の質量をいいます。

- 連量とは、四六判（788 x 1,091mm）の用紙 1,000 枚の質量をいいます。
- 用紙トレイ 5（手差し）で、非定形サイズの用紙にコピーする場合は、用紙サイズを入力する必要があります。また、非定形サイズの用紙を頻繁にコピーする場合は、あらかじめ数値を設定しておくと、[トレイ 5（手差し）] 画面の [定形サイズ] に、設定したサイズが表示されます。設定方法については、「トレイ 5（ 手差し ）定形サイズボタン」(P.185) を参照してください。
- 用紙種類ごとに画質処理を設定すると、用紙に合った画質でプリントできます。設定方法については、「用紙種類別画質処理」(P.186) を参照してください。

使用できる用紙の種類

標準紙

一般に使用されている用紙（一般紙と呼びます）にコピーやプリントをする場合は、規格に合った用紙を使用してください。より鮮明にコピーやプリントをするためには、弊社では次の標準紙を推奨しています。

用紙名	メートル坪量（単位 :g/m2)	用紙の種類 *1	用紙種類別画質処理 *2	用紙の特徴と使用上の注意
P 紙	64	普通紙	普通紙（A）	社内配布資料や一般のオフィス用の中厚口用紙
V-Paper	64	普通紙	普通紙（A）	上質紙としての白色度を維持しつつ、古紙パルプを配合したコピー / プリンター用紙
C2r	70	再生紙	再生紙（A）	古紙のパルプ 70% 配合で、白黒 / カラーのどちらにも使用できる再生紙
G70	67	再生紙	再生紙（A）	古紙のパルプを 70% と多く配合したリサイクルコピー / プリンター用紙

*1 :用紙を用紙トレイにセットするときには、セットした用紙に合わせて、用紙種類を設定してください。詳しくは、「用紙の設定を変更する」(P.75) を参照してください。
*2 :用紙種類ごとに画質処理を設定すると、用紙に合った画質でプリントできます。詳しくは、「用紙種類別画質処理」(P.186) を参照してください。

準標準紙

標準紙以外にも、次の用紙を使用できます。

用紙名	メートル坪量（単位 :g/m²）	用紙の種類 *1	用紙種類別画質処理 *2	用紙の特長と使用上の注意
C2	70	普通紙	普通紙 (A)	一般のオフィス用で、白黒 / カラーのどちらにも適している裏写りの少ない用紙
J	82	普通紙	普通紙 (B)	白色度が高く、発色性に優れ、カラー原稿に適している用紙
Ncolor081	81	普通紙	普通紙 (B)	J、JD 紙よりも高白色のカラー用紙 植林木 100% で環境に配慮した用紙

用紙名	メートル坪量（単位 :g/m²）	用紙の種類 *1	用紙種類別画質処理 *2	用紙の特長と使用上の注意
W-Paper	64	普通紙	普通紙（A）	高白色モノクロコピー / プリンター用紙
GR100	67	再生紙	再生紙（A）	リサイクルコピー / プリンター用紙 ISO 白色度 70% のグリーン購入法適合用紙
GR70-W	67	再生紙	再生紙（A）	リサイクルコピー / プリンター用紙 ISO 白色度 80% のグリーン購入法適合用紙
SG	67	再生紙	再生紙（A）	古紙パルプ 50% 配合のリサイクルコピー / プリンター用紙

使用できない用紙

弊社が推奨していない用紙を使用された場合、故障や用紙づまりの原因になります。本製品には、弊社が推奨する用紙をご使用ください。

- 電飾フィルム
- 電飾フィルム
- 105g/m^2 以下のコート紙（J コート紙、JD コート紙を除く）
- デジタルコート紙（光沢タイプ）
- 色地用布地転写用紙
- 布地転写用紙
- インクジェット専用紙
- 水転写紙
- インクジェット用郵便はがき
- 感熱紙 / 熱転写用紙
- 黒い折り紙（全サイズ）
- 一度プリントしたラベル紙
- ゼログラフィックフォトペーパー
- 定着の熱で変質するインクを使った用紙
- ホチキス、クリップ、リボン、テープなどが付いた用紙
- 貼り合わせた用紙、のりが付いた用紙
- 窓付きの封筒
- 台紙全体がラベルなどで覆われてないもの
- 湿っている用紙、ぬれている用紙
- 本機以外のプリンターやコピー機で一度プリントした用紙
- しわや折れ、破れのある用紙
- 凹凸や留め金のある封筒
- 厚すぎる用紙、薄すぎる用紙
- 表面加工したカラー用紙
- 静電気で密着している用紙
- カーボン紙
- 表面に特殊コーティングされた用紙
- ざら紙や繊維質の用紙など、表面が滑らかでない用紙

- 酸性紙を使用した場合は、文字がぼやけることがあります。
  そのときは中性紙に替えてください。
- タックフィルム (金色、銀色)
- OK トップコート N(128g/m^2)
- アートフラックス
- 一度プリントした用紙がベタ黒の場合
- カラーコピー用高級和紙
- ノンカーボン紙
- ST 紙（A3）
- OS　コート W127（A4、A3、SRA3）
- スーパートレース 55/60
- スタートレース
- ハイトレース
- GT60、GT70、GT75、GX65
- 第二原図用紙 TX、MX
- WT75

用紙の保管と取り扱い

■用紙を保管するときは、次のことに気を付けてください。

- 用紙はキャビネットの中や、湿気が少ない場所に保管してください。用紙が湿気を含むと、用紙づまりや画質不良の原因になります。
- 開封後、用紙の残りは包装紙に包んで保管してください。このとき、防湿剤を入れることをお勧めします。
- 用紙は、折れや曲がりを防ぐために、立てかけずに水平に保管してください。

■用紙をトレイにセットする前に、次の事項を守ってください。

- 用紙の束は、きちんとそろえてからセットしてください。
- 折りめ、しわが入った用紙は使用しないでください。
- 波をうったような用紙や、カールした用紙は、使用しないでください。
- サイズの異なる用紙を重ねてセットしないでください。
- ラベル用紙は、紙づまりを起こしたり複数枚が同時に送られたりすることがあるので、よくさばいてからご使用ください。

用紙をセットする

ここでは、用紙トレイに用紙をセットする方法について説明します。

用紙トレイにセットする用紙の種類について

用紙トレイにセットした用紙のサイズと向きは、機械が自動的に検知しますが、用紙の種類は、設定が必要です。通常、各トレイは、普通紙が設定されています。ほかの種類の用紙をセットする場合は、設定を変更してください。また、用紙に名前を付けて、ユーザー定義用紙として設定することもできます。ユーザー定義用紙は 5 種類まで設定できます。

参照

- 用紙トレイの用紙種類を変更する方法は、「用紙の設定を変更する」(P.75) を参照してください。

自動トレイ選択について

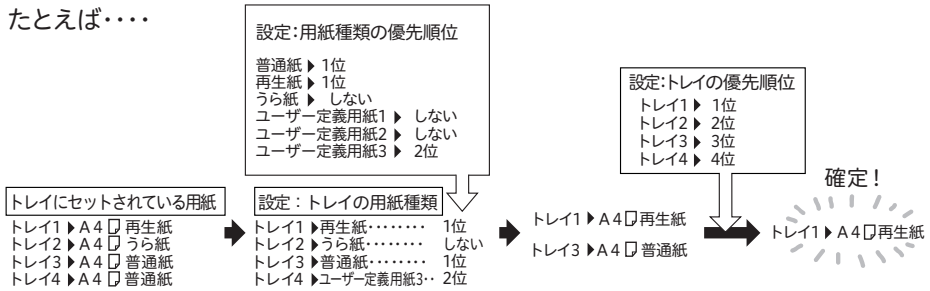
プリントの場合は、ART EX プリンタードライバーのプロパティ画面で、［トレイ / 排出］タブの［用紙トレイ選択］を［自動］にしてプリントを指示すると、機械はプリントする原稿のサイズと向きから、該当する用紙トレイを選択します。これを、「自動トレイ選択」と呼びます。

コピーの場合は、［用紙選択］で［自動］を選択した場合に、自動トレイ選択が働きます。

この自動トレイ選択で、該当する用紙トレイが複数ある場合は、用紙トレイの［用紙種類］に設定している用紙種類の、［用紙種類の優先順位］が高いトレイを選択します。このとき、［用紙種類の優先順位］の設定を［自動トレイ選択しない］に設定しているトレイは、自動トレイ選択の対象にはなりません。また、［用紙種類の優先順位］がまったく同じ場合は、［用紙トレイの優先順位］で決定されます。

補足

- 用紙トレイに設定している［自動選択条件］の設定によっては、自動トレイ選択の対象にならないことがあります。自動選択条件については、「用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定」(P.183) を参照してください。



補足

- トレイ 5（手差し）は、自動トレイ選択の対象外です。
- コピーまたはプリント中に用紙がなくなったときは、コピーまたはプリントしていた用紙と同じサイズで同じ向きの用紙が入ったトレイを選択して、コピーまたはプリントを続けます（自動トレイ切り替え機能）。このとき、［用紙種類の優先順位］を［自動トレイ選択しない］に設定している種類の用紙が入ったトレイには、切り替えません。

参照

- ［用紙トレイの用紙種類］、［用紙種類の優先順位］、［用紙トレイの優先順位］の設定や、用紙の置き替え機能設定については、「用紙 / トレイの設定」(P.183) を参照してください。また、CentreWare Internet Services からも同様の設定ができます。

用紙補給について

コピーやプリント中に用紙がなくなると、操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージに従って、用紙を補給してください。用紙を補給すると自動的にコピーやプリントが再開されます。

注記

- 節電状態のときに用紙を補給しないでください。用紙を補給するときは、〈節電〉ボタンを押し、〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押してから補給してください。

補足

- 紙づまりを起こしたり、複数枚が同時に送られたりすることがあるので、用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。

用紙トレイ 1 ～ 4 に用紙をセットする

用紙トレイ 1 ～ 4 に用紙をセットする手順について説明します。

コピーやプリント中に用紙がなくなると、操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージに従って、用紙を補給してください。用紙を補給すると自動的にコピーやプリントが再開されます。

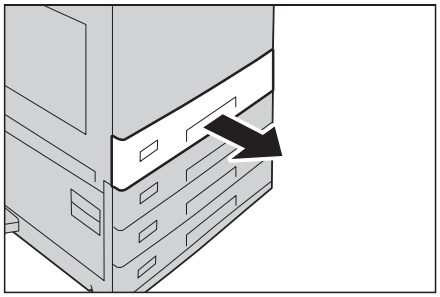
補足

- 用紙を用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。用紙のくっつきをなくして、紙づまりを起こしにくくします。

参照

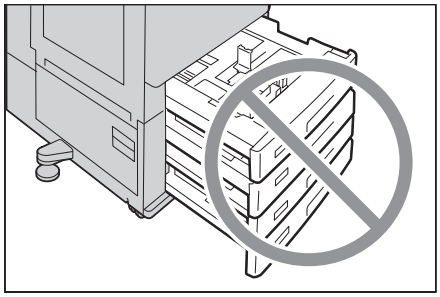
- 用紙サイズや向きを変更する場合は、「用紙トレイ1～4の用紙サイズを変更する」（P.68）を参照してください。

1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。

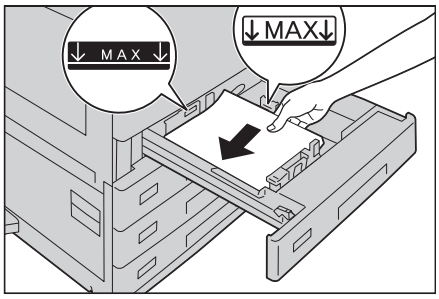


注記

- 本機がジョブを処理しているあいだは、ジョブで使用している用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いをしないために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。
- すべての用紙トレイを同時に引き出すと、機械全体が傾き、転倒などによりケガの原因となるおそれがあります。

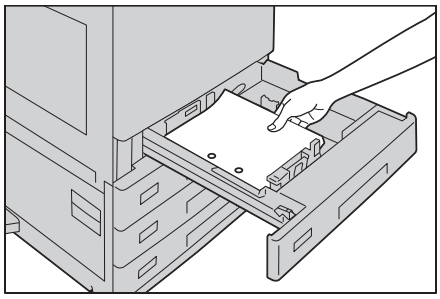


2 コピー、またはプリントする面を上にして、用紙の先端を左側にそろえてセットします。



注記
- 用紙上限線（「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。
- 用紙トレイ 1 ～ 4 の右側空きスペースには、用紙や物を置かないでください。紙づまりや故障の原因になります。

補足
- 穴あき用紙を使うときは、次のようにセットしてください。



3 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

注記
- 用紙トレイを押し込むときは、ゆっくりと押し込んでください。トレイを勢いよく押し込むと、故障の原因になります。

用紙トレイ 3 に用紙をセットする（タンデムトレイモジュール装着時）

用紙トレイ 3 に用紙をセットする手順について説明します。

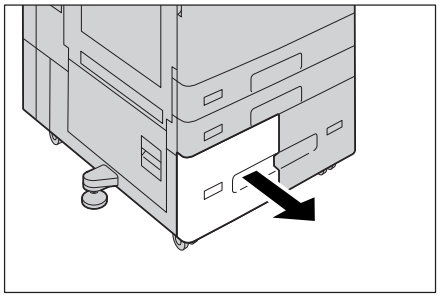
ここでは、タンデムトレイモジュールを装着している場合の手順について説明しています。

コピーやプリント中に用紙がなくなると、操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージに従って、用紙を補給してください。用紙を補給すると自動的にコピーやプリントが再開されます。

補足
- 用紙を用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。用紙のくっつきをなくして、紙づまりを起こしにくくします。

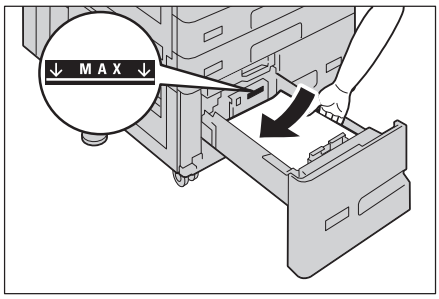
参照
- 用紙サイズや向きを変更する場合は、「用紙トレイ 3 の用紙サイズを変更する（タンデムトレイモジュール装着時）」(P.69) を参照してください。

1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。



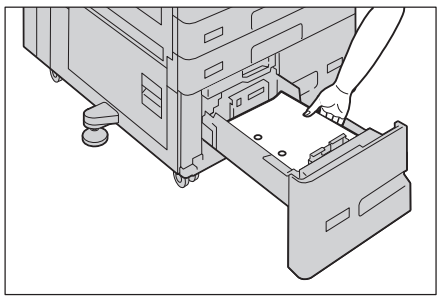
注記
- 本機がジョブを処理しているあいだは、ジョブで使用している用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いをしないために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。残っている用紙は、取り除いたあと、新しくセットした用紙の上に重ねてください。

2 コピー、またはプリントする面を上にして、用紙の先端を左側にそろえてセットします。



注記
- 用紙上限線（「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

補足
- 穴あき用紙を使うときは、次のようにセットしてください。



3 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

注記
- 用紙トレイを押し込むときは、ゆっくりと押し込んでください。トレイを勢いよく押し込むと、故障の原因になります。

用紙トレイ 4 に用紙をセットする（タンデムトレイモジュール装着時）

用紙トレイ 4 に用紙をセットする手順について説明します。

ここでは、タンデムトレイモジュールを装着している場合の手順について説明しています。

コピーやプリント中に用紙がなくなると、操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージに従って、用紙を補給してください。用紙を補給すると自動的にコピーやプリントが再開されます。

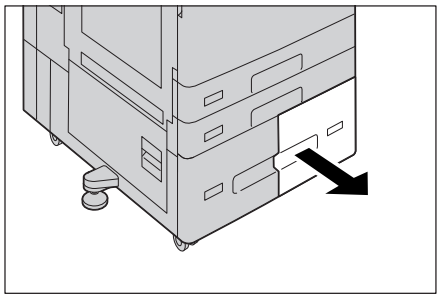
補足

- 用紙を用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。用紙のくっつきをなくして、紙づまりを起こしにくくします。

参照

- 用紙サイズや向きを変更する場合は、「用紙トレイ 4 の用紙サイズを変更する（タンデムトレイモジュール装着時）」(P.71) を参照してください。

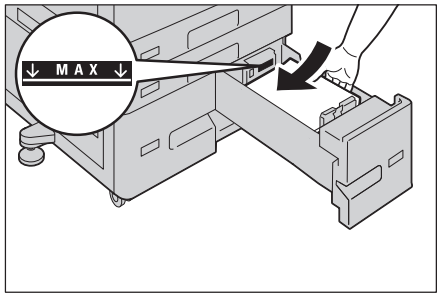
1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。



注記

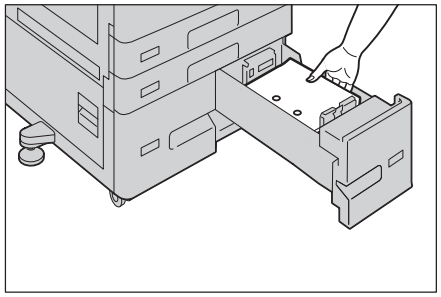
- 本機がジョブを処理しているあいだは、ジョブで使用している用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いをしないために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。残っている用紙は、取り除いたあと、新しくセットした用紙の上に重ねてください。

2 コピー、またはプリントする面を上にして、用紙の先端を左側にそろえてセットします。



注記
- 用紙上限線（「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

補足
- 穴あき用紙を使うときは、次のようにセットしてください。



3 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

注記
- 用紙トレイを押し込むときは、ゆっくりと押し込んでください。トレイを勢いよく押し込むと、故障の原因になります。

用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする

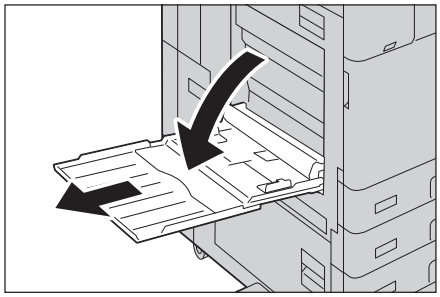
用紙トレイ 1 ～ 4 にセットできないサイズや種類の用紙に、コピー、またはプリントする場合は、用紙トレイ 5（手差し）を使用します。ここでは、用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする方法について説明します。

プリントする場合は、プリンタードライバーの［トレイ / 排出］タブで設定します。そのときに、セットする用紙の種類も指定します。

注記
- 紙づまりや用紙セットの間違いをしないために、用紙がなくなるまで包装紙から用紙を取り出さないでください。

補足
- 紙づまりを起こしたり複数枚が同時に送られたりすることがあるので、用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。

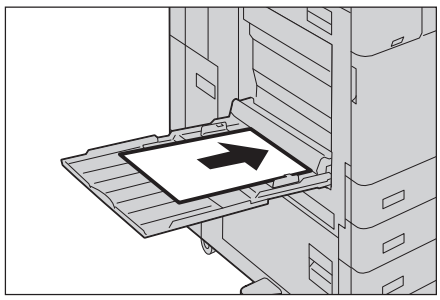
1 用紙トレイ 5（手差し）を開きます。



補足

- 必要に応じて、延長トレイを引き出します。延長トレイは、2 段階に引き出せます。延長トレイを引き出すときは、ゆっくりと引き出してください。

2 コピー、またはプリントする面を下に向けて、用紙をそろえた状態で先端を軽く突き当たるまで差し込みます。

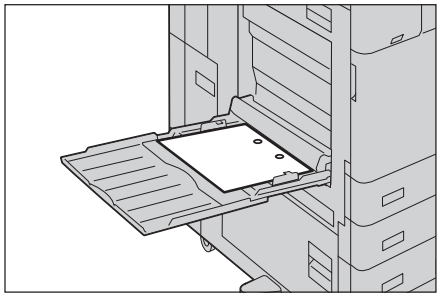


注記

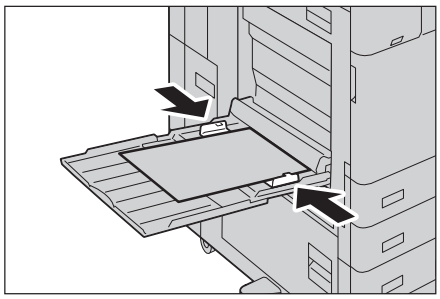
- 種類が異なる用紙を一緒にセットしないでください。
- 用紙上限線を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。
- 厚紙の種類によっては機械に送れなかったり、希望どおりの画質にならなかったりすることがあります。

補足

- 穴あき用紙を使うときは、次のようにセットしてください。



3 用紙サイズ合わせガイドを、セットした用紙に軽く合わせます。



4 コピー、またはプリントを指示します。

用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））に用紙をセットする

用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））（オプション）に用紙をセットする手順について説明します。

コピーやプリント中に用紙がなくなると、操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージに従って、用紙を補給してください。用紙を補給すると自動的にコピーやプリントが再開されます。

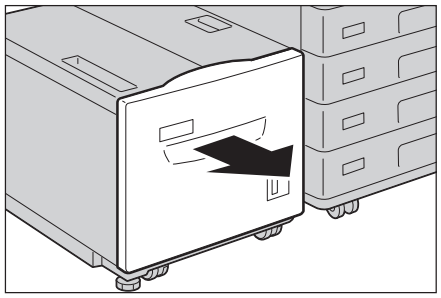
補足

- 用紙を用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。用紙のくっつきをなくして、紙づまりを起こしにくくします。

参照

- 用紙サイズや向きを変更する場合は、「用紙の設定を変更する」（P.75）を参照してください。

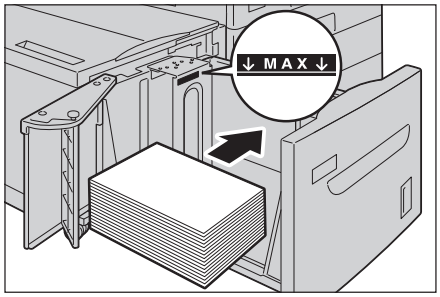
1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。



注記

- 本機がジョブを処理しているあいだは、ジョブで使用している用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いをしないために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。

2 エンドガイドを開いて、コピー、またはプリントする面を下にして、用紙の先端を右側にそろえてセットします。

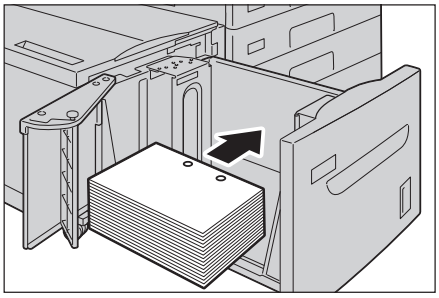


注記

- 用紙上限線を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

補足

- 穴あき用紙を使うときは、次のようにセットしてください。



3 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

用紙サイズを変更する

用紙トレイ 1 ～ 4、6 の用紙サイズを変更する方法について説明します。

注記
- 1 つのトレイに異なるサイズの用紙を重ねてセットしないでください。

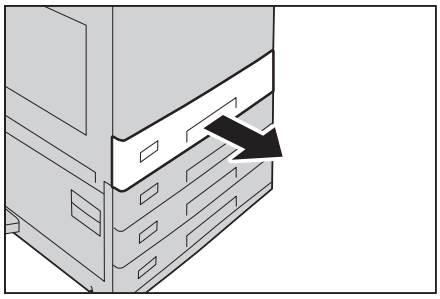
補足
- 用紙トレイ 1 ～ 4、6 には、用紙の紙質が設定されています。通常は、普通紙が設定されています。異なる紙質の用紙に変える場合は、印字品質を保つため、セットする用紙に合わせて、紙質の設定を変更してください。紙質の設定については、「用紙の設定を変更する」(P.75) を参照してください。
- 用紙トレイ 1 ～ 4 には、非定形サイズの用紙をセットできます。非定形サイズの用紙をセットする場合は、用紙サイズの登録が必要です。登録方法については、「用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定」(P.183) を参照してください。

参照
- 対応する用紙サイズについては、「サイズ検知切り替え」(P.210) を参照してください。
- 非定形サイズの用紙にコピーする方法は、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「コピー」>「用紙選択（コピーする用紙を選択する）」を参照してください。非定形サイズの用紙にプリントする方法は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

用紙トレイ 1 ～ 4 の用紙サイズを変更する

用紙トレイ 1 ～ 4 の用紙サイズを変更する方法について説明します。

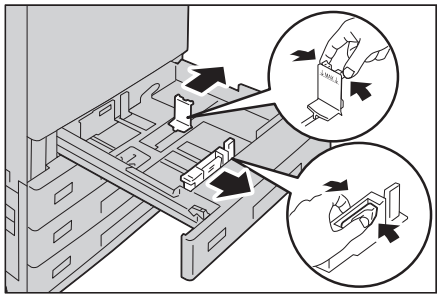
1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。



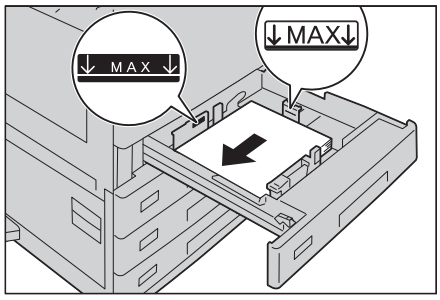
注記
- 本機がジョブを処理しているあいだは、用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いをしないために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。残っている用紙は、取り除いたあと、新しくセットした用紙の上に重ねてください。

2 用紙がセットされている場合は、用紙を取り出します。

3 2 か所の用紙ガイドレバーをつまみながら、ガイドをそれぞれ用紙サイズに合った位置まで移動します。



4 コピー、またはプリントする面を上にして、用紙の先端を左側にそろえてセットします。



注記
- 用紙上限線（「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

5 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

注記
- 用紙トレイを押し込むときは、ゆっくりと押し込んでください。トレイを勢いよく押し込むと、故障の原因になります。

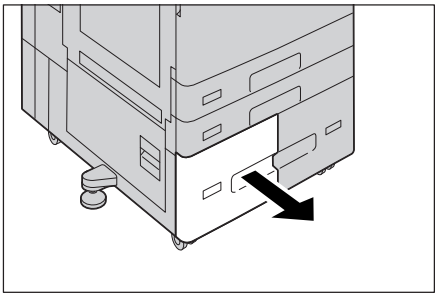
補足
- 用紙トレイには、用紙サイズに応じて、ラベルを貼ります。

参照
- 用紙の種類の設定は、「用紙の設定を変更する」(P.75) を参照してください。

用紙トレイ 3 の用紙サイズを変更する（タンデムトレイモジュール装着時）

用紙トレイ 3 の用紙サイズを変更する方法について説明します。

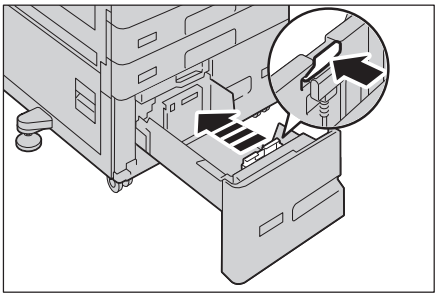
1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。



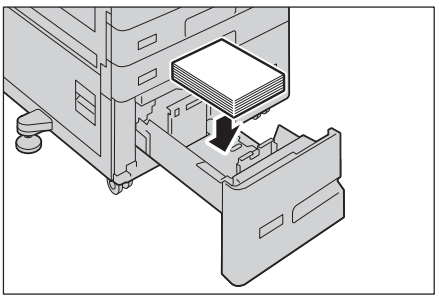
注記
- 本機がジョブを処理しているあいだは、ジョブで使用している用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いをしないために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。

2 用紙がセットされている場合は、用紙を取り出します。

3 ガイドクリップを指でつまみ、用紙サイズにあった位置まで移動します。



4 コピー、またはプリントする面を上にして、用紙の先端を左側にそろえてセットします。



注記
- 用紙上限線を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

5 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

注記
- 用紙トレイを押し込むときは、ゆっくりと押し込んでください。トレイを勢いよく押し込むと、故障の原因になります。

補足
- 用紙トレイには、用紙サイズに応じて、ラベルを貼ります。

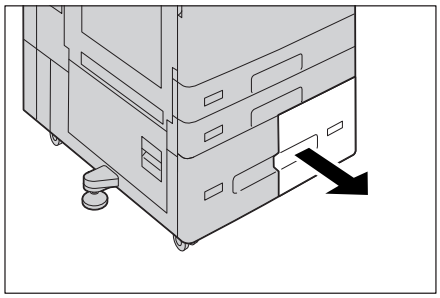
6 用紙の種類を変更した場合は、用紙トレイに、用紙種類を設定します。

参照
- 用紙の種類の設定は、「用紙の設定を変更する」(P.75) を参照してください。

用紙トレイ 4 の用紙サイズを変更する（タンデムトレイモジュール装着時）

用紙トレイ 4 の用紙サイズを変更する方法について説明します。

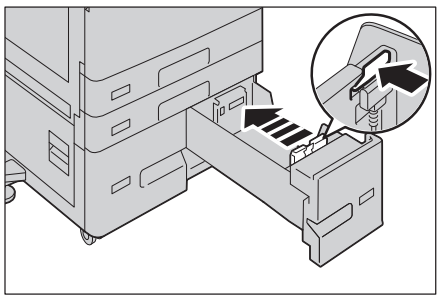
1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。



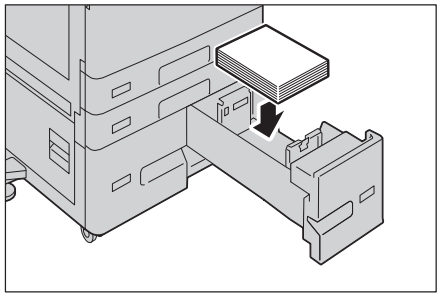
注記
- 本機がジョブを処理しているあいだは、ジョブで使用している用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いをしないために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。残っている用紙は、取り除いたあと、新しくセットした用紙の上に重ねてください。

2 用紙がセットされている場合は、用紙を取り出します。

3 ガイドクリップを指でつまみ、用紙サイズにあった位置まで移動します。



4 コピー、またはプリントする面を上にして、用紙の先端を左側にそろえてセットします。



注記
- 用紙上限線を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

5 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

注記
- 用紙トレイを押し込むときは、ゆっくりと押し込んでください。トレイを勢いよく押し込むと、故障の原因になります。

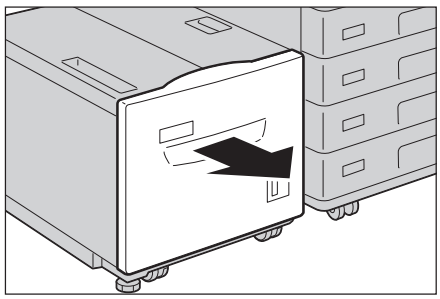
6 用紙の種類を変更した場合は、用紙トレイに、用紙種類を設定します。

参照
- 用紙の種類の設定は、「用紙の設定を変更する」(P.75) を参照してください。

用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））の用紙サイズを変更する

用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））（オプション）の用紙サイズを変更する手順について説明します。

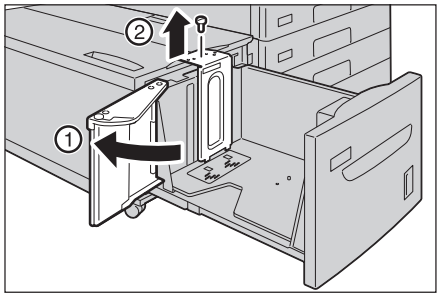
1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。



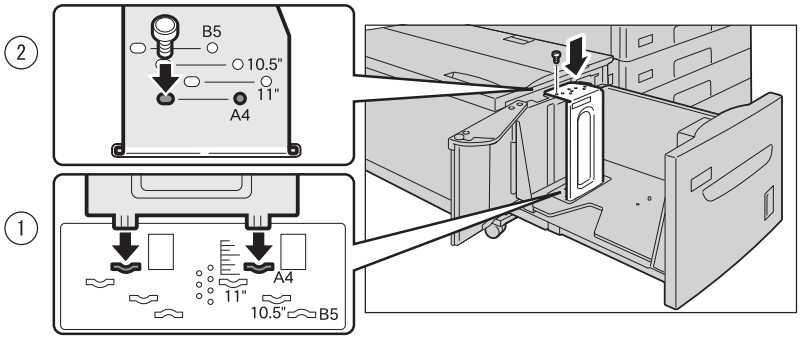
注記
- 本機がジョブを処理しているあいだは、ジョブで使用している用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いを防ぐために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。残っている用紙は、取り除いたあと、新しくセットした用紙の上に重ねてください。

2 用紙がセットされている場合は、用紙を取り出します。

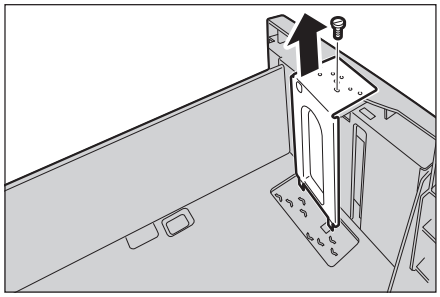
3 エンドガイドを開いて（①）、奥のガイドのネジを外し（②）、ガイドを用紙トレイから外します。



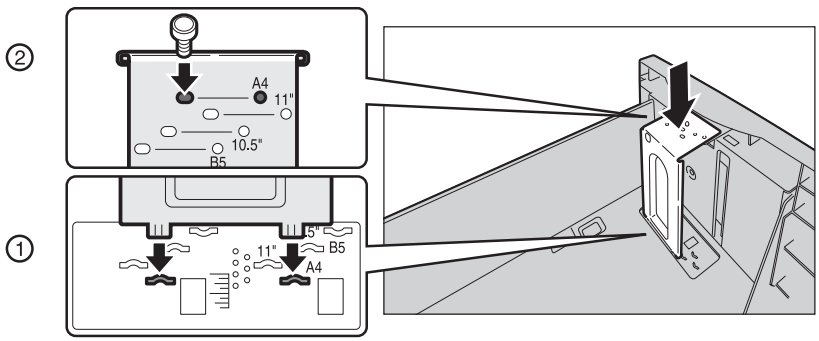
4 ガイドの下部にある突起を、用紙サイズの穴に差し込み（①）、ガイドの上面にある用紙サイズの穴に、用紙トレイの突起を差し込んで、ネジを締めます（②）。



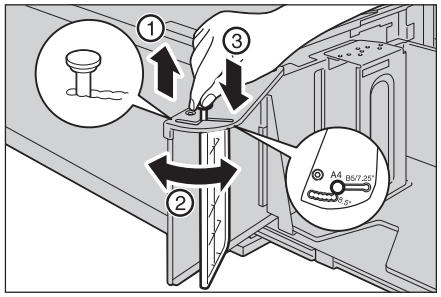
5 手前のガイドのネジを外し、ガイドを用紙トレイから外します。



6 ガイドの下部にある突起を、用紙サイズの穴に差し込み（①）、ガイドの上面にある用紙サイズの穴に、用紙トレイの突起を差し込んで、ネジを締めます（②）。



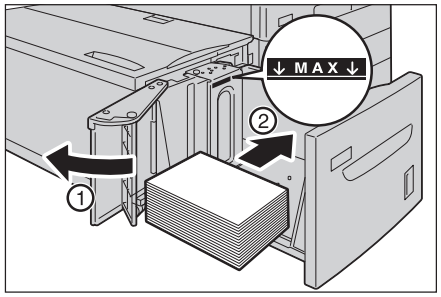
7 図のようにエンドガイドのレバーを引き上げ（①）、レバーを溝に沿って移動させながら用紙サイズに合わせて（②）、レバーを下ろします（③）。



注記
- ガイドは、用紙の幅に正しく合わせてください。ガイドの位置がずれていると、用紙が正常に搬送されず、紙づまりの原因になることがあります。

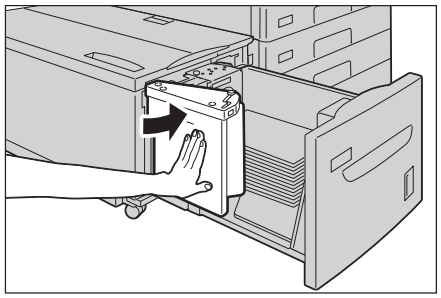
補足
- エンドガイドの 8.5" の左側の溝は使用しません。

8 エンドガイドを開き（①）、コピーまたはプリントする面を下にして、用紙の先端を右側にそろえてセットします（②）。



注記
- 用紙上限線（「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

9 エンドガイドをしっかり閉じます。



10 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

用紙の設定を変更する

用紙トレイの用紙種類、および用紙種類別の画質処理の設定を変更する方法について説明します。

用紙を用紙トレイにセットしたら、セットした用紙の種類と、用紙の種類に対する画質処理を設定します。用紙の種類ごとに画質処理を設定すると、用紙に合った画質でプリントできます。

参照

- 用紙種類別の画質処理は、「用紙種類別画質処理」(P.186) を参照してください。

補足

- 用紙種類に表示されるユーザー用紙 1 ～ 5 は、ユーザーが任意で名称を付けられる用紙です。ユーザー用紙 1 ～ 5 の名称の設定方法は、「ユーザー用紙属性の名称設定」(P.183) を参照してください。
- 用紙種類の設定は、あらかじめ設定しておけば、機械管理者モードに入らなくても、メニュー画面の［登録 / 変更］を押して表示される［登録 / 変更］画面で変更できます。［登録 / 変更］画面で用紙種類を変更するための設定は、「登録 / 変更画面からのトレイ設定変更」(P.184) を参照してください。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

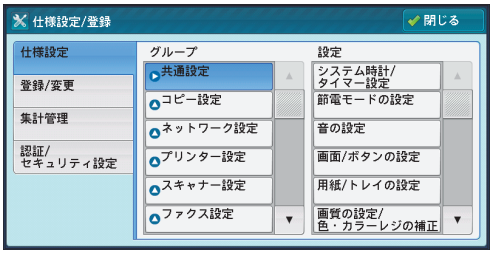
3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。



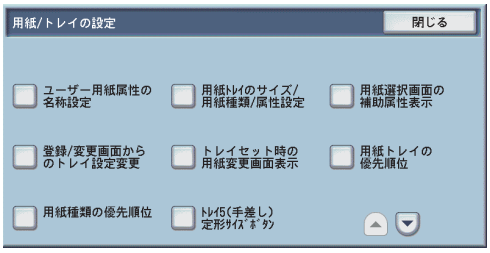
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

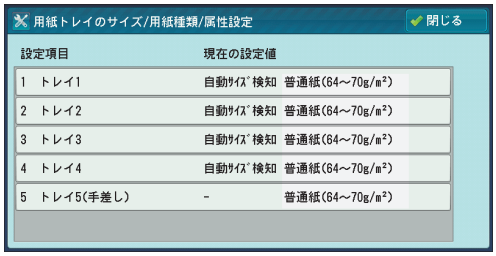
4 ［仕様設定］>［共通設定］>［用紙 / トレイの設定］を押します。



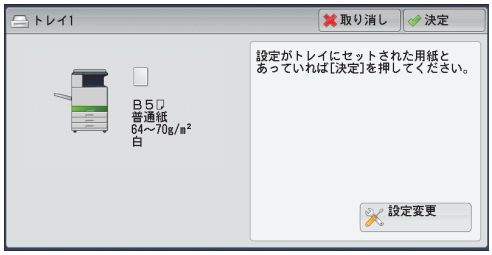
5 ［用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定］を押します。



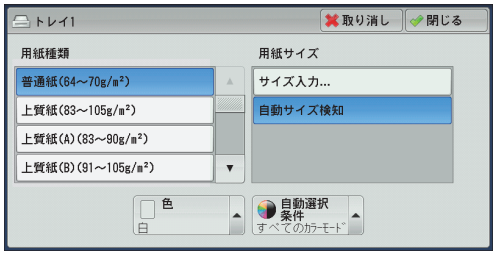
6 ［設定項目］で、用紙種類を変更する用紙トレイを選択します。



7 ［設定変更］を押します。



8 ［用紙種類］、［用紙サイズ］、［色］、［自動選択条件］をそれぞれ設定します。

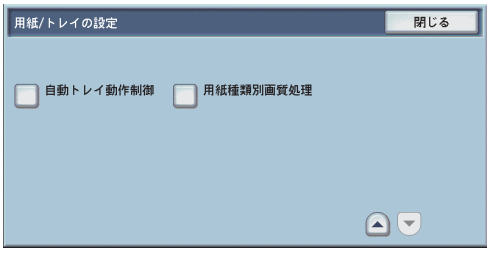


補足

- ［用紙種類］に表示される坪量は、［用紙種類別画質処理］の設定によって異なります。詳しくは、手順 11 を参照してください。

9 ［用紙 / トレイの設定］画面が表示されるまで、［閉じる］または［決定］を押します。

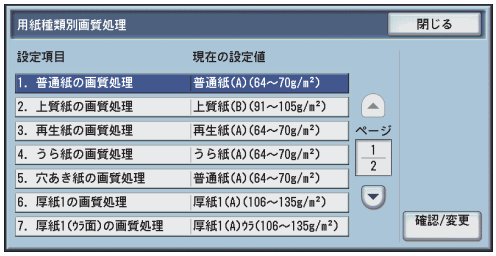
10 ［用紙種類別画質処理］を押します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

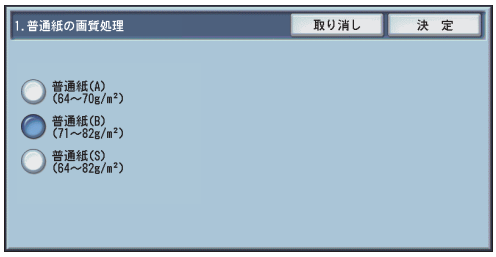
11 ［設定項目］で、画質処理を変更する用紙種類を選択し、［確認 / 変更］を押します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

12 変更する画質処理の設定値を選択し、［決定］を押します。



13 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

14 ［閉じる］を押します。

3
日常の管理

消耗品を交換する

本機には、消耗品、および定期交換部品が用意されています。本機に適した規格で作られていますので、次の消耗品 / 定期交換部品の使用をお勧めします。

消耗品 / 定期交換部品の種類	商品コード	形態
トナーカートリッジ［K］（ブラック）	CT202630	1 個 /1 箱
トナーカートリッジ［C］（シアン）	CT202631	1 個 /1 箱
トナーカートリッジ［M］（マゼンタ）	CT202632	1 個 /1 箱
トナーカートリッジ［Y］（イエロー）	CT202633	1 個 /1 箱
ドラムカートリッジ（YMCK）	CT351104	1 個 /1 箱
トナー回収ボトル A*1	CWAA0901	1 個 /1 箱
トナー回収ボトル B*2	CWAA0902	1 個 /1 箱
ホチキス針 タイプ XH（3PCS）*3	CWAA0855	5000 針 ×3 セット /1 箱
ホチキス針 タイプ XE（2PCS）*4	CWAA0856	5000 針 ×2 セット /1 箱
ホチキス針 中とじ用タイプ XG (4PCS) *5	CWAA0728	2000 針 ×4 セット /1 箱
スタンプ交換キット（赤）	F451	1 個 /1 箱

*1 :ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271 用。
*2 :ApeosPort-VI C7771/C6671、DocuCentre-VI C7771/C6671 用。
*3 :フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 用。(65 枚ステープル)
*4 :フィニッシャー A2、フィニッシャー B1、フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 用。(50 枚ステープル)
*5 :フィニッシャー B1 中とじユニット用。

補足

- 消耗品は、予備を用意することをお勧めします。

⚠ 警告

- こぼれたトナーを電気掃除機で吸い取らないでください。本製品内およびトナーカートリッジ、トナー回収ボトル等に付着したトナーを電気掃除機で吸引することもおやめください。掃除機を用いると、掃除機内部のトナーが、電気接点の火花などにより、発火または爆発するおそれがあります。床などにこぼしたトナーは、ほうきで掃き取るか、または石けん水を湿らした布などで拭き取ってください。大量にこぼれた場合、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
- トナーカートリッジは、絶対に火中に投じないでください。トナーカートリッジに残っているトナーが発火または爆発する可能性があり、火傷のおそれがあります。使い終わった不要なトナーカートリッジは弊社にて回収いたしますので、必ず弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
- トナー回収ボトルは、絶対に火中に投じないでください。トナーが発火または爆発する可能性があり、火傷のおそれがあります。使い終わった不要なトナー回収ボトルは、弊社にて回収いたしますので、必ず弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

⚠注 意

- ドラムカートリッジやトナーカートリッジは幼児の手が届かないところに保管してください。幼児がトナーを飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談し指示を受けてください。
- ドラムカートリッジやトナーカートリッジを交換する際は、トナーが飛散しないように注意してください。また、トナーが飛散した場合は、トナーが皮膚や衣服に付いたり、トナーを吸引したり、または目や口に入らないように注意してください。
- 次の事項に従って、応急処置をしてください。
  - トナーが皮膚や衣服に付着した場合は、石けんを使って水でよく洗い流してください。
  - トナーが目に入った場合は、目に痛みがなくなるまで15分以上多量の水でよく洗い、必要に応じて医師の診断を受けてください。
  - トナーを吸引した場合は、新鮮な空気のところへ移動し、多量の水でよくうがいをしてください。
  - トナーを飲み込んだ場合は、飲み込んだトナーを吐き出し、水でよく口の中をすすぎ、多量の水を飲んでください。すみやかに医師に相談し指示を受けてください。

消耗品 / 定期交換部品の取り扱いについて

- 消耗品 / 定期交換部品の箱は、立てた状態で保管しないでください。
- 消耗品 / 定期交換部品は、使用するまでは開封しないで、次のような場所を避けて保管してください。
  - 高温多湿の場所
  - 火気がある場所
  - 直射日光が当たる場所
  - ほこりが多い場所
- 消耗品 / 定期交換部品を使用するときは、取り扱い上の注意をよく読んでから使用してください。取り扱い上の注意は、消耗品 / 定期交換部品に同梱されているか、消耗品 / 定期交換部品の箱や容器に記載されています。
- 消耗品 / 定期交換部品は、予備を用意することをお勧めします。
- 消耗品 / 定期交換部品を発注するときは、商品コードを確認のうえ、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご注文ください。
- 弊社が推奨していない消耗品 / 定期交換部品を使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨する消耗品 / 定期交換部品をご使用ください。

消耗品の状態確認

消耗品の状態は、［消耗品確認］画面で参照できます。

参照
- 消耗品確認については、「消耗品確認」(P.155) を参照してください。

トナーカートリッジを交換する

トナーの残量によって、次のようなメッセージが操作パネルのディスプレイに表示されます。メッセージに従って、処置してください。

メッセージ *1	処置
予備のイエロートナー（Y）を用意してください。	トナーカートリッジを交換する必要はありません。表示されたトナーカートリッジの予備を用意してください。 **補足** • メッセージが表示されてから、コピーまたはプリントできる残りページ数 *2 は次のとおりです。 - ブラック：約 3,500 ページ - ブラック以外：約 2,500 ページ
イエロートナー（Y）交換時期です。	表示されたトナーカートリッジを交換してください。 **補足** • メッセージが表示されてから、コピーまたはプリントできる残りページ数 *2 は約 60 ページです。
イエロートナー（Y）を交換してください。	本機が停止します。表示されたトナーカートリッジを交換してください。

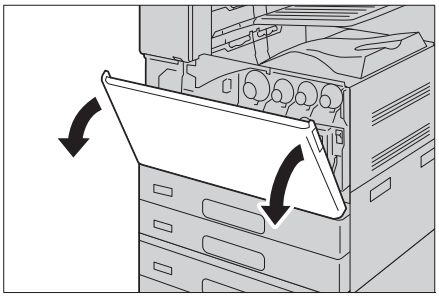
*1 :上記のメッセージは、イエロートナーが対象の場合です。対象となるトナーの色や数によって「イエロートナー（Y）」の部分は変わります。

*2 :使用可能ページ数は、A4（□）の用紙を使用した場合の枚数です。使用可能ページ数は、印字内容、用紙のサイズ、種類、使用環境などによって異なりますので、あくまでも目安としてお考えください。

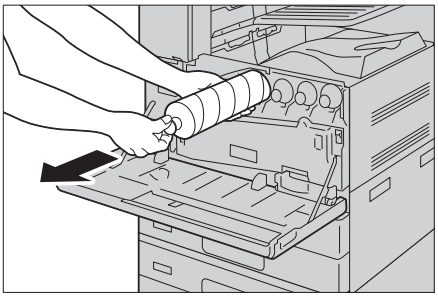
注記

- トナーカートリッジを交換するとき、トナーがこぼれて床面などを汚すことがあります。あらかじめ床に紙などを敷いて作業することをお勧めします。
- 弊社が推奨していないトナーカートリッジを使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨するトナーカートリッジをご使用ください。
- トナー残量が少なくなってきている場合、プリント中に機械が停止してメッセージが表示されることがあります。その場合は、トナーカートリッジを交換すると、コピー、またはプリントは継続されます。
- トナーカートリッジを交換するときは、本機の電源を入れたままの状態にしておいてください。
- 本機が節電状態になっている場合は、トナーカートリッジを交換する前に操作パネルで〈節電〉ボタンを押し、〈機械確認〉ボタンを押して節電状態を解除してください。
- 操作パネルのディスプレイに、「予備の XXX トナーを用意してください。」とメッセージが表示されたあとは、コピー、またはプリント濃度が若干低下することがあります。
- 使いかけのトナーカートリッジを使用すると、「予備のXXXトナーを用意してください。」とメッセージが表示されたあとに、コピー、またはプリントできる枚数が大きく異なることがあります。

1 機械が停止していることを確認し、正面カバーを開けます。



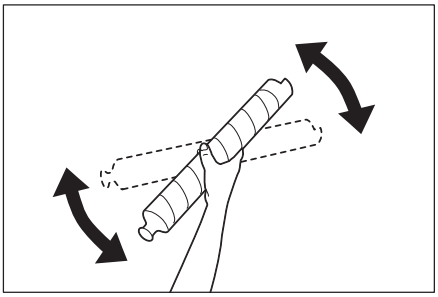
2 メッセージに表示されている色のトナーカートリッジを手前に静かに引いて、取り出します。



注記
- トナーカートリッジはゆっくり引き出してください。トナーが飛び散ることがあります。
- 使い終わった不要なトナーカートリッジは弊社にて回収いたしますので、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

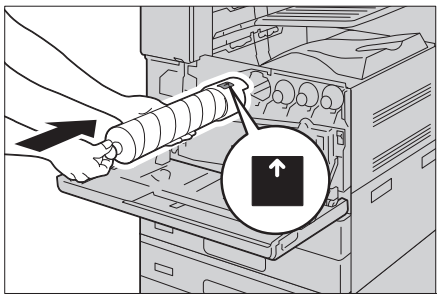
補足
- 「Y」はイエロー、「M」はマゼンタ、「C」はシアン、「K」はブラックです。

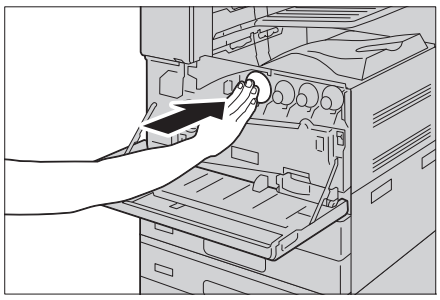
3 取り出したトナーカートリッジと同じ色の、新しいトナーカートリッジを用意し、図のように軽く 10 回上下左右によく振ります。



注記
- シャッター部に触れないでください。

4 トナーカートリッジの矢印（↑）部を上に向けて、奥に突き当たるまで差し込みます。





補足
- トナーカートリッジが奥まで入っていないと、メッセージが表示され、機械が作動しません。

5 正面カバーを閉じます。

補足
- 正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

トナー回収ボトル［R5］を交換する

トナー回収ボトルとは、使用済みのトナーを回収するボトルです。トナー回収ボトルの状態によって、次のメッセージがディスプレイに表示されます。メッセージに従って、処置を行ってください。

メッセージ	処置
予備のトナー回収ボトルを用意してください。	トナー回収ボトルを交換する必要はありません。トナー回収ボトルの予備を用意してください。 **補足** • メッセージが表示されてから、コピーまたはプリントできる残りページ数 * は、約 5,400 ページです。
トナー回収ボトル交換時期です。	トナー回収ボトルを交換してください。 **補足** • メッセージが表示されてから、コピーまたはプリントできる残りページ数 * は、約 2,700 ページです。
トナー回収ボトルを交換してください。	本機が停止します。トナー回収ボトルを交換してください。

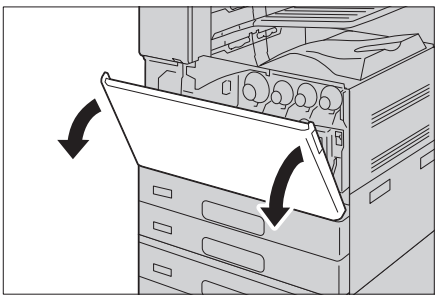
*:コピーまたはプリントできる残りページ数は、A4（▯）の用紙を使用した場合の枚数です。コピーまたはプリントできる残りページ数は、印字内容、用紙のサイズ、種類、使用環境などによって異なりますので、あくまでも目安としてお考えください。

トナー回収ボトルを交換するときには、コピーやプリントに濃度ムラや色ムラが発生するのを防ぐため、正面カバーの裏側に付属している清掃棒を使用して、LED プリントヘッド部を清掃してください。

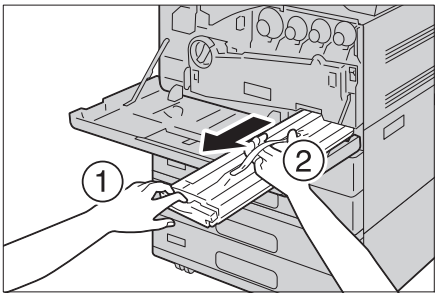
注記

- トナー回収ボトルの形状には 2 種類あります。対応機種以外のトナー回収ボトルは、セットできない、またはメッセージが表示され機械が作動しません。
- トナー回収ボトル B の先端部のフィルター面には触れないでください。トナーが指に付着するおそれがあります。
- トナー回収ボトルを交換するとき、回収されたトナーがこぼれて床面を汚すことがあります。あらかじめ床に紙などを敷いて作業することをお勧めします。
- 弊社が推奨していないトナー回収ボトルを使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨するトナー回収ボトルをご使用ください。
- 本機が節電状態になっている場合は、トナー回収ボトルを交換する前に操作パネルで〈節電〉ボタンを押し、〈機械確認〉ボタンを押して節電状態を解除してください。
- トナー回収ボトルを交換するときは、操作パネルが点灯している場合も〈機械確認〉ボタンを押して正確なトナー回収ボトルの状態を確認してから、交換してください。

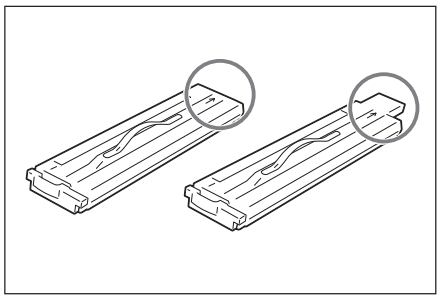
1 機械が停止していることを確認し、正面カバーを開けます。



2 トナー回収ボトルを、取っ手を持ちながらゆっくりと引き抜きます。



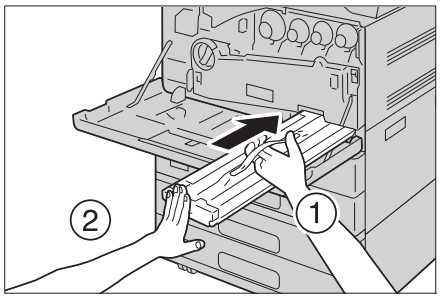
3 新しいトナー回収ボトルを準備します。



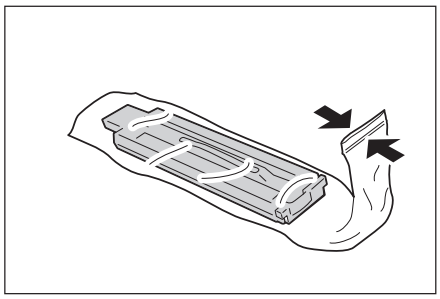
注記

- トナー回収ボトルは 2 種類あります。お使いの機種にあわせて準備してください。
- 袋は使うので捨てないでください。

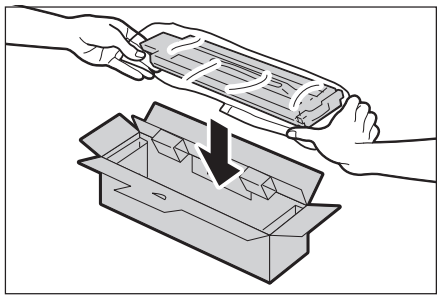
4 新しいトナー回収ボトルを、取っ手を持ちながら差し込み、カチッと音がするまで奥に押し込みます。



5 使用済みのトナー回収ボトルをビニール袋に入れ、しっかりファスナーを閉めます。



6 使用済みのトナー回収ボトルを、両手でしっかり持って空箱に収納します。



注記
- 使い終わった不要なトナー回収ボトルは弊社にて回収いたしますので、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

7 LED プリントヘッド部を清掃します。

補足
- 清掃方法については、「本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃」(P.111) を参照してください。

8 正面カバーを閉じます。

補足
- 正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

ドラムカートリッジ［R1］［R2］［R3］［R4］を交換する（スポット保守のお客様のみ）

ドラムカートリッジが寿命に近付くと、「予備の ××× ドラム（RX）を用意してください。(保守を依頼)」というメッセージがディスプレイに表示されます。このメッセージが表示されたら、弊社のカストマーコンタクトセンターにご連絡ください。

なお、スポット保守の契約のお客様は、本節を参照して、表示されたドラムカートリッジの位置（[R1]、[R2]、[R3]、[R4]）を確認し、該当するドラムカートリッジを交換してください。

メッセージが表示されたあと、交換しないで使い続けると、コピー、またはプリントが次のページ数に達したときに機械は停止し、コピー、またはプリントができなくなります。

- ApeosPort-VI C7771/C5571、DocuCentre-VI C7771/C5571 の場合
  イエロー / マゼンタ / シアン：約 5,000 ページ
  ブラック：約 6,000 ページ
- ApeosPort-VI C6671/C4471、DocuCentre-VI C6671/C4471 の場合
  イエロー / マゼンタ / シアン / ブラック：約 5,000 ページ
- ApeosPort-VI C3371、DocuCentre-VI C3371 の場合
  イエロー / マゼンタ / シアン / ブラック：約 3,000 ページ
- ApeosPort-VI C2271、DocuCentre-VI C2271 の場合
  イエロー / マゼンタ / シアン：約 3,000 ページ
  ブラック：約 4,000 ページ

ドラムカートリッジを交換するときには、コピーやプリントに濃度ムラや色ムラが発生するのを防ぐため、正面カバーの裏側に付属している清掃棒を使用して、LEDプリントヘッド部を清掃してください。

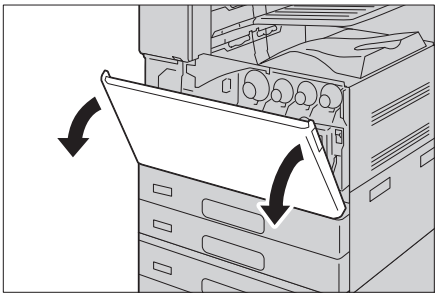
注記

- 弊社が推奨していないドラムカートリッジを使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨するドラムカートリッジをご使用ください。

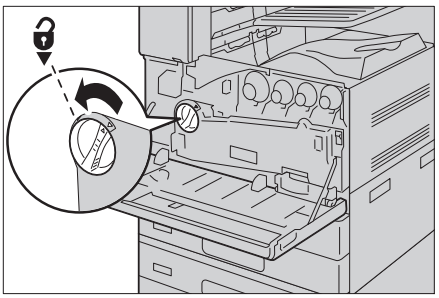
補足

- ドラムカートリッジを、直射日光や室内蛍光灯の強い光に当てないでください。また、ドラムの表面に触れたり、傷を付けたりしないでください。きれいなプリントができなくなることがあります。
- 使用可能ページ数は、A4（□）の用紙を使用した場合の枚数です。用紙のサイズや方向、連続プリント枚数、使用環境などによって異なりますので、あくまでも目安としてお考えください。
- 操作パネルのディスプレイに、「予備の ××× ドラム（RX）を用意してください。（保守を依頼）」が表示されたあとは、画像汚れが発生することがあります。
- 本機が節電状態になっている場合は、ドラムカートリッジを交換する前に操作パネルで〈節電〉ボタンを押し、〈機械確認〉ボタンを押して節電状態を解除してください。
- ドラムカートリッジを交換するときは、操作パネルが点灯している場合も〈機械確認〉ボタンを押して正確なドラムカートリッジの状態を確認してから、交換してください。

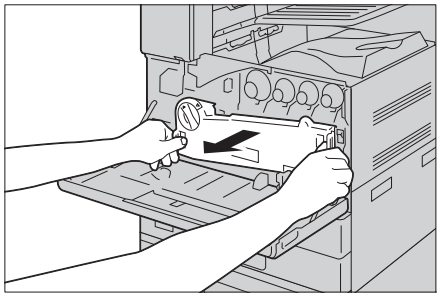
1 機械が停止していることを確認し、正面カバーを開けます。



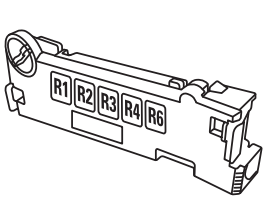
2 正面左側にあるハンドルを左側に回します。

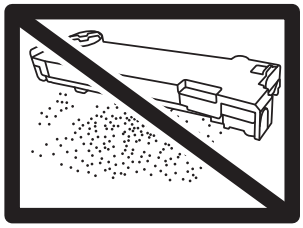


3 搬送ボックスの両端のつまみをつまんで、ボックスを外します。

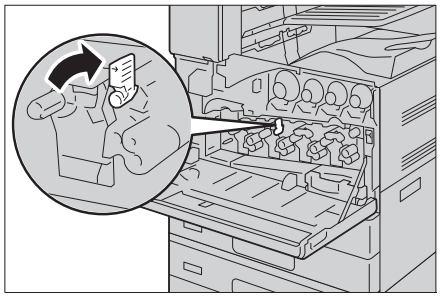


注記
- 外したボックスは立てた状態で平らな場所に置いてください。



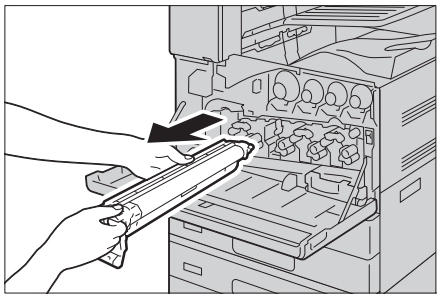


4 メッセージに表示されているドラムカートリッジ（R1、R2、R3、R4）のストッパーを右側に回します。



補足
- ここでは、R2 の場合を例に説明します。

5 ドラムカートリッジの下側を支えて、ドラムカートリッジを静かに引き抜きます。

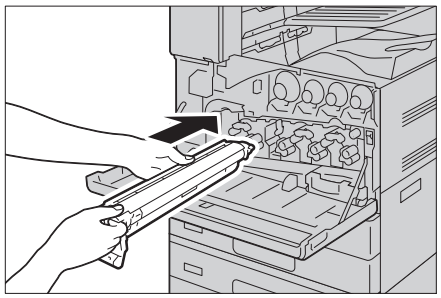


注記
- ドラムカートリッジを引き出すとき、床に落とさないように注意してください。
- ドラムカートリッジに付着したトナーに触れないように注意してください。

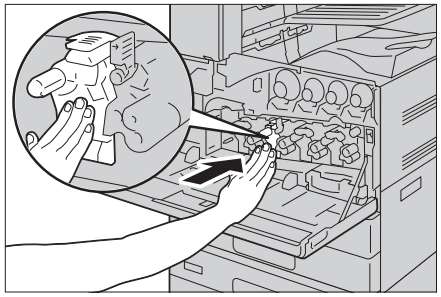
6 新しいドラムカートリッジを箱から取り出し、同梱されているポリ袋に使用済みドラムカートリッジを入れてその箱にしまいます。

注記
- 新しいドラムカートリッジを立てた状態で置かないでください。
- 使い終わった不要なドラムカートリッジは弊社にて回収いたしますので、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

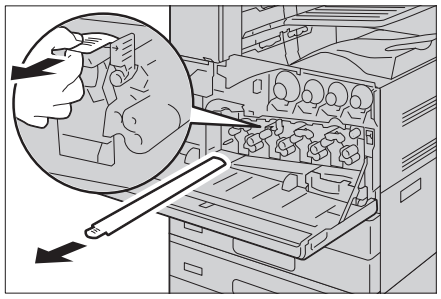
7 新しいドラムカートリッジ（保護カバー付き）を差し込みます。



8 ドラムカートリッジが奥に突き当たり、「カチッ」と音がするまで、まっすぐに押し込みます。

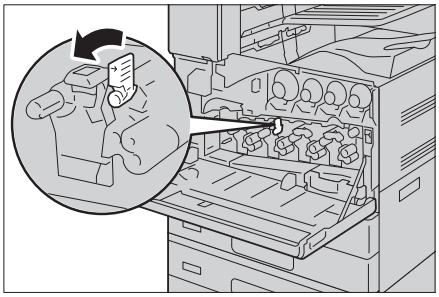


9 ドラムカートリッジの上部のオレンジ色のつまみを持って、保護カバーをゆっくり引き抜きます。



補足
- 保護カバーは、そのまま空箱に入れてください。

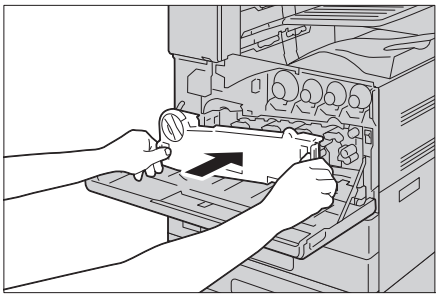
10 ストッパーを左側に回して、ロックします。



11 LED プリントヘッド部を清掃します。

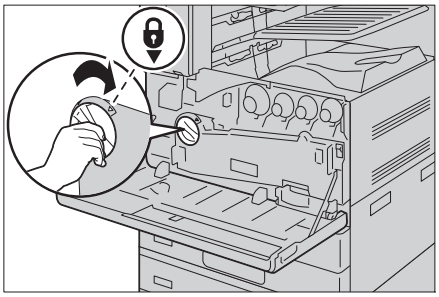
補足
- 清掃方法については、「本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃」(P.111) を参照してください。

12 搬送ボックスを元に戻します。



補足
- ボックス本体を押して、ボックスが確実に閉じるのを確認してください。

13 ハンドルを右側に回して、ロックします。



14 正面カバーを閉じます。

補足
- 正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

ホチキスカートリッジを交換する（フィニッシャー A2 装着時）

オプションのフィニッシャー A2 を装着している場合、ホチキスの針の残量によって、次のようなメッセージがディスプレイに表示されます。メッセージに従って、処置してください。

メッセージ	処置
ホチキスの針がもうすぐなくなります。ホチキスカートリッジを確認し、予備の針を用意してください。	ホチキス針の予備を用意してください。 **補足** • ホチキス針の交換はできません。
ホチキスカートリッジを確認し、ホチキスの針を補給するか、カートリッジをセットしなおしてください。	ホチキス針を交換してください。

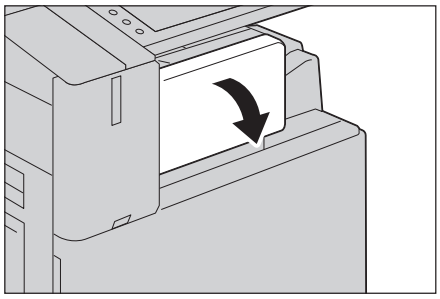
注記

- 弊社が推奨していないホチキス針を使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨するホチキス針をご使用ください。
- 本機が節電状態になっている場合は、ホチキスカートリッジを交換する前に操作パネルで〈節電〉ボタンを押して、節電状態を解除してください。
- ホチキスカートリッジを交換するときは、操作パネルが点灯している場合でも〈機械確認〉ボタンを押してホチキスカートリッジの状態を確認してから、交換してください。

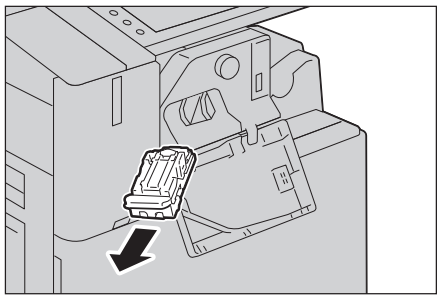
補足

- 交換がうまくいっていない場合、ディスプレイに交換を促すメッセージが表示されたままになります。その場合は、もう一度手順に従ってカートリッジをセットし直してください。
- ホチキスカートリッジを注文するときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店に連絡してください。

1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの正面カバーをゆっくりと開けます。



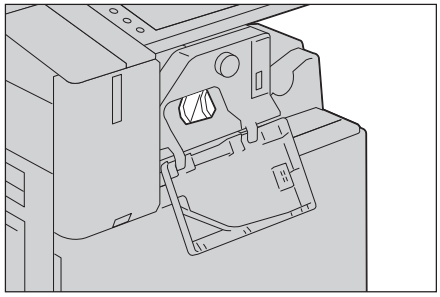
2 ホチキスカートリッジを取り出します。



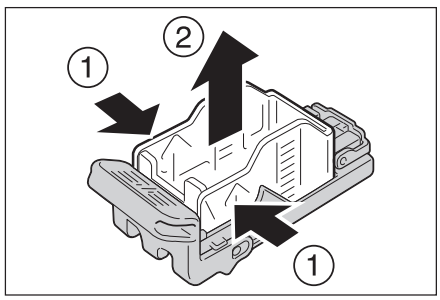
補足

- ホチキスカートリッジはしっかりセットされています。取り出すときは、強めにホチキスカートリッジを引いてください。

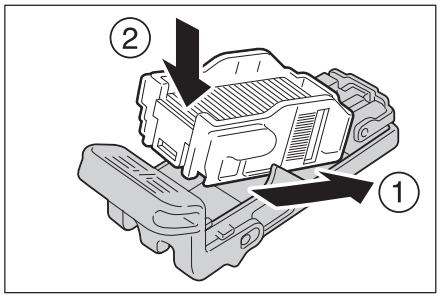
3 ホチキスカートリッジを取り出したあと、フィニッシャー内にホチキスが残っていないことを確認します。ホチキスがあったら取り除いてください。



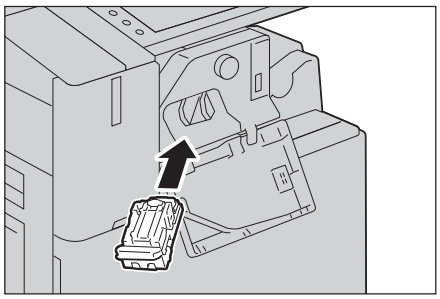
4 空になった針ケースの左右をつまみ（①）、カートリッジから取り出します（②）。



5 新しいホチキス針ケースを用意し、ホチキスカートリッジに新しいホチキス針ケースを先端から挿入し（①）、後方を押してセットします（②）。



6 「カチッ」と音がするまで、ホチキスカートリッジを押し込みます。



7 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

補足
- フィニッシャーの正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

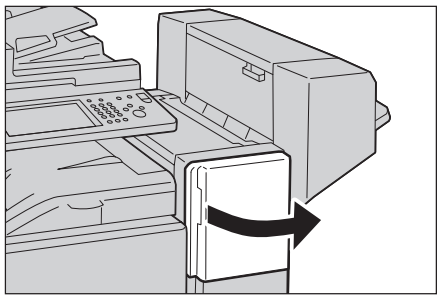
ホチキスカートリッジを交換する（フィニッシャー B1 装着時）

オプションのフィニッシャー B1 を装着している場合、ホチキスの針が無くなると、ディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら、新しいホチキスカートリッジと交換してください。

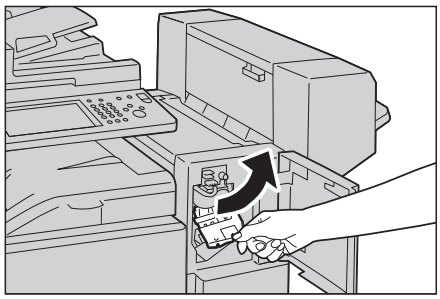
注記
- 弊社が推奨していないホチキス針を使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨するホチキス針をご使用ください。
- 本機が節電状態になっている場合は、ホチキスカートリッジを交換する前に操作パネルで〈節電〉ボタンを押して、節電状態を解除してください。
- ホチキスカートリッジを交換するときは、操作パネルが点灯している場合でも〈機械確認〉ボタンを押してホチキスカートリッジの状態を確認してから、交換してください。

補足
- ホチキスカートリッジを注文するときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店に連絡してください。

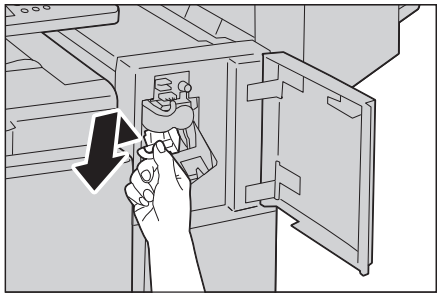
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの正面カバーを開けます。



2 ホチキスカートリッジホルダーのレバー「R1」を持って、ホチキスカートリッジホルダーを右端（手前）へ引き寄せます。



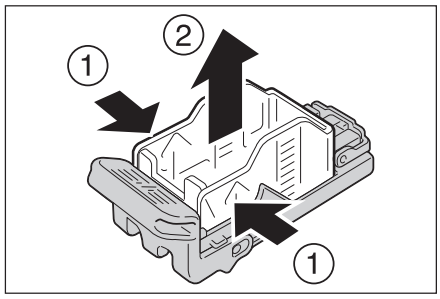
3 ホチキスカートリッジを取り出します。



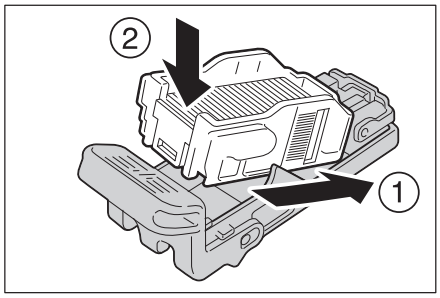
補足

- ホチキスカートリッジはしっかりセットされています。取り出すときは、強めにホチキスカートリッジを引いてください。

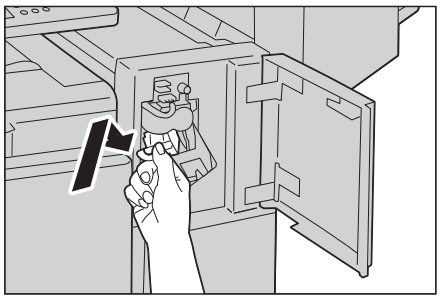
4 空になった針ケースの左右をつまみ（①）、カートリッジから取り出します（②）。



5 新しいホチキス針ケースを用意し、ホチキスカートリッジに新しいホチキス針ケースを先端から挿入し（①）、後方を押してセットします（②）。



6 「カチッ」と音がするまで、ホチキスカートリッジを押し込みます。



7 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

補足

- フィニッシャーの正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

平とじ用ホチキス針を交換する（フィニッシャー C3 、中とじフィニッシャー C3 装着時）

オプションのフィニッシャー C3、または中とじフィニッシャー C3 を装着している場合、ホチキス針の残量によって、次のようなメッセージがディスプレイに表示されます。メッセージに従って、処置してください。

メッセージ	処置
ホチキスの針がもうすぐなくなります。ホチキスカートリッジ［R1］を確認し、予備の針を用意してください。	ホチキス針の予備を用意してください。 **補足** • ホチキス針の交換はできません。
ホチキスカートリッジ［R1］を確認し、ホチキスの針を補給するか、カートリッジをセットしなおしてください。	ホチキス針を交換してください。

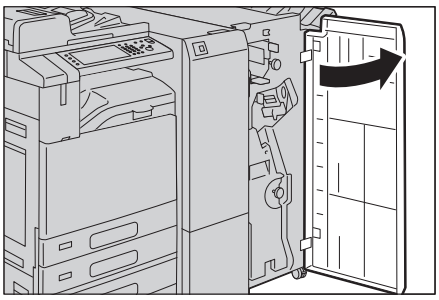
注記

- 弊社が推奨していないホチキス針を使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨するホチキス針をご使用ください。
- 本機が節電状態になっている場合は、ホチキスカートリッジを交換する前に操作パネルで〈節電〉ボタンを押し、〈機械確認〉ボタンを押して節電状態を解除してください。
- ホチキスカートリッジを交換するときは、操作パネルが点灯している場合も＜機械確認＞ボタンを押して正確なホチキスカートリッジの状態を確認してから、交換してください。

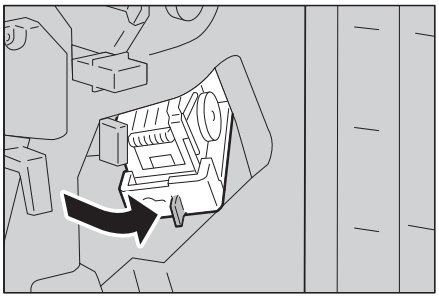
補足

- 交換がうまくいっていない場合、ディスプレイに交換を促すメッセージが表示されたままになります。その場合は、もう一度手順に従ってカートリッジをセットし直してください。
- フィニッシャーC3、および中とじフィニッシャーC3 には、50 枚ホチキスカートリッジ（50 枚ホチキス針付き）が標準装着されています。オプションのフィニッシャー C3 ステープルユニット 65 枚（65 枚ホチキスカートリッジ）を使用する場合は、50 枚ホチキスカートリッジを取り外してから装着してください。取り外したカートリッジは大切に保管してください。
- フィニッシャーC3 ステープルユニット 65 枚（オプション）に 50 枚ホチキス針を装着することはできません。65 枚ステープル専用のホチキス針を使用してください。
- ホチキス針を注文するときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店に連絡してください。

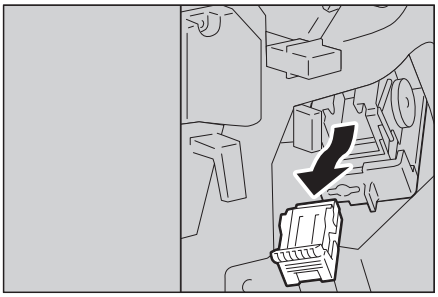
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの正面カバーを開けます。



2 ホチキスカートリッジホルダーのレバー［R1］を持って、ホチキスカートリッジホルダーを右端（手前）へ引き寄せます。

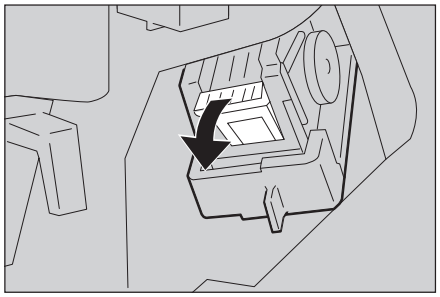


3 オレンジ色のレバーを持って、ホチキスカートリッジを取り出します。

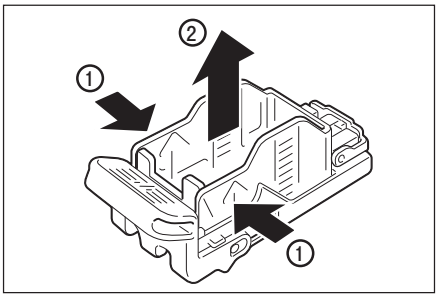


補足

- ホチキスカートリッジはしっかりセットされています。取り出すときは、強めにホチキスカートリッジを引いてください。
- 65 枚用ホチキスカートリッジを装着している場合は、オレンジ色のレバーを下方向に倒して、ホチキスカートリッジを引き出してください。



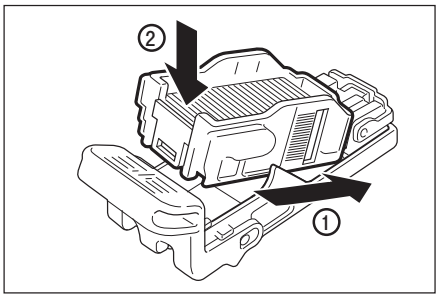
4 空になった針ケースの左右をつまみ（①）、カートリッジから取り出します（②）。



注記

- 針ケースにホチキス針が残っている場合は、針ケースを取り出すことはできません。無理に針ケースを取り出そうとすると故障の原因になります。

5 ホチキスカートリッジに新しい針ケースを挿入し（①）、後方を押してセットします（②）。



6 ホチキスカートリッジのオレンジ色のレバーを持って、元の位置に戻し、カチッと音がするまで押し込みます。



7 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

補足

- フィニッシャーの正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

中とじホチキスカートリッジを交換する（フィニッシャー B1 中とじユニット装着時）

フィニッシャー B1 中とじユニット（オプション）を装着している場合、ホチキスの針が無くなると、ディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら、新しいホチキスカートリッジと交換してください。

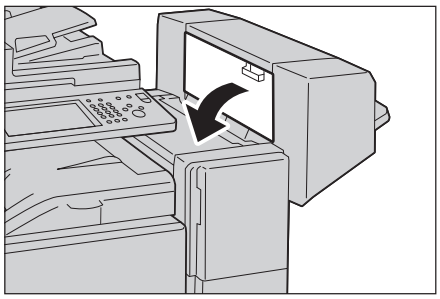
注記

- 弊社が推奨していない中とじホチキスカートリッジを使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨するホチキスカートリッジをご使用ください。
- 本機が節電状態になっている場合は、ホチキスカートリッジを交換する前に操作パネルで〈節電〉ボタンを押して、節電状態を解除してください。
- ホチキスカートリッジを交換するときは、操作パネルが点灯している場合でも＜機械確認＞ボタンを押してホチキスカートリッジの状態を確認してから、交換してください。

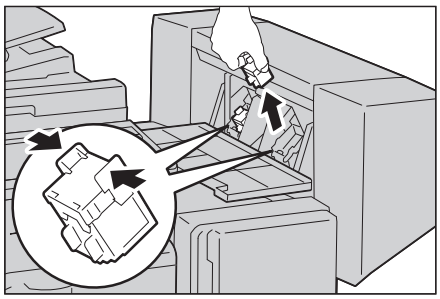
補足

- ホチキスカートリッジを注文するときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店に連絡してください。

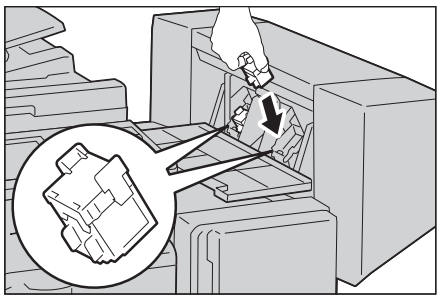
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの側面カバーを開けます。



2 中とじホチキスカートリッジの左右にあるツメを持ち、そのまま上に引きながら取り出します。



3 新しい中とじホチキスカートリッジの、左右にあるツメを持ちながら元の位置に戻し、上から軽く押して、「カチッ」と音がするのを確認します。



4 もう一方も同じように交換します。

5 フィニッシャーの側面カバーを閉じます。

補足

- フィニッシャーのカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

中とじ用ホチキス針を交換する（中とじフィニッシャー C3 装着時）

オプションの中とじフィニッシャー C3 を装着している場合、ホチキス針の残量によって、次のようなメッセージがディスプレイに表示されます。メッセージに従って、処置してください。

メッセージ*	処置
中とじ用のホチキス（手前側）の針がもうすぐなくなります。予備のホチキスカートリッジ［R2］を用意してください。	ホチキス針の予備を用意してください。 **補足** • ホチキス針の交換はできません。
中とじ用ホチキスカートリッジ［R2］（手前）を確認し、ホチキスカートリッジを交換するか、カートリッジをセットしなおしてください。	ホチキス針を交換してください。

*:上記のメッセージは、中とじ用ホチキスの手前側（R2）が対象の場合です。奥側の場合は、「手前」が「奥」、「R2」が「R3」と表示されます。

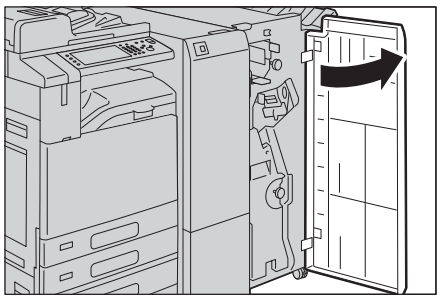
注記

- 弊社が推奨していないホチキスカートリッジを使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨するホチキスカートリッジをご使用ください。
- 本機が節電状態になっている場合は、ホチキスカートリッジを交換する前に操作パネルで〈節電〉ボタンを押して、節電状態を解除してください。
- ホチキスカートリッジを交換するときは、操作パネルが点灯している場合でも〈機械確認〉ボタンを押してホチキスカートリッジの状態を確認してから、交換してください。

補足

- 交換がうまくいっていない場合、ディスプレイに交換を促すメッセージが表示されたままになります。その場合は、もう一度手順に従ってカートリッジをセットし直してください。
- ホチキス針を注文するときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店に連絡してください。

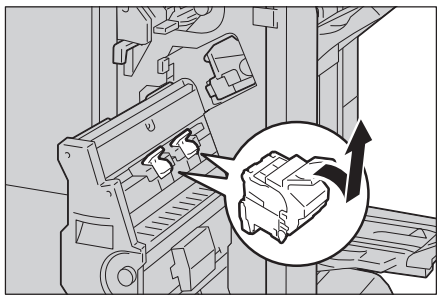
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの正面カバーを開けます。



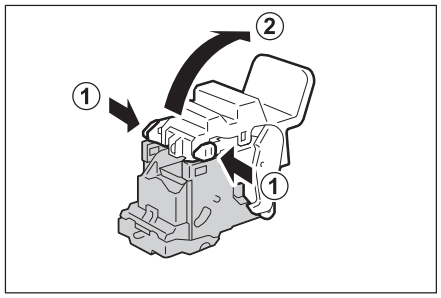
2 中とじユニットを引き出します。



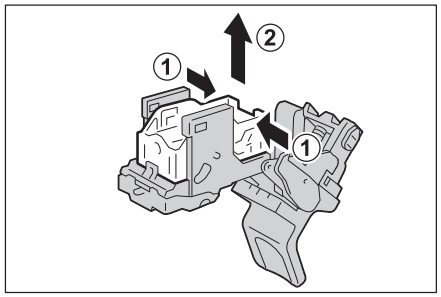
3 中とじホチキスカートリッジのレバーを持ち、下方向に倒してから、上に引いて取り出します。



4 中とじホチキスカートリッジの左右にあるオレンジ色のボタンを押して（①）、カバーを開きます（②）。



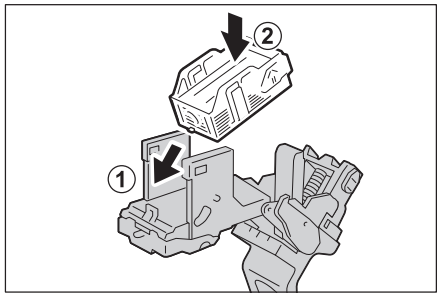
5 空になった針ケースの左右をつまみ（①）、カートリッジから取り出します（②）。



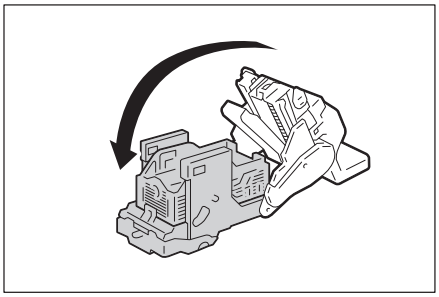
注記

- 針ケースにホチキス針が残っている場合は、針ケースを取り出すことはできません。無理に針ケースを取り出そうとすると故障の原因となります。

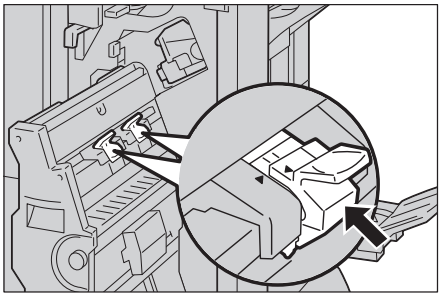
6 新しい針ケースを挿入し（①）、後方を押してセットします（②）。



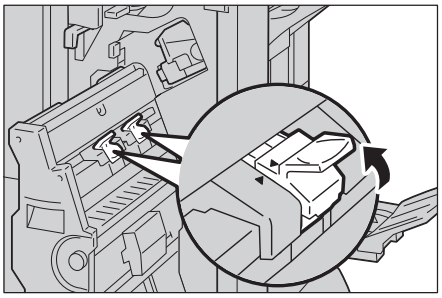
7 カバーを閉じます。



8 中とじホチキスカートリッジを元の位置に戻します。



9 軽く押し上げて、カチッと音がするのを確認します。



補足

- 中とじホチキスカートリッジの（▶）と中とじユニットの（◀）が合うように戻してください。

10 中とじユニットを元の位置に戻します。



11 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

補足
- フィニッシャーの正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

パンチダストボックスの切りくずを捨てる（フィニッシャー B1 装着時）

オプションのフィニッシャー B1 を装着している場合、パンチダストボックスの切りくずがいっぱいになると、ディスプレイにはメッセージが表示されます。表示されているメッセージに従って、切りくずを捨ててください。

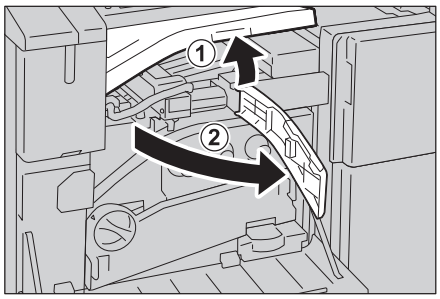
パンチダストボックスを引き抜いたときは、必ず切りくずが残らないように捨ててください。切りくずが残っていると、次の交換メッセージが表示される前に切りくずがいっぱいになり、機械の故障の原因になります。

注記
- パンチダストボックスの切りくずを捨てるときは、本機の電源を入れたままの状態にしておいてください。電源を切ると、切りくずを捨てたことを本機が認識できません。
- 本機が節電状態になっている場合は、パンチダストボックスの切りくずを捨てる前に操作パネルで〈節電〉ボタンを押して、節電状態を解除してください。
- パンチダストボックスの切りくずを捨てるときは、操作パネルが点灯している場合でも〈機械確認〉ボタンを押してパンチダストボックスの状態を確認してから、切りくずを捨ててください。

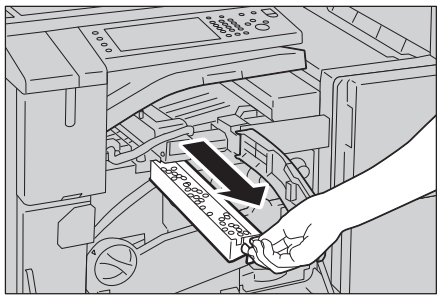
1 機械が停止していることを確認し、正面カバーを開けます。



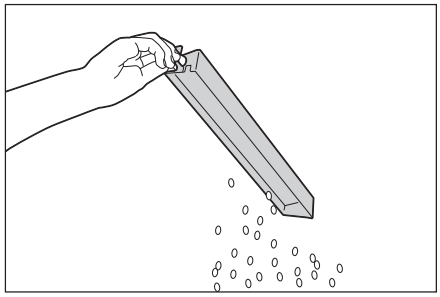
2 フィニッシャー接続部上面カバーを上に持ち上げてから、フィニッシャー接続部前面カバーを前に開けます。



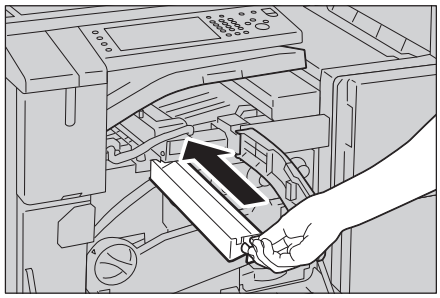
3 パンチダストボックスを手前へ引き抜きます。



4 切りくずを、すべて捨てます。



5 空になったパンチダストボックスを、奥まで差し込みます。



6 フィニッシャー接続部前面カバーを閉じてから、フィニッシャー接続部上面カバーを閉じます。

補足
- フィニッシャーのカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

7 正面カバーを閉じます。

補足
- 正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

パンチダストボックスのパンチくずを捨てる（フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 装着時）

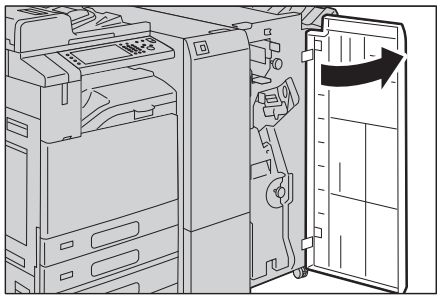
オプションのフィニッシャー C3、または中とじフィニッシャー C3 を装着している場合、パンチダストボックスのパンチくずがいっぱいになると、ディスプレイには

メッセージが表示されます。表示されているメッセージに従って、パンチくずを捨ててください。

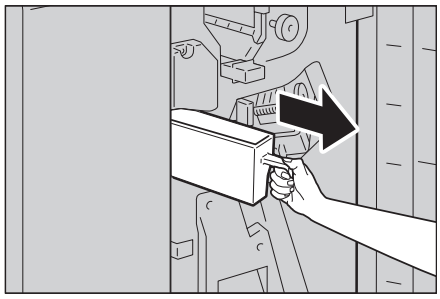
注記

- パンチダストボックスのパンチくずを捨てるときは、本機の電源を入れたままの状態にしておいてください。電源を切ると、パンチくずを捨てたことを本機が認識できません。
- パンチダストボックスのパンチくずは、メッセージが表示されてから捨ててください。メッセージが表示される前に捨てると、正確なパンチくずの量を本機が認識できなくなります。
- パンチダストボックスのパンチくずは、必ずパンチくずが残らないように捨ててください。パンチくずが残っていると、メッセージが表示される前にパンチくずがいっぱいになり、機械の故障の原因になります。
- 本機が節電状態になっている場合は、パンチダストボックスのパンチくずを捨てる前に操作パネルで〈節電〉ボタンを押し、〈機械確認〉ボタンを押して節電状態を解除してください。
- パンチダストボックスのパンチくずを捨てるときは、操作パネルが点灯している場合も〈機械確認〉ボタンを押して正確なパンチダストボックスの状態を確認してから、パンチくずを捨ててください。

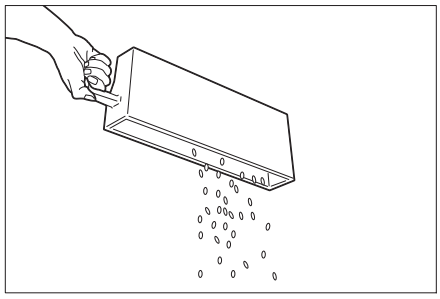
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの正面カバーを開けます。



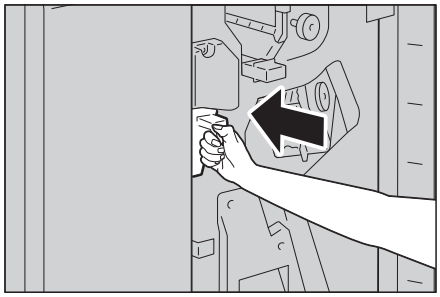
2 パンチダストボックス［R4］を手前へ引き抜きます。



3 切りくずを、すべて捨てます。



4 空になったパンチダストボックスを、奥まで差し込みます。



5 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

補足
- フィニッシャーの正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

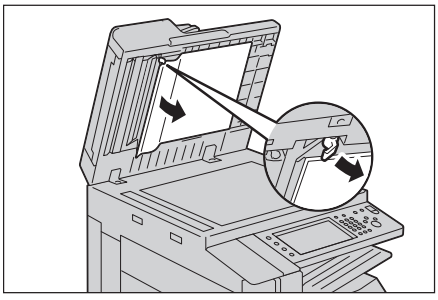
スタンプを交換する（自動両面原稿送り装置 B1-PC の場合）

ファクス機能が使用できる場合で、通過スタンプキット 2（オプション）を使用しているときに、スタンプの写りが悪くなったら、スタンプインク（印体）を交換してください。

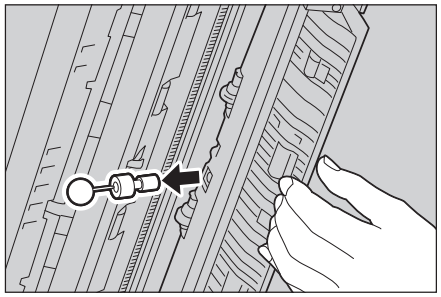
注記
- スタンプ面には直接手を触れないでください。手などに付着した場合はすみやかに洗ってください。
- 弊社以外の消耗品を使用して発生したトラブルについては、保守サービス契約外の扱いになります。
- 消耗品を使用するときは、消耗品の箱や容器に記載された取り扱い上の注意をよく読んでから使用してください。

補足
- 消耗品は予備を置くことをお勧めします。
- 消耗品は、弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店にご注文ください。
  （商品名：スタンプ交換キット、商品コード：F451）

1 原稿送り装置を静かに持ち上げて、原稿の裏面読み取り部を開きます。

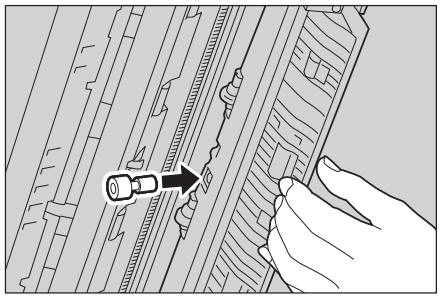


2 薄くなったスタンプの印体に、スタンプキットに同梱のピンを突き刺して抜き取ります。

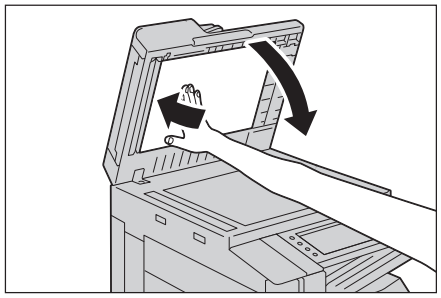


補足
- 印体のスポンジ部分だけ抜き取った場合は、印体の下部分も抜き取ってください。

3 新しいスタンプインク（印体）を差し込みます。



4 原稿の裏面読み取り部を閉じてから、原稿送り装置を静かに閉じます。



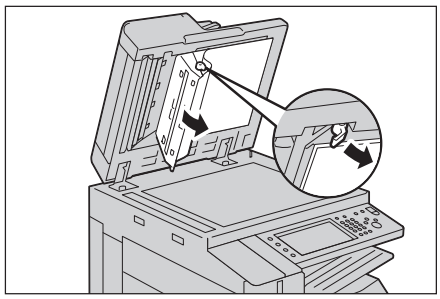
スタンプを交換する（自動両面原稿送り装置 C1-PC の場合）

ファクス機能が使用できる場合で、通過スタンプキット 3（オプション）を使用しているときに、スタンプの写りが悪くなったら、スタンプインク（印体）を交換してください。

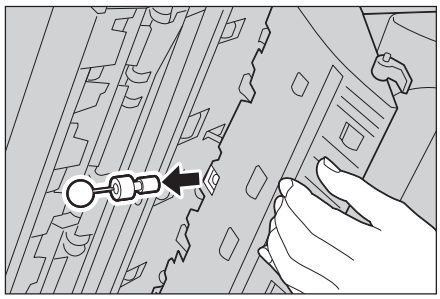
注記
- スタンプ面には直接手を触れないでください。手などに付着した場合はすみやかに洗ってください。
- 弊社以外の消耗品を使用して発生したトラブルについては、保守サービス契約外の扱いになります。
- 消耗品を使用するときは、消耗品の箱や容器に記載された取り扱い上の注意をよく読んでから使用してください。

補足
- 消耗品は予備を置くことをお勧めします。
- 消耗品は、弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店にご注文ください。
  （商品名：スタンプ交換キット、商品コード：F451）

1 原稿送り装置を静かに持ち上げて、原稿の裏面読み取り部を開きます。



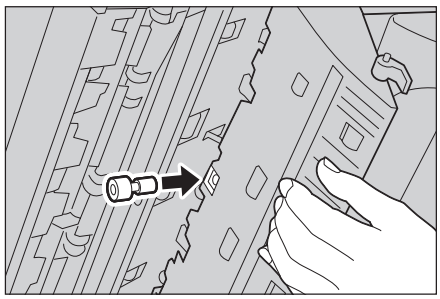
2 薄くなったスタンプの印体に、スタンプキットに同梱のピンを突き刺して抜き取ります。



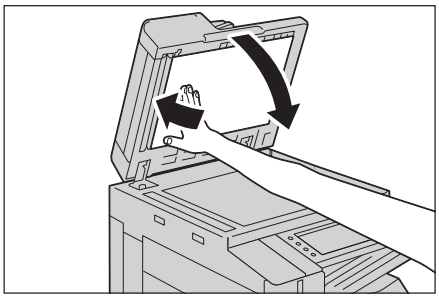
補足

- 印体のスポンジ部分だけ抜き取った場合は、印体の下部分も抜き取ってください。

3 新しいスタンプインク（印体）を差し込みます。



4 原稿の裏面読み取り部を閉じてから、原稿送り装置を静かに閉じます。



本体を清掃する

ここでは、本体外部、原稿カバー、原稿送り装置、原稿ガラスなどの清掃方法を説明します。

> ⚠警告
>
> 機械の性能の劣化を防ぎ安全を確保するため、清掃には指定されたものをご使用ください。スプレータイプのクリーナーは、引火や爆発の危険がありますので、絶対に使用しないでください。

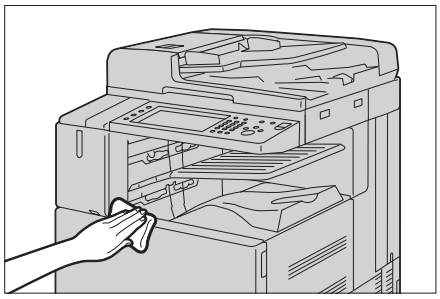
> ⚠注意
>
> - 機械の清掃を行う場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源スイッチを切らずに機械の清掃を行うと、感電の原因となるおそれがあります。
> - （ApeosPort-VI C7771/C6671、DocuCentre-VI C7771/C6671 のみ）
> 本機は 2 本の電源コードを使用しています。本機の電源供給を完全に停止するためには、すべての電源コードを抜く必要があります。

本体外部の清掃

本体外部の清掃について説明します。

注記
- ベンジン、シンナーなどの揮発性のものを使用したり、殺虫剤をかけたりすると、カバー類の変色、変形、ひび割れの原因になります。
- 本機を水でぬらしすぎると、機械が故障したりコピーするときに原稿が破れたりするおそれがあるので注意してください。

1 水でぬらして固く絞った柔らかい布で、本体の外側をふきます。



注記
- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。

補足
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽くふいてください。

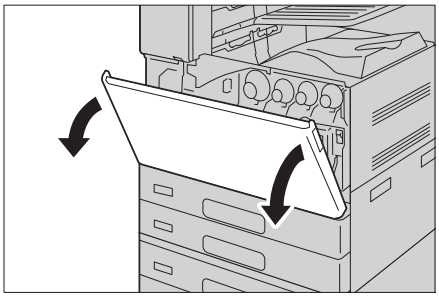
2 柔らかい布で、水分をふき取ります。

本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃

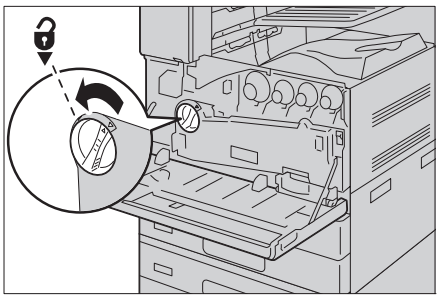
本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃について説明します。

LED プリントヘッド部の清掃は、通常、ドラムカートリッジの交換時、およびトナー回収ボックスの交換時に行います。ただし、コピーやプリントに白筋や色筋がでるなど画質に影響がある場合は、LED プリントヘッド部を清掃してください。

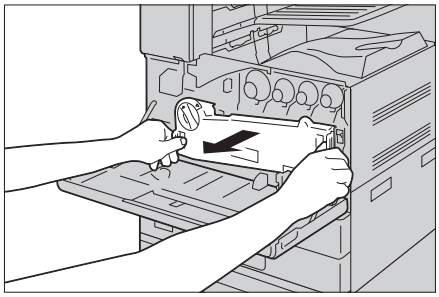
1 機械が停止していることを確認し、正面カバーを開けます。



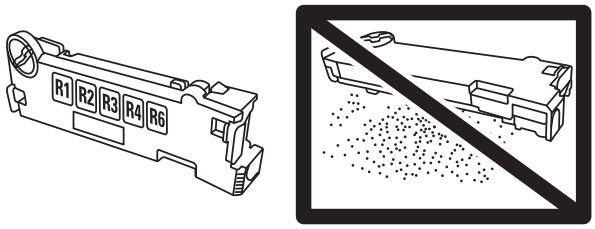
2 正面左側にあるハンドルを左側に回します。



3 搬送ボックスの両端のつまみをつまんで、ボックスを外します。

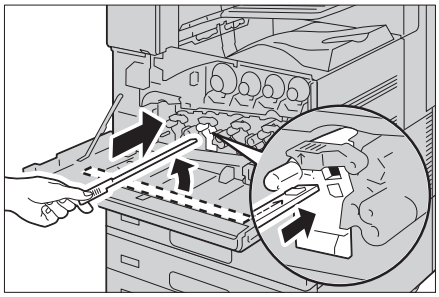


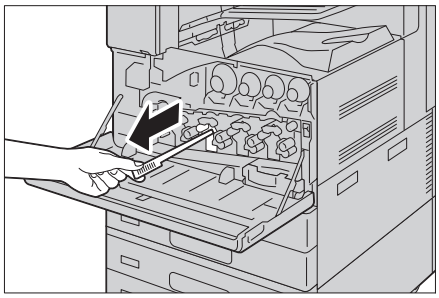
注記
- 外したボックスは立てた状態で平らな場所に置いてください。



4 正面カバーの裏側に付属している清掃棒を取り出し、LED プリントヘッド部内をそれぞれ清掃します。

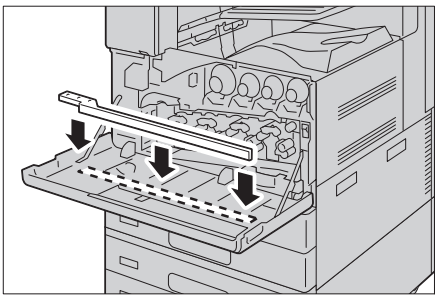
清掃棒の矢印（↑）部を上に向けて、奥に突き当たるまで差し込み、ゆっくりと引き抜きます。



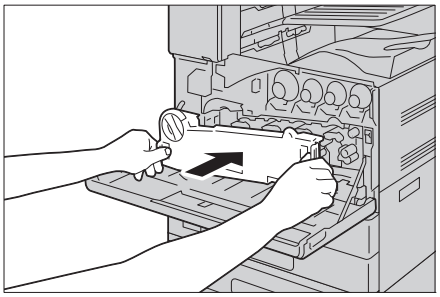


補足
- 4 か所（R1 ～ R4）を、すべて往復 2 ～ 3 回ずつ清掃してください。

5 清掃棒を正面カバーの裏側にある元の場所に戻します。



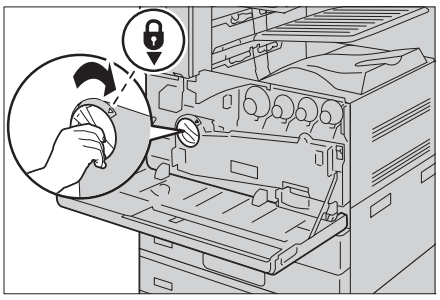
6 搬送ボックスを元に戻します。



補足

- ボックス本体を押して、ボックスが確実に閉じるのを確認してください。

7 ハンドルを右側に回して、ロックします。



8 正面カバーを閉じます。

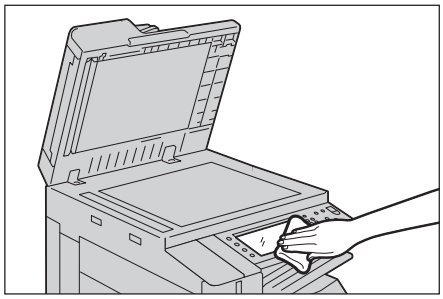
補足

- 正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

タッチパネルの清掃

タッチパネルの清掃について説明します。

1 中性洗剤またはアルコールを染み込ませた柔らかい布で、液晶部だけを軽く拭きます。



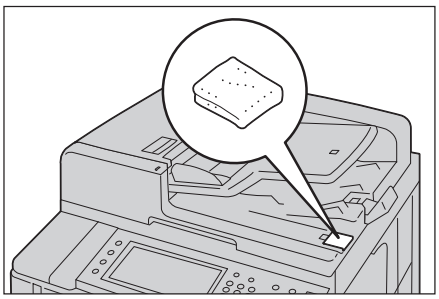
注記

- 中性洗剤または、アルコールを布に染み込ませる量は、液垂れしない程度にしてください。染み込ませる量が多すぎた場合は軽く絞ってから拭いてください。
- ベンジン、シンナーなどの揮発性のものを使用したり、殺虫剤をかけたりすると、カバー類の変色、変形、ひび割れの原因になります。
- パネル部分を強い力でふくと損傷のおそれがあります。軽くふいてください。

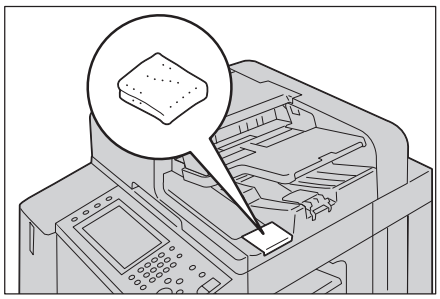
原稿カバー、原稿ガラスの清掃

原稿カバー、原稿ガラスが汚れていると、コピー、ファクス、スキャン文書に汚れが出たり、原稿サイズを正しく検知しないことがあります。

いつもきれいなコピーなどをするために、1 か月に 1 回をめどに、付属の布を使って清掃してください。布は、図の位置に入っています。



自動両面原稿送り装置 B1-PC

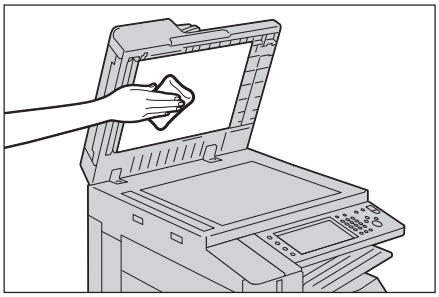


自動両面原稿送り装置 C1-PC

注記

- ベンジンやシンナーなどの薬品類は使用しないでください。プラスチック製品の塗装、コーティングなどを傷めることがあります。
- 本機を水でぬらしすぎると、機械が故障したりコピー、ファクス、スキャンするときに原稿が破れたりするおそれがあるので注意してください。

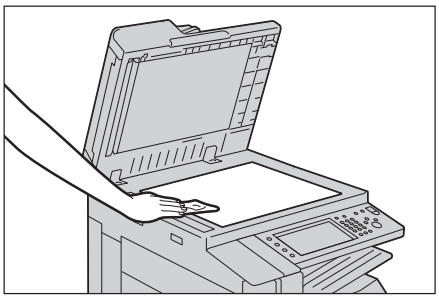
1 付属の布で、原稿カバーの汚れをふき取ります。



注記
- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。

補足
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽くふいてください。

2 付属の布で、原稿ガラスの汚れをふき取ります。



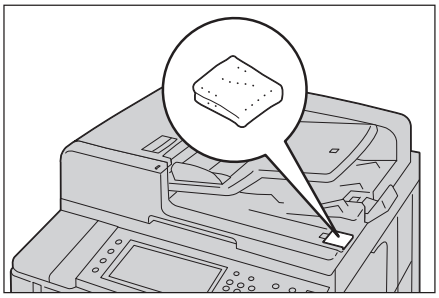
注記
- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。

補足
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽くふいてください。

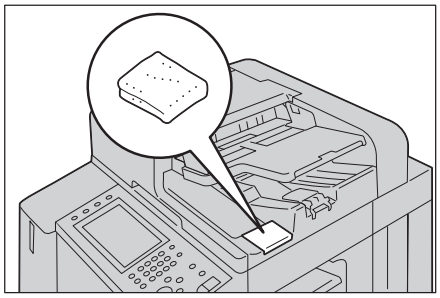
フィルム、原稿読み取りガラスの清掃

原稿送り装置のフィルム、原稿読み取りガラスが汚れていると、コピー、ファクス、スキャン文書に汚れが付着したり、原稿サイズを正しく検知しなかったりすることがあります。

いつもきれいなコピーなどをするために、1 か月に 1 回をめどに、付属の布を使って清掃してください。布は、図の位置に入っています。



自動両面原稿送り装置 B1-PC

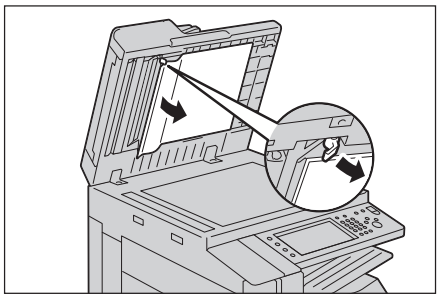


自動両面原稿送り装置 C1-PC

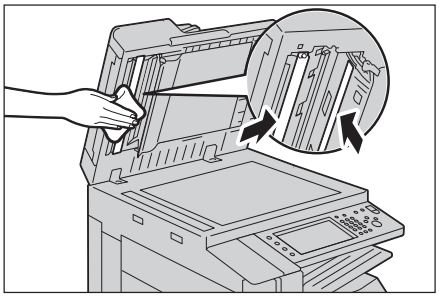
注記

- ベンジンやシンナーなどの薬品類は使用しないでください。プラスチック製品の塗装、コーティングなどを傷めることがあります。
- 本機を水でぬらしすぎると、機械が故障したりコピー、ファクス、スキャンするときに原稿が破れたりするおそれがあるので注意してください。

1 レバーをつまんで、原稿の裏面読み取り部を開けます。



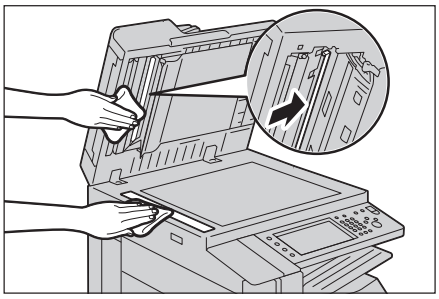
2 付属の布で、フィルムの汚れをふき取ります。



注記
- フィルムは破損しやすいので、強く押しすぎないでください。
- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。

補足
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽くふいてください。

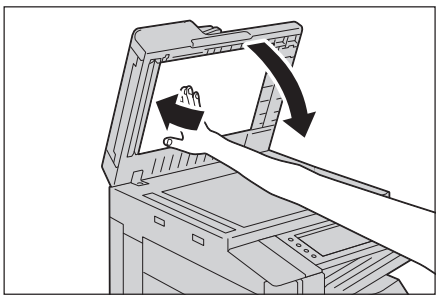
3 付属の布で、原稿読み取りガラスと裏面読み取りガラスの汚れをふき取ります。



注記
- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。

補足
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽くふいてください。

4 原稿の裏面読み取り部を閉じてから、原稿送り装置を静かに閉じます。



原稿送り装置のローラー部の清掃

原稿送り装置のローラーが汚れていると、コピー、ファクス、スキャン文書に汚れが出たり、原稿づまりの原因になることがあります。

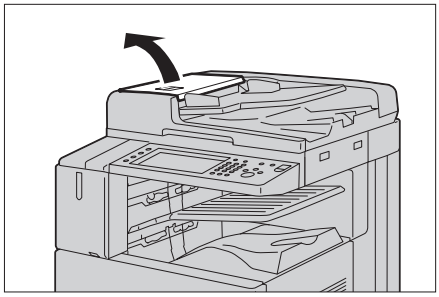
いつもきれいなコピーなどをするために、1 か月に 1 回をめどに清掃してください。

注記

- ベンジンやシンナーなどの薬品類は使用しないでください。プラスチック製品の塗装、コーティングなどを傷めることがあります。
- 本機を水でぬらしすぎると、機械が故障したりコピー、ファクス、スキャンやプリントするときに原稿が破れたりするおそれがあるので注意してください。

自動両面原稿送り装置 B1-PC の場合

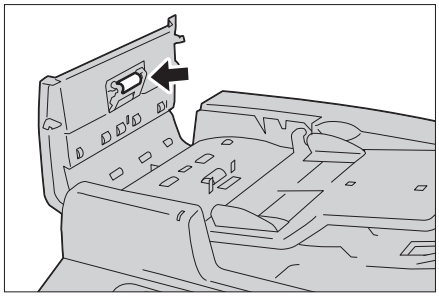
1 原稿送り装置の左側カバー手前の取っ手を引き上げて、左側カバーを止まるところまで開けます。



補足

- カバーを十分に開くと、固定される位置があります。カバーは、ゆっくりと開けてください。

2 ローラーを回しながら、少し水で湿らせた柔らかい布で清掃します。



注記

- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。
- 布は水滴が落ちない程度に固く絞ってご使用ください。内部に水滴が落ちると、誤動作を起こす場合があります。

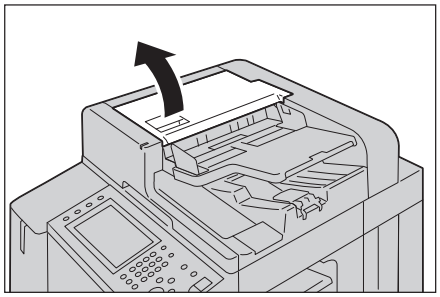
補足

- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽くふいてください。

3 原稿送り装置の左側カバーを「カチッ」と音がするまで閉じ、カバーの手前や奥に浮きが無いことを確認します。

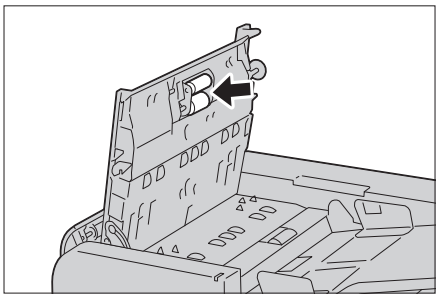
自動両面原稿送り装置 C1-PC の場合

1 原稿送り装置の上面カバー手前の取っ手を引き上げて、上面カバーを止まるところまで開けます。



補足
- カバーを十分に開くと、固定される位置があります。カバーは、ゆっくりと開けてください。

2 ローラーを回しながら、少し水で湿らせた柔らかい布で清掃します。



注記
- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。
- 布は水滴が落ちない程度に固く絞ってご使用ください。内部に水滴が落ちると、誤動作を起こす場合があります。

補足
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽くふいてください。

3 原稿送り装置の上面カバーを「カチッ」と音がするまで閉じ、カバーの手前や奥に浮きが無いことを確認します。

4 左カバーを「カチッ」と音がするまで閉じます。

自動階調補正を行う

コピーやプリントの濃度や色味の再現性が悪くなった場合に、階調補正チャートを使用して階調を自動補正します。階調は、本機にあらかじめ設定されたスクリーンタイプごとに補正できます。

スクリーンには、次の 4 種類のタイプがあります。

補足

- 4 種類のスクリーンタイプをすべて実行することをお勧めします。ひとつのスクリーンタイプの補正が終了したら、次のスクリーンタイプを指定して、手順を繰り返してください。
- 自動階調補正を定期的に実行しても色階調が補正されない場合、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。
- 自動階調補正実行前に、機械管理者モードの［仕様設定］>［コピー設定］>［コピー機能設定初期値］が次の設定になっていることを確認ください。
  - コピー濃度 = ふつう
  - コントラスト = ふつう
  - シャープネス = ふつう
  - 彩度 = ふつう
  - カラーバランス = 0、0、0
  - 色合い = ふつう
- 自動階調補正が終了したら、必要に応じて［コピー機能設定初期値］を再設定してください。再設定は、「コピー機能設定初期値」(P.230) を参照してください。

■［コピー用スクリーン 1］

［原稿の画質］の、［文字］、［文字 / 写真］または［地図］に使用されるスクリーンの階調を補正します。

■［コピー用スクリーン 2］

［原稿の画質］の、［写真］に使用されるスクリーンの階調を補正します。

■［プリンター用スクリーン 1］

ART EX プリンタードライバーの場合

- ［グラフィックス］タブ内で設定される機能（［印刷モード］、［ 画質調整モード］、［おすすめ画質タイプ］）のすべてに使用されるスクリーンの階調を補正します。
- ［詳細設定］タブ内の［スクリーン］で［自動］、［精細度優先］、［標準］を選択した際に使用されるスクリーンの階調を補正します。

PostScript プリンタードライバーの場合

- ［カラー］タブ内の印刷モード（［高画質］、［高精細（文字 / 線）］）、およびスクリーン（［自動］、［精細度優先］、［標準］）の組み合わせ時に使用されるスクリーンの階調を補正します。
- ［カラー］タブ内の印刷モード（［高速］）、およびスクリーン（［精細度優先］、［標準］）の組み合わせ時に使用されるスクリーンの階調を補正します。

■［プリンター用スクリーン 2］

ART EX プリンタードライバーの場合

- ［詳細設定］タブ内の［スクリーン］で［階調優先］を選択した際に使用されるスクリーンの階調を補正します。（印刷モードで［高精細（文字 / 線）］を選択時は例外です）

- ［詳細設定］タブ内で［ページ印刷モード］、または［バーコードモード］を選択した際に使用されるスクリーンの階調を補正します。(印刷モードで［高精細（文字 / 線)］を選択時は例外です)

PostScript プリンタードライバーの場合

- ［カラー］タブ内の印刷モード（[高速]）、およびスクリーン（[自動]、[階調優先]）の組み合わせ時に使用されるスクリーンの階調を補正します。
- ［カラー］タブ内の印刷モード（[高画質]、[高精細（文字 / 線)]）、およびスクリーン（[階調優先]）の組み合わせ時に使用されるスクリーンの階調を補正します。

以下に、自動階調補正をする方法について説明します。

1 メニュー画面の［自動階調補正］を押します。



補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

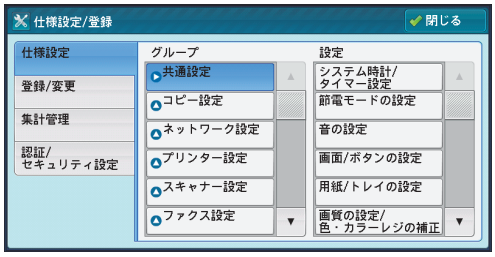
メニュー画面に［自動階調補正］が表示されていない場合は、以下の手順に従います。

1)〈認証〉ボタンを押します。

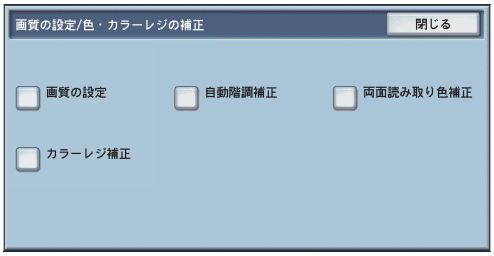
2)〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

4)［仕様設定］>［共通設定］>［画質の設定 / 色・カラーレジの補正］を押します。



5)［自動階調補正］を押します。



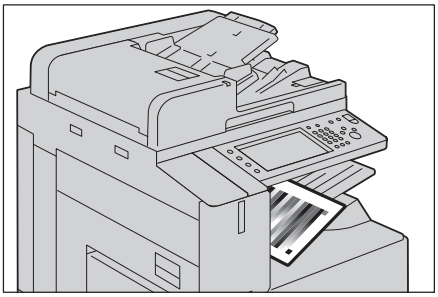
2 ［スクリーン種別］、［用紙選択］を選択します。



補足

- ここでは［コピー用スクリーン 2］を例にします。
- 用紙トレイには、用紙色が白で A4□、A3□、8.5 × 11”□、11 × 17”□のどれかの用紙がセットされたトレイを選択してください。
- 適用範囲には、［コピー / プリンター］、［コピーのみ］、［プリンターのみ］、［適用しない］から選択できます。［適用範囲］が ［コピー / プリンター］以外に設定されている場合、［適用範囲］に該当しないモードに 対しては自動階調補正が有効になりません。

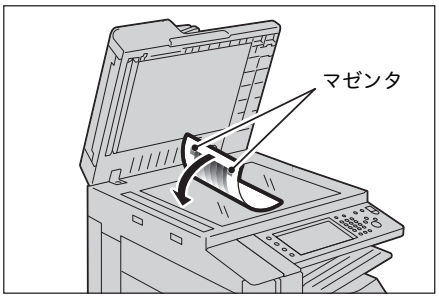
3 ［実　行］を押します。



補足

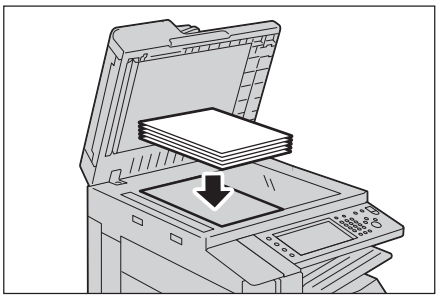
- 「階調補正チャートを出力しています。［コピー用スクリーン 2］」というメッセージが表示され、階調補正用の原稿（階調補正チャート）がプリントされます。

4 プリントした階調補正チャートのマゼンタ色のパッチ（階調補正チャートの上下にプリントされている四角形のことを表します）が原稿ガラスの左側になるようにセットします。



補足
- ［階調補正チャート］は、原稿ガラスにセットしてください。

5 セットした階調補正チャートの上に、白紙を 5 枚以上重ねて、原稿カバーを閉じます。



6 ［実　行］を押します。

「階調補正を実行しています。［コピー用スクリーン 2］」というメッセージが表示され、機械が自動的に階調を補正します。補正の実行には、10 秒程度かかります。

結果を表示する画面が表示されます。

7 ［確認］を押します。

8 ほかのスクリーンタイプの階調を補正する場合は、操作手順 3 ～ 8 を繰り返します。

9 メニュー画面に戻るまで、［閉じる］を押します。

補足
- ［仕様設定］以降または［登録 / 変更］以降の機能を設定した後で、〈メニュー〉ボタンを押すと 1 回でメニュー画面に戻ります。

10 コピーまたはプリントをして、画質を確認します。

補足
- 自動階調補正の実行中は、プリントジョブの受信やファクス受信はできません。

両面読み取り色補正を行う

自動両面原稿読み取り装置の表と裏の読み取り色を補正します。

注記

- 本機で適切な出力結果を得られるよう、事前に自動階調補正を行ってください。

参照

- 自動階調補正については、「自動階調補正を行う」(P.120) を参照してください。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

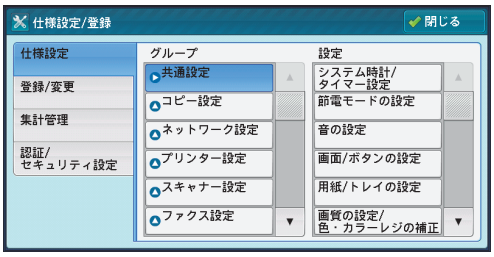
3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。



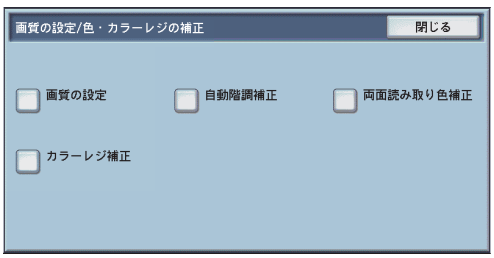
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

4 ［仕様設定］>［共通設定］>［画質の設定 / 色・カラーレジの補正］を押します。



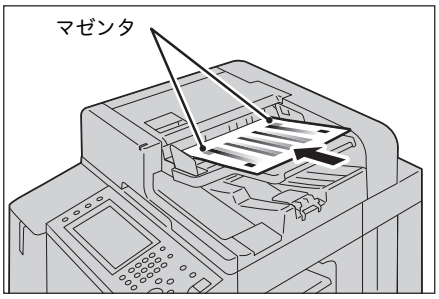
5 ［両面読み取り色補正］を押します。



6 ［用紙選択］を押して、用紙トレイを設定し、［チャート出力して補正］を選択して、［実行］を押します。

補足
- ［前回の設定に戻す］を選択して［実　行］を押すと、前回の設定に戻ります。工場出荷時の設定に戻したい場合は、［工場出荷時の設定に戻す］を選択して［実　行］を押します。どちらの場合も、終了時にタッチパネルディスプレイにメッセージが表示されます。
- 「両面読み取り色補正チャートを出力しています。」というメッセージが表示され、階調補正用の原稿（両面読み取り色補正チャート）がプリントされます。

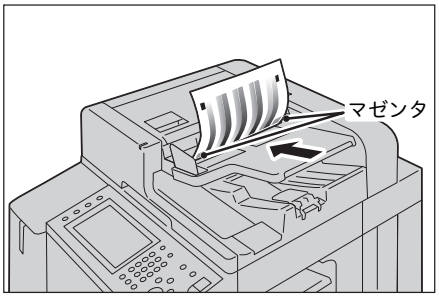
7 プリントした両面読み取り色補正チャートの印刷面を上にし、マゼンタ色のパッチ（両面読み取り色補正チャートの上下にプリントされている四角形のことを表します）が左側になるようにして自動両面原稿送り装置にセットします。



8 ［実　行］を押します。

補足
- 「チャートを読み込んでいます。」というメッセージが表示されます。

9 両面読み取り色補正チャートの印刷面を下に（マゼンタ色のパッチが左側になるように）して、自動両面原稿送り装置にセットします。



10 ［実　行］を押します。

「チャートの読み込みと、色補正を実行しています。」というメッセージが表示されます。機械が自動的に色を補正します。結果を表示する画面が表示されます。

補足
- 両面読み取り色補正チャートの読み込みに失敗した場合はメッセージが表示されます。［確認］を押して操作をやり直してください。

11 ［確認］を押します。

12 メニュー画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

補足
- ［仕様設定］以降または［登録 / 変更］以降の機能を設定した後で、〈メニュー〉ボタンを押すと 1 回でメニュー画面に戻ります。

13 コピーまたはスキャンをして、画質を確認します。

補足

- 両面読み取り色調補正の実行中は、プリントジョブの受信やファクス受信はできません。

レポート / リストをプリントする

レポート / リストをプリントして、設定内容や通信状況を確認できます。
ここでは、レポート / リストをプリントする方法について説明します。

補足

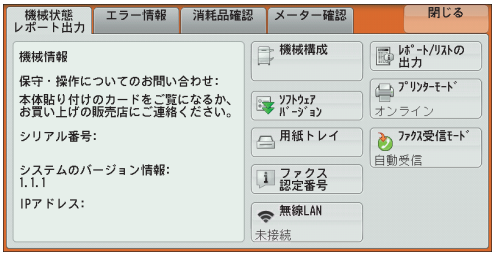
- 〈データ〉ランプが点灯していないときは、［蓄積文書リスト］はプリントできません。

参照

- レポート / リストの種類は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

1 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

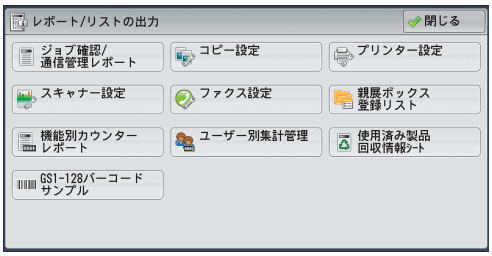
2 ［レポート / リストの出力］を押します。



補足

- ［レポート / リストの出力］は、［レポート設定］の［レポート出力ボタンの表示］を［しない］に設定している場合は、メニュー画面に［仕様設定 / 登録］が表示されているときに表示されます。レポート設定については、「レポート設定」(P.191) を参照してください。
- ［課金データリスト］、および［ファクス集計管理レポート］をプリントするときは、操作前にカードをセットしてください。

3 プリントするレポート / リストを選択して、〈スタート〉ボタンを押します。



補足

- 表示される項目は、搭載している機能によって異なります。

誤った User ID を付けたプライベートプリントのジョブを削除する

プライベートプリント機能を使用している場合は、誤った User ID を付けてプリント指示した文書もすべて、プライベートプリントに保存されます。機械管理者は、手動で削除するか、保存期間を設定して保存期間を過ぎたジョブが自動的に削除されるように設定してください。

ここでは、誤った User ID を付けて保存されたプリント文書を削除する方法を説明します。

参照

- プライベートプリントについては、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ジョブ確認」>「保存文書をプリント / 削除する」、および『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コンピューターからの操作」>「プリント」を参照してください。
- プリント文書の保存期間を設定する方法は、「保存文書設定」(P.320) を参照してください。

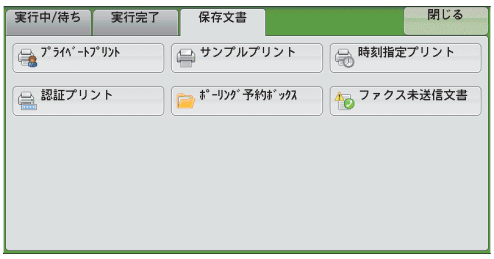
1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 〈ジョブ確認〉ボタンを押します。

4 ［保存文書］タブを押します。



5 ［プライベートプリント］を押します。

6 削除する User ID を選択して、［文書確認 / プリント］を押します。

7 文書を選択して、［削除］を押します。

設定復元ツール

設定復元ツールとは、本機のハードディスクの故障によるデータ消失に備えて、ネットワークで接続されたコンピューターに、設定データなどをバックアップする機能です。

ハードディスクの交換後に、データを復元することを目的としています。

設定復元ツールは、弊社公式サイトからダウンロードしてください。URL は次のとおりです。

http://www.fujixerox.co.jp/download/

補足

- 本機にハードディスク、Ethernet インターフェイスが装着されている場合に、バックアップできます。

次のデータがコンピューターにバックアップされます。

- 宛先表
- 親展ボックス（文書データを除く）
- ユーザー登録リスト
- ジョブフロー
- ジョブメモリー
- ジョブログ
- エラーログ
- 監査ログ
- その他、お客様が設定した情報など

ハードディスクの交換はお客様ではできませんので、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

4

機械確認

機械確認の概要

機械の状態やプリントページ数を、画面で確認できます。また、レポート / リストをプリントして、ジョブの履歴や設定 / 登録内容などを確認できます。

1 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

［機械確認］画面でできることは、次のとおりです。

■機械状態の確認 / レポート出力

本機の構成、用紙トレイの状態、ハードディスクの上書き消去の状態を確認できます。

また、プリンターモードの設定を変更したり登録したりできます。

メーター別、ユーザー別にプリントページ数を確認できます。また、レポート / リストをプリントして、ジョブの履歴や設定 / 登録内容などを確認できます。

参照
- 詳しくは、「機械状態 / レポート出力」(P.133) を参照してください。

■エラー情報の確認

本機で発生したエラーに関する情報を確認できます。

参照
- 詳しくは、「エラー情報」(P.154) を参照してください。

■消耗品の確認

消耗品の状態を確認できます。

参照
- 詳しくは、「消耗品確認」(P.155) を参照してください。

■メーターの確認

メーター 1 ～ 3 のカウントを表示します。

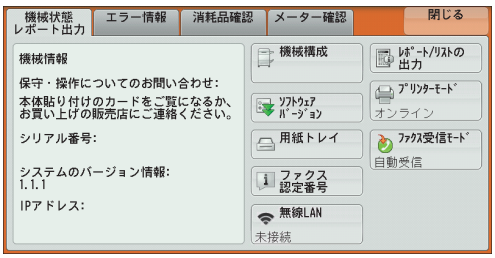
参照
- 詳しくは、「メーター確認」(P.157) を参照してください。

機械状態 / レポート出力

［機械状態レポート出力］画面では、本機の構成や用紙トレイの状態を確認したり、レポート / リストを出力したり、各プリンターモードの設定を変更 / 登録したりできます。

1 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

2 表示された［機械状態レポート出力］画面で、機械状態を確認できます。



機械情報

［機械情報］では、シリアル番号、機械構成、ソフトウェアバージョンを確認できます。

1 機械情報を確認します。

■保守・操作についてのお問い合わせ

保守・操作についてのお問い合わせ方法が記載されています。

■シリアル番号

本機のシリアル番号を確認できます。

■システムのバージョン情報

本機のシステムのバージョンを確認できます。

■IP アドレス

本機の IP アドレスを確認できます。

■機械構成

［機械構成］画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「［機械構成］画面」（P.134）を参照してください。

■ソフトウェアバージョン

［ソフトウェアバージョン］画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「［ソフトウェアバージョン］画面」（P.135）を参照してください。

■ファクス認定番号

［ファクス認定番号］画面が表示されます。

参照
- ファクス機能を搭載した機種をご使用の場合に表示されます。
- 「［ファクス認定番号］画面」(P.134) を参照してください。

■無線 LAN

Wi-Fi 接続状況と Wi-Fi Direct 接続情報が表示されます。

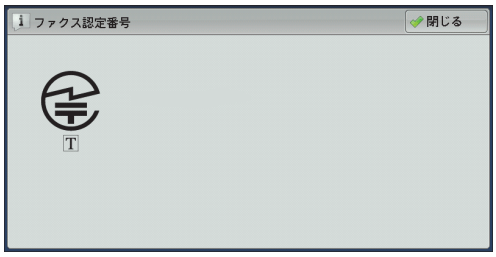
［ファクス認定番号］画面

本機のファクス認定番号（電気通信端末機器の技術基準適合認定番号等）を確認できます。

1 ［ファクス認定番号］を押します。

2 表示された画面で、ファクス認定番号を確認します。

表示例：



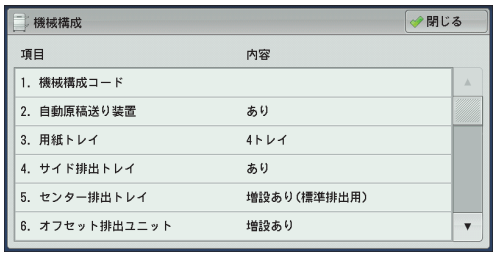
補足
- ファクス機能を搭載した機種をご使用の場合に表示されます。

［機械構成］画面

本機の構成を確認できます。

1 ［機械構成］を押します。

2 表示された画面で、機械構成を確認します。



補足
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリックでリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.46) を参照してください。

［ソフトウェアバージョン］画面

ソフトウェアのバージョンを確認できます。

1 ［ソフトウェアバージョン］を押します。

2 表示された画面で、各ソフトウェアのバージョンを確認します。



用紙トレイ

本機に設定されている用紙トレイを、一覧で確認できます。画面では、次の項目を確認できます。

- トレイ状態
- 用紙残量
- 用紙サイズ
- 用紙種別

1 ［用紙トレイ］を押します。

2 表示された画面で、各用紙トレイの状態を確認します。



レポート / リストの出力

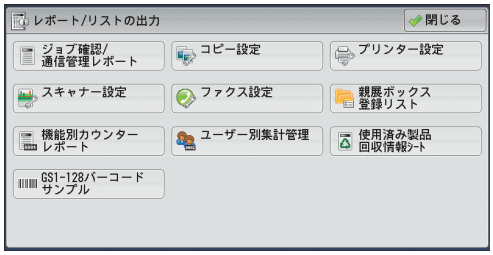
レポート / リストをプリントする方法について説明します。

補足

- 表示される項目は、搭載している機能によって異なります。

1 ［レポート / リストの出力］を押します。

2 プリントするレポート / リストの種類を選択します。



補足

- 上の画面は、メニュー画面に［仕様設定 / 登録］が表示されているときのものです。

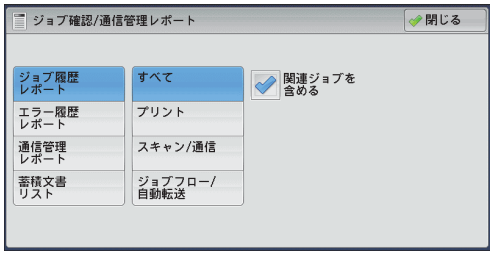
ジョブ確認 / 通信管理レポート

1 ［ジョブ確認 / 通信管理レポート］を押します。

補足

- ［ジョブ確認 / 通信管理レポート］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン>［機械状態レポート出力］>［レポート / リストの出力］>［ジョブ確認 / 通信管理レポート］を押してください。

2 プリントするレポート / リストを選択します。



3 〈スタート〉ボタンを押します。

■ジョブ履歴レポート

ジョブの実行結果について確認できます。最新の 200 件までのジョブについてプリントされます。プリントするレポートを、［すべて］、［プリント］、［スキャン / 通信］、［自動転送ジョブ］、または［ジョブフロー / 自動転送］から選択します。

［関連ジョブを含める］チェックボックスのチェックを付けると、関連ジョブそれぞれを 1 行ずつプリントします。チェックを外すと、複数の関連ジョブ（ジョブフローのジョブなど）を 1 行にまとめてプリントします。

［ジョブ履歴レポート］は、50 件を超えるごとに自動的にプリントさせることもできます。

参照

- 自動プリントについては、「レポート設定」（P.191）を参照してください。自動プリントの場合は、すべてのジョブの実行結果が印字されます。

■エラー履歴レポート

本機に発生したエラーに関する情報がプリントされます。最新の 50 件までのエラーについてプリントされます。

■通信管理レポート

送受信が正常に終了したかどうかを確認できます。相手局名や通信結果 / 状態が発信と着信に分けて記録されます。

次の場合は、［通信管理レポート］に掲載されません。

- リダイヤルされる送信やポーリングの場合
- 送信待機中やリダイヤル待機中に、送信待ちの文書を削除した場合
- 通信中に電源が切断された場合やシステムエラーが発生した場合

通信結果の合計が 100 件になるごとに、自動的にレポートをプリントさせることができます。

補足

- ApeosWare Management Suite（別売）を使用すると、通信管理レポートの内容をコンピューターに取り込めます。ApeosWare Management Suite については、ソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。

参照

- 設定については、「レポート設定」（P.191）を参照してください。
- 通信管理レポートの項目は、「通信管理レポート」（P.943）を参照してください。

■蓄積文書リスト

親展ボックスに保存されている未完了ジョブ（送受信が完了していない文書、ポーリング予約文書）のリストがプリントされます。

コピー設定

1 ［コピー設定］を押します。

補足

- ［コピー設定］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン > ［機械状態レポート出力］ > ［レポート / リストの出力］ > ［コピー設定］を押します。

2 ［機能設定リスト (共通項目)］を押します。



3 〈スタート〉ボタンを押します。

■機能設定リスト (共通項目)

本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能やコピー機能の設定状態が確認できます。

補足

- 機能設定リストは、［コピー設定］、［プリンター設定］、［スキャナー設定］、［ファクス設定］のどこからプリントしても、同じ内容がプリントされます。

プリンター設定

1 ［プリンター設定］を押します。

補足
- ［プリンター設定］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン > ［機械状態レポート出力］ > ［レポート / リストの出力］ > ［プリンター設定］を押します。

2 プリントするリストを選択します。



補足
- 装着しているオプションによって、表示される項目は異なります。

3 〈スタート〉ボタンを押します。

次のリストは、プリンター関連のオプションを装着したときに、プリントできます。

- Adobe® PostScript® 3™ キット装着時
  - PCL 設定リスト
  - PCL マクロ登録リスト
  - PostScript 論理プリンター登録リスト
  - HP-GL/2 設定リスト
  - HP-GL/2 メモリー登録リスト
  - HP-GL/2 パレットリスト
  - PC-PR201H 設定リスト
  - PC-PR201H メモリー登録リスト
  - PCL フォントリスト
  - PostScript フォントリスト
- エミュレーションキット装着時
  - PCL 設定リスト
  - PCL マクロ登録リスト
  - HP-GL/2 設定リスト
  - HP-GL/2 メモリー登録リスト
  - HP-GL/2 パレットリスト
  - PC-PR201H 設定リスト
  - PC-PR201H メモリー登録リスト
  - PCL フォントリスト

補足
- Adobe PostScript 3 キットとエミュレーションキットは、同時に装着できません。

■機能設定リスト（共通項目）

本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能やコピー機能の設定状態が確認できます。

補足
- 機能設定リストは、［コピー設定］、［プリンター設定］、［スキャナー設定］、［ファクス設定］のどこからプリントしても、同じ内容がプリントされます。

■ART EX フォーム登録リスト

オーバーレイ印字機能で、フォームとして登録した文書の一覧がプリントされます。

補足
- ART EX フォーム登録については、ART EX プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

■PCL 設定リスト

PCL の各設定がプリントされます。

■PCL マクロ登録リスト

PCL 用に登録したフォームの一覧がプリントされます。

■PDF 設定リスト

PDF プリンターモードでの各設定がプリントされます。

■TIFF/JPEG 設定リスト

TIFF および JPEG プリンターモードでの各設定がプリントされます。

■TIFF/JPEG 論理プリンター登録リスト

TIFF および JPEG プリンターモードで作成した論理プリンターの一覧がプリントされます。

参照
- TIFF および JPEG 論理プリンターの設定は、CentreWare Internet Services で行います。各項目については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

■PostScript 論理プリンター登録リスト

PostScript® で作成した論理プリンターの一覧がプリントされます。

参照
- PostScript 論理プリンターの設定は、CentreWare Internet Services で行います。各項目については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

■ESC/P 設定リスト

ESC/P エミュレーションモードの各設定がプリントされます。

■ESC/P メモリー登録リスト

ESC/P エミュレーションモードのメモリー登録の各設定がプリントされます。

■**ART IV, ESC/P ユーザー定義リスト**

ART IV、ESC/P、PC-PR201H で利用できるフォーム、ロゴ、パターンの登録内容がプリントされます。

参照
- ART IV のユーザー定義については『リファレンスマニュアル（ART IV 対応）』を、ESC/P のユーザー定義については『リファレンスマニュアル（ESC/P 対応）』を、PC-PR201H のユーザー定義については『リファレンスマニュアル（PC-PR201H 対応）』を、それぞれ参照してください。

■**HP-GL/2 設定リスト**

HP-GL®、HP-GL/2、HP-RTL エミュレーションモードの各設定がプリントされます。

■**HP-GL/2 メモリー登録リスト**

HP-GL、HP-GL/2、HP-RTL エミュレーションモードのメモリー登録の各設定がプリントされます。

■**HP-GL/2 パレットリスト**

HP-GL、HP-GL/2 エミュレーションのペン属性で設定できる 256 色の見本リストをプリントします。

■**PC-PR201H 設定リスト**

PR201H エミュレーションモードの各設定がプリントされます。

■**PC-PR201H メモリー登録リスト**

PR201H エミュレーションモードのメモリー登録の各設定がプリントされます。

■**フォントリスト**

本機で使用できるフォントの一覧がプリントされます。

補足
- プリントされる内容は、装着されているオプションによって異なります。

■**PCL フォントリスト**

PCL で使用できるフォントがプリントされます。

■**PostScript フォントリスト**

PostScript で使用できるフォントがプリントされます。

■**DocuWorks プリント設定リスト**

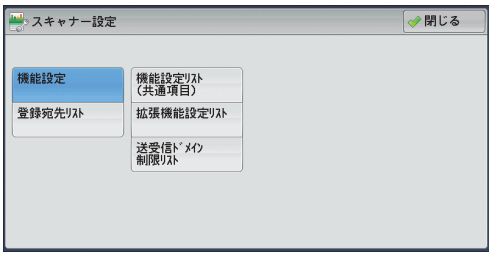
DocuWorks ダイレクトプリントのための設定がプリントされます。

スキャナー設定

1 ［スキャナー設定］を押します。

補足
- ［スキャナー設定］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン >［機械状態レポート出力］>［レポート / リストの出力］>［スキャナー設定］を押します。

2 プリントするリストを選択します。



3 〈スタート〉ボタンを押します。

■機能設定

機能設定リスト（共通項目）、拡張機能設定リスト、送受信ドメイン制限リストをプリントします。プリントするリストを選択して、〈スタート〉ボタンを押します。

◆機能設定リスト（共通項目）

本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能やコピー機能の設定状態が確認できます。

補足

- 機能設定リストは、［コピー設定］、［プリンター設定］、［スキャナー設定］、［ファクス設定］のどこからプリントしても、同じ内容がプリントされます。

◆拡張機能設定リスト

スキャナー機能やファクス機能に関する設定状態が確認できます。

◆送受信ドメイン制限リスト

送受信を制限するドメインの設定状況が確認できます。

■登録宛先リスト

宛先の登録内容を確認できます。宛先番号の範囲を指定すると、指定した番号の登録宛先設定表がプリントされます。1 ページに 50 個の宛先番号の情報がプリントされます。

1 ［登録宛先リスト］を押します。

2 プリントする宛先番号の範囲を選択します。



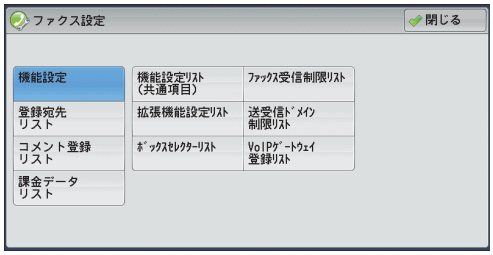
3 〈スタート〉ボタンを押します。

ファクス設定

1 ［ファクス設定］を押します。

補足
- ［ファクス設定］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン>［機械状態レポート出力］>［レポート / リストの出力］>［ファクス設定］を押します。

2 プリントするリストを選択します。



3 〈スタート〉ボタンを押します。

■機能設定

機能設定リスト（共通項目）、拡張機能設定リスト、ボックスセレクターリスト、ファクス受信制限リスト、送受信ドメイン制限リスト、VoIP ゲートウェイ登録リストをプリントします。プリントするリストを選択して、〈スタート〉ボタンを押します。

■機能設定リスト（共通項目）

本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能やコピー機能の設定状態が確認できます。

補足
- 機能設定リストは、［コピー設定］、［プリンター設定］、［スキャナー設定］、［ファクス設定］のどこからプリントしても、同じ内容がプリントされます。

◆拡張機能設定リスト

ファクス機能やスキャナー機能に関する設定状態が確認できます。

補足
- 拡張機能設定リストは、［スキャナー設定］、［ファクス設定］のどちらからプリントしても、同じ内容がプリントされます。

◆ボックスセレクターリスト

親展ボックスへの振り分け機能の設定状況が確認できます。

◆ファクス受信制限リスト

ファクス受信を禁止している G3-ID（電話番号）の設定状況が確認できます。

◆送受信ドメイン制限リスト

送受信を制限するドメインの設定状況が確認できます。

◆VoIP ゲートウェイ登録リスト

VoIP ゲートウェイの登録状況が確認できます。

■登録宛先リスト

短縮宛先番号と宛先グループ番号の登録内容、中継指示局設定を確認できます。

短縮宛先番号の範囲を指定すると、指定した番号の登録宛先設定表と中継指示局設定表がプリントされます。1 ページに 50 個の短縮宛先番号の情報がプリントされます。

参照

- 短縮宛先番号と宛先グループ番号の登録方法は、「宛先表登録（短縮宛先登録）」(P.346)、「宛先グループ登録」(P.355) を参照してください。

［登録宛先リスト］を押すと、短縮宛先番号の範囲を指定する画面が表示されます。番号を選択して、〈スタート〉ボタンを押します。



◆宛先グループ

宛先グループ設定表をプリントできます。

◆すべて選択

全短縮宛先番号についての登録宛先設定表、中継指示局設定表、宛先グループ設定表をプリントできます。

■コメント登録リスト

送信シートで使用するコメントの登録内容が確認できます。

■課金データリスト

課金データの登録状況が確認できます。

参照

- ［集計管理］>［集計管理機能の運用］>［本体集計管理］で、［各機能の集計］の［ファクス / インターネットファクス］を［集計する］に設定すると表示されます。有効にする方法は、「各機能の集計」(P.362) 参照してください。

［課金データリスト］を押すと、短縮宛先番号の範囲を指定する画面が表示されます。番号を選択して、〈スタート〉ボタンを押します。



◆すべて選択

全課金データリストをプリントできます。

親展ボックス登録リスト

親展ボックスに設定されている内容と、ボックス保存時の処理方法を表形式でプリントします。

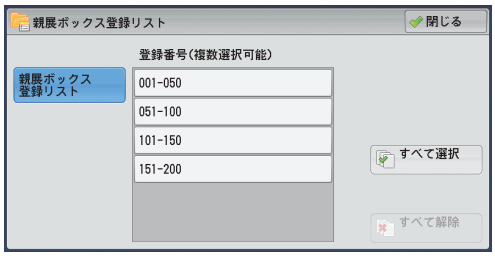
補足
- ［親展ボックス登録リスト］は、メニュー画面に［仕様設定 / 登録］が表示されているときに表示できます。

参照
- 親展ボックスの登録方法は、「ボックス登録」(P.332) を参照してください。

1 ［親展ボックス登録リスト］を押します。

補足
- ［親展ボックス登録リスト］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン > ［機械状態レポート出力］ > ［レポート / リストの出力］ > ［親展ボックス登録リスト］を押します。

2 プリントする親展ボックスの番号の範囲を選択します。



3 〈スタート〉ボタンを押します。

機能別カウンターレポート

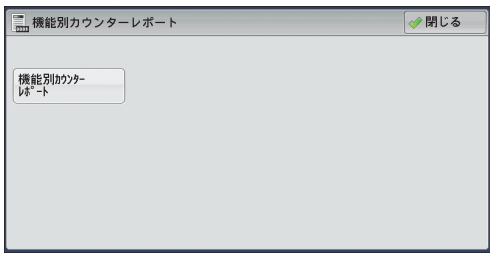
機能別のカウンターレポートをプリントします。機能別のカウンターレポートでは、各機能別に実際に利用した内訳（プリント枚数や使用回数など）や利用していない時間（待機時間、低電力モード時間、スリープモード時間、電源オフ時間など）の累計を分単位で確認することができます。

補足
- ［機能別カウンターレポート］は、メニュー画面に［仕様設定 / 登録］が表示されているときに表示できます。

1 ［機能別カウンターレポート］を押します。

補足
- ［機能別カウンターレポート］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン > ［機械状態レポート出力］ > ［レポート / リストの出力］ > ［機能別カウンターレポート］を押します。

2 ［機能別カウンターレポート］を押します。



3 〈スタート〉ボタンを押します。

ユーザー別集計管理

ユーザー別の集計管理レポートをプリントできます。なお、ユーザー別集計管理レポートは、集計管理機能を有効にしているかどうかで、表示される画面が異なります。

補足
- ［ユーザー別集計管理］は、メニュー画面に［仕様設定 / 登録］が表示されているときに表示できます。
- レポートはファイルに出力できません。レポートをファイルに出力するには、ApeosWare Management Suite（別売）をご利用ください。

■［集計管理機能の運用］が［本体集計管理］以外に設定されている場合

［集計管理機能の運用］が［本体集計管理］以外に設定されている場合は、次の画面が表示され、プリンター集計レポートをプリントできます。

1 ［ユーザー別集計管理］を押します。

補足
- ［ユーザー別集計管理］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン > ［機械状態レポート出力］ > ［レポート / リストの出力］ > ［ユーザー別集計管理］を押します。

2 ［プリンター集計レポート］を押します。



3 〈スタート〉ボタンを押します。

◆ プリンター集計レポート

クライアント別（ジョブオーナー別）に、本機でプリントした総ページ数、使用した用紙の総枚数を確認できます。［プリンター集計レポート］は、データを初期化した時点からのカウントになります。

■［集計管理機能の運用］が［本体集計管理］に設定されている場合

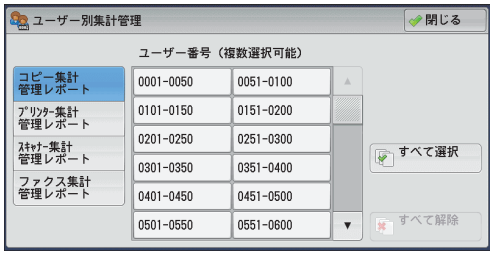
［集計管理機能の運用］が［本体集計管理］に設定されている場合は、［ユーザー別集計管理］画面が表示されます。集計管理機能を［する］に設定している機能の、ユーザー別の集計管理レポートを、機能ごとにプリントできます。

参照
- 各機能の集計管理機能の設定は、「集計管理」（P.357）を参照してください。

1 ［ユーザー別集計管理］を押します。

補足
- ［ユーザー別集計管理］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン > ［機械状態レポート出力］ > ［レポート / リストの出力］ > ［ユーザー別集計管理］を押します。

2 プリントする集計管理レポートを選択します。



3 プリントするユーザー番号の範囲を選択します。

補足
- ［すべて選択］を押すと、すべてのユーザーが選択されます。

4 〈スタート〉ボタンを押します。

◆コピー集計管理レポート

本機でコピーした総ページ数、プリントページ数を確認できます。また、ページ数の制限を設定している場合は、それらの制限値を表示します。［コピー集計管理レポート］は、データを初期化した時点からのカウントになります。

補足
- レポートに表示される［No.］は、［集計管理］、［認証 / セキュリティ設定］で、ユーザー登録したNo.（ユーザー管理番号）です。

◆プリンター集計管理レポート

クライアント別（ジョブオーナー別）に、本機でプリントした総ページ数、使用した用紙の総枚数を確認できます。［プリンター集計管理レポート］は、データを初期化した時点からのカウントになります。

注記
- ［集計管理機能の運用］の［各機能の集計］で［プリンター］を［集計しない］に設定している場合は、［プリンター集計管理レポート］ではなく、［プリンター集計レポート］が表示されます。プリンター集計レポートについては、「プリンター集計レポート」(P.145) を参照してください。

補足
- レポートに表示される［No.］は、［集計管理］、［認証 / セキュリティ設定］で、ユーザー登録したNo.（ユーザー管理番号）です。

◆スキャナー集計管理レポート

本機でスキャンした総ページ数を機能別に確認できます。また、ページ数の制限を設定している場合は、それらの制限値を表示します。［スキャナー集計管理レポート］は、データを初期化した時点からのカウントになります。

補足
- レポートに表示される［No.］は、［集計管理］、［認証 / セキュリティ設定］で、ユーザー登録したNo.（ユーザー管理番号）です。

◆ファクス集計管理レポート

通信回数、送信原稿枚数などのデータをユーザー別に確認できます。

補足
- レポートに表示される［No.］は、［集計管理］、［認証 / セキュリティ設定］で、ユーザー登録したNo.（ユーザー管理番号）です。

使用済み製品回収情報シート

使用済みの本機の回収を依頼する場合に、情報シートをプリントできます。お客様から弊社のカストマーコンタクトセンターに本機の情報を通知していただくことにより、本機の回収経路が決定します。

補足

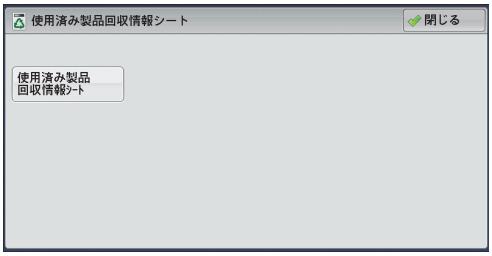
- ［使用済み製品回収情報シート］は、メニュー画面に［仕様設定 / 登録］が表示されているときに表示できます。

1 ［使用済み製品回収情報シート］を押します。

補足

- ［使用済み製品回収情報シート］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン>［機械状態レポート出力］>［レポート / リストの出力］>［使用済み製品回収情報シート］を押します。

2 ［使用済み製品回収情報シート］を押します。



3 〈スタート〉ボタンを押します。

GS1-128 バーコードサンプル

GS1-128 バーコードサンプルを出力できます。

バーコードモードを有効にした場合と無効にした場合のバーコードの印刷状態を確かめることができます。

補足

- バーコード出力の注意事項は、「GS1-128（旧 UCC/EAN128）バーコード（コンビニバーコード）出力についての注意 / 制限」(P.937) を参照してください。

自動的にプリントするレポート / リストについて

ファクスやスキャン機能に関するレポート / リストには、手動ではプリントできないレポート / リストがあります。ここでは、自動的にプリントできるレポート / リストについて説明します。

未送信レポート

スキャンしたデータをネットワーク上のコンピューターへ転送するときや、スキャンしたデータをメール送信するときに、データの送信に失敗するとプリントされます。また、ファクス送信に失敗したときにプリントされます。読み取った原稿の縮小イメージと、その送信結果を確認できます。

未送信レポートを、自動的にプリントしないように設定することもできます。

参照

- メール送信の未送信レポートを自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「転送モニターレポート」(P.192) を参照してください。
- ファクス送信の未送信レポートを自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「未送信レポート」(P.191) を参照してください。

モニターレポート

スキャンしたデータをネットワーク上のコンピューターへ転送するときや、スキャンしたデータをメール送信するときに、データの送信に成功するとプリントされます。また、ファクス送信に成功したときにプリントされます。読み取った原稿の縮小イメージと、その送信結果を確認できます。

モニターレポートを、自動的にプリントしないように設定することもできます。

参照

- メール送信のモニターレポートを自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「転送モニターレポート」(P.192) を参照してください。
- ファクス送信のモニターレポートを自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「未送信レポート」(P.191) を参照してください。

親展受信レポート

親展ボックスに文書が蓄積されたことを確認できます。

参照

- 自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「親展受信レポート」(P.191) を参照してください。

同報レポート

同報送信の送信結果を確認できます。宛先や通信結果 / 状態が記録されます。

自動的にプリントするように設定していると、同報の通信終了後に自動的にプリントされます。

参照

- 自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「同報 / 集信レポート」(P.191) を参照してください。

集信レポート

集信（複数の宛先からポーリング受信すること）の通信結果を確認できます。相手局名や通信結果 / 状態が記録されます。

自動的にプリントするように設定していると、集信の通信終了後に自動的にプリントされます。

参照

- 自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「同報 / 集信レポート」(P.191) を参照してください。

ジョブフローエラーレポート

ジョブフローでエラーが発生したことを通知するためのレポートです。エラーの発生日時やエラーコードなどがプリントされます。

ジョブフローエラーレポートを、自動的にプリントしないように設定することもできます。

参照

- 自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「ジョブフローエラーレポート」(P.192) を参照してください。

HDD の上書き消去

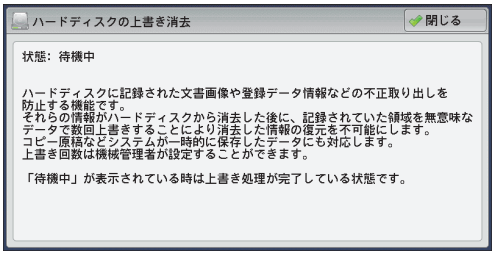
ハードディスクの上書き処理の状態を確認できます。「実行中」が表示されている場合は、上書き処理が行われている状態です。「待機中」が表示されている場合は、上書き処理が終了している状態です。

補足

- お使いの機種またはオプションの装着状況によっては、この機能は利用できません。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- ［HDD の上書き消去］は、［認証 / セキュリティ設定］で［ハードディスクの上書き消去設定］が設定されている場合に表示されます。詳しくは、「ハードディスクの上書き消去設定」(P.379) を参照してください。

1 ［HDD の上書き消去］を押します。

2 表示された画面で、ハードディスクの上書き処理の状態を確認します。



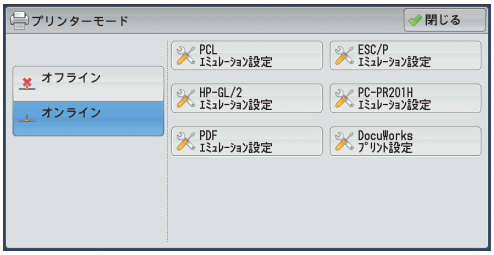
プリンターモード

ESC/P などのメモリーの登録、登録したメモリーの呼び出しなどができます。
装着しているオプションによって、表示される項目は異なります。

1 < 機械確認（メーター確認）> ボタンを押します。

2 ［プリンターモード］を押します。

3 ［オフライン］または［オンライン］を選択します。



■オフライン

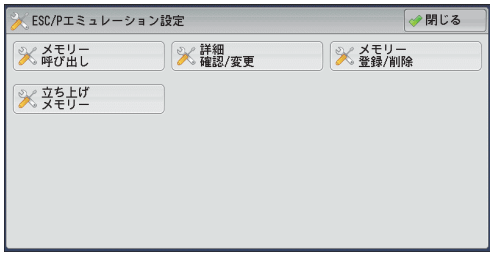
コンピューターからのデータ受信ができなくなります。受信中のデータは中断され、プリントされません。

■オフライン

コンピューターからのデータ受信をします。

4 プリンターモードを設定するプリント言語を選択します。

5 項目をそれぞれ設定します。



補足

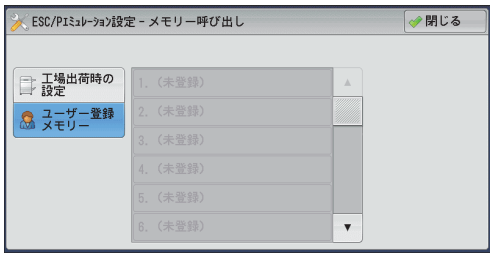
- プリント言語により、設定項目は異なります。

メモリー呼び出し

メモリーに登録した設定を呼び出して使用できます。

1 ［メモリー呼び出し］を押します。

2 使用するメモリー番号を選択します。



■工場出荷時の設定

工場出荷時の設定を使用できます。

■ユーザー登録メモリー

メモリーに登録してある番号が表示されます。

詳細確認 / 変更

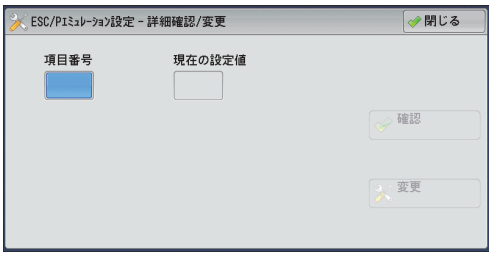
プリンターモードの項目番号に設定されている値を確認 / 変更できます。

参照

- 各モードメニューで設定できる項目番号は、「ESC/P エミュレーションモード設定項目」(P.836)、「PDF ダイレクトプリント機能の設定項目」(P.850)、「DocuWorks ダイレクトプリント機能の設定項目」(P.852)、「PC-PR201H エミュレーションのモード設定項目」(P.856)、「PCL エミュレーションのモード設定項目」(P.872)、「HP-GL/2 エミュレーションのモード設定項目」(P.880) を参照してください。

1 ［詳細確認 / 変更］を押します。

2 設定する機能の［項目番号］を、〈数字〉ボタンで入力します。



3 ［確認］を押すと、現在の設定値が表示されます。

4 ［変更］を押します。

5 ［変更値］を、〈数字〉ボタンで入力します。



6 ［決定］を押します。

メモリー登録 / 削除

ESC/P、HP-GL/2、PC-PR201H では、設定した内容をメモリーに登録できます。

ESC/P エミュレーション、HP-GL/2 エミュレーションでは 20 件、PC-PR201H エミュレーションでは、5 件まで登録できます。

1 ［メモリー登録 / 削除］を押します。

2 ［現在の設定を登録］または［削除］を選択します。

■現在の設定を登録

現在の設定を登録します。登録済みの番号を選択すると、上書きします。登録 / 上書きした番号は、元に戻すことはできません。

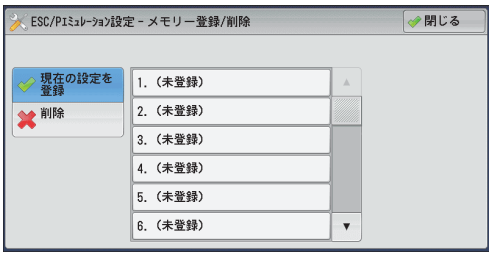
■削除

［削除］を押して、削除する番号を選択すると、登録されている番号が削除されます。

注記

- 削除した番号は、元に戻すことはできません。

3 登録または削除するメモリー番号を選択します。

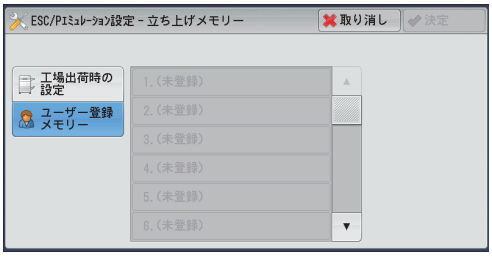


立ち上げメモリー

メモリーに登録した設定内容を初期値として、プリンターを起動できます。

1 ［立ち上げメモリー］を押します。

2 ［工場出荷時の設定］または［ユーザー登録メモリー］を選択します。



■工場出荷時の設定

工場出荷時の設定を使用できます。

■ユーザー登録メモリー

メモリーに登録してある番号が表示されます。

3 ［ユーザー登録メモリー］を選択した場合は、使用するメモリー番号を選択します。

4 ［決定］を押します。

パスワード

PDF ダイレクトプリントおよび DocuWorks ダイレクトプリントで、ファイルにパスワードが設定されている場合は、あらかじめ、そのパスワードを設定しておきます。プリントするファイルと、ここに設定されているパスワードが一致した場合にだけプリントできます。

設定できる文字は、半角英数字 32 文字までです。

1 ［パスワード］を押します。

2 表示されるキーボードでパスワードを 32 文字以内で入力して、［決定］を押します。

ファクス受信モード

ファクスの受信モードを設定できます。

補足

- IP ファクス（SIP）の場合は、本設定に関係なく、自動受信になります。

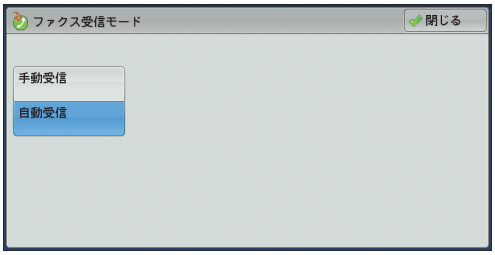
参照

- 自動受信、および手動受信については、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ファクス」>「受信について」を参照してください。

1 < 機械確認（メーター確認）> ボタンを押します。

2 ［ファクス受信モード］を押します。

3 受信モードを選択します。



■手動受信

相手からの送信を手動で受信します。相手先を確認したり、オプションの受話器（ハンドセット）を使って通話してから受信する場合に便利です。

■自動受信

相手からの送信に対して、自動的に受信を開始します。

4 ［閉じる］を押します。

エラー情報

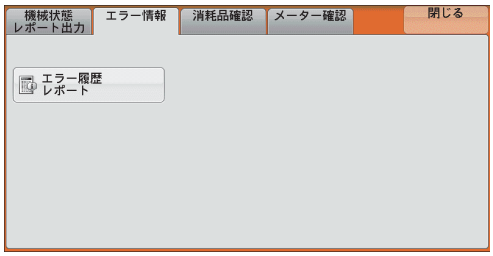
本機に発生したエラーに関する情報を確認する方法について説明します。

エラー履歴レポートには、最新の 50 件までのエラーがプリントされます。プリントされる項目は、日付、時刻、エラーコード、エラー分類です。

エラー履歴レポートをプリントする方法について説明します。

1 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

2 ［エラー情報］タブを押します。



3 ［エラー履歴レポート］を押します。

4 〈スタート〉ボタンを押します。

補足

- ［エラー履歴レポート］は、［レポート / リストの出力］画面の［ジョブ確認 / 通信管理レポート］からも指示できます。
- ［レポート設定］の［レポート出力ボタンの表示］を［しない］に設定している場合は、［エラー履歴レポート］は表示されません。詳しくは、「レポート設定」（P.191）を参照してください。

消耗品確認

消耗品の状態は、［消耗品確認］画面で確認できます。消耗品の状態は、「良好」、「良好（予備を用意）」、「要交換」などで表示されます。

ここでは、消耗品の状態を確認する手順について説明します。

参照

- 消耗品の交換方法は、「消耗品を交換する」(P.80) を参照してください。

1 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

2 ［消耗品確認］タブを押して、トナーの状態を確認します。



補足

- 各消耗品を選択すると、その状態に応じて、補足情報の画面が表示されます。

3 ドロップダウンメニューから［その他の消耗品］を選択して、そのほかの消耗品の状態を確認します。



［消耗品確認］画面では、次の項目を確認できます。

- ブラックトナー（K）
- シアントナー（C）
- マゼンタトナー（M）
- イエロートナー（Y）
- ドラムカートリッジ（R1）
- ドラムカートリッジ（R2）
- ドラムカートリッジ（R3）
- ドラムカートリッジ（R4）
- トナー回収ボトル（R5）
- ホチキスカートリッジ（R1）
- 中とじホチキスカートリッジ（R2）
- 中とじホチキスカートリッジ（R3）
- パンチダストボックス（R4）

注記

- 使いかけのトナーカートリッジ（ほかの ApeosPort-VI　C7771/C6671/C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C7771/C6671/C5571/C4471/C3371/C2271 の本体から取り出したト

ナーカートリッジなど）を使用した場合、残量表示と実際の残量が合わないことがあります。トナーカートリッジを交換するときは、なるべく新品を使用することをお勧めします。

補足

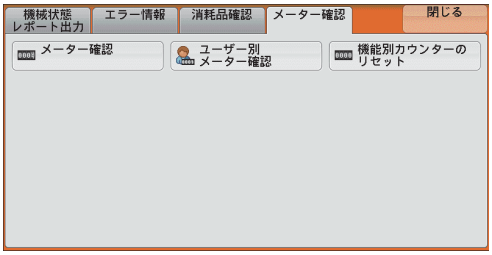
- 装着しているオプションによって、表示される項目が異なります。
- 消耗品の数によっては、［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリックでリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」（P.46）を参照してください。

メーター確認

［メーター確認］画面では、メーター別、ユーザー別にプリントページ数を確認できます。

1 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

2 ［メーター確認］タブを押します。

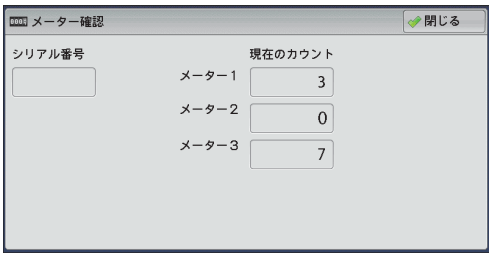


メーター確認

メーター別に、コピー / プリントページ数を確認できます。

1 ［メーター確認］を押します。

2 表示された画面で、各メーターを確認します。



注記

- コンピューター上で作成したドキュメント・画像をプリントした場合プリント料金の計算基準となるメーターは、次のようにカウントされます。ただし、お客様が選択されたコンピューターやソフトウェアとの組み合わせにおいて、次のとおりカウントされない場合もあります。
- コンピューターから「黒」での出力を指示してプリントした場合、メーター１（黒モ－ド）がカウントされます。
- コンピューターから「カラー」での出力を指示してプリントした場合、メーター３（フルカラーモ－ド）がカウントされます。
- プリンターの白黒・カラー自動判定機能を用いた場合、コンピューターから白黒の信号を受け取ったときは、メーター１（黒モード）がカウントされ、コンピューターからカラーの信号を受け取ったときはメーター３（フルカラーモード）がカウントされます。ただし、カラーモードで自動を選択した場合、特定の条件下において、コンピューターで作成したディスプレイ上の画像では白黒に見えるデータをプリンターの自動判定機能がカラーと認識する場合があります。
- プリントされる用紙が A3 の 1.5 倍以上のサイズから長尺用紙と判断し、メーターに 2 カウントされます。また長尺用紙は A3 の等倍分でカウント（例：A3 サイズ 3 倍比のとき、3 カウント）され、

白黒プリントのときメーター 1（黒モード）、カラープリントのときメーター 3（フルカラーモード）にカウントされます。

補足

- ［締め時カウント］は、EP システムを使用している場合に表示できます。詳しくは、「EP システムについて」（P.947）を参照してください。

■シリアル番号

本機のシリアル番号が表示されます。

■メーター 1

次の白黒コピー、白黒プリント、およびファクスの合計ページ数が表示されます。

- 基本コピー画面のカラーモードで「自動」を選択して白黒原稿をプリントした場合
- 基本コピー画面のカラーモードで「黒」を選択してプリントした場合

■メーター 2

通常は使用しません。

■メーター 3

次のカラーコピー、カラープリントの合計ページ数が表示されます。

- 基本コピー画面のカラーモードで「自動」を選択し、カラー原稿をプリントした場合
- 基本コピー画面のカラーモードで「フルカラー」または「2 色カラー（赤 / 黒）」を選択してプリントした場合
- 基本コピー画面のカラーモードで「他のカラー」を選択して単色カラーまたは 2 色カラーでプリントした場合

ユーザー別メーター確認

ユーザー別のページ数を確認できます。

集計管理機能が有効に設定されている場合に、現在認証されている User ID のメーターを確認できます。

補足

- ［ユーザー別メーター確認］は、［集計管理機能の運用］が［本体集計管理］のときだけ表示されます。

参照

- 集計管理機能については、「集計管理」（P.169）を参照してください。

1 〈認証〉ボタンを押します。

■現在登録されている User ID のメーターを確認する場合

1) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、メーターを確認するユーザーの User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、ユーザーのパスワードを入力し［確定］を押します。

2) 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

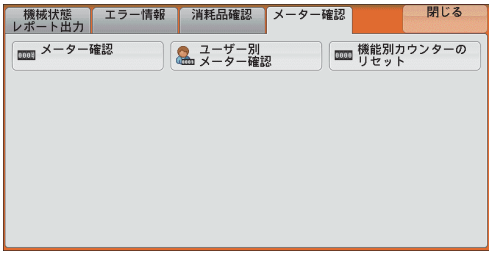
■機械管理者のメーターを確認する場合

1) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

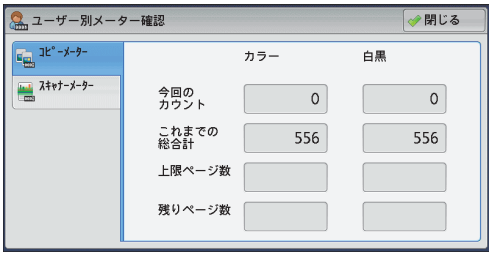
2)〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

2 ［メーター確認］タブを押します。



3 ［ユーザー別メーター確認］を押します。

4 確認するメーターを選択します。



補足

- 集計管理機能で［集計する］に設定しているサービスのメーターを確認できます。

■コピーメーター

コピーをしたページ数が表示されます。

■スキャナーメーター

スキャンをしたページ数が表示されます。

■プリンターメーター

プリントをしたページ数が表示されます。

補足

- 機械管理者モードのときには、プリンターメーターは表示されません。

機能別カウンターのリセット

機能別に集計したスキャン、プリント数や稼動状況の累積時間などのカウントをリセットできます。

メニュー画面に［仕様設定 / 登録］が表示されているときに、操作できます。

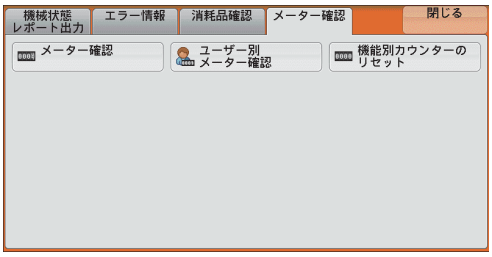
1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

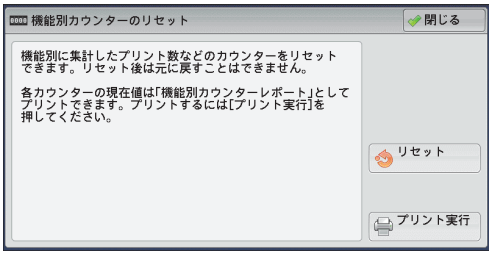
3 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

4 ［メーター確認］タブを押します。



5 ［機能別カウンターのリセット］を押します。

6 ［リセット］または［プリント実行］を押します。



■リセット

機能別に集計した値をリセットできます。リセットする場合は、表示された確認画面で、［はい（リセットする）］を選択します。

注記

- リセットすると元に戻すことはできません。

■プリント実行

各カウンターの現在の値を、機能別カウンターレポートとしてプリントできます。

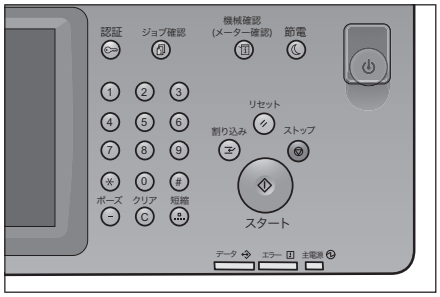
5
仕様設定

仕様設定の流れ

仕様を設定 / 変更するには、機械管理者モードに入る必要があります。
ここでは、仕様設定の基本的な操作について説明します。

Step1 機械管理者モードに入る

1 〈認証〉ボタンまたはタッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアを押します。



Step2 機械管理者の User ID、パスワードを入力する

機械管理者モードに入るために、機械管理者の User ID を入力します。また、［認証 / セキュリティ設定］の［認証の設定］の［パスワードの運用］で、［パスワード使用 - パネル入力時］を［する］に設定している場合は、パスワードの入力が必要です。

機械管理者の User ID およびパスワードは、本機を設置したあと、すぐに変更することをお勧めします。

参照

- 詳しくは、「機械管理者情報の設定」(P.366) を参照してください。

1 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。



補足

- 本機の設定によっては、表示内容が異なることがあります。
- 機械管理者モードに入ると、〈認証〉ボタンは点灯します。

Step3 ［仕様設定 / 登録］を選択する

1 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。



補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

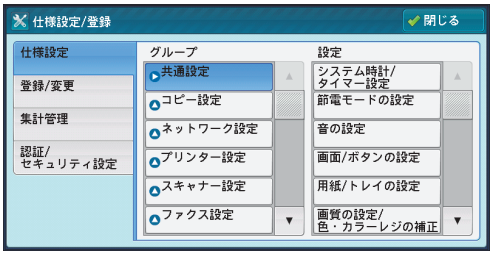
Step4 ［仕様設定 / 登録］画面から項目を選択する

［仕様設定 / 登録］画面で、設定する項目を選択します。

参照

- ［仕様設定 / 登録］画面で設定できる項目は、「仕様設定メニュー一覧」（P.167）を参照してください。

1 設定するタブを選択します。



仕様設定

各機能の初期値などを設定 / 変更できます。

■共通設定

機械本体の共通機能に関連した項目を設定します。

参照

- 詳しくは、「共通設定」（P.171）を参照してください。

■コピー設定

コピー機能の初期値、コピー動作の制御、ボタンの表示方法などの設定ができます。

参照

- 詳しくは、「コピー設定」（P.229）を参照してください。

■ネットワーク設定

ポートやプロトコルなどの設定ができます。

参照
- 詳しくは、「ネットワーク設定」(P.240) を参照してください。
- 無線 LAN 通信の設定手順については、無線 LAN キット(オプション)または無線 LAN コンバーター(オプション)に同梱されているマニュアルを参照してください。

■プリンター設定

メモリーの設定やプリント時の動作などの設定ができます。

参照
- 詳しくは、「プリンター設定」(P.275) を参照してください。

■スキャナー設定

スキャナー機能の初期値、ボタンの表示方法などの設定ができます。

参照
- 詳しくは、「スキャナー設定」(P.284) を参照してください。

■ファクス設定

ファクス機能の初期値、ファクス動作の制御、ボタンの表示方法などの設定ができます。

参照
- 詳しくは、「ファクス設定」(P.293) を参照してください。

■メール / インターネットファクス設定

メールやインターネットファクスを送受信するときの仕様に関する設定ができます。

参照
- 詳しくは、「メール / インターネットファクス設定」(P.311) を参照してください。

■宛先表設定

宛先表に関する設定ができます。

参照
- 詳しくは、「宛先表設定」(P.314) を参照してください。

■ボックス設定

親展ボックスに関する設定ができます。

参照
- 詳しくは、「ボックス設定」(P.315) を参照してください。

■ジョブフロー設定

ジョブフローに関する設定ができます。

ジョブフローとは、登録された一連の作業内容を実行する機能です。

補足
- この機能は ApeosPort シリーズのみ有効です。

参照
- 詳しくは、「ジョブフロー設定」(P.317) を参照してください。

■メディアプリント設定

文書プリント、デジカメプリントに関する設定ができます。

参照
- 詳しくは、「メディアプリント設定」(P.319) を参照してください。

■保存文書設定

親展ボックスに保存されている文書と、本機内に保存されているプリント文書の削除方法について設定します。

参照
- 詳しくは、「保存文書設定」(P.320) を参照してください。

■外部アクセス設定

外部アクセスに関する設定ができます。

補足
- この機能は ApeosPort シリーズのみ有効です。

参照
- 詳しくは、「外部アクセス設定」(P.323) を参照してください。

■Web ブラウザー設定

外部アクセスのときの Web ブラウザーに関する設定ができます。

参照
- 詳しくは、「Web ブラウザー設定」(P.328) を参照してください。

■BMLinkS 設定

BMLinkS® に関する設定ができます。

参照
- 詳しくは、「BMLinkS 設定」(P.330) を参照してください。

■リモートアシスタンス設定

リモートアシスタンスに関する設定ができます。

参照
- 詳しくは、「リモートアシスタンス設定」(P.331) を参照してください。

登録 / 変更

親展ボックス、ジョブフロー、宛先表（短縮宛先登録）などの登録や変更ができます。

参照
- 詳しくは、「登録 / 変更」(P.332) を参照してください。

集計管理

本機を利用するユーザーの登録や、集計管理機能の運用設定ができます。

参照
- 詳しくは、「集計管理」(P.357) を参照してください。

認証 / セキュリティ設定

認証の設定やセキュリティーの設定ができます。

参照
- 詳しくは、「認証 / セキュリティ設定」(P.366) を参照してください。

Step5 機能を設定する

1 任意の機能を選択します。

補足
- ［グループ］を選択してから、［設定］を選択してください。
- 必要に応じて、［▲］、［▼］を押してください。

2 設定する項目を選択します。

3 機能を設定したら、［決 定］を押します。

4 メニュー画面に戻るまで、［閉じる］を押します。

補足
- 設定を有効にするための再起動が必要な場合は、［仕様設定 / 登録］画面で［閉じる］を押すと、［再起動］画面が表示されます。［はい（再起動する）］を押してください。再起動すると機械管理者モードは自動的に終了し、〈認証〉ボタンは消灯します。
- ［仕様設定］以降または［登録 / 変更］以降の機能を設定した後で、〈メニュー〉ボタンを押すと 1 回でメニュー画面に戻ります。

Step 6 機械管理者モードを終了する

1 〈認証〉ボタンを押します。

補足
- タッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアを押して、［認証解除］を選択しても機械管理者モードを終了できます。
- 機械管理者モードを終了すると、〈認証〉ボタンは消灯します。

仕様設定メニュー一覧

設定できる項目の一覧です。表示される項目は、機械の構成によって異なります。

仕様設定メニュー一覧

共通設定

- 「システム時計 / タイマー設定」(P.171)
- 「節電モードの設定」(P.174)
- 「音の設定」(P.176)
- 「画面 / ボタンの設定」(P.178)
- 「用紙 / トレイの設定」(P.183)
- 「画質の設定 / 色・カラーレジの補正」(P.188)
- 「レポート設定」(P.191)
- 「保守」(P.192)
- 「複製管理」(P.197)
- 「ペーパーセキュリティー」(P.199)
- 「強制アノテーション」(P.202)
- 「UUID 印字」(P.204)
- 「イメージログ管理」(P.204)
- 「ジョブ終了時のメール通知設定」(P.207)
- 「プラグイン設定」(P.208)
- 「その他の設定」(P.208)

コピー設定

- 「基本コピー画面の表示機能」(P.229)
- 「プリセットボタンの設定」(P.230)
- 「コピー機能設定初期値」(P.230)
- 「コピー動作制御」(P.235)
- 「原稿サイズボタン」(P.238)
- 「固定倍率ボタン」(P.238)
- 「登録色」(P.238)
- 「アノテーションスタンプ登録」(P.239)

ネットワーク設定

- 「ポート設定」(P.240)
- 「無線 LAN 設定」(P.246)
- 「プロトコル設定」(P.247)
- 「本体メールアドレス / ホスト名」(P.252)
- 「プロキシサーバー設定」(P.253)
- 「EP プロキシサーバー設定」(P.254)
- 「次世代ネットワーク（NGN）設定」(P.255)
- 「SIP 設定」(P.256)
- 「T.38 設定」(P.259)
- 「メール送受信設定」(P.260)
- 「外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定」(P.262)
- 「セキュリティ設定」(P.268)
- 「その他の設定」(P.273)

プリンター設定

- 「メモリー設定」(P.275)
- 「フォーム削除」(P.277)
- 「Google クラウドプリント登録」(P.278)
- 「その他の設定」(P.278)

スキャナー設定

- 「スキャナー画面表示設定」(P.284)
- 「スキャナー機能設定初期値」(P.285)
- 「PC 保存機能設定初期値」(P.288)
- 「読み取りサイズボタン」(P.289)
- 「出力サイズボタン」(P.289)
- 「固定倍率ボタン」(P.289)
- 「その他の設定」(P.290)

ファクス設定

- 「ファクス画面表示設定」(P.293)
- 「ファクス機能設定初期値」(P.294)
- 「ファクス動作制御」(P.295)
- 「受信文書の保存先 / 排出先」(P.303)
- 「固定倍率ボタン」(P.305)
- 「読み取りサイズボタン」(P.305)
- 「自局情報」(P.306)
- 「インターネットファクス動作制御」(P.307)

メール / インターネットファクス設定

- 「メール送信動作制御」(P.311)

宛先表設定

- 「宛先表設定」(P.314)

ボックス設定

- 「ボックス設定」(P.315)

ジョブフロー設定

- 「ジョブフロー設定」(P.317)

メディアプリント設定

- 「メディアプリント設定」(P.319)

保存文書設定

- 「保存文書設定」(P.320)

外部アクセス設定

- 接続先の登録 (P.325)
- その他の設定 (P.327)

Web ブラウザー設定

- 「Web ブラウザー設定」(P.328)

BMLinkS 設定

- 「BMLinkS 設定」(P.330)

リモートアシスタンス設定

- 「サービス起動待ち時間の上限」(P.331)

登録 / 変更

- 「ボックス登録」(P.332)
- 「ジョブメモリー登録」(P.335)
- 「ジョブフロー登録」(P.335)
- 「ジョブフロー検索キーワード登録」(P.345)
- 「宛先表登録 (短縮宛先登録)」(P.346)
- 「宛先グループ登録」(P.355)
- 「コメント登録」(P.356)
- 「用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定」(P.356)

集計管理

- 「ユーザー登録 / 集計確認」(P.357)
- 「登録内容の削除 / 集計リセット」(P.361)
- 「機械管理者のコピー集計確認」(P.362)
- 「集計管理機能の運用」(P.362)
- 「集計管理情報の設定」(P.363)
- 「ファクス課金データ設定」(P.364)

認証 / セキュリティ設定

- 「機械管理者情報の設定」(P.366)
- 「認証の設定」(P.367)
- 「強制印字の一時解除」(P.378)
- 「ジョブ操作の設定」(P.378)
- 「ハードディスクの上書き消去設定」(P.379)

共通設定

［共通設定］では、機械本体の共通機能に関連した項目を設定します。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［共通設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.162) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

システム時計 / タイマー設定

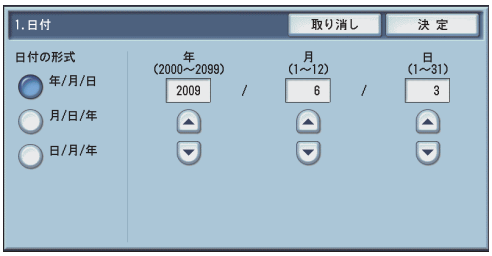
時刻をセットしたり、リセットなどの機能が働くまでの時間（タイマー）を設定したりします。

日付

本機のシステム時計の日付を指定します。ここで設定された日付が、リストやレポートにプリントされます。

1 ［日付］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

2 日付の形式を選択します。



3 ［年］、［月］、［日］を指定します。

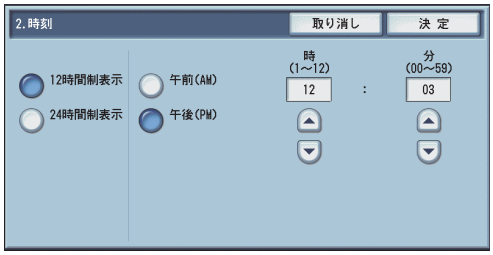
4 ［決 定］を押します。

時刻

本機のシステム時計の時刻を、12 時間制表示または 24 時間制表示で指定します。ここで指定された時刻がリストやレポートにプリントされます。

1 ［時刻］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

2 表示形式を選択します。



3 [12 時間制表示] を選択した場合は、[午前 (AM)] または [午後 (PM)] を選択します。

4 [時]、[分] を指定します。

5 [決 定] を押します。

時刻サーバー（NTP）と同期

時刻サーバー（NTP:Network Time Protocol）の時刻と同じになるように、サーバーから時刻を取得し、本機の時間を合わせることができます。

時刻サーバーに接続する場合は、[時刻サーバー (NTP) と同期] で [する] を選択し、[時刻サーバーアドレス] でサーバーの IP アドレスを指定します。

時刻サーバーの接続間隔

時刻サーバーに何時間ごとに接続するかを指定します。

1 ～ 500 時間の範囲で 1 時間単位で指定します。

時刻サーバーアドレス

時刻サーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

補足

- IPv4 の場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。
- IPv6 の場合、xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

自動リセット

何も操作をしない状態で一定の時間が経過したとき、自動的にリセットされる時間を指定します。

[する] を選択した場合は、10 ～ 900 秒の範囲で 1 秒単位で指定します。[しない] を選択した場合は、自動リセットされません。

補足

- [しない] を選択しても、原稿を読み込んでジョブに対する操作待ちになっている画面の状態で、操作を 1 分間しないと、操作待ちを解除し、読み込み済みの原稿の処理を開始します。
- Smart WelcomEyes が人を検知している間はタイマーが働きません。

ジョブ自動解除

コピーやスキャン中に、エラー（用紙の補給、原稿づまり、用紙づまりなど）が発生したとき、現在のジョブを解除して、次のジョブを実行できるまでの時間を指定

します。このとき、実行できるジョブは機械のエラーが発生している部分を使用しないものに限ります。

［する］を選択した場合は、1 分単位で指定します。指定しない場合は、［しない］を選択します。

補足

- Smart WelcomEyes が人を検知している間は、タイマーが働きません。

プリント起動

操作パネル（〈スタート〉ボタンと〈リセット〉ボタンは除きます）の操作後、何秒でプリントができるようになるかを設定します。

［する］を選択した場合は、1 ～ 240 秒の範囲で 1 秒単位で指定します。［しない］を選択すると、本機の準備ができたら、すぐにプリントします。

プリント禁止の設定

一時的にプリントを禁止させる設定ができます。

この機能を使用するには、メニュー画面の補助機能ボタンに［自動プリントを禁止する］を表示させる必要があります。

参照

- メニュー画面に［自動プリントを禁止する］を表示させる方法は、「機能ボタン / 補助機能ボタンの配列を変更する」(P.38) を参照してください。
- CentreWare Internet Services を使うと、さらに詳細な設定ができます。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

■手動で禁止する

メニュー画面の［自動プリントを禁止する］を押して、一時的にプリントを禁止できます。プリント禁止状態では、［自動プリントを許可する］が表示され、このボタンを押すとプリントが可能になります。

補足

- 電源スイッチを切 / 入したり、節電状態（低電力モード、スリープモード）のときに〈節電〉ボタンを押しただけでは、プリント禁止状態は解除されません。
- ［自動プリントを許可する］を押したときのプリント開始は、［プリント起動］の設定に従って動作するため、すぐにプリントされない場合があります。
- ［手動で禁止する］のチェックを外すと、［メニュー画面の補助機能配列］の［自動プリントを禁止する］が［(未設定)］になります。

タイムゾーン

GMT を基準に、-12 時間から +12 時間の範囲で設定できます。

補足

- GMT とは、Greenwich Mean Time（グリニッジ標準時）の略称です。

サマータイム

夏時間（サマータイム）を設定できます。夏時間（サマータイム）として設定した期間は、現在の時間に 1 時間加えた時刻になります。

［調整しない］、［月 / 日 / 時刻で指定して調整］または［月 / 週 / 曜日 / 時刻で指定して調整］から選択します。

［月 / 日 / 時刻で指定して調整］を選択した場合、［開始日］と［終了日］の月、日、時刻を設定します。

［月 / 週 / 曜日 / 時刻で指定して調整］を選択した場合、［開始日］と［終了日］の月、週、曜日、時刻を設定します。

暖機モード動作

本機内の結露を防止または軽減する暖機モードに移行するかどうかを設定します。

［しない］、［する］から選択できます。

［しない］に設定すると、暖機モードへ移行しません。［結露注意の表示］にチェックを付けると、本機が結露発生の可能性を感知したときに、メッセージを表示します。

［する］に設定すると、暖機モードの［開始時刻］と［継続時間］を指定できます。

［自動設定する］にチェックを付けると、結露の発生が一定期間続いたときに、自動で暖機モードを［する］に変更します。

［自動解除する］にチェックを付けると、結露しない状態が一定期間続いたときに、自動で暖機モードを［しない］に変更します。

補足

- お使いの製品によっては、カストマーエンジニアの設定が必要です。詳しくは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。
- 暖機モード動作中は、スリープモードに移行しません。

オンデマンド印刷の有効時間

外部アクセスを使用してプリントする場合の有効時間を設定します。印刷を指示したあと、ここで設定した時間以内に外部接続先からプリントデータを受信しないと、プリント指示が無効になります。

0 ～ 255 分までの範囲で 1 分単位で設定します。［0］に設定した場合は、タイムアウトしません。

補足

- 一度に大量の文書をプリント指示した場合や、処理に時間がかかる複雑な文書が含まれる場合、最後のページを受け付ける前にタイムアウトすることがあります。タイムアウトすると、受信したプリントデータはキャンセルされるので、使用状況を考慮して時間を設定してください。
- この機能は ApeosPort シリーズのみ利用できます。

節電モードの設定

節電モードに関する設定を行います。

節電モード移行時間

節電モードには、「低電力モード」と「スリープモード」があり、設定時間が経過すると次のように移行し、消費電力を下げます。

「本機を最後に操作」→「低電力モード」→「スリープモード」

補足

- 低電力モードおよびスリープモードに移行しないように設定することはできません。

参照

- 節電モード移行時間の設定方法は、「節電モード移行時間を変更する」(P.28) を参照してください。

■最終操作から低電力モードまで

最終操作から低電力モードに移行するまでの時間を、1 ～ 240 分の範囲で 1 分単位で設定します。

補足

- Smart　WelcomEyes が人を検知している間はタイマーが働きません。人を検知しているときは、Smart WelcomEyes の検知ランプ LED が点灯します。

■**最終操作からスリープモードまで**

最終操作からスリープモードまでに移行するまでの時間を 1 ～ 240 分の範囲で 1 分単位で設定します。

補足

- ［最終操作からスリープモードまで］の時間は、［最終操作から低電力モードまで］の時間と同じか、それより大きくなるように指定してください。
- ［最終操作からスリープモードまで］の時間が、［最終操作から低電力モードまで］の時間と同じ場合、低電力モードには移行せずにスリープモードに移行します。
- Smart　WelcomEyes が人を検知している間はタイマーが働きません。人を検知しているときは、Smart WelcomEyes の検知ランプ LED が点灯します。

自動プリント後の節電モード移行

プリントジョブやファクス / インターネットファクスのプリントが完了したあとの節電モードへの移行方法を設定します。

■**15 秒後に移行する**

15 秒後にスリープモードへ移行します。

■**節電モード移行時間に従う**

［節電モード移行時間］で設定した時間に従い、低電力モードまたはスリープモードへ移行します。

参照

- 節電モード移行時間の設定方法は、「節電モード移行時間を変更する」(P.28) を参照してください。

節電解除の制御

節電状態を解除するときに、使用する部分のみを解除するかどうかを設定します。

■**すべて解除する**

すべての節電状態を解除します。

■**使用する部分のみ解除する**

使用する部分のみ節電状態を解除します。

［常に有効］、［プリント時 / ジョブ自動処理時のみ有効］から選択します。

電源の自動制御

本機では、設定した時刻になると電源が自動的に切れるように設定できます。

■**しない**

本機の電源は自動的に切れません。

■**自動的に電源を切る**

ここで設定した時刻になると、本機の電源が自動的に切れます。

補足

- 工場出荷時には、［しない］が設定されています。
- ［自動的に電源を切る］が設定されていても、本機に紙づまりなどの異常が発生している場合や、ジョブや割り込みなどの処理を行っている場合には、電源は自動的に切れません。

Smart WelcomEyes

Smart WelcomEyes を稼働するかどうかを設定します。

■稼動する

Smart WelcomEyes による節電制御を［有効］または［無効］から選択します。

■稼動しない

Smart WelcomEyes の機能が無効になります。

スリープモードの設定

スリープモード中の動作を、省電力優先にするか復帰時間優先にするかを設定します。

補足

- 工場出荷時は、［省電力優先］に設定されています。
- ［省電力優先］に設定されている場合でも、本機の構成や機能設定によっては、本機の内部で［復帰時間優先］として動作することがあります。

■省電力優先

スリープモード時の消費電力は少なくなりますが、復帰時間は長くなります。

■復帰時間優先

復帰時間は短くなりますが、スリープモード時の消費電力は［ 省電力優先 ］選択時より多くなります。

音の設定

ジョブの終了や機械の異常などを知らせる音を、鳴らすかどうかを設定します。

正常入力音

操作パネル上のボタンを正しく選択したときに鳴る音量を設定します。

音量は、［大］、［中］、［小］から選択できます。音を鳴らさない場合は、［なし］を選択します。

異常入力音

選択できないボタンを選択したときや、エラーが発生しているときに操作をしたときに鳴る音量を設定します。

音量は、［大］、［中］、［小］から選択できます。音を鳴らさない場合は、［なし］を選択します。

基点音

トグル動作するボタン（繰り返し押すことで設定を切り替えることができるボタン）の、基準となる音量を設定します。本機では、〈割り込み〉ボタンの解除を受け付けたときに鳴ります。

音量は、［大］、［中］、［小］から選択できます。音を鳴らさない場合は、［なし］を選択します。

準備完了音

電源を入れたときなど、本機がコピーやプリントできる状態になったときに鳴る音量を設定します。

音量は、［大］、［中］、［小］から選択できます。音を鳴らさない場合は、［なし］を選択します。

正常終了音 1、2

ジョブが正常に終了したときに鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。

対象ジョブを選択できます。また、音程を選択できます。

異常終了音

ジョブが異常終了したときに鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。対象ジョブを選択できます。

自動リセット事前通知音

自動リセット機能を設定している場合に、自動的に初期画面に戻る 5 秒前に鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。

参照

- 自動リセットについては、「自動リセット」(P.172) を参照してください。

異常警告音

原稿や用紙が詰まるなどの異常が発生し、ジョブが異常状態のまま保留になったときに鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。

用紙切れ警告音

用紙トレイの用紙切れによって、ジョブが異常状態のまま保留になったときに鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。

トナー残量警告音

トナーカートリッジが交換時期になったときに鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。

ジョブメモリー登録音

ジョブメモリーの登録中に鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない設定はできません。

ジョブメモリー呼び出し完了音

登録したジョブメモリーの呼び出しが完了したときに鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。

ラインモニター音

ファクス送信時にダイヤルしてから、相手先に接続されるまでの間、電話回線上の音を本機のスピーカーから聞けるように設定できます。FAX 情報サービスを受話器を使用しないで利用するときなどに便利です。

音量は、［大］、［中］、［小］から選択できます。音を鳴らさない場合は、［なし］を選択してください。

呼び出しベル音

本機にファクスが着信したときに鳴る音量を設定します。

音量は、［大］、［中］、［小］から選択できます。音を鳴らさない場合は、［なし］を選択してください。

画面 / ボタンの設定

画面やボタンを設定します。

初期表示画面

電源を入れたり、節電状態を解除したときに表示する画面を設定します。

参照
- 詳しくは、「初期表示画面を変更する」(P.35) を参照してください。

自動リセット後の画面

自動リセット後の画面を設定します。

参照
- 詳しくは、「自動リセット後の画面を変更する」(P.36) を参照してください。

認証画面の自動表示

認証機能を利用している場合、電源を入れたり、節電状態を解除したときに、認証画面を自動的に表示するかどうかを設定します。

登録 1 ～ 3 ボタン

操作パネルの登録ボタン「登録 1」～「登録 3」に、コピーやボックス操作などの機能を割り当てることができます。機能を割り当てない場合は、［(未設定)］を選択します。

補足
- 工場出荷時は、「登録 1」には「コピー」が、「登録 2」には「ファクス」が、「登録 3」には「設定確認」が登録されています。

参照
- 詳しくは、「〈登録〉ボタンに機能を割り当てる」(P.43) を参照してください。

ワンタッチボタンの割り当て

ワンタッチボタンへの短縮宛先番号の割り当て数を設定します。

■タイプ 1

1 ～ 70 を短縮宛先番号（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0070 に対応）に、M01 と M02 をジョブメモリー（登録したジョブメモリーの 1 番と 2 番に対応）に設定します。

■タイプ 2

1 ～ 60 を短縮宛先番号（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0060 に対応）に、61 ～ 70、M01、M02 をジョブメモリー（登録したジョブメモリーの 1 番～ 12 番に対応）に設定します。

補足
- 工場出荷時は、［タイプ 1］が設定されています。

メニュー画面の機能配列

操作パネルのメニュー画面に表示する機能ボタンの配列を設定します。

参照
- 詳しくは、「機能ボタン / 補助機能ボタンの配列を変更する」（P.38）を参照してください。

メニュー画面の補助機能配列

操作パネルのメニュー画面に表示する補助機能ボタンの配列を設定します。

補足
- 補助機能ボタンに［登録 / 変更］を表示させないときは、［機械管理者のみ表示］にチェックを付けます。機械管理者モード以外では、本機の登録、変更ができなくなります。

参照
- 詳しくは、「機能ボタン / 補助機能ボタンの配列を変更する」（P.38）を参照してください。

実行完了画面のジョブ表示

操作パネルの〈ジョブ確認〉ボタンを押したときに表示される、［ジョブ確認］画面の［実行完了］画面に表示するジョブの種類の初期値を設定します。

［すべて］、［プリント］、［スキャン / 通信］、［ジョブフロー / 自動転送］から選択します。

初期表示言語

本機で表示する言語を切り替えることができます。

言語の切り替え操作には、機械管理者モードから設定する方法と、一般ユーザーが設定する方法の 2 つがあります。

- 機械管理者モードから設定する

  本機の電源を入れたときの標準言語になり、電源を切って、入れ直しても設定は保持されます。

- 一般ユーザーが設定する

  メニュー画面の［言語切り替え Language］で言語を設定します。本機の電源を切って、入れ直すと、設定は無効になります。

注記
- 英語に設定する場合は、ASCII 文字以外の文字は入力しないでください。
- メニュー画面の［言語切り替え Language］で英語に切り替えた場合、宛先名やジョブフローの［内容確認］などが日本語で作成されていると正しく表示されないことがあります。
- 日本語以外に設定しているときに、CentreWare Internet Services を使って、日本語を含んだ CSV ファイル* をインポートすると、文字化けが発生したり、正しくインポートできない場合があります。

  * 表計算ソフトやデータベースソフトがデータを保存するときに使う、カンマ（,）で区切ったファイル形式

画面輝度調整

操作パネルの画面の明るさを、-16 ～ +16 の範囲で調整できます。

宛先確認 - メール

メール送信時に宛先を確認する画面を表示するかどうかを設定します。

［しない］、［常にする］、［複数宛先時のみする］から選択します。

宛先確認 - ファクス / インターネットファクス

ファクス / インターネットファクス /IP ファクス（SIP）の宛先指定時や送信時に、宛先を確認する画面を表示するかどうかを設定します。

■基本画面での宛先確認

［しない］、［常にする］、［複数宛先時のみする］から選択します。

■基本画面以外でのスタート動作

［スタート禁止］、［スタート許可］から選択します。

補足

- ［スタート禁止］を選択した場合、基本画面以外では宛先確認を利用できません。

■基本画面以外での宛先確認

［しない］、［常にする］、［複数宛先時のみする］から選択します。

補足

- ［基本画面以外でのスタート動作］で［スタート禁止］を選択した場合、この項目は表示されません。
- ［基本画面での宛先確認］で［複数宛先時のみする］を選択した場合、この項目で［しない］は選択できません。［基本画面での宛先確認］で［常にする］を選択した場合、この項目で［しない］、［複数宛先時のみする］は選択できません。

宛先確認ボタン - メール

メール送信時にメモリー残量を確認する画面を表示するかどうかを設定します。

［表示しない（メモリー残量を表示）］、［表示する］から選択します。

宛先確認ボタン - ファクス / インターネット

ファクス / インターネットファクス /IP ファクス（SIP）の送信時にメモリー残量を確認する画面を表示するかどうかを設定します。

［表示しない（メモリー残量を表示）］、［表示する］から選択します。

USB メモリー検出時の画面表示

USB メモリー差込口に USB メモリーを挿入したときに、画面表示を切り替えるかどうかと、切り替える場合の画面を設定できます。

［しない］、［スキャナー（USB メモリー保存）］、［文書プリント］、［デジカメプリント］、［機能選択画面］から選択します。

補足

- ［機能選択画面］を選択すると、USB メモリー挿入時に［USB メモリー検出］画面が表示され、［スキャナー（USB メモリー保存）］、［文書プリント］、［デジカメプリント］のいずれかを選択できます。
- 本機の電源が入っていないときに USB メモリーを挿入した状態で、電源を入れた場合は、メニュー画面が表示されます。
- 節電中は、USB メモリー差込口に USB メモリーを差し込んでも、タッチパネルディスプレイは点灯しません。〈節電〉ボタンを押して節電状態を解除してから、USB メモリーを差し込みなおすか、メニュー画面から利用する機能を選択してください。
- 市販のメモリーカードリーダーを本機の USB メモリー差込口に常時差し込んである場合、そのメモリーカードリーダーにメディアを挿入しても、画面は切り替わりません。

消耗品情報画面の表示

交換が必要な消耗品がある場合に、消耗品の状態を自動的に表示させるかどうかを設定します。

■しない

消耗品情報画面を表示しません。

■電源投入時

電源を入れたときに表示します。

■自動リセット時

自動リセットされたときに表示します。

キーボード入力制限

本機で表示される仮想キーボードの表示方法を制限するかどうかを設定します。異なる文字セット間での言語切り替え時に、文字化けと誤動作を防止するために、入力範囲を ASCII だけに制限できます。［する（ASCII のみ）］を選択すると、表示されるキーボードは ASCII 文字だけになります。

アップダウンボタンの操作

スクロールボタンを押し続けたときに、スクロール動作を実施するかどうかを設定します。

フリック / ダブルタップ操作

本機のタッチパネルディスプレイでフリックやダブルタップ操作などを有効にするかどうかを設定します。［無効］、［有効］から選択します。

本機能の設定によりフリック / ダブルタップ操作のほか、メニュー画面のデザインや画面効果が異なります。［無効］、［有効］により異なる操作や画面効果は以下の通りです。



アイコンスタイル



ボタンスタイル

画面		画面操作 / 画面効果	有効	無効
メニュー		画面デザイン	アイコンスタイル	ボタンスタイル
		画面のスクロール方向	横方向	縦方向
		フリックによるページ切り替え	○	×
		ドラッグによるページ切り替え	○	×
プレビュー	サムネールビュー	タップによるページビューの表示	○	○
		フリックによるページ切り替え	○	×

○：できる、×：できない

画面		画面操作 / 画面効果	有効	無効
		ドラッグによるページ切り替え	○	○
	ページビュー	フリックによるページ切り替え	○	×
		ドラッグによるページ切り替え	○	×
		前後プレビューイメージのタップによるページ切り替え	○	×
		タップによるページ切り替えボタンとサムネールバーの表示切り替え	○	×
		ダブルタップによる拡大ビューの表示	○	×
	拡大ビュー	フリックによる拡大画像の表示位置の移動	○	×
		ドラッグによる拡大画像の表示位置の移動	○	○
		スライダーのドラッグによる画面サイズの拡大 / 縮小	○	○
		ダブルタップによる画面サイズの拡大 / 縮小	○	×
		タップによるスライダーとサムネールバーの表示切り替え	○	×
		ドラッグによるページ切り替え	○	×

○：できる、×：できない

ダブルタップの間隔

本機の操作パネルでダブルタップ操作をしたときに、ダブルタップとして認識される間隔を設定できます。

［短め］、［標準］、［長め］から選択します。

セキュリティ警告 - 機械管理者設定

機械管理者の UserID とパスワードが初期値のまま、本機または CentreWare Internet Services に機械管理者モードで入ったとき、セキュリティ警告画面を表示するかどうかを設定します。

［警告画面を表示しない］、［警告画面を表示する］から選択します。

セキュリティ警告 -SNMP 設定

SNMP プロトコルの設定で、コミュニティ名や認証用パスワードが初期値のまま、本機または CentreWare Internet Services に機械管理者モードで入ったとき、セキュリティ警告画面を表示するかどうかを設定します。

［警告画面を表示しない］、［警告画面を表示する］から選択します。

補足

- SNMP プロトコルの設定は、CentreWare Internet Services で設定します。
  詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

セキュリティ警告 - グローバル IP アドレス

本機にグローバル IP アドレスが設定され、かつ［認証方式の設定］が［認証しない］に設定されている状態で、本機または CentreWare Internet Services に機械管理者モードで入ったとき、セキュリティ警告画面を表示するかどうかを設定します。

［警告画面を表示しない］、［警告画面を表示する］から選択します。

用紙 / トレイの設定

トレイにセットする用紙の種類や優先順位の設定など、用紙やトレイに関連する項目を設定します。

ユーザー用紙属性の名称設定

［用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定］の［用紙種類］で選択できるユーザー用紙 1 ～ 5、［色］で選択できるユーザー色 1 ～ 5 に名称を付けられます。

名称はひらがな、カタカナ、漢字、英数字、記号を使って、全角 12 文字（半角 24 文字）まで設定できます。

たとえば、色付きの用紙に「色紙」と付けたり、上質紙に「表紙用」と付けるなど、用途に応じた名称を付けることもできます。

補足

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.50) を参照してください。

用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定

用紙トレイにセットする用紙のサイズや種類などを設定します。

参照

- 詳しくは、「用紙の設定を変更する」(P.75) を参照してください。

■設定変更

用紙トレイにセットする用紙のサイズや自動選択条件を変更するときは、このボタンを押して変更します。

用紙トレイに非定形サイズの用紙をセットする場合は、［サイズ入力］を選択して、たてよこのサイズを指定します。定形サイズの用紙をセットする場合は、［自動サイズ検知］を選択します。

注記

- 紙づまりやエラーの原因になることがあるので、ガイドを用紙サイズに合わせてください。また、トレイを検知できないことがあります。そのような場合は、トレイ 5 (手差し) を使用してください。

◆用紙種類

用紙トレイにセットする用紙の種類を選択します。

参照

- 詳しくは、「使用できる用紙の種類」(P.55) を参照してください。

◆用紙サイズ

3 トレイモジュールが取り付けられている場合、トレイ 1 ～ 4 は、定形サイズの用紙と非定形サイズの用紙をセットできます。非定形サイズの用紙は［サイズ入力］を選択し、用紙サイズのたてとよこをそれぞれ入力します。トレイ 1 は、X 方向（よこ）を 148 ～ 432mm、Y 方向（たて）を 100 ～ 297mm の範囲で 1mm 単位で指定します。トレイ 2 ～ 4 は、X 方向（よこ）を 148 ～ 457mm、Y 方向（たて）を 100 ～ 320mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

タンデムトレイモジュールが取り付けられている場合、トレイ 1 と 2 は、定形サイズの用紙と非定形サイズの用紙をセットできます。非定形サイズの用紙は［サイズ入力］を選択し、用紙サイズのたてとよこをそれぞれ入力します。トレイ 1 は、X

方向（よこ）を 148 ～ 432mm、Y 方向（たて）を 100 ～ 297mm の範囲で 1mm 単位で指定します。トレイ 2 は、X 方向（よこ）を 148 ～ 457mm、Y 方向（たて）を 100 ～ 320mm の範囲で 1mm 単位で指定します。トレイ 3 と 4 は定型サイズの用紙のみセットできます。

トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））は、定形サイズの用紙だけセットできます。定形サイズの用紙を使用する場合は、［自動サイズ検知］を選択します。

◆色

用紙の色を設定できます。ここで設定した色は、［用紙選択］画面の［用紙の色］に表示されます。

◆自動選択条件

自動トレイ選択の条件を設定します。ここで設定したカラーモードのときに、自動トレイ選択の対象になります。［すべてのカラーモード］、［[カラー] 選択時］、［[白黒] 選択時］から選択します。

自動トレイ選択とは、適切な用紙がセットされたトレイを、機械が自動的に選択してコピーやプリントすることです。

用紙選択画面の補助属性表示

［用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定］の［用紙サイズ］または［自動選択条件］で設定した内容を、用紙選択の画面に表示するかどうかを設定します。

■表示しない

設定した内容を表示しません。

■用紙サイズの設定方法

［用紙サイズ］で設定した内容を表示します。

■自動選択条件

［自動選択条件］で設定した内容を表示します。

登録 / 変更画面からのトレイ設定変更

［用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定］を、［登録 / 変更］画面に表示するかどうかを設定します。

機械管理者モードに入らなくても、用紙トレイの用紙サイズや用紙種類を設定できるようになります。

トレイセット時の用紙変更画面表示

用紙トレイを出し入れしたときに、対象トレイの設定変更画面（[用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定］画面）を表示するかどうかを設定します。

設定できるのは、用紙トレイ 1 ～ 4、6（オプション）です。トレイ 5（手差し）は設定できません。

用紙トレイの優先順位

自動トレイ選択時に同一サイズ、同一方向の用紙が複数セットされている場合、およびプリントデータに用紙サイズ、用紙トレイの指定がない場合に、使用する用紙トレイの優先順位を設定します。

自動トレイ選択とは、適切な用紙がセットされたトレイを、機械が自動的に選択してコピーやプリントすることです。

設定できるのは、用紙トレイ 1 ～ 4、6（オプション）です。トレイ 5（手差し）は設定できません。

補足

- 論理プリンターの使用時、プリンタードライバーで用紙トレイを指定した場合、本設定は、無視されます。

用紙種類の優先順位

自動トレイ選択時に同一サイズ、同一方向の用紙が複数セットされている場合に、使用する用紙種類がセットされた用紙トレイの優先順位を設定します。

自動トレイ選択とは、適切な用紙がセットされたトレイを、機械が自動的に選択してコピーやプリントすることです。

設定できるのは、普通紙、上質紙、上質紙 A、上質紙 B、再生紙、うら紙、うす紙、厚紙 1、厚紙 1（A）、厚紙 1（B）、厚紙 1（C）、厚紙 1（S）、コート紙 1、コート紙 1（A）、コート紙 1（B）、コート紙 1（C）、ユーザー定義用紙 1 ～ 5 です。

用紙トレイの優先順位よりも、用紙種類の設定が優先されます。

ただし、異なる用紙種類に同じ優先順位を設定した場合は、トレイの優先順位によって、選択される用紙が決まります。また、［自動トレイ選択しない］に設定した用紙種類がセットされているトレイは、自動トレイ選択の対象にはなりません。

参照

- 詳しくは、「用紙トレイの優先順位」（P.185）を参照してください。

トレイ 5（ 手差し ）定形サイズボタン

トレイ 5（手差し）でコピーする場合、［用紙選択］の［トレイ 5(手差し)］画面に表示する用紙サイズを設定します。

［定形サイズ］ボタンに、ここで設定した用紙サイズを割り当てることができます。

非定形サイズの用紙に頻繁にコピーする場合など、あらかじめ設定しておくと、コピーのたびに用紙サイズを入力する手間が省けます。また、よく使う用紙サイズを上の方に設定しておくことで、より使いやすくなります。

■A 系 B 系表示

A 系、B 系のサイズから選択できます。

■インチサイズ表示

インチ系のサイズから選択できます。

■その他

そのほかのサイズから選択できます。

■サイズ入力

任意のサイズを入力できます。X（よこ）方向が 98 ～ 483mm、Y（たて）方向が 89 ～ 320mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

自動トレイ動作制御

選択しているトレイの用紙がなくなったときに、切り替えるトレイを設定したり、対象用紙を設定します。

■自動トレイ切り替え

［常に切り替える］、［[自動] 選択時切り替える］、［同一用紙種類 / 色で切り替え］から選択します。

［[自動] 選択時切り替える］は、［コピー］画面やプリンタードライバーの［用紙トレイ選択］で［自動］を選択しているときに切り替えます。

補足

- 次の場合、自動的にトレイは切り替わりません。
  - 用紙トレイ 5（手差し）を選択している場合
  - ［用紙トレイの優先順位］で、［自動トレイ切り替え対象外］に設定されているトレイを選択している場合

■対象用紙種類（コピー）

用紙種類を選択できます。

［優先順位に従う］を選択すると、［用紙種類の優先順位］に従って動作します。［指定用紙種類のみ］を選択すると、用紙の種類が指定できます。

■対象用紙色（コピー）

対象をすべての用紙色にするか、または指定できます。

用紙種類別画質処理

普通紙、上質紙、再生紙、うら紙、厚紙 1、厚紙 1（ウラ面）、厚紙 2、厚紙 2（ウラ面）、厚紙 3、厚紙 3（ウラ面）、コート紙 1、コート紙 1（ウラ面）、コート紙 3、コート紙 3（ウラ面）、封筒、ユーザー用紙 1 ～ 5 の各用紙に、画質の処理方法が設定できます。

本機は、コピーやプリントをするとき、［用紙種類別画質処理］で設定している用紙の種類と、その用紙種類に設定されている画質処理によって、画質をコントロールします。

設定できる項目は、次の表を参照してください。

参照

- 用紙の特長と使用上の注意は、「使用できる用紙の種類」（P.55）を参照してください。

設定値	内　容
普通紙（A）（64 ～ 70g/m^2）	普通紙、穴あき紙、ユーザー用紙 1 ～ 4 の初期設定です。坪量 64 ～ 70g/m^2 の用紙に該当します。P 紙に該当します。
普通紙（B）（71 ～ 82g/m^2）	坪量 71 ～ 82g/m^2 の用紙に該当します。J 紙に該当します。
普通紙（S）（64 ～ 82g/m^2）	カスタム設定用です。ユーザー用紙 5 の初期設定です。
上質紙（A）（83 ～ 90g/m^2）	坪量 83 ～ 90g/m^2 の用紙に該当します。
上質紙（B）（91～105g/m^2）	上質紙の初期設定です。坪量 91 ～ 105g/m^2 の用紙に該当します。
再生紙（A）（64 ～ 70g/m^2）	再生紙の初期設定です。坪量 64 ～ 70g/m^2 の用紙に該当します。
再生紙（B）（71 ～ 82g/m^2）	坪量 71 ～ 82g/m^2 の用紙に該当します。

設定値	内　容
再生紙 (C) (83 ～ 90g/m^2)	坪量 83 ～ 90g/m^2 の用紙に該当します。
再生紙(D) (91～105g/m^2)	坪量 91 ～ 105g/m^2 の用紙に該当します。
うら紙 (A) (64 ～ 70g/m^2)	うら紙の初期設定です。坪量 64 ～ 70g/m^2 の用紙に該当します。
うら紙 (B) (71 ～ 82g/m^2)	坪量 71 ～ 82g/m^2 の用紙に該当します。
うら紙 (S) (64 ～ 82g/m^2)	カスタム設定用です。
厚紙 1（A）(106 ～ 135g/m^2)	厚紙 1 の初期設定です。郵便はがき、植林木 100% で環境に配慮した用紙に適した画質設定です。坪量 106 ～ 135g/m^2 の用紙に該当します。
厚紙 1（B）(136 ～ 157g/m^2)	郵便はがきに適した画質設定です。
厚紙 1（C）(158 ～ 176g/m^2)	郵便はがきに適した画質設定です。
厚紙 1（S）(106 ～ 176g/m^2)	通常は設定しないでください。
厚紙 1（A）（ウラ面）(106 ～ 135g/m^2)	厚紙 1 うらの初期設定です。厚紙 1（A）の裏面に適した画質設定です。
厚紙 1（B）（ウラ面）(136 ～ 157g/m^2)	厚紙 1（B）の裏面に適した画質設定です。
厚紙 1（C）（ウラ面）(158 ～ 176g/m^2)	厚紙 1（C）の裏面に適した画質設定です。
厚紙 1（S）（ウラ面）(106 ～ 176g/m^2)	通常は設定しないでください。
厚紙 2（A）(177 ～ 220g/m^2)	厚紙 2、はがき の初期設定です。植林木 100% で環境に配慮した用紙、郵便はがきに適した画質設定です。坪量 177 ～ 220g/m^2 の用紙に該当します。
厚紙 2（S）(177 ～ 220g/m^2)	通常は設定しないでください。
厚紙 2（A）（ウラ面）(177 ～ 220g/m^2)	厚紙 2 うらの初期設定です。厚紙 2（A）の裏面に適した画質設定です。
厚紙 2（S）（ウラ面）(177 ～ 220g/m^2)	通常は設定しないでください。
厚紙 3（A）(221 ～ 256g/m^2)	坪量 221 ～ 256g/m^2 の用紙に該当します。
厚紙 3（B）(257 ～ 300g/m^2)	厚紙 3 の初期設定です。坪量 257 ～ 300g/m^2 の用紙に該当します。
厚紙 3（S）(221 ～ 300g/m^2)	通常は設定しないでください。
厚紙 3（A）（ウラ面）(221 ～ 256g/m^2)	厚紙 3（A）の裏面に適した画質設定です。
厚紙 3（B）（ウラ面）(257 ～ 300g/m^2)	厚紙 3 うらの初期設定です。厚紙 3（B）の裏面に適した画質設定です。

設定値	内　容
厚紙 3（S）（ウラ面）（221 ～ 300g/m^2）	通常は設定しないでください。
コート紙 1（A）（106 ～ 135g/m^2）	コート紙 1 初期設定です。坪量 106 ～ 135g/m^2 の用紙に該当します。
コート紙 1（B）（136 ～ 157g/m^2）	坪量 136 ～ 157g/m^2 の用紙に該当します。
コート紙 1（C）（158 ～ 176g/m^2）	坪量 158 ～ 176g/m^2 の用紙に該当します。
コート紙 1（A）（ウラ面）（106 ～ 135g/m^2）	コート紙 1 うらの初期設定です。コート紙 1（A）の裏面に適した画質設定です。
コート紙 1（B）（ウラ面）（136 ～ 157g/m^2）	コート紙 1（B）の裏面に適した画質設定です。
コート紙 1（C）（ウラ面）（158 ～ 176g/m^2）	コート紙 1（C）の裏面に適した画質設定です。
コート紙 3（A）（221 ～ 256g/m^2）	坪量 221 ～ 256g/m^2 の用紙に該当します。
コート紙 3（B）（257 ～ 300g/m^2）	コート紙 3 初期設定です。坪量 257 ～ 300g/m^2 の用紙に該当します。
コート紙 3（A）（ウラ面）（221 ～ 256g/m^2）	コート紙 3（A）の裏面に適した画質設定です。
コート紙 3（B）（ウラ面）（257 ～ 300g/m^2）	コート紙 3 うらの初期設定です。コート紙 3（B）の裏面に適した画質設定です。
封筒	封筒の初期設定です。

画質の設定 / 色・カラーレジの補正

画質に関する設定を行います。

画質の設定

機械が原稿を読み取るときの、画質の処理方法について設定できます。

■文字 / 写真分離レベル

［画質調整］画面にある、［原稿の画質］の［文字 / 写真］でコピーする場合、機械が原稿を読み取るときに、文字か写真かを判別するレベルを変更できます。

［文字より］を選択すると、極細文字などが文字と認識しやすくなります。

［写真より］を選択すると、新聞やチラシなどの網点画像を写真と認識しやすくなります。

■白黒 / カラー分離レベル

［コピー］画面にある、［カラーモード］の［自動］でコピーするとき、機械が原稿を、白黒かカラーかを判別するレベルが 5 段階で変更できます。

［白黒より］を選択すると、白黒原稿と認識しやすくなります。

［カラーより］を選択すると、カラー原稿と認識しやすくなります。

■写真部分再現レベル（カラーコピー）

［画質調整］画面にある、［原稿の画質］の［文字 / 写真］でコピーするとき、機械が写真と判別した画像の色再現を調整できます。

［文字より］を選択すると、画像の高濃度部が強調され、はっきりとしたコピー結果になります。

［写真より］を選択すると、淡い色の再現が向上し、画像の写真部分の階調が滑らかになります。

■写真の画質処理（コピー）

［写真の画質処理（コピー）］は、［画質調整］画面にある、［原稿の画質］の［写真］でコピーしたときに有効な値です。

［速度優先］を選択すると、速度を低下することなくコピーできます。

［画質優先］を選択すると、より原稿に近い画質でコピーできます。

補足
- 画質優先を選択すると、コピーの速度が低下することがあります。

■地色除去方式（カラーコピー）

カラーでコピーするときの地色除去の方式を設定します。

地色除去とは、色紙などの原稿で背景に色がある場合、自動的に色の濃度を検出し、背景の色の読み取りを抑える機能です。

［速度優先］を選択すると、原稿の一部分をサンプリングして地色レベルを検出します。

［画質優先］を選択すると、プリスキャンを行い、原稿全体をサンプリングして地色レベルを検出します。

注記
- ［画質優先］に設定した場合、［コピー位置 / とじしろ］で［コーナー移動］を設定し、［倍率選択］で 60% 以下の倍率を設定した場合、画像欠けや白紙コピーが発生することがあります。

■地色除去方式（白黒コピー）

白黒でコピーするときの地色除去の方式を設定します。

地色除去とは、色紙などの原稿で背景に色がある場合、自動的に色の濃度を検出し、背景の色の読み取りを抑える機能です。

［速度優先］を選択すると、原稿の一部分をサンプリングして地色レベルを検出します。

［画質優先］を選択すると、プリスキャンを行い、原稿全体をサンプリングして地色レベルを検出します。

注記
- ［画質優先］に設定した場合、［コピー位置 / とじしろ］で［コーナー移動］を設定し、［倍率選択］で 60% 以下の倍率を設定した場合、画像欠けや白紙コピーが発生することがあります。

■地色除去方式（スキャナー）

スキャンするときの地色除去の方式を設定します。

機械が原稿の背景の色の濃度を検出し、地色として除去するときの処理方法を設定します。

［速度優先］を選択すると、原稿の一部分をサンプリングして地色レベルを検出します。

［画質優先］を選択すると、プリスキャンを行い、原稿全体をサンプリングして地色レベルを検出します。

■**イメージエンハンス**

イメージエンハンスをするかどうかを設定できます。［する］に設定すると、イメージにスムージング処理をして、滑らかに見せます。

ここでの設定は、コピーとファクスの出力結果に反映されます。

自動階調補正

プリント画質の色階調がずれた場合に、階調を補正します。補正することによって、本機のプリント画質を一定の品質に保てます。

補足

- 自動階調補正を定期的に実行しても色階調が補正されない場合、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

参照

- 詳しくは、「自動階調補正を行う」(P.120) を参照してください。

■**スクリーン種別**

［コピー用スクリーン 1］、［コピー用スクリーン 2］、［プリンター用スクリーン 1］、［プリンター用スクリーン 2］から選択します。

参照

- 詳しくは、「自動階調補正を行う」(P.120) を参照してください。

■**用紙選択**

用紙トレイを選択します。

■**適用範囲**

［コピー / プリンター］、［コピーのみ］、［プリンターのみ］、［適用しない］から選択します。

カラーレジ補正

印刷結果に色版のずれが発生した場合は、カラーレジを補正します。

［実行］を押すとカラーレジ補正を実行します。

注記

- 機械の性能に影響が出るおそれがありますので、カラーレジ補正を連続して実行しないでください。

両面読み取り色補正

自動両面原稿送り装置の表と裏の読み取り色を補正します。

［チャート出力して補正］を選択して［実行］を押すと、補正用のチャートが出力されます。

出力されたチャートを最初は印刷面を上向きにして、次に印刷面を下向きにして、原稿送り装置に読み込ませ、色補正を実行します。

［前回の設定に戻す］を選択して［実行］を押すと前回の設定に戻り、［工場出荷時の設定に戻す］を選択して［実行］を押すと工場出荷時の設定に戻ります。どちらの場合も、終了時にタッチパネルディスプレイにメッセージが表示されます。

参照

- 詳しくは、「両面読み取り色補正を行う」(P.124) を参照してください。

■**用紙選択**

用紙トレイを選択します。

レポート設定

レポートのプリントに関する設定をします。

レポート出力ボタンの表示

〈機械確認（メーター確認)〉ボタンを押して、表示される［機械状態レポート出力］画面の［レポート / リストの出力］と、［エラー情報］画面の［エラー履歴レポート］の表示方法を設定します。［しない］に設定すると、機械管理者モードのときだけ表示します。［する］に設定すると、機械管理者モード以外でも表示します。

参照
- レポート/リストの出力については、「レポート/リストの出力」(P.135)を参照してください。エラー履歴レポートについては、「エラー情報」(P.154) を参照してください。

ジョブ履歴レポート

処理を行ったジョブの合計が 50 件になったときに、ジョブ履歴レポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。自動的にプリントされるレポートは、すべてのジョブが印字されます。

参照
- ジョブ履歴レポートを手動でプリントする方法は、「レポート/リストの出力」(P.135)を参照してください。

通信管理レポート

通信結果の合計が 100 件になったときに、通信管理レポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

参照
- 通信管理レポートについては、「通信管理レポート」(P.943) を参照してください。
- 通信管理レポートを手動でプリントする方法は、「ジョブ確認 / 通信管理レポート」(P.136) を参照してください。

未送信レポート

未送信レポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

取消し文書の未送信レポート

通信を中止した文書の未送信レポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

親展受信レポート

親展受信レポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

同報 / 集信レポート

同報レポート、集信レポートをプリントするかどうかを設定できます。

■ 自動出力しない

送信が成功したか失敗したかにかかわらず、レポートをプリントしません。

■ 自動出力する

送信が成功したか失敗したかにかかわらず、レポートを自動的にプリントします。

■ 通信エラー時のみ自動出力

通信エラーが発生した場合のみ、レポートをプリントします。レポートの記載内容を［すべての通信]、［エラーが発生した通信のみ］から選択します。

転送モニターレポート

スキャンしたデータをネットワーク上のコンピューターへ転送したときや、スキャンしたデータをメール送信したときの、データの送信結果をプリントするかどうかを設定できます。

■自動出力しない

データの送信が成功したか失敗したかにかかわらず、レポートをプリントしません。

■自動出力する

データの送信に成功したときにはモニターレポートを、データの送信に失敗したときには未送信レポートを、それぞれ自動的に出力します。

■未送信レポートのみ出力

データの送信に失敗したときに、未送信レポートをプリントします。

レポートの両面プリント

レポート / リストをプリントするときに、片面でプリントするか両面でプリントするかを設定します。

通信管理レポート - 相手表示

相手先の情報のどの部分を通信管理レポートに印字するかを設定します。

通信管理レポート - カード番号

通信管理レポートにカード番号を表示させるかどうかを設定します。カード番号が1 ～ 9999999 の場合に印字されます。

補足

- この項目は、DocuLyzer（別売）を装着している場合に表示されます。

ジョブフローエラーレポート

ジョブフローエラーレポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

本機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

保守

点検 / 修理の依頼やハードディスクの初期化ができます。

点検 / 修理依頼

EP システムを利用している場合、機械の点検や修理が必要になったときに、本機が弊社のカストマーコンタクトセンターに連絡します。連絡を受けると、必要に応じて、カストマーエンジニアが訪問します。

補足

- EP システムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、担当の営業または販売店にお問い合わせください。

参照

- 詳しくは、「EP システムについて」(P.947) を参照してください。

EP 診断 / 修理依頼

インターネットを使った EP システムを利用している場合、本機の点検や修理が必要になったときに、本機が弊社のカストマーコンタクトセンターに連絡します。連絡を受けると、必要に応じて、カストマーエンジニアが訪問します。

補足
- EP システムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、担当の営業または販売店にお問い合わせください。

参照
- 詳しくは、「EP システムについて」(P.947) を参照してください。

EP 通信確認

インターネットを使った EP システムを利用している場合、本機と弊社の間で通信が正常に行われるかを確認できます。

補足
- EP システムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、担当の営業または販売店にお問い合わせください。

参照
- 詳しくは、「EP システムについて」(P.947) を参照してください。

ハードディスク初期化

ハードディスクにあるデータを初期化します。

初期化によって消去されるデータは、追加フォント、ART EX、ART IV、PC-PR201H（オプション）、ESC/P、HP-GL/2（オプション）の各フォーム、ART IV ユーザー定義データです。

補足
- セキュリティープリント文書やログは、消去されません。

データの一括削除

本機に登録 / 設定されているデータをすべて削除します。十分ご確認のうえ、機能を実行してください。

注記
- データの一括削除には、数十分～数時間の時間がかかる場合があります（お使いの機械の構成やハードディスクの容量などにより異なります）。

ソフトウェアオプションの設定

この機能は、カストマーエンジニアが設定します。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアバージョンアップ

EP システムを利用している場合、本機のソフトウェアのバージョンアップが必要になったときに、ソフトウェアを更新するための機能です。

ソフトウェア更新をすぐに実行したり、日時を指定して実行したりすることができます。

注記
- ソフトウェアがダウンロードされると、自動的に再起動して、ソフトウェアの更新を行います。そのあと再起動し、メニュー画面が表示されたらソフトウェアバージョンアップは終了です。ソフトウェアバージョンアップが終了するまで、電源は切らないでください。

補足
- 本機能を利用するには、EP システムのご利用に加えて専用の契約が必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- EP システムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、担当の営業または販売店にお問い合わせください。
- この機能は、3Gnet-BOX 経由では利用できません。

参照
- 詳しくは、「EP システムについて」(P.947) を参照してください。

1 ［ソフトウェアバージョンアップ］を押します。

■バージョンアップ実行

すぐにバージョンアップを行います。

■日時を指定して実行

［する］を選択し、バージョンアップを実行する日時を指定します。

機械起動時のプログラム診断

本機の電源を入れ、起動させたときに、プログラム診断をするかどうかを設定します。

プログラム診断で意図的なプログラムの書き換えなどの異常が見つかった場合は、起動を停止し、監査ログに記録します。

補足
- プログラム異常の状態によっては、監査ログに記録されない場合があります。
- 本機が起動しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

IC カード情報の確認

［IC カード情報の確認］を選択し、ご利用の IC カードを IC カードリーダーにタッチすると、IC カードの情報がタッチパネルディスプレイに表示されます。

補足
- 認証に使用する情報は、CentreWare Internet Services で設定します。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

アライメント調整の設定

用紙にプリントする出力イメージ（直角度（菱形変形）、倍率、印字位置）を調整します。

■ **自動アライメント補正**

出力サンプルをスキャンして読み込み、画像の解析を行い、調整値を設定します。

補足

- 手順については、「出力イメージの自動位置調整（自動アライメント調整）」(P.795) を参照してください。

■ **手動アライメント補正**

各トレイの調整値を手動で指定して補正します。

トンボを付けてプリントするときや、用紙をカットするときなど、用紙のおもてとうらのプリント位置を合わせたいときに使用します。

補足

- 手順については、出力イメージの手動位置調整（手動アライメント調整）(P.801) を参照してください。

面内ムラ調整

用紙にプリントする出力イメージの濃度のムラを調整します。

■ **自動面内ムラ調整**

出力サンプルをスキャンして読み込み、画像の解析を行い、調整値を決定します。

参照

- 詳しくは、「出力イメージの自動濃度調整（自動面内ムラ調整）」(P.808) を参照してください。

■ **手動面内ムラ調整**

調整値を手動で指定して補正します。

参照

- 詳しくは、「出力イメージの手動濃度調整（手動面内ムラ調整）」(P.811) を参照してください。

フィニッシャーの調整

オプションのフィニッシャー B1、フィニッシャー C3 と中とじユニットやパンチユニット装着時に表示されます。

■ **パンチユニットの設定**

2/4 穴パンチユニットか 2/3 穴パンチユニット（US 規格）かを設定します。

■ **製本折り位置の調整**

製本折り位置を、B4 未満 / 以上の場合で設定します。

■ **紙折り位置の調整**

用紙の種類ごとに紙折りの位置を調整し、10 種類のタイプに設定できます。設定したタイプは各トレイに割り当てます。

◆ **紙折り位置タイプの設定**

二つ折り、製本、内三つ折り、外三つ折り、Z 折りの折りの位置を調整します。

参照

- 手順については、「紙折り位置の調整」(P.816) を参照してください。

◆ **トレイ 1 ～ 4、6（オプション）**

設定したタイプをトレイに割り当てます。

■折りを補助する筋

中とじ製本時、冊子が開いて排出しないように、折り位置の上下に入れる筋の本数を設定します。

［片側 1 本］、［片側 2 本］、［片側 3 本］、［しない］から選択します。

補足
- 筋の本数が少ないほど、筋が強く入ります。筋の本数が多いほど、製本速度が遅くなります。
- 用紙サイズ、用紙種類によっては、折りを補助する筋を入れても冊子が開いてしまう場合があります。

転写出力調整

トナー画像が用紙に最適な状態で転写されない場合に、用紙種類ごとに最適な転写出力値を設定できます。

参照
- 転写出力調整については、「転写出力調整」（P.828）を参照してください。

証明書の一括削除 / 初期化

証明書を一括削除し、初期化します。［ネットワーク設定］>［セキュリティ設定］の［SSL/TLS 設定］で証明書を使用するように設定しているにもかかわらず、証明書ファイルの異常などが原因で、証明書データが使用できなくなった場合に使用します。

初期設定項目

本機の設置時に必要な設定をするためのインストールウィザード画面が表示されます。画面 / ボタンや、ネットワーク、ファクスの設定をすることができます。

参照
- 設定項目については、「画面 / ボタンの設定」（P.178）、「ネットワーク設定」（P.240）、「ファクス設定」（P.293）を参照してください。

点筋の画像診断

出力物に点や筋状の不良がある場合に、サンプルチャートを出力し、スキャンすることで、不良の原因を診断します。診断結果は本機には表示されませんが、EP システムへの接続がある場合に、［EP 診断］を押すことで、弊社のカストマーコンタクトセンターに送信されます。

■診断用チャート出力

診断用のサンプルチャートを出力します。用紙を選択して、［プリント開始］を押します。

補足
- 診断用チャートとして出力できる用紙サイズは以下の通りです。
  - A3
  - 11×17"（Ledger）
  - A4
  - 8.5×11"（Letter）

■自動原稿送り装置チャート読み込み

診断用のサンプルチャートを原稿送り装置で読み込みます。サンプルチャートを画面の指示通りの向きで、印刷面を上にして原稿送り装置にセットし、［ 読み込み ］を押します。読み込みが完了したあと、［ 診断開始 ］を押すと、診断を開始します。

■ **EP 診断**

インターネットを使った EP システムを使用している場合、［EP 診断 ］を押すと、本機が診断結果を弊社のカストマーコンタクトセンターに送信します。必要に応じて、カストマーエンジニアが訪問します。

プリントヘッド縦ムラ調整

プリントヘッドによってスキャンイメージ上に発生する濃度の縦ムラを調整します。

参照
- 詳しくは、「出力イメージの濃度調整（プリントヘッド縦ムラ調整）」（P.814）を参照してください。

複製管理

複製管理とは、書類の複製を抑制するために、用紙の背景全体に文字列や背景パターンを印字する機能です。

ここでは、複製管理機能で印字する日付や文字列、背景パターン、隠し印刷に関する設定をします。

印字する日付の形式

印字する日付の形式を設定します。ここで設定した値は、アノテーション、複製管理、強制アノテーションで共通になります。

［20yy/mm/dd］、［mm/dd/20yy］、［dd/mm/20yy］、［20yy 年 mm 月 dd 日］の 4 種類から選択できます。

［20yy 年 mm 月 dd 日］は、初期表示言語が［日本語］のときだけ表示されます。

隠し印刷初期値

複製管理の隠し印刷の初期値を設定します。

■ **しない（スタンプ印刷）**

隠し印刷をしません。

■ **浮き出し**

隠し印刷を設定してコピーした文書を再度コピーすると、埋め込まれた文字列が、背景パターンに浮き出して印字されます。

■ **白抜き**

隠し印刷を設定してコピーした文書を再度コピーすると、埋め込まれた文字列が、背景パターンに白抜きで印字されます。

文字列初期値

複製管理で印字される文字列を設定します。

［禁複写］、［コピー］、［複写］と［文字列登録 1 ～ 3］で登録した文字列から選択できます。

参照
- ユーザー登録文字列は、「文字列登録 1 ～ 3」（P.199）を参照してください。

文字列の大きさ

複製管理で印字される文字の大きさを設定します。

24 ～ 80 ポイントの範囲で 1 ポイント単位で設定できます。

背景パターン

隠し印刷で使用する文字列を埋め込むための、背景パターンを設定します。

［ウェーブ］、［サークル］、［ストライプ］、［チェーン］、［ビーム］、［ひし形］、［ひまわり］、［扇］の 8 種類のパターンから選択できます。

印刷の色

複製管理の隠し印刷の文字の色を設定します。

［黒］、［マゼンタ］、［シアン］から選択できます。

補足
- ファクス送信の場合は、本設定に関係なく黒になります。

印刷の濃度

複製管理で印字される文字の濃度を設定します。

［うすく］、［ふつう］、［こく］から選択できます。

文字 / 背景コントラスト

複製管理で印字される文字 / 背景のコントラストを設定します。

コントラスト 1 ～ 9 から選択できます。［サンプルリストの出力］でプリントしたサンプルを参考にして設定してください。

強制複製管理 - コピー

コピーをしたときに、強制的に複製管理するかどうかを設定します。［する］に設定すると、コピー機能の［出力形式］画面にある［複製管理］が［する］に固定され、変更できなくなります。

印字される文字列は、ユーザー管理番号、本機の ID、印刷日時です。

補足
- ユーザーに強制印字を一時的に解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ登録」（P.370）を参照してください。
- ユーザー管理番号は、認証モードの設定によって印字されない場合があります。

強制複製管理 - クライアントプリント

コンピューターからプリントをしたときに、強制的に複製管理するかどうかを設定します。

本機の設定を優先する場合は［本体の設定を優先］を、TrustMarkingBasic（別売）などのソフトウェアやプリントサーバーの設定を優先する場合は、［クライアントの設定を優先］を選択します。

［本体の設定を優先］を選択した場合は、ユーザー情報またはユーザー管理番号、本機の ID、印刷日時が印字されます。

補足
- この設定は、複製管理とペーパーセキュリティーで共通です。

補足
- ユーザー管理番号は、認証モードの設定によって印字されない場合があります。

強制複製管理 - ボックスプリント

親展ボックスからプリントをしたときに、強制的に複製管理するかどうかを設定します。

印字される文字列は、ユーザー管理番号、本機の ID、印刷日時です。

補足

- ユーザーに強制印字を一時的に解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ登録」(P.370) を参照してください。
- ユーザー管理番号は、認証モードの設定によって印字されない場合があります。

強制複製管理 - メディアプリント

文書プリント、デジカメプリントをしたときに、強制的に複製管理するかどうかを設定します。

印字される文字列は、ユーザー管理番号、本機の ID、印刷日時です。

補足

- ユーザーに強制印字を一時的に解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ登録」(P.370) を参照してください。
- ユーザー管理番号は、認証モードの設定によって印字されない場合があります。

文字列登録 1 ～ 3

複製管理で印字される文字列を登録します。全角 16 文字（半角 32 文字）まで入力できます。登録した文字列は、[文字列初期値] に表示されます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.50) を参照してください。

サンプルリストの出力

背景のコントラストが異なる複数のサンプルをプリントします。プリントサンプルをもとに、[文字 / 背景コントラスト] を設定してください。

ペーパーセキュリティー

原稿に埋め込まれている複製制限コードを、検出できるようにするかどうかを設定します。

検出できるように設定すると、複製制限コードが埋め込まれた原稿を読み込むとジョブは強制的に中止されます。

注記

- 検出する設定の場合、原稿によっては複製制限コードなしの原稿を複製制限コードとして検出してしまうことがあります。こうした原稿が多い場合にはユーザーが属する権限グループの設定により、検出時に機械を一時停止させて読み込みを継続するかどうかを選択させる動作モードに変更することができます。機械管理者は常にこのモードで動作します。この権限グループの設定は、「権限グループ」(P.489) を参照してください。
- ペーパーセキュリティー機能による文書の複製制限は、常に機能することを保証するものではありません。原稿や設定条件によっては、機能が有効に働かない場合があります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- ペーパーセキュリティー機能を使用または使用できなかったことによって発生した損害については、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

補足

- この機能を利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- この機能は、弊社のペーパーセキュリティー機能搭載機でのみ動作します。

ペーパーセキュリティーの動作制御

原稿に埋め込まれている複製制限コードを、検出できるようにするかどうかを設定します。

■ペーパーセキュリティーの検出

［する］に設定して、複製制限コードが埋め込まれた文書をコピーやスキャンすると、ジョブは強制的に中止されます。

デジタルコードの設定

文書に埋め込むデジタルコードの解析パスワードと文字列を設定します。デジタルコードを解析することにより、「いつ」、「誰が」、「どの機器から出力したか」などの情報を確認できるため、情報漏えいの抑止に効果があります。

■解析パスワード

文書に埋め込むデジタルコードに、解析パスワードを半角 4 ～ 12 文字の範囲で設定します。解析パスワードを設定すると、文書のデジタルコードを解析するアプリケーション使用者を限定できます。

注記

- 設定した解析パスワードを忘れた場合や、PaperSecurity Analyzer の解析パスワードと不一致の場合は、PaperSecurity Analyzer で解析することができなくなります。解析パスワードは、厳重に管理するようにお願いします。

補足

- デジタルコードの解析には、弊社アプリケーションの PaperSecurity Analyzer（別売）が必要です。PaperSecurity Analyzer の操作方法は、アプリケーション付属のマニュアルを参照してください。
- パスワードなしに設定する場合は、空欄にして［決定］を押します。

■ユーザー定義文字列

紙文書に埋め込むデジタルコードとして、文字列を設定します。全角 16 文字（半角 32 文字）まで入力できます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」（P.50）を参照してください。

強制ペーパーセキュリティー

ジョブの種類ごとに、強制的にペーパーセキュリティー機能を実行するかどうかを設定します。

補足

- ユーザーに強制印字を一時的に解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ登録」（P.370）を参照してください。

■コピー

コピーをするときに、強制的にペーパーセキュリティー機能を実行するかどうかを設定します。［する］に設定すると、コピー機能の［出力形式］画面にある［ペーパーセキュリティー］が［する］に固定され、変更できなくなります。

■ **クライアントプリント**

クライアント側のコンピューターからプリントをするときに、強制ペーパーセキュリティー機能を実行するかどうかを設定します。

本機の設定を優先する場合は［本体の設定を優先］を、TrustMarkingBasic（別売）などのソフトウェアやプリントサーバーの設定を優先する場合は、［クライアントの設定を優先］を選択します。

補足
- この設定は、複製管理とペーパーセキュリティーで共通です。

■ **ボックスプリント**

親展ボックスからプリントをするときに、強制的にペーパーセキュリティー機能を実行するかどうかを設定します。

■ **メディアプリント**

文書プリント、デジカメプリントをするときに、強制的にペーパーセキュリティー機能を実行するかどうかを設定します。

■ **ファクス受信プリント**

受信したファクスをプリントするときに、強制的にペーパーセキュリティー機能を実行するかどうかを設定します。

■ **レポート / リスト**

レポート / リストをプリントするときに、強制的にペーパーセキュリティー機能を実行するかどうかを設定します。

補足
- 強制的にペーパーセキュリティー機能を実行する設定にしても、フォントリストなど、一部のレポートには印字されません。

ペーパーセキュリティーの初期値

ペーパーセキュリティー機能の初期値を設定します。

■ **複製制限コード**

複製制限コードを紙文書に埋め込むかどうかを設定します。

■ **隠し印字の設定**

隠し文字を設定すると、コピー / プリントされた文書に隠し文字が埋め込まれます。隠し文字が埋め込まれた文書をコピーすると、埋め込まれた隠し文字が白抜きになります。

■ **文字列初期値**

ペーパーセキュリティーの隠し印字の文字列を設定します。

隠し文字を埋め込む場合は、［禁複写］、［コピー］、［複写］、［登録文字列 1 ～ 3］で登録した文字列から選択できます。

■ **背景パターン**

ペーパーセキュリティーの隠し印字の背景パターンを設定します。

［なし］、［ウェーブ］、［サークル］、［ストライプ］、［チェーン］、［ビーム］、［ひし形］、［ひまわり］、［扇］の 9 種類のパターンから選択できます。

■印刷の色

ペーパーセキュリティーの隠し印字の文字の色を設定します。

［黒］、［マゼンタ］から選択できます。

補足

- ファクス送信の場合は、本設定に関係なく黒になります。

■文字 / 背景コントラスト

ペーパーセキュリティーの隠し印字の文字 / 背景のコントラストを設定します。

コントラスト 1 ～ 9 から選択できます。［サンプルリストの出力］でプリントしたサンプルを参考にして設定してください。

注記

- 隠し印字の文字の濃度を変更することによって、文字と背景のコントラストを設定します。背景の濃度は調整できません。

■文字列登録 1 ～ 3

ペーパーセキュリティーの隠し印字の文字列を登録します。全角 16 文字（半角 32 文字）まで入力できます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.50) を参照してください。

■サンプルリストの出力

背景のコントラストが異なる複数のサンプルをプリントします。プリントしたサンプルをもとに、［文字 / 背景コントラスト］を設定してください。

強制アノテーション

ジョブの種類ごとに関連づけられたレイアウトテンプレートに従い、ユーザー名や日付などの文字列（アノテーション）が強制印字されます。

補足

- 複製管理、ペーパーセキュリティー、UUID 印字が指定されている場合は、それらと重なって印字されます。

本機にはあらかじめ［preset1］～［preset4］のレイアウトテンプレートが用意されています。これらのテンプレートで印字される項目は次のとおりです。

- ［preset1］、［preset2］

  ［文字列登録 1］で登録した文字が、用紙中央に透かし文字で斜めに印字されます。

  用紙の右下（［preset1］の場合）、または左下（［preset2］の場合）に、次の項目が印字されます。

  - 上段：文書名、印字を指示したコンピューターの IP アドレス
  - 下段：ユーザー名、カード ID、User ID、年月日時

- ［preset3］、［preset4］

  ［文字列登録 1］で登録した文字が、用紙中央に透かし文字で斜めに印字されます。

  用紙の右下（［preset3］の場合）、または左下（［preset4］の場合）に、次の項目が印字されます。

  - User ID、年月日時



補足

- ジョブの種類や実行形態によっては、印字されない項目があります。
- 機械が作成した白紙ページには、強制アノテーションは印字されません。
- 強制アノテーションを印字する設定にしているときは、トレイ 5（手差し）の自動サイズ検知機能は使用できません。
- 強制アノテーションで印字される時刻は、本機の状況や設定、出力内容によって、出力を指示した時刻と異なる場合があります。印字される時刻は、出力を開始した時刻になります。

参照

- 文字列の登録は、「文字列の登録」（P.203）を参照してください。

レイアウトテンプレートの関連付け

レイアウトテンプレートとの関連づけを設定します。関連づけを設定できるのは、次のジョブです。

- コピー
- クライアントプリント
- ボックスプリント
- メディアプリント
- ファクス受信プリント
- メール受信プリント
- レポート / リスト

補足

- クライアントプリントは、コンピューターからプリント指示をした場合です。
- ボックスプリントは、親展ボックス内の文書をプリント指示した場合です。

レイアウトテンプレートの削除

レイアウトテンプレートを削除します。

注記

- あらかじめ用意されているテンプレート［preset1］～［preset4］は削除できません。

文字列の登録

強制アノテーションで使用する文字列を登録します。文字列登録 1 ～ 8 の 8 種類の文字列を登録できます。全角 32 文字（半角 64 文字）まで入力できます。

注記

- あらかじめ用意されているテンプレート［preset1］～［preset4］で使用できる文字列は、［文字列登録 1］だけです。

UUID 印字

印刷ジョブごとにジョブを特定できるように、識別 ID（UUID）を印字できます。

ApeosWare Management Suite（別売）やイメージログ管理機能を利用すると、UUID をキーとしてログを検索し、ジョブごとに「いつ」、「誰が」、「コピー、プリント、スキャンしたか」などの情報を確認できるため、情報漏えいの抑止に効果があります。

補足

- ユーザーに強制印字を一時的に解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ」（P.489）を参照してください。
- ［強制アノテーション］の［レイアウトテンプレートの関連付け］でレイアウトテンプレートを設定している場合は、設定しているテンプレートの上に、ここで設定する文字が印字されます。

参照

- イメージログについては、「イメージログ管理」（P.204）を参照してください。
- 強制アノテーションについては、「強制アノテーション」（P.202）を参照してください。

UUID 印字

UUID 印字をするかどうかを設定します。

注記

- UUID 印字を［する］に設定すると、トレイ 5（手差し）の自動サイズ検知機能は使用できません。

印字位置

UUID を印字する位置を［左上］、［左下］、［中央上］、［中央下］、［右上］、［右下］の 6 種類から選択します。

印字位置の微調整

たて方向を 0 ～ 100mm、よこ方向を 0 ～ 200mm の範囲で 0.5mm 単位で指定します。

補足

- 微調整値は、用紙の端を 0mm として、値を大きくすると用紙中央方向に移動します。ただし、印字位置で［中央上］または［中央下］を選択した場合、よこ方向の調整値は用紙の中央を 100mm としています。印字位置で［中央上］または［中央下］を選択する場合は、微調整値をいったん 100mm に設定してから調整をしてください。

うら面の印字位置

両面にプリントするときに、うら面に印字する UUID の位置を［おもて面と同じ］、［おもて面と対称］から選択します。

イメージログ管理

イメージログ管理は、本機で実行されたジョブの文書を画像データとして保存し、ジョブの利用者、利用時刻、部数などのデータと共に、ログとして蓄積 / 管理する機能です。文書が漏えいしたときに、対象文書に対してジョブを実行したユーザーを特定するための情報を保存します。

注記

- イメージログ管理の設定で、［作成保証レベル］を［高］、または［転送保証レベル］を［高］に設定すると、イメージログの作成や転送処理が行われてから印刷されるため、印刷開始が遅くなる場合があります。
- ジョブの文書イメージ、データの容量、イメージログ管理機能以外の複数ジョブの処理の有無、［作成保証レベル］の設定、または［転送保証レベル］の設定によっては、イメージログ管理機能が優先して処理されます。
- イメージログ管理機能は、文書に対するセキュリティー機能を補う目的があるため、イメージログの作成に時間がかかったり、イメージログ管理機能以外のジョブの処理に時間がかかったりすることがあります。
- セキュリティー機能の観点から、機械はデータを蓄積保存することを優先するため、イメージログの作成を中止（強制終了）できません。
- イメージや印刷ジョブのログ（ジョブログ）を検索することによって、システム管理者などが出力者の「識別情報」を把握することになります。イメージログ管理機能を使用したことによる出力者個人のプライバシー保護に関しては、責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 停電などで強制的に電源が切れた場合や、ハードディスクに異常が発生した場合などは、イメージログの作成・転送が必ず実施されるとは限りません。
- イメージログ管理機能の起動後に実行されたジョブだけが、イメージログ管理機能の対象になります。
- 管理するイメージは、入力イメージを元に作成するため、出力イメージと同じになるとは限りません。次に記載する情報は、出力時に加えられたり、編集されたりする情報のため、イメージには反映されません。

  - 出力時のレイアウト変更
  - 合紙
  - アノテーション
  - 複製管理
  - イメージ合成（コピー）
  - バナー
  - 送信シート（ファクス）
  - ペーパーセキュリティー
  - 製本（コピー）
  - フォームオーバーレイ（プリント）

- イメージとして作成される PDF ファイルに対しては、［PDF セキュリティ］、［PDF 署名］の機能は使用できません。
- ［イメージログ作成］の［解像度］の設定にかかわらず、入力イメージよりも解像度が高いイメージは作成されません。入力イメージの解像度が、［イメージログ作成］の［解像度］よりも低い場合は、入力イメージと同じ解像度でイメージが作成されます。
- ファクス送受信のジョブは、［イメージログ作成］の［作成保証レベル］の設定にかかわらず、常に［作成保証レベル］を［低］として動作します。
- イメージは、最大 8,191 ページまで作成できます。本機への入力イメージが 8,191 ページ以上の場合は、［イメージログ作成］の［作成範囲］に［全ページ］を設定しても、8,191 ページまでのイメージが作成されます。
- ハードディスク内のイメージ格納領域が不足した場合、［イメージログ作成］の［作成保証レベル］の設定によって、本機は次のように動作します。
  - ［高］の場合：ジョブは中止されます。
  - ［低］の場合：ジョブは実行されます。ただし、ジョブ終了時に警告が表示され、イメージ作成が失敗したことを知らせます。
- イメージ作成中にエラーが発生した場合、［イメージログ作成］の［作成保証レベル］の設定によって、本機は次のように動作します。
  - ［高］の場合：イメージをエラーイメージ（1x1 ピクセル）と置き換え、システムエラーが発生します。システムエラーが発生した場合は、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。
  - ［低］の場合：イメージをエラーイメージ（1x1 ピクセル）と置き換え、ジョブ終了時にエラー情報が記録されます。
- 本機に格納できるイメージログの最大数は、2000 です。
- ［イメージログ作成］の［解像度］の設定によって、読み取り可能な文字のサイズが異なります。解像度を設定する場合は、次の表を参考にしてください。

解像度	カラージョブの場合	白黒ジョブの場合	一般文書でのめやす
200dpi	6pt	6pt	一般文書では問題ないレベルです。
100dpi	10pt	14pt	大きめの文字がわかるレベルです。
72dpi(初期値)	12pt	18pt	タイトルの文字がわかるレベルです。
50dpi	16pt	24pt	文字はわかりません。プレビュー用に適しています。
25dpi	24pt	32pt	文字はわかりません。サムネール用に適しています。

補足

- この機能を利用するにはオプションおよび別売のアプリケーションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- ［カストマーエンジニアの操作制限］を［する］に設定していると、カストマーエンジニアは［イメージログ管理］の設定ができなくなります。カストマーエンジニアの操作制限は、「カストマーエンジニアの操作制限」(P.226) を参照してください。
- この機能は ApeosPort シリーズのみ有効です。

イメージログ管理

イメージログ管理を利用するかどうかを設定します。

イメージログ作成対象

ジョブの種類（コピー、プリンター、スキャナー、ファクス）ごとに、イメージログを作成するかどうかを設定します。

イメージログ作成

ログとして管理する画像データについて設定します。画像データは、ジョブひとつに対して、1 ファイル（PDF 形式）作成されます。

■作成保証レベル

ログとして管理する画像データを確実に作成するかどうかの保証レベルを、［低］、［高］から選択します。

補足

- ［低］に設定した場合、状況によっては、画像データが作成されないことがあります。

■解像度

ログとして管理する画像データの解像度を、［25dpi］、［50dpi］、［72dpi］、［100dpi］、［200dpi］から選択します。

■作成範囲

ログとして管理する画像データを作成する範囲を、［1 ページ目のみ］、［1 ～ 2 ページ］、［1 ～ 3 ページ］、［1 ～ 4 ページ］、［1 ～ 5 ページ］、［全ページ］から選択します。

イメージログ転送

本機で作成したイメージログは、ログ管理サーバーに転送して、保存 / 管理できます。

イメージログの転送方法について設定します。

■転送機能

転送機能を使用して、イメージログをログ管理サーバーに転送するかどうかを設定します。[使用しない]、[使用する] から選択します。

■転送保証レベル

作成したイメージログが、ログ管理サーバーに確実に転送されるかどうかを保証するレベルを、[高]、[低] から選択します。[高] に設定すると、イメージログが転送できなかった場合、本体に 2000 件まで未送信ログとして保存され、2000 件を超えると次のジョブは実行できなくなります。[低] に設定すると、次のジョブは実行され、2000 件を超えた古いジョブから削除されます。

■転送動作

本機からログ管理サーバーに、イメージログを自動転送するかどうかを設定します。

[一時停止]、[ジョブ単位で転送]、[まとめて転送] から選択します。

[まとめて転送] を選択すると、[転送タイミング] で転送するタイミングを選択できます。

■転送タイミング

[転送動作] で [まとめて転送] を選択すると表示されます。

本機からログ管理サーバーに、イメージログを転送するタイミングを指定します。

[時刻指定転送]、[ジョブ終了時]、[最終操作後]、[電源投入時]、[一定数保存された時] から選択します。

ジョブ終了時のメール通知設定

本機で実行されたジョブの結果をメールで通知させて、確認できます。

通知対象ジョブ

ジョブの実行結果を通知するサービスを選択します。通知対象ジョブが 1 つ以上設定されている場合は、[設定あり] が表示されます。

通知対象ジョブは、[コピー]、[ファクス]、[スキャナー]、「プリンター]、[レポート] から複数選択できます。

また、ジョブ終了時のメール通知について [終了時は常に通知する]、[異常終了時のみ通知する] から選択します。

[ファクス] を通知対象ジョブとして選択した場合、[ファクス送信原稿の送付] を設定できます。ここで選択されたページ数に応じて、PDF 化されたファクス送信原稿が通知メールに添付されます。[添付しない]、[先頭 1 ページのみ]、[先頭 2 ページ]、または [全ページ] が選択できます。

メールアドレス 1 ～ 5

ジョブ終了時のメールの通知先を設定します。

補足

- メールの通知先がすべて [(未設定)] のままで [決 定] を押すと、[通知対象ジョブ] および [メール本文] の設定が削除されます。

メール本文

メールに付加されるコメントを入力できます。

プラグイン設定

カスタム認証機能を利用する場合に利用できるプラグインの一覧を表示したり、切り替えの設定をしたりできます。

補足

- この項目は、カスタマイズ拡張機能をご利用されている場合に表示されます。

組み込みプラグイン機能

組み込まれているプラグイン機能を使用するかどうかを設定します。[有効]、[無効]から選択します。

組み込みプラグイン一覧

本機に組み込まれているプラグインの名称、および状態を一覧表示します。

その他の設定

本機の、そのほかの設定をします。

オフセット排出（センタートレイ上段）

用紙を排出するときに、位置をずらして用紙を排出することを、「オフセット」といいます。直前の用紙の排出位置が手前ならば、次は奥にずらして排出します。センタートレイ上段のオフセット機能の動作を設定します。

[しない]、[セット単位]、[ジョブ単位]から選択します。[セット単位]を選択すると部数単位で、[ジョブ単位]を選択するとジョブ（プリント指示）単位で、排出位置をずらして用紙を排出します。

オフセット排出（センタートレイ下段）

用紙を排出するときに、位置をずらして用紙を排出することを、「オフセット」といいます。直前の用紙の排出位置が手前ならば、次は奥にずらして排出します。センタートレイ下段のオフセット機能の動作を設定します。

[しない]、[セット単位]、[ジョブ単位]から選択します。[セット単位]を選択すると部数単位で、[ジョブ単位]を選択するとジョブ（プリント指示）単位で、位置をずらして用紙を排出します。

オフセット排出（フィニッシャートレイ）

用紙を排出するときに、位置をずらして用紙を排出することを、「オフセット」といいます。直前の用紙の排出位置が手前ならば、次は奥にずらして排出します。フィニッシャートレイのオフセット機能の動作を設定します。

[しない]、[セット単位]、[ジョブ単位]から選択します。[セット単位]を選択すると部数単位で、[ジョブ単位]を選択するとジョブ（プリント指示）単位で、位置をずらして用紙を排出します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

オフセット排出（センタートレイ）

用紙を排出するときに、位置をずらして用紙を排出することを、「オフセット」といいます。直前の用紙の排出位置が手前ならば、次は奥にずらして排出します。センタートレイのオフセット機能の動作を設定します。

［しない］、［セット単位］、［ジョブ単位］から選択します。［セット単位］を選択すると部数単位で、［ジョブ単位］を選択するとジョブ（プリント指示）単位で、位置をずらして用紙を排出します。

折り目あり分割製本のオフセット

［オフセット排出 (フィニッシャートレイ)］で［セット単位］を選択するとオフセットで排出します。ただし、製本の設定で［折り / ホチキス (製本)］を選択した場合は、オフセットしません。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

プリントジョブの追い越し

本機が何らかの原因で実行開始できない（コピーやプリントを開始しようとしたときに、用紙トレイの用紙がなくなったなど）場合、ほかに実行開始できるジョブがあるときに、ジョブの追い越しを許可するかどうかを設定します。

［禁止］、［許可］のどちらかを選択します。［許可］を選択すると、追い越されたジョブを自動解除するかどうかを選択できます。［する］を選択すると、自動解除までの時間を 1 分～ 120 時間の範囲で指定できます。

補足

- セキュリティープリントやサンプルプリントなどの蓄積文書は、追い越し許可の対象外です。
- ［許可］に設定しているときに、用紙切れなどで実行されずに追い越されたジョブが発生すると、実行できなかった原因を示す詳細画面が表示されます。指示に従って用紙などを補給するとジョブが実行されます。また、〈クリア（C)〉ボタンを押して、ジョブを中止することもできます。

  複数の追い越されたジョブが発生すると、追い越されたジョブの一覧画面が表示されます。その場合もジョブを選択して、詳細画面を表示させたり、ジョブを中止できます。
- プリントを禁止する時間帯を設定している場合、禁止時間帯に受信したジョブは、［追い越されたジョブの自動解除］を［する］に設定していても自動解除されません。

参照

- プリント禁止の設定については、「プリント禁止の設定」(P.173) を参照してください。

プリント用紙サイズ初期値

レポート / リストをプリントするときに使う用紙サイズを設定します。

［A4］、［8.5×11"］から選択できます。

奇数ページ文書の両面処理

奇数ページの両面処理をするかしないかを選択できます。

サイズ検知切り替え

定形サイズの原稿、および用紙を自動的に検知するときの、用紙サイズを設定します。

[AB 系（8×13"）]、[AB 系]、[AB 系（八開 / 十六開）]、[AB 系（8×13"/8×14"）]、[インチ系] の 5 種類から選択できます。

自動検知できるサイズの組み合わせについては、次の表を参考にしてください。

用紙サイズグループ	AB 系（8×13"）							
セットする場所	原稿ガラス（ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271）	原稿ガラス（ApeosPort- VI C7771/C6671、DocuCentre- VI C7771/C6671）	自動両面原稿送り装置 C1-PC	自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）	トレイ 1	トレイ 2、2 トレイモジュール（トレイ 3、4）	トレイ 5（手差し）	トレイ 6（オプション）、タンデムトレイモジュール（トレイ 3、4）
A6	O	O	O	X	X	X	X	X
A5	O	O	O	O	O	O	O	X
A5	O	O	X	X	X	X	X	X
A4	O	O	O	O	O	O	X	X
A4	O	O	O	O	O	O	X	O
A3	O	O	O	O	O	O	X	X
B6	O	O	O	X	X	X	O	X
B6	O	X	X	X	X	X	X	X
B5	O	O	X	X	O	O	O	X
B5	O	O	O	O	X	X	X	X
B4	O	O	O	O	O	O	X	X
5.5×8.5"	X	X	X	X	X	X	X	X
5.5×8.5"	O	O	O	O	X	X	O	X
7.25×10.5"	X	X	O	O	O	O	X	O
8×10"	X	X	X	X	X	X	X	X
8×10"	X	X	X	X	X	X	X	X
8.5×11"	O	O	O	O	O	O	O	X
8.5×11"	O	O	O	O	O	O	O	O
8.5×13"	X	X	O	O	O	O	O	X

用紙サイズグループ	AB 系（8×13"）							
セットする場所	原稿ガラス（ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271）	原稿ガラス（ApeosPort- VI C7771/C6671、DocuCentre- VI C7771/C6671）	自動両面原稿送り装置 C1-PC	自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）	トレイ 1	トレイ 2、2 トレイモジュール（トレイ 3、4）	トレイ 5（手差し）	トレイ 6（オプション）、タンデムトレイモジュール（トレイ 3、4）
8.5×14"	X	X	X	X	O	O	O	X
11×17"	O	O	O	O	O	O	O	X
12×18"	X	X	X	X	X	X	X	X
SRA3	X	X	X	X	X	O	X	X
十六開（台湾）	X	X	X	X	X	X	X	X
十六開（台湾）	X	X	X	X	X	X	X	X
八開（台湾）	X	X	X	X	X	X	X	X
十六開（中国本土）	X	X	X	X	X	X	X	X
十六開（中国本土）	X	X	X	X	X	X	X	X
八開（中国本土）	X	X	X	X	X	X	X	X
郵便はがき	X	X	X	X	X	X	X	X
郵便はがき	X	X	X	X	X	X	X	X
長形 3 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
長形 4 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
角形 2 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
角形 6 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
角形 20 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋長形 3 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋形 2 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋形 3 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋形 4 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
Commercial#10 封筒	X	X	X	X	X	X	O	X

用紙サイズグループ	AB 系（8×13"）							
セットする場所	原稿ガラス（ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271）	原稿ガラス（ApeosPort- VI C7771/C6671、DocuCentre- VI C7771/C6671）	自動両面原稿送り装置 C1-PC	自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）	トレイ 1	トレイ 2、2 トレイモジュール（トレイ 3、4）	トレイ 5（手差し）	トレイ 6（オプション）、タンデムトレイモジュール（トレイ 3、4）
Monarch7.3/4 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
DL 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
ISO-C4 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
ISO-C5 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
Post Card（4×6”）	X	X	X	X	X	X	X	X
Post Card（4×6”）	X	X	X	X	X	X	X	X
写真 2L（5×7”）	X	X	X	X	X	X	X	X
Post Card（6×9”）	X	X	X	X	X	X	X	X

○：検知できる
×：検知できない

用紙サイズグループ	AB 系							
セットする場所	原稿ガラス（ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271）	原稿ガラス（ApeosPort- VI C7771/C6671、DocuCentre- VI C7771/C6671）	自動両面原稿送り装置 C1-PC	自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）	トレイ 1	トレイ 2、2 トレイモジュール（トレイ 3、4）	トレイ 5（手差し）	トレイ 6（オプション）、タンデムトレイモジュール（トレイ 3、4）
A6	O	O	O	X	X	X	X	X
A5	O	O	O	O	O	O	O	X
A5	O	O	O	O	X	X	O	X
A4	O	O	O	O	O	O	O	X
A4	O	O	O	O	O	O	O	O
A3	O	O	O	O	O	O	O	X
B6	O	O	O	X	X	X	X	X
B6	O	X	X	X	X	X	O	X
B5	O	O	O	O	O	O	O	X
B5	O	O	O	O	O	O	O	O
B4	O	O	O	O	O	O	O	X
5.5×8.5"	X	X	X	X	X	X	X	X
5.5×8.5"	X	X	X	X	X	X	X	X
7.25×10.5"	X	X	X	X	X	X	X	X
8×10"	X	X	X	X	X	X	X	X
8×10"	X	X	X	X	X	X	X	X
8.5×11"	X	X	O	O	O	O	X	X
8.5×11"	X	X	O	O	O	O	X	O
8.5×13"	X	X	X	X	O	O	X	X
8.5×14"	X	X	X	X	O	O	X	X
11×17"	X	X	O	O	O	O	X	X
12×18"	X	X	X	X	X	X	X	X
SRA3	X	X	X	X	X	O	X	X
十六開（台湾）	X	X	X	X	X	X	X	X

用紙サイズグループ	AB 系							
セットする場所	原稿ガラス（ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271）	原稿ガラス（ApeosPort- VI C7771/C6671、DocuCentre- VI C7771/C6671）	自動両面原稿送り装置 C1-PC	自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）	トレイ 1	トレイ 2、2 トレイモジュール（トレイ 3、4）	トレイ 5（手差し）	トレイ 6（オプション）、タンデムトレイモジュール（トレイ 3、4）
十六開（台湾）	X	X	O	O	O	O	X	X
八開（台湾）	X	X	O	O	O	O	X	X
十六開（中国本土）	X	X	X	X	X	X	X	X
十六開（中国本土）	X	X	O	O	O	O	X	X
八開（中国本土）	X	X	O	O	O	O	X	X
郵便はがき	X	X	X	X	O	O	O	X
郵便はがき	X	X	X	X	X	X	X	X
長形 3 号封筒	X	X	X	X	X	X	O	X
長形 4 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
角形 2 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
角形 6 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
角形 20 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋長形 3 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋形 2 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋形 3 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋形 4 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
Commercial#10 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
Monarch7.3/4 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
DL 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
ISO-C4 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
ISO-C5 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
Post Card（4×6”）	X	X	X	X	X	X	X	X

用紙サイズグループ	AB 系							
セットする場所	原稿ガラス（ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271）	原稿ガラス（ApeosPort- VI C7771/C6671、DocuCentre- VI C7771/C6671）	自動両面原稿送り装置 C1-PC	自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）	トレイ 1	トレイ 2、2 トレイモジュール（トレイ 3、4）	トレイ 5（手差し）	トレイ 6（オプション）、タンデムトレイモジュール（トレイ 3、4）
Post Card（4×6”）	X	X	X	X	X	X	X	X
写真 2L（5×7”）	X	X	X	X	X	X	X	X
Post Card（6×9”）	X	X	X	X	X	X	X	X

○：検知できる
×：検知できない

用紙サイズグループ	AB 系（八開 / 十六開）							
セットする場所	原稿ガラス（ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271）	原稿ガラス（ApeosPort- VI C7771/C6671、DocuCentre- VI C7771/C6671）	自動両面原稿送り装置 C1-PC	自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）	トレイ 1	トレイ 2、2 トレイモジュール（トレイ 3、4）	トレイ 5（手差し）	トレイ 6（オプション）、タンデムトレイモジュール（トレイ 3、4）
A6	O	O	O	X	X	X	X	X
A5	O	O	O	O	O	O	O	X
A5	O	O	O	O	X	X	O	X
A4	O	O	O	O	O	O	O	X
A4	O	O	O	O	O	O	O	O
A3	O	O	O	O	O	O	O	X
B6	O	O	O	X	X	X	X	X
B6	O	X	X	X	X	X	O	X
B5	O	O	O	O	O	O	O	X
B5	O	O	O	O	O	O	O	O
B4	O	O	O	O	O	O	O	X
5.5×8.5"	X	X	X	X	X	X	X	X
5.5×8.5"	X	X	X	X	X	X	X	X
7.25×10.5"	X	X	X	X	X	X	X	X
8×10"	X	X	X	X	X	X	X	X
8×10"	X	X	X	X	X	X	X	X
8.5×11"	X	X	O	O	O	O	X	X
8.5×11"	O	O	O	O	O	O	X	O
8.5×13"	X	X	X	X	O	O	X	X
8.5×14"	X	X	X	X	O	O	X	X
11×17"	O	O	O	O	O	O	X	X
12×18"	X	X	X	X	X	X	X	X
SRA3	X	X	X	X	X	O	X	X
十六開（台湾）	O	O	X	X	X	X	X	X

用紙サイズグループ	AB 系（八開 / 十六開）							
セットする場所	原稿ガラス（ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271）	原稿ガラス（ApeosPort- VI C7771/C6671、DocuCentre- VI C7771/C6671）	自動両面原稿送り装置 C1-PC	自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）	トレイ 1	トレイ 2、2 トレイモジュール（トレイ 3、4）	トレイ 5（手差し）	トレイ 6（オプション）、タンデムトレイモジュール（トレイ 3、4）
十六開（台湾）	O	O	O	O	O	O	X	X
八開（台湾）	O	O	O	O	O	O	X	X
十六開（中国本土）	O	O	X	X	X	X	X	X
十六開（中国本土）	O	O	O	O	O	O	X	X
八開（中国本土）	O	O	O	O	O	O	X	X
郵便はがき	X	X	X	X	O	O	O	X
郵便はがき	X	X	X	X	X	X	X	X
長形 3 号封筒	X	X	X	X	X	X	O	X
長形 4 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
角形 2 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
角形 6 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
角形 20 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋長形 3 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋形 2 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋形 3 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋形 4 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
Commercial#10 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
Monarch7.3/4 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
DL 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
ISO-C4 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
ISO-C5 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
Post Card（4×6”）	X	X	X	X	X	X	X	X
Post Card（4×6”）	X	X	X	X	X	X	X	X
写真 2L（5×7”）	X	X	X	X	X	X	X	X

用紙サイズグループ	AB 系（八開 / 十六開）							
セットする場所	原稿ガラス（ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271）	原稿ガラス（ApeosPort- VI C7771/C6671、DocuCentre- VI C7771/C6671）	自動両面原稿送り装置 C1-PC	自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）	トレイ 1	トレイ 2、2 トレイモジュール（トレイ 3、4）	トレイ 5（手差し）	トレイ 6（オプション）、タンデムトレイモジュール（トレイ 3、4）
Post Card（6×9”）	X	X	X	X	X	X	X	X

○：検知できる
×：検知できない

用紙サイズグループ	AB 系（8×13”/8×14”）							
セットする場所	原稿ガラス（ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271）	原稿ガラス（ApeosPort- VI C7771/C6671、DocuCentre- VI C7771/C6671）	自動両面原稿送り装置 C1-PC	自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）	トレイ 1	トレイ 2、2 トレイモジュール（トレイ 3、4）	トレイ 5（手差し）	トレイ 6（オプション）、タンデムトレイモジュール（トレイ 3、4）
A6	O	O	O	X	X	X	X	X
A5	O	O	O	O	O	O	O	X
A5	O	O	X	X	X	X	X	X
A4	O	O	O	O	O	O	X	X
A4	O	O	O	O	O	O	X	O
A3	O	O	O	O	O	O	X	X
B6	O	O	O	X	X	X	O	X
B6	O	X	X	X	X	X	X	X
B5	O	O	X	X	O	O	O	X
B5	O	O	O	O	X	X	X	X
B4	O	O	O	O	O	O	X	X
5.5×8.5"	X	X	X	X	X	X	X	X
5.5×8.5"	O	O	O	O	X	X	O	X
7.25×10.5"	X	X	O	O	O	O	X	O
8×10"	X	X	X	X	X	X	X	X
8×10"	X	X	X	X	X	X	X	X
8.5×11"	O	O	O	O	O	O	O	X
8.5×11"	O	O	O	O	O	O	O	O
8.5×13"	X	X	O	O	O	O	O	X
8.5×14"	X	X	X	X	O	O	O	X
11×17"	O	O	O	O	O	O	O	X
12×18"	X	X	X	X	X	X	X	X
SRA3	X	X	X	X	X	O	X	X
十六開（台湾）	X	X	X	X	X	X	X	X

用紙サイズグループ	AB 系（8×13”/8×14”）							
セットする場所	原稿ガラス（ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271）	原稿ガラス（ApeosPort- VI C7771/C6671、DocuCentre- VI C7771/C6671）	自動両面原稿送り装置 C1-PC	自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）	トレイ 1	トレイ 2、2 トレイモジュール（トレイ 3、4）	トレイ 5（手差し）	トレイ 6（オプション）、タンデムトレイモジュール（トレイ 3、4）
十六開（台湾）	X	X	X	X	X	X	X	X
八開（台湾）	X	X	X	X	X	X	X	X
十六開（中国本土）	X	X	X	X	X	X	X	X
十六開（中国本土）	X	X	X	X	X	X	X	X
八開（中国本土）	X	X	X	X	X	X	X	X
郵便はがき	X	X	X	X	X	X	X	X
郵便はがき	X	X	X	X	X	X	X	X
長形 3 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
長形 4 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
角形 2 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
角形 6 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
角形 20 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋長形 3 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋形 2 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋形 3 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋形 4 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
Commercial#10 封筒	X	X	X	X	X	X	O	X
Monarch7.3/4 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
DL 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
ISO-C4 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
ISO-C5 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
Post Card（4×6”）	X	X	X	X	X	X	X	X
Post Card（4×6”）	X	X	X	X	X	X	X	X
写真 2L（5×7”）	X	X	X	X	X	X	X	X

用紙サイズグループ	AB 系（8×13”/8×14”）							
セットする場所	原稿ガラス（ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271）	原稿ガラス（ApeosPort- VI C7771/C6671、DocuCentre- VI C7771/C6671）	自動両面原稿送り装置 C1-PC	自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）	トレイ 1	トレイ 2、2 トレイモジュール（トレイ 3、4）	トレイ 5（手差し）	トレイ 6（オプション）、タンデムトレイモジュール（トレイ 3、4）
Post Card（6×9”）	X	X	X	X	X	X	X	X

○：検知できる
×：検知できない

用紙サイズグループ	インチ系							
セットする場所	原稿ガラス（ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271）	原稿ガラス（ApeosPort- VI C7771/C6671、DocuCentre- VI C7771/C6671）	自動両面原稿送り装置 C1-PC	自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）	トレイ 1	トレイ 2、2 トレイモジュール（トレイ 3、4）	トレイ 5（手差し）	トレイ 6（オプション）、タンデムトレイモジュール（トレイ 3、4）
A6	O	O	O	X	X	X	X	X
A5	O	O	X	X	X	X	X	X
A5	O	O	X	X	X	X	X	X
A4	O	O	O	O	O	O	X	X
A4	O	O	O	O	O	O	X	O
A3	O	O	O	O	O	O	X	X
B6	O	O	O	X	X	X	X	X
B6	O	X	X	X	X	X	X	X
B5	O	O	X	X	O	O	X	X
B5	O	O	O	O	X	X	X	X
B4	O	O	O	O	O	O	X	X
5.5×8.5"	X	X	O	O	O	O	X	X
5.5×8.5"	O	O	O	O	X	X	O	X
7.25×10.5"	X	X	O	O	O	O	X	O
8×10"	X	X	X	X	X	X	X	X
8×10"	X	X	X	X	X	X	X	X
8.5×11"	O	O	O	O	O	O	O	X
8.5×11"	O	O	O	O	O	O	O	O
8.5×13"	X	X	X	X	O	O	O	X
8.5×14"	X	X	O	O	O	O	O	X
11×17"	O	O	O	O	O	O	O	X
12×18"	X	X	X	X	X	O	X	X
SRA3	X	X	X	X	X	X	X	X
十六開（台湾）	X	X	X	X	X	X	X	X

用紙サイズグループ	インチ系							
セットする場所	原稿ガラス（ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271）	原稿ガラス（ApeosPort- VI C7771/C6671、DocuCentre- VI C7771/C6671）	自動両面原稿送り装置 C1-PC	自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）	トレイ 1	トレイ 2、2 トレイモジュール（トレイ 3、4）	トレイ 5（手差し）	トレイ 6（オプション）、タンデムトレイモジュール（トレイ 3、4）
十六開（台湾）	X	X	X	X	X	X	X	X
八開（台湾）	X	X	X	X	X	X	X	X
十六開（中国本土）	X	X	X	X	X	X	X	X
十六開（中国本土）	X	X	X	X	X	X	X	X
八開（中国本土）	X	X	X	X	X	X	X	X
郵便はがき	X	X	X	X	X	X	X	X
郵便はがき	X	X	X	X	X	X	X	X
長形 3 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
長形 4 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
角形 2 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
角形 6 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
角形 20 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋長形 3 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋形 2 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋形 3 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
洋形 4 号封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
Commercial#10 封筒	X	X	X	X	X	X	X	O
Monarch7.3/4 封筒	X	X	X	X	X	X	X	O
DL 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
ISO-C4 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
ISO-C5 封筒	X	X	X	X	X	X	X	X
Post Card（4×6”）	X	X	X	X	X	X	O	X

用紙サイズグループ	インチ系							
セットする場所	原稿ガラス（ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271）	原稿ガラス（ApeosPort-VI C7771/C6671、DocuCentre-VI C7771/C6671）	自動両面原稿送り装置 C1-PC	自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）	トレイ 1	トレイ 2、2 トレイモジュール（トレイ 3、4）	トレイ 5（手差し）	トレイ 6（オプション）、タンデムトレイモジュール（トレイ 3、4）
Post Card（4×6”）	X	X	X	X	X	X	X	X
写真 2L（5× 7 ”）	X	X	X	X	X	X	O	O
Post Card（6×9”）	X	X	X	X	X	X	O	O

○：検知できる
×：検知できない

ミリ / インチ切り替え

画面に表示される単位を［ミリ］または［インチ］に切り替えます。

データの暗号化

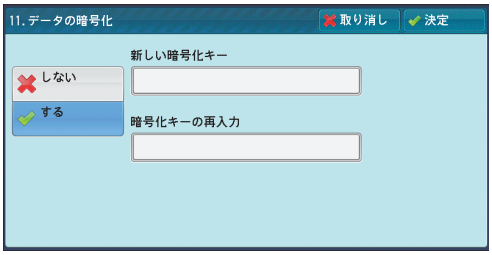
本機のハードディスクに記録されるデータを暗号化するかどうかを設定します。

［する］にすると、本機に搭載するハードディスクが物理的に取り出された場合の情報漏えいを抑止するため、ハードディスク内に保存されているアドレス帳、認証情報、蓄積文書などのデータを暗号化できます。（暗号化することにより、本機以外の機械では読み取りができなくなります。）

データの暗号化を設定すると、コピー、スキャン、プリントの処理で、ハードディスクにデータを書き込むときに自動的に暗号化されます。機能ごとに暗号化をするかしないかを設定することはできません。暗号化することにより、保存データへの不正なアクセスなどを防ぎます。設定する場合は、暗号化キーの設定をします。

1 ［データの暗号化］を選択して［確認 / 変更］を押します。

2 ［する］を押します。



3 ［新しい暗号化キー］を選択して、半角 1 ～ 12 文字までの暗号化キーを入力し、［決定］を押します。

4 ［暗号化キーの再入力］を選択して、同じ暗号化キーを入力し、［決定］を押します。

5 ［決定］を押して確認画面が表示されたら、［はい (変更する)］を押します。

■データ暗号化機能の利用開始と設定変更について

データの暗号化の設定 / 解除、および暗号化キーを変更した場合、本機を再起動する必要があります。対応する記憶領域（ハードディスク）は、再起動時に初期化されます。このとき、切り替え前のデータは保証されません。

記憶領域には、次のようなデータが保存されます。

- スプールされるプリントデータ
- セキュリティープリント、サンプルプリントなどのプリントデータ
- フォームオーバーレイ機能のフォーム
- 親展ボックスやジョブフローの設定（ボックス名、暗証番号など）
- 親展ボックス内の文書
- 宛先表のデータ
- デジタル証明書

注記

- データの暗号化機能の利用開始と設定変更は、必ず、必要な設定や文書を保存してから行ってください。
- 現在接続されているハードディスクが、暗号化の設定と一致しない場合は、エラーとなります。エラーメッセージと処置は、「その他のエラーについて」(P.705) を参照してください。
- ［ハードディスクの上書き消去設定］の［上書き回数の設定］を［1 回］または［3 回］に設定し、親展ボックスに大量のデータ（100 ジョブ以上）が残っている状態で、暗号化の設定を変更する場合は、次の手順で行うことをお勧めします。

  1. ［仕様設定 / 登録］>［登録 / 変更］>［ボックス登録］で、［ボックス登録］画面を表示します。
  2. 親展ボックスを選択して［ボックス削除］ですべての親展ボックスを削除します。
  3. ［閉じる］を押します。
  4. 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押し、［HDD の上書き消去］が「待機中」に表示されたことを確認します。
  5. 機械管理者モードに入り、データの暗号化の設定を変更します。
  機械管理者モードへの入りかたは、「仕様設定の流れ」(P.162) を参照してください。
- カストマーエンジニアでも暗号化キーの参照や復元はできません。
- カストマーエンジニアが電子基板を交換すると、暗号化キーは初期化されます。暗号化キーの内容を忘れないようにしてください。

秘密情報の暗号化キー

機械管理者のパスワードや親展ボックスのパスワードなどの秘密情報を暗号化するための暗号化キーを設定します。秘密情報を暗号化することで、ネットワーク上の盗聴や秘密情報の所有者以外からの参照を抑止します。

暗号化キーは、半角英数字 4 ～ 12 文字の範囲で指定します。

注記

- 暗号化キーを変更すると、バックアップした秘密情報を復元できなくなる可能性があります。

1 ［秘密情報の暗号化キー］を選択して［確認 / 変更］を押します。

2 ［新しい暗号化キー］を選択して、暗号化キーを入力し、［決定］を押します。

3 ［暗号化キーの再入力］を選択して、同じ暗号化キーを入力し、［決定］を押します。

4 ［決定］を押して確認画面が表示されたら、［はい (変更 / 削除)］を押します。

カストマーエンジニアの操作制限

カストマーエンジニアのなりすましによって、本機のセキュリティーの設定が変更されないように、カストマーエンジニアの操作を制限するかどうかを設定します。

■しない

カストマーエンジニアの操作を制限しません。

■する

カストマーエンジニアは、次の項目が変更できなくなります。

- 「データの一括削除」(P.193)
- 「ペーパーセキュリティー」(P.199)
- 「イメージログ管理」(P.204)
- 「その他の設定」(P.208)
- 「データの暗号化」(P.224)
- 「秘密情報の暗号化キー」(P.226)
- 「カストマーエンジニアの操作制限」(P.226)
- 「SSL/TLS 設定」(P.268)
- 「S/MIME 設定」(P.269)
- 「IPsec 設定」(P.271)
- 「機械管理者情報の設定」(P.366)
- 「機械管理ユーザーの認証失敗アクセス拒否」(P.373)
- 「ハードディスクの上書き消去設定」(P.379)
- 機械管理の権限を与えられたユーザーの作成 / 変更

- SNMP v 3 の設定変更

カストマーエンジニアが本機の保守作業をするときには、保守パスワードの入力が必要になります。保守パスワードを 4 ～ 12 桁の英数字で設定してください。

注記

- ［する］に設定した場合、次のことにご注意ください。
  - 機械管理者のUser IDとパスワードを忘れると、カストマーエンジニアに制限されている項目の変更ができなくなります。
  - 保守パスワードを忘れると、本機でトラブルが発生したときにカストマーエンジニアによる保守作業ができなくなります。
- 制限項目の変更や保守作業をするには、電子基板の交換が必要になります。電子基板の交換には、代金ならびに交換手数料が必要になりますので、機械管理者の User ID とパスワード、および保守パスワードは忘れないようにご注意ください。

補足

- この機能を利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

参照

- 機械管理の権限は、「管理の権限」（P.488）を参照してください。

ソフトウェアダウンロード

ソフトウェアダウンロードを許可するかどうかを設定します。この機能は、カストマーエンジニアが設定します。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

原稿ガイド位置の確認

原稿送り装置のガイド位置を 8.5" にセットして読み込みを開始したときに、確認画面を表示させるかの設定ができます。［しない］または［する］を選択できます。

原稿送り装置の静音制御

自動両面原稿送り装置をお使いの場合、原稿を読み取るときの動作音を軽減するかどうかを設定します。［コピー］、［スキャナー］、［ファクス］のそれぞれについて設定できます。

原稿送り装置の動作音を軽減するときは、［静音動作］を選択します。

カラーモード自動時の印刷動作

［カラーモード］に［自動］を設定したときの動作を設定します。［標準］または［速度優先］を設定します。

原稿の種類（カラー / モノクロ）を自動で切り替えるときは［標準］を、切り替えないときは［速度優先］を選択します。［速度優先］にすると、カラーで出力されます。

宛先指示方法の制限

ファクス / インターネットファクス、またはスキャナー（メール送信）で、宛先表に登録されていない宛先への送信を制限するかどうかを設定します。

［登録宛先のみ許可］に設定すると、キーボードや数字ボタンからは、宛先を入力できなくなります。送信できるのは、宛先表に登録された宛先に制限されます。

補足

- ユーザーに［宛先指示方法の制限］を解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ」（P.489）を参照してください。

宛先表登録 / 変更の制限

一般ユーザーによる宛先表の登録、変更を制限するかどうかを設定します。

［する］に設定すると、一般ユーザーは宛先表の登録 / 変更ができなくなります。

補足

- ユーザーに［宛先表登録 / 変更の制限］を解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ」(P.489) を参照してください。

短縮番号入力の自動確定

短縮番号入力時に、番号を自動確定するかどうかを設定します。［一定時間経過後に確定する］を選択すると、自動確定までの時間を［短め］、［標準］、［長め］から選択できます。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては使用できません。

データランプの点灯パターン

〈データ〉ランプの点灯パターンを設定します。

■パターン 1

本機のデータ格納領域に文書が保存されているときに点灯します。

■パターン 2

ファクス受信文書のプリント待ち、またはファクス親展受信文書が親展ボックス内に蓄積されているときに点灯します。

■パターン 3

プリントジョブの終了時に 30 秒間点灯します。

ジョブ一時停止後の処理

起動したジョブの操作を途中で止め、［自動リセット］で指定した時間が経過するまで放置した場合に、そのジョブを自動的に継続するか、自動的に中止するか、ユーザーが操作を再開するまで一時停止したままにするかどうかを設定します。

参照

- 自動リセットについては、「自動リセット」(P.172) を参照してください。

■自動的に再開する

ジョブが放置されたまま、［自動リセット］で設定した時間が経過すると、そのジョブは自動的に継続されます。

■自動的に中止する

ジョブが放置されたまま、［自動リセット］で設定した時間が経過すると、そのジョブは自動的に中止されます。

■ユーザー操作で再開 / 中止する

ジョブが放置されたまま、［自動リセット］で設定した時間が経過しても、そのジョブはユーザーが操作を再開するまで一時停止したままになります。

コピー設定

［コピー設定］では、コピー機能に関する仕様を設定します。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［コピー設定］を押します。

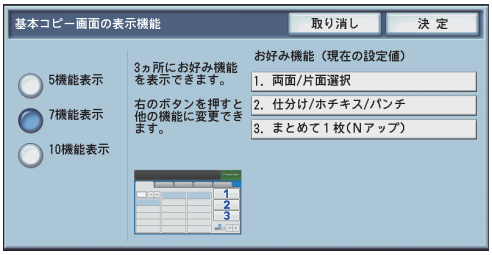
参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.162) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

基本コピー画面の表示機能

［コピー］画面に表示する機能をカスタマイズできます。よく使う機能を設定しておくと、そのほかのタブを押す操作などが省けます。

1 表示する機能の数を選択します。



■5 機能表示

［カラーモード］、［倍率選択］、［用紙選択］、［両面 / 片面選択］、［仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り］の 5 機能が表示されます。表示する機能と配置は変更できません。

■7 機能表示

［コピー］画面の左から 4 列めの機能を設定できます。

補足
- ［カラーモード］、［倍率選択］、［用紙選択］は、設定できません。

■10 機能表示

［コピー］画面の左から 3 列めと 4 列めの機能を設定できます。

補足
- ［倍率選択］、［用紙選択］は、設定できません。

2 右側に表示されているボタンから、設定したい位置を選択します。

補足
- 画面の右側の各ボタンの位置は、［コピー］画面のボタンの位置を表しています。

3 表示する機能を選択し、［閉じる］を押します。

補足
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

4 必要に応じて、手順 2、3 を繰り返します。

5 ［決 定］を押します。

プリセットボタンの設定

用紙トレイボタン -2 段目～ 5 段目

［コピー］画面の［用紙選択］の 2 ～ 5 段めに表示される用紙トレイを設定します。

倍率ボタン -3、4 段目

［コピー］画面の［倍率選択］の 3、4 段めに表示される倍率を設定します。倍率は固定倍率ボタンに登録した中から選択します。

おもて表紙トレイ -1 ～ 3 段目

［出力形式］画面の［表紙付け］で、おもて表紙にコピーするとき、［トレイ設定］の選択時に表示されるトレイの初期値を設定します。

うら表紙トレイ -1 ～ 3 段目

［出力形式］画面の［表紙付け］で、うら表紙にコピーするとき、［トレイ設定］の選択時に表示されるトレイの初期値を設定します。

コピー機能設定初期値

コピー機能の初期値を設定します。電源を入れたときや節電状態から復帰したとき、また〈リセット〉ボタンを押したときに、ここで設定されている初期値の状態に戻ります。よく使う機能や値を初期値に設定しておくと、操作のたびに設定する操作が省けます。

参照

- 設定項目の説明は、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」を参照してください。

用紙選択

［コピー］画面にある、［用紙選択］の初期値を設定します。

補足

- ［倍率選択］の初期値を［自動 %］に設定している場合、［用紙選択］では［自動］を設定できません。

倍率選択

［コピー］画面にある、［倍率選択］の初期値を設定します。倍率は、固定倍率ボタンに登録したボタンと、［100%］、［自動 %］の定形倍率から設定します。

補足

- ［用紙選択］の初期値を［自動］に設定している場合、［倍率選択］では［自動 %］を設定できません。

参照

- 固定倍率ボタンの設定方法は、「固定倍率ボタン」（P.238）を参照してください。

カラーモード

［コピー］画面にある、［カラーモード］の初期値を設定します。［初期値を設定しない］を選択した場合は、［コピー］画面で、カラーモードを選択してからコピーをスタートしてください。

カラーモード（らくらくコピー）

［らくらくコピー］画面にある、［カラーモード］の初期値を設定します。［自動］、［カラー］、［白黒］から選択できます。

単色カラー - 色指定

［コピー］画面にある、［カラーモード］の［他のカラーモード］の［単色カラー］の初期値を設定します。6 種類の固定色と 6 種類の登録色から選択できます。

参照
- 登録色については、「登録色」(P.238) を参照してください。

2 色カラー - 抽出色の指定

［コピー］画面にある、［カラーモード］の［他のカラーモード］の［2 色カラー］を選択すると表示される、［抽出色の指定］の初期値を設定します。［色指定］を選択すると、6 種類の色から選択できます。

2 色カラー - 抽出部のコピー色

［コピー］画面にある、［カラーモード］の［他のカラーモード］の［2 色カラー］を選択すると表示される、［抽出部分のコピー色］の初期値を設定します。7 種類の固定色と 6 種類の登録色から選択できます。

参照
- 登録色については、「登録色」(P.238) を参照してください。

2 色カラー - 抽出部外のコピー色

［コピー］画面にある、［カラーモード］の［他のカラーモード］の［2 色カラー］を選択すると表示される、［抽出部分外のコピー色］の初期値を設定します。7 種類の固定色と 6 種類の登録色から選択できます。

参照
- 登録色については、「登録色」(P.238) を参照してください。

原稿の画質

［画質調整］画面にある、［原稿の画質］の初期値を設定します。

原稿の画質 - 自動 (白黒以外)

［画質調整］画面にある［原稿の画質］の初期値を設定します。

［コピー］画面で、［カラーモード］を［白黒］以外に設定したときに有効になります。

原稿の画質 - 自動 (白黒)

［画質調整］画面にある［原稿の画質］の初期値を設定します。

［コピー］画面で、［カラーモード］を［白黒］に設定したときに有効になります。

コピー濃度

［画質調整］画面にある、［コピー濃度 / シャープネス / 彩度］の［コピー濃度］の初期値を設定します。

コントラスト

［画質調整］画面にある、［地色除去 / コントラスト］の［コントラスト］の初期値を設定します。

シャープネス

［画質調整］画面にある、［コピー濃度 / シャープネス / 彩度］の［シャープネス］の初期値を設定します。

彩度

［画質調整］画面にある、［コピー濃度 / シャープネス / 彩度］の［彩度］の初期値を設定します。

地色除去

原稿の背景にある色を除去してコピーするときに設定します。

［画質調整］画面にある、［地色除去 / コントラスト］の［地色除去］の初期値を設定します。

［地色除去］は、［原稿の画質］で、［文字 / 写真］、［文字］、［地図］が選択されているときに有効です。

カラーバランス - イエロー / カラーバランス - マゼンタ / カラーバランス - シアン / カラーバランス - ブラック

［画質調整］画面にある、［カラーバランス］の各濃度レベルの初期値を設定します。各色に［低濃度］、［中濃度］、［高濃度］を設定できます。

補足

- 濃度レベルの設定により、［画質調整］画面の［カラーバランス］の設定は、次のようになります。
  - 全色の濃度レベルを［0、0、0］に設定すると、［標準］に設定されます。
  - 各色の濃度レベルを同じ数値（[0、0、0]、[1、1、1]など）に設定すると、[基本調整]に設定されます。
  - そのほかの設定にすると、［専門調整］に設定されます。

色合い

［画質調整］画面にある、［色合い］の初期値を設定します。

両面 / 片面選択

［コピー］、［読み取り方法］および［出力形式］画面にある、［両面 / 片面選択］の初期値を設定します。

ミックスサイズ原稿送り

［読み取り方法］画面にある、［ミックスサイズ原稿送り］の初期値を設定します。

わく消し量 - 上

［読み取り方法］画面の［わく消し］にある、原稿わく消し量の上方向の初期値を設定します。0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

補足

- わく消し量を［0］に設定しても全面コピーできません。実際にコピーできる領域は、「プリント可能領域」（P.780）を参照してください。

わく消し量 - 下

［読み取り方法］画面の［わく消し］にある、原稿わく消し量の下方向の初期値を設定します。0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

補足

- わく消し量を［0］に設定しても全面コピーできません。実際にコピーできる領域は、「プリント可能領域」（P.780）を参照してください。

わく消し量 - 左

［読み取り方法］画面の［わく消し］にある、原稿わく消し量の左方向の初期値を設定します。0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

補足
- わく消し量を［0］に設定しても全面コピーできません。実際にコピーできる領域は、「プリント可能領域」(P.780) を参照してください。

わく消し量 - 右

［読み取り方法］画面の［わく消し］にある、原稿わく消し量の右方向の初期値を設定します。0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

補足
- わく消し量を［0］に設定しても全面コピーできません。実際にコピーできる領域は、「プリント可能領域」(P.780) を参照してください。

わく消し量 - 中

［読み取り方法］画面の［わく消し］にある、原稿わく消し量の［中消し］の初期値を設定します。0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

補足
- わく消し量を［0］に設定しても全面コピーできません。実際にコピーできる領域は、「プリント可能領域」(P.780) を参照してください。

わく消し - 原稿うら面

わく消し量を設定して両面原稿をコピーするときに、わく消し量をおもて面と同じにするか、またはおもて面と対称にするかを設定します。

コピー位置 - おもて面

［読み取り方法］画面にある、［コピー位置 / とじしろ］の［おもて面］の初期値を設定します。

コピー位置 - うら面

［読み取り方法］画面にある、［コピー位置 / とじしろ］の［うら面］の初期値を設定します。

自動画像回転

［読み取り方法］画面にある、［自動画像回転］の初期値を設定します。

自動画像回転 - 回転方向

［読み取り方法］画面の［自動画像回転］にある、［自動画像回転 - 回転方向］の初期値を設定します。

原稿セット向き指定

［読み取り方法］画面にある、［原稿セット向き指定］の初期値を設定します。

まとめて 1 枚 (N アップ)

［コピー］画面と［出力形式］画面にある、［まとめて 1 枚 (N アップ)］の初期値を設定します。

仕分け

［コピー］画面と［出力形式］画面にある、［仕分け / ホチキス / パンチ / Z 折り］の初期値を設定します。

複数枚の原稿をコピーしたとき、用紙をどのような方法で仕分けして排出するかを設定します。用紙の仕分け方法は［自動仕分け］、［ソート（ 1 部ごと ）］、［スタック（ ページごと ）］、［スタック + 仕切り合紙］から選択します。

仕分け - 仕切り合紙用トレイ

［コピー］画面と［出力形式］画面にある、［仕分け / ホチキス / パンチ / Z 折り］を押すと表示される、［スタック + 仕切り合紙］の［仕切り合紙トレイ］の初期値を設定します。

排出先

［コピー］画面と［出力形式］画面にある、［仕分け / ホチキス / パンチ / Z 折り］を押すと表示される、［排出先 / オフセット排出］の初期値を設定します。

補足

- 設定された排出先から排出できないときは、排出先が自動的に変更される場合があります。

排出先（ らくらくコピー ）

［らくらくコピー］画面からコピーするときの排出先を設定します。

補足

- 設定された排出先から排出できないときは、排出先が自動的に変更される場合があります。
- ［らくらくコピー］画面で、排出先の設定を確認したいときは、操作パネルの〈設定確認〉ボタンを押して表示される、［設定確認］画面で確認できます。〈設定確認〉ボタンについては、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「 機械の構成」>「操作パネル」を参照してください。

サンプルコピー

［ジョブ編集］画面にある、［サンプルコピー］の初期値を設定します。

アノテーション - スタンプ - 種類

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［スタンプ］を［付ける］に設定すると表示される、［種類］の初期値を設定します。

スタンプの種類は、あらかじめ登録されている 8 種類とユーザー登録された文字列から選択できます。

参照

- ユーザー登録の方法は、「アノテーションスタンプ登録」（P.239）を参照してください。

アノテーション - スタンプ - 位置（表）、アノテーション - スタンプ - 位置（裏）

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［スタンプ］を［付ける］に設定すると表示される、［位置］の初期値を設定します。

アノテーション - スタンプ - 大きさ

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［スタンプ］を［付ける］に設定すると表示される、［詳細設定］の［大きさ］の初期値を設定します。

アノテーション - スタンプ - 色

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［スタンプ］を［付ける］に設定すると表示される、［詳細設定］の［色］の初期値を設定します。

アノテーション - 日付 - 位置（表）、アノテーション - 日付 - 位置（裏）

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［日付］を［付ける］に設定すると表示される、［位置］の初期値を設定します。

アノテーション - 日付 - 大きさ

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［日付］を［付ける］に設定すると表示される、［大きさ］の初期値を設定します。

アノテーション - ページ - 種類

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［ページ番号］を［付ける］に設定すると表示される、［種類］の初期値を設定します。

アノテーション - ページ - 位置（表）、アノテーション - ページ - 位置（裏）

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［ページ番号］を［付ける］に設定すると表示される、［位置］の初期値を設定します。

アノテーション - ページ - 大きさ

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［ページ番号］を［付ける］に設定すると表示される、［大きさ］の初期値を設定します。

- 文字付ページ - ページ桁数

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［文字付きページ番号］を［付ける］に設定すると表示される、［ページ桁数］の初期値を設定します。

- 文字付ページ - 位置（表）、- 文字付ページ - 位置（裏）

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［文字付きページ番号］を［付ける］に設定すると表示される、［位置］の初期値を設定します。

- 文字付ページ - 大きさ

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［文字付きページ番号］を［付ける］に設定すると表示される、［大きさ］の初期値を設定します。

製本 - 表紙トレイ

［出力形式］画面にある、［製本］で表紙を使用する設定のときに表示される、［トレイ設定］の初期値を設定します。

表紙付け - おもて表紙トレイ、表紙付け - うら表紙トレイ

［出力形式］画面にある、［表紙付け］で表紙を使用する設定のときに表示される、［トレイ設定］の初期値を設定します。

合紙挿入 - 合紙用トレイ

［ジョブ編集］画面にある、［ビルドジョブ］を［する］に設定すると表示される、［合紙挿入］で［合紙に使用するトレイ］の初期値を設定します。

コピー動作制御

コピー動作の制御に関連する設定をします。

メモリーオーバーフローの処理

原稿の読み込み中に、ハードディスクの領域が不足した場合、途中まで蓄積されていたデータの処理をどうするか確認する画面が表示されます。

確認画面を表示させたまま一定時間が経過したあとの処理方法を設定します。

参照

- メモリーオーバーフローの処理を実行するまでの時間を設定できます。詳しくは、「ジョブ自動解除」(P.172) を参照してください。

■ジョブ中止

蓄積されたデータは破棄されます。

■読み込み原稿でジョブ実行

途中まで蓄積されたデータを有効にしてコピーします。

最大蓄積ページ数

コピーの原稿最大蓄積ページ数を指定します。1 ～ 999 ページまで指定できます。

自動解除時のトレイ

［コピー］画面にある、［用紙選択］の［自動］が解除されたときに選択されるトレイを設定します。倍率に［自動 %］を選択したり、［たてよこ独立変倍］の［自動］、［ちょっと小さめ (全面)］を選択すると［用紙選択］の［自動］が解除されます。

異サイズ原稿の裏面コピー

両面コピーでおもて面とうら面の原稿サイズが異なる場合に、自動用紙選択でおもて面とうら面で異なるサイズの用紙が選択されたときのうら面をコピーする用紙を設定します。

注記

- おもて面とうら面の原稿サイズが異なる場合に、おもて面と同じ用紙にうら面をコピーすると、画像欠けが発生することがあります。

■しない (新しい用紙にコピー)

自動的に選択された新しい用紙のおもて面にコピーします。

■する

用紙サイズを変更しないで、そのままおもて面と同じ用紙のうら面にコピーします。

等倍微調整

等倍（100%）でコピーするときの倍率を微調整できます。設定値は、［コピー］画面の倍率［100%］に反映されます。

X/Y 方向を 98 ～ 102%の範囲で 0.1%単位で指定します。

注記

- この機能は、原稿ガラスでコピーする場合だけ適用されます。また［たてよこ独立変倍］、［寸法指定変倍］で設定した等倍（100%）には反映されません。

補足

- 値を指定しても、倍率は［100%］で表示されます。

ID カードコピー選択時の倍率

ID カードコピーをするときの倍率を設定します。［変更する］を選択すると、25 ～ 400%の範囲で 1%単位で指定できます。

補足
- 縮小率によっては、原稿のセット向きと異なる向きにコピーされる場合があります。

地色除去レベル (文字 / 写真)

カラーコピーをするときの、地色除去レベルを設定します。［画質調整］画面の、［原稿の画質］で［文字 / 写真］を選択している場合に有効な設定です。数値が大きくなると、地色除去の強度が増します。

地色除去レベル (文字)

カラーコピーをするときの、地色除去レベルを設定します。［画質調整］画面の、［原稿の画質］で［文字］を選択している場合に有効な設定です。

数値が大きくなると、地色除去の強度が増します。

文字 / 写真（印刷写真）の原稿

［画質調整］画面の、［原稿の画質］で［文字 / 写真］の［印刷写真］を選択したときの原稿の種類を設定します。

■標準

標準の画質でコピーします。

■インクジェット原稿

インクジェットプリンターでプリントされた原稿をコピーするときに選択します。インクジェット原稿の色識別を向上させることができます。

■蛍光ペン原稿

蛍光ペンでマーキングされた原稿をコピーするときに選択します。蛍光ペンの色識別（オレンジ色 / 緑色）を向上させます。

原稿の画質 - うす紙原稿

［画質調整］画面にある、［原稿の画質］で［文字］を選択したときに、［うす紙原稿］を表示するかどうかを設定します。

アノテーション - スタンプの透過度

アノテーションで印字されるスタンプの透過度を設定します。

［0%(ベタ)］、［25%］、［50%］の 3 種類の透過度から選択できます。0%は透過しない状態です。

補足
- ［0%(ベタ)］は、文字の上に重なると文字を確認できなくなる場合があります。

スタンプ位置微調整 - 左上、中央上、右上、左中央、中央、右中央、左下、中央下、右下

アノテーションのスタンプをプリントする位置を調整できます。

日付位置微調整 - 左上、中央上、右上、左下、中央下、右下

アノテーションの日付をプリントする位置を調整できます。

ページ位置微調整 - 左上、中央上、右上、左下、中央下、右下

アノテーションのページ番号をプリントする位置を調整できます。

文字付ページ位置調整 - 左上、中上、右上、左下、中下、右下

アノテーションの文字付きページ番号をプリントする位置を調整できます。

カウンタ表示切り替え

コピー機能で表示されるカウンターの表示方法を設定します。

［セット部数］、［セット部数＋メモリー残量］、［セット部数＋原稿カウント］から選択します。

コピー部数の制限

コピー部数の上限を 1 ～ 999 の範囲で設定します。ここで設定した数を超える部数は、指定できなくなります。

原稿サイズボタン

［読み取り方法］画面の［原稿サイズ入力］に表示する原稿サイズを設定します。

［自動検知］以外のボタンに、原稿サイズを割り当てられます。

定形外サイズの原稿を頻繁にコピーするときなど、あらかじめ定形外サイズを設定しておくと、コピーのたびに原稿サイズを入力する操作が省けます。

■A 系 B 系表示

A 系、B 系のサイズから選択できます。

■インチサイズ表示

インチ系のサイズから選択できます。

■その他

そのほかのサイズから選択できます。

■サイズ入力

任意のサイズを入力できます。X（よこ）方向が 15 ～ 432mm、Y（たて）方向が 15 ～ 297mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

固定倍率ボタン

［コピー］画面の［倍率選択］で、［定形変倍 / ズーム］の［プリセット %］に表示する倍率を設定します。

［100%］と［自動 %］以外のボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

登録色

［カラーモード］の［単色カラー］、および［2 色カラー］で使用するユーザー登録色を設定します。

登録色 1 ～ 6 ボタンに、イエロー（0 ～ 100%）、マゼンタ（0 ～ 100%）、シアン（0 ～ 100%）のユーザー登録色を割り当てることができます。

補足

- イエロー、マゼンタ、シアンの合計が 240%以下になるように調整してください。

アノテーションスタンプ登録

［アノテーション - スタンプ］で印字される文字列を登録します。全角 32 文字（半角 64 文字）まで入力できます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.50) を参照してください。

ネットワーク設定

［ネットワーク設定］では、ネットワークに関する仕様を設定します。

参照

- ネットワーク設定については、「プリント機能の設定」(P.389)、「メール機能の設定」(P.403) も参照してください。
- CentreWare Internet Services を使うと、さらに詳細な設定ができます。詳しくは、「CentreWare Internet Services の設定」(P.381) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［ネットワーク設定］を押します。

参照

- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.162) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

ポート設定

クライアントに接続されている本機のインターフェイスの設定をします。［ポート設定］では、次の項目を設定できます。

注記

- LPD、Port9100、HTTP-SSL/TLS 通信、SIP は、ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。
  HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、LPD、Port9100、HTTP-SSL/TLS 通信のポート番号と同じ番号を使用しないでください。
  また上記いずれも、次のポート番号を設定した場合、ポートの設定状況によっては正常に動作しなくなることがあります。
  25、139、427、445、631、15000
- Ethernet インターフェイス回線が 2 回線のとき、セカンダリーネットワーク（オプション）は LPD、Port9100、SNMP、インターネットサービス（HTTP）、Bonjour、IPP のみ通信できます。それ以外のポートは通信できません。
- セカンダリーイーサネット（オプション）は Google クラウドプリントポートに対応していません。このため Ethernet2 で Google クラウドプリントのジョブをプリントできません。

参照

- HTTP-SSL/TLS通信ポートについては、「HTTP - SSL/TLS 通信ポート番号」(P.268) を参照してください。
- Google クラウドプリントポートの設定は、CentreWare Internet Services で行います。設定については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

USB

■USB- ポート

USB を使用するときは［起動］に設定します。

■USB- プリントモード指定

使用するプリント言語の種類を選択します。［自動］を選択すると、ホスト装置から受信したデータが、どの言語で記述されているかを自動的に判断し、データに合わせて適切なプリント処理を行います。

■USB-JCL

JCL（Job Control Language）コマンドとは、実際のプリントジョブの先頭に付加されたデータです。通常は、［有効］のままで使用します。

■ **USB- 自動排出時間**

本機にデータが送られなくなってから、用紙を自動的に排出するまでの時間を 5 ～ 1275 秒の範囲で 5 秒単位で設定します。

■ **USB - Adobe 通信プロトコル**

◆ **標準**

プリンタードライバーの出力プロトコルが ASCII 形式のときに設定します。

◆ **バイナリー**

プリンタードライバーの出力プロトコルが BCP 形式のときに設定します。

◆ **TBCP**

プリンタードライバーの出力プロトコルが TBCP 形式のときに設定します。

◆ **RAW**

プリンタードライバーの出力プロトコルが ASCII 形式またはバイナリ形式のときに設定します。

Adobe 通信プロトコルの制御を受けないで、データをそのまま出力します。

■ **PS 印刷待ちタイムアウト**

本機ではデータを一定時間受信しないと、接続を自動的に切断します。［USB- Adobe 通信プロトコル］で［RAW］を選択して、データを印刷しているときに、接続を切断するまでの時間を［USB- 自動排出時間］に従う場合は［無効］、PostScript のタイムアウトに従う場合は［有効］に設定します。

LPD

■ **LPD- ポート**

LPD を使用するときは［起動］に設定します。

■ **LPD- ポート番号**

LPD のポート番号を 1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、515 です。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■ **LPD- セッション数**

本機に LPD で同時に接続できるクライアントの最大数を、1 ～ 10 の範囲で 1 単位で設定します。

初期値は、5 です。

SMB クライアント

■ **SMB クライアント - ポート**

スキャナー（PC 保存）で SMB 転送する場合や SMB 認証を行う場合など、SMB を使用するときは［起動］に設定します。

IPP

■IPP- ポート

IPP を使用するときは［起動］に設定します。

IPP（Internet Printing Protocol）を使って、インターネット経由でプリントするときに設定します。

■IPP- 追加ポート番号

標準のポート番号以外で IPP を受け付けない場合は［無効］、受け付ける場合は［有効］に設定します。

追加ポート番号は、1 ～ 65535 の範囲で指定できます。

初期値は、80 です。

注記

- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

補足

- ［IPP- ポート］が［停止］に設定されているときは、［IPP- 追加ポート番号］は設定できません。［IPP- ポート］を［起動］に設定し、［閉じる］を押し、［はい（ 再起動する ）］を押して本機が再起動したあとに、［IPP- 追加ポート番号］を設定してください。

Bonjour

■Bonjour- ポート

Bonjour® を使用するときは［起動］に設定します。

補足

- Bonjour を使用して検出したプリンターでプリントするためには、LPD ポートを起動しておく必要があります。

Port 9100

■Port9100- ポート

Port9100® を使用するときは［起動］に設定します。

Windows® の標準 TCP/IP ポートモニターで Raw プロトコルを使用する場合に設定します。

■Port9100- ポート番号

Port9100 のポート番号を 1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、9100 です。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

SNMP

■SNMP- ポート

本機をネットワーク上で管理する弊社製アプリケーションを使用する場合など、SNMP を使用するときは［起動］に設定します。

SIP

■SIP- ポート

IP ファクス（SIP）を使用するときは［起動］に設定します。

■SIP- ポート番号

IP ファクス（SIP）に使用するポート番号を設定します。

初期値は、5060 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を設定しないでください。

補足
- IP ファクス（SIP）は、お使いの機種によっては利用できません。

FTP クライアント

■FTP クライアント - ポート

スキャナー（PC 保存）で FTP 転送する場合など、FTP を使用するときは［起動］に設定します。

補足
- スキャンした画像を FTP 通信で送信する際の通信モードを、Passive 通信モード、Active 通信モードから選択できます。工場出荷時の初期設定は、Passive モードになっています。設定を変更する場合は、CentreWare Internet Services を使用してください。

メール受信

■メール受信 - ポート

メールやインターネットファクスを受信するときは［起動］に設定します。

メール送信

■メール送信 - ポート

メールやインターネットファクスを送信するときは［起動］に設定します。

メール通知サービス

■メール通知サービス - ポート

メール通知サービスを使用するときは［起動］に設定します。メール通知サービスとは、本機の状態やプリントジョブ、ダイレクトファクスジョブの実行終了をメールで通知する機能です。

補足
- 通知される本機の状態は、［消耗品の状態］、［交換部品の状態］、［用紙の状態］、［排出先の状態］、［ジャム状態］、［インターロック状態］、［フォルトの通知］です。
- メール通知サービスの設定は CentreWare Internet Services で行います。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

UPnP ディスカバリー

■UPnP ディスカバリー - ポート

UPnP を使用するときは［起動］に設定します。

■**UPnP ディスカバリー - ポート番号**

UPnP の通信で使用するポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、80 です。

注記

- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

WSD

補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

■**WSD プリント - ポート**

WSD プリントを使用するときは［起動］に設定します。

Windows® 10、Windows® 8.1、Windows® 8、Windows® 7、Windows Vista®、Windows Server® 2016、Windows Server® 2012 R2、および Windows Server® 2012 からネットワーク内の機器を検索するときに設定します。

■**WSD スキャン - ポート**

WSD スキャンを使用するときは［起動］に設定します。

Windows® 10、Windows® 8.1、Windows® 8、Windows® 7、および Windows Vista® からネットワーク内の機器を検索するときに設定します。

■**WSD- ポート番号**

WSD の通信で使用するポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、80 です。

注記

- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

BMLinkS

■**BMLinkS - ポート**

BMLinkS を使用するときは［起動］に設定します。

参照

- 機能の概要は、「BMLinkS 機能の概要」（P.436）を参照してください。

■**プリントサービス - ポート番号**

プリントサービス用のポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、80 です。

注記

- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

■ディスカバリー - ポート番号

ディスカバリー用のポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、80 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

インターネットサービス（HTTP）

■インターネットサービス - ポート

CentreWare Internet Services を使用するときは［起動］に設定します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services の設定」（P.381）を参照してください。

■インターネットサービス - ポート番号

インターネットサービスで使用するポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、80 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

補足
- ［インターネットサービス - ポート］が［停止］に設定されているときは、［インターネットサービス - ポート番号］は設定できません。［インターネットサービス - ポート］を［起動］に設定し、［閉じる］を押して［はい (再起動する)］を押してください。本機が再起動したあとに、［インターネットサービス - ポート番号］を設定してください。

SOAP

■SOAP- ポート

Device Setup（デバイス設定ツール）などのアプリケーションを使用する場合など、SOAP ポートを使用するときは［起動］に設定します。

■SOAP- ポート番号

SOAP で使用するポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、80 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

WebDAV

■WebDAV- ポート

ネットワークスキャナーユーティリティ 3 などのアプリケーションを使用して本機の親展ボックスにアクセスする場合など、WebDAV を使用するときは［起動］に設定します。

注記
- WebDAV を使用するときは［SSL/TLS 設定］の［HTTP - SSL/TLS 通信］を有効にすることをお勧めします。パスワード漏えいの抑止に効果があります。

補足
- ［WebDAV- ポート］が［停止］に設定されているときは、［WebDAV- ポート番号］、［WebDAV- 操作の時間制限］は設定できません。［WebDAV- ポート］を［起動］に設定し、［閉じる］を押して［はい（ 再起動する ）］を押してください。本機が再起動したあとに、［WebDAV- ポート番号］、［WebDAV- 操作の時間制限］を設定してください。

■WebDAV - ポート番号

WebDAV で使用するポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、80 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

■WebDAV - 操作の時間制限

タイムアウトの時間を設定します。1 ～ 65535 秒の範囲で 1 秒単位で設定できます。

ThinPrint

■ThinPrint- ポート

本機は、ThinPrint .print 環境での印刷に対応しています。プリントサーバーから圧縮して送られた印刷データを解凍して印刷します。

ThinPrint® を使用するときは［起動］に設定します。

■ThinPrint- ポート番号

ThinPrint で使用するポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、4000 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。

補足
- 通信プロトコルが IPv4 で動作しているときに利用できます。
- 同時に接続できる最大接続数は、3 です。

無線 LAN 設定

無線 LAN 通信を行う際の基本設定をします。

参照
- 設定手順については、無線 LAN キット（オプション）または無線 LAN コンバーター（オプション）に同梱されているマニュアルを参照してください。

プロトコル設定

通信に必要な条件を設定します。

［プロトコル設定］は、通信に必要な設定ごとに以下のカテゴリーで構成されています。

- Ethernet 設定
- TCP/IP- 共通設定
- TCP/IP- ネットワーク設定

注記
- 各カテゴリーを設定するときは、それぞれの項目を選択し、［確認 / 変更］を押して、設定画面を開いてください。

また、［Ping 接続確認］では、設定した条件で正しく通信できるかを確認できます。

［ ネットワークプロトコルレポート出力 ］では、プロトコル設定を出力できます。

Ethernet 設定

Ethernet の設定をします。

■ Ethernet1- ネットワークの名称、Ethernet2- ネットワークの名称

Ethernet インターフェイスを 2 回線利用する場合に、それぞれの名称を設定します。

補足
- この項目は、セカンダリーイーサネット（オプション）を装着している場合のみ表示されます。

■ Ethernet- 速度設定 /Ethernet1- 速度設定、Ethernet2- 速度設定

通信速度を次の項目から設定します。

補足
- 本設定のタイトルは Ethernet インターフェイスが 1 回線のとき［Ethernet- 速度設定］のみ表示されます。Ethernet インターフェイスが 2 回線のとき［Ethernet1- 速度設定］と［Ethernet2- 速度設定］が表示されます。

◆ 自動

Ethernet の通信速度が自動的に検知されます。

◆ 100BASE - TX（全二重）

100BASE - TX（全二重）に固定して使用する場合に選択します。

◆ 100BASE - TX（半二重）

100BASE - TX（半二重）に固定して使用する場合に選択します。

◆ 10BASE - T（全二重）

10BASE - T（全二重）に固定して使用する場合に選択します。

◆ 10BASE - T（半二重）

10BASE - T（半二重）に固定して使用する場合に選択します。

◆ 1000BASE - T

1000BASE - T に固定して使用する場合に選択します。

■ **Energy Efficient Ethernet**

Energy Efficient Ethernet を有効にするかどうかを設定します。

補足

- 工場出荷時は、［有効］に設定されています。

TCP/IP - 共通設定

TCP/IP プロトコルに共通の設定をします。

■ **プライマリーネットワーク**

複数のインターフェイスを使用している場合、プライマリーネットワークとして動作するネットワークの名称が表示されます。

補足

- Ethernet2 は、プライマリーネットワークに設定することはできません。
- この項目は、セカンダリーイーサネット（オプション）、または無線 LAN キット（オプション）を装着している場合のみ表示されます。表示のみで設定はできません。

■ **IP 動作モード**

TCP/IP の動作モードを次の項目から設定します。

補足

- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合は、［IPv4 モード］または［デュアルスタック］を選択します。

◆ **IPv4 モード**

IPv4 で動作する場合に選択します。

◆ **IPv6 モード**

IPv6 で動作する場合に選択します。

◆ **デュアルスタック**

IPv4、IPv6 の混在した環境で使用する場合に選択します。

補足

- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合は、［IPv4 モード］または［デュアルスタック］を選択します。

TCP/IP - ネットワーク設定 /TCP/IP 設定（Ethernet1）、TCP/IP 設定（Ethernet2）、TCP/IP 設定（Wi-Fi）

共通設定以外の TCP/IP プロトコルの設定をします。

注記

- ［TCP/IP 設定（Ethernet1）］、［TCP/IP 設定（Ethernet2）］、［TCP/IP 設定（Wi-Fi）］に同じ IP アドレスを設定することはできません。同一 IP アドレスを設定したい場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
- セカンダリーネットワークで使用できるポートは、LPD、Port9100、SNMP、インターネットサービス（HTTP）および BonJour です。ネットワークスキャナーユーティリティ 3 など、その他の

ポートを使用するアプリケーションでセカンダリーネットワークのインターフェイスを設定しても動作しないことがあります。

補足

- ［TCP/IP 設定（Ethernet1）］、［TCP/IP 設定（Ethernet2）］、［TCP/IP 設定（Wi-Fi）］には異なる IP アドレスを設定することを推奨します。
- 本設定のタイトルはインターフェイスが 1 回線のとき［TCP/IP - ネットワーク設定］のみ表示されます。インターフェイスが複数のとき、使用しているインターフェイスにあわせて、［TCP/IP 設定（Ethernet1）］、［TCP/IP 設定（Ethernet2）］、［TCP/IP 設定（Wi-Fi）］が表示されます。
- ［TCP/IP 設定（Ethernet1）］、［TCP/IP 設定（Ethernet2）］、［TCP/IP 設定（Wi-Fi）］には［TCP/IP - ネットワーク設定］と同じ設定項目が表示されます。インターフェイスごとに独立した TCP/IP のネットワーク設定ができます。
- ［Ethernet1- ネットワークの名称］と［Ethernet2- ネットワークの名称］で任意の名称を設定した場合、［TCP/IP 設定（Ethernet1）］と［TCP/IP 設定（Ethernet2）］の［Ethernet1］と［Ethernet2］に設定した名称がそれぞれ表示されます。

■ IPv4 - IP アドレス取得方法

IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの取得方法を指定します。

◆ DHCP から取得

DHCP サーバーから IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを自動的に取得します。

◆ BOOTP から取得

BOOTP サーバーから IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを自動的に取得します。

◆ RARP から取得

RARP サーバーから IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを自動的に取得します。

◆ DHCP/AutoIP から取得

DHCP サーバーから IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを自動的に取得します。

DHCP サーバーとの通信に失敗した場合は、AutoIP 機能が有効となり、IP アドレス（169.254.xxx.xxx）が割り当てられます。この場合も、DHCP サーバーと通信可能となった場合は、DHCP サーバーから取得し直します。

◆ 手動で設定

IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを手動で設定します。

補足

- IP アドレスを設定しないと、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスは設定できません。
- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合は、［DHCP/AutoIP から取得］または［DHCP から取得］を選択します。

■ IPv4 - IP アドレス

［IPv4-IP アドレス取得方法］で［手動で設定］を選択した場合に、IP アドレスを表示されたキーボードまたは〈数字〉ボタンで指定します。

補足

- IP アドレスは、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は、0 ～ 255 までの数値です。
- 数値（0 ～ 9）、またはピリオド（.）による文字列で指定します。［1 文字削除］で間違った入力を 1 文字ずつ削除できます。

■IPv4 - サブネットマスク

［IPv4-IP アドレス取得方法］で［手動で設定］を選択した場合に、サブネットマスクを表示されたキーボードまたは〈数字〉ボタンで指定します。

補足

- IP アドレスは、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は、0 ～ 255 までの数値です。
- 数値（0 ～ 9）、またはピリオド（.）による文字列で指定します。［1 文字削除］で間違った入力を 1 文字ずつ削除できます。

■IPv4 - ゲートウェイアドレス

［IPv4-IP アドレス取得方法］で［手動で設定］を選択した場合に、ゲートウェイアドレスを表示されたキーボードまたは〈数字〉ボタンで指定します。

補足

- IP アドレスは、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は、0 ～ 255 までの数値です。
- 数値（0 ～ 9）、またはピリオド（.）による文字列で指定します。［1 文字削除］で間違った入力を 1 文字ずつ削除できます。

■IPv4 - DNS 設定

DNS サーバーを設定します。

◆DHCP からのアドレス取得

DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから自動的に取得するかどうかを設定します。

◆DNS サーバーアドレス 1 ～ 3

［DHCP からのアドレス取得］を［しない］に設定した場合は、DNS サーバーのアドレスを手動で設定します。DNS サーバーアドレス 2 と 3 には代替 DNS サーバーのアドレスを設定できます。

■IPv4 - 受付 IP アドレス制限

本機への接続を IPv4 アドレスで制限するかどうかを設定します。

補足

- ［IPv4- 受付 IP アドレス制限］は、TCP/IP を使用する全機能が対象となります。たとえば、プリント、スキャン（親展ボックススキャン ）、CentreWare Internet Services、ApeosWare JF Pool Service（ApeosPort シリーズのみ）、外部アクセス（ApeosPort シリーズのみ）などです。
- 接続を受け付ける IPv4 アドレスの登録は、CentreWare Internet Services の［受付 IP アドレス制限］で行います。設定方法は、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。また、使用方法は、「CentreWare Internet Services の設定」（P.381）を参照してください。
- ［受付 IP アドレス制限］を［する］に設定して、本機からスキャン画像を FTP 転送する場合は、FTP の通信モードを必ず［Active モード］に切り替えてください。FTP 通信モードの切り替えは、CentreWare Internet Services で設定できます。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

■IPv6 - アドレスの手動設定

IPv6 アドレスを手動で設定するかどうかを選択します。

■IPv6 - 手動設定 IP アドレス

［IPv6- アドレスの手動設定］で［する］を選択した場合に、本体の IPv6 アドレスを設定します。

補足

- xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。
- 英数字（0 ～ 9、A ～ F）、またはコロン（:）による文字列で指定します。［1 文字削除］で間違った入力を 1 文字ずつ削除できます。

■IPv6 - 手動 IP アドレスプレフィクス

［IPv6- 手動設定 IP アドレス］を設定した場合に、プレフィクス長を 0 ～ 128 の範囲で設定します。

■IPv6 - 手動設定ゲートウェイ

［IPv6- 手動設定 IP アドレス］を設定した場合に、ゲートウェイアドレスを設定します。

補足

- xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

■IPv6 - DNS 設定

DNS サーバーを設定します。

◆DHCP からのアドレス取得

DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから自動的に取得するかどうかを設定します。

◆DNS サーバーアドレス 1 ～ 3

［DHCP からのアドレス取得］を［しない］に設定した場合は、DNS サーバーのアドレスを手動で設定します。DNS サーバーアドレス 2 と 3 には代替 DNS サーバーのアドレスを設定できます。

■IPv6 - 自動設定アドレス

自動的に設定された IP アドレスを表示します。次が表示されます。

- リンクローカルアドレス
- ステートレス自動設定アドレス 1 とプレフィクス長
- ステートレス自動設定アドレス 2 とプレフィクス長
- ステートレス自動設定アドレス 3 とプレフィクス長
- 自動設定ゲートウェイアドレス

補足

- 手動でIPアドレスを設定している場合、ステートレス自動設定で割り当て可能なアドレスは2つまでです。

■IPv6 - 受付 IP アドレス制限

本機への接続を IPv6 アドレスで制限するかどうかを設定します。

補足

- ［IPv6- 受付 IP アドレス制限］は、TCP/IP を使用する全機能が対象となります。たとえば、プリント、スキャン（親展ボックススキャン ）、CentreWare Internet Services、ApeosWare JF Pool Service（ApeosPort シリーズのみ）、外部アクセス（ApeosPort シリーズのみ）などです。
- ［受付 IP アドレス制限］を［する］に設定して、本機からスキャン画像を FTP 転送する場合は、FTP の通信モードを必ず［Active モード］に切り替えてください。FTP の通信モードは、CentreWare Internet Services で設定できます。
- 接続を受け付ける IPv6 アドレスの登録は、CentreWare Internet Services の［受付 IP アドレス制限］で行います。設定方法は、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。また、使用方法は、「CentreWare Internet Services の設定」（P.381）を参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

Ping 接続確認

設定した条件で本機とお使いのコンピューターが正しく通信できるかを確認できます。以下の項目を設定して［実行］ボタンを押すと Ping 接続確認が開始されます。

■インターフェイス

プロトコル設定に応じて［Ethernet1］または［Ethernet2］を選択します。

補足

- この項目は、セカンダリーイーサネット（オプション）が装着されている場合のみ表示されます。

■プロトコル

プロトコル設定に応じて［IPv4］または［IPv6］を選択します。

■IP アドレス / ホスト名

IP アドレスまたはホスト名を入力します。IP アドレスの場合は、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを入力します。ホスト名の場合は、ホスト名を半角 32 文字（全角 16 文字）以内で入力します。

ネットワークプロトコルレポート出力

プライマリーインターフェイスのプロトコル設定をレポート出力します。

本体メールアドレス / ホスト名

本機のメールアドレス、ホスト名、ドメイン名を設定します。

メールアドレス

本機のメールアドレスを設定します。128 文字以内で入力します。

■SMTP 受信の場合

アカウント（@マークの左側）は、任意の名称を設定できます。アドレス部（@マークの右側）には、ホスト名とドメイン名を組み合わせたものを設定します。エイリアスは設定できません。

たとえば、

- アカウント名：mymail
- ホスト名：myhost

• ドメイン名：example.com

の場合、メールアドレスは、mymail@myhost.example.com となります。

■ POP3 受信の場合

アカウント（@マークの左側）には POP ユーザー名を、アドレス部（@マークの右側）には受信用 POP3 メールサーバー名を設定します。mymail@example.com のようなエイリアスも設定できます。

たとえば、

• アカウント名：mymail

の場合、メールアドレスは、mymail@myhost.example.com となります。

名前

本機の名前を半角 32 文字以内で入力します。

ホスト名

ホスト名を半角 32 文字（全角 16 文字）以内で入力します。

注記
- SMB で通信する場合､先頭から半角 15 文字までをホスト名として使用します｡本機を正しく識別するためには、ホスト名を半角 15 文字（全角 7 文字）以内で設定してください。

ドメイン名

ドメイン名を半角 64 文字以内で入力します。

プロキシサーバー設定

プロキシサーバーについて設定します。

外部アクセスを使用するときに設定してください。

注記
- プロキシ設定が必要なサービスを使う場合だけ、設定を変更してください。

プロキシサーバーの使用

プロキシサーバーを使用するかどうかを設定します。

プロキシサーバー指定方法

プロキシサーバーの指定方法を、［すべてのプロトコルに同じ設定］または［プロトコルごとに設定］から選択できます。

プロキシを使用しないアドレス

プロキシサーバーを使用しないアドレスを設定します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。また、「*」（ワイルドカード）を使った指定もできます。

HTTP プロキシサーバー - サーバー名

HTTP プロキシサーバーのサーバー名または IP アドレスを、255 文字以内で入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

HTTP プロキシサーバー - ポート番号

HTTP プロキシサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、8080 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

HTTP プロキシサーバー - 認証

HTTP プロキシサーバーに接続するときに認証が必要な場合は、［有効］に設定します。

HTTP プロキシサーバー - ログイン名

HTTP プロキシサーバーのログイン名を、31 文字以内で入力します。

HTTP プロキシサーバー - パスワード

HTTP プロキシサーバーのパスワードを、31 文字以内で入力します。

HTTPS プロキシサーバー - サーバー名

HTTPS プロキシサーバーのサーバー名または IP アドレスを、255 文字以内で入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

HTTPS プロキシサーバー - ポート番号

HTTPS プロキシサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、8080 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

HTTPS プロキシサーバー - 認証

HTTPS プロキシサーバーに接続するときに認証が必要な場合は、［有効］に設定します。

HTTPS プロキシサーバー - ログイン名

HTTPS プロキシサーバーのログイン名を、31 文字以内で入力します。

HTTPS プロキシサーバー - パスワード

HTTPS プロキシサーバーのパスワードを、31 文字以内で入力します。

EP プロキシサーバー設定

インターネットを使用して EP システムを利用する場合の、EP 通信用のプロキシサーバーについて設定します。

注記
- インターネットを使用する EP システムの場合に、設定を変更してください。

参照
- 詳しくは、「EP システムについて」(P.947) を参照してください。

プロキシサーバー指定方法

プロキシサーバーの指定について設定します。［すべてのプロトコルに同じ設定］、［プロトコルごとに設定］から選択します。［プロトコルごとに設定］を選択すると、HTTPS プロキシサーバーおよび HTTP プロキシサーバーをそれぞれ設定できます。

［すべてのプロトコルに同じ設定］を選択すると、HTTPS プロキシサーバーの設定が HTTP プロキシサーバーに反映されます。

HTTPS プロキシサーバー - サーバー名

HTTPS プロキシサーバーのサーバー名または IP アドレスを、255 文字以内で入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

HTTPS プロキシサーバー - ポート番号

HTTPS プロキシサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、8080 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

HTTPS プロキシサーバー - 認証

HTTPS プロキシサーバーに接続するときに認証が必要な場合は、［有効］に設定します。

HTTPS プロキシサーバー - ログイン名

HTTPS プロキシサーバーのログイン名を、31 文字以内で入力します。

HTTPS プロキシサーバー - パスワード

HTTPS プロキシサーバーのパスワードを、31 文字以内で入力します。

HTTP プロキシサーバー - サーバー名

HTTP プロキシサーバーのサーバー名または IP アドレスを、255 文字以内で入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

HTTP プロキシサーバー - ポート番号

HTTP プロキシサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、8080 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

HTTP プロキシサーバー - 認証

HTTP プロキシサーバーに接続するときに認証が必要な場合は、［有効］に設定します。

HTTP プロキシサーバー - ログイン名

HTTP プロキシサーバーのログイン名を、31 文字以内で入力します。

HTTP プロキシサーバー - パスワード

HTTP プロキシサーバーのパスワードを、31 文字以内で入力します。

次世代ネットワーク（NGN）設定

次世代ネットワーク（NGN）を利用するときに設定します。

次世代ネットワーク（NGN）接続

次世代ネットワーク（NGN）を利用するかどうかを設定します。

補足
- IP ファクス（SIP）が利用可能な状態で、TCP/IP の動作モードが［IPv4 モード］または［デュアルスタック］選択時に利用できます。

発信者 ID 通知

発信者 ID を通知するかどうかを設定します。

補足
- ［する］に設定した場合、発信者 ID は契約者の電話番号が通知されます。

発信者 ID

発信者 ID として登録されている電話番号を確認できます。

IP ファクス（SIP）最大使用帯域幅

IP ファクスに使用する最大使用帯域幅を、1 ～ 65535kbps の範囲で設定できます。

初期値は、1000kbps です。

補足
- 最大使用帯域幅は、NTT のデータ通信向けの料金表を確認して、設定してください。

ファクスによる自動再送信

送信相手に IP ファクス（SIP）機能がなく、G3 ファクスが利用できる場合、自動的に G3 で再送信するかどうかを設定します。

初期値は、［しない］です。

補足
- G3 ファクスに自動再送信する場合は、通常の公衆電話網の料金になります。

SIP 設定

IP ファクス（SIP）を使用するときの SIP 本体アドレス、経由する SIP サーバー、VoIP ゲートウェイを設定します。

SIP 本体アドレス

本機の SIP 本体アドレスを設定します。

入力例：1111 @ 192.0.2.1

@以前（例では、「1111」）を SIP ユーザー名と呼びます。

補足
- SIP サーバーを使用していない場合には、@以後に、本機の IP アドレスを指定してください。
- Cisco® 社製 SIP サーバーを使用する場合、本機に設定する［SIP 本体アドレス］では、@ 以降は SIP サーバーの IPv4 アドレス文字列だけが指定できます。
  IPv6アドレス文字列、FQDN文字列、およびSIPドメイン名文字列を指定した場合は、動作しません。
- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合、SIP 本体アドレスは自動で取得され、変更できません。

SIP トランスポートプロトコル設定

SIP トランスポートプロトコルを、［UDP］、［TCP］から選択します。

補足
- Cisco 社製 SIP サーバーを使用する場合、［UDP］を設定してください。

SIP サーバーの使用

SIP サーバーを使用するかどうかを設定します。

補足
- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合は、［する］に設定され、変更できません。

SIP サーバーアドレス取得方法

SIP プロキシサーバー、SIP レジストラーサーバーの IP アドレス取得方法を指定します。

補足
- ［DHCP から取得］、［DHCPv6 から取得］の場合でも、SIP プロキシサーバー、SIP レジストラーサーバーのポート番号、認証ユーザー名、認証パスワード、種別は手動で設定する必要があります。
- ［DHCP から取得］を選択して IP アドレスを自動取得する場合は、本機の TCP/IP 設定で、［IPv4-IP アドレス取得方法］を［DHCP から取得］または［DHCP/AutoIP から取得］に設定してください。
- IP アドレスを自動取得した場合は、プロキシサーバーとレジストラーサーバーの両方に、自動取得した同じ IP アドレスが設定されます。プロキシサーバーとレジストラーサーバーで異なるアドレスを使用する場合は、手動で設定してください。

  複数のアドレスを自動取得した場合は、1 番めのアドレスをプライマリーのプロキシ / レジストラーサーバーに、2 番めのアドレスをセカンダリーのプロキシ / レジストラーサーバーにそれぞれ設定します。3 番め以降のアドレスは使用されません。
- IP アドレスを自動取得した場合でも、ポート番号、認証ユーザー名、認証パスワード、サーバー種別は自動取得できません。これらの項目は手動で設定してください。
- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合は、［DHCP から取得］を選択してください。

■ DHCP から取得

DHCP から SIP プロキシサーバー、SIP レジストラーサーバーの IP アドレスを自動取得します。

■ DHCPv6 から取得

DHCPv6 から SIP プロキシサーバー、SIP レジストラーサーバーの IPv6 アドレスを自動取得します。

■ 手動で設定

SIP プロキシサーバー、SIP レジストラーサーバーの IP アドレスを手動で設定します。

SIP プロキシサーバー設定

SIP プロキシサーバーを設定します。プライマリーサーバーとセカンダリーサーバーが設定できます。

補足
- 利用できる SIP プロキシサーバーは 2 台までです。

■ プライマリーサーバー - アドレス

プライマリーサーバーの IP アドレスを、255 文字以内で入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

■ プライマリーサーバー - ポート番号

プライマリーサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、5060 です。

■ プライマリーサーバー - 認証ユーザー名

プライマリーサーバーの認証用ユーザーを、31 文字以内で入力します。

■**プライマリーサーバー - 認証パスワード**

プライマリーサーバーの認証用パスワードを、31 文字以内で入力します。

■**プライマリーサーバー - 種別**

プライマリーサーバーの種別を、［標準］または［Cisco］から選択します。

■**セカンダリーサーバー - アドレス**

セカンダリーサーバーの IP アドレスを、255 文字以内で入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

■**セカンダリーサーバー - ポート番号**

セカンダリーサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、5060 です。

■**セカンダリーサーバー - 認証ユーザー名**

セカンダリーサーバーの認証用ユーザーを、31 文字以内で入力します。

■**セカンダリーサーバー - 認証パスワード**

セカンダリーサーバーの認証用パスワードを、31 文字以内で入力します。

■**セカンダリーサーバー - 種別**

セカンダリーサーバーの種別を、［標準］または［Cisco］から選択します。

SIP レジストラサーバー設定

SIP レジストラーサーバーを設定します。プライマリーサーバーとセカンダリーサーバーが設定できます。

補足
- 利用できる SIP レジストラーサーバーは 2 台までです。

■**プライマリーサーバー - アドレス**

プライマリーサーバーの IP アドレスを、255 文字以内で入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

■**プライマリーサーバー - ポート番号**

プライマリーサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、5060 です。

■**プライマリーサーバー - 認証ユーザー名**

プライマリーサーバーの認証用ユーザーを、31 文字以内で入力します。

■**プライマリーサーバー - 認証パスワード**

プライマリーサーバーの認証用パスワードを、31 文字以内で入力します。

■**プライマリーサーバー - 種別**

プライマリーサーバーの種別を、［標準］または［Cisco］から選択します。

■**セカンダリーサーバー - アドレス**

セカンダリーサーバーの IP アドレスを、255 文字以内で入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

■セカンダリーサーバー - ポート番号

セカンダリーサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、5060 です。

■セカンダリーサーバー - 認証ユーザー名

セカンダリーサーバーの認証用ユーザーを、31 文字以内で入力します。

■セカンダリーサーバー - 認証パスワード

セカンダリーサーバーの認証用パスワードを、31 文字以内で入力します。

■セカンダリーサーバー - 種別

セカンダリーサーバーの種別を、［標準］または［Cisco］から選択します。

VoIP ゲートウェイ登録

VoIP ゲートウェイ 1 ～ 50 を設定します。

相手先の電話番号によって、別々の VoIP ゲートウェイが設定できます。

補足

- 固定の VoIP ゲートウェイを使用したい場合には、VoIP ゲートウェイ 1 に、識別番号を登録しないで、アドレスだけを設定してください。
- IPv6 ネットワークでは、使用できません。

■識別番号

相手先の電話番号を特定する数字を設定します。

たとえば「03」と設定した場合、0312345678、0312345679 など「03」で始まる電話番号には、この VoIP ゲートウェイが使用されます。

補足

- 特定の電話番号を指定する場合には、「0312345678」などの電話番号全体を設定してください。

■アドレス

VoIP ゲートウェイの IP アドレスを、255 文字以内で入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

T.38 設定

IP ファクス（SIP）を使用するときの、T.38 について設定します。通常、この設定を変更する必要はありません。

T.38 トランスポートプロトコル設定

T.38 トランスポートプロトコルを、［TCP］または［UDP］から選択します。

補足

- Cisco 社製の VoIP ゲートウェイを使用する場合、［UDP］を選択してください。

UDPTL 受信ポート番号

UDPTL 受信ポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

TCP 受信ポート番号

TCP 受信ポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

RTP 受信ポート番号

RTP 受信ポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）

IP パケット送信の優先度を、0 ～ 255 の範囲で指定します。

補足
- 設定する値は、ご使用の環境によって変わります。ネットワーク管理者に確認してください。
- ここで設定する値は、あらかじめネットワーク側で設定されているものを指定します。設定されていない値を指定しても優先度は上がりません。

  （Cisco 社製ルーターの場合、多くが音声トラフィックを 184（ef）に設定されていますので、変更するときはネットワーク管理者に確認してください。）
- 本設定のタイトルは Ethernet インターフェイスが 1 回線のとき［IP パケット送信優先度］のみ表示されます。Ethernet インターフェイスが 2 回線のとき［IP パケット送信優先度（Ethernet1）］と［IP パケット送信優先度（Ethernet2）］が表示されます。
- ［Ethernet1- ネットワークの名称］と［Ethernet2- ネットワークの名称］で任意の名称を設定した場合、［IP パケット送信優先度（Ethernet1）］と［IP パケット送信優先度（Ethernet2）］の［Ethernet1］と［Ethernet2］に設定した名称がそれぞれ表示されます。

メール送受信設定

メールの送受信について設定します。

POP3 サーバー設定

POP3 サーバーについて設定します。［POP3 サーバー設定］では、次の項目を設定できます。

■POP3 サーバー - サーバー名 / アドレス

POP3 サーバーのサーバー名または IP アドレスを 256 文字以内で入力し、［決 定］を押します。

補足
- IPv4 の場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。
- IPv6 の場合、xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

■POP3 サーバー - ポート番号

POP3 サーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、110 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■POP3 サーバー - 受信間隔

POP3 サーバーへのメールの確認間隔を、1 ～ 120 分の範囲で 1 分単位で設定します。

■ **POP3 サーバー - ログイン名**

POP3 サーバーにログインするための名前を半角 64 文字以内で入力します。

■ **POP3 サーバー - パスワード**

POP 受信用のパスワードを、半角 64 文字以内で設定します。

［キーボード］を押すと表示されるキーボードを使って、［新しいパスワード］と［パスワードの再入力］に同じパスワードを入力します。パスワードを設定しない場合は、空欄のまま［決 定］を押します。

■ **POP 受信パスワードの暗号化**

パスワードを暗号化する場合は、［する（APOP）］を選択します。

SMTP サーバー設定

SMTP サーバーについて設定します。

［接続確認］ボタンを押し、本機から指定したメールアドレスにテストメールを送信することで、本機と SMTP サーバーとの接続状況を確認できます。また、［ 接続確認 ］>［SMTP 通信レポート出力 ］を選択すると、本機が送信 / 受信した SMTP 通信のプロトコルの内容を表すレポートが出力されます。

■ **SMTP サーバー - サーバー名 / アドレス**

SMTP サーバーのサーバー名または IP アドレスを 256 文字以内で入力し、［決 定］を押します。

補足

- IPv4 の場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。
- IPv6 の場合、xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

■ **SMTP サーバー - ポート番号**

SMTP サーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、25 です。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■ **送信時の認証方式**

SMTP 送信時の認証方法を、［利用しない］、［POP before SMTP］、［SMTP AUTH］から選択します。

補足

- ［POP before SMTP］を選択した場合は、必ず POP3 の設定を行ってください。
- 認証方式は、AUTH GSSAPI（Kerberos 指定時のみ）、AUTH NTLMv2、AUTH NTLMv1、AUTH PLAIN、AUTH LOGIN、AUTH CRAM-MD5 に対応しています。

■ **送信時の認証ユーザー**

送信時の認証ユーザーを、［外部認証のユーザー］および［本体設定］から選択します。

［外部認証のユーザー］を選択した場合、ジョブの実行前に本機で外部認証を行っていれば、外部認証のユーザー名 / パスワードで SMTP サーバーに認証を行います。また、認証に失敗した場合の動作を［送信を中止する］および［本体設定情報で再認証する］から選択できます。外部認証を利用しない場合は、本体設定のユーザー名 / パスワードが使用されます。

■**SMTP AUTH - ログイン名**

SMTP サーバーのログイン名を、半角 64 文字以内で設定します。

■**SMTP AUTH - パスワード**

SMTP サーバーの認証用パスワードを、半角 64 文字以内で設定します。

補足
- パスワードを設定しない場合は、空欄のまま［決 定］を押します。

外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定

外部認証サーバー / ディレクトリサービスについて設定します。

補足
- DocuCentre シリーズでは、「LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定」のアドレス帳検索に関連するサービスのみ利用できます。

認証システムの設定

■**認証システム**

認証するためのシステムを、［Kerberos（Windows2000）］、［Kerberos（Solaris）］、［LDAP］、［SMB］、［Authentication Agent］から選択できます。

補足
- 外部認証サーバーに、ApeosWare Management Suite を使用する場合は、［Authentication Agent］を選択してください。

認証システムを変更しても、変更前の認証システムで運用されていた個人ボックスや個人ジョブフローは自動的に削除されません。不要な場合は、これらの個人ボックスや個人ジョブフローを削除する必要があります。新しい認証システムにおいても、同じ User ID を使用する場合は、同じユーザーの個人ボックスおよび個人ジョブフローとして利用できます。

■**認証応答待ち時間の上限**

認証の応答の待ち時間の上限を 1 ～ 75 秒の範囲で 1 秒単位で設定します。

■**ユーザー情報検索時間の上限**

ユーザー情報の検索の待ち時間の上限を 1 ～ 120 秒の範囲で 1 秒単位で設定します。

Kerberos サーバー設定

Kerberos サーバー 1 ～ 5 それぞれに、次の設定をします。

Kerberos サーバー 1 に設定した内容が、認証時のデフォルトとして使用されます。

■**プライマリーサーバー - 名前 / アドレス**

プライマリーサーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

補足
- IPv4 の場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。
- IPv6 の場合、xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

■ **プライマリーサーバー - ポート番号**

プライマリーサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、88 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■ **セカンダリーサーバー - 名前 / アドレス**

セカンダリーサーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

補足
- IPv4 の場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。
- IPv6 の場合、xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

■ **セカンダリーサーバー - ポート番号**

セカンダリーサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、88 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■ **認証先（レルム名）**

サーバーとして、Windows 2000 Server、Windows Server 2008、Windows Server 2012、Windows Server 2016 のアクティブディレクトリーを使用する場合は、アクティブディレクトリーのドメイン名を認証先に指定します。64 文字まで入力できます。

注記
- 認証先名は、必ず大文字で設定してください。小文字で設定すると認証エラーになります。

■ **サーバー証明書の検証**

サーバー証明書を検証するかどうかを設定します。

LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定

LDAP 認証および LDAP によるアドレス帳検索を行うための、ディレクトリーサーバーや認証方式、検索のための属性や範囲などについて設定します。

［ 接続確認 ］ボタンを押すことで、サーバーとの接続を確認できます。

［ 接続確認 ］>［LDAP 通信レポート出力 ］を選択すると、本機が送信 / 受信した LDAP 通信のプロトコルの内容を表すレポートが出力されます。

■ **プライマリーサーバー - 名前 / アドレス**

プライマリーサーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

補足
- IPv4 の場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。
- IPv6 の場合、xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

■ **プライマリーサーバー - ポート番号**

プライマリーサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、389 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■セカンダリーサーバー - 名前 / アドレス

セカンダリーサーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

補足

- IPv4 の場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。
- IPv6 の場合、xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

■セカンダリーサーバー - ポート番号

セカンダリーサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、389 です。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■認証方式

LDAP 認証の認証方式を、［直接認証］または［ユーザー属性認証］から選択できます。

■直接認証

入力した User ID とパスワードで、LDAP サーバーに認証を行います。

■ユーザー属性認証

入力した User ID は、［入力ユーザー名の属性］に設定された属性の値として、LDAP サーバーで検索するために使用されます。見つかったユーザーの、［認証用ユーザー名の属性］に設定された属性の値は、ジョブの User ID、およびジョブフローや親展ボックスの所有者として使用されます。

■入力ユーザー名の属性

LDAP 認証の認証方式が［ユーザー属性認証］の場合に、入力された User ID の User ID の属性を設定します。32 文字まで入力できます。

操作パネルからユーザー名として入力する値に対応して、LDAP サーバーに登録されている UserAttribute 情報の属性を設定します。たとえば、メールアドレスを入力させる場合は「mail」を設定します。

■認証用ユーザー名の属性

LDAP サーバーに登録されている UserAttribute 情報の中から実際に認証に使用する属性を入力します。32 文字まで入力できます。

■ユーザー名追加文字列の使用

操作パネルから認証情報を入力するときに、［ユーザー名の追加文字列］で入力した情報を自動で付加するかどうかを設定します。

■ユーザー名の追加文字列

ユーザー名追加文字列を使用する場合の、追加する文字列を設定します。64 文字まで入力できます。

［ユーザー名追加文字列の使用］で［使用する］を設定した場合にその固定文字列を入力します。

例）

［入力ユーザー名の属性］に「mail」を設定し、その対象ユーザーの登録情報が「mail@myhost.example.com」だった場合、通常は「mail@myhost.example.com」と入力する必要があります。

［ユーザー名追加文字列の使用］を［使用する］に設定し、［ユーザー名の追加文字列］で「@myhost.example.com」と指定すれば、操作パネルから入力するデータは「mail」だけで後ろの「@myhost.example.com」は本機が付加するので、入力の手間を簡略化できます。

■IC カード認証に使用する属性

IC カードを使用して LDAP 認証する場合に、カード ID の検索属性を設定します。半角 32 文字以内で設定します。

■ネットワーク用ユーザー ID 属性

IC カードを使用して LDAP 認証する場合に、IC カードのカード ID で検索するユーザー名の属性を設定します。取得したユーザー名は、外部サービスに通知する認証情報として使用されます。半角英数字 32 文字以内で設定します。

■検索用の認証ユーザー

アドレス帳検索のときに使用するユーザーを設定します。

［外部認証のユーザー］、［本体設定］から選択できます。

■検索用ログイン名

アドレス帳検索および［ユーザー属性認証］方式の LDAP 認証で、ディレクトリーサーバーにアクセスするときのユーザー名を設定します。ディレクトリーサービス認証が必要なときだけ設定してください。

ユーザー名を設定する場合は、255 文字まで入力できます。

■検索用パスワード

［検索用ログイン名］で指定したユーザーのログインパスワードを設定します。半角英数字で 32 文字まで入力できます。

■検索起点エントリー（DN）

検索の起点となる文字列を、255 文字まで入力できます。

■起点からの検索範囲

起点からの検索範囲を選択します。

◆起点の階層のみ

起点の階層だけを検索します。

◆起点から 1 つ下の階層まで

起点から 1 つ下の階層までを検索します。

◆起点から下の階層すべて

起点から下の階層すべてを検索します。

■検索対象のオブジェクトクラス

検索のためのオブジェクトクラスを、32 文字まで入力できます。

■リフェラルの使用

接続した LDAP サーバーから、別の LDAP サーバーへの接続を指示された場合に、指示されたサーバーに再接続するかどうかを設定します。

■リフェラルのホップ数上限

リフェラル機能を使用する場合に、接続するサーバーの切り替えを何回まで許可するかを、1 ～ 5 回の範囲で設定します

■サーバーのソフトウェア

ディレクトリーサーバーによって使用されるソフトウェアを、[MicrosoftActive Directory]、[MicrosoftExchange]、[IBM LotusDomino 6.*]、[その他のソフトウェア] から選択できます。

■名前の検索条件 - 宛先名

名前を検索キーとして検索する場合に、宛先名の属性型を検索条件として使用するかどうかを設定します。

■名前の検索条件 - 姓

名前を検索キーとして検索する場合に、姓の属性型を検索条件として使用するかどうかを設定します。

■名前の検索条件 - 名

名前を検索キーとして検索する場合に、名の属性型を検索条件として使用するかどうかを設定します。

■宛先名の属性型

宛先名の属性型を設定します。使用する LDAP サーバーに登録されているユーザー情報の項目の中で、宛先名として使用するフィールドの属性名を、半角英数字で 32 文字まで入力できます。Windows の場合は、宛先名として使用する属性名に「cn」を入力します。

■姓の属性型

送信先の姓の属性型を設定します。32 文字まで入力できます。

■名の属性型

送信先の名の属性型を設定します。32 文字まで入力できます。

■メールアドレスの属性型

メールアドレスの属性型を設定します。使用する LDAP サーバーに登録されているユーザー情報の項目の中で、メール情報として使用するフィールドの属性名を設定します。半角英数字で 32 文字まで入力できます。Windows の場合は、メール情報として使用する属性名に「mail」を入力します。

■ファクス番号の属性型

ファクス番号の属性型を設定します。32 文字まで入力できます。

■ **IP ファクス（SIP）番号の属性型**

使用する LDAP サーバーに登録されているユーザー情報の中で、IP ファクス（SIP）番号の情報として使用するフィールドの属性名を設定します。32 文字まで入力できます。

■ **インターネットファクスアドレスの属性型**

インターネットファクスアドレスの属性型を設定します。32 文字まで入力できます。

■ **補助項目 1 ～ 3 の属性型**

補助項目 1 ～ 3 の LDAP 属性型を設定します。［宛先名の属性型］または［メールアドレスの属性型］以外に、検索の対象の LDAP サーバーに登録されたユーザー属性を任意で指定できます。半角英数字で 32 文字まで入力できます。

■ **補助項目 1 ～ 3 の属性名**

補助項目 1 ～ 3 に割り当てる属性名を設定します。全角 8 文字（半角 16 文字）まで入力できます。

■ **証明書の属性型**

証明書の属性型を設定します。使用する LDAP サーバーに登録されているユーザー情報の項目の中で、証明書として使用するフィールドの属性名を、半角英数字で 32 文字まで入力できます。

Windows の場合は、証明書の情報として利用する属性名に「userCertificate;binary」を入力します。この情報は、ディレクトリサービスを使って宛先を選択し、スキャナー（メール送信）で S/MIME の暗号化を行う場合に、S/MIME の証明書として使用します。

補足

- この機能を使って暗号化通信を行う場合は、本機に使用する証明書のパスに登録されている、信頼されたルート証明機関、中間証明機関すべての登録が必要です。

■ **検索結果の最大表示数**

検索条件に合ったアドレスを表示する件数を、5 ～ 100 までの範囲で設定します。検索結果が上限数を超えた場合は、それ以上の検索処理は中断します。

工場出荷時は、50 件に設定されています。

■ **検索時間の上限**

検索のタイムアウト時間を設定するかどうかを設定します。設定する場合は、5 ～ 120 秒の範囲で 1 秒単位で指定します。

SMB サーバー設定

外部認証サーバーとして SMB サーバーを利用するときに設定します。

■ **SMB サーバー指定方法**

サーバーの指定方法を、［ドメイン名で指定］、［ドメイン名とサーバー名 / アドレス］から選択できます。

ここで設定した指定方法に合わせて、SMB サーバー 1 ～ 5 それぞれに、次の設定をします。

SMB サーバー 1 に設定した内容が、認証時のデフォルトとして使用されます。

■ **サーバー - ドメイン名**

サーバーのドメイン名を設定できます。64 文字まで入力できます。

［SMB サーバー指定方法］で設定している SMB サーバーの指定方法にかかわらず、ドメイン名の設定は必須です。

注記
- ドメイン名は NetBIOS ドメイン名、またはアクティブディレクトリーのドメイン名を指定してください。

■ **サーバー - サーバー名 / アドレス**

サーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

［SMB サーバー指定方法］で［ドメイン名とサーバー名 / アドレス］を選択している場合に有効になります。

注記
- サーバー名はNetBIOSコンピューター名、またはDNSサフィックス付きのフルコンピューター名を指定してください。

補足
- IPv4 の場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。

セキュリティ設定

セキュリティーの設定をします。

SSL/TLS 設定

サーバーやクライアント PC と本機との通信を暗号化するときに設定します。SSL/TLS を設定するとネットワーク上で不正アクセスをしようとしても、経路が暗号化されているため、情報の漏えいやデータの改ざんを抑止できます。

■ **本体の証明書 - サーバー**

SSL/TLS 通信するための、サーバー証明書を設定します。

■ **HTTP - SSL/TLS 通信**

SSL/TLS 通信を有効にするかどうかを設定します。

■ **HTTP - SSL/TLS 通信ポート番号**

SSL/TLS 通信のポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、443 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■ **LDAP - SSL/TLS 通信**

認証や検索などのアクセスに SSL/TLS 通信するかどうかを設定します。

SSL 通信を有効にした場合には、［LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定］の［プライマリーサーバー - ポート番号］と［セカンダリーサーバー - ポート番号］を変更する必要があります。LDAP のディレクトリーサーバーの SSL 通信のポート番号は、通常、636 になります。

■ **SMTP-SSL/TLS 通信**

SSL/TLS 通信について設定します。

補足
- インターネットファクスダイレクト（P2P）には、対応していません。

◆ **無効**

SSL/TLS 通信しません。

◆ **STARTTLS 接続（利用可能時）**

証明書を検証して、SSL/TLS 通信します。検証できない場合は、SSL/TLS 通信しません。

◆ **STARTTLS 接続**

証明書を検証して、SSL/TLS 通信します。検証できない場合は、通信できません。

◆ **SSL/TLS 接続**

SSL/TLS 通信します。

■ **ThinPrint-SSL/TLS 通信**

SSL/TLS 通信を有効にするかどうかを設定します。

■ **本体の証明書 - クライアント**

SSL/TLS 通信するための、クライアント証明書を設定します。

■ **相手サーバーの証明書の検証**

本機を SSL クライアントとして動作させるときに、相手サーバーの証明書を検証するかどうかを設定します。

S/MIME 設定

メールやインターネットファクスを暗号化または署名機能を利用して送受信するときに設定します。

補足

- 本機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

■ **本体の証明書 - S/MIME**

S/MIME 通信で使用する証明書を設定します。

参照

- 詳しくは、「暗号化と署名機能の設定」（P.463）を参照してください。

■ **S/MIME 通信**

S/MIME 通信を有効にするかどうかを設定します。

■ **信頼できないメール**

［受信しない］に設定すると、次のメールは受信できません。

- ［S/MIME 通信］を有効にした場合の S/MIME 以外のメール
- 署名 / 検証に失敗したメール
- 期限切れの証明書が添付されたメール

■ **信頼できないインターネットファクス**

［受信しない］に設定すると、次のインターネットファクスは受信できません。

- ［S/MIME 通信］を有効にした場合の S/MIME 以外のインターネットファクス
- 署名 / 検証に失敗したインターネットファクス
- 期限切れの証明書が添付されたインターネットファクス

■メッセージダイジェスト方式

メッセージダイジェスト方式を設定します。［SHA1］、［MD5］、［SHA256］から選択できます。

■本文の暗号化方式

本文の暗号化方式を設定します。［3DES］、［RC2-40］、［RC2-64］、［RC2-128］、［AES-128］、［AES-192］、［AES-256］から選択できます。

■暗号化メール分割送信

暗号化メールを送信先ごとに分割送信するかどうかを設定します。

■暗号化インターネットファクス分割送信

暗号化したインターネットファクスを送信先ごとに分割送信するかどうかを設定します。

■署名 - メール送信

メールを送信するときに、常にデジタル署名をするかどうか、または送信するときに選択するかを設定できます。

■署名用証明書（メール）

スキャナー（メール送信）の［デジタル署名］で使用する証明書を指定します。

■署名 - インターネットファクス送信

本機からインターネットファクスを送信するときに、常にデジタル署名をするかどうか、または送信するときに選択するかを設定できます。

■証明書の自動取得

宛先表に登録されているメールアドレスから S/MIME 用証明書が添付されたメールを受信したときに、自動的に証明書を保存するかどうかを設定します。

PDF/DocuWorks/XPS の署名設定

PDF/DocuWorks/XPS 文書について、署名の設定をします。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
- 本機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

■本体の証明書

署名に使用する証明書を設定します。

参照

- 詳しくは、「暗号化と署名機能の設定」（P.463）を参照してください。

■PDF 署名

PDF 文書に署名するかどうかを、［常に署名しない］、［常に可視署名する］、［常に不可視署名する］、［送信時に選択する］から選択できます。

■PDF 署名ハッシュアルゴリズム

PDF 署名ハッシュアルゴリズムを設定します。［SHA-1］、［SHA-256］から選択できます。

■ DocuWorks 署名

DocuWorks 文書に署名するかどうかを、［常に署名しない］、［常に署名する］、［送信時に選択する］から選択できます。

注記
- DocuWorks署名のあるDocuWorks文書を開くには、以下のバージョンのDocuWorksが必要です。
  - ［SHA1］を選択した場合、DocuWorks 5.0 以降の各バージョン
  - ［SHA256］を選択した場合、DocuWorks 8.0 以降の各バージョン

■ DocuWorks 署名ハッシュアルゴリズム

DocuWorks 署名をする際のハッシュアルゴリズムを設定します。

［SHA1］、［SHA256］から選択できます。

■ XPS 署名

XPS 文書に署名するかどうかを、［常に署名しない］、［常に不可視署名する］、［送信時に選択する］から選択できます。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

IPsec 設定

■ IPsec 設定

メールやインターネットファクスを暗号化または署名機能を利用して送受信するときに設定します。

補足
- セカンダリーイーサネット（オプション）を装着している場合、この項目は設定できません。
- ［IKE 認証方式］、［事前共有鍵］、［DH グループ］、［PFS 設定］についてはネットワーク管理者に確認してください。

- IKE 認証方式

  IKE 認証方式を設定します。［事前共有鍵による認証］、［デジタル署名による認証］から選択できます。

- 事前共有鍵

  事前共有鍵を入力します。

  ［IKE 認証方式］が［事前共有鍵による認証］の場合に設定します。

- 本体の証明書

  IPsec 通信で使用する証明書を設定します。

  ［IKE 認証方式］が［デジタル署名による認証］の場合に設定します。

  ここでは、CentreWare Internet Services で作成した自己証明書は使用できません。

参照
- 詳しくは、「証明書の種類」(P.464) を参照してください。

- IPsec 通信

  IPSec 通信を有効にするかどうかを設定します。

- IKE SA のライフタイム

  IKE SA の有効期間を 5 ～ 28800 分の範囲で 1 分単位で設定します。

補足
- ［IPsec SA のライフタイム］より長くなるように設定してください。

- IPsec SA のライフタイム

  IPsec SA の有効期間を 300 ～ 172800 秒の範囲で 1 秒単位で設定します。

補足
- ［IKE SA のライフタイム］より短くなるように設定してください。

- DH グループ

  DH グループを設定します。［G1］、［G2］から選択できます。

- PFS 設定

  PFS を有効にするかどうかを設定します。

- 相手アドレス - IPv4

  相手先の IPv4 アドレスを設定します。

  IP アドレスを入力する場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。

- 相手アドレス - IPv6

  相手先の IPv6 アドレスを設定します。

  IP アドレスを入力する場合、xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

- 非 IPsec 通信

  相手アドレスで設定した以外のアドレスの、IPsec に対応していない機器に対して、通信をするかどうかを設定します。

IEEE802.1x 設定

■IEEE 802.1x 設定 /IEEE 802.1x 設定（Ethernet1）、IEEE 802.1x 設定（Ethernet2）

IEEE 802.1 について設定します。

補足
- ［TCP/IP 設定（Ethernet1）］と［TCP/IP 設定（Ethernet2）］を設定している場合、それぞれの Ethernet インターフェースカードに独立した IEEE 802.1x の設定ができます。
- 本設定のタイトルは Ethernet インターフェイスが 1 回線のとき［IEEE 802.1 設定］のみ表示されます。Ethernet インターフェースが 2 回線のとき［IEEE 802.1 設定（Ethernet1）］と［IEEE 802.1 設定（Ethernet2）］が表示されます。
- ［Ethernet1- ネットワークの名称］と［Ethernet2- ネットワークの名称］で任意の名称を設定した場合［IEEE 802.1 設定（Ethernet1）］と［IEEE 802.1 設定（Ethernet2）］の［Ethernet1］と［Ethernet2］に設定した名称がそれぞれ表示されます。

- IEEE 802.1x 認証の使用

  IEEE 802.1x 認証を使用するかどうかを設定します。

- 認証方式

  ［EAP-MD5］、［EAP-MS-CHAPv2］、［PEAP/MS-CHAPv2］、［EAP-TLS］から選択できます。

- 認証ユーザー名

  認証ユーザー名を半角 128 文字以内で入力します。

- 認証パスワード

  認証パスワードを 1 ～ 128 バイト以内で入力します。

- サーバー証明書の検証

  ［認証方式］が［PEAP/MS-CHAPv2］の場合に、サーバー証明書を検証するかどうかを設定します。

証明書失効確認の設定

証明書失効確認の設定をします。

■証明書検証レベル

証明書の検証レベルを設定します。［低］、［中］、［高］から選択できます。

［低］の場合、証明書の失効確認を行いません。

［中］の場合、証明書の失効確認まで行います。ネットワークエラーなどで失効確認できなかったときも有効な証明書として扱います。

［高］の場合、失効していないと確認された証明書だけを有効な証明書として扱います。

■証明書失効確認方式

証明書失効確認の方式を設定します。

本機が検証局から失効リスト（CRL）を取得して照合する場合は、［失効リスト（CRL）を取得する］を選択します。証明書の有効性を確認できる OCSP（Online Certificate Status Protocol）を使って認証局や検証局に問い合わせて確認する場合は、［OCSP で問い合わせる］を選択します。

■失効リスト（CRL）の自動取得

失効リスト（CRL）を自動取得するかどうかを設定します。

■失効リスト（CRL）取得時間上限

失効リスト（CRL）を取得する時間の上限を、5 ～ 60 秒で 1 秒単位で設定します。

■OCSP レスポンダ指定方法

OCSP レスポンダーの指定方法を指定します。

［証明書に記載の URL を使用］、［本体で設定した URL を使用］から選択できます。

■OCSP レスポンダ

［OCSP レスポンダ指定方法］で［本体で設定した URL を使用］を選択した場合は、問い合わせ先の URL を半角英数字で 255 文字以内で設定します。

■OCSP 通信時間上限

OCSP レスポンダーとの通信時間の上限を、5 ～ 60 秒で 1 秒単位で設定します。

その他の設定

ネットワークに関するそのほかの設定をします。

メール受信プロトコル

使用環境に合わせて、［SMTP］、［POP3］から選択します。

認証ユーザー名へのドメイン付加

ユーザー名にドメイン名を付加するかどうかを設定します。

メールプリントの排出先

メールプリントの排出先を選択します。［自動］を選択すると、排出先の初期設定値に設定されている排出先が自動的に選択されます。

送受信ドメインの制限

メール、インターネットファクス、IP ファクス（SIP）の送受信を許可および禁止するドメインを設定します。

■制限方法

［送受信許可ドメインの指定］に設定すると、送受信を許可するドメインを指定できます。［送受信拒否ドメインの指定］に設定すると、送受信を禁止するドメインを指定できます。

■［ドメイン 1 ～ 50］

［制限方法］で［送受信許可ドメインの指定］または［送受信拒否ドメインの指定］を選択した場合に、そのドメインを最大 50 まで指定できます。

［確認 / 変更］を押すと表示されるキーボードを使って、半角 64 文字以内で設定します。

プリンター設定

［プリンター設定］では、プリンター機能に関する仕様を設定します。

CentreWare Internet Services を使うと、さらに詳細な設定ができます。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services の設定」（P.381）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［プリンター設定］を押します。

参照

- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」（P.162）を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

メモリー設定

インターフェイスごとに、受信バッファ（クライアントから送信されるデータを一時的に蓄えておく場所）のメモリー容量を設定します。

受信バッファ容量は、使用状況と目的に応じて変更できます。受信バッファ容量を増やすと、各インターフェイスに対応するクライアントの解放が早くなることがあります。

エミュレーションキット（オプション）または Adobe PostScript 3 キット（オプション）が装着されている場合は、PC-PR201H のフォーム格納用のメモリー容量、HP-GL/2 オートレイアウト用メモリーも設定できます。

注記

- メモリー容量を変更すると、メモリーがリセットされるので、各メモリー領域に格納されているデータは、すべて消去されます。
- メモリーの全体量を超えた割り振りはできません。電源を入れたときに、設定値が搭載メモリー容量を超えた場合は、システムによって自動的に調整されます。

補足

- ポートが［停止］に設定されている場合は、対応する各項目は表示されません。
- クライアントから送信されるデータ量によっては、メモリーの容量を増やしてもクライアントの解放時間が変わらない場合があります。

PostScript 使用メモリー

PostScript の使用メモリー容量を 0.25MB 単位で指定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 指定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。

ART EX フォームメモリー

ART EX でフォームを使用するときの、作業用メモリー領域を設定します。ハードディスク装着時は、ハードディスクが指定され、変更できません。ハードディスクが装着されていない場合は、作業用メモリー領域を指定します。

ART IV, ESC/P, 201H フォームメモリー

ART IV、ESC/P、201H でフォームを使用するときの、作業用メモリー領域を設定します。ハードディスク装着時は、ハードディスクが指定され、変更できません。ハードディスクが装着されていない場合は、作業用メモリー領域を指定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

ART IV ユーザー定義用メモリー

ART IV のユーザーが定義するデータ（外字、フォーム、線パターンフォームなど）を格納するメモリー容量を指定します。

32 ～ 2048KB の範囲で 32KB 単位で指定します。

補足

- 指定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。

HP-GL/2 オートレイアウト用メモリー

HP-GL/2 のオートレイアウト機能を使用するときの、作業用メモリー領域を設定します。ハードディスク装着時は、ハードディスクが指定され、変更できません。ハードディスクが装着されていない場合は、作業用メモリー領域を指定します。

補足

- この機能は、エミュレーションキットまたは Adobe PostScript 3 キットが装着されている場合に、表示されます。

ジョブチケット用メモリー

ジョブチケット（ジョブの出力部数や後処理などを記述したもの）の処理に使用するメモリー容量を、0.25 ～ 8.00MB の範囲で 0.25MB 単位で指定します。

補足

- 設定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。

受信バッファ - USB

USB の受信バッファを設定します。

64 ～ 1024KB の範囲で 32KB 単位で設定します。

受信バッファ - LPD

補足

- ［LPD のプリント順序］の設定により、［受信バッファ -LPD］が変更できないことがあります。詳しくは、「LPD のプリント順序」(P.283) を参照してください。

■スプールしない

スプール処理は行われません。あるクライアントからの LPD のプリント処理をしている間は、ほかのクライアントからの同じインターフェイスでのデータを受信できません。

LPD 専用の受信バッファのメモリー容量を、1024 ～ 2048KB の範囲で 32KB 単位で指定します。

■メモリースプール

スプール処理を行います。スプール処理用の受信バッファは、メモリーが使用されます。この候補値を選択したときは、スプール処理用の受信バッファのメモリー容量を、0.50 ～ 32.00MB の範囲で 0.25MB 単位で指定します。

なお、指定したメモリー容量よりも大きいプリントデータは、受信できません。このようなときは、［ハードディスクスプール］、または［スプールしない］を選択してください。

■ハードディスクスプール

スプール処理を行います。スプール処理用の受信バッファは、ハードディスクが使用されます。

受信バッファ -IPP

■スプールしない

スプール処理は行われません。あるクライアントからの IPP のプリント処理をしている間は、ほかのクライアントからの同じインターフェイスでのデータを受信できません。

IPP 専用の受信バッファのメモリー容量を、64 ～ 1024KB の範囲で 32KB 単位で指定します。

■ハードディスクスプール

スプール処理を行います。スプール処理用の受信バッファは、ハードディスクが使用されます。

受信バッファ - Port9100

Port9100 の受信バッファを設定します。

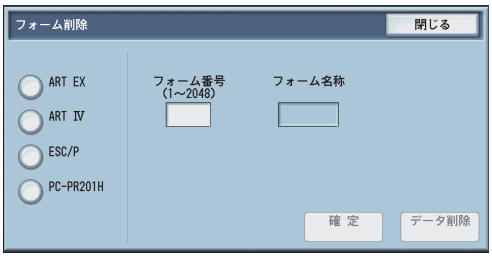
64 ～ 1024KB の範囲で 32KB 単位で指定します。

フォーム削除

登録されたフォームを削除します。

1 ［フォーム削除］を押します。

2 フォームを削除するプリントモードを選択します。



■ART EX

ART EX プリンタードライバーで作成したフォームを削除します。

フォームは、プリンタードライバーで登録します。

参照

- 詳しくは、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

■ART IV

ART IV 用フォームを削除します。

参照
- フォームの登録方法については、『リファレンスマニュアル（ART IV 対応）』（別売）をご覧ください。

■ESC/P

エミュレーションの ESC/P 用フォームを削除します。

参照
- フォームの登録方法については、『リファレンスマニュアル（ESC/P 対応）』（別売）をご覧ください。

■PC-PR201H

エミュレーションの PC-PR201 用フォームを削除します。

参照
- フォームの登録方法については、『リファレンスマニュアル（PC-PR201H 対応）』（別売）をご覧ください。

■フォーム番号

削除する項目を選択すると、フォーム番号を入力できるようになります。

■フォーム名称

フォーム番号を入力したあとに［確 定］を押すと、入力された番号と一致するフォーム名称が表示されます。

3 〈数字〉ボタンでフォーム番号を入力し、［確 定］を押します。

4 フォーム名称を確認し、［データ削除］を押します。

Google クラウドプリント登録

Google クラウドプリント ver2.0 に本機を登録する際に表示されます。

参照
- 詳しくは、『ユーザーズガイド（Google クラウドプリント編）』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）を参照してください。

その他の設定

プリンターで使用する用紙に関する設定をします。

プリント可能領域

プリント可能領域を拡張するかどうかを設定します。

参照
- プリント可能領域は、「プリント可能領域」（P.780）を参照してください。
- 拡張した場合の印字領域は、「拡張印字領域」（P.780）を参照してください。

用紙の置き換え

自動トレイ選択で選択された用紙サイズの用紙がセットされたトレイがない場合に、ほかの用紙トレイにセットされている用紙に置き換えてプリントをするかどうかを

設定します。置き換える場合は、［大きいサイズを選択］、［近いサイズを選択］、［トレイ 5(手差し) を選択］から選択できます。

補足

- ART IV、PC-PR201H、ESC/P、HP-GL/2 などのエミュレーションを使用してプリントする場合は、ここでの設定にかかわらず、用紙補給のメッセージが表示されます。

■用紙補給を表示

置き換えはしないで、用紙補給のメッセージを表示します。

■大きいサイズを選択

選択されている用紙サイズの次に大きなサイズの用紙に置き換えて、等倍でプリントします。

■近いサイズを選択

選択されている用紙サイズに最も近いサイズの用紙に置き換えてプリントします。必要に応じて、自動的にイメージを縮小することがあります。

補足

- クライアント側から指定があった場合は、クライアント側の指定が優先されます。

■トレイ 5（手差し）を選択

トレイ 5（手差し）にセットされている用紙にプリントします。

用紙種類不一致時の処理

プリンタードライバーなどでプリント時に指定された用紙種類と、用紙トレイにセットされている用紙種類が一致しない場合の処理を設定します。

■プリントする

用紙トレイに設定されている用紙の種類でプリントされます。

■確認画面を表示する

プリントするかどうかの確認画面が表示されます。

プリントする場合は、プリンタードライバーなどでプリント時に指定された用紙種類の指定は無効となり、［用紙トレイの優先順位］や、［用紙サイズ］、［用紙の置き換え］の設定に従ってプリントされます。

参照

- 詳しくは、「自動トレイ選択について」(P.58) を参照してください。

■設定変更画面を表示する

ディスプレイに表示されたメッセージに従って、用紙トレイの用紙を入れ替えたあと、［スタート］ボタンを押すと、用紙トレイに設定されていた用紙種類が、ディスプレイに表示された用紙種類の設定に自動的に変更されて、プリントされます。

注記

- 用紙種類が変更された用紙トレイは、プリントが終了した後も、変更後の用紙種類の設定が保持されます。
- 用紙を入れ替えずに［スタート］ボタンを押した場合、用紙トレイの用紙種類の設定が、ディスプレイに表示された用紙種類に自動的に変更されてプリントされますが、実際にセットされている用紙の種類とプリンタードライバーなどで指定した用紙種類が異なるため、印字品質は保証されません。

未登録フォーム指定時の処理

フォームデータファイル（オーバーレイ印字）にプリント指示されたフォームが、プリンター側で未登録だった場合に、ジョブをプリントするかどうかを設定します。［プリントする］を選択した場合、指定したフォームがないため、データだけがプリントされます。

異常終了後のプリント処理

エラーなどでプリントジョブがキャンセルされるときに、そのジョブを自動的にキャンセルするかどうかを設定します。

補足
- 本機は後続のプリントジョブを制限するため、オフライン状態になります。

■自動的に再開する

そのジョブを自動的にキャンセルし、以降のジョブを連続してプリントします。

■ユーザー操作で再開する

そのジョブをキャンセルする前に、確認画面を表示します。確認のあと、そのジョブをキャンセルし、以降のジョブをプリントします。

注記
- ［ユーザー操作で再開する］を選択すると、出力中などに〈割り込み〉ボタンを押して、出力を一時中断することができなくなります。

紙づまり発生時のプリント処理

プリント実行中に紙づまりなどのエラーが発生した場合、紙づまりの処置が終了したあとのプリント処理方法を設定します。

■紙づまり除去後再開する

紙づまりの処置が終了すると、正常に排出された次のページから、自動的にプリントを再開します。

■プリントを中止する

プリントを中止して、そのプリントジョブを削除します。

補足
- 蓄積されているプリント文書（認証プリント、プライベートプリント、セキュリティープリント、サンプルプリントの文書）は、［プリントを中止する］を設定していても、紙づまりの処置が終了するとプリントを再開します。

ID 印字

プリンタードライバーを使ってプリントする場合、ユーザーを区別するために、プリントする用紙にプリンタードライバーに設定されたユーザー ID を印字するかどうかを設定します。プリンタードライバーに設定されたユーザー ID のうち、先頭の 64 文字まで印字されます。

印字する位置を［左上］、［右上］、［左下］、［右下］から選択します。

補足
- ID 印字機能を使用するには、あらかじめプリンタードライバーで、User ID の設定が必要です。設定方法は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- プリンタードライバーに設定されたユーザー ID が取得できない場合は、「UnknownUser」と印字されます。

バナーシート出力

本機を複数のユーザーで使用している場合など、ユーザーごとのジョブを区分けして、印刷物が混在しないようにバナーシートを出力します。ジョブの前や後ろに出力することができます。

バナーシートには、日付、時間、ユーザー名、ファイル名などが印刷されます。

補足

- ホチキスを設定している場合でも、バナーシートはホチキス留めされません。
- Macintosh からのプリントジョブのバナーシートには、文書名は表示されません。
- バナーシートをプリントした場合は、メーターに加算されます。

■出力しない

バナーシートをプリントしません。

■スタートシート

プリントジョブの前に、バナーシートがプリントされます。

■エンドシート

プリントジョブのあとに、バナーシートがプリントされます。

■スタート＋エンドシート

プリントジョブの前とあとに、バナーシートがプリントされます。

■プリンタードライバーの設定を優先

チェックを付けると、プリンタードライバーでのバナーシート出力設定に従って処理します。

バナーシートのオフセット出力

仕分け用の用紙（バナーシート）を出力するときにオフセット排出するかどうかを設定します。

バナーシートトレイ

仕分け用の用紙（バナーシート）に使用する用紙トレイを設定します。

設定できるのは、用紙トレイ 1 ～ 4、6（オプション）です。トレイ 5（手差し）は設定できません。

PostScript のカラーモード初期値

PostScript のカラーモードの初期値を設定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

PostScript の用紙選択

用紙選択時に、PostScript の遅延媒体選択（Deferred Media Selection）機能を有効にするかどうかを設定します。遅延媒体選択機能を有効にする場合は［自動］を、無効にする場合は［用紙トレイから選択］を選択します。

プリンタードライバー以外が生成する PostScript データを印刷するときに、PostScript データの記述方法によっては、意図どおりにトレイが選択されないことがあります。その場合は［用紙トレイから選択］を選択してください。

補足

- ［自動］に設定していても、［用紙の置き換え］で［大きいサイズを選択］または［近いサイズを選択］を選択して、PostScript データを印字すると、自動的に［用紙トレイから選択］に切り換わります。
- お使いの機種またはオプションの装着状況によっては、この機能は利用できません。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

PS フォント未搭載時の処理

ジョブで指定された PostScript フォントがなかった場合の処理を設定します。

補足

- お使いの機種またはオプションの装着状況によっては、この機能は利用できません。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■プリントを中止する

プリントを中止します。

■フォントを置換えてプリントする

ジョブで指定されたフォントを置き換えてプリントします。置き換えられるフォントは Courier です。

置き換えられたフォントが日本語の場合は正しくプリントされません。日本語フォントでプリントする場合は［PostScript のフォント置き換え］で［ATCx を使用する］を選択してください。

PostScript のフォント置き換え

ジョブで指定された PostScript フォントがなかった場合、フォントの置き換えで ATCx を使用するかどうかを設定します。

ATCx 機能は、ジョブで指定されたフォントが本機に搭載されていない日本語フォントの場合に、本機に搭載されている日本語の PostScript フォントに置き換えてプリントする機能です。

補足

- お使いの機種またはオプションの装着状況によっては、この機能は利用できません。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

XPS PrintTicket 処理

XPS 文書内に記述された印刷設定（PrintTicket）を読み込むときの本機の動作を設定します。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■無効

PrintTicket 処理をしません。

■標準モード

PrintTicket 処理を標準モードで行います。

■ **準拠モード**

PrintTicket で記述された印刷設定を Microsoft® の仕様に準拠した動作で行います。

LPD のプリント順序

LPD のプリントの順番を設定します。

補足

- ［LPD のプリント順序］の変更により、［受信バッファ -LPD］が自動的に変更される場合があります。詳しくは、「受信バッファ - LPD」(P.276) を参照してください。

■ **データ処理順**

印刷データを受信後、出力可能な状態になった順序で印刷されます。

複数の文書を連続して印刷要求した場合、データ処理に時間がかかる印刷データを先に印刷要求しても、データ処理が終了した印刷データが先に印刷される可能性があります。

■ **プリント受け付け順**

lpr の印刷要求を受け付けた順番で印刷されます。

注記

- 本設定は LPD の受信バッファが［ハードディスクスプール］設定のときのみ有効です。ほかの設定のときは［データ処理順］で印刷されます。

OCR フォントのグリフ（0x5C）

OCR フォントを使用するときに、「0x5C」の文字をバックスラッシュ（\）と円記号（¥）のどちらで印字するかを設定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

スキャナー設定

［スキャナー設定］では、スキャナー機能に関する仕様を設定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。また、オプションの装着状況によって表示される項目が異なります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

参照

- スキャナー機能を使用するための設定は、「スキャン機能の設定」(P.413) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［スキャナー設定］を押します。

参照

- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.162) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

スキャナー画面表示設定

基本スキャン画面に表示される項目を設定します。なお、基本スキャン画面とは、スキャナー (メール送信)、スキャナー (ボックス保存)、スキャナー (PC 保存)、スキャナー (URL 送信)、スキャナー (USB メモリー保存) で、次のタブを選択したときに表示される画面です。

- スキャナー (メール送信) 機能の［スキャナーメール送信］タブ
- スキャナー (ボックス保存) 機能の［スキャナーボックス保存］タブ
- スキャナー (PC 保存) 機能の［スキャナー PC 保存］タブ
- スキャナー (URL 送信) 機能の［スキャナー URL 送信］タブ
- スキャナー (USB メモリー保存) 機能の［USB メモリー保存］タブ

補足

- お使いの機種またはオプションの装着状況によっては、表示されない項目があります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

メール送信初期表示画面

メニュー画面で［スキャナー (メール送信)］を押したときに表示される画面を設定します。［基本スキャナー画面］または［宛先表］から選択できます。

PC 保存初期表示画面

メニュー画面で［スキャナー (PC 保存)］を押したときに表示される画面を設定します。［基本スキャナー画面］または［宛先表］から選択できます。

基本画面の表示機能

基本スキャン画面の下部の、1 列目～ 4 列目に表示する機能を設定します。

表示する機能は、［設定しない］、［カラーモード］、［両面原稿送り］、［原稿の画質］、［出力ファイル形式］、［読み取り解像度］、［読み込み濃度］、［読み取り倍率］、［ミックスサイズ原稿送り］、［原稿セット向き指定］から選択できます。

原稿送り装置を装着していない場合、［両面原稿送り］、［ミックスサイズ原稿送り］は表示されません。

倍率ボタン -2 ～ 5 段目

［基本画面の表示機能］の 1 列目～ 4 列目に表示する機能で、［読み取り倍率］を選択した場合に設定できる項目です。

［読み取り倍率］に表示する倍率を、固定倍率ボタンに登録した中から選択します。

参照

- 詳しくは、「固定倍率ボタン」(P.289) を参照してください。

スキャナー機能設定初期値

スキャナー機能の初期値を設定します。電源を入れたときや節電状態から復帰したとき、また〈リセット〉ボタンを押したときに、ここで設定されている初期値の状態に戻ります。よく使う機能や値を初期値に設定しておくと、操作のたびに設定する操作が省けます。

参照

- 設定項目の説明は、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「スキャン」を参照してください。

カラーモード

基本スキャン画面にある、［カラーモード］の初期値を設定します。

原稿の画質

基本スキャン画面にある、［原稿の画質］の初期値を設定します。

出力ファイル形式

基本スキャン画面にある、［出力ファイル形式］の初期値を設定します

PDF の Web 表示用最適化

基本スキャン画面にある、［出力ファイル形式］の［Web 表示用に最適化する］の初期値を設定します。

サムネール - メール送信

［スキャナー (メール送信)］の基本スキャン画面にある［出力ファイル形式］で［DocuWorks］または［XPS］を選択したときの、［サムネールあり］の初期値を設定します。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

サムネール - PC 保存

［スキャナー (PC 保存)］の基本スキャン画面にある［出力ファイル形式］で［DocuWorks］または［XPS］を選択したときの、［サムネールあり］の初期値を設定します。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

プレビュー

基本スキャン画面にある、［プレビュー］にあらかじめチェックをつけるかどうかを設定します。

読み込み濃度

［画質調整］画面にある、［読み込み濃度 / シャープネス］の［読み込み濃度］の初期値を設定します。

コントラスト

［画質調整］画面にある、［地色除去 / コントラスト］の［コントラスト］の初期値を設定します。コントラストの設定は、［カラーモード］が［フルカラー］または［グレースケール (256 階調)］のときに有効です。

シャープネス

［画質調整］画面にある、［読み込み濃度 / シャープネス］の［シャープネス］の初期値を設定します。

地色除去

［画質調整］画面にある、［地色除去 / コントラスト］の［地色除去］の初期値を設定します。

原稿の背景にある色を除去してコピーするときに設定します。

裏写り防止

［画質調整］画面にある、［裏写り防止］の初期値を設定します。

色空間

［画質調整］画面にある、［色空間］の初期値を設定します。

注記

- 初期値を［デバイス色空間］に設定して、「色空間機能の表示」(P.290) を［しない］に設定した場合、基本スキャン画面の［カラーモード］の［自動］、および［出力ファイル形式］の［高圧縮 (MRC)］と［少数色で圧縮する］は表示されなくなります。

原稿セット向き指定

［読み取り方法］画面にある、［原稿セット向き指定］の初期値を設定します。

読み取り解像度

［読み取り方法］画面にある、［読み取り解像度］の初期値を設定します。

［200dpi］、［300dpi］、［400dpi］、［600dpi］から選択できます。

ミックスサイズ原稿送り

［読み取り方法］画面にある、［ミックスサイズ原稿送り］の初期値を設定します。

わく消し

［読み取り方法］画面にある、［わく消し］の初期値を設定します。［標準］または［消し量調整］から選択できます。

上下わく消し量

［読み取り方法］画面の［わく消し］にある、［上下消し］の初期値を設定します。

0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

左右わく消し量

［読み取り方法］画面の［わく消し］にある、［左右消し］の初期値を設定します。

0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

中消し量

［読み取り方法］画面の［わく消し］にある、［中消し］の初期値を設定します。

0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

画質 / ファイルサイズ

［出力形式］画面にある、［画質 / ファイルサイズ］の初期値を設定します。

［標準画質 / 小さく］、［高画質 (+1)/ やや小さく］、［高画質 (+2)/ ふつう］、［高画質 (+3)/ やや大きく］、または［最高画質 / 大きく］を設定します。

メールの件名

メールの件名の初期値を設定します。件名は、全角 64 文字（半角 128 文字）まで入力できます。

URL 送信の件名

認証ユーザーにスキャン文書の格納先（URL）をメールで通知するときのメールの件名を設定します。件名は、全角 64 文字（半角 128 文字）まで入力でき、初期値として設定されます。

参照

- スキャナー（URL 送信）の機能については、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「スキャン」>「スキャン操作の流れ」>「Step2 機能を選択する」を参照してください。

メールの暗号化

スキャナー（メール送信）の［出力形式］画面にある、［暗号化］の初期値を設定します。

補足

- 外部認証時（ApeosWare Management Suite を使用する場合を除く）、外部サーバー用のルート証明書を設定しているときに利用できます。

文字認識（OCR）

基本スキャン画面にある、［出力ファイル形式］の［文字認識 (OCR)］の初期値を設定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

文字認識する言語

文字認識する言語の初期値を設定します。

［自動］、［日本語］、［韓国語］、［繁体中国語］、［簡体中国語］、または［英語］を設定します。

補足

- 英語とそのほかの言語（日本語、韓国語、繁体中国語、簡体中国語）が混在する原稿に対して、両方の言語の文字列を認識するには、［文字認識する言語］を［日本語］、［韓国語］、［繁体中国語］、または［簡体中国語］に設定し、文書を読み取るときに［読み取り解像度］で［300dpi］を指定してください。ただし、英語は［文字認識する言語］を［英語］に設定した場合に比べて認識率が低くなる可能性があります。
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

文字認識時の文字部分圧縮

文字認識を行った場合に、文字部分のデータを圧縮するかしないかの初期値を設定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

Microsoft® Office 形式設定

スキャン文書を Microsoft® Office 形式で保存するときの設定の初期値を設定します。

補足

- この機能を利用するには、オプションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■ページ向き

原稿を読み込んだときに、文字が正立するように処理するかどうかを設定します。［原稿セット向き指定に従う］、［文字認識による自動正立］から選択します。

■画像部分の形式

文書に含まれる画像をどのように処理するか設定します。［オートシェイプ］、［図オブジェクト］から選択します。

■認識言語用フォント

文字認識用の言語（日本語、韓国語、繁体中国語、簡体中国語、英語）ごとに、文書を保存するときに使用するフォントの初期値を選択します。

PC 保存機能設定初期値

転送プロトコル

転送に使用するプロトコル（転送プロトコル）の初期値を、［FTP］、［SMB］、［SMB（UNC 表記)］から選択できます。

保存時の認証ユーザー

スキャナー（PC 保存）で転送先のコンピューターにログインするとき、外部認証したユーザーを利用するかどうかを設定します。外部認証のときに有効な機能です。

■設定しない

外部認証ユーザーを利用しません。

■外部認証のユーザー

ログインするときに、外部認証ユーザーのユーザー名、パスワードを利用します。

FTP 時のユーザー名

スキャナー（PC 保存）で FTP 転送をするとき、外部認証ユーザーをログインユーザー名に使用する場合、認証ユーザーのドメイン部分を使用するかどうかを指定します。

■ユーザー名のみ

認証ユーザー名のユーザー名部分（「@」の前）だけをログイン名に使用し、ドメイン部分は使用しません。

■ドメインを付加する

認証ユーザー名のドメイン名（「@」の後ろ）も含めた認証ユーザー名をログイン名に使用します。

読み取りサイズボタン

［読み取り方法］画面の［読み取りサイズ］に表示する原稿サイズを設定します。［自動検知］以外の各ボタンに、原稿サイズを割り当てられます。

定形外サイズの原稿を頻繁にスキャンするときなど、あらかじめ定形外サイズを設定しておくと、スキャンのたびに原稿サイズを入力する操作が省けます。

■A 系 B 系表示

A4 サイズや B5 サイズなど、A 系 B 系サイズから選択できます。

■インチサイズ表示

8.5×11” や 11×17” など、インチ系のサイズから選択できます。

■その他

写真サイズやはがきサイズなど、そのほかのサイズから選択できます。

■サイズ入力

任意のサイズを入力できます。X（よこ）方向が 15 ～ 432mm、Y（たて）方向が 15 ～ 297mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

出力サイズボタン

［読み取り方法］画面の［読み取り倍率］で、［自動 %］を選択してスキャンする場合の［出力サイズ］に表示するサイズを設定します。

出力サイズボタンに、任意の出力サイズが割り当てられます。

よく使うサイズを設定しておくと、スキャンのたびに設定する操作が省けます。

■A 系 B 系表示

A4 サイズや B5 サイズなど、A 系 B 系サイズから選択できます。

■インチサイズ表示

8.5×11” や 11×17” など、インチ系のサイズから選択できます。

■その他

写真サイズやはがきサイズなど、そのほかのサイズから選択できます。

固定倍率ボタン

［読み取り方法］画面の［読み取り倍率］で、［定形変倍 / ズーム］の［プリセット %］に表示する倍率を設定します。

［100%］以外の各ボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

■定形変倍

定形倍率から選択できます。

■ズーム

任意の倍率を設定できます。25 ～ 400% の範囲で 1% 単位で指定します。

その他の設定

スキャナー機能の仕様に関するそのほかの設定をします。

メモリーオーバーフローの処理

原稿の読み込み中に、スキャナー用のハードディスクの領域が不足した場合、途中まで蓄積されていたデータの処理をどうするか確認する画面が表示されます。

確認画面を表示させたまま一定時間が経過したときの処理方法を設定します。

参照
- メモリーオーバーフローの処理を実行するまでの時間を設定できます。詳しくは、「ジョブ自動解除」(P.172) を参照してください。

■ジョブ中止

蓄積されたデータは破棄されます。

■読込済み原稿でジョブ実行

途中まで蓄積されたデータを有効にして処理します。

最大蓄積ページ数

スキャン原稿の最大蓄積ページ数を指定します。1 ～ 999 ページまで指定できます。

彩度

フルカラー原稿をスキャンするときの彩度を設定します。スキャンをするときに、ここで設定した値に従って自動的に調整されます。

地色除去レベル

地色除去レベルを設定します。[地色除去]を[する]に設定した場合に有効です。

数値が大きくなると、地色除去の強度が増します。

裏写り防止レベル

裏写り防止レベルを設定します。[裏写り防止]を[する]に設定した場合に有効です。

色空間機能の表示

色空間機能を表示するかどうかを設定します。

[する]に設定すると、スキャナー機能の[画質調整]画面に、[色空間]が表示されます。

注記
- 初期値を[しない]に設定して、[色空間]を[デバイス色空間]に設定した場合、基本スキャン画面の[カラーモード]の[自動]、および[出力ファイル形式]の[高圧縮 (MRC)]と[少数色で圧縮する]は表示されなくなります。色空間については、「色空間」(P.286) を参照してください。

TIFF の形式

スキャンデータを読み込むときの、TIFF の形式を設定します。[TIFF V6]、[TTN2]から選択できます。

読み込み終了後の画面表示

原稿を読み込んだあとに、終了メッセージを表示するかどうかを設定します。

■しない

終了メッセージは表示されません。

■読み込み終了メッセージを表示

終了メッセージを表示します。

■転送画面を続けて表示

読み込み終了後に、転送画面を表示します。終了メッセージは表示されません。

■転送終了後にメッセージを表示

転送終了後に、終了メッセージを表示します。

ファイル名の形式

［スキャナー (メール送信)］、［スキャナー (ボックス保存)］、［スキャナー (USB メモリー保存)］、［スキャナー (PC 保存)］、［スキャナー (URL 送信)］を使用する場合、スキャンした文書を保存する / 送信する文書のファイル名の形式を設定します。

［YYYYMMDDHHMMSS］、［img-MDDHHMMSS］から選択できます。

補足

- ［YYYYMMDDHHMMSS］の年月日の順序は、［仕様設定］>［共通設定］>［システム時計 / タイマー設定］>［日付］の［日付の形式］で変更できます。
- ［img-MDDHHMMSS］を選択した場合、10 月、11 月、12 月はそれぞれ X、Y、Z となります。

メールに添付するファイル名の日付

［スキャナー (メール送信)］を使用する場合、送信する文書のファイル名に日付やページ番号を付加するかどうかを設定します。

ファイル名を自動生成するかどうか、または［ファイル名の形式］の設定によって、次のようになります。

設定値	自動生成の場合の例	ファイル名を指定した場合の例
［付加する］	20121002023309-0001.tif または img-X02023309-0001.tif	Report-20121002023309-0001.tif またはReport-X02023309-0001.tif
［付加しない］	20121002023309-0001.tif または img.tif	Report.tif

補足

- インターネットファクスで送信した場合も、この設定が適用されます。
- ［ファイル名の形式］で［YYYYMMDDHHMMSS］を指定した場合は、［付加しない］を選択しても、ファイル名に日付が付加されます。

文字認識時のページ向き

文字認識（OCR）して、原稿を読み込んだときに、文字が正立するように処理するかどうかを設定します。

■自動正立する

原稿のセット向きに関係なく、文字が正立するように処理します。

■原稿セット向きに従う

セットした原稿の向きに従って処理します。

URL 送信の文書保存期間

スキャナー（URL 送信）の文書の保存期間を設定します。1 ～ 168 時間の範囲で 1 時間単位で指定します。初期値は、3 時間です。

URL 送信の URL 生成方法

スキャナー（URL 送信 ）で送信する URL の生成方法を設定します。［IP アドレスを使用］、［FQDN を使用］から選択できます。

URL の例は次のとおりです。

［IP アドレスを使用］の場合 :

http://192.0.2.1/scanUrl/doc1/get.htm

［FQDN を使用］の場合 :

http://pc1.mycompany.co.jp/scanUrl/doc1/get.htm

URL 送信の最大蓄積サイズ

スキャナー（URL 送信 ）の文書の最大蓄積サイズを設定します。1 ～ 200MB の範囲で 1MB 単位で指定します。初期値は、200MB です。

認証ユーザー名の記載（PDF）

本体認証、外部認証などを利用して PDF 形式でスキャンした場合、保存した PDF 文書の属性情報の「作成者」に、認証ユーザー名を記載するかどうかを設定します。

注記

- 工場出荷時には［しない］が選択されていますが、［する］を選択すると、文書の利用目的によっては、個人情報の開示につながり、好ましくない場合があります。スキャンした文書の属性情報に、認証ユーザー名やカードの ID 番号を記載したくない場合は、［しない］を選択してください。
- ［する］を選択すると、Microsoft® Office 形式の文書にも認証ユーザー名やカードの ID 番号が記載されます。

ファクス設定

ファクス機能に関する仕様を設定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。また、装着しているオプションによって表示される項目が異なります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 宛先表の登録は、［登録 / 変更］から行います。詳しくは、「宛先表登録（短縮宛先登録）」(P.346)を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［ファクス設定］を押します。

参照

- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.162) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

ファクス画面表示設定

［ファクス / インターネットファクス］画面の表示に関する項目を設定します。

ファクス初期表示画面

メニュー画面で［ファクス / インターネットファクス］を選択したときに表示される、初期画面が設定できます。

［基本ファクス画面］、［宛先表］から選択できます。

基本画面の表示機能

［ファクス / インターネットファクス］画面に表示する機能を設定できます。

■2 ～ 4 列目に表示する機能

［ファクス / インターネットファクス］画面の下部の 2 ～ 4 列目に表示する機能を設定できます。

［設定しない］、［両面原稿送り］、［原稿の画質］、［送信画質］、［モニターレポート］、［通信モード］、［発信元記録］、［ミックスサイズ原稿送り］、［読み取り倍率］から選択できます。

原稿送り装置を装着していない場合、［両面原稿送り］、［ミックスサイズ原稿送り］は表示されません。

倍率ボタン -3 ～ 5 段目

［基本画面の表示機能］の［2 列目～ 4 列目に表示する機能］で、［読み取り倍率］を選択した場合に設定できる項目です。

［読み取り方法］画面の［読み取り倍率］で、［プリセット %］に表示する倍率を設定します。3 ～ 5 段目の各ボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

送信中画面表示

送信中に、送信の状態を画面に表示するかどうかを設定します。

ファクス回線選択の表示

［ファクス / インターネットファクス］画面でファクス回線を選択できるようにするかどうかを設定します。

補足

- お使いの機種またはオプションの装着状況によっては、この機能は利用できません。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- ファクスキット 3 を 2 回線でご利用になっている環境で、［ファクス設定］>［ファクス動作制御］>［内線設定］で［内線］を設定しているとき、この機能は表示されません。

■ファクス回線選択の表示

［ファクス / インターネットファクス］画面に［回線選択］ボタンを表示して、ファクス回線を選択できるように設定できます。

■ファクス回線 1 ～ 3 の名称

各回線に表示する名称を設定します。

ファクス機能設定初期値

ファクス機能の初期値を設定します。電源を入れたときや節電状態から復帰したとき、また〈リセット〉ボタンを押したときに、ここで設定されている初期値に戻ります。よく使う機能や値を初期値に設定しておくと、操作のたびに設定する手間が省けます。

参照

- 設定項目の説明は、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ファクス」を参照してください。

送信画質

［ファクス / インターネットファクス］と［読み取り方法］画面にある、［送信画質］の初期値を設定します。

原稿の画質

［ファクス / インターネットファクス］画面と［読み取り方法］画面にある、［原稿の画質］の初期値を設定します。

送信濃度

［ファクス / インターネットファクス］と［読み取り方法］画面にある、［送信濃度］の初期値を設定します。

ミックスサイズ原稿送り

［読み取り方法］画面にある、［ミックスサイズ原稿送り］の初期値を設定します。

プレビュー

［ファクス / インターネットファクス］画面にある［プレビュー］に、あらかじめチェックをつけるかどうかを設定します。

原稿通過スタンプ

［読み取り方法］画面にある、［原稿通過スタンプ］の初期値を設定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

白紙スキップ

［ファクス / インターネットファクス］画面と［読み取り方法］画面にある、［両面原稿送り］の初期値を［両面 (白紙スキップ)］に設定します。

通信モード

［送信オプション］画面にある、［通信モード］の初期値を設定します。

通信開始時刻

［送信オプション］画面にある、［優先通信 / 時刻指定］の［時刻指定］を［する］にしたときの、［通信開始時刻］の初期値を設定します。

発信元記録

［送信オプション］画面にある、［発信元記録］の初期値を設定します。

モニターレポート

［送信オプション］画面にある、［モニターレポート / 配送確認］または［モニターレポート / 開封確認］の［モニターレポート］の初期値を設定します。

補足

- 配送確認、開封確認のどちらに設定するかは、［送達確認方式］で行います。詳しくは、「送達確認方式」(P.309) を参照してください。

配送 / 開封確認

［送信オプション］画面にある、［モニターレポート / 配送確認］または［モニターレポート / 開封確認］の［配送確認 (DSN)］または［開封確認 (MDN)］の初期値を設定します。

補足

- 配送確認、開封確認のどちらに設定するかは、［送達確認方式］で行います。詳しくは、「送達確認方式」(P.309) を参照してください。

インターネットファクスプロファイル

［送信オプション］画面にある、［インターネットファクスプロファイル］の初期値を設定します。

インターネットファクスの件名

［送信オプション］画面にある、［インターネットファクスの件名］の初期値を設定します。件名は、全角 64 文字（半角 128 文字）まで入力できます。

インターネットファクスの暗号化

［送信オプション］画面にある、［暗号化］の初期値を設定します。

補足

- 外部認証時 (ApeosWare Management Suite を使用する場合を除く)、外部サーバー用のルート証明書を設定しているときに利用できます。

ファクス動作制御

ファクス動作の制御に関する設定をします。

内線設定

ファクスを内線で使用する場合に、どの回線で使用するかを設定します。

補足

- お使いの機種またはオプションの装着状況によっては、この機能は利用できません。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

宛先の再入力

ファクス、インターネットファクス、IP ファクス（SIP）の誤送信を避けるため、宛先を指定したあとに、宛先の再入力を必要とするかしないかを設定します。［する］に設定した場合、ダイヤル入力または短縮宛先番号を使用して宛先を指定すると、もう一度宛先を指定する画面が表示されます。1 回めに指定した宛先と一致する場合だけ、送信できます。

再入力時の同報指示

［宛先の再入力］を［する］に設定した場合に、同報送信を許可するかしないかを設定します。

■同報指示時は再入力しない

同報送信が許可されます。宛先の再入力は必要ありません。

■同報指示時も再入力する

同報送信は許可されますが、宛先の再入力が必要です。

■同報指示を禁止

同報送信できません。

再入力時の短縮指示

［宛先の再入力］を［する］に設定した場合に、短縮宛先番号で 1 回めの宛先を指定したときの、2 回めの宛先の指定方法について設定します。

■短縮指示時は再入力しない

宛先の再入力は不要です。

■短縮番号で再入力

宛先の再入力を、短縮宛先番号を使って指定します。

■ファクス番号 / アドレスで再入力

一般のファクスはファクス番号、インターネットファクスはメールアドレス、IP ファクス（SIP）は SIP 本体アドレス、電話番号または SIP ユーザー名で指定します。宛先の再入力に、短縮宛先番号は使用できません。

再入力時のグループ宛先指示

宛先再入力の場合に、グループダイヤルも再入力の対象とするかしないかを設定します。

■グループ宛先禁止

グループ宛先は使用できません。

■グループ宛先は再入力しない

グループ宛先の再入力は不要です。

■ グループ宛先を再入力する

グループ宛先の再入力が必要です。

同報切り替えボタンの表示

同報指示を明確にするための［同報する］（チェックボックス）をファクス / インターネット画面に表示するかしないかを設定します。

チェーンダイヤル

ワンタッチボタン、短縮ボタン、宛先表のそれぞれに登録してある番号と〈数字〉ボタンで入力した番号を組み合わせて、1 つの宛先として指定できます。［使用しない］、［使用する］から選択できます。

補足

- この項目は、［仕様設定 / 登録］>［宛先表設定］>［宛先表タイプ］が［宛先表タイプ 1］に設定されている場合に有効です。

手動リダイヤル宛先保存数

リダイヤル宛先として保存される件数を設定します。

手動リダイヤル対象宛先

リダイヤル宛先として保存される宛先の種別を設定します。

すべてのチェックを外すと、リダイヤル機能なしになります。

ポーリング予約の発信元記録

ポーリング予約文書に発信元記録を付けるかどうかを設定します。

ポーリング予約とは、本機のポーリング予約ボックスに原稿を蓄積しておいて、相手先からの操作で送信できるようにする機能です。

ポーリング予約文書の自動削除

ポーリング予約した文書を、送信後に自動的に削除するかどうかを設定します。

自動回転送信

原稿の向きを回転させると原稿イメージを縮小しないで送信できる場合に、自動的に原稿の向きを回転させるかどうかを設定します。

補足

- 読み取り倍率で任意倍率を指定した場合は、自動回転送信機能は働きません。

G3-ID の送出 - ファクス

G3 通信時に、G3-ID を相手先に通知するかどうかを設定できます。

G3-ID の送出 -IP ファクス（SIP）

G3 通信時に、G3-ID を IP ファクス（SIP）の相手先に通知するかどうかを設定できます。

リダイヤル回数

リダイヤルとは、相手先が話し中などで応答しないときに、自動的に再度ダイヤルする機能です。リダイヤルする回数を 0 ～ 9 の範囲で指定します。

リダイヤル間隔

リダイヤルする間隔を 0 ～ 15 分の範囲で 1 分単位で指定します。

ファクス未送信時の文書保存

ファクスが送信できなかった場合に、文書を保存するかどうかを設定します。［する］に設定すると、［ジョブ確認］画面の［保存文書］タブに、［ファクス未送信文書］が表示されます。［ファクス未送信文書］で送信できなかった文書を選択して再送信できます。

参照

- ファクス未送信文書については、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ジョブ確認」>「保存文書をプリント / 削除する」>「ファクス未送信文書」を参照ください。

ファクス送信強制終了時の文書

［ファクス未送信時の文書保存］で［する］に設定した場合、強制的にファクス送信を終了した文書を保存対象にするかどうかを設定します。

ファクス保存文書の自動削除

［ファクス未送信時の文書保存］で［する］に設定した場合、保存された文書を 24 時間後に自動的に削除するかどうかを設定します。

通信インターバル

1 つの通信が終わったあと、次に送信を始めるまでの時間を、3 ～ 255 秒の範囲で 1 秒単位で指定します。

通信インターバルが長いほど、同報送信などにかかる全体の時間は長くなりますが、待機時間中に受信できるようになります。

同一宛先一括送信

一括送信とは、複数の送信が予約されている場合に同一の宛先があるとき、1 回の通信で同一の宛先の文書を送信する機能です。一括送信で送信すると、通信コストを低減できます。ここでは、一括送信の機能を使用するかどうかを設定します。

なお、手動送信、同報、中継同報、親展通信、指定時刻より前の時刻指定通信などの場合は、一括送信できません。リダイヤル、再送、時刻指定送信になった通信ジョブや認証機能を使用しているときに、別々のユーザーから同一宛先に送信した場合は、一括送信の対象になりません。

手動送受信初期値

一般のファクスでオンフックまたはオフフックを使用した場合、タッチパネルディスプレイに最初に表示される状態を手動受信にするか、手動送信にするかを設定します。

補足

- IP ファクス（SIP）の場合は、手動受信 / 送信機能がないため、ここでの設定は適用されません。

ファクス自動受信時の受信方式

一般のファクスでの自動受信時の受信方式を設定します。

補足

- IP ファクス（SIP）の場合は、本設定は適用されません。

■指定時間後に受信

電話がかかってきてからファクス通信を開始するまでの時間を、0 ～ 15 秒の範囲で設定します。

相手が電話なら、設定時間内にオプションのハンドセット（受話器）や外付け電話を取って会話ができます。ファクス通信なら手動受信ができます。

■ファクス識別信号検知後に受信

ファクス識別信号が検知されると自動的にファクス通信が開始されます。

ファクス受信モード

〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押して表示される、［機械状態レポート出力］画面の［ファクス受信モード］の初期値を設定できます。相手からの送信を自動で受信するか手動で受信するかを設定します。

補足

- IP ファクス（SIP）の場合は、ここでの設定に関係なく、自動受信になります。

ページ分割しきい値

受信文書の長さが用紙サイズより長い場合、どの長さでページを分割するかを設定します。0 ～ 127mm の範囲で 1mm 単位で設定します。

次項目の自動縮小受信機能と組み合わせて設定すると便利です。

自動縮小受信

受信文書の長さが、ページ分割しきい値以内で用紙の長さを超える場合、用紙に収まるように自動的に画像を縮小するかどうかを設定します。

前項目のページ分割しきい値と組み合わせて設定すると便利です。［しない］を設定している場合、用紙の長さを超えた部分の画像は切り捨てられます。

受信紙宣言

ファクスの受信側から送信側に、受信文書をプリントする用紙を知らせる方法（モード）を設定できます。

■トレイモード

ファクスの受信文書をプリントするために使用する用紙トレイを指定します。ここで指定した用紙トレイだけが、受信文書をプリントするために使用されます。手差しトレイを除く、すべての用紙トレイを複数指定できます。ここで指定した用紙トレイでプリントできないときは、手差しトレイに用紙をセットするよう促すメッセージが表示されます。手差しトレイに用紙をセットして、〈スタート〉ボタンを押すと、プリントが開始されます。プリントを中止するときは、〈クリア（C）〉ボタンを押してください。

■ユーザーモード

プリントする用紙サイズを指定（宣言）し、トレイにセットされているかどうかに関係なく、宣言したサイズの用紙だけをプリント用紙の対象にします。［ユーザーモードを選択した場合は、［A3□］、［A4□］、［A4□］、［A5□］、［B4□］、［B5□］、［8.5×11”□］、［すべての用紙サイズ］から用紙サイズを選択します。用紙サイズは、複数選択が可能です。

ページ合成受信

2 ページを 1 ページに合成して受信するように設定できます。用紙を節約したい場合に便利です。

たとえば A5 を 2 枚受信した場合、A4 の用紙 1 枚にプリントされます。ただし、［受信紙宣言］で、受信した用紙と同じ用紙サイズの用紙が宣言されていれば、その用紙にプリントされます。また、受信する文書サイズによっては、ページ合成をしない場合があります。

両面プリント

ファクス受信文書（インターネットファクス受信文書を含む）を用紙の両面にプリントするかどうかを設定します。用紙を節約したい場合に便利です。

補足
- ［する］に設定しても、データによっては、両面にプリントされないことがあります。

上下わく消し量

原稿の上下方向のわく消し量を指定します。0 ～ 20mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

左右わく消し量

原稿の左右方向のわく消し量を指定します。0 ～ 20mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

8.5 × 11”⏍原稿の A4⏍縮小

［読み取り方法］画面の［読み取り倍率］が［自動 %］の場合で、8.5×11"⏍サイズの原稿を読み取るときに、A4⏍に縮小するかどうかを設定できます。

写真画質の擬似階調方式

写真原稿の階調表現方式が設定できます。写真の画質に近づけるために、中間の明るさ（グレー）部分の処理方式を切り替えます。［誤差拡散］または［ディザ］から選択できます。

この設定を変更すると、スキャン機能のカラーモード（2 階調）の写真原稿の階調表現方式も変更になります。

回線 1 ～ 3 付加サービス

回線 1 ～ 3 で電話会社が提供しているサービスを利用しているかどうかを設定します。

ナンバー・ディスプレイ契約をしている場合は、［発信電話番号］を［あり］に、ダイヤルイン契約をしている場合は、［ダイヤルイン］を［あり］に設定します。サービスを利用していない場合は、［なし］を設定します。

補足
- NTT フレッツ光、KDDI ひかり one などの回線に変更された場合、回線契約によっては、標準でナンバー・ディスプレイ / 発信者番号表示サービスが有効になっている場合があります。契約内容を確認して、設定を変更してください。
- IP ファクス（SIP）の場合、回線 1 ～ 3 付加サービスは利用できません。

回線 SIP 付加サービス

次世代ネットワーク（NGN）を使用するときに、電話会社が提供しているサービスを利用しているかどうかを設定します。

企業内ネットワークでの IP ファクス（SIP）利用時は、電話会社との契約によらず、発信者電話番号を取得したい場合は、［発信者番号］を［あり］に、自局の電話番号を取得したい場合は［ダイヤルイン］を［あり］に設定します。

補足
- ［ネットワーク設定］>［次世代ネットワーク（NGN）設定］>［次世代ネットワーク（NGN）接続］の設定が［する］に設定されている場合に、有効になります。

電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター

電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター機能を使用するかどうかを設定します。

受信文書を、相手の電話番号（発信者電話番号）や、相手の G3ID や、自分の電話番号（ダイヤルイン番号）ごとに、指定した親展ボックスに振り分けて蓄積できます。

補足

- 本機が自局の G3ID 相手局に送出しない場合、相手局から G3ID が送られてこない場合があります。相手局が G3ID を送出しない場合、ボックスセレクターを設定しても G3ID による振り分けは出来ません。
- G3ID 規格上、電話番号を設定する決まりになっていますが、相手局のユーザが手動で登録する ID のため、正しい電話番号が設定されていない場合があります。実際に相手局が送出した G3ID はジョブ履歴レポートで確認ができます。
- 相手局の G3ID はジョブ履歴レポートの［入力（送信）元］欄で確認できます。

ボックスセレクター優先度

電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター機能を使用する場合に、送信した相手の電話番号（発信者電話番号）や G3ID、受信した自局の電話番号（ダイヤルイン）に優先度を設定して親展ボックスに受信文書を振り分けます。親展ボックスに振り分ける優先度は第 1 優先、第 2 優先、第 3 優先の順に設定できます。

受信回線別ボックスセレクター

受信回線別ボックスセレクター機能を使用するかどうかを設定します。

受信回線別ボックスセレクター機能を使用すると、受信文書を受信した回線ごとに、指定した親展ボックスに振り分けて蓄積できます。

ボックス保存時のファイル名の形式

ファクス文書を親展ボックスに保存するときのファイル名の形式を設定します。

［YYYYMMDDHHMMSS］に設定すると、年月日時分秒を並べたファイル名が生成されます。［img-MDDHHMMSS］に設定すると、固定文字列［img-］のあとに、月日時分秒を並べたファイル名が生成されます。

補足

- ［YYYYMMDDHHMMSS］の年月日（YYYYMMDD）の順序は、［仕様設定］>［共通設定］>［システム時計 / タイマー設定］>［日付］の［日付の形式］で変更できます。
- ［img-MDDHHMMSS］を選択した場合、10 月、11 月、12 月はそれぞれ X、Y、Z となります。

メモリオーバフローの処理

原稿の読み込み中に、ハードディスクの領域が不足した場合、途中まで蓄積されていたデータの処理をどうするかを確認する画面が表示されます。

確認画面を表示させたまま一定時間が経過したときの処理方法を設定します。

参照

- メモリオーバフローの処理を実行するまでの時間を設定できます。詳しくは、「ジョブ自動解除」（P.172）を参照してください。

■ ジョブ中止

蓄積されたデータは破棄されます。

■ 読込済み原稿でジョブ実行

途中まで蓄積されたデータを有効にして処理します。

最大蓄積ページ数

ファクス原稿の最大蓄積ページ数を指定します。1 ～ 999 ページまで指定できます。

ミックスサイズ原稿読み取りモード

自動原稿送り装置で複数のサイズが混在した原稿を読み込むときの、読み取りモードを設定します。常に定形サイズの原稿を読み込む場合は、［定形モード］に設定することをお勧めします。

注記

- ［定形モード］に設定すると、次の原稿を読み込んだ場合、画像欠けが発生することがあります。
  - 非定形サイズの原稿を読み込んだ場合
  - ［サイズ検知切り替え］でインチ系に設定して、B4 原稿を読み込んだ場合

白紙スキップ機能

両面原稿を読み込むときに原稿が白紙かどうかを検知し、白紙ではない原稿面だけを送信する機能（白紙スキップ）を使用するかどうかを設定します。

補足

- この機能は、カストマーエンジニアが設定します。弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店にお問い合わせください。

親展受信情報の表示優先順 1 ～ 5

親展受信した文書のファクス情報を表示するための優先順位を設定します。たとえば、ネットワークスキャナーユーティリティ 3 の場合、ここで設定した優先順位に従って、文書一覧画面の［相手先］欄に、ファクス情報を表示します。

優先順位は 1 ～ 5 まであり、それぞれに項目を設定できますが、常に 1 つの情報だけを表示させたいときは、優先順位の 1 ～ 5 に同じ項目を設定します。

ダイレクトファクスの使用

コンピューターからファクスドライバーで指示されたファクスの送信を許可するかどうかを設定します。［禁止］に設定すると、ダイレクトファクスは使用できません。

受信制限番号

ファクス受信を拒否する G3ID（電話番号）を指定します。最大 50 件まで指定できます。

補足

- ファクス受信拒否をしたい相手先の G3ID（電話番号）は、通信管理レポートの［相手］欄やジョブ履歴レポートの［入力（送信）元］欄で確認できます。

非通知番号の受信制限

G3ID が非通知のファクスを受信するかどうかを設定します。［する］に設定すると、G3ID が非通知のファクスは受信しません。

1300Hz 無鳴動受信

ファクシミリ通信網からの 1300Hz 無鳴動を受信するかどうかを設定します。

［する］に設定すると、［ファクス受信モード］が［手動受信］の場合でも、ファクスが自動的に受信されます。

補足

- IP ファクス（SIP）の場合は、本設定は適用されません。

受信文書の保存先 / 排出先

受信文書を指定した親展ボックスに振り分ける、ボックスセレクター機能を利用する場合の振り分け方法を設定します。

振り分け方法には、次の 2 つの方法があります。

- 電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター
- 受信回線別ボックスセレクター

補足

- 両方使用した場合は、電話番号 /G3ID 別ボックスセレクターの振り分けが優先されます。

電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター

受信文書を、相手の電話番号（発信者電話番号）や、相手の G3ID や、自分の電話番号（ダイヤルイン番号）ごとに各親展ボックスに振り分けて蓄積できます。500 件まで登録できます。

注記

- 発信者番号通知サービスによる振り分けを利用する場合、送信側の設定などによってはナンバー・ディスプレイ情報が、認識できない場合があります。その場合、プリント排出されることがあります。

  また、モデムダイヤルインによる振り分け機能についても同様にプリント排出される場合があります。

補足

- モデムダイヤルインによる振り分けを使用する場合は、NTT とモデムダイヤルインの契約を結ぶ必要があります。また、発信者番号通知サービスによる振り分けを使用する場合は、NTT とナンバー・ディスプレイの契約を結ぶ必要があります。

1 ［電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター］を押します。

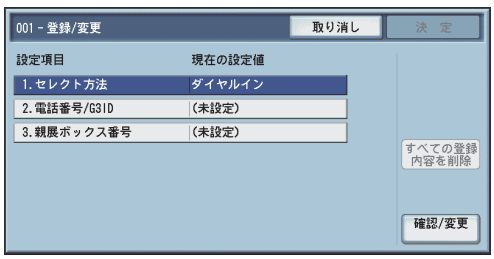
2 登録したいボックスセレクター番号を選択し、［登録 / 変更］を押します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 〈数字〉ボタンで 3 桁のボックスセレクター番号を入力すると、画面の一番上に入力したボックスセレクターが表示されます。

3 項目を選択し、［確認 / 変更］を押します。



4 設定を登録 / 変更し、［閉じる］を押します。

■セレクト方法

［ダイヤルイン］、［発信電話番号］、［G3ID］が同時に通知された場合に、いずれかを優先的に使用するかを設定します。工場出荷時は、［ダイヤルイン］が設定されています。

■電話番号 /G3ID

振り分ける電話番号を〈数字〉ボタンで 20 桁以内で入力します。

＊（ワイルドカード）を使用すると、電話番号の先頭から確認します。たとえば、「03 ＊」と入力すると、「03」で始まる電話番号の文書を、指定した親展ボックスに蓄積します。

＊（ワイルドカード）を使用しないと、電話番号の末尾から確認します。たとえば、「1234」と入力すると、下 4 桁が「1234」の電話番号の文書を、指定した親展ボックスに蓄積します。

注記
- ＊（ワイルドカード）は、1 桁めには設定できません。

補足
- ボックスセレクター番号が小さい順に振り分け内容を確認し、文書を蓄積します。そのため、小さい番号に、より詳細な電話番号を登録しておくと、意図した振り分けができます。

■親展ボックス番号

〈数字〉ボタンで、3 桁の親展ボックス番号を指定します。指定した親展ボックスに文書が蓄積されます。

5 必要に応じて、手順 3、4 を繰り返します。

6 ［決 定］を押します。

受信回線別ボックスセレクター

受信回線を利用した振り分けを設定しておくと、受信した文書を受信した回線ごとに、指定した親展ボックスに振り分けて蓄積します。

補足
- 各回線に指定した親展ボックスを、メニュー画面の機能ボタンに割り当てることができます。機能ボタンには親展ボックスに格納されている文書数が表示され、ボタンを押すと、親展ボックス内の文書を確認できます。機能ボタンに表示させる方法については、「機能ボタン / 補助機能ボタンの配列を変更する」(P.38) を参照してください。

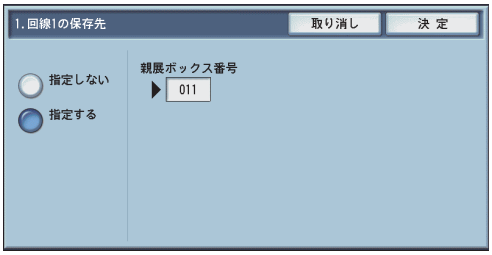
1 ［受信回線別 ボックスセレクター］を押します。

2 登録したい回線を選択し、［確認 / 変更］を押します。



補足
- お使いの機種やオプションの装着状況によって表示される項目が異なります。

3 ［指定する］を押します。



4 文書を蓄積する親展ボックスの番号（3 桁）を〈数字〉ボタンで入力します。

5 ［決 定］を押します。

受信回線別排出先

［受信回線別排出先］では、受信回線別の排出先などが設定できます。

補足

- お使いの機種またはオプションの装着状況によっては、この機能は利用できません。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 装着されているオプションによって、表示される項目が異なります。

■回線 1 ～ 3 の排出先

各回線の排出トレイを設定します。

■回線 SIP の排出先

IP ファクス（SIP）の排出トレイを設定します。

■ポーリング予約ボックスの排出先

ポーリング予約ボックスの排出トレイを設定します。

固定倍率ボタン

［読み取り方法］画面の［読み取り倍率］で、［プリセット %］に表示する倍率を設定します。［100%］と［自動 %］以外の各ボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

■定形変倍

定形倍率から選択できます。

■ズーム

任意の倍率を設定できます。50 ～ 400% の範囲で 1% 単位で指定します。

読み取りサイズボタン

［読み取り方法］画面の［読み取りサイズ］に表示する原稿サイズを設定します。

［自動検知］以外の各ボタンに、原稿サイズを割り当てられます。

定形外サイズの原稿を頻繁に読み取るときなど、あらかじめ定形外サイズを設定しておくと、読み取るたびに原稿サイズを入力する手間が省けます。

■ A 系 B 系表示

A4 サイズや B5 サイズなど、A 系 B 系サイズから選択できます。

■インチサイズ表示

8.5×11” や 11×17” など、インチ系のサイズから選択できます。

■その他

写真サイズやはがきサイズなど、そのほかのサイズから選択できます。

自局情報

自局名や発信元名など自局に関する設定をします。

補足

- 装着されているオプションによって、表示される項目が異なります。
- G3 通信で使用できる回線は、回線 1、回線 2、回線 3 で、最大 3 回線です。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.50) を参照してください。

自局名

自局の名前を自局名として登録します。

自局名は、相手側のディスプレイや通信管理レポートに表示されます。ただし、相手機によっては表示されないことがあります。

ディスプレイに表示されるキーボードと〈数字〉ボタンを使って、半角 20 文字以内で指定します。

発信元名

発信元の名前を登録します。発信元名は、発信元記録や送信シートなどにプリントされる自局の名称です。

ディスプレイに表示されるキーボードと〈数字〉ボタンを使って、全角 30 文字以内で指定します。

補足

- 回線 (ポート) を指定したファクス送信、または IP ファクス (SIP) 送信でも、[回線 1 ～ 3 発信元名] や［回線 SIP 発信元名］が未登録の場合は、この［発信元名］が使用されます。

受信パスワード

受信パスワードは、ファクスを送信してくる相手を制限したいときに設定します。

受信パスワードを設定すると、F コードで正しい受信パスワードを指定して送ってくる相手だけ、受信やポーリングを受け付けます。F コード機能を持っていないファクスなどからは、受信できなくなるので、注意してください。

回線 1 ～ 3 発信元名

回線 1 ～ 3 の発信元の名前を登録します。発信元名は、発信元記録や送信シートなどにプリントされる自局の名称です。

ディスプレイに表示されるキーボードと〈数字〉ボタンを使って、全角 30 文字以内で指定します。

回線 1 ～ 3 G3 ID（ファクス番号）

回線 1 ～ 3 の G3 通信をする場合の G3ID の登録をします。G3ID には、通常、自局のファクス番号を設定します。

ディスプレイに表示されるキーボードと〈数字〉ボタンを使って、20 桁以内で指定します。

補足

- G3ID（ファクス番号）は、20 桁以内で 0 ～ 9、+、スペースが使用できます。

回線 1 ～ 3 G3 ダイヤル種別

回線 1 ～ 3 のダイヤル種別を設定できます。

■ PB

プッシュ回線です。

■ 10pps

ダイヤル回線です。

■ 20pps

ダイヤル回線です。

回線 1 ～ 3 G3 回線種別

回線 1 ～ 3 の回線種別を設定できます。

補足

- 工場出荷時は［NTT］が設定されています。通常はこの設定を変更しないでください。

■ NTT

一般電話回線や構内交換回線などをお使いで、ダイヤルトーンを検出したら発呼させたい場合に選択してください。

■ PBX

構内交換回線などをお使いで、ダイヤルトーンを検出できなくても発呼させたい場合に選択してください。

回線 SIP 発信元名

IP ファクス（SIP）の発信元の名前を登録します。発信元名は、発信元記録や送信シートなどにプリントされる自局の名称です。

ディスプレイに表示されるキーボードと〈数字〉ボタンを使って、全角 30 文字以内で指定します。

回線 SIP G3 ID

IP ファクス（SIP）をする場合の相手局に送信する G3 ID を登録します。

ディスプレイに表示されるキーボードと〈数字〉ボタンを使って、20 桁以内で指定します。

インターネットファクス動作制御

インターネットファクス動作の制御に関連する設定をします。

送信経路

インターネットファクスの送信経路を設定します。

■メールサーバー経由

SMTP サーバーを経由してメールを送信します。

■ダイレクト（P2P）

SMTP サーバーを経由しないで、インターネットファクス 対応機へ直接送信できます。

インターネットファクス送信では、次の 2 つのメールアドレスの指定ができます。

- ホスト名を指定

  @ の右側が FQDN であることが必要です。

  例：local-part@device.domain.jp

- IP アドレスを指定

  @ の右側に IP アドレスを “[”“]” で指定します。

  例：local-part@[192.0.2.1]

注記
- 同じ送信先に対して、ホスト名の指定と IP アドレスの指定を混在して使用することはできません。
- 送信先の本体メールアドレスと送信元で設定するメールアドレスが一致しているときにだけ、プリントされます。

同報時のプロファイル

インターネットファクスの同報送信をするときの、インターネットファクスプロファイルの初期値を設定します。

プロファイルとは、送受信するインターネットファクス対応機間で、画像の解像度や用紙サイズなどの属性情報を制限するための決めごとです。

注記
- 相手先のインターネットファクス対応機によっては､処理できるTIFF ファイルのプロファイルが異なります。プロファイルを指定する場合は、相手先のインターネットファクス対応機で処理できるプロファイルを確認してください。

■TIFF-S

インターネットファクスの標準規格です。A4 サイズより大きいサイズの原稿の場合は、自動的に A4 サイズに縮小して送信されます。

■TIFF-F

送信画質で超高画質を指定したり、A3 サイズ、B4 サイズの原稿を送信したりする場合に選択します。

■TIFF-J

JBIG で原稿を送信する場合に選択します。

同報時の通信モード

インターネットファクスの同報送信をするときの、通信モードの初期値を設定します。

送達確認方式

送信したインターネットファクスが、受信側に届いたかどうかを確認する方法を設定します。

送信結果をプリントするには、［メール / インターネットファクス設定］>［メール送信動作制御］>［送達確認メールの自動プリント］を［する］に設定してください。

補足

- ［配送確認 (DSN)］は、相手先が DSN 機能に対応している場合に使用できます。また、［開封確認 (MDN)］は、相手先が MDN 機能に対応している場合に使用できます。

■配送確認 (DSN)

送信したインターネットファクスが、最終宛先のメールボックスまで正しく送信されたかどうかを確認できます。

■開封確認 (MDN)

送信したインターネットファクスが、最終宛先で添付ファイルの処理を含めて正しく処理されたかどうかを確認できます。

受信メールシートのプリント

インターネットファクス対応機から本機のメールアドレスに宛てたメールを受信したときの、プリント動作について設定できます。

■しない

添付文書だけをプリントします。

■ヘッダーすべてと本文をプリント

メールヘッダーとメールの本文をプリントします。

［S/MIME 情報をプリントする］にチェックを付けると、S/MIME 情報をプリントします。

■ヘッダーの一部と本文をプリント

メールヘッダーの一部（From/To/Subject/Date）とメールの本文をプリントします。

［本文がなければプリントしない］にチェックを付けると、本文があるときだけプリントします。

受信文書の排出先

インターネットファクス受信文書をプリントしたあとの排出トレイを設定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

宛先表によるファクス転送制限

SMTP による形式でインターネットファクス受信したメールを、宛先表に登録されていないファクスに転送するときの制限を設定します。

■しない

転送制限はしません。

■する

転送先のファクス番号が宛先表に登録されているかどうかを確認し、登録されていなければ、受信を拒否してデータを破棄します。

ファクス転送時の発信元記録

受信メールをインターネットファクスからファクスに送信するときに、発信元記録（通信開始時刻、発信元名、宛先名、G3ID、枚数など）を付けるかどうかを設定します。

ファクス転送時の上限データサイズ

受信メールをインターネットファクスからファクスに送信するときの、最大データサイズを設定します。

■制限しない

データサイズの制限をしません。

■制限する

1 ～ 65535KB の範囲で 1KB 単位で指定します。指定値を超えた場合、データは破棄されます。

メール / インターネットファクス設定

［メール / インターネットファクス設定］では、メールおよびインターネットファクス機能に関する仕様を設定します。

補足
- オプションの装着状況によっては、項目名や設定できる項目が異なる場合があります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［メール / インターネットファクス設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.162) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

メール送信動作制御

メール / インターネットファクスを送信するときの仕様に関する設定をします。

指定可能な最大送信先数

メールを送信するときの最大宛先アドレス数を指定します。

宛先アドレス数は、To:/Cc:/Bcc: の合計数です。

最大宛先アドレス数は、1 ～ 100 件の範囲で指定できます。最大宛先アドレス数を超えた場合は、メールの送信は中止されます。

注記
- インターネットファクス機能には適用されません。

受信メールシートのプリント

本機のメールアドレスに宛てたメールを受信したときの、プリント動作について設定できます。

■しない

添付文書だけをプリントします。

■ヘッダーすべてと本文をプリント

メールヘッダーとメールの本文をプリントします。

［S/MIME 情報をプリントする］にチェックを付けると、S/MIME 情報をプリントします。

■ヘッダーの一部と本文をプリント

メールヘッダーの一部（From/To/Subject/Date）と本文をプリントします。

［本文がなければプリントしない］にチェックを付けると、本文があるときだけプリントします。

エラー通知メールの自動プリント

間違ったアドレスを設定したり、エラーが発生して送信できなかった場合に、エラー通知メールを自動的にプリントするかどうかを設定します。

補足
- エラー通知メールのジョブ処理は、正常にプリントされた場合でも［ジョブ確認］画面、またはジョブ履歴レポートでは、「異常終了」と表示されます。

開封確認（MDN）要求への応答

開封確認（MDN）を要求されたときに、応答するかどうかを設定します。

■しない

応答しません。

■する

受信したメールを処理したときに、開封したことを送信元に知らせます。

開封確認（MDN）機能の使用

本機からメールを送信するときに、開封確認機能を使用するかどうかを設定します。

■禁止

開封確認機能を使用しません。

■許可

開封確認機能を使用します。

注記

- インターネットファクスを送信するときに、開封確認機能を使用するかどうかは、［ファクス設定］>［インターネットファクス動作制御］>［送達確認方式］で設定します。詳しくは、「送達確認方式」(P.309) を参照してください。

送達確認メールの自動プリント

送信結果のメール（DSN 返信メール /MDN 返信メール）を自動的にプリントするかどうかを設定します。

■しない

送信結果のメールをプリントしません。

■する

送信結果が成功か失敗かにかかわらず、自動的にプリントされます。

■不達時のみプリントする

送信に失敗したときだけ、プリントされます。

メールの分割方式

メールの分割方法の初期値を設定します。

■ページの区切りで分割

ページの区切りで分割します。

■データサイズ単位で分割

［1 通ごとのデータサイズ上限］で設定されたサイズで分割します。

1 通ごとのデータサイズ上限

メールを分割するデータサイズの上限を設定します。

512 ～ 20480KB の範囲で 1KB 単位で指定します。工場出荷時は、10240KB に設定されています。

合計データサイズ上限

メールのデータサイズの上限を設定します。

512 ～ 200000KB の範囲で 1KB 単位で指定します。工場出荷時は、200000KB に設定されています。

分割送信時の分割数上限

メール分割時の分割数の上限を設定します。

分割しない、または 2 ～ 500 の範囲で指定します。

未認証者の送信者アドレス

スキャナー（メール送信）時に、認証未登録ユーザーが［スキャナーメール送信］画面の［送信者］で、送信者のアドレスを変更することを許可するかどうかを設定します。

ゲストの送信者アドレス

スキャナー（メール送信）時に、ゲストユーザーが［スキャナーメール送信］画面の［送信者］で、送信者のアドレスを変更することを許可するかどうかを設定します。

取得成功時の送信者アドレス

スキャナー（メール送信）時に、認証ユーザーがメールアドレスを取得できた場合、［スキャナーメール送信］画面の［送信者］で、送信者のアドレスを変更することを許可するかどうかを設定します。

取得失敗時の送信者アドレス

スキャナー（メール送信）時に、認証ユーザーがメールアドレスを取得できなかった場合、［スキャナーメール送信］画面の［送信者］で、送信者のアドレスを変更することを許可するかどうかを設定します。

取得失敗時のメール送信制限

認証ユーザーがメールアドレスを取得できなかった場合、スキャナー（メール送信）の利用を制限するかどうかを設定します。

ユーザーのアドレスを宛先に追加

送信者のアドレスを、宛先に自動的に追加するかどうかを設定します。

ユーザーのアドレスを CC に追加

送信者のアドレスを、CC に自動的に追加するかどうかを設定します。

メール送信先の編集

メールの送信先（宛先、CC、BCC）の編集を、許可するかどうかを設定します。
メールの送信先の編集を禁止すると、メールの誤送信を防ぐことができます。

注記

- ［メール送信先の編集］を［禁止］に設定した場合は、［ユーザーのアドレスを宛先に追加］を［する］に設定してください。

宛先表設定

［宛先表設定］では、宛先表に関する仕様を設定します。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［宛先表設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.162) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

宛先表タイプ

宛先表を［宛先表タイプ 1］、［宛先表タイプ 2］から選択できます。

ディレクトリサービス

ディレクトリーサーバーに保存されているアドレス帳を利用するかどうかを設定します。

補足
- ［使用する］を選択していても、次の条件を満たしていない場合は、ディレクトリーサーバーのアドレス帳は起動しません。
  - 本機の IP アドレスが正しく設定されていること
  - ディレクトリーサーバー（プライマリー）の IP アドレスまたはインターネットアドレスが設定されていること
  - ディレクトリーサーバー、および本機に LDAP 通信で使用するポート番号が設定されていること

宛先表の初期表示 - スキャナー

［本体宛先表］、［ディレクトリサービス］から選択できます。

補足
- この項目の設定は、［ディレクトリサービス］が［使用する］に設定されている場合に有効になります。

宛先表の初期表示 - ファクス

［本体宛先表］、［ディレクトリサービス］から選択できます。

補足
- この項目の設定は、［ディレクトリサービス］が［使用する］に設定されている場合に有効になります。

宛先表検索の初期表示

［詳細検索］、［かんたん検索］から選択できます。

補足
- この項目の設定は、［宛先表タイプ］が［宛先表タイプ 1］に設定されている場合に有効になります。

表示開始番号 - ファクス

宛先表を最初に開いたときに、先頭に表示させる短縮宛先番号を指定できます。

短縮宛先番号を 1 ～ 2000 の範囲で指定します。

補足
- お使いの機種によって、指定できる短縮宛先番号の範囲が異なります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

ボックス設定

［ボックス設定］では、親展ボックスに保存された文書の処理方法を設定します。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［ボックス設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.162) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

外部取り出し後の文書削除

親展ボックス内に保存されている文書がクライアント側から取り出された場合に、文書を削除するかどうかを設定します。

■各ボックスの設定に従う

各親展ボックスの設定に従って、動作します。

参照
- 親展ボックスの設定については、「文書取り出し後の削除」(P.334) を参照してください。

■強制的に削除する

各親展ボックスに設定されている値は無効になり、クライアント側から文書が取り出されると、取り出された文書は強制的に削除されます。

親展ボックス文書の初期表示

文書一覧画面を開いたときの表示方法を設定します。［リスト表示］、［サムネール表示］から選択できます。

プリント文書保存時の向き指定

非定形サイズの文書を保存するときの向きを設定します。［たて］、［よこ］から選択できます。本設定で［たて］を選択しているとき、用紙トレイにセットできない向きのプリント文書が保存されると強制的に［よこ］で保存されます。

プリント時の削除確認画面表示

親展ボックス内の文書をプリントしたあとに、文書を自動的に削除する確認画面を表示するかどうかを設定します。

非定形文書転送時の定形化

親展ボックス内のファクス / インターネットファクス受信文書、親展ポーリング予約文書などを転送するときに、非定形サイズから定形サイズに変更するかどうかを設定します。

定形化時のサイズしきい値

［非定形文書転送時の定形化］で［する (ファクス / インターネットファクス文書のみ)］に設定したときに、非定形サイズを定形サイズに変更するための、しきい値を設定します。

0 ～ 10mm の範囲 で、1mm 単位で設定します。

インターネットファクス受信文書転送 -1

インターネットファクス受信文書をインターネットファクスで転送できるようにするかどうかを設定します。

インターネットファクス受信文書転送 -2

インターネットファクス受信文書をメールで転送できるようにするかどうかを設定します。

取り出し時の画質 / ファイルサイズ

親展ボックスから文書を高圧縮して取り出す場合の、ファイル画質とファイルサイズを設定します。[標準画質 / 小さく]、[高画質 / ふつう]、または［最高画質 / 大きく］から選択できます。

ジョブフロー設定

［ジョブフロー設定］では、ジョブフローに関する設定をします。ジョブフローとは、登録された一連の作業を実行する機能です。

また、ApeosWare JF Pool Service（別売）を利用してジョブフローを管理、保存する場合は、プールサーバーの設定をします。

プールサーバーとは、ジョブフローを管理、保存する外部のサーバーです。

プールサーバーを設定すると、プールサーバーに保存されているジョブフローの一覧取得、ジョブフローの取得ができます。

プールサーバーを利用するときは、あらかじめプールサーバー側に本機を登録する必要があります。

補足
- 本機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［ジョブフロー設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」（P.162）を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

プールサーバーの使用

プールサーバーを使用するかどうかを設定します。

プールサーバーのログイン方法

プールサーバーへのログイン方法について設定します。

■ログイン画面を表示

プールサーバーにログインするたびに、ログイン名とパスワードの入力画面が表示されます。

■自動的にログイン

プールサーバーに自動的にログインします。ここで、ログイン名とパスワードを設定しておきます。

表示するジョブフローの初期値

メニュー画面の［ジョブフロー］を押したときに表示される、保存場所、所有者、起点の初期値を設定します。

■保存場所

メニュー画面の［ジョブフロー］を押したときに、本体とプールサーバーのどちらのジョブフローを表示するかを設定します。

■所有者

機械管理者と機械管理者以外のどちらのジョブフローを表示するかを設定します。

補足
- 保存場所がプールサーバーの場合、または、認証有りの場合、共有と個人のどちらのジョブフローを表示するかを設定します。

■**起点**

スキャン、外部アプリケーション、コピーのどのジョブフローを表示するかを設定します。

カラー文書ファクス転送時の解像度

ジョブフローを使用して、カラー文書をファクス送信するときの解像度について設定します。

■**保存時のまま（画質優先）**

ファクス転送時に、読み取り解像度のままカラー文書を白黒文書に変換します。高解像度の文書ほど白黒への変換処理に時間がかかります。

■**200dpi に変換（速度優先）**

ファクス転送時に、カラー文書の解像度を 200dpi の白黒文書に変換します。解像度 300dpi 以上の文書は、白黒への変換時間を短縮できます。

200dpi はファクスの［高画質］に相当する送信画質です。

メディアプリント設定

［メディアプリント設定］では、［文書プリント］画面と［デジカメプリント］画面の、［用紙選択］に表示する用紙トレイを設定します。

本機に USB メモリーキット（オプション）を取り付けると、対応メディアに格納された画像データ（DCF1.0）や文書（PDF、TIFF、XPS 形式（MSXPS フォーマット、OpenXPS フォーマット）、XDW、XBD、JPEG（JFIF））ファイルを取り込んでプリントできます。これをメディアプリント機能と呼んでいます。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［メディアプリント設定］を押します。

参照

- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」（P.162）を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

文書プリント - 用紙トレイ 2 ～ 5 段目

［文書プリント］画面にある、［用紙選択］の 2 ～ 5 段めに表示する用紙トレイを選択します。

デジカメプリント - 用紙トレイ 1 ～ 5 段目

［デジカメプリント］画面にある、［用紙選択］の 1 ～ 5 段めに表示する用紙トレイを選択します。

保存文書設定

［保存文書設定］では、親展ボックスに保存されている文書や、本機に保存されているプリント文書を自動的に削除するかどうかを設定します。保存期間、削除する日（経過日数）、削除する時刻を設定できます。

また、保存文書の種類ごとに削除する / しないの設定ができます。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［保存文書設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」（P.162）を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

ボックス文書の保存期間

親展ボックス内の文書の保存期間を設定します。自動的に削除する場合は、削除する日（経過日数）と時刻を設定できます。この設定は、すべての親展ボックスに共通の設定となります。

■設定しない

文書の保存期間を設定しないため、保存されているプリント文書が自動的に削除されることはありません。

■設定する

文書の保存期間と削除時刻を設定します。保存期間経過後、［削除時刻］で設定した時刻になると、文書は自動的に削除されます。

■保存期間

文書の保存期間を、1 ～ 14 日の範囲で指定します。

■削除時刻

保存期間が過ぎた文書の削除する時刻を、1 ～ 12 時、00 ～ 59 分、午前 / 午後の範囲で指定します。

補足
- ［共通設定］>［システム時計 / タイマー設定］>［時刻］で、［24 時間制表示］が選択されている場合は、0 ～ 23 時、00 ～ 59 分の範囲で指定します。

参照
- 自動削除を設定する場合は、文書を削除する動作を有効に設定してください。詳しくは、「保存期間経過文書の削除」（P.334）を参照してください。

蓄積プリント文書の保存設定

蓄積されているプリント文書（認証プリント、プライベートプリント、セキュリティープリント、サンプルプリントの文書）を自動的に削除するかどうかを設定します。

■保存期間の設定

蓄積プリント文書の保存期間を設定します。

［設定しない］、［設定する］、［ボックス文書の設定に従う］から選択します。［設定する］を選択すると、［保存期間］を 1 ～ 23 時間の範囲で 1 時間単位で設定します。保存期間が経過すると、文書は自動的に削除されます。［ボックス文書の設定に従う］を選択すると、［ボックス文書の保存期間］の設定に従って、削除されます。

■ **電源切 / 入時に削除**

電源を切って、入れ直したときに、蓄積プリント文書を削除するかどうかを設定します。［する］に設定すると、すべての蓄積プリント文書を削除します。［しない］に設定すると、保存期間を経過した蓄積プリント文書だけを削除します。

注記

- ［する］を設定した場合、［保存期間の設定］の設定によらずに、すべての蓄積プリント文書が削除されます。

プリント文書一覧の詳細表示

蓄積プリント文書（認証プリント、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリントの文書）の一覧に、カラーモードや片面 / 両面などの詳細情報を表示するかどうかを設定します。［する］に設定すると、一覧に詳細情報が表示されます。［しない］に設定すると詳細情報が表示されないため、1 ページに表示する文書数を増やすことができます。

プレビューイメージの作成

蓄積プリント文書（認証プリント、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、プライベートプリントの文書）の一覧を表示するときに、プレビューイメージを作成するかどうかを設定します。［する］に設定すると、文書を蓄積するときに蓄積プリント文書のプレビューイメージが作成されます。［しない］に設定するとプレビューイメージは作成されず蓄積プリント文書の一覧が表示されます。プレビューイメージを作成するかしないかはプリンタードライバーから設定することができます。プリンタードライバーと本体とで異なる設定が行われた場合は、プリンタードライバーの設定が優先されます。

プレビューイメージの作成時間

蓄積プリント文書のプレビューイメージの作成時間を制限するかどうかを設定します。［制限しない］を選択すると蓄積プリント文書のプレビューイメージを時間制限なく作成します。［制限する］を選択すると、制限時間内で作成されたプレビューイメージのみ表示されます。制限時間を超えた場合、プレビューイメージは作成されません。制限時間は 10 ～ 900 秒の範囲で 1 秒単位で指定します。

プリント文書一覧の初期表示

蓄積プリント文書（認証プリント、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、プライベートプリントの文書）の一覧を表示するときの初期表示をリスト表示にするか、サムネール表示にするかを設定します。［リスト表示］を選択すると、蓄積プリント文書の一覧が初期表示されます。［サムネール表示］を選択すると、蓄積プリント文書のプレビューイメージが初期表示されます。

プリント時の確認画面表示

蓄積プリント文書をプリントするときに、プリント後の文書削除に関する確認画面を表示するかどうかを設定します。［する］に設定すると、確認画面が表示されます。部数変更ができる文書の場合は、部数を変更できます。［しない］に設定すると、プリント後に文書は自動的に削除されます。

蓄積時の暗証番号最小桁数

セキュリティープリント文書や認証プリント文書を蓄積したり、プリントしたりするときに必要な暗証番号の最小桁数を、0 ～ 12 桁の範囲で設定します。

ここで設定した桁数より多い桁数で、暗証番号を設定する必要があります。

補足

- 最小桁数を指定しない場合や、暗証番号を入力しない場合は、［0］に設定します。

全文書選択時のプリント順

保存文書の全文書を選択した場合のプリントの順番を設定できます。

■日時の古い順

日時の古い順番にプリントします。

■日時の新しい順

日時の新しい順番にプリントします。

■文書名順

文書名の順番にプリントします。

■文書名逆順

文書名の逆の順番にプリントします。

外部アクセス設定

［外部アクセス設定］では、外部アクセスの接続先を設定します。

外部アクセスとは、本機と連携した外部サービスを操作パネルに直接表示したり、本機でスキャンした文書を外部サービスにアップロードしたり、外部のサーバーに保存されている文書を選択して、直接プリントしたりする機能です。コンピューターを経由せずに、ファイルのアップロードやプリントができます。

補足

- この機能を利用するには、外部アクセスキット（オプション）や弊社製の外部連携アプリケーション（別売）が必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 本機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［外部アクセス設定］を押します。

参照

- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」（P.162）を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

サーバー証明書の検証を行う場合の設定

インターネットゾーンなどにある外部サーバー（ASP）への接続において、Windows の Web ブラウザーと同様に、フィッシング抑止のためにサーバー証明書の検証を行う場合は、次の設定が必要です。

準備

接続したい外部サーバーのサーバー証明書を発行している、ルート証明機関のルート証明書（CA 証明書）を、CentreWare Internet Services で接続するコンピューターにダウンロードしておいてください。

CA 証明書ファイルの対応形式は次のとおりです。

- DER encoded binary X.509 形式（.CER）
- Base64 encoded X.509 形式（.CER）
- Cryptographic Message Syntax Standard - PKCS #7 証明書形式（.P7B）

設定手順

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」（P.384）を参照してください。

2 自己証明書の生成を行い、設定します。
取得済みのデバイス証明書を使用する場合は、手順 3 に進みます。

1）［プロパティ］タブをクリックします。

2）［セキュリティー］をクリックします。

3）［証明書の設定］をクリックします。

4）［証明書の作成］ボタンをクリックします。

5) [自己証明書] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

6) [公開鍵のサイズ] と [発行者] を設定し、[新しい設定を適用] ボタンをクリックします。
しばらくすると「設定が更新されました。」が表示されます。

3 SSL/TLS の通信を有効にします。

1) [SSL/TLS 設定] をクリックします。

2) [HTTP - SSL/TLS 通信] の [有効] にチェックを付けます。

3) [相手サーバーの証明書の検証] の [有効] にチェックを付けます。

4) [新しい設定を適用] ボタンをクリックします。

5) Web ブラウザーの右フレームが、本機を再起動する表示に変わったら、[再起動] をクリックします。本機が再起動し、設定した値が反映されます。

4 外部サーバー用のルート証明書を本機にインポートします。

1) Web ブラウザーで、CentreWare Internet Services の再読み込みを行います。

補足
- Web ブラウザーのアドレス欄には、「http」ではなく「https」から始まるアドレスが表示されます。

2) [プロパティ] タブをクリックします。

3) [セキュリティー] をクリックします。

4) [証明書の設定] をクリックします。

5) [証明書のインポート] をクリックします。

6) インポートするファイル名を直接入力するか、[参照] ボタンをクリックして表示される、ダイアログボックスでインポートするファイルを選択します。

7) [インポート] ボタンをクリックします。
しばらくすると「設定が更新されました。」が表示されます。

8) Web ブラウザーで、CentreWare Internet Services の再読み込みを行います。

5 証明書がインポートされたことを確認します。
確認しない場合は、手順 6 に進みます。

1) [証明書管理] をクリックします。

2) [カテゴリー] の [信頼されたルート証明機関] を選択し、[一覧の表示] を押します。

3) 確認したい証明書のチェックボックスにチェックを付けます。

4) [証明書の表示] ボタンを押します。

6 外部サーバーの接続情報を設定します。

1) [プロパティ] タブをクリックします。

2) [一般設定] をクリックします。

3) [外部アクセス設定] をクリックします。

4) 外部サーバーの接続情報を設定します。

5)［編集］をクリックします。
ここでも、外部サーバーの接続情報を設定します。

注記
- ［URL］を設定する場合は、「http」ではなく「https」から始まるアドレスを設定してください。

6)［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。
しばらくすると「設定が更新されました。」が表示されます。

接続先の登録

外部アクセスの接続先を登録します。

補足
- 登録したいサーバーが複数ある場合は、登録先をメニュー画面に表示されるボタンに割り付けると便利です。メニュー画面のボタンの設定変更については、「初期表示画面を変更する」(P.35) を参照ください。

1 ［接続先の登録］を押します。

2 登録するサーバーの番号を選択し、［確認 / 変更］を押します。

3 新規にアクセス先を登録する場合は、接続先の URL を入力します。

■URL

接続先の URL を半角英数字で 256 文字以内で入力して、［決 定］を押します。
URL は、プロトコルの種類から入力します。

使用される外部アクセス用 Web ブラウザーは、「Web ブラウザー設定」(P.328) の［外部アクセスバージョンの選択］で設定したバージョンのブラウザーで接続します。

例)

- http://www.example.com
- http://192.0.2.1（IPv4 の場合）
- http://［2001:DB8::1234］（IPv6 の場合）
- https://www.example.com
- https://192.0.2.1（IPv4 の場合）
- https://［2001:DB8::1234］（IPv6 の場合）

使用する外部アクセス用 Web ブラウザーのバージョンを指定して接続する場合は、プロトコルの種類のあとにバージョンを入力します。［外部アクセスバージョンの選択］の設定より優先します。

例)

- V2 を指定する場合
  - http-v2://www.example.com
  - http-v2://192.0.2.1（IPv4 の場合）
  - http-v2://［2001:DB8;;1234］（IPv6 の場合）
- V4 で指定する場合
  - http-v4://www.example.com
  - http-v4://192.0.2.1（IPv4 の場合）

- http-v4://[2001:DB8;;1234]（IPv6 の場合）

• V5 で指定する場合
- http-v5://www.example.com
- http-v5://192.0.2.1（IPv4 の場合）
- http-v5://[2001:DB8;;1234]（IPv6 の場合）

補足
- V3 で指定した場合は、V4 で接続されます。
- 暗号化機能つきのプロトコルの場合は、「https:」から入力します。

4 そのほかの項目を必要に応じて設定します。

■接続先名

接続先に付ける名前を全角 16 文字（半角 32 文字）以内で設定します。

■説明

接続先の説明を全角 64 文字（半角 128 文字）以内で設定します。

■接続用ユーザー ID の使用

◆使用しない

- ［認証方式の設定］が［外部認証］の場合
本機で認証されているユーザー情報を使用して、外部サービスにアクセスします。
- ［認証方式の設定］が［認証しない]、[本体認証］の場合
外部サービスにアクセスするためのユーザー ID とパスワードの入力が必要です。

◆使用する

外部サービスにアクセスするためのユーザー情報（[接続用ユーザー ID]、[接続用ユーザー ID のパスワード]）を登録し、外部サービスにアクセスするときの認証情報として使用します。

■接続用ユーザー ID

外部サービスにアクセスするためのユーザー ID を半角英数字で 128 文字以内で設定します。

注記
- 外部サービスの種類によっては、［接続用ユーザー ID］を設定しても、設定が無効になる場合があります。使用する外部サービスの設定を確認してください。

補足
- [接続用ユーザー ID］を設定するときは、［接続用ユーザー ID のパスワード］も一緒に設定してください。両方が設定された場合に、自動認証されます。
- 接続する外部サービスの認証方法が、ユーザー ID とパスワードを入力する方法以外の場合、ここでの設定は無効になります。

■接続用ユーザー ID のパスワード

接続用ユーザー ID に対するパスワードを、半角英数字 128 文字以内で設定します。

■本体 / 認証情報の通知

本体を特定するための情報や、利用するユーザーの認証情報を、外部サービスに接続するたびに接続先に通知するかどうかを設定します。

補足
- これらの情報は、接続する外部サービスによって使用するかどうかが判断されるため、通常、操作パネルで設定することはありません。

■ユーザー権限情報の通知

利用するユーザーの権限情報を、外部サービスに接続するたびに接続先に通知するかどうかを設定します。

■すべての登録内容を削除

設定されている登録内容をすべて削除します。

■機能コード

ApeosPort との連携サービス使用時に必要に応じて設定します。

機能コードは 0 から 65535 の範囲で設定します。

その他の設定

認証情報送信時の確認画面

本機でユーザー認証をしたときのユーザー情報（認証したユーザー ID、パスワード、メールアドレス、サービス制限など）を外部アクセスの接続先サーバーに送信するときに、確認画面を表示するかどうかを設定します。

補足
- ［表示しない］に設定しても、認証情報に不備があるときには確認画面が表示されます。

Web ブラウザー設定

［Web ブラウザー設定］では、外部アクセス時の Web ブラウザーに関する設定をします。外部アクセスとは、本機と連携した外部サービスを操作パネルに直接表示したり、本機でスキャンした文書を外部サービスにアップロードしたり、外部のサーバーに保存されている文書を選択して、直接プリントしたりする機能です。コンピューターを経由せずに、ファイルのアップロードやプリントができます。

注記
- ［外部アクセスバージョンの選択］は、ApeosPort との連携サービス使用時に必要に応じて設定します。

補足
- この機能を利用するには、弊社製の外部連携アプリケーション（別売）が必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［Web ブラウザー設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」（P.162）を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

外部アクセスバージョンの選択

外部アクセスバージョンを［V2］、［V4］、［V5］から選択します。

注記
- ［V2］を選択した場合、［終了時の永続 Cookie 削除］、［終了時のキャッシュ削除］、［キャッシュの使用］、［Cookie の使用］、［TLS1.0 の使用］、［SSL 証明書検証失敗時の動作］、［ファイルプリント機能の使用］の設定は、Web ブラウザーの動作には反映されません。

補足
- Web ブラウザーバージョンの V3 を使用する場合は、［V4］を選択します。

終了時の永続 Cookie 削除

外部アクセス終了時に永続（期限付き）Cookie を削除するかどうかを設定します。

終了時のキャッシュ削除

外部アクセス終了時にキャッシュを削除するかどうかを設定します。

キャッシュの使用

キャッシュを利用するかどうかを設定します。

Cookie の使用

Cookie を使用するかどうかを設定します。

［しない］、［する］、または［保存を確認する］を設定します。

［保存を確認する］に設定すると、［する］を設定したときと同じ動作をします。

TLS1.0 の使用

TLS1.0 を使用するかどうかを設定します。

SSL 証明書検証失敗時の動作

SSL サーバー証明書の検証を失敗したときに、サーバーへのアクセスを中止するか、アクセス確認画面を表示するかを設定します。

ファイルプリント機能の使用

ファイルプリント機能を使用するかどうを設定します。ファイルプリント機能とは、外部 Web サーバーから取得した印刷可能なファイルを直接プリントできる機能です。

機能コード

ApeosPort との連携サービス使用時に必要に応じて設定します。

機能コードは 0 から 65535 の範囲で設定します。

BMLinkS 設定

［BMLinkS 設定］では、BMLinkS に関する仕様を設定します。

参照

- BMLinkS の機能の概要は、「BMLinkS 機能の概要」(P.436) を参照してください。
- BMLinkS の機能を使用するためには、BMLinkS のポートを起動する必要があります。詳しくは、「BMLinkS 機能の設定」(P.435) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［BMLinkS 設定］を押します。

補足

- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.162) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

表示するファイルの種類

［BMLinkS メニュー］の［保存文書印刷］で、［ファイルを選択］画面に表示するファイルの種類を指定できます。

■すべて

拡張子が「tif」、「tiff」、「bmd」、「pdf」のファイルを表示します。

■TIFF（*.tif/*.tiff/*.bmd）

拡張子が「tif」、「tiff」、「bmd」の TIFF ファイルだけを表示します。

検索パケット有効期限（TTL）

スキャンしたデータの保存先や、プリントするデータの保存先を検索するときの、パケット有効期限を、1 ～ 10 の範囲で指定します。

検索時間の上限

スキャンしたデータの保存先や、プリントするデータの保存先を検索するときにかかる時間の上限を、1 ～ 255 秒の範囲で 1 秒単位で指定します。

ここで設定した時間以内に保存先が検索できないと、タイムアウトエラーとなり、データは破棄されます。

リモートアシスタンス設定

［リモートアシスタンス設定］では、リモートアシスタンスに関する仕様を設定します。

サービス起動待ち時間の上限

サービス起動待ち時間の上限を、60 ～ 600 秒の範囲で 1 秒単位で指定します。

登録 / 変更

［登録 / 変更］では、親展ボックス、ジョブフロー、宛先表などの登録や変更ができます。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［登録 / 変更］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.162) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

ボックス登録

親展ボックスとは、本機から読み込んだスキャン文書や、ファクス文書、コンピューターから指示したプリント文書を本機内に保存することができる機能です。

また、保存するだけではなく、親展ボックスに格納された文書をメール送信したり、ネットワーク上のコンピューターから取り出すことができます。

個人ボックスや共有ボックスを登録し使い分けることもできます。

そのための親展ボックスを登録します。親展ボックスは 200 個まで登録できます。

参照
- 親展ボックスの登録状況は、「親展ボックス登録リスト」で確認できます。詳しくは、「親展ボックス登録リスト」(P.144) を参照してください。

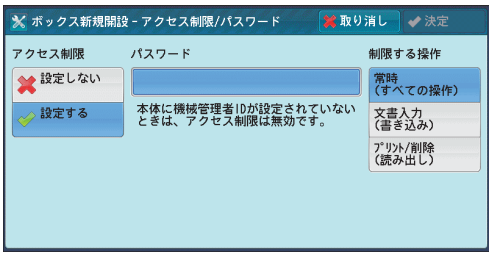
1 ［ボックス登録］を押します。

2 登録する親展ボックスを選択します。



補足
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 〈数字〉ボタンで 3 桁のボックス番号を入力すると、入力した親展ボックスが画面の一番上に表示されます。

3 新規にボックスを登録するときは、[アクセス制限 / パスワード]画面が表示されます。項目を設定して［決定］を押します。



補足

- 登録済みのボックスを選択すると、［登録 / 変更］画面が表示されます。

参照

- アクセス制限については、「アクセス制限 / パスワード」(P.333) を参照してください。

4 項目を選択して、設定します。

5 設定が終わったら、［閉じる］を押します。

ボックス名称

親展ボックスの名前を設定します。

ディスプレイに表示されるキーボードと〈数字〉ボタンを使って、全角 10 文字（半角 20 文字）まで入力できます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.50) を参照してください。

アクセス制限 / パスワード

特定のユーザーだけに操作を許可するために、アクセスの制限を設定できます。

■アクセス制限

アクセス制限を設定するかどうかを設定します。

■パスワード

アクセス制限を設定する場合は、パスワードを設定します。0 ～ 9 の数字で、20 桁まで入力できます。

■制限する操作

制限する操作を設定します。

◆常時（すべての操作）

親展ボックスに文書を格納するとき、およびプリントや削除などの操作のためボックス内の文書一覧を表示させるときに、パスワードの入力が必要となります。

◆文書入力（書き込み）

親展ボックスに文書を格納するときのみ、パスワードの入力が必要となります。

◆プリント / 削除（読み出し）

プリントや削除などの操作のためボックス内の文書一覧を表示させるときのみ、パスワードの入力が必要となります。

文書取り出し後の削除

親展ボックスに保存されている文書をプリントしたときや、外部からの取り出し操作後に、文書を削除するかどうかを設定します。

■削除しない

文書を保存しておきます。

■削除する

文書をプリントしたり、文書を取り出したりしたあと、自動的に文書を削除します。

補足

- ［削除する］に設定した場合でも、CentreWare Internet Services から取り出したときは、文書は削除されません。

保存期間経過文書の削除

選択している親展ボックス内に蓄積されている文書を、保存期間経過後の指定された時刻に削除する動作を有効にするかどうかを設定します。

■無効

指定されている保存期間を経過しても文書は削除されません。

■有効

保存期間経過後の指定された時刻に文書を削除します。

ただし、保存期間が指定されていない場合は、［有効］を設定しても文書は削除されません。文書の保存期間を指定してください。

補足

- 保存期間が過ぎて、削除時刻に本機の電源が切れていた場合は、電源を入れたあと、削除時刻になった時点で文書を削除します。

参照

- 保存期間の設定方法は、「ボックス文書の保存期間」（P.320）を参照してください。

ジョブフローの関連付け

ジョブフローを親展ボックスに関連づけることができます。一連の作業内容を登録したジョブフローを関連づけることにより、親展ボックス内に保存されている文書の処理方法を設定できます。

参照

- ジョブフローの登録方法は、「ジョブフロー登録」（P.335）を参照してください。

■関連付け解除

親展ボックスに関連づけられているジョブフローを解除します。

■関連付けの設定 / 変更

ジョブフローを関連づけるための画面が表示されます。既存のジョブフローから選択するか、新規のジョブフローを作成できます。

参照

- 詳しくは、「ジョブフロー登録」（P.335）を参照してください。

■自動実行

［自動実行］にチェックを付けると、親展ボックスに文書が保存されると同時に、自動的にジョブフローに登録されている作業内容で処理が開始されます。

［ボックス削除］ボタンを選択した場合

選択されている親展ボックスを削除します。

親展ボックス内に文書がある場合は、すべての文書が削除されます。また、［認証方式の設定］で［認証しない］に設定されている場合は、一般ユーザーが［ボックス登録］画面、または［ボックス操作］画面で作成したジョブフローも削除されます。

注記

- 削除した文書とジョブフローは、元に戻せません。

ジョブメモリー登録

ジョブメモリーとは、よく使う機能の設定を登録したり、一連の操作ステップを記録する機能です。

参照

- 詳しくは、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ジョブメモリー」>「ジョブメモリーの登録 / 削除 / 変更」を参照してください。

ジョブフロー登録

ジョブフローとは、登録された一連の作業内容を実行する機能です。ジョブフローは 1000 まで登録できます。

ジョブフローの実行は、親展ボックスに蓄積された文書が対象になります。ジョブフローを実行するには、次の方法があります。

- 親展ボックスに文書が蓄積された時点で自動で実行する方法
- 親展ボックスに保存されている文書を選択して、関連づけられているジョブフローを手動で実行する方法
- 親展ボックスに保存されている文書を選択して、ジョブフローを選択して手動で実行する方法

ジョブフローを自動実行するには、親展ボックスにジョブフローを関連づける必要があります。自動実行を設定した親展ボックスに文書が蓄積されると、自動的にジョブフローに従って処理されます。

補足

- ［ジョブフロー登録］で作成したジョブフローを親展ボックスに関連づける場合は、［ボックス操作］または［ボックス登録］から行います。

  ボックス操作については『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ボックス操作」を、［ボックス登録］については「ボックス登録」（P.332）を参照してください。

登録できる機能は、次のとおりです。

- 転送先指定（FTP、SMB、メール、ファクス送信、IP ファクス、インターネットファクス送信）
- プリント

親展ボックスへの蓄積方法によって、機能の組み合わせに制限があります。

		出力						
		プリント	ファクス送信	IPファクス(SIP)	インターネットファクス送信 *1	メール送信	FTP送信	SMB送信
入力	ファクス親展ポーリング予約	○	○	○	○	○	○	○
	スキャナー（ボックス保存）	○	○	○	○	○	○	○
	ファクス親展受信	○ *2	○	○	○	○	○	○
	インターネットファクス親展受信	○	○	○	△	△	○	○
	プリント蓄積	×	×	×	×	×	×	×

○ :実行可能
× :実行不可
△ :機械管理者モードの設定によって、実行可能

*1 :インターネットファクス転送でプロファイルを TIFF-S に設定した場合、A4 原稿はよこ置きにセットしてください。たて置きにセットすると、インターネットファクス画像が縮小されます。
*2 :親展ボックスの設定を、プリント完了後、文書を削除するよう設定しておいても、親展受信文書をプリント中にファクスの USB ケーブルを抜いた場合は、プリント完了後、親展ボックス内の文書は削除されません。

ジョブフローの利用制限について

ジョブフローには、個人で使用するもの、共有して使用するもの、また、特定の親展ボックスに関連づけて使用するものなどがあり、認証機能によって利用できるジョブフローに制限があります。

参照
- 利用できるジョブフロー、および利用制限は、「ジョブフローと親展ボックスの認証」(P.498) を参照してください。

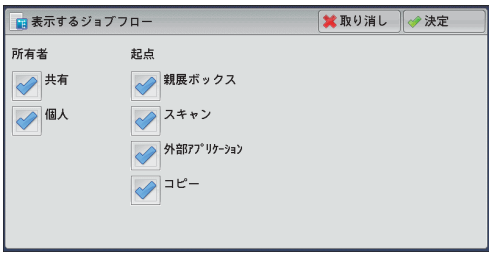
1 ［ジョブフロー登録］を押します。

2 目的に応じて項目を選択します。



■表示するジョブフロー

表示するジョブフローの絞り込みができます。絞り込む条件を選択して、［決定］を押します。



補足

- ユーザー認証機能の設定によって、画面の表示が異なります。

- 所有者：ジョブフローの所有者の種類で、表示するジョブフローを絞り込みます。
- 起点（ApeosPort シリーズのみ）：スキャンが起点のジョブフローか、親展ボックスが起点のジョブフローかなど、ジョブフローの起点で、表示するジョブフローを絞り込みます。
- 保存場所（ApeosPort シリーズのみ）：本体に保存されているジョブフローか、プールサーバーに保存されているジョブフローかで、表示するジョブフローを絞り込みます。

■新規作成

［ジョブフローの新規作成］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「ジョブフローの新規作成」（P.338）を参照してください。

■内容確認（変更 / 削除）

［内容確認］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「内容確認（変更 / 削除）」（P.345）を参照してください。

■名称で検索

ジョブフローの名称を対象に、入力した文字と部分的に一致するジョブフローを検索します。検索文字は半角 128 文字（全角 64 文字）まで入力できます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」（P.50）を参照してください。

■キーワードで検索

ジョブフロー作成時に登録されたキーワードを対象に、キーワードと完全に一致するジョブフローを検索します。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」（P.50）を参照してください。

■ キーワードを選択して検索

［キーワードを選択して検索］画面が表示されます。仕様設定で登録済みのキーワードを選択して、ジョブフローを検索できます。ジョブフロー作成時に登録されたキーワードを対象に、キーワードと完全に一致するジョブフローを検索します。

参照
- キーワードの登録は、「ジョブフロー検索キーワード登録」(P.345) を参照してください。

プールサーバーへのログインについて（ApeosPort シリーズのみ）

プールサーバーとは、ジョブフローを管理、保存する外部のサーバーです。

利用の設定をすると、プールサーバーに保存されているジョブフローの一覧取得、ジョブフローの取得ができます。

プールサーバーを利用するには、［ジョブフロー設定］で［プールサーバーの使用］を［許可］に設定して、プールサーバー側で本機を登録する必要があります。

また、［ジョブフロー設定］の［プールサーバーのログイン方法］を［自動的にログイン］に設定している場合は、自動的にプールサーバーにログインして、プールサーバーに保存されているジョブフローが表示されます。

［自動的にログイン］に設定していない場合で、プールサーバーに保存されているジョブフローを表示させるときは、ログイン画面が表示されます。

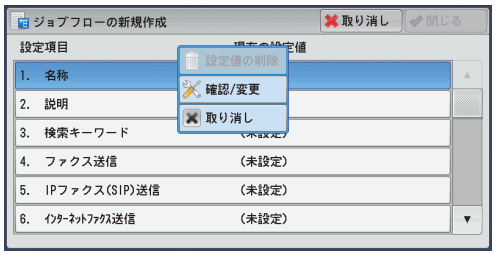
補足
- ［ログイン名とパスワード記憶］チェックボックスは、本体認証を利用している場合に表示されます。チェックマークを付けると、同じユーザーで次回ログインしたときに、今回入力したログイン名とパスワードが入力された状態で表示されます。

参照
- ジョブフロー設定については、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「 ボックス操作」を参照してください。

ジョブフローの新規作成

ジョブフローを新規に作成します。

1 項目を選択して［確認 / 変更］を押します。



■ 設定値の削除

選択した項目の設定値をすべて削除します。

■ 確認 / 変更

選択した項目の設定値の確認と変更ができます。

■ 取り消し

選択した項目を解除します。

名称

ジョブフローに付ける名前を全角 64 文字（半角 128 文字）以内で設定します。

説明

ジョブフローの説明を全角 128 文字以内で設定します。

検索キーワード

ジョブフローの検索キーワードを全角 6 文字（半角 12 文字）以内で設定します。

ジョブフロー検索キーワードで登録されているキーワードを使用することもできます。

参照
- ジョブフロー検索キーワードについては、「ジョブフロー検索キーワード登録」(P.345) を参照してください。

ファクス送信

ファクス送信の宛先を指定します。

短縮宛先番号指定と直接入力で、合わせて 100 か所まで指定できます。

注記
- ワイルドカード、グループ番号による指定はできません。

■短縮番号

短縮宛先番号で宛先を指定します。短縮宛先番号を〈数字〉ボタンで入力して、［決定］を押します。指定した宛先は、［ファクス送信］画面の［宛先名 / ファクス番号］に表示されます。

■新規宛先

新規に宛先を指定します。指定した宛先は、［ファクス送信］画面の［宛先名 / ファクス番号］に表示されます。

■宛先名 / ファクス番号

指定した宛先名またはファクス番号が表示されます。

■削除

選択した宛先の情報をすべて削除します。

■確認 / 変更

選択した宛先の確認と変更ができます。

参照
- 詳しくは、「宛先表登録（短縮宛先登録）」(P.346) を参照してください。

■取り消し

選択した項目を解除します。

IP ファクス（SIP）送信

■短縮番号

短縮宛先番号で宛先を指定します。短縮宛先番号を〈数字〉ボタンで入力して、［決定］を押します。指定した宛先は、［IP ファクス (SIP) 送信］画面の［宛先名 / ファクス番号］に表示されます。

■新規宛先

新規に宛先を指定します。指定した宛先は、［IP ファクス（SIP）送信］画面の［宛先名 / ファクス番号］に表示されます。

■宛先名 / ファクス番号

指定した宛先名またはファクス番号が表示されます。

■削除

選択した宛先の情報をすべて削除します。

■確認 / 変更

選択した宛先の確認と変更ができます。

参照
- 詳しくは、「宛先表登録（短縮宛先登録）」（P.346）参照してください。

■取り消し

選択した項目を解除します。

インターネットファクス送信

インターネットファクス送信の宛先を指定します。

短縮宛先番号指定と直接入力で、合わせて 100 か所まで指定できます。

注記
- ワイルドカード、グループ番号による指定はできません。

■短縮番号

短縮宛先番号で宛先を指定します。短縮宛先番号を〈数字〉ボタンで入力して、［決定］を押します。指定した宛先は、［インターネットファクス送信］画面の［宛先名 / アドレス］に表示されます。

■新規宛先

新規に宛先を指定します。指定した宛先は、［インターネットファクス送信］画面の［宛先名 / アドレス］に表示されます。

■宛先名 / アドレス

指定した宛先名またはアドレスが表示されます。

■削除

選択した宛先の情報をすべて削除します。

■確認 / 変更

選択した宛先の確認と変更ができます。

参照
- 詳しくは、「宛先表登録（短縮宛先登録）」（P.346）を参照してください。

■取り消し

選択した項目を解除します。

■コメント（メール本文）

インターネットファクス の本文を、表示されるキーボードを使って入力します。

■インターネットファクスプロファイル

インターネットファクスのプロファイル形式を選択します。

プロファイルとは、送受信するインターネットファクス対応機間で、画像の解像度や用紙サイズなどの属性情報を制限するための決めごとです。

■送信失敗時の再送信

送信に失敗したときに再送信するかどうかを設定します。［する］に設定した場合は、再送信する回数と間隔を設定します。

◆再送信回数

再送信する回数を 1 ～ 5 回の範囲で設定します。

◆再送信間隔

再送信の間隔を 30 ～ 300 秒の範囲で設定します。

■発信元記録

インターネットファクスに発信元記録を付けるか付けないかを設定します。

メール送信

メール送信の送信先を設定します。

宛先表からの選択と直接入力で、合わせて 100 か所まで設定できます。

［暗号化］が［する］に設定されている場合は、［新規送信先］を選択して宛先を指定することはできません。

■宛先表

宛先表から送信先を設定できます。設定した送信先は、［メール送信］画面の［宛先名 / アドレス］に表示されます。

■新規送信先

新規に送信先を設定します。設定した送信先は、［メール送信］画面の［宛先名 / アドレス］に表示されます。

■宛先名 / アドレス

指定した宛先名またはアドレスが表示されます。

■件名

メールの件名を、表示されるキーボードを使って入力します。

■削除

選択されている送信先の情報をすべて削除します。

■確認 / 変更

［送信先の確認 / 変更］画面が表示されます。選択した送信先の確認と変更ができます。

参照

- ［送信先の確認 / 変更］画面については、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「スキャン」を参照してください。

■出力ファイル形式

出力ファイル形式を設定します。

参照
- 詳しくは、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「スキャン」を参照してください。

■送信失敗時の再送信

転送に失敗したときに、再送信するかどうかを設定します。［する］に設定した場合は、再送信する回数と間隔を設定します。

◆再送信回数

再送信する回数を 1 ～ 5 回の範囲で設定します。

◆再送信間隔

再送信の間隔を 30 ～ 300 秒の範囲で設定します。

■暗号化

メール送信を暗号化するかどうかを設定します。

補足
- 暗号化するには、S/MIME の設定が必要です。
- メール送信を暗号化するには、証明書が必要です。
- ［暗号化］を［する］に設定する場合は、送信先を指定する前に設定してください。送信先を指定したあとでは、［暗号化］を［する］に設定できません。

■デジタル署名

デジタル署名するかどうかを設定します。

補足
- デジタル署名するには、S/MIME の設定が必要です。
- メール送信にデジタル署名するには、証明書が必要です。

FTP 転送 1 、FTP 転送 2

FTP 転送の保存先を設定します。

［FTP 転送 2 ］は、［FTP 転送 1 ］を設定した場合に表示されます。

■宛先表

宛先表にサーバーアドレスを登録している場合は、宛先表から宛先が指定できます。指定した宛先は、［FTP 転送 1 ］（［FTP 転送 2 ］）画面に表示されます。

参照
- 詳しくは、「宛先表登録（短縮宛先登録）」（P.346）を参照してください。

■出力ファイル形式

出力ファイル形式を設定します。

参照
- 詳しくは、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「スキャン」を参照してください。

■送信失敗時の再送信

転送に失敗したときに、再送信するかどうかを設定します。［する］に設定した場合は、再送信する回数と間隔を設定します。

◆再送信回数

再送信する回数を 1 ～ 5 回の範囲で設定します。

◆再送信間隔

再送信の間隔を 30 ～ 300 秒の範囲で設定します。

■宛先名、サーバー、保存場所、ユーザー名、パスワード

［宛先名］、［サーバー］、［保存場所］、［ユーザー名］、［パスワード］を選択すると、入力画面が表示されます。

入力できる文字数は、次のとおりです。

- 宛先名：全角 18 文字
- サーバー：半角 64 文字
- 保存場所：半角 128 文字
- ユーザー名：半角 97 文字
- パスワード：半角 32 文字

SMB 転送 1 、SMB 転送 2

SMB 転送の保存先を設定します。

［SMB 転送 2 ］は、［SMB 転送 1 ］を設定した場合に表示されます。

■宛先表

宛先表にサーバーアドレスを登録している場合は、宛先表から宛先が指定できます。指定した宛先は、［SMB 転送 1 ］（［SMB 転送 2 ］）画面に表示されます。

参照
- 詳しくは、「宛先表登録（短縮宛先登録）」（P.346）を参照してください。

■出力ファイル形式

出力ファイル形式を設定します。

参照
- 詳しくは、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「スキャン」を参照してください。

■送信失敗時の再送信

転送に失敗したときに、再送信するかどうかを設定します。［する］に設定した場合は、再送信する回数と間隔を設定します。

◆再送信回数

再送信する回数を 1 ～ 5 回の範囲で設定します。

◆再送信間隔

再送信の間隔を 30 ～ 300 秒の範囲で設定します。

■宛先名、サーバー、共有名、保存場所、ユーザー名、パスワード

［宛先名］、［サーバー］、［共有名］、［保存場所］、［ユーザー名］、［パスワード］を選択すると、入力画面が表示されます。

入力できる文字数は、次のとおりです。

- 宛先名：全角 18 文字
- サーバー：半角 64 文字

- 共有名：半角 64 文字、全角 32 文字
- 保存場所：半角 128 文字
- ユーザー名：ドメインユーザーは、「ユーザー名 @ ドメイン名」または「ドメイン名￥ユーザー名」の形式で 97 文字（ユーザー名は半角 32 文字、全角 16 文字、ドメイン名は半角 64 文字、全角 32 文字）。ローカルユーザーは、半角 32 文字
- パスワード：半角 32 文字

プリント

プリントの設定をします。［する］を選択した場合は、機能を設定します。

■部数

部数を 1 ～ 999 部の範囲で 1 部単位で指定します。

■用紙選択

プリントする用紙トレイを設定します。［自動］を選択すると、原稿サイズと同じ用紙サイズにプリントされます。

◆自動

適切な用紙トレイが自動的に選択されます。

◆トレイ 1 ～ 4、6（オプション）

5 種類のトレイから用紙を選択できます。

◆手差し

トレイ（手差し）の用紙にプリントされます。

■両面プリント

両面プリントを設定します。

■ホチキス / パンチ / 排出先

ホチキス、パンチ、排出先の設定をします。

◆ホチキス

ホチキスで留める位置を選択します。

◆パンチ

パンチ穴を開ける位置を選択します。

◆排出先

排出先のトレイを選択します。

メール通知

親展ボックスに文書蓄積時、およびジョブフローの実行結果をメールで通知できます。

■宛先名 / アドレス

実行結果のメールの通知先を設定します。

■本文

メールに付加されるコメントを入力します。

■通知タイミング

［文書格納時］および［ジョブフロー終了時］に通知するかどうかを設定します。

■削除

選択した宛先の情報をすべて削除します。

■確認 / 変更

選択した宛先の確認と変更ができます。

参照
- 詳しくは、「宛先表登録（短縮宛先登録）」（P.346）を参照してください。

■取り消し

選択した項目を解除します。

内容確認（変更 / 削除）

ジョブフローの内容確認と変更 / 複製 / 削除ができます。

補足
- ジョブフローの所有者の種類や認証の設定、操作するユーザーの種類などに応じて、操作に制限があります。詳しくは、「ジョブフローと親展ボックスの認証」（P.498）を参照してください。

■削除

ジョブフローを削除します。

■複製

ジョブフローの複製が作成されます。複製されたジョブフローを元に新しいジョブフローが作成できます。

参照
- 作成方法は新規作成と同じです。詳しくは、「ジョブフローの新規作成」（P.338）を参照してください。

■変更

ジョブフローの設定が変更できます。

参照
- 変更方法は新規作成と同じです。詳しくは、「ジョブフローの新規作成」（P.338）を参照してください。

ジョブフロー検索キーワード登録

ジョブフロー検索キーワードを登録します。ここで登録したキーワードは、ジョブフローを検索するときに、［キーワードを選択して検索］の選択肢として表示されます。また、ジョブフローを新規作成するときに［検索キーワード］として使用できます。

ジョブフロー検索キーワードは、全角 6 文字（半角 12 文字）まで入力できます。

宛先表登録（短縮宛先登録）

よく使用する相手の宛先を、宛先表に登録できます。登録できる宛先の種類は、ファクス、IP ファクス（SIP）、インターネットファクス、メール、サーバー（FTP/SMB）から選択できます。

宛先表に登録すると、ファクス、IP ファクス（SIP）、インターネットファクス、スキャナー（メール送信）の［宛先表］で検索できます。

宛先は、ファクス、IP ファクス（SIP）、インターネットファクス、メール、サーバー（FTP/SMB）の合計で、2000 か所まで登録できます。

注記

- 宛先表に登録できるアドレス（宛先種別）には、ファクス用、IP ファクス（SIP）用、インターネットファクス用、メール用、サーバー（FTP/SMB）保存用など複数の種類があります。宛先表に登録するときは、使用する機能に合わせて、宛先種別を正しく選択してください。誤った宛先種別で登録されたアドレスは、必要な機能から呼び出すことができませんので、ご注意ください。

補足

- 短縮宛先番号は、ワンタッチボタンに対応しています。ワンタッチボタンは、ファクスと IP ファクス（SIP）、インターネットファクス、スキャナー（メール送信）、スキャナー（ＰＣ 保存）で利用できます。短縮宛先番号とワンタッチボタンの対応については、「ワンタッチボタンの割り当て」（P.178）を参照してください。
- スキャン機能で、メールの宛先や保存先のサーバーを指定するときは、〈数字〉ボタンでの短縮宛先番号入力や、宛先グループの指定はできません。
- CentreWare Internet Services からも、宛先表の新規登録、編集、削除、一覧表示などができます。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

1 ［宛先表登録 (短縮宛先登録)］を押します。

補足

- ［宛先表登録 (短縮宛先登録)］画面を表示するには、〈認証〉ボタンを押して機械管理者の User ID を入力し、［仕様設定 / 登録］ > ［登録 / 変更］ > ［宛先表登録 (短縮宛先登録)］を押してください。メニュー画面に［登録 / 変更］が表示されている場合は［登録 / 変更］ > ［宛先表登録 (短縮宛先登録)］を押してください。機械管理者モードで、宛先表の登録が禁止されている場合は、メニュー画面の［登録 / 変更］からの宛先表登録はできません。

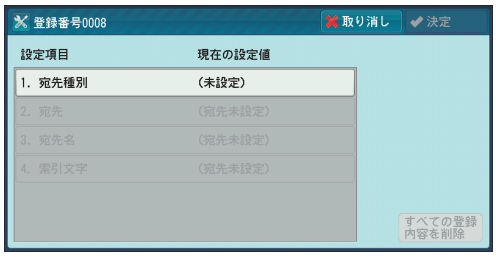
2 登録する番号を選択します。



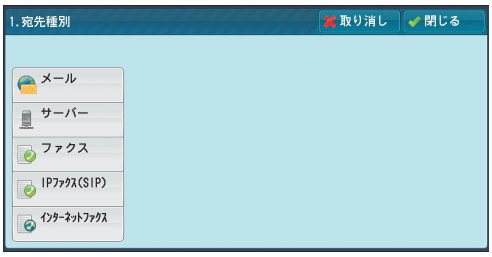
補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 〈数字〉ボタンで 4 桁の登録番号を入力すると、入力した登録番号が画面の一番上に表示されます。

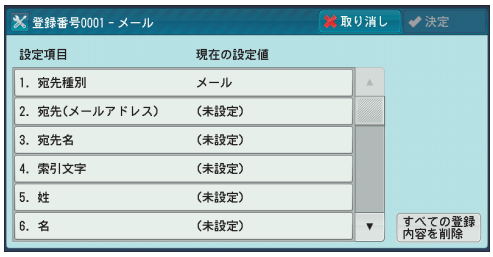
3 ［宛先種別］を選択します。



4 宛先種別を選択し、［閉じる］を押します。



5 設定する項目を選択し、設定します。



6 すべての設定が終わったら、［決定］を押します。

■宛先種別で［メール］を選択した場合

次の項目が表示されます。

- 宛先種別
- 宛先（メールアドレス）
- 宛先名
- 索引文字
- 姓
- 名
- 補助項目 1
- 補助項目 2
- 補助項目 3
- S/MIME 用証明書（ApeosPort シリーズのみ）

■宛先種別で［サーバー］を選択した場合

次の項目が表示されます。

- 宛先種別
- 宛先名
- 索引文字
- 転送プロトコル
- サーバー名 /IP アドレス
- 保存場所
- ユーザー名
- パスワード
- ポート番号
- 共有名（SMB のみ）

■宛先種別で［ファクス］を選択した場合

次の項目が表示されます。

- 宛先種別
- 宛先（ファクス番号）
- 宛先名
- 索引文字
- 内線 / 外線
- 通信モード
- 送信画質
- 送信シート
- 最大蓄積サイズ
- 時刻指定
- 親展通信
- F コード通信
- 中継同報
- 課金情報 - 昼間料金
- 課金情報 - 夜間料金
- 課金情報 - 深夜料金

■宛先種別で［IP ファクス（SIP）］を選択した場合

次の項目が表示されます。

- 宛先種別
- 宛先（ファクス番号）
- 宛先名
- 索引文字
- 通信モード
- 送信画質
- 送信シート
- 最大蓄積サイズ
- 時刻指定
- 親展通信
- F コード通信
- 中継同報
- 課金情報 - 昼間料金
- 課金情報 - 夜間料金
- 課金情報 - 深夜料金

■宛先種別で［インターネットファクス］を選択した場合

次の項目が表示されます。

- 宛先種別
- 宛先（メールアドレス）
- 宛先名
- 索引文字
- 通信モード
- 送信画質
- 最大蓄積サイズ
- インターネットファクスプロファイル
- S/MIME 用証明書（ApeosPort シリーズのみ）

宛先種別

宛先種別を変更できます。

宛先（メールアドレス）

メールアドレスを、128 文字以内で入力します。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」（P.50）を参照してください。

宛先名

宛先名を、18 文字以内で入力します。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」（P.50）を参照してください。

索引文字

宛先表のかな索引や英数索引で使用する索引文字として、ひらがな、英数のうちどれか 1 文字を登録できます。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」（P.50）を参照してください。

姓

宛先人の姓を、全角 16 文字（半角 32 文字）以内で入力します。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.50) を参照してください。

名

宛先人の名を、全角 16 文字（半角 32 文字）以内で入力します。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.50) を参照してください。

補助項目 1

［補助項目 1 の属性名］で設定した属性名が、項目名として表示されます。

補助的な項目として、任意の情報を入力できます。全角 10 文字（半角 20 文字）まで入力できます。文字列が短めの情報（電話番号や社員番号など）に適しています。

参照
- 属性名については、「補助項目 1 ～ 3 の属性名」(P.267) を参照してください。

補助項目 2

［補助項目 2 の属性名］で設定した属性名が、項目名として表示されます。

補助的な項目として、任意の情報を入力できます。全角 20 文字（半角 40 文字）まで入力できます。文字列が長めの情報（事業所や部署など）に適しています。

参照
- 属性名については、「補助項目 1 ～ 3 の属性名」(P.267) を参照してください。

補助項目 3

［補助項目 3 の属性名］で設定した属性名が、項目名として表示されます。

補助的な項目として、任意の情報を入力できます。全角 30 文字（半角 60 文字）まで入力できます。文字列が長い情報（部署名や住所など）に適しています。

参照
- 属性名については、「補助項目 1 ～ 3 の属性名」(P.267) を参照してください。

S/MIME 用証明書

S/MIME 用証明書の関連づけができます。あらかじめ、証明書を作成しておく必要があります。

証明書を関連づける場合は、［関連付けの設定 / 変更］を押して、表示された画面で証明書を選択します。関連づけを解除する場合は、［関連付け解除］を押します。

注記
- ハードディスクの初期化や証明書の削除により、宛先表の S/MIME 用証明書に関連付けられていた証明書が削除されると、S/MIME 用証明書の関連付けは無効になります。関連付けした S/MIME 用証明書を再度登録した場合には、宛先表の S/MIME 用証明書の関連付けを手動でやり直してください。

補足
- 本機に登録されている証明書が多い場合は、証明書の関連付けに時間がかかる場合があります。
- この機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

参照
- 証明書については、「暗号化と署名機能の設定」(P.463) を参照してください。

転送プロトコル

転送プロトコルを設定します。［FTP］、［SMB］から選択できます。

補足
- ［SMB］に設定した場合、ネットワーク参照機能が使用できます。

サーバー名 /IP アドレス

転送先のサーバー名または IP アドレスを入力します。

共有名（SMB のみ）

SMB フォルダーに設定されている共有名を入力します。

注記
- 共有名の先頭に「/」を使用すると、ジョブフローで正しく共有名を読み出せません。共有名の先頭には、「/」を使用しないでください。

保存場所

文書を保存するためのディレクトリーを入力します。SMB の場合は、UNC 形式で入力します。

◆ FTP 転送の場合

例）ログイン時のルートディレクトリーにある、aaa ディレクトリーの bbb ディレクトリーに保存する場合

aaa/bbb

◆ SMB 転送の場合

例）指定したボリュームの aaa ディレクトリーにある、bbb ディレクトリーに保存する場合

aaa￥bbb

ユーザー名

転送先のサーバーからユーザー名の入力を求められる場合は、ユーザー名を設定します。

［転送プロトコル］で［FTP］を選択した場合、97 文字まで入力できます。

［転送プロトコル］で［SMB］を選択した場合、次のような形式で入力できます。

◆ UPN 形式の場合

ユーザー名 @ ドメイン名（ユーザー名：32 文字まで、ドメイン名：64 文字まで）

入力例：fuji@example.com（fuji: ユーザー名、example.com：ドメイン名）

◆ NetBIOS 形式の場合

ドメイン名￥ユーザー名（ドメイン名：64 文字まで、ユーザー名：32 文字まで）

入力例：example￥fuji（example：ドメイン名、fuji: ユーザー名）

◆ ワークグループの場合

ローカルユーザー（32 文字まで）

入力例：Fuji-Taro

パスワード

転送先のサーバーからパスワードの入力を求められる場合は、パスワードを設定します。パスワードは、半角 32 文字まで入力できます。

ポート番号

転送先のポート番号を指定します。1 ～ 65535 の範囲で入力します。

宛先 (ファクス番号)

宛先を、128 桁以内で入力します。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.50) を参照してください。

内線 / 外線

指定された宛先に内線または外線で送信するように設定します。

参照
- この項目は内線が設定されている場合に表示されます。内線設定については、［仕様設定］ > ［ファクス設定］ > ［ファクス動作制御］ > ［内線設定］を参照してください。

通信モード

通信モードを設定します。［G 3 自動］、［国際通信］、［G 4 自動］から選択できます。

通信モードを設定した短縮宛先番号を宛先に指定した場合、［ファクス / インターネットファクス］画面で通信モードは変更できません。

補足
- ［G 4 自動］は、インターネットファクス宛先に対してだけ表示されます。

送信画質

送信するときの画質を設定します。

［パネル］(操作パネルで選択されている画質)、［標準］、［高画質］、［超高画質 (400dpi)］、［超高画質 (600dpi)］から選択します。

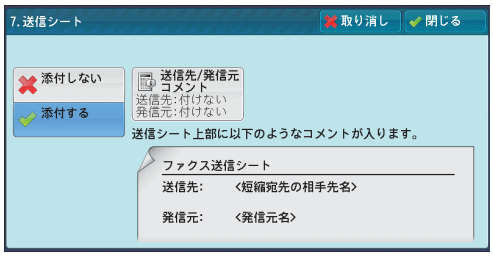
送信シート

送信シートを添付して送信するかどうかを設定します。添付する場合は、送信シートに入れる送信先と発信元のコメントを指定します。

コメントはあらかじめ登録が必要です。

参照
- コメントの登録方法は、「コメント登録」(P.356) を参照してください。

1 ［添付する］を選択します。



2 ［送信先 / 発信元コメント］を押します。

3 送信先と発信先のコメントを選択します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

4 ［閉じる］を押します。送信シートの入力例が表示されます。

5 ［閉じる］を押します。

最大蓄積サイズ

相手先の受信紙サイズや処理できるプロファイルに合わせて、最大蓄積サイズを［A 3］、［B 4］、［A 4］から選択します。

時刻指定

時刻指定送信をするかどうかを設定できます。

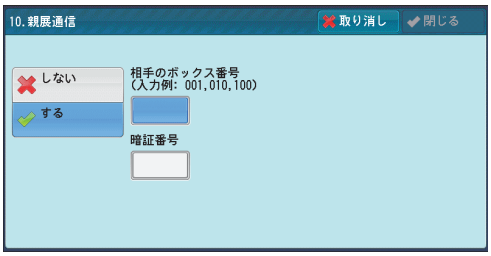
参照

- 本機のシステム時計の時刻を 24 時間表示に設定している場合は、［午前 (AM)］と［午後 (PM)］は表示されません。詳しくは、「時刻」(P.171) を参照してください。

親展通信

親展通信をするかどうかを設定します。なお、親展通信をする場合は、あらかじめ相手先の親展ボックスの番号と暗証番号が必要です。

1 ［する］を選択します。



2 〈数字〉ボタンで、［相手のボックス番号］を入力します。

3 暗証番号が設定されている場合は、〈数字〉ボタンで、［暗証番号］を入力します。

補足

- 暗証番号が設定されていない場合は、入力しないで［閉じる］を押してください。

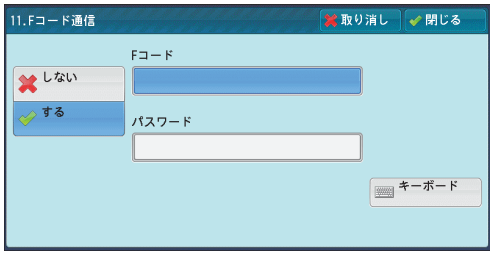
F コード通信

F コード通信をするかどうかを設定します。

F コード通信とは、ITU-T で標準化された T.30（通信の規格のことです）のサブアドレスの使い方について、情報通信ネットワーク産業協会が定めた通信手順のことです。

F コード（サブアドレス）とパスワードは、20 桁以内で、0 ～ 9、＊、＃が使用できます。

1 ［する］を選択します。



2 〈数字〉ボタンで、［F コード］を入力します。

補足
- F コードは、「0」＋親展ボックス番号になります。たとえば、親展ボックス番号が「123」の場合、F コードは、「0123」になります。

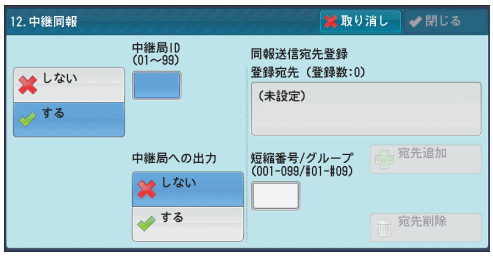
3 必要に応じて、〈数字〉ボタンで［パスワード］を入力し、［閉じる］を押します。

補足
- パスワードは 20 桁まで入力できます。

中継同報

本機が指示局となって中継同報をする場合で、登録した短縮宛先番号を中継局とするときの中継局への指示内容を設定します。［する］に設定した場合は、［中継局 ID］、［中継局への出力］、［同報送信宛先］を設定します。

1 ［する］を押します。



2 〈数字〉ボタンで、［中継局 ID］を 2 桁で入力します。

補足
- 中継局 ID とは、あらかじめ中継局に登録されている指示局（本機）の短縮宛先番号です。

3 ［短縮番号 / グループ］を選択します。

4 〈数字〉ボタンで、中継局に登録されている同報先の短縮宛先番号（001 ～ 099）または中継局に登録されている宛先グループ番号（#01 ～ #09）を入力し、［宛先追加］を押します。

補足

- 複数の同報先がある場合には、続けて短縮宛先番号または宛先グループ番号を入力し、［宛先追加］を押します。

5 中継局にも文書をプリントする場合には、［中継局への出力］の［する］を選択します。

6 ［閉じる］を押します。

課金情報 - 昼間料金、課金情報 - 夜間料金、課金情報 - 深夜料金

時間帯（昼間 / 夜間 / 深夜）別の 1 度数あたりの通信時間（単位通信時間）を設定します。

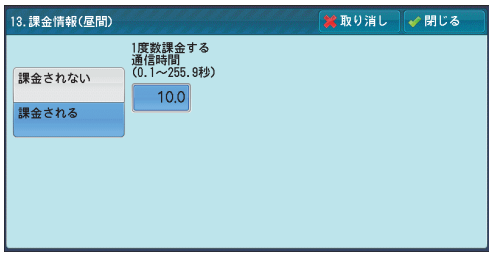
0.1 ～ 255.9 秒の範囲で、0.1 秒単位で設定できます。

参照

- この項目は、［集計管理］>［集計管理機能の運用］で、［各機能の集計］の［ファクス / インターネットファクス］を［集計する］に設定すると表示されます。詳しくは、「各機能の集計」(P.362)を参照してください。
- 登録した内容は、「課金データリスト」をプリントして確認できます。詳しくは、「課金データリスト」(P.143) を参照してください。

1 ［課金情報 - 昼間料金］、［課金情報 - 夜間料金］、［課金情報 - 深夜料金］のどれかを選択します。

2 ［課金される］を選択します。



3 〈数字〉ボタンを使って、1 度数あたりの時間を、0.1 ～ 255.9 秒の範囲で 0.1 秒単位で設定します。

4 ［閉じる］を押します。

インターネットファクスプロファイル

インターネットファクスのプロファイル形式を設定します。

プロファイルとは、送受信するインターネットファクス対応機間で、画像の解像度や用紙サイズなどの属性情報を制限するための決めごとです。

■TIFF-S

インターネットファクスの標準規格です。A4 サイズより大きいサイズの原稿の場合は、自動的に A4 サイズに縮小して送信されます。

■TIFF-F

送信画質で超高画質を指定したり、A3 サイズ、B4 サイズの原稿を送信したりする場合に選択します。

■TIFF-J

JBIG で原稿を送信する場合に選択します。

[すべての登録内容を削除] ボタンを選択した場合

選択されている宛先の登録内容を削除します。宛先の登録内容を削除する場合は、[はい (削除する)] を選択してください。

注記

- 削除した設定内容は、元に戻すことはできません。

宛先グループ登録

同報送信する宛先をまとめて宛先グループとして登録できます。1 グループに最大 20 件の短縮宛先番号を登録できます。登録できるグループ数は、50 です。

なお、宛先グループに登録する宛先は、あらかじめ短縮宛先番号に登録しておく必要があります。

補足

- [宛先種別] が [メール] または [サーバー] の短縮宛先番号を、宛先グループに登録しても、宛先の対象にはなりません。
- 宛先グループに、宛先グループは登録できません。
- ワイルドカードは短縮宛先番号の下 1 桁または 2 桁で使用できます。次の例のように、ワイルドカードを使用した登録ができます。
  - 001*：0010 ～ 0019 の 10 件の短縮登録された宛先が指定できます。
  - 02**：0200 ～ 0299 の 100 件の短縮登録された宛先が指定できます。

1 [宛先グループ登録] を押します。

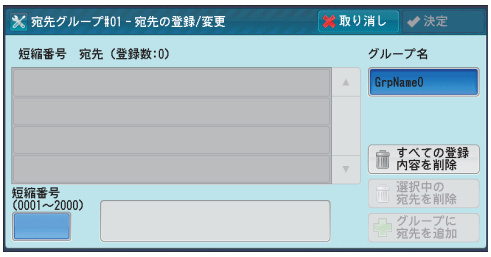
2 登録したい宛先グループ番号を選択します。



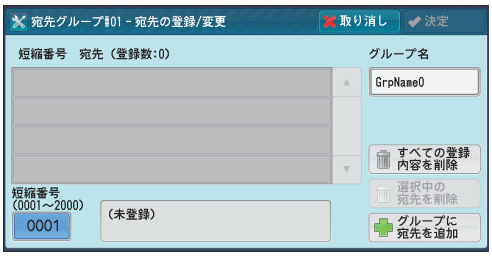
補足

- [▲] を押して前画面、[▼] を押して次画面を表示できます。

3 ［グループ名］を押し、登録したいグループ名を入力し、［決定］を押します。



4 ［短縮番号］に、登録したい短縮宛先番号（4 桁）を〈数字〉ボタンで入力し、［グループに宛先を追加］を押します。



5 手順 4 の操作を繰り返して、短縮宛先番号を登録します。

6 ［決定］を押します。

■すべての登録内容を削除

グループに登録されているすべての内容を削除します。

■選択中の宛先を削除

登録した宛先を削除します。

短縮番号を選択するか、〈数字〉ボタンで削除したい短縮宛先番号を入力し、［選択中の宛先を削除］を押します。

コメント登録

送信シートに付けるコメントを登録します。コメント数は最大 50 件で、それぞれ全角 18 文字まで入力できます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.50) を参照してください。

用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定

用紙トレイにセットする用紙のサイズや用紙種類などを設定します。

参照

- 詳しくは、「用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定」(P.183) を参照してください。

集計管理

［集計管理］では、本機を利用するユーザーの登録や集計管理機能の運用設定ができます。

参照
- 機能については、「認証と集計管理機能について」(P.487) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［集計管理］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.162) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

ユーザー登録 / 集計確認

集計管理を有効にする場合、登録したユーザーの認証を行うために、User ID、およびユーザー名を登録します。

本機を利用するユーザーごとに、使用枚数の上限を設定できます。また、登録したユーザーごとの累積ページの確認などができます。ユーザーデータは、1,000 件まで登録できます。

［認証 / セキュリティ設定］の［認証の設定］の［ユーザー登録 / 集計確認］と同じ内容です。

注記
- ユーザー登録は、「集計管理機能の運用」(P.362) で、使用する集計管理モードを設定してから、行ってください。

補足
- この項目は、「集計管理機能の運用」(P.362) で［ネット集計管理］を選択しているときは表示されません。

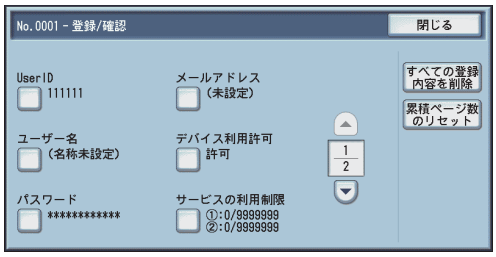
1 ［ユーザー登録 / 集計確認］を押します。

2 ユーザー登録する［No.］を選択し、［登録 / 確認］を押します。



補足
- ［No.］はユーザー管理番号です。
- ［(未登録)］の［No.］を選択した場合は、User ID を入力する画面が表示されます。User ID を入力し、［決定］を押してください。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 〈数字〉ボタンで 4 桁のユーザー登録する番号を入力すると、入力した番号が画面の一番上に表示されます。

3 任意の項目を選択して、設定します。



4 [閉じる] を押します。

User ID

本機を利用するための User ID を、半角 32 文字まで入力できます。

ユーザー名

ユーザー名を設定します。半角 32 文字（全角 16 文字）まで入力できます。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.50) を参照してください。

パスワード

パスワードを設定します。セキュリティーを強化するためにも、パスワードの設定をお勧めします。パスワードは、4 ～ 12 桁の範囲で設定できます。

補足
- パスワードは、[パスワード使用 - パネル入力時] が [する] に設定されている場合に、ユーザー認証をするときに必要になります。

参照
- ユーザー認証後に、自分のパスワードを変更する方法は、「パスワードの変更」(P.511) を参照してください。

メールアドレス

メールアドレスを 128 文字以内で入力します。ここで設定したアドレスは、[スキャナー (メール送信)] の [送信者] に設定されます。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.50) を参照してください。

デバイス利用許可

本機の利用を許可するかどうか設定できます。

■許可

本機の利用を許可します。本機に IC カードリーダーが接続されている場合、許可するかどうか認証方式ごとに設定できます。

■禁止

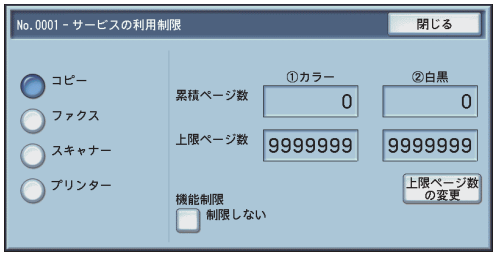
本機の利用を禁止します。

サービスの利用制限

コピー、ファクス、スキャナー、プリンターの機能ごとに、利用制限や上限ページ数を指定できます。

1 ［サービスの利用制限］を押します。

2 制限する機能を選択します。



3 ページ数の上限を指定する場合は、［上限ページ数の変更］を押し、〈数字〉ボタンで上限ページ数を入力します。

■機能制限

機能の利用制限を設定します。

◆制限しない

機能の制限はしません。

◆コピー / ファクス / スキャナー / プリンター

各機能の使用を制限できます。

■上限ページ数の変更

コピー、スキャナー、プリンターのページ数の上限を設定します。

「1 ～ 9,999,999」ページ（7 桁）まで設定できます。1 枚単位に設定します。

- コピーでは次の利用制限が設定できます。
  - ユーザーごとに、［制限しない］、［白黒のみ許可］、［カラーのみ許可］、または［コピー禁止］
  - ユーザーごとに、カラーの上限ページ数、白黒の上限ページ数（1 ～ 9,999,999）
- ファクスでは次の利用制限が設定できます。
  - ユーザーごとに、［制限しない］、または［ファクス禁止］
- スキャナーでは次の利用制限が設定できます。
  - ユーザーごとに、［制限しない］、［白黒のみ許可］、［カラーのみ許可］、または［スキャナー禁止］
  - ユーザーごとに、カラーの上限ページ数、白黒の上限ページ数（1 ～ 9,999,999）
- プリンターでは次の利用制限が設定できます。
  - ユーザーごとに、［制限しない］、［白黒のみ許可］、または［プリンター禁止］
  - ユーザーごとに、カラーの上限ページ数、白黒の上限ページ数（1 ～ 9,999,999）

ユーザーの権限

■管理の権限

ユーザーの管理の権限を設定します。

◆一般ユーザーの権限

特別な権限は与えられません。

◆機械管理の権限

次の例外を除いて、機械管理者と同じ権限が与えられます。

- 親展ボックスへの操作はできない
- ジョブフローへの操作はできない
- 機械管理者のパスワード変更はできない

◆集計管理の権限

次の権限が与えられます。

- ユーザー登録情報の登録、削除、変更（パスワードのみ変更不可）、参照（設定により操作できないことがあります）
- 集計管理の登録、削除、変更、参照
- Account ID の代替表記 /Account ID の入力表示の変更
- ユーザー別集計管理レポートのプリント

■権限の追加設定

権限グループを指定します。

カード番号

DocuLyzer（別売）を装着している場合は、カード番号を、1 ～ 9999999 の範囲で設定します。

すべての登録内容を削除

選択したユーザーに登録されているすべてのデータが削除されます。

■はい（削除する）

登録したユーザーデータを削除します。削除すると、元に戻すことはできません。

注記

- ユーザーがオーナーになっているジョブフロー、親展ボックス、および親展ボックス内の文書も削除されます。ユーザーがオーナーになっている対象が多い場合（大量の文書が親展ボックス内に残っている場合など）は、削除にかなり時間がかかります。

■いいえ（削除しない）

ユーザーデータの削除をキャンセルします。

累積ページ数のリセット

選択したユーザーの、現在までの累積ページ数をリセットして「0」に戻します。

■はい（リセットする）

累積ページ数をリセットします。リセットすると、元に戻すことはできません。

■いいえ（リセットしない）

累積ページ数のリセットをキャンセルします。

登録内容の削除 / 集計リセット

全登録ユーザーに対して、一括で登録内容を削除したり、集計データをリセットしたりできます。削除 / リセットする前に、レポートを出力して、削除 / リセットされる内容を事前に確認することもできます。

［認証 / セキュリティ設定］の［認証の設定］の［登録内容の削除 / 集計リセット］と同じ内容です。

補足

- この項目は、「集計管理機能の運用」（P.362）で［ネット集計管理］を選択しているときは表示されません。

全ユーザーの登録内容

ユーザーごとに登録している設定内容をすべて削除します。また、上限ページ数、累積ページ数、プリンター集計データなどのデータもすべて削除します。

注記

- ユーザーがオーナーになっているジョブフロー、親展ボックス、および親展ボックス内の文書も削除されます。ユーザーがオーナーになっている対象が多い場合（大量の文書が親展ボックス内に残っている場合など）は、削除にかなり時間がかかります。

全ユーザーの機能制限

全ユーザーの機能制限をすべて削除します。

全ユーザーの上限ページ数

全ユーザーの上限ページ数を初期値（9,999,999）にリセットします。

全ユーザーの集計管理データ

機械管理者を含む、全ユーザーのすべての集計管理データをリセットします。ページ数も、「0」にリセットされます。

全ユーザーの権限グループ

全ユーザーのすべての権限グループをリセットします。

プリンター集計データ

すべてのプリンター集計データをリセットし、自動登録されたジョブオーナー名を削除します。プリントした集計枚数も、「0」にリセットされます。

補足

- ［プリンター集計データ］は、プリンターを集計しない設定の場合に表示されます。

全機能の集計管理レポート

全機能の集計データのレポートをプリントできます。削除 / リセットする内容を、事前に確認する場合に使用します。

プリンター集計レポート

プリントの集計データのレポートをプリントできます。削除 / リセットする内容を、事前に確認する場合に使用します。

補足

- ［プリンター集計レポート］は、プリンターを集計しない設定の場合に表示されます。

削除 / リセット

選択した項目のデータを削除 / リセットします。

機械管理者のコピー集計確認

機械管理者モードから使用したコピーの累積ページ数を、画面で確認 / リセットできます。

累積ページ数は、「9,999,999」枚までカウントできます。

補足

- この項目は、「集計管理機能の運用」(P.362) で［ネット集計管理］を選択しているときは表示されません。
- DocuLyzer（別売）接続時は、機械管理者で認証してもカードを挿入しないとコピーできません。そのため、機械管理者の累積ページ数としてはカウントされず、挿入したカード番号にカウントされます。詳しくは、DocuLyzer の取扱説明書を参照してください。

集計管理機能の運用

集計管理機能を使用するかどうかを設定します。

運用しない

本機で操作するときに、集計管理は行いません。

本体集計管理

集計管理を行います。

ネット集計管理

外部サービスで管理されているユーザー情報を使用して集計管理を行います。ユーザー情報は、外部サービスから登録します。

補足

- ［ネット集計管理］に設定すると、集計が必要なサービスを利用しようとしたときに表示される［認証］画面で、「Account ID」を入力できるようになります。

参照

- 詳しくは、「集計管理モードの種類」(P.492) を参照してください。

各機能の集計

サービスごとに集計管理機能を使用するかどうかを設定します。設定できるサービスは次のとおりです。

- コピー
- ファクス / インターネットファクス
- スキャナー（PC 保存）
- スキャナー（メール送信）
- スキャナー（WSD）
- スキャナー（URL 送信）
- スキャナー（ボックス保存）
- スキャナー（USB メモリー保存）
- プリンター
- 文書プリント
- デジカメプリント

補足

- 表示される項目は、搭載しているサービスによって異なります。
- サービスを［集計する］に設定すると、メニュー画面の該当するサービスに［  ］が表示されます。また、メニュー画面の左下に［  : ログインが必要です］が表示されます。認証すると［  ］および［  : ログインが必要です］の表示は消えます。
- 「受信制御」(P.375) の設定によっては、ジョブが中止される場合があります。
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

入力情報の照合

入力するときに、入力情報を照合するかどうかを設定します。

［する］を選択すると、［プリント / ダイレクトファクスジョブの照合］も選択できます。

ユーザー入力項目

認証するために、ユーザーが入力する項目を設定します。

補足

- Account ID は集計のための ID です。

- User ID と Account ID

  認証するときに、User ID と Account ID の両方を入力します。

- User ID のみ

  認証するときに、User ID だけを入力します。

- Account ID のみ

  認証するときに、Account ID だけを入力します。

集計管理情報の設定

集計管理情報を設定します。

User ID の代替表記

操作パネルの〈認証〉ボタン、またはタッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアを押したときに表示される［認証］画面の、「User ID」と表示されている表記を、「UserName」や「Number」のように必要に応じて変更できます。代替表記は、半角 1 ～ 15 文字の範囲で設定できます。

補足

- 設定した値は、レポート / リストの表示にも反映されます。

User ID の入力表示

User ID を入力したときの文字列の表示方法を設定できます。セキュリティーの強化など、必要に応じて設定してください。

■ そのまま表示する

User ID を入力したときに、入力した文字列をそのまま画面に表示します。

■ 隠す

User ID を入力したときは、「*****」のように文字列を隠して画面に表示します。

Account ID の代替表記

操作パネルの〈認証〉ボタン、またはタッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアを押したときに表示される［認証］画面の、「Account ID」と表示されている表記を、「AccountName」や「Number」のように必要に応じて変更できます。代替表記は、半角 1 ～ 15 文字の範囲で設定できます。

補足

- この項目は、「集計管理機能の運用」（P.362）で［ネット集計管理］を選択しているときに表示されます。
- 設定した値は、レポート / リストの表示にも反映されます。

Account ID の入力表示

Account ID を入力したときの文字列の表示方法を設定できます。セキュリティーの強化など、必要に応じて設定してください。

補足

- この項目は、「集計管理機能の運用」(P.362) で［ネット集計管理］を選択しているときに表示されます。

■そのまま表示する

Account ID を入力したときに、入力した文字列をそのまま画面に表示します。

■隠す

Account ID を入力したときは、「*****」のように文字列を隠して画面に表示します。

認証時の集計情報表示

認証直後に、ユーザー別の集計情報を表示するかどうかを設定します。［する］に設定すると、コピー、プリント、スキャンの機能別に、認証中のユーザーの［累積ページ数］、［上限ページ数］、［残りページ数］を確認できます。

補足

- この項目は、［認証方式の設定］が［本体認証］に設定されていて、さらに［集計管理機能の運用］が［本体集計管理］に設定されているときに表示されます。
- 利用を制限されている機能は表示されません。
- 機械管理者で認証したときには、表示されません。

ファクス課金データ設定

ファクス課金の単位料金を設定します。

注記

- 課金データを登録する場合は、ファクス/インターネットファクスを集計するにしてから操作してください。有効にする方法は、「各機能の集計」(P.362) を参照してください。

補足

- 時間帯 (昼間 / 夜間 / 深夜) 別の 1 度数あたりの通信時間は、［課金情報］で設定してください。詳しくは、「課金情報 - 昼間料金、課金情報 - 夜間料金、課金情報 - 深夜料金」(P.354) を参照してください。
- 登録した内容は、「課金データリスト」をプリントして確認できます。プリント方法は、「課金データリスト」(P.143) を参照してください。

1 ［ファクス課金データ設定］を押します。

2 ［1 度数の金額］を押します。

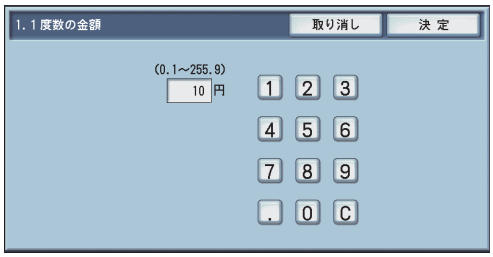


■1 度数の金額

1 度数あたりの通信費（単位料金）です。0.1 ～ 255.9 円の範囲で、0.1 円単位で設定できます。

3 ［設定値の登録 / 変更］を押します。

4 ディスプレイに表示されているキーボードまたは〈数字〉ボタンを使って、金額（0.1 ～ 255.9 円）を入力します。



5 ［決 定］を押します。

認証 / セキュリティ設定

［認証 / セキュリティ設定］では、本機を利用するユーザーの登録や認証およびセキュリティーの設定ができます。

参照
- 機能については、「認証と集計管理機能について」(P.487) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［認証 / セキュリティ設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.162) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

機械管理者情報の設定

［機械管理者情報の設定］では、機械管理者 ID、およびパスワードを設定します。

設定変更の抑止やセキュリティー確保のために、機械管理者 ID、およびパスワードの設定をお勧めします。

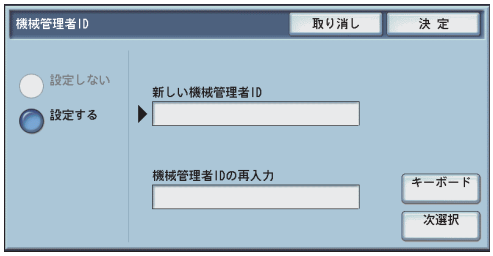
補足
- 機械管理者の UserID とパスワードの初期値は、機械に同梱されている『管理者ガイド』(メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「機械管理者情報の設定」を参照してください。

機械管理者 ID

機械管理者の User ID を設定します。半角 1 ～ 32 文字まで入力できます。

1 ［機械管理者 ID］を押します。

2 ［設定する］を押します。



3 ［キーボード］を押します。

4 32 文字以内で機械管理者 ID を入力し、［決 定］を押します。

5 手順3、4 を繰り返して、[機械管理者IDの再入力]に同じ機械管理者IDを入力します。

6 ［決 定］を押します。

7 確認画面が表示されたら、［はい (変更する)］を押します。

機械管理者パスワード

機械管理者のパスワードを指定します。

セキュリティーを強化するためにも、パスワードの設定をお勧めします。

ここで指定するパスワードは、［認証 / セキュリティ設定］ > ［認証の設定］ > ［パスワードの運用］ > ［パスワード使用 - パネル入力時］を［する］に設定している場合に、機械管理者で認証するときに使用します。

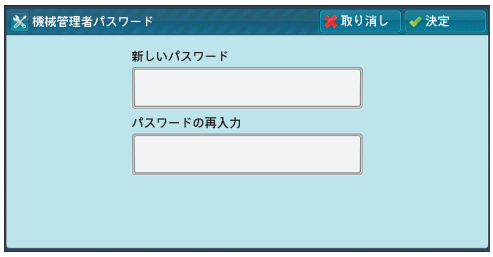
パスワードは、機械管理者の User ID を設定してから、4 ～ 12 文字の範囲で指定します。

参照

- ［パスワード使用 - パネル入力時］については、「パスワードの運用」(P.373) を参照してください。

1 ［機械管理者パスワード］を押します。

2 ［新しいパスワード］を選択します。



3 表示されたキーボードを使って、4 ～ 12 文字の範囲でパスワードを入力し、［決定］を押します。

補足

- パスワードなしに設定する場合は、空欄にして［決定］を押してください。

4 ［パスワードの再入力］を選択し、同じパスワードを入力し、［決定］を押します。

5 ［決定］を押します。

6 確認画面が表示されたら、［はい (変更する)］を押します。

認証の設定

認証機能に関する仕様を設定します。

認証方式の設定

認証方式を設定します。

■ 認証しない

認証機能を利用しません。

■ 本体認証

本機に登録されたユーザー情報を、認証に使用します。

補足

- ［本体認証］に設定すると、本機が認証モードになり、メニュー画面の左下に［ : ログインが必要です］が表示されます。

■外部認証

外部認証サーバーに登録されたユーザー情報を、認証に使用します。

補足

- ［外部認証］に設定すると、本機が認証モードになり、メニュー画面の左下に［: ログインが必要です］が表示されます。
- 本機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

アクセス制御

認証モードでは、本機自体および各サービスの利用を制限することができます。利用するには、ユーザー認証が必要になります。

注記

- 外部認証を行うと、ユーザー情報が本機に保存され、外部認証時に外部認証サーバーが起動していなくても、本機に保存されたユーザー情報を利用してユーザーを認証し、本機を使用できます。
- 外部認証に使用したユーザー情報を本機に保存させたくない場合は、［ユーザー情報の設定］の［外部認証情報の本体保存］を［しない］に設定してください。詳しくは、「外部認証情報の本体保存」（P.373）を参照してください。
- 本機に保存された外部認証のユーザー情報を自動的に削除できます。詳しくは、「保存済み外部認証情報削除」（P.373）を参照してください。

補足

- 外部認証時（ApeosWare Management Suite を使用する場合を除く）は、LDAP サーバーから取得した利用可能なサービスへのアクセス許可情報に基づき、操作パネルから利用できます。
- 外部認証時にゲストユーザーを使用する場合、ゲストユーザーにアクセス制御は設定できません。本機を使用できるゲストユーザーを制限する場合は、「ゲストの使用」（P.372）を参照してください。

■デバイスへのアクセス

本機の操作パネルのボタンの操作を制限するかどうかを設定します。

［制限しない］、［制限する］から選択します。

■サービスへのアクセス

次のサービスについて、制限するかどうかを設定します。

補足

- サービスを［制限する（表示）］に設定すると、メニュー画面の該当するサービスに［  ］が表示されます。また、メニュー画面の左下に［  : ログインが必要です］が表示されます。認証すると［  ］および［  : ログインが必要です］の表示は消えます。
- サービスを［制限する（非表示）］に設定すると、メニュー画面に該当するサービスは表示されません。認証すると該当するサービスも表示されます。

参照

- 認証方式の設定は、「認証方式の設定」（P.367）を参照してください。

- コピー

  操作パネルからのコピーの操作が制限されます。

  ジョブメモリーで、コピー操作を登録している場合は、そのジョブメモリーの使用も制限されます。

- ファクス / インターネットファクス

  操作パネルからのファクス、インターネットファクス、IP ファクス（SIP）の操作、およびダイレクトファクスが制限されます。

  ジョブメモリーで、ファクス、インターネットファクス、IP ファクス（SIP）操作を登録している場合は、そのジョブメモリーの使用も制限されます。

- スキャナー

  本機での、スキャナー（メール送信）、スキャナー（ボックス保存）、スキャナー（PC 保存）、スキャナー（USB メモリー保存）、スキャナー（URL 送信）、スキャナー（WSD）、スキャナー（マイフォルダ保存）の操作が制限されます。

  ジョブメモリーで、スキャナー（メール送信）、スキャナー（ボックス保存）、スキャナー（PC 保存）、スキャナー（URL 送信）の操作を登録している場合は、そのジョブメモリーの使用も制限されます。

補足
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

- Client Scan

  本機での、Client Scan（AirPrint などを使ったスキャン）の使用が制限されます。

- ジョブフロー

  本機での、ジョブフローの使用が制限されます。

- 文書プリント

  本機での、文書プリントの操作が制限されます。

- デジカメプリント

  本機での、デジカメプリントの操作が制限されます。

- 外部アクセス（ApeosPort シリーズのみ）

  本機での、外部アクセスの操作が制限されます。

- ボックス操作

  本機での、親展ボックスの操作が制限されます。

- ジョブメモリー

  本機での、ジョブメモリーの使用が制限されます。

- BMLinkS

  本機での、BMLinkS の操作が制限されます。

- プリンター

  コンピューターからネットワークを介してプリント指示するとき、プリント指示が制限されます。

  認証機能を利用するには、プリンタードライバーで、UserID やパスワードなどの認証情報を設定する必要があります。

  本機に送信されたプリントデータのうち、認証に失敗したプリントデータは、「認証プリント」に設定された内容に従って、本機に保存されるか、削除されます。

補足
- ［仕様設定］の［認証 / セキュリティ設定］の［認証の設定］の［認証方式の設定］を［外部認証］に設定している場合は、制限されません。

参照
- 認証方式の設定は、「認証方式の設定」(P.367) を参照してください。

■機能の使用制限

［カラーコピーの使用］、［ボックスからのプリント］、［ボックスからの外部取り出し］をそれぞれ設定します。

ユーザー登録 / 集計確認

認証を有効にする場合、登録したユーザーの認証を行うために、User ID、およびユーザー名を登録します。

本機を利用するユーザーごとに、使用枚数の上限を設定できます。また、登録したユーザーごとの累積ページの確認などができます。ユーザーデータは、1,000 件まで登録できます。

［集計管理］の［ユーザー登録 / 集計確認］と同じ内容です。

参照
- 詳しくは、「ユーザー登録 / 集計確認」(P.370) を参照してください。

登録内容の削除 / 集計リセット

全登録ユーザーに対して、一括で登録内容を削除したり、集計データをリセットしたりできます。削除 / リセットする前に、レポートを出力して、削除 / リセットされる内容を事前に確認することもできます。

［集計管理］の［登録内容の削除 / 集計リセット］と同じ内容です。

参照
- 詳しくは、「登録内容の削除 / 集計リセット」(P.370) を参照してください。

権限グループ登録

機械管理者は認証ユーザーに対して、本来利用できない機能を利用できるようにする「権限」を与えることができます。同じ権限を持つ認証ユーザーを、グループ化して登録できます。

補足
- 20 グループまで登録できます。

1 ［権限グループ登録］を押します。



2 ［グループ名］を選択し、［登録 / 変更］を押します。

3 任意の項目を設定します。

■グループ名

グループ名は全角 16 文字（半角 32 文字）まで登録できます。

■宛先指示方法の制限

ファクス / インターネットファクスまたはスキャナー（メール送信）で、宛先表に登録されていない宛先への送信が制限されているときに、その制限を解除するかどうかを設定します。

■宛先表登録 / 変更の制限

宛先表の編集が制限されているときに、その制限を解除するかどうかを設定します。

■ **強制印字の一時解除**

強制複製管理、強制ペーパーセキュリティー、UUID 印字、強制アノテーションなどの強制印字を一時的に解除してジョブを実行するかどうかを設定します。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■ **複製制限コード検出時の動作**

ジョブ禁止コードが埋め込まれていることを検知した場合に、一時的にジョブを継続することを許可するかどうかを設定します。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

認証情報の設定

認証するときに必要な情報を設定します。

■ **User ID の代替表記**

操作パネルの〈認証〉ボタンを押したときに表示される［認証］画面の、「User ID」と表示されている表記を、「UserName」や「Number」のように必要に応じて変更できます。代替表記は、半角 1 ～ 15 文字の範囲で設定できます。

補足
- 設定した値は、レポート / リストの表示にも反映されます。

■ **User ID の入力表示**

User ID を入力したときの文字列の表示方法を設定できます。セキュリティーの強化など、必要に応じて設定してください。

［そのまま表示する］に設定すると、User ID を入力したときに、入力した文字列で表示します。［隠す］に設定すると、［*****］のように表示します。

■ **認証失敗の記録**

不正なアクセスを検知するための、認証回数を設定します。所定時間（10 分）以内に、ここで設定した回数の認証に失敗したときに、エラーとして記録します。

■ **認証解除時の確認画面表示**

認証解除時に確認画面を表示するかどうかを設定します。

■ **認証時の User ID 文字種**

認証時、User ID の文字種を設定します。

［大文字小文字を区別する］に設定すると、登録したまま（大文字小文字を含む）の User ID で認証します。［大文字小文字を区別しない］に設定すると、User ID に大文字小文字が混在していても、大文字小文字を区別しないで認証します。

注記
- プライベートプリントに文書が保存された状態で設定を切り替えないでください。プリントできないなど、問題が発生する可能性があります。保存された文書をすべてプリントしたあと、設定を切り替えてください。
- “ABC” と “abc” のように、［大文字小文字を区別しない］に設定すると同一になる User ID が登録されているときは、設定を切り替えないでください。設定を切り替えると、一部のユーザーが表示されないなど、問題が発生する可能性があります。大文字小文字を区別しなくても同一にならない User ID に変更してから設定を切り替えてください。

■IC カード接続時の認証

本体認証の場合、本機に IC カードリーダーが接続されているときに、User ID 認証を有効にするかどうかを設定します。

［IC カードのみ］に設定すると、User ID 認証は使用できません。［IC カードまたはパネル入力］に設定すると、IC カード認証と User ID 認証の両方が使用できます。

■IC カード認証時のユーザー登録

本体認証の場合、登録されていないユーザーが IC カードリーダーに IC カードをかざしたときに、ユーザーを登録するかどうかを設定します。

［しない］に設定すると、ユーザー登録はされません。［自動登録する］に設定すると、ユーザーが登録されます。

補足

- ［自動登録する］を選択すると、［ユーザー名］、［サービスの利用制限］、［権限の追加設定］の項目が表示されます。
- ［ユーザー名］を選択すると、ユーザー名の設定ができます。
- ［サービスの利用制限］を選択すると、［コピー］、［ファクス］、［スキャナー］、［プリンター］の項目が表示されます。それぞれに対し［機能制限］、［上限ページ数の変更］の設定ができます。
- ［権限の追加設定］を選択すると、権限の追加設定ができます。
- ［仕様設定 / 登録］>［認証 / セキュリティ設定］>［認証の設定］>［パスワードの運用］>［パスワード使用 -IC カード認証時］が［する］に設定されている場合、ユーザー登録時にパスワードを 2 回入力します。

■ゲストの使用

外部認証の場合、ゲストのユーザーを使用するかどうかを設定します。使用するときは、ゲストのパスワードを半角英数字 4 ～ 12 文字で設定します。

■IC カードの使用

本機に IC カードリーダーが接続されているときに、IC カードを使用するかどうかを設定します。

［する］に設定すると、IC カードでジョブを制御するかしないかを、機能ごとに選択できます。

［する（PKI のみ）］は、認証やジョブ制御には IC カードを使用せず、セキュリティー機能だけを制御する場合に設定します。

補足

- この項目は、カスタマイズ拡張機能をご利用されている場合に表示されます。

■IC カード連携モード

外部認証の場合、IC カード認証時に、パスワードの入力を要求するかどうかを設定します。

■IC カードの証明書検証

IC カードを使用する場合に、IC カードの証明書を検証するかどうかを設定します。

［する］に設定すると、IC カードの所有者を、PIN コードによる照合だけでなく、IC カード内の証明書の検証と秘密鍵との鍵の一致を検証します。この場合、IC カードの証明書の上位 CA 証明書を本機に登録しておく必要があります。

［しない］に設定すると、IC カードの所有者を、PIN コードによる照合で検証します。

■非接触型 IC カード設定

非接触型 IC カード認証時に、認証の解除方法を設定します。

［カードが離れると認証解除］に設定すると、IC カードをカードリーダーから離すことで、認証が解除されます。［パネル指示で認証解除］に設定すると、タッチパネルディスプレイの操作で認証が解除されます。

■外部認証情報の本体保存

外部認証に使用したユーザー情報を本機に保存するかどうかを設定します。保存に設定して外部認証を行うと、ユーザー情報が本機に保存され、外部認証時に外部認証サーバーが起動していなくても、本機に保存されたユーザー情報を利用してユーザーを認証し、本機を使用できます。

補足

- IC カードで認証したユーザーだけが対象です。

■保存済み外部認証情報削除

本機に保存した外部認証のユーザー情報を、削除するかどうかを設定します。

［削除しない］、［週単位で削除］、または［月単位で削除］が選択できます。

［週単位で削除］では削除する曜日と時分が、［月単位で削除］では削除する日と時分を設定できます。

補足

- IC カードで認証したユーザーだけが対象です。

機械管理ユーザーの認証失敗アクセス拒否

機械管理者のなりすましによる不正な設定が行われないようするための機能です。機械管理者 ID の認証に連続して失敗した場合にアクセスを拒否するように、その失敗回数を設定できます。

回数は、1 ～ 10 回の範囲で指定できます。

補足

- 本機を再起動すると、失敗した回数はリセットされます。
- アクセス拒否状態を解除するときは、本機の電源を切って、入れ直して、本機を再起動してください。

パスワードの運用

■パスワード使用 - パネル入力時

機械管理者、およびユーザーが本機を使用するときに、パスワードを入力するかどうかを設定します。

［する］を選択すると、「機械管理者パスワード」(P.367)、および「ユーザー登録 / 集計確認」の「パスワード」(P.358) の設定が有効になります。

［しない］を選択すると、上記の設定でパスワードが指定されていてもパスワードの入力は要求されません。

注記

- ［パスワード使用 - パネル入力時］の設定は、本機で認証するときに適用されます。CentreWare Internet Services などの外部からのアクセス時には、パスワードの使用の有無にかかわらず、常にパスワードの入力が必要です。また、認証の方法によっても常にパスワードの入力が必要な場合があります。

補足

- 機械管理者パスワードは、CentreWare Internet Services から設定を変更するときにも使用します。

■パスワード使用 -IC カード認証時

本体認証の場合、機械管理者およびユーザーが IC カード認証をするときに、パスワードを入力するかどうかを設定します。

■パスワードの最小桁数

パスワードの最小桁数を指定するときに設定します。

最小桁数を設定する場合、4 ～ 12 桁の範囲で 1 桁単位で設定できます。

補足

- 認証ユーザーだけが対象です（機械管理者、ゲストは対象外）。
- 登録済みのユーザーは、最小桁数以下で認証できます。

認証 / プライベートプリントの設定

受信したプリントジョブを、どのように扱うかを設定します。

プリントジョブを直接プリントしたり、保管文書の認証プリントやプライベートプリントに一時的に保存できます。

認証プリントは、認証されたユーザーのジョブをプリントする機能ですが、本機に一時的に保存することもできます。プリントするときに、本機からの操作でプリントします。Coinkit や Dispenser による不特定ユーザーが使うコンピューターからのプリント課金に向いています。認証プリントへの保存が設定されている場合、受信したプリントジョブはプリンタードライバー設定の蓄積用 User ID ごとに保存されます。

プライベートプリントは、プリント指示の際に認証用 User ID や SubUser ID を使って、本機にジョブを保存します。プリントするときは、本機の操作でプリントしますが、本機のパネルには、認証されたユーザーと関連づけられたサブユーザーの文書のみ表示されるため、プリント放置に限らず、プライバシーの保護を図ることができます。

参照

- 認証プリント、プライベートプリントについては、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ジョブ確認」>「保存文書をプリント / 削除する」、および『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コンピューターからの操作」>「プリント」を参照してください。
- プライベートプリントでプリントするための設定例については、『設定がわかる本』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「プリント機能」>「プライベートプリントでプリントする（プライベートプリント）」を参照してください。
- 認証プリント、プライベートプリントをするには、［受信制御］の設定が必要です。詳しくは、「受信制御」（P.375）を参照してください。

受信時の PJL 命令制御

外部機器からのプリント受信を制御できます。コンピューターからプリント指示された認証プリントまたはプライベートプリントジョブを、指示どおりに［ジョブ確認］画面に表示される［保存文書］の［認証プリント］または［プライベートプリント］に保存する場合は、［する］を選択します。

［しない］を選択したときは、後述の［受信制御］の設定に従います。

補足

- PJL とは、プリントジョブを制御するコマンドです。

出力時の PJL 命令制御

外部機器からのプリントジョブのプリントを制御できます。［ジョブ確認］画面に表示される［保存文書］の［認証プリント］または［プライベートプリント］に保存

された文書をプリントするときに、出力用紙、両面プリントなどのプリントモードをジョブの指示どおりに行う場合に、［する］を選択します。

補足
- PJL とは、プリントジョブを制御するコマンドです。

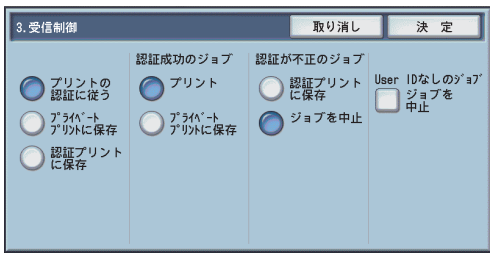
受信制御

受信したプリントジョブを、どのように扱うかを設定します。

参照
- プリンタードライバーからのプリント方法は、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コンピューターからの操作」を参照してください。
- 保存されたプリントジョブをプリントおよび削除する方法は、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ジョブ確認」>「保存文書をプリント / 削除する」を参照してください。また、誤った User ID を付けたプライベートプリントのジョブを削除する方法は、「誤ったUser IDを付けたプライベートプリントのジョブを削除する」(P.128)を参照してください。

1 ［受信制御］を選択して、［確認 / 変更］を押します。

2 任意の項目を選択します。



3 選択した項目に応じて、ジョブの動作を設定します。

4 設定が終わったら、［決 定］を押します。

■プリンターの認証に従う

認証 / 集計機能を利用し、［サービスへのアクセス］の［プリンター］を［制御する］に設定しているときに、プリントジョブをどう扱うかを設定できます。

補足
- 認証 / 集計機能を利用しない場合、および［サービスへのアクセス］の［プリンター］を［制御しない］に設定している場合は、プリンタードライバーの指示に従います。

［プリンターの認証に従う］を選択すると、［認証成功のジョブ］、［認証が不正のジョブ］、［User ID なしのジョブ］の項目が表示されます。

◆認証成功のジョブ

認証に成功したジョブに対する動作を設定します。

- ［プリント］を選択すると、ジョブをプリントします。
- ［プライベートプリントに保存］を選択すると、ジョブをプライベートプリントに保存します。

補足
- ［プライベートプリントに保存］に設定すると、プリンタードライバーで、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、ボックス保存プリントを指示しても無視されます。

◆認証が不正のジョブ

認証に失敗したジョブ（プリンタードライバー側で、User ID やパスワードなどの認証情報が間違っているジョブ）に対する動作を設定します。

- ［認証プリントに保存］を選択すると、ジョブを認証プリントに保存します。
- ［ジョブを中止］を選択すると、ジョブを削除します。

◆User ID なしのジョブ

認証用 User ID が付加されていないジョブ（CentreWare Internet Services を利用したプリント、メールプリントなど）に対する動作を設定します。

- ［プリント］を選択すると、ジョブをプリントします。
- ［認証プリントに保存］を選択すると、ジョブを認証プリントに保存します。
- ［ジョブを中止］を選択すると、ジョブを削除します。

補足

- CentreWare Internet Services の［プロパティ］タブ>［セキュリティー］>［認証管理］で［ユーザー指定なし印刷の許可］にチェックを付けると、本機側では、［User ID なしのジョブ］は自動的に［プリント］に設定されます。本機側で［認証プリントに保存］または［ジョブを中止］に設定すると、CentreWare Internet Services の［ユーザー指定なし印刷の許可］のチェックが自動的に外れます。

■プライベートプリントに保存

認証機能を利用しているいないにかかわらず、User ID が付いたジョブをすべてプライベートプリントに保存します。また、User ID や PJL 命令が付いてないジョブをどう扱うかも設定できます。

注記

- ［プライベートプリントに保存］に設定すると、認証に成功してもしなくても、User ID が付いたプリントジョブはすべて保存されます。不要なプリントジョブを増やさないためには、保存期間を設定して保存期間を過ぎたプリントジョブを自動的に削除するように設定するか、機械管理者が手動で削除してください。保存期間を設定する方法は、「保存文書設定」(P.320) を参照してください。

  手動で削除する方法は、「誤った User ID を付けたプライベートプリントのジョブを削除する」(P.128) を参照してください。

補足

- ［プライベートプリントに保存］に設定すると、プリンタードライバーで、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、ボックス保存プリントを指示しても無視されます。

［プライベートプリントに保存］を選択すると、［User ID なしのジョブ］と［PJL 命令なしのジョブ］が表示されます。

◆User ID なしのジョブ

認証用 User ID が付加されていないプリントジョブに対する動作を設定します。

- ［プリント］を選択すると、ジョブをプリントします。
- ［認証プリントに保存］を選択すると、ジョブを認証プリントに保存します。
- ［ジョブを中止］を選択すると、ジョブを削除します。

補足

- CentreWare Internet Services の［プロパティ］タブ>［セキュリティー］>［認証管理］で［ユーザー指定なし印刷の許可］にチェックを付けると、本機側では、［User ID なしのジョブ］は自動的に［プリント］に設定されます。本機側で［認証プリントに保存］または［ジョブを中止］に設定すると、CentreWare Internet Services の［ユーザー指定なし印刷の許可］のチェックが自動的に外れます。

◆ PJL 命令なしのジョブ

PJL 命令が付加されていないプリントジョブに対する動作を、User ID を利用して設定します。

［常に利用しない］を選択すると、User ID の有無にかかわらず、常に［User ID なしのジョブ］の設定に従います。

［User ID があるときは利用する］を選択すると、User ID が付加されているときの動作を設定できます。

- ［プリント］を選択すると、ジョブをプリントします。
- ［認証プリントに保存］を選択すると、ジョブを認証プリントに保存します。
- ［プライベートプリントに保存］を選択すると、ジョブをプライベートプリントに保存します。
- ［ジョブを中止］を選択すると、ジョブを削除します。

■ 認証プリントに保存

認証機能を利用しているいないにかかわらず、受信したジョブをすべて認証プリントに保存します。

注記

- ［認証プリントに保存］に設定すると、認証に成功してもしなくても、プリントジョブはすべて保存されます。不要なプリントジョブを増やさないためには、保存期間を設定して保存期間を過ぎたプリントジョブを自動的に削除するように設定するか、手動で削除してください。保存期間を設定する方法は、「保存文書設定」(P.320）を参照してください。手動で削除する方法は、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ジョブ確認」>「保存文書をプリント / 削除する」>「認証プリント」を参照してください。

補足

- ［認証プリントに保存］に設定すると、プリンタードライバーで、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、ボックス保存プリントを指示しても無視されます。

強制印字の一時解除

本機能は、基本的には強制印字をしたいが、特定の出力物のみ強制印字なしで出力したいといった場合に使用します。

強制複製管理、強制ペーパーセキュリティー、UUID 印字、強制アノテーションなどの強制印字が設定されていても、一時的に強制印字を解除できます。

本機能を［する］に設定した状態で実行した、コピー、親展プリント、ボックスプリント、文書プリント、デジカメプリントが一時解除の対象となります（ファクス、通常のプリント、レポート / リストは対象となりません）。

この設定は、認証ユーザーの属する権限グループの [強制印字の一時解除] が [許可する] に設定されている場合のみ表示されます。

補足

- 実行中のジョブに関しては反映されません。
- ジョブフローを使って親展ボックス内の文書を選択し、手動で実行する場合でも強制印字を一時解除できます。
- 管理者権限のユーザーは権限グループにかかわらず設定可能です。
- TrustMarkingBasic（別売）やコピーでユーザーが指定した複製管理・ペーパーセキュリティーに関しては解除対象となりません。
- ジョブの途中で変更しても、そのジョブには反映されません。

参照

- 強制複製管理については、「複製管理」(P.197) を参照してください。
- 強制ペーパーセキュリティーについては、「ペーパーセキュリティー」（P.199）を参照してください。
- UUID 印字については、「UUID 印字」(P.204) を参照してください。
- 権限グループの設定は、「権限グループ」(P.489) を参照してください。

ジョブ操作の設定

実行中や実行待ちジョブやログの表示制限ができます。認証していないユーザーやジョブオーナーでないユーザーに対して、プライバシー保護、情報漏えいの抑止になります。

補足

- ジョブを表示しない設定にした場合、自分が実行したジョブを止めたり、削除したりできなくなります。そのため、コピー誤操作やファクス誤送信の場合でも、自分でジョブをキャンセルできません。

実行中 / 待ちジョブの表示設定

実行中 / 実行待ちジョブの情報表示を制限するかどうかを設定します。

実行完了ジョブの表示設定

［常に表示する］、［認証中は表示する］、［表示しない］から選択します。

■表示対象のジョブ

［認証中は表示する］が選択されているときに選択できます。

［全て］、［認証ユーザーのジョブのみ］から選択できます。

■表示情報の制限

［常に表示する］、［認証中は表示する］が選択されているときに選択できます。

［しない］、［する］から選択できます。

ハードディスクの上書き消去設定

ハードディスクの上書き消去をするかどうかを設定します。

コピー、ファクス、スキャン、プリントの処理が終了すると、各処理で使用したハードディスクの領域からデータを削除したあと、それらの情報が記録されていた領域に情報を持たないデータで自動的に上書きします。そうすることによって、ハードディスクに記録されていたデータの不正な取り出し / 復元を防ぎます。コピー原稿など、システムが一時的に保存したデータにも対応します。

上書き回数の設定

上書きする回数を、1 回または 3 回から選択できます。

注記

- 上書き処理中に本機の電源を切った場合、未終了のファイルがハードディスク上に残る場合があります。また、上書き処理未終了のファイルがハードディスク上に残った状態で、電源を入れた場合、上書き消去処理を再開します。
- 1 回の上書きでデータは消去されますが、3 回の上書き消去により、削除したデータを読み取られる可能性はより低くなります。ただし、時間がかかります。
- 上書き処理中は、通常操作の処理速度が低下することがあります。

補足

- この機能を利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

参照

- 上書き処理中の状態を確認する方法は、「HDD の上書き消去」(P.149) を参照してください。

データ上書き消去キットを利用する上での前提条件について

機械管理者は、次の事項を遵守してください。

- ハードディスクの削除済みデータ、および保存データを保全するため、次の設定が必要です。
  - ハードディスクの上書き消去設定の上書き回数の設定：[1 回] または [3 回]
  - データの暗号化：[する]、12 桁の暗号化キー
  - カストマーエンジニアの操作制限：[する]
- 機械管理者のパスワードは、工場出荷時の値から変更してください。変更後のパスワードは、7 文字以上（最長 12 文字）にしてください。パスワードは、容易に推測できる値に設定したり、機械管理者以外の目に触れる場所に格納したりしないでください。

注記

- 機械管理者の User ID とパスワードは絶対に忘れないでください。故障時に設定の復旧ができなくなります。

- [パスワード使用 - パネル入力時] を、[する] に設定してください。
- [機械管理者 ID の認証失敗によるアクセス拒否] は、5 回に設定してください。
- 上記の各設定項目で、上記以外の設定を行った場合は、ハードディスクのセキュリティーを保つことができなくなりますので、ご注意ください。

参照

- データの暗号化の設定は、「データの暗号化」(P.224) を参照してください。
- カストマーエンジニアの操作制限の設定は、「カストマーエンジニアの操作制限」(P.226) を参照してください。
- [パスワード使用 - パネル入力時] の設定は、「パスワードの運用」(P.373) を参照してください。
- 機械管理者の User ID の設定は、「機械管理者 ID」(P.366) を参照してください。

組織の責任者（本製品を利用・運用する組織の責任者）は、次の事項を遵守してください。

- システム管理者、機器管理者の適切な人選を行うと共に管理や教育を実施してください。
- 本機の電源を切る前に、実行中の処理がないことを確認し、実行中の処理がある場合は、その処理の終了後に電源を切るように、利用者に対して教育を実施してください。
- データ上書き消去キットは、利用済み文書データの再生を困難とするものです。ハードディスクの親展ボックスなどに保存される文書を保護するものではないことにご注意ください。
- データ上書き消去キットが搭載された本機を設置する内部ネットワークに、盗聴を防止する機器を設置し、盗聴されないように適切にネットワーク設定を行ってください。
- 外部ネットワークから、本機を設置する内部ネットワークへのアクセスを遮断するため、ファイアウォールなどの機器を設置してください。
- パスワードと暗号化キーは次のルールに従って設定してください。
  - 容易に推測可能な文字列を使用しない
  - 英数文字を混在させて使用する

参照

- 暗号化キーについては、「秘密情報の暗号化キー」(P.226) を参照してください。

6

CentreWare Internet Services の設定

CentreWare Internet Services を使うための設置

CentreWare Internet Services は、TCP/IP 環境が利用できる場合に、Web ブラウザーを介して、本機の状態やジョブの状態を表示したり、本機の設定を変更したりするためのサービスです。

事前準備

CentreWare Internet Services を利用するためには、ネットワークプロトコルとして TCP/IP が利用できるコンピューターと Internet Explorer® や Safari などの Web ブラウザーが必要です。

参照
- 設定中にトラブルが発生した場合は、「CentreWare Internet Services を使用したときのトラブル」（P.555）を参照してください。

本体側の設定

CentreWare Internet Services を使用するための、本体側の設定手順について説明します。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1)〈認証〉ボタンを押します。

2)〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 インターネットサービスのポートを起動します。

1)［ネットワーク設定］を押します。

2)［ポート設定］を押します。

3)［インターネットサービス（HTTP)］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4)［インターネットサービス - ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5)［起動］を選択し、［決 定］を押します。

6)［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

すでに IP アドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得できないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」（P.247）を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、CentreWare Internet Services のポートが起動になっていることと TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

7 CentreWare Internet Services を起動し、CentreWare Internet Services が利用できるかどうかを確認します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.384) を参照してください。

CentreWare Internet Services を起動する

コンピューターから CentreWare Internet Services に接続します。

本機で認証機能を使用している場合は、Web ブラウザーで本機にアクセスするときに、認証が必要になります。

1 Web ブラウザーを起動します。

2 Web ブラウザーのアドレス入力欄に、本機の IP アドレス、またはインターネットアドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。

- IP アドレスの入力例

  http://192.0.2.1/（IPv4 の場合 ）

  http://［2001:DB8::1234］（IPv6 の場合 ）



- インターネットアドレスの入力例（本機のインターネットアドレスが、myhost.example.com の場合）

  http://myhost.example.com/



補足

- お使いのネットワークが DNS（Domain Name System）を使用していて、DNS のネームサーバーに本機のホスト名が登録されている場合は、ホスト名とドメイン名を組み合わせたインターネットアドレスを使って本機にアクセスできます。ホスト名が「myhost」、ドメイン名が「example.com」の場合、インターネットアドレスは「myhost.example.com」となります。
- ポート番号を指定する場合は、IP アドレスまたはインターネットアドレスのあとに「:」を付けて、続けてポート番号を入力してください。
- 本機で認証機能を使用している場合は、［ユーザー名］と［パスワード］に User ID とパスワードを入力してください。User ID とパスワードについては、機械管理者にお問い合わせください。ユーザーに与えられている機械管理の権限によって、操作できる機能が異なります。
- ［プロパティ］タブにある［セキュリティー］>［SSL/TLS 設定］>［HTTP-SSL/TLS 通信］の［有効］にチェックを付けて、通信を暗号化している場合、CentreWare Internet Services にアクセスするには、Web ブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力してください。

  IP アドレスの入力例
  https://192.0.2.1/ （IPv4 の場合）
  https://［2001:DB8::1234］（IPv6 の場合）
  インターネットアドレスの入力例
  https://myhost.example.com/

参照

- CentreWare Internet Services が表示されない場合は、「CentreWare Internet Services を使用したときのトラブル」（P.555）を参照してください。

CentreWare Internet Services を使って設定する

CentreWare Internet Services を利用すると、本機の機能の設定値をコンピューターから変更できます。

補足

- 設定する項目が表示されていない場合は、CentreWare Internet Services の［プロパティ］タブ>［ネットワーク設定］>［ポート起動］で目的のポートが起動しているかを確認してください。
- Smart WelcomEyes で人を検知しているときや、操作パネルの操作中は、CentreWare Internet Services から設定を変更できません。本機が自動リセットされてから、設定を変更してください。自動リセットについては、「自動リセット」(P.172) を参照してください。
- 設定項目の変更時にユーザー名とパスワードを要求されるものがあります。ユーザー名、パスワードは、本機に設定してある、機械管理者の User ID とパスワードです。

CentreWare Internet Services を利用すると、次の項目が設定できます。

補足

- 詳しくは、CentreWare Internet Services 画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

項目名	選択方法	機能の概要 / 参照先
カウンター表示	［状態］タブの［カウンター］から選択	各サービスごとに使用したページ数や回数の合計を表示できます。
稼働状況別の累積時間	［状態］タブから選択	出力や読み込みの稼働時間、待機時間、低電力モード時間、スリープモード時間、ウォームアップ時間、電源オフ時間の累積時間を分単位で表示できます。
ボックス	［スキャン］タブから選択	「ボックス登録」(P.332) を参照してください。
ジョブフロー		「ジョブフロー登録」(P.335) を参照してください。
宛先の追加	［宛先表］タブから選択	「宛先表登録 (短縮宛先登録)」(P.346) を参照してください。
ジョブ管理	［プロパティ］タブの［一般設定］から選択	ジョブの削除方法を設定します。
用紙トレイの設定		「用紙の設定を変更する」(P.75) を参照してください。
用紙設定		「用紙の設定を変更する」(P.75) を参照してください。
節電モード設定		「節電モード移行時間を変更する」(P.28) を参照してください。
保存文書設定		「保存文書設定」(P.320) を参照してください。
メモリー設定		「メモリー設定」(P.275) を参照してください。
Web ブラウザー設定		「Web ブラウザー設定」(P.328) を参照してください。
Internet Services設定	［プロパティ］タブの［一般設定］から選択	CentreWare Internet Services の表示更新時間や表示言語を設定できます。

項目名	選択方法	機能の概要 / 参照先
プールサーバー設定		「ジョブフロー設定」(P.317) を参照してください。
外部アクセス設定		「外部アクセス設定」(P.323) を参照してください。
設定情報の複製		設定した内容をファイルに保存して、同一機種間で複製できます。ほかの機種には複製できません。
ジョブ終了時のメール通知設定	[プロパティ] タブの [一般設定] > [メール通知設定] から選択	「ジョブ終了時のメール通知設定」(P.207) を参照してください。
機械状態のメール通知設定		メール通知の通知先や通知する状態を設定します。
ポート起動	[プロパティ] タブの [ネットワーク設定] から選択	「ポート設定」(P.240) を参照してください。
ポート設定		「ポート設定」(P.240) を参照してください。
プロトコル設定		「プロトコル設定」(P.247) を参照してください。
エミュレーション設定	[プロパティ] タブの [サービス設定] > [プリンタ設定] から選択	「プリンターモード」(P.149) を参照してください。
スキャナー共通設定	[プロパティ] タブの [サービス設定] から選択	スキャン文書を送信するときや保存するときのファイル名について設定できます。
メール		「メール / インターネットファクス設定」(P.311) を参照してください。
インターネットファクス		「メール / インターネットファクス設定」(P.311) を参照してください。
ファクス		「ファクス設定」(P.293) を参照してください。
スキャナー (マイフォルダ保存)		「スキャナー (マイフォルダ保存) の設定」(P.421) を参照してください。
スキャナー (PC 保存)		「スキャナー (PC 保存) の設定」(P.418) を参照してください。
スキャナー(URL 送信)		「スキャナー(URL 送信) の設定」(P.430) を参照してください。
スキャナー (USB メモリー保存)		「スキャナー(USB メモリー保存) の設定」(P.427) を参照してください。
メディアプリント		文書プリント、デジカメプリント機能を有効 / 無効に切り替えができます。
USB		スキャナー (USB メモリー保存)、文書プリント、デジカメプリント機能を有効 / 無効に切り替えができます。
EP サービス	[プロパティ] タブの [サービス設定] から選択	インターネットを使った EP システムについて設定します。EP システムについては、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

項目名	選択方法	機能の概要 / 参照先
集計設定	［プロパティ］タブから選択	「集計管理」(P.357)を参照してください。
認証管理	［プロパティ］タブの［セキュリティー］から選択	「認証の設定」(P.367) を参照してください。
認証情報の設定		「認証情報の設定」(P.371) を参照してください。
権限グループ登録		「権限グループ登録」(P.370) を参照してください。
外部認証サーバー設定		「外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定」(P.262) を参照してください。
受付 IP アドレス制限		アクセスを受け付ける IP アドレスを、IPv4、IPv6 別に設定できます。
受付ポート		アクセスを受け付けるポート番号を設定できます。
監査ログ		本機での作業を記録する監査ログ機能を有効にしたり、監査ログを取り出したりすることできます。
証明書の設定		自己証明書の生成および証明書のインポートができます。
IPsec		「IPsec を使用して暗号化するための設定」(P.473) を参照してください。
証明書管理		本機に登録されている証明書を確認できます。証明書の選択や削除、およびエクスポートができます。
証明書失効確認の設定		「証明書失効確認の設定」(P.273) を参照してください。
IEEE 802.1 x		「IEEE802.1x 設定」(P.272) を参照してください。
SSL/TLS 設定		「SSL/TLS 設定」(P.268) を参照してください。
S/MIME 設定		「S/MIME 設定」(P.269) を参照してください。
PDF/DocuWorks/XPS* のセキュリティ / 署名		「PDF/DocuWorks/XPS の署名設定」(P.270) を参照してください。
複製管理		「複製管理」(P.197)を参照してください。
強制アノテーション		「強制アノテーション」(P.202) を参照してください。
ジョブ表示の制限		実行完了ジョブ、実行中 / 待ちジョブで、表示制限できます。
プラグイン / カスタムサービス設定		「プラグイン設定」(P.208) を参照してください。
ハードディスクの上書き消去設定	［プロパティ］タブの［セキュリティー］から選択	「ハードディスクの上書き消去設定」(P.379) を参照してください。

項目名	選択方法	機能の概要 / 参照先
カストマーエンジニアの操作制限		カストマーエンジニアの操作を制限します。カストマーエンジニアのなりすましによる設定変更ができないようにします。
機械管理者情報の設定		「機械管理者情報の設定」（P.366）を参照してください。
IC カード設定		使用する IC カードの設定や設定内容のバックアップができます。

*:「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

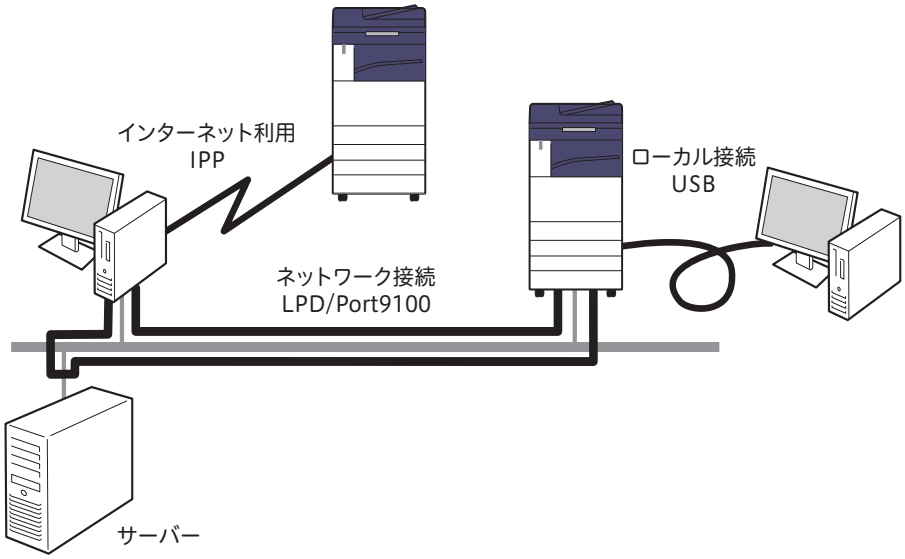
7

プリント機能の設定

プリント機能の概要

本機は、USB ケーブルで直接コンピューターと接続するとローカルプリンターとして、ネットワークを経由するとネットワークプリンターとして使用できます。

使用するポートは、操作パネルや CentreWare Internet Services で［起動］に設定します。



補足

- プリンタードライバーはメディア（ソフトウェア / 製品マニュアル ）に入っています。インストール方法については、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル ）に入っている『メディア情報』を参照してください。
- おまかせセットアップでは Art EX プリンタードライバーがインストールされます。Art EX プリンタードライバー以外のプリンタードライバーは、お好みインストールを実施してください。
- 最新のプリンタードライバーは、弊社公式サイトから入手できます。なお、通信費用はお客様の負担となりますので、ご了承ください。

  次の URL にアクセスして、ダウンロードしてください。
  http://www.fujixerox.co.jp/download/

ローカルプリンターとして使用する場合

■USB 接続

本機とコンピューターを USB ケーブルで直接接続して使用します。

参照

- 詳しくは、「USB での設置」(P.393) を参照してください。

ネットワークプリンターとして使用する場合

次の環境で使用できます。

■LPD

TCP/IP プロトコルを使用し、本機と直接通信できる場合に使用します。

参照

- 詳しくは、「TCP/IP（LPD/Port9100）での設置」(P.395) を参照してください。

■ **IPP**

インターネットを経由してプリントする場合に使用します。

参照

- 詳しくは、「インターネット印刷（IPP）での設置」(P.399) を参照してください。

■ **Port9100**

ポートとして Port9100 を利用している場合に使用します。

参照

- 詳しくは、「TCP/IP（LPD/Port9100）での設置」(P.395) を参照してください。

■ **BMLinkS プリント**

BMLinkS ドライバーを使った BMLinkS プリントサービスが使用できます。

参照

- 詳しくは、「BMLinkS 機能の設定」(P.435) を参照してください。

■ **BMLinkS 保存文書印刷**

BMLinkS ストレージサービスにある文書をプリントします。

参照

- BMLinkS を使用する場合の設定方法は、「BMLinkS 機能の設定」（P.435）を参照してください。
  BMLinkS ストレージサービスに関する設定は、「BMLinkS の設定」(P.437) を参照してください。

各 OS（オペレーティングシステム）で使用できる環境

接続形態		ローカル	ネットワーク				
ポート名		USB 3.0[*1]	LPD	IPP	Port 9100	WSD[*2]	Bonjour
プロトコル		-	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	WSD[*2]	Bonjour
OS	Windows Server 2008	○	○	○	○	×	×
	Windows Server 2008 R2	○	○	○	○	○	×
	Windows Vista	○	○	○	○	○	×
	Windows 7	○	○	○	○	○	×
	Windows 8	○	○	○	○	○	×
	Windows 8.1	○	○	○	○	○	×
	Windows Server 2012	○	○	○	○	○	×
	Windows Server 2012 R2	○	○	○	○	○	×
	Windows 10	○	○	○	○	○	×
	Windows Server 2016	○	○	○	○	○	×
	UNIX	×	○[*3]	×	×	×	×
	Mac OS[*4]	○	○	×	○	×	○

○ ： 使用できる　　× ： 使用できない

*1 :接続するコンピューターに USB のポートが必要です。
*2 :「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。
*3 :PostScript データをプリントする場合は、Adobe PostScript 3 キット（オプション）と UNIX フィルター（エイセル株式会社製）が必要です。
*4 :サポートしている Mac OS の詳細は、主な仕様を参照してください。

USB での設置

USB での設置について説明します。

Step1 事前準備

本機を USB で使用する場合は、次のものが必要です。

- USB ケーブル
- メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）：本体に同梱

Step2 本体側の設定

本機で USB を使用するための、本体側の設定手順について説明します。

補足

- USB を使用して、バイナリーデータを含むデータをプリントするときには、［Adobe 通信プロトコル］を［RAW］に設定する必要があります。詳しくは、「USB」(P.240) を参照してください。
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。詳しくは、「CentreWare Internet Services で設定できる項目」(P.394) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して ［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 USB ポートを起動します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［ポート設定］を押します。

3) ［USB］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) ［USB- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5) ［起動］を選択し、［決 定］を押します。

3 必要に応じて、プリントモードや自動排出時間などを設定します。

参照

- 設定項目は、「USB」(P.240) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足

- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、USB ポートが起動になっていることを確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

Step3 コンピューター側の設定

コンピューター側では、プリンタードライバーをインストールする必要があります。

参照
- 使用できる OS については、「各 OS (オペレーティングシステム) で使用できる環境」(P.392) を参照してください。
- プリンタードライバーのインストール手順については、メディア (ソフトウェア / 製品マニュアル) 内の『メディア情報』を参照してください。
- Mac OS XまたはmacOSをお使いの場合、Mac OS X用プリンタードライバーを使うと、Macintoshからも USB を使用してプリントできます。インストール手順については、メディア (ソフトウェア / 製品マニュアル) 内の Mac 用マニュアルを参照してください。

CentreWare Internet Services で設定できる項目

CentreWare Internet Services を使って、本体側の次の項目を設定できます。

参照
- CentreWare Internet Servicesで設定できる項目については、CentreWare Internet Services画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。
- CentreWare Internet Services の起動方法は、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.384) を参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

- USB インターフェイスで使用する受信バッファのメモリー容量
  ([プロパティ] > [一般設定] > [メモリー設定] > [USB])
- ポート起動
- 自動排出時間
- Adobe 通信プロトコル

補足
- この項目は、Adobe PostScript 3 キット (オプション) を装着した場合だけ、設定します。

- PostScript 印刷待ちタイムアウト (RAW モード)

補足
- この項目は、Adobe PostScript 3 キット (オプション) を装着した場合だけ、設定します。

TCP/IP（LPD/Port9100）での設置

TCP/IP での設置について説明します。

Step1 事前準備

本機を TCP/IP（LPD/Port9100）で使用する場合は、次のものが必要です。

- TCP/IP が使用できるネットワーク環境
- メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）：本体に同梱

Step2 本体側の設定

本機で TCP/IP（LPD/Port9100）を使用するための、本体側の設定手順について説明します。LPD ポート /Port9100 ポートを起動したあと、TCP/IP を設定します。

補足

- CentreWare Internet Services や、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）を使用して、設定することもできます。メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）を使っての設定方法は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内の『メディア情報』を参照してください。

参照

- CentreWare Internet Services で設定できる項目は、「CentreWare Internet Services で設定できる項目」（P.397）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1）〈認証〉ボタンを押します。

2）〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3）メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 LPDを使用する場合はLPDポートを、Port9100を使用する場合はPort9100ポートを起動します。

ここでは LPD ポートを起動する場合を例に説明します。

1）［ネットワーク設定］を押します。

2）［ポート設定］を押します。

3）［LPD］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4）［LPD- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5）［起動］を選択し、［決 定］を押します。

6）［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

この手順は、すでに IP アドレスが設定されている場合は必要ありません。

また、DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定は必要ありません。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.247) を参照してください。

4 Bonjour ポートを起動して、ネットワーク上のプリンターを自動的に検出するディスカバリー機能を有効にできます。

補足
- Bonjour を使用して検出したプリンターでプリントするためには、LPD ポートを起動しておく必要があります。

1) [ネットワーク設定] を押します。

2) [ポート設定] を押します。

3) [Bonjour] を選択し、[確認 / 変更] を押します。

4) [Bonjour- ポート] を選択し、[確認 / 変更] を押します。

5) [起動] を選択し、[決 定] を押します。

5 [仕様設定 / 登録] 画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

6 [閉じる] を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

7 機能設定リストをプリントし、LPD ポートが起動になっていることと、TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

8 必要に応じて、その他の LPD/Port9100 の設定を行ってください。

参照
- 設定項目は、「CentreWare Internet Services で設定できる項目」(P.397) を参照してください。

Step3 コンピューター側の設定

コンピューター側では、プリンタードライバーをインストールする必要があります。

参照
- 使用できる OS については、「各 OS (オペレーティングシステム) で使用できる環境」(P.392) を参照してください。
- プリンタードライバーのインストール手順については、メディア (ソフトウェア / 製品マニュアル) 内の『メディア情報』を参照してください。
- Mac OS XまたはmacOSをお使いの場合、Mac OS X用プリンタードライバーを使うと、Macintoshからも TCP/IP (LPD) を使用してプリントできます。インストール手順については、メディア (ソフトウェア / 製品マニュアル) 内の Mac 用マニュアルを参照してください。
- オプションの Adobe PostScript 3 キットのインストール手順については、メディア (ソフトウェア / 製品マニュアル) に入っている Mac 用マニュアルを参照してください。

CentreWare Internet Services で設定できる項目

CentreWare Internet Services を使って、本体側の次の項目を設定できます。

参照

- CentreWare Internet Servicesで設定できる項目については、CentreWare Internet Services画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。
- CentreWare Internet Services の起動方法は、「CentreWare Internet Services を起動する」（P.384）を参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

- ジョブのスプール先
  （［プロパティ］>［一般設定］>［メモリー設定］>［LPD］）

補足

- この項目は、LPD ポートを選択した場合だけ、設定します。

- Port9100 で使用する受信バッファのメモリー容量
  （［プロパティ］>［一般設定］>［メモリー設定］>［Port9100］）
- ポート起動
- IP 動作モード
- ホスト名
- IPv4 設定
  - IP アドレス取得方法
  - IP アドレス
  - サブネットマスク
  - ゲートウェイアドレス
- IPv6 設定
  - IP アドレスの手動設定
  - IP アドレス
  - リンクローカルアドレス
  - ゲートウェイアドレス
- ドメイン名
- DNS
  - IPv4
  - IPv6
- DHCP/DDNS
- ポート番号
- TBCP フィルター

補足

- この項目は、Adobe PostScript 3 キット（オプション）を装着した場合だけ、設定します。

- タイムアウト
- 最大セッション数

補足

- この項目は、LPD ポートを選択した場合だけ、設定します。

- TCP-MSS モード

- TCP-MSS モード有効時の IPv4 用サブネットマスク
- 受付 IP アドレス制限
  - IPv4
  - IPv6

インターネット印刷（IPP）での設置

インターネット印刷（IPP）での設置について説明します。

補足
- IPP で送信されるデータサイズがプロキシサーバーの設定値より大きい場合、本機側にデータが届きません。プロキシサーバーの設定値を大きくするか、プロキシサーバーを使用しないように設定してください。

Step1 事前準備

本機をインターネット印刷（IPP）で使用する場合は、次のものが必要です。

- TCP/IP が使用できるネットワーク環境
- メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）：本体に同梱

Step2 本体側の設定

本機でインターネット印刷（IPP）を使用するための、本体側の設定手順について説明します。IPP ポートを起動してから、TCP/IP を設定します。

補足
- CentreWare Internet Services や、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）を使用して、設定することもできます。メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）を使っての設定方法は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内の『メディア情報』を参照してください。

参照
- CentreWare Internet Services で設定できる項目は、「CentreWare Internet Services で設定できる項目」（P.400）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1）〈認証〉ボタンを押します。

2）〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3）メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 IPP ポートを起動します。

1）［ネットワーク設定］を押します。

2）［ポート設定］を押します。

3）［IPP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4）［IPP- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5）［起動］を選択し、［決 定］を押します。

6）［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

この手順は、すでに IP アドレスが設定されている場合は必要ありません。

また、DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定は必要ありません。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.247) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、IPP ポートが起動になっていること、および TCP/IP の設定内容を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

7 必要に応じて、その他の IPP の設定を行います。

参照
- 設定項目は、「CentreWare Internet Services で設定できる項目」(P.400) を参照してください。

Step3 コンピューター側の設定

コンピューター側には、プリンタードライバーをインストールする必要があります。

参照
- 使用できる OS については、「各 OS（オペレーティングシステム）で使用できる環境」(P.392) を参照してください。
- プリンタードライバーのインストール手順については、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内の『メディア情報』を参照してください。

CentreWare Internet Services で設定できる項目

CentreWare Internet Services を使って、本体側の次の項目を設定できます。

参照
- CentreWare Internet Services で設定できる項目については、CentreWare Internet Services 画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。
- CentreWare Internet Services の起動方法は、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.384) を参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

- ジョブのスプール先
  （［プロパティ］>［一般設定］>［メモリー設定］>［IPP］）
- ポート起動
- 追加ポート番号

- TBCP フィルター

補足

- この項目は、Adobe PostScript 3 キット（オプション）を装着した場合だけ、設定します。

- 管理者モード
- DNS 使用
- タイムアウト

8

メール機能の設定

メール機能の概要

本機は、メールを送受信できます。

メールを送受信することで、次の機能を利用できます。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

スキャナー（メール送信）

本機でスキャンした原稿を電子データにし、メールで送信できます。

スキャナー（URL 送信）

本機で認証したユーザーがスキャンした原稿を電子データにして、ハードディスクに保存し、保存場所を示す URL をメールで送信します。スキャン文書は送信されません。

インターネットファクス

通常のファクス通信と異なり、電話回線を経由せず、企業内ネットワークやインターネットを経由して、本機で読み取ったデータなどを電子メールの添付文書として送受信できます。

メール本文のプリントは、CentreWare Internet Services の［インターネットファクス受信メールシートのプリント］の設定に応じて処理されます。

メールプリント

コンピューターや携帯電話などから本機に、文書を添付したメールを送信、転送できます。添付できる文書は、TIFF 形式、PDF 形式、JPEG（JFIF）形式、XPS 形式（Microsoft XPS フォーマット、OpenXPS フォーマット）、XDW 形式（DocuWorks 文書）、XBD 形式（DocuWorks バインダー文書）です。

メール本文のプリントは、CentreWare Internet Services の［受信メールシートのプリント］の設定に応じて処理されます。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

メール通知（消耗品の状態通知）

CentreWare Internet Services の［機械状態のメール通知設定］で設定した内容（消耗品の状態、交換部品の状態、用紙の状態など）を指定された宛先へメールで通知できます。トナーやドラムカートリッジの状態を定期的に、または交換間近のタイミングで通知しますので、タイムリーに交換時期を把握できます。

宛先は、機械管理者、または共用のアドレスを登録することをお勧めします。

ジョブの終了通知

ジョブの終了を通知するには、次のような方法があります。必要に応じて、ネットワーク管理者などの通知先のアドレスを登録してください。

■ジョブ終了をメールで通知

プリンタードライバーを使って、プリントしたときや、直接ファクスしたときに、そのジョブが終了したことをメールで通知できます。詳しくは、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

■ ジョブ終了時のメール通知設定

本機で実行されたジョブの結果をメールで通知できます。詳しくは、「ジョブ終了時のメール通知設定」(P.207) を参照してください。

■ メール通知

親展ボックスに文書蓄積時、およびジョブフローの終了時にメールで通知できます。詳しくは、「メール通知」(P.344) を参照してください。

事前準備

メール機能を利用する前に、次の項目の準備が必要です。

参照

- インターネットファクス機能を利用する前の準備は、「事前準備」(P.457) を参照してください。

■本機で設定

項目	説明	スキャナー（メール送信）	スキャナー（URL送信）	メールプリント		メール通知	ジョブの終了通知
				SMTP受信	POP3受信		
TCP/IP アドレス	本機のTCP/IPアドレスです。メールは、TCP/IP で通信します。	○	○	○	○	○	○
サブネットマスク	ネットワークをサブネットで分割して使用している場合は必要です。	△	△	△	△	△	△
ゲートウェイアドレス	複数のネットワークをゲートウェイを介して使用している場合は必要です。	△	△	△	△	△	△
本体メールアドレス	本機のメールアドレスを設定します。	○	○	○	○	○	○
DNS サーバー アドレス	POP3サーバーやSMTPサーバーのアドレスを、IP アドレスではなくドメイン名形式で設定した場合は必要です。DHCP から取得することもできます。	△	△	△	△	△	△
SMTP サーバーアドレス	本機のメール送信では、SMTP サーバーを使用します。メール受信でも使用できます。	○	○	○	△	○	○
SMTP AUTH ログイン名、パスワード	認証が必要な SMTP サーバーの場合、認証用のユーザー名を指定します。必要に応じてパスワードを設定します。	△	△	△	△	△	△
POP3 サーバーアドレス	POP3サーバーのアドレスを設定します。	△	△	×	○	△	△
POP3ログイン名、パスワード	POP 受信用のユーザー名を設定します。必要に応じてパスワードを設定します。	△	△	×	○	△	△
S/MIME*	S/MIME を設定します。	△	−	△	△	−	−

○：設定が必要です　△：必要に応じて設定します　×：設定の必要はありません　−：対応していません

*:ApeosPort シリーズだけです。

補足

- S/MIME で暗号化やデジタル署名をつけてメールの送受信を行うには、あらかじめ証明書が必要です。詳しくは、「メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定」(P.476) を参照してください。

■サーバーで設定

補足
- サーバー側の設定については、システム管理者に確認してください。

項目	説明	スキャナー（メール送信）	スキャナー（URL送信）	メール受信プリント		メール通知	ジョブの終了通知
				SMTP受信	POP3受信		
本体メールアドレス	本機でメールを利用するには、あらかじめメールサーバーにメールアカウントを登録する必要があります。	○	○	○	○	○	○
ホスト名	IPアドレスとともに、DNS サーバーに登録しておきます。	△	△	△	△	△	△
ドメイン名		△	△	△	△	△	△

○：設定が必要です　△：必要に応じて設定します

設定手順

本機でメール機能を利用するための、設置手順の概要について説明します。

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定

メールポートを起動して、IP アドレスなどを設定します。

補足
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services の設定」(P.381) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 メール機能で使用するポートを起動します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［ポート設定］を押します。

3) ［メール送信］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) ［メール送信 - ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5) ［起動］を選択し、［決定］を押します。

6) ［閉じる］を押します。

7) メールプリントを使用する場合は、同様に［メール受信］の［メール受信 - ポート］を［起動］に設定します。

8) メール通知、ジョブの終了通知を使用する場合は、同様に［メール通知サービス］の［メール通知サービス - ポート］を［起動］に設定します。

9) ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

すでに IP アドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得できないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.247) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、ポートの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

Step2 メール環境の設定

メールを使用するために、メールの各項目を設定します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定項目は「CentreWare Internet Services で設定できる項目」(P.412) を参照してください。
- CentreWare Internet Services の起動方法は、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.384) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 本機のメールアドレスを設定します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［本体メールアドレス / ホスト名］を押し、項目を設定します。

参照
- 詳しくは、「本体メールアドレス / ホスト名」(P.252) を参照してください。

3) ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 受信プロトコルを設定します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［その他の設定］を押します。

3) ［メール受信プロトコル］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) 環境に合わせて、［SMTP］、［POP3］から選択します。

5) ［決定］を押します。

6) ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

4 受信の設定をします。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) [メール送受信設定] を押します。

■[メール受信プロトコル] で [SMTP] を選択した場合

SMTP サーバーの設定をします。

参照
- SMTP サーバーの設定については、「SMTP サーバー設定」(P.261) を参照してください。
- SMTP 受信をする場合の本体メールアドレスの設定については、「本体メールアドレス / ホスト名」(P.252) を参照してください。

■[メール受信プロトコル] で [POP3] を選択した場合

POP3 サーバーの設定をします。

参照
- POP3 サーバーの設定については、「POP3 サーバー設定」(P.260) を参照してください。
- POP3 受信をする場合の本体メールアドレスの設定については、「本体メールアドレス / ホスト名」(P.252) を参照してください。

補足
- POP3サーバーの設定でPOP over SSLをONするとメールの受信が暗号化されます。POP over SSL は CentreWare Internet Services を使用して設定することができます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.385) を参照してください。

5 送信の設定をします。

補足
- メールの送信には、SMTP サーバーの設定が必要です。[メール受信プロトコル] で [POP3] を選択した場合は、[メール送受信設定] で SMTP サーバーを設定してください。詳しくは、「SMTP サーバー設定」(P.261) を参照してください。
- POP3 受信をする場合の本体メールアドレスの設定については、「本体メールアドレス / ホスト名」(P.252) を参照してください。

6 [仕様設定 / 登録] 画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

7 必要に応じて、ドメインによる送受信制限を設定します。

参照
- 詳しくは、「送受信ドメインの制限」(P.274) を参照してください。

8 S/MIME についての設定をします。

1) [ネットワーク設定] を押します。

2) [セキュリティ設定] を押します。

3) [S/MIME 設定] を押して、項目を設定します。

参照
- 詳しくは、「S/MIME 設定」(P.269) を参照してください。

9 [仕様設定 / 登録] 画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

10 [閉じる] を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

11 機能設定リストをプリントし、各項目が設定されていることを確認します。

参照

- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

CentreWare Internet Services で設定できる項目

CentreWare Internet Services を使って、本体側の次の項目を設定できます。

参照

- CentreWare Internet Servicesで設定できる項目については、CentreWare Internet Services画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。
- CentreWare Internet Services の起動方法は、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.384) を参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

- 本体メールアドレス
- メール通知設定
- ポートの起動
- SMTP サーバー設定
- POP3 サーバー設定
- 受信プロトコル
- ドメインによる送受信制限
- S/MIME 設定

9

スキャン機能の設定

スキャン機能の概要

本機ではスキャン機能が利用できます。

スキャン機能を利用すると、次の機能を利用できます。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

スキャナー (メール送信)

本機でスキャンした原稿を電子データにして、メールで送信できます。

参照

- 詳しくは、「メール機能の設定」(P.403) を参照してください。

スキャナー (ボックス保存)

データとして取り込みたい原稿を本機で読み込んで（スキャンして)、本機の親展ボックスに蓄積します。蓄積された文書は、ネットワークに接続しているコンピューターから取り出すことができます。

参照

- 詳しくは、「スキャナー (ボックス保存) の設定」(P.416) を参照してください。

スキャナー (PC 保存)

本機をネットワーク環境に接続し、FTP プロトコルや SMB プロトコルを使用して、ネットワーク上のコンピューターにスキャンデータを保存できます。

データとして取り込みたい原稿を本機で読み込んで（スキャンして)、ネットワークに接続しているコンピューターに保存します。

参照

- 詳しくは、「スキャナー (PC 保存) の設定」(P.418) を参照してください。

スキャナー（マイフォルダ保存）

本機の認証方式が外部認証モードで、CentreWare Internet Services を使って、［スキャナー（マイフォルダ保存)］を［起動］にすると、認証ユーザーに応じて異なる転送先にスキャン文書を転送できます。

「スキャナー（PC 保存)」の機能の一部で、［スキャナー（PC 保存)］から操作します。

参照

- 詳しくは、「スキャナー（マイフォルダ保存）の設定」(P.421) を参照してください。

スキャナー (USB メモリー保存)

本機のパネル前面の USB メモリー差込口に USB メモリーを挿入して、スキャンデータを直接 USB メモリーに保存できます。また、USB メモリー内に保存されたデータを選択して、直接プリントすることもできます。

参照

- 詳しくは、「スキャナー (USB メモリー保存) の設定」(P.427) を参照してください。

ジョブフロースキャン

スキャン原稿を対象として登録されたジョブフローを利用してスキャンできます。ジョブフローは、ネットワーク上にあるコンピューターから Device Setup（デバイス設定ツール）を使って登録できます。

参照
- 詳しくは、「ジョブフローの設定」(P.428) を参照してください。

BMLinkS ネットワーク保存

スキャンした文書を BMLinkS ストレージサービスへ保存できます。

参照
- 詳しくは、「BMLinkS 機能の設定」(P.435) を参照してください。BMLinkS ストレージサービスの設定については、「BMLinkS 設定」(P.330) を参照してください。

スキャナー（URL 送信 ）

本機でスキャンした原稿を電子データにして、本機のハードディスクに保存し、保存場所を示す URL をメールで送信します。スキャン文書は送信されません。

補足
- スキャナー（URL 送信 ）をするには、認証の設定が必要です。

参照
- 詳しくは、「スキャナー（URL 送信 ）の設定」(P.430) を参照してください。

スキャナー（WSD）

本機にセットした原稿をコンピューターからの操作でスキャンし、保存できます。また本機で、ネットワーク上にあるコンピューターを選択してスキャンデータを保存することもできます。

補足
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

参照
- 詳しくは、「スキャナー（WSD）の設定」(P.432) を参照してください。

スキャナー（ボックス保存）の設定

スキャナー（ボックス保存）について説明します。

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定

WebDAV プロトコルに対応している弊社製のネットワークスキャナーユーティリティ 3（ネットワークスキャナードライバー、親展ボックスビューワー 3）を使用する場合、SNMP、SOAP、WebDAV ポートを起動し、IP アドレスなどを設定します。

注記

- WebDAV を使用するときは［SSL/TLS 設定］の［HTTP-SSL/TLS 通信］を有効にすることをお勧めします。パスワード漏えいの抑止に効果があります。

補足

- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services の設定」（P.381）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1）〈認証〉ボタンを押します。

2）〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3）メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 ポートを起動します。

1）［ネットワーク設定］を押します。

2）［ポート設定］を押します。

3）［SNMP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4）［SNMP- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5）［起動］を選択し、［決定］、［閉じる］を押します。

6）［SOAP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

7）［SOAP- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

8）［起動］を選択し、［決定］、［閉じる］を押します。

9）［WebDAV］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

10）［WebDAV- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

11）［起動］を選択し、［決定］を押します。

12）［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

すでに IP アドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得できないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.247) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、WebDAV ポートの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

Step2 親展ボックスの登録

スキャンデータを保存する親展ボックスを登録します。

参照
- 親展ボックスの登録手順は、「ボックス登録」(P.332) を参照してください。

Step3 コンピューター側の設定

ネットワークスキャナユーティリティ 3 を使用する場合は、ネットワークスキャナユーティリティ 3 をコンピューターにインストールします。

参照
- ネットワークスキャナユーティリティ 3 は、メディア (ソフトウェア / 製品マニュアル) に入っています。インストール手順は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内の『メディア情報』を参照してください。
- ネットワークスキャナユーティリティ 3 を使用する場合は、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コンピューターからの操作」を参照してください。

スキャナー（PC 保存）の設定

スキャナー（PC 保存）の設定について説明します。

Step1 事前準備

本機でスキャナー（PC 保存）機能を使用するには、あらかじめ次の環境が必要です。

FTP で使用する場合

FTP 転送で使用する場合は、あらかじめ次の FTP サーバーと、FTP サーバーへのアカウント（ログイン名とパスワード）の登録が必要です。

- Microsoft Windows Server 2008、Microsoft Windows Server 2008 R2、Microsoft Windows Server 2012、Microsoft Windows Server 2012 R2、Microsoft Windows Server 2016、Microsoft Windows Vista、Microsoft Windows 7、Microsoft Windows 8、Microsoft Windows 8.1、Microsoft Windows 10 の場合

  Microsoft Internet Information Server 7.0 以降の FTP サービス

- Mac OS X の場合

  Mac OS X 10.6、Mac OS X 10.7 Lion、OS X 10.8 Mountain Lion、OS X 10.9 Mavericks、OS X 10.10 Yosemite、OS X 10.11 El Capitan 、macOS 10.12 Sierra の FTP サービス *

  * 日本語のファイル名、ユーザー名、ディレクトリー名は使用できません。

参照

- 各 FTP サービスの設定は、ソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。
- Mac OS X 10.7 Lion 以降の Mac OS X または macOS を利用する場合、FTP サービスの設定方法は、Apple Japan 社の公式ホームページをご参照ください。

SMB で使用する場合

SMB 転送する場合は、あらかじめ共有フォルダー機能が利用できる、次の OS のコンピューターが必要です。

Mac OS X の場合は、共有できるユーザーアカウントが、Mac OS X 上に必要です。

- Microsoft Windows Server 2008
- Microsoft Windows Server 2008 R2
- Microsoft Windows Server 2012
- Microsoft Windows Server 2012 R2
- Microsoft Windows Server 2016
- Microsoft Windows Vista
- Microsoft Windows 7
- Microsoft Windows 8
- Microsoft Windows 8.1
- Microsoft Windows 10
- Mac OS X 10.6、Mac OS X 10.7 Lion、OS X 10.8 Mountain Lion、OS X 10.9 Mavericks、OS X 10.11 El Capitan、macOS 10.12 Sierra

Step2 ポートの起動と TCP/IP の設定

スキャナー（PC 保存 ）を使用するためにポート（SMB、FTP クライアント）を起動し、IP アドレスなどを設定します。本機で設定する手順を説明します。

補足

- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services の設定」（P.381）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1）〈認証〉ボタンを押します。

2）〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3）メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 ポートを起動します。

■SMB プロトコルを使用する場合

SMB ポートを起動します。

1）［ネットワーク設定］を押します。

2）［ポート設定］を押します。

3）［SMB クライアント］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4）［SMB クライアント - ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5）［起動］を選択し、［決定］を押します。

6）［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

■FTP プロトコルを使用する場合

FTP ポートを起動します。

1）［ネットワーク設定］を押します。

2）［ポート設定］を押します。

3）［FTP クライアント］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4）［FTP クライアント - ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5）［起動］を選択し、［決定］を押します。

6）［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

すでに IP アドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得でき

ないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.247) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、SMB クライアントポートと FTP クライアントの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

Step3 コンピューター側の設定

コンピューターに転送先のフォルダーを作成します。

FTP で使用する場合

ログインするサーバーに転送先のフォルダーを作成し、書き込み権限を設定します。

SMB で使用する場合

コンピューター上にフォルダーを作成し、共有フォルダーに設定します。共有フォルダーに書き込み権限を設定します。

補足
- Mac OS X で SMB を使用する場合は、システム環境設定にある［共有］の［サービス］タブで［Windows ファイル共有サービス］を［入］に設定する必要があります。

スキャナー（マイフォルダ保存）の設定

スキャナー（マイフォルダ保存）の設定について説明します。

補足
- この機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

Step1 事前準備

スキャナー（マイフォルダ保存）とは、本機の認証モードが外部認証のときに、認証ユーザーに応じて異なる転送先にスキャン文書を転送できる機能です。スキャナー（マイフォルダ保存）を利用するには、次の環境が必要です。

外部認証システム

スキャナー（マイフォルダ保存）を利用するには、外部認証システムが必要です。

参照
- 外部認証システムについては、「認証システム」（P.262）を参照してください。

転送先のコンピューター

転送先のコンピューターには、次の OS が必要です。

Mac OS X の場合は、共有できるユーザーアカウントが、Mac OS X 上に必要です。

- Microsoft Windows Server 2008
- Microsoft Windows Server 2008 R2
- Microsoft Windows Server 2012
- Microsoft Winodws Server 2012 R2
- Microsoft Winodws Server 2016
- Microsoft Windows Vista
- Microsoft Windows 7
- Microsoft Windows 8
- Microsoft Windows 8.1
- Microsoft Windows 10
- Mac OS X 10.6、Mac OS X 10.7 Lion、OS X 10.8 Mountain Lion、OS X 10.9 Mavericks、OS X 10.11 El Capitan、macOS 10.12 Sierra

Step2 SMB ポートの起動と TCP/IP の設定

スキャナー（マイフォルダ保存）を使用するために SMB ポートを起動し、IP アドレスなどを設定します。本機で設定する手順を説明します。

補足
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services の設定」（P.381）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1）〈認証〉ボタンを押します。

2)〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 SMB ポートを起動します。

1)［ネットワーク設定］を押します。

2)［ポート設定］を押します。

3)［SMB クライアント］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4)［SMB クライアント - ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5)［起動］を選択し、［決　定］を押します。

6)［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

すでに IP アドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得できないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.247) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、SMB クライアントポートの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

Step3 外部認証の設定

本機の認証モードを外部認証に設定します。

補足
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services の設定」(P.381) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1)〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 認証モードを外部認証に設定します。

1) ［認証 / セキュリティ設定］を押します。

2) ［認証の設定］を押します。

3) ［認証方式の設定］を押します。

4) ［外部認証］を選択し、［決 定］を押します。

5) ［はい (変更 / 削除)］を押します。

6) ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 使用する外部認証サーバーの設定をします。

［Kerberos（Windows2000）］、［Kerberos（Solaris）］、［LDAP］、［SMB］、または［Authentication Agent］が設定できます。

補足

- 外部認証サーバーに、ApeosWare Management Suite を使用する場合は、［Authentication Agent］を選択してください。

参照

- 外部認証サーバーの設定については、「認証システム」(P.262) を参照してください。

1) ［仕様設定］を押します。

2) ［ネットワーク設定］を押します。

3) ［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］を押します。

4) ［認証システムの設定］を押します。

5) ［認証システム］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

6) 使用する外部認証サーバーを選択し、［決 定］を押します。

7) ［閉じる］を押します。

補足

- 選択した外部認証サーバーに認証などの設定をしていないときは、［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］で設定してください。［LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定］は、選択した外部認証サーバーにかかわらず設定が必要です。
  - Kerberos サーバー設定については、「Kerberos サーバー設定」(P.262) を参照してください。
  - LDAP サーバー/ ディレクトリサービス設定については、「LDAP サーバー/ ディレクトリサービス設定」(P.263) を参照してください。
  - SMB サーバー設定については、「SMB サーバー設定」(P.267) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、外部認証サーバー / ディレクトリサービスの設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」（P.135）を参照してください。

Step4 スキャナー（マイフォルダ保存）の設定

CentreWare Internet Services を使用して、スキャナー（マイフォルダ保存）を設定します。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」（P.384）を参照してください。

2 スキャナー（マイフォルダ保存）の機能を有効にします。

1) ［プロパティ］タブをクリックします。

2) ［サービス設定］をクリックします。

3) ［スキャナー（マイフォルダ保存）］をクリックします。

4) ［一般］をクリックします。

5) ［状態］で、［起動］にチェックを付けます。

6) 転送時に転送先を変更できるようにする場合は、［転送先の変更制限］の［変更可能］にチェックを付けます。

補足
- ここでチェックを付けておくと、スキャナー（マイフォルダ保存）実行時に、操作パネルで転送先フォルダーを変更できます。チェックを付けないと、転送先を手順 3 で指定したフォルダーから変更できません。

3 転送先のフォルダーを指定します。

■LDAP（ディレクトリサービス）サーバーの情報を使用して、認証ユーザーごとに指定されたフォルダーに転送する場合

1) ［起点フォルダの決定方法］の［LDAP によって決定］にチェックを付けます。

初期設定では、LDAP（ユーザー情報管理）サーバーに登録されたユーザーの、ユーザープロファイルの［homeDirectory］に指定されているフォルダーが転送先に指定されています。

補足
- 転送先フォルダーを変更する場合は、［LDAP の起点フォルダ設定］をクリックして、［ホームディレクトリ］に、転送先フォルダーの設定をした属性型名を入力し、［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。
- ［LDAP の起点フォルダ設定］をクリックして表示される［LDAP ユーザーの関連付け］画面は、［プロパティ］>［ネットワーク設定］>［プロトコル設定］>［LDAP］>［LDAP ユーザーの関連付け］で表示される画面と同じです。

■LDAP（ディレクトリサービス）サーバーの情報を使用しないで、CentreWare Internet Services で設定したフォルダーに転送する場合

1) ［起点フォルダの決定方法］の［システムデータによって決定］にチェックを付けます。

2) ［ホームディレクトリのパス］に、転送先のフォルダー名を入力します。

フォルダー名は、UNC 形式（例：\\ サーバー名 \ 共有名 \ フォルダー名 \ フォルダー名 2）で入力してください。

4 手順 3 で設定したフォルダーの下にサブフォルダーを指定する場合は、次の設定を行ってください。

1) サブフォルダーを作成するときは、［サブフォルダの自動作成］にチェックを付け、［サブフォルダ名］に作成するサブフォルダー名を入力します。

2) 認証時のユーザー名をサブフォルダー名として使用するときは、［パス名へのユーザー名の付加］にチェックを付けます。

3) ［パス名へのユーザー名の付加］にチェックを付けた場合、［ユーザー名フォルダがなければ自動作成］にチェックを付けると、ユーザー名フォルダーが存在しない場合には、自動的に作成されます。

4) ［サブフォルダの自動作成］、［パス名へのユーザー名の付加］の両方にチェックを付けた場合は、［パス名のルール］で、サブフォルダー、ユーザー名のどちらを先の階層にするかを指定します。

5 転送先のコンピューターにアクセスするときの認証情報を指定します。

■認証時のログインユーザー名にドメイン名を付加する場合

1) ［認証ユーザーのドメイン使用］の［有効］にチェックを付けます。

■本機に認証する際に利用したユーザー情報とドメイン情報で転送先のコンピューターにアクセスする場合

1) ［保存時に使用する認証情報］の［認証ユーザーとドメイン］にチェックを付けます。

■本機に認証する際に利用したユーザー情報で転送先のコンピューターにアクセスする場合

1) ［保存時に使用する認証情報］の［認証ユーザー］にチェックを付けます。

■CentreWare Internet Service で本機に設定したログイン名とパスワードで転送先のコンピューターにアクセスする場合

1) ［保存時に使用する認証情報］の［既定の認証情報］にチェックを付けます。

2) ［ログイン名］と［パスワード］に転送先コンピューターの認証情報を設定します。［ログイン名］は半角 97 文字、または全角 48 文字＋半角 1 文字以内で入力します。［パスワード］は半角 32 文字、または全角 16 文字以内で入力します。［パスワードの確認入力］は［パスワード］の内容を再入力します。

補足

- ログイン名を全角 48 文字＋半角 1 文字以内で設定するときの半角 1 文字には、ユーザー名とドメインを連結する「@」や「\」を入力します。

6 ［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。

Step 5 コンピューター側の設定

転送先のコンピューターに転送先フォルダーを作成して、共有フォルダーに設定し、書き込み権限を設定します。

補足

- Mac OS X を使用する場合は、システム環境設定にある［共有］の［サービス］タブで［Windows ファイル共有サービス］を［入］に設定する必要があります。

スキャナー（USB メモリー保存）の設定

スキャナー（USB メモリー保存）について説明します。

使用できる USB メモリーの条件

スキャナー（USB メモリー保存）とは、本機のパネル前面の USB メモリー差込口に USB メモリーを挿入して、スキャンデータを直接 USB メモリーに保存できます。

- 最大容量 128G バイトまでの USB メモリー
- FAT12、FAT16、FAT32、VFAT（ロングネーム）対応の USB メモリー

補足

- ソフトウェアによって暗号化された USB メモリーは、使用できません。

CentreWare Internet Services で設定できる項目

CentreWare Internet Services を使用して、スキャナー（USB メモリー保存）機能を有効 / 無効に切り替えができます。無効に設定すると、メニュー画面にスキャナー（USB メモリー保存）が表示されなくなり、利用できません。

参照

- CentreWare Internet Services で設定できる項目については、CentreWare Internet Services 画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。
- CentreWare Internet Services の起動方法は、「CentreWare Internet Services を起動する」（P.384）を参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

ジョブフローの設定

ジョブフローの設定について説明します。

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定

ジョブフローサービスを使用するために SOAP ポート、SNMP ポート、インターネットサービスポートを起動し、IP アドレスなどを設定します。本機で設定する手順を説明します。

補足

- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services の設定」(P.381) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 SOAP ポートを起動します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［ポート設定］を押します。

3) ［SOAP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) ［SOAP- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5) ［起動］を選択し、［決定］を押します。

6) ［ポート設定］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 SNMP ポートを起動します。

1) ［SNMP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

2) ［SNMP- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

3) ［起動］を選択し、［決定］を押します。

4) ［ポート設定］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5) 同様に、インターネットサービス（HTTP）ポートを起動します。

6) ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

4 IP アドレスなどを設定します。

すでに IP アドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得でき

ないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

補足
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.247) を参照してください。

5 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

6 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

7 機能設定リストをプリントし、SOAP ポート、SNMP ポート、インターネットサービス（HTTP）ポートの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

Step2 SNMP ポートの設定

CentreWare Internet Services を使用して、SNMP ポートのトランスポートプロトコルを設定します。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.384) を参照してください。

2 SNMP の設定をします。

1) ［プロパティ］タブをクリックします。

2) ［ネットワーク設定］をクリックします。

3) ［ポート起動］をクリックします。

4) ［SNMP］の［UDP］のチェックを付けます。

5) ［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。

6) Web ブラウザーの右フレームが、本機を再起動する表示に変わります。

7) ［再起動］をクリックします。本機が再起動し、設定した値が反映されます。

Step3 コンピューター側の設定

Device Setup（デバイス設定ツール）を使って、スキャン文書を対象としたジョブフローを作成します。

補足
- Device Setup（デバイス設定ツール）は、弊社公式サイトの ApeosWare Management Suite（アペオスウエア マネージメント スイート）からダウンロードできます。

スキャナー（URL 送信 ）の設定

スキャナー（URL 送信）機能について説明します。

注記
- メール送信時、メールシートに記載された URL を含む本文は、暗号化されず、パスワードによる認証なしでユーザーがスキャン文書を取り出すことができます。そのため、メール伝送経路上で何らかの手段によって文書格納先の URL が漏洩した場合、漏洩先を追跡できません。ほかの人に読まれることを防ぐには、スキャンするときに［スキャナー（URL 送信 ）］画面の［他の出力ファイル形式］で、PDF または、DocuWorks ファイル形式を選び、セキュリティ設定でパスワードを設定してください。

補足
- スキャナー（URL 送信 ）をするには、認証の設定が必要です。

Step1 メールの設定

本体でメールの設定をします。

参照
- 詳しくは、「メール機能の設定」（P.403）を参照してください

Step2 認証の設定

本体で認証の設定をします。

参照
- 詳しくは、「認証するための設定」（P.501）を参照してください。

Step3 その他の設定

必要に応じて、次の項目を設定してください。

- URL 送信の文書保存期間
- URL 送信の URL 生成方法
- URL 送信の最大蓄積サイズ
- 認証ユーザー名の記載（PDF）

参照
- URL 送信の文書保存期間は、「URL 送信の文書保存期間」（P.291）を参照してください。
- URL 送信の URL 生成方法は、「URL 送信の URL 生成方法」（P.292）を参照してください。
- URL 送信の最大蓄積データサイズは、「URL 送信の最大蓄積サイズ」（P.292）を参照してください。
- 認証ユーザー名の記載については、「認証ユーザー名の記載（PDF）」（P.292）を参照してください。

Step 4 CentreWare Internet Services で設定できる本体側の項目

CentreWare Internet Services を使って、次の項目を設定できます。

- 文書保存期間
- URL 生成方法
- 最大データサイズ
- 件名
- 本文
- 送信者情報

- 添付
- 本体情報
- 署名

参照

- CentreWare Internet Servicesで設定できる項目については、CentreWare Internet Services画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。
- CentreWare Internet Services の起動方法は、「CentreWare Internet Services を起動する」（P.384）を参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

スキャナー（WSD）の設定

スキャナー（WSD）について説明します。

補足
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

Step1 事前準備

本機でスキャナー（WSD）機能を使用するには、あらかじめ次の環境が必要です。

- 保存先のコンピューターには、次の OS が必要です。
  - Microsoft Windows 10
  - Microsoft Windows 8.1
  - Microsoft Windows 8
  - Microsoft Windows 7
  - Microsoft Windows Vista Service Pack 2

補足
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

Step2 ポートの起動

スキャナー（WSD）を使用するために WSD スキャナーポートを起動します。本機で設定する手順を説明します。

補足
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services の設定」（P.381）を参照してください。
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1）〈認証〉ボタンを押します。

2）〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3）メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 ポートを起動します。

1）［ネットワーク設定］を押します。

2）［ポート設定］を押します。

3）［WSD］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4）［WSD スキャン - ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5）［起動］を選択し、［決定］を押します。

6）［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

4 機能設定リストをプリントし、WSD ポートの設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」（P.135）を参照してください。

Step3 コンピューター側での確認

転送先のコンピューターで、本機がネットワーク上のデバイスとして表示されていることを確認します。

Windows Vista の場合、［コントロールパネル］>［ハードウェアとサウンド］>［スキャナとカメラ］を選択（Windows 7 の場合、［コントロールパネル］>［デバイスとプリンターの表示］を選択、Windows 8、Windows 8.1 と Windows 10 の場合、［コントロールパネル］>［ハードウェアとサウンド］>［デバイスとプリンター］を選択）して、表示される画面で、本機の機種名が表示されていることを確認します。

スキャンプロファイルで、カラーモードや解像度、保存するファイル形式など設定し、登録しておくと便利です。

参照
- 詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。

補足
- Windows VistaのHome BasicまたはHome Premiumをご利用の場合、[Windows FAX とスキャン］を使用したスキャン指示はできません。［ペイント］の［カメラまたはスキャナから取り込み］などを使ってスキャン指示ができます。

10

BMLinkS 機能の設定

BMLinkS 機能の概要

BMLinkS 対応機器と BMLinkS ソフトウェアを使うと、弊社の異機種間や、他社の BMLinkS 対応機で、それぞれ固有のドライバーをインストールすることなくプリントやスキャンができます。

また、BMLinkS に対応機器を自動で検索できるので、プリンターやスキャン文書を保存するコンピューターを指定するのに便利です。

参照

- BMLinkS の使用方法は、「BMLinkS 設定」(P.330) を参照してください。

BMLinkS プリント

BMLinkS 対応プリンターなら、機種およびメーカーを問わずプリントできます。印刷データの暗号化や認証プリント、出力可能な機器の検索なども利用できます。使用するには、プリンタードライバーが必要です。プリンタードライバーとマニュアルを次のアドレスからダウンロードしてください。

http://bmlinks-committee.jbmia.or.jp/

ネットワーク保存

本機でスキャンしたデータをコンピューターのハードディスクに保存できます。保存した文書の閲覧するには、BMLinkS ドキュメントビューアが必要です。
BMLinkS ドキュメントビューアを次のアドレスからダウンロードしてください。

http://bmlinks-committee.jbmia.or.jp/

補足

- この機能は、お使いの機種によっては利用できません。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

保存文書印刷

コンピューターのハードディスクに保存されている文書を呼び出して、本機からプリントできます。

BMLinkS は、JBMIA が推進しているオフィス機器インターフェイスです。

本機は、仕様環境 BMLinkS 2013 に準拠し、JBMIA による BMLinkS 認証を受けています。

BMLinkS 機能名：プリント・ネットワーク保存・保存文書印刷

BMLinkS の設定

BMLinkS について説明します。

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定

BMLinkS を使用するために、BMLinkS ポート、SOAP ポートを起動し、IP アドレスなどを設定します。本機で設定する手順を説明します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.385) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 BMLinkS ポートを起動します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［ポート設定］を押します。

3) ［BMLinkS］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) ［BMLinkS- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5) ［起動］を選択し、［決 定］を押します。

6) ［ポート設定］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 SOAP ポートを起動します。

1) ［SOAP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

2) ［SOAP- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

3) ［起動］を選択し、［決定］を押します。

4) ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

4 IP アドレスなどを設定します。

すでに IP アドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得できないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.247) を参照してください。

5 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

6 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

7 機能設定リストをプリントし、BMLinkS ポート、SOAP ポートの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」（P.135）を参照してください。

Step2 SSDP プロトコルの設定

CentreWare Internet Services を使用して、SSDP プロトコルを設定します。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」（P.384）を参照してください。

2 SSDP の設定をします。

1）［プロパティ］タブをクリックします。

2）［ネットワーク設定］をクリックします。

3）［プロトコル設定］をクリックします。

4）［SSDP］をクリックします。

5）［アドバタイズ有効期間］を設定します。

BMLinkS クライアントに対して、本機が起動したことを知らせる時間を 60 ～ 4320 分の範囲で、1 分単位で設定します。

補足
- 設定した時間の 1/4 の間隔で、本機の状態を通知します。
- 時間を短く設定すると、本機の状態を短い間隔で知ることができますが、ネットワークへの負荷は高くなります。

6）［最大 TTL］を設定します。BMLinkS クライアントに対して、ルーターを介して、いくつ先のネットワークまで本機が起動したことを知らせるかを、1 ～ 10 の範囲で設定します。

7）［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。Web ブラウザーの右フレームが、本機を再起動する表示に変わります。

8）［再起動］をクリックします。本機が再起動し、設定した値が反映されます。

Step3 仕様設定

BMLinkS ストレージサービスを使用する場合は、必要に応じて BMLinkS の仕様を設定します。

参照
- 詳しくは、「BMLinkS 設定」（P.330）を参照してください。

11

IP ファクス（SIP）の設定

IP ファクス（SIP）の概要

IP ファクス（SIP）とは、国際基準 ITU-T 勧告 T.38 に準拠したインターネットファクスの総称です。

IP ファクス（SIP）を利用すると、企業内の IP ネットワーク（イントラネット）に接続された機器同士で通信したり、NTT が提供するひかり対応ゲートウェイを経由して、次世代ネットワーク（NGN）対応機種同士で通信することができます。

注記

- NGN とは、Next Generation Network の略称です。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

企業内の IP ネットワーク（イントラネット）を利用する

企業内の IP ネットワーク（イントラネット）を経由して、イントラネットに接続された機器同士で文書の送受信ができます。イントラネット内では、文書の送受信による通信費がかからないため、本社と各拠点間などの通信に適しています。また、イントラネット内の VoIP ゲートウェイを経由すれば、イントラネットの外へ送信する場合でも通信費を削減できます。

補足

- IP ファクス（SIP）機の通信は、イントラネット内に設置された弊社、および株式会社リコーの SIP 対応 IP ファクス搭載複合機種間で交信性を確認しています。対応機については、弊社の営業担当者にお尋ねください。

必要な条件

- IP ファクス（SIP）キットが装着されていること
- 本機が社内ネットワークに接続されていること

必須ではありませんが、次の機器も使用できます。

- SIP サーバー
- VoIPゲートウェイ（公衆電話回線網に接続されたG3ファクス機と送受信する場合）

補足

- SIP サーバーと VoIP ゲートウェイについては、システム管理者にお尋ねください。

システム構成ごとの設定内容

本機で IP ファクス（SIP）を使用するには、次の情報を設定する必要があります。

	ポートの起動と TCP/IP の設定	SIP 本体アドレスの設定	ファクス環境の設定	SIP サーバーの設定	VoIP ゲートウェイの登録
IP ファクス（SIP）機のみの場合	○	○	○	×	×
SIP サーバーだけ設置した場合	○	○	○	○	×
VoIP ゲートウェイだけ設置した場合	○	○	○	×	○
SIP サーバーと VoIP ゲートウェイを設置した場合	○	○	○	○	○

○：設定が必要です。　×：設定は不要です。

イントラネットを利用するための設定

本機をイントラネット上で IP ファクス（SIP）機能を利用するための設定について説明します。

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定

IP ファクス（SIP）で使用するポートを起動して、IP アドレスなどを設定します。本機で設定する手順について説明します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」（P.385）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1）〈認証〉ボタンを押します。

2）〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3）メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 IP ファクス（SIP）で使用するポートを起動します。

1）［ネットワーク設定］を押します。

2）［ポート設定］を押します。

3）［SIP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4）［SIP- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5）［起動］を選択し、［決 定］を押します。

6）［ネットワーク設定］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 ［プロトコル設定］で本機の IP アドレスなどを設定します。
すでに IP アドレスやホスト名が設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得できないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」（P.247）を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、ポートの起動、TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

Step2 SIP 本体アドレスの設定

SIP 本体アドレスを設定します。本機で設定する手順について説明します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.385) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 SIP 本体アドレスを設定します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［SIP 設定］を押します。

3) ［SIP 本体アドレス］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) 本機の SIP 本体アドレスを入力し、［決定］を押します。

参照
- SIP 本体アドレスについては、「SIP 設定」(P.256) を参照してください。

3 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

4 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

5 機能設定リストをプリントし、SIP 本体アドレスの設定を確認します。

補足
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

Step3 ファクス環境の設定

IP ファクス（SIP）に関連するファクス機能を設定します。本機で設定する手順について説明します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.385) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1)〈認証〉ボタンを押します。

2)〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 ［ファクス / インターネットファクス］画面の表示に関する項目を設定します。

1)［ファクス設定］を押します。

2)［ファクス機能設定初期値］を押します。

3) 必要に応じた設定をして、［閉じる］を押します。

参照
- 詳しくは、「ファクス画面表示設定」（P.293）を参照してください。

3 ファクス機能の初期値を設定します。

1)［ファクス機能設定初期値］を押します。

2) 必要に応じた設定をして、［閉じる］を押します。

参照
- 詳しくは、「ファクス機能設定初期値」（P.294）を参照してください。

4 ファクスの動作を設定します。

1)［ファクス動作制御］を押します。

2) 必要に応じた設定をして、［閉じる］を押します。

参照
- 詳しくは、「ファクス動作制御」（P.295）を参照してください。

5 自局の情報を設定します。

1)［ファクス機能設定初期値］を押します。

2) 必要に応じた設定をして、［閉じる］を押します。

参照
- 詳しくは、「自局情報」（P.306）を参照してください。

6 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

7 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

8 機能設定リストをプリントし、ファクスの設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」（P.135）を参照してください。

Step4 SIP サーバーの設定

経由する SIP サーバーの IP アドレス、認証ユーザー名、パスワードなどを設定します。本機で設定する手順について説明します。

SIP サーバーを経由して IP ファクス（SIP）通信する場合に設定します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.385) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 SIP サーバーについて設定します。

参照
- 詳しくは、「SIP 設定」(P.256) を参照してください。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［SIP 設定］を押します。

3) ［SIP サーバーの使用］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) ［する］を選択し、［決 定］を押します。

5) ［SIP サーバーアドレス取得方法］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

6) 取得方法を選択し、［決 定］を押します。

7) ［SIP プロキシサーバー設定］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

8) IP アドレス、ポート番号、認証用ユーザー名、認証用パスワード、サーバー種別などを設定します。

補足
- ［SIP サーバーアドレス取得方法］で、［DHCP から取得］または［DHCPv6 から取得］を選択している場合でも、ポート番号、認証用ユーザー名、認証用パスワード、サーバー種別の設定は必要です。

9) ［SIP レジストラサーバー設定］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

10) IP アドレス、ポート番号、認証用ユーザー名、認証用パスワード、サーバー種別などを設定します。

補足
- ［SIP サーバーアドレス取得方法］で、［DHCP から取得］または［DHCPv6 から取得］を選択している場合でも、ポート番号、認証用ユーザー名、認証用パスワード、サーバー種別の設定は必要です。

11) ［閉じる］を押します。

3 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

4 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

5 機能設定リストをプリントし、SIP サーバーの設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

Step5 VoIP ゲートウェイの登録

経由する VoIP ゲートウェイを登録します。本機で設定する手順について説明します。

公衆電話回線網に接続された G3 ファクス機と IP ファクス（SIP）通信する場合に設定します。

VoIP ゲートウェイは 50 個まで設定できます。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 VoIP ゲートウェイについて設定します。

参照
- 詳しくは、「VoIP ゲートウェイ登録」(P.259) を参照してください。

1)［ネットワーク設定］を押します。

2)［SIP 設定］を押します。

3)［VoIP ゲートウェイ登録］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) 登録する VoIP ゲートウェイを選択し、［確認 / 変更］を押します。

5)［識別番号］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

6) 識別番号を設定し、［決 定］を押します。

7)［アドレス］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

8) VoIP ゲートウェイの IP アドレスを設定し、［決 定］を押します。

9)［決 定］を押します。

10) VoIP ゲートウェイを複数設定するときは、手順 4 ～ 9 を繰り返します。

11)［閉じる］を押します。

3 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

4 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

5 機能設定リストをプリントし、VoIP ゲートウェイの設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

次世代ネットワーク（NGN）を利用する

次世代ネットワーク（NGN）とは、従来の公衆電話回線網がもつ信頼性や安定性を確保しながら、IP ネットワークの柔軟性や経済性を取り入れた、次世代の情報通信ネットワークです。

NTT が提供する「フレッツ　光ネクスト」のひかり対応ゲートウェイを経由して、IP ファクス（SIP）NGN 通信が可能になります。

補足

- NGN 通信ができる対応機については、弊社の営業担当者にお尋ねください。送信相手が NGN に対応していない場合は、G3 ファクス通信することもできます。

必要な条件

- IP ファクス（SIP）キットが装着されていること
- NTT と NGN 契約が完了していること

設定内容

本機で次世代ネットワーク（NGN）を使用するには、次の情報を設定する必要があります。

- ポートの起動と TCP/IP の設定
- 次世代ネットワーク（NGN）設定
- SIP サーバーの設定
- ファクス環境の設定

NGN を利用するための設定

本機で次世代ネットワーク（NGN）機能を利用するための設定について説明します。

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定

IP ファクス（SIP）で使用するポートを起動して、IP アドレスなどを設定します。
本機で設定する手順について説明します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」（P.385）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1）〈認証〉ボタンを押します。

2）〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3）メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 IP ファクス（SIP）で使用するポートを起動します。

1）［ネットワーク設定］を押します。

2）［ポート設定］を押します。

3）［SIP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4）［SIP- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5）［起動］を選択し、［決 定］を押します。

6）［ネットワーク設定］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 本機の IP アドレスの取得方法などを設定します。

1）［プロトコル設定］を押します。

2）［TCP/IP- 共通設定］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

3）［IP 動作モード］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4）［IPv4 モード］または［デュアルスタック］を選択し、［決定］を押します。

5）［プロトコル設定］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

6）［TCP/IP- ネットワーク設定］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

7）［IPv4-IP アドレス取得方法］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

8）［DHCP/AutoIP から取得］または［DHCP から取得］を選択し、［決定］を押します

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」（P.247）を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、ポートの起動、TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」（P.135）を参照してください。

Step2 次世代ネットワーク（NGN）設定

次世代ネットワーク（NGN）の設定をします。本機で設定する手順について説明します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」（P.385）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1）〈認証〉ボタンを押します。

2）〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3）メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 次世代ネットワーク（NGN）を利用するための設定をします。

1）［ネットワーク設定］を押します。

2）［次世代ネットワーク（NGN）設定］を押します。

3）［次世代ネットワーク（NGN）接続］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4）［する］を選択し、［決 定］を押します。

5）［発信者 ID 通知］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

6）［する］または［しない］を選択し、［決 定］を押します。

7）［IP ファクス（SIP）最大使用帯域幅］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

8）最大使用帯域幅を設定し、［決 定］を押します。

補足
- 最大使用帯域幅は、NTT のデータ通信向けの料金表を確認して、設定してください。

9）［ファクスによる自動再送信］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

10）［する］または［しない］を選択し、［決 定］を押します。

3 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

4 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

Step3 SIP サーバーの設定

経由する SIP サーバーの設定をします。本機で設定する手順について説明します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.385) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 SIP サーバーについて設定します。

参照
- 詳しくは、「SIP 設定」(P.256) を参照してください。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［SIP 設定］を押します。

3) ［SIP サーバーの使用］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) ［する］を選択し、［決 定］を押します。

5) ［SIP サーバーアドレス取得方法］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

6) ［DHCP から取得］を選択し、［決 定］を押します。

3 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

4 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

5 機能設定リストをプリントし、SIP サーバーの設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

Step4 ファクス環境の設定

IP ファクス（SIP）に関連するファクス機能を設定します。本機で設定する手順について説明します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」（P.385）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1)〈認証〉ボタンを押します。

2)〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 ［ファクス / インターネットファクス］画面の表示に関する項目を設定します。

1)［ファクス設定］を押します。

2)［ファクス画面表示設定］を押します。

3) 必要に応じた設定をして、［閉じる］を押します。

参照
- 詳しくは、「ファクス画面表示設定」（P.293）を参照してください。

3 ファクス機能の初期値を設定します。

1)［ファクス機能設定初期値］を押します。

2) 必要に応じた設定をして、［閉じる］を押します。

参照
- 詳しくは、「ファクス機能設定初期値」（P.294）を参照してください。

4 ファクスの動作を設定します。

1)［ファクス動作制御］を押します。

2) 必要に応じた設定をして、［閉じる］を押します。

参照
- 詳しくは、「ファクス動作制御」（P.295）を参照してください。

5 自局の情報を設定します。

1)［自局情報］を押します。

2) 必要に応じた設定をして、［閉じる］を押します。

参照
- 詳しくは、「自局情報」（P.306）を参照してください。

6 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

7 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

8 機能設定リストをプリントし、ファクスの設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

12

インターネットファクスの設定

インターネットファクスの概要

インターネットファクス機能では、通常のファクス通信と異なり、電話回線を使用しません。企業内ネットワークやインターネットを経由して、本機で読み取ったデータなどを電子メールの添付文書として送信できます。また、インターネットファクス対応機から送信されたメールを受信できます。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

参照

- インターネットファクスについては、『ユーザーズガイド』(メディア (ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「ファクス」>「インターネットファクスについて」を参照してください。

事前準備

本機でインターネットファクス機能を使用するために必要な条件について説明します。

本機側に必要な条件

- 本機がネットワークに接続され、TCP/IP での通信ができること
- メールの送受信ができる環境が用意されていること

メール環境について

インターネットファクス機能を使用するためには、メール環境として次の項目の準備が必要です。

項目	説明	インターネットファクス		インターネットファクスダイレクト *1
		SMTP 受信	POP3 受信	SMTP 受信
TCP/IP アドレス	本機の TCP/IP アドレスです。 メールは、TCP/IP で通信します。	○	○	○
サブネットマスク	ネットワークをサブネットで分割して使用している場合は必要です。	△	△	△
ゲートウェイアドレス	複数のネットワークをゲートウェイを介して使用している場合は必要です。	△	△	△
本体メールアドレス	本機のメールアドレスを設定します。	○	○	○
DNS サーバーアドレス	POP3 サーバーや SMTP サーバーのアドレスを、IP アドレスではなくドメイン名形式で設定した場合は必要です。DHCP から取得することもできます。	△	△	△
SMTP サーバーアドレス	本機のメール送信では、SMTP サーバーを使用します。メール受信でも使用できます。	○	○	–
SMTPAUTH ログイン名、パスワード	認証が必要な SMTP サーバーの場合、認証用のユーザー名を設定します。必要に応じてパスワードを設定します。	△	△	–
POP3サーバーアドレス	POP3 サーバーのアドレスを設定します。	–	○	–
POP3 ログイン名、パスワード	POP 受信用のユーザー名を設定します。必要に応じてパスワードを設定します。	–	○	–
S/MIME 設定 *2	S/MIME を設定します。	△	△	△

○：設定が必要です　△：必要に応じて設定します　ー：対応していません

*1 :インターネットファクスダイレクトを使用する場合、［仕様設定］>［ファクス設定］>［インターネットファクス動作制御］>［送信経路］を［ダイレクト（P2P)］に設定する必要があります。

*2 :ApeosPort シリーズだけです。

参照

- S/MIME で暗号化やデジタル署名をつけてインターネットファクスの送受信を行うには、あらかじめ証明書が必要です。詳しくは、「メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定」(P.476) を参照してください。

設定手順

本機でインターネットファクス機能を利用するための設置手順について説明します。

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定

インターネットファクス機能を使用するために、メール機能で使用するポートを起動して、IP アドレスなどを設定します。本機で設定する手順について説明します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.385) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 メール機能で使用するポートを起動します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［ポート設定］を押します。

3) ［メール受信］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) ［メール受信 - ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5) ［起動］を選択し、［決 定］を押します。

6) ［閉じる］を押します。

7) 同様に、［メール送信］の［メール送信 - ポート］を［起動］に設定します。

8) ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。
すでに IP アドレスやホスト名が設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得できないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.247) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、ポートの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

Step2 メール環境の設定

メールを使用するために、メールの各項目を設定します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services で設定できる項目」(P.412) を参照してください。
- CentreWare Internet Services の起動方法は、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.384) を参照してください。

1 [仕様設定 / 登録] 画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、[確定] を押します。
パスワードを入力する場合は、[次へ] を押し、機械管理者のパスワードを入力して [確定] を押します。

3) メニュー画面の [仕様設定 / 登録] を押します。

2 本機のメールアドレスを設定します。

1) [ネットワーク設定] を押します。

2) [本体メールアドレス / ホスト名] を押して、項目を設定します。

補足
- 詳しくは、「本体メールアドレス / ホスト名」(P.252) を参照してください。

3) [仕様設定 / 登録] 画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

3 受信プロトコルを設定します。

1) [ネットワーク設定] を押します。

2) [その他の設定] を押します。

3) [メール受信プロトコル] を選択し、[確認 / 変更] を押します。

4) 環境に合わせて、[SMTP]、[POP3] から選択します。

5) [決 定] を押します。

6) [仕様設定 / 登録] 画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

4 受信の設定をします。

1) [ネットワーク設定] を押します。

2) [メール送受信設定] を押します。

- [メール受信プロトコル] で [SMTP] を選択した場合

SMTP サーバーの設定をします。

参照
- SMTP サーバーの設定については、「SMTP サーバー設定」(P.261) を参照してください。
- SMTP 受信をする場合の本体メールアドレスの設定については、「本体メールアドレス / ホスト名」(P.252) を参照してください。

- ［メール受信プロトコル］で［POP3］を選択した場合

  POP3 サーバーの設定をします。

参照
- POP3 サーバーの設定については、「POP3 サーバー設定」(P.260) を参照してください。
- POP3 受信をする場合の本体メールアドレスの設定については、「本体メールアドレス / ホスト名」(P.252) を参照してください。

補足
- POP3サーバーの設定でPOP over SSLをONするとメールの受信が暗号化されます。POP over SSL は CentreWare Internet Services を使用して設定することができます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.385) を参照してください。

3) ［閉じる］を押します。

5 送信の設定をします。

補足
- メールの送信には、SMTP サーバーの設定が必要です。［メール受信プロトコル］で［POP3］を選択した場合は、［メール送受信設定］で SMTP サーバーを設定してください。詳しくは、「SMTP サーバー設定」(P.261) を参照してください。

6 必要に応じて、送受信ドメインの制限を設定します。

参照
- POP3 サーバーの設定については、「送受信ドメインの制限」(P.274) を参照してください。

7 S/MIME についての設定をします。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［セキュリティ設定］を押します。

3) ［S/MIME 設定］を押して、項目を設定します。

参照
- 詳しくは、「S/MIME 設定」(P.269) を参照してください。

8 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

9 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

10 機能設定リストをプリントし、各項目が設定されていることを確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

Step3 インターネットファクステスト

本機からコンピューターにインターネットファクスできるかどうかをテストします。

1 メニュー画面で［ファクス / インターネットファクス］を押し、［ファクス / インターネットファクス］画面を表示します。

2 ドロップダウンメニューから［インターネットファクス］を表示します。

3 宛先を入力します。

4 〈スタート〉ボタンを押して送信します。

5 コンピューターで受信できたかどうかを確認します。

参照

- 受信できない場合は、「トラブル対処」（P.513）を参照してください。

13

暗号化と署名機能の設定

暗号化と署名機能の概要

証明書の種類

本機で暗号化と署名機能を利用するには、証明書が必要になります。

使用できるデバイス証明書は次のとおりです。

- CentreWare Internet Services を使用して作成した自己証明書（有効期限は、1 から 9999 日の範囲で指定可能）
- 他の認証局で作成された証明書

補足

- 他の認証局で作成された証明書を使用する場合、使用する証明書のパスに含まれるすべての認証局の証明書をインポートする必要があります。

他の認証局で作成された証明書を使用する場合は、CentreWare Internet Services で本機にインポートしてください。

インポートできる証明書の規格は次のとおりです。

- X.509 証明書（DER/PEM）（デバイス証明書以外）
- PKCS#7（DER）（デバイス証明書以外）
- PKCS#12（DER）（デバイス証明書）

参照

- 証明書のインポートについては、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

暗号化の種類ごとに使用できるデバイス証明書、暗号化の種類ごとに設定できる証明書の条件、および証明書の設定を Windows で確認する方法は、次のとおりです。

暗号化の種類により使用できるデバイス証明書

	自己証明書	他の認証局で作成された証明書
クライアントから本機への HTTP 通信を暗号化する（SSL/TLS サーバー）	○	○
本機から外部サーバーへの HTTP 通信を暗号化する（SSL/TLS クライアント）	×	○
IPsec を使用して暗号化する	×	△ *1
メールのデジタル署名 / 暗号化通信をする	×	○
PDF 署名 /DocuWorks 署名 /XPS*2 署名をする	○	○

○ : 使用できる

△ : 必要に応じて使用する

× : 使用できない

*1 :［IKE 認証方式］が［デジタル署名による認証］の場合に使用します。
*2 :「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

暗号化の種類により設定できる証明書の条件

	鍵用途（V3 拡張領域に本項目がある場合のみ）		拡張鍵用途（V3 拡張領域に本項目がある場合のみ）			メールアドレス
	鍵暗号	デジタル署名	サーバー認証	クライアント認証	電子メール保護	
クライアントから本機への HTTP 通信を暗号化する（SSL/TLS サーバー）	○	○	○	-	-	-
本機から外部サーバーへの HTTP 通信を暗号化する（SSL/TLS クライアント）	○	○	-	○	-	-
IPsec を使用して暗号化す	-	○	-	-	-	-
メールのデジタル署名 / 暗号化通信をする	○	○	-	-	○	○
PDF 署名 /DocuWorks 署名 /XPS* 署名をする	○	○	-	-	-	-

*:「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

証明書の設定を Windows で確認する方法

証明書の設定を Windows で確認するには、証明書ファイルを開き、［詳細］タブで各フィールドを以下の通り確認してください。

鍵暗号	［キー使用法］に「Key Encipherment」がある
デジタル署名	［キー使用法］に「Digital Signature」がある
サーバー認証	［拡張キー使用法］に「サーバー認証」がある
クライアント認証	［拡張キー使用法］に「クライアント認証」がある
電子メール保護	［拡張キー使用法］に「電子メール保護」がある
メールアドレス	［サブジェクト］に「E=（メールアドレス）」が含まれている。または、［サブジェクトの別名］に「RFC822 Name=（メールアドレス）」が含まれている

証明書の状態

証明書を使用するには、証明書の状態が有効である必要があります。証明書の状態を確認するには、CentreWare Internet Services の［プロパティ］>［セキュリティー］>［証明書管理］>［証明書の詳細画面］から、［有効期間の確認］を確認してください。

証明書の状態	説明	原因	対処
有効	証明書に問題はありません。	-	-

証明書の状態	説明	原因	対処
有効（期限切れ間近）	証明書に問題はありませんが、有効期間終了まで1ヶ月をきっています。	-	-
無効（有効期間開始前）	証明書がまだ有効期間内ではありません。	証明書の有効期間開始が本機の時刻より前です。	証明書の有効期間開始時刻を確認してください。または、本機の時刻が正しく設定されているかどうか確認してください。*
無効（有効期間終了）	証明書の有効期間内が終了しました。	証明書の有効期間終了が本機の時刻より後です。	証明書の有効期間開始時刻を確認してください。または、本機の時刻が正しく設定されているかどうか確認してください。*
証明書の発行者が不明	証明書パスの構築に失敗しました。	証明書パスを構築するのに必要なCA 証明書がインポートされていません。	証明書パスに含まれるルート CA までのすべての CA 証明書を本機にインポートしてください。
失効	この証明書は失効しています。	失効確認の結果、この証明書は失効しています。	失効していない証明書を使用してください。
失効確認に失敗	失効確認に失敗しました。	ネットワーク通信エラーなど、何らかの原因で失効確認に失敗しました。	失効確認の設定やネットワーク設定、本機の通信状態などを確認してください。
署名検証に失敗	証明書の署名検証に失敗しました。	証明書または署名が不正です。	証明書が正しいか確認してください。

*:Windows の場合は、証明書ファイルを開き、［詳細］タブから［有効期間の開始］を確認してください。

通信の暗号化機能

本機とデータを送受信する場合、データを暗号化できます。

クライアントから本機への HTTP 通信を暗号化する（SSL/TLS サーバー）

本機の HTTP サーバーを利用するポートには、SOAP ポート、インターネットサービス（HTTP）ポート、IPP ポート、WebDAV ポートがあります。

クライアントから本機への HTTP 通信の暗号化には、SSL/TLS プロトコルを使用します。

補足

- SSL サーバー用証明書としてインポートする証明書に V3 拡張（KeyUsage）がある場合には、鍵暗号のビットがオンに設定されている必要があります。「証明書の設定を Windows で確認する方法」（P.465）を参照してください。

通信を暗号化するには、デバイス証明書として、自己証明書または他の認証局で作成された証明書が使用できます。

参照

- 設定の手順については、「HTTP の通信を暗号化するための設定」（P.469）を参照してください。

補足

- HTTP の通信を暗号化することによって、IPP でプリントするときに通信データを暗号化（SSL 暗号化通信）できます。

本機から外部サーバーへの HTTP の通信を暗号化する（SSL/TLS クライアント）

本機から外部サーバーへの HTTP 通信の暗号化には、SSL/TLS プロトコルを使用します。

通常、証明書を設定する必要はありませんが、外部サーバーが SSL クライアント証明を要求する設定の場合には、他の認証局で作成された証明書が使用できます。

また、サーバー証明書の検証を有効にして外部サーバーの SSL/TLS サーバー証明書を検証する場合には、その証明書パスに含まれる上位の認証局の証明書を CentreWare Internet Services を使用して本機にインポートしてください。

補足

- SSL クライアント用証明書としてインポートする証明書に V3 拡張（KeyUsage）がある場合には、デジタル署名のビットがオンに設定されている必要があります。Windows での確認方法は「証明書の設定を Windows で確認する方法」（P.465）を参照してください。

IPsec を使用し暗号化する

IPsec を使用して本機と暗号化通信ができます。アプリケーションに関係なく、IP レベルでの暗号化が行われます。

［IKE 認証方式］が［デジタル署名］の場合は、他の認証局で作成されたデバイス証明書が必要です。

［IKE 認証方式］が［事前共有鍵］の場合は、デバイス証明書は必要ありません。

補足

- IPsec 用証明書としてインポートする証明書に V3 拡張（Key-Usage）がある場合には、デジタル署名のビットがオンに設定されている必要があります。Windows での確認方法は「証明書の設定を Windows で確認する方法」（P.465）を参照してください。

参照

- IKE 認証方式については、「IPsec 設定」（P.271）を参照してください。
- 設定の手順については、「IPsec を使用して暗号化するための設定」（P.473）を参照してください。

また、通信相手装置の検証をする場合には、相手側の他の認証局で作成された証明書（上位の CA 証明書）を本機に登録しておく必要があります。

デジタル署名 / 暗号化通信をする

メールのデジタル署名 / 暗号化通信には、S/MIME を使用します。本機で S/MIME を使用する場合は、本機の S/MIME 証明書が必要です。

S/MIME 証明書には、他の認証局で作成された証明書を使用します。

暗号化通信を行うには、送信先の個人証明書またはデバイス証明書、本機のデバイス証明書が必要です。

補足

- S/MIME の個人証明書およびデバイス証明書には、メールアドレス、および V3 拡張（KeyUsage）がある場合は、デジタル署名と鍵信号のビットがオンに設定されている必要があります。また、V3 拡張（ExtendedKeyUsage）がある場合は、「電子メール保護」が設定されている必要があります。Windows での確認方法は「証明書の設定を Windows で確認する方法」（P.465）を参照してください。

参照

- 設定の手順については、「メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定」（P.476）を参照してください。

スキャン文書の暗号化と署名機能

PDF や DocuWorks 文書の暗号化の設定

PDF、DocuWorks 文書を暗号化して、パスワードを入力しないとファイルを開けないように設定できます。

参照

- 詳しくは、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「スキャン」>「スキャナー（メール送信）」>「出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）」を参照してください。

PDF/DocuWorks/XPS 文書の署名の設定

PDF、DocuWorks、XPS 文書にデジタル署名を付けることができます。

デジタル署名を使用する場合は、デバイス証明書が必要です。

デバイス証明書は、他の認証局で作成された証明書を使用します。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
- デジタル署名用の証明書としてインポートする証明書に V3 拡張（KeyUsage）がある場合には、デジタル署名のビットがオンに設定されている必要があります。Windows での確認方法は「証明書の設定を Windows で確認する方法」（P.465）を参照してください。
- この機能は、ApeosPort シリーズの場合のみ利用できます。

参照

- 設定の手順については、「PDF 署名 /DocuWorks 署名 /XPS 署名をするための設定（ApeosPort シリーズのみ）」（P.482）を参照してください。

HTTP の通信を暗号化するための設定

HTTP の通信を暗号化するための設定について説明します。

設置手順の概要

HTTP の通信を暗号化する場合は、次の手順で設定を行います。

本体側の設定

本機に証明書を設定します。証明書は、本体出荷時には、本機に登録されていません。必要に応じて、SSL サーバー用証明書を設定します。

証明書を設定する方法は、次のとおりです。

- CentreWare Internet Services で証明書を設定する

  証明書の種類によって、次の 2 つの方法があります。

  - 本機で自己証明書を生成して、HTTPS を有効にします。
  - HTTPS を有効にして、本機に他の認証局で作成された証明書をインポートします。

コンピューター側の設定

Web ブラウザーと本機の通信を暗号化する場合には、Web ブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力します。

Step1 本体側の設定

本機に証明書を設定します。証明書は、本体出荷時には、本機に登録されていません。必要に応じて、SSL サーバー用証明書を設定します。

CentreWare Internet Services で証明書を設定する場合

CentreWare Internet Services で証明書を設定するには、自己証明書（SSL サーバー用）を生成する場合と、他の認証局で作成された証明書を本機にインポートする場合があります。

ここでは、自己証明書（SSL サーバー用）を生成する場合について説明します。

参照

- 他の認証局で作成された証明書のインポートについては、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。
- 本体で生成した自己証明書、または証明書の文字コードが UTF-8 で記載された証明書を使って SSL 通信を行う場合、Mac OS X 10.2 以降の OS 環境で Internet Explorer を利用すると、SSL で接続できません。これは、証明書の文字コード（UTF-8）を OS が認識できないためです。上記 OS 環境でご利用の場合は、Netscape 7 を使用してください。
- 証明書をインポートするときに、［本体］または［その他］のどちらかのカテゴリーに、すでに同じ証明書が登録されている場合は、インポートできません。登録されている証明書を削除してから、インポートしてください。

■自己証明書（SSL サーバー用）を生成する場合

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」（P.384）を参照してください。

2 証明書を生成します。

1)［プロパティ］タブをクリックします。

2)［セキュリティー］をクリックします。

3)［証明書の設定］をクリックします。

4)［証明書の作成］ボタンをクリックします。

5)［自己証明書］を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。

6)［デジタル署名の方式］を必要に応じて設定します。

7)［公開鍵のサイズ］を必要に応じて設定します。

8)［発行者］を必要に応じて設定します。

9)［有効期間］を必要に応じて設定します。

10)［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。

11)Web ブラウザーの再読み込みを行います。

3 SSL/TLS の設定をします。

1)［セキュリティー］をクリックします。

2)［SSL/TLS 設定］をクリックします。

3)［HTTP - SSL/TLS 通信］の［有効］にチェックを付けます。

注記
- SSL サーバー用の証明書が正しく設定されていないとチェックを付けられません。チェックが付けられない場合は、［プロパティ］>［セキュリティー］>［証明書の設定］を確認し、SSL サーバー用の証明書を正しく設定して下さい。

4)［HTTP - SSL/TLS 通信ポート番号］を設定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

5)［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。

6) Web ブラウザーの右フレームが、本機を再起動する表示に変わったら、［再起動］をクリックします。本機が再起動し、設定した値が反映されます。

■他の認証局で作成された証明書を本機にインポートする場合

他の認証局で作成された証明書を本機にインポートする前に、自己証明書を生成し、HTTP 通信を暗号化するよう設定してください。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

2 証明書をインポートします。

1) [プロパティ] タブをクリックします。

2) [セキュリティー] をクリックします。

3) [証明書の設定] をクリックします。

4) [証明書のインポート] をクリックします。

5) [パスワード] にインポートする証明書に設定されたパスワードを入力します。

6) [確認用パスワード] を入力します。

7) インポートするファイル名を直接入力するか、[参照] ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスでインポートするファイルを選択し、[保存] をクリックします。

8) [インポート] ボタンをクリックします。

9) Web ブラウザーの再読み込みを行います。

3 証明書を設定します。

1) [セキュリティー] をクリックします。

2) [証明書管理] をクリックします。

3) [カテゴリー] で [本体] を、[証明書の目的] で [SSL サーバー] を選択し、[一覧の表示] ボタンを押します。

4) 設定する証明書にチェックを付けます。

注記
- 設定したい証明書が一覧に表示されない場合は、「暗号化の種類により設定できる証明書の条件」(P.465) を参照し、証明書の条件が満たされているかどうか確認してください。

5) [証明書の表示] ボタンをクリックします。

6) [証明書の選択] ボタンをクリックします。

注記
- 証明書が有効でない場合には、[証明書の選択] ボタンが表示されません。「証明書の状態」(P.465) を参照し、証明書が有効になるように設定してください。

7) [再起動] をクリックします。本機が再起動し、設定した値が反映されます。

Step2 コンピューター側の設定

Web ブラウザーと本機の通信を暗号化する場合には、Web ブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力します。

- IP アドレスの入力例

  https://192.0.2.1/（IPv4 の場合）

  https://[2001:DB8::1234]/（IPv6 の場合）
- インターネットアドレスの入力例

  https://myhost.example.com/

IPP の通信（インターネット印刷）を暗号化する場合には、［プリンタの追加］からプリンターを追加するときに、プリンターの URL に、「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力します。

参照

- 詳しくは、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内のマニュアルを参照してください。

IPsec を使用して暗号化するための設定

IPsec を使って暗号化するための設定について説明します。

IKE 認証方式が事前共有鍵の場合には、Step1 の「本体側の設定（証明書の設定）」は不要です。Step2 の「本体側の設定（IPsec の設定）」を行ってください。

参照

- IKE 認証方式は、「IPsec 設定」（P.271）を参照してください。

設置手順の概要

IPsec を使った暗号通信をする場合は、次の手順で設定を行います。

本体側の設定

［IKE 方式］が［デジタル署名による認証］の場合には、本機に証明書を設定します。証明書は、本体出荷時には、本機にインポートされていません。IPsec 用証明書をインポートします。インポート後、IPsec の設定をします。

証明書を設定する方法は、次のとおりです。

- CentreWare Internet Services で証明書を設定する
  - HTTPS を有効にして、本機に他の認証局で作成された証明書をインポートします。

補足

- IPsec 用証明書としてインポートする証明書に V3 拡張（KeyUsage）がある場合には、デジタル署名のビットがオンに設定されている必要があります。

コンピューター側の設定

コンピューターと本機の通信を暗号化する場合には、次の設定を行う必要があります。

- IP セキュリティポリシーの作成
- ポリシーの割り当て

Step1 本体側の設定（証明書の設定）

CentreWare Internet Services で証明書を設定する場合の手順について説明します。

CentreWare Internet Services で証明書を設定するには、HTTP の通信を暗号化する設定を行ってから、他の認証局で作成された証明書を本機にインポートして、IPsec 用証明書として設定します。

補足

- 本機にインポート可能な証明書の公開鍵は、RSA® 公開鍵 4096 ビットまでとなります。
- IPsec 用には、CentreWare Internet Services で作成した自己証明書は使用できません。

参照

- HTTP の通信を暗号化する設定方法は、「HTTP の通信を暗号化するための設定」（P.469）を参照してください。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」（P.384）を参照してください。

2 証明書をインポートします。

注記
- 証明書をインポートするときに、［本体］または［その他］のどちらかのカテゴリーに、すでに同じ証明書が登録されている場合は、インポートできません。登録されている証明書を削除してから、インポートしてください。
- IPsec 用証明書としてインポートする証明書に V3 拡張（KeyUsage）がある場合には、デジタル署名のビットがオンに設定されている必要があります。Windows での確認方法は、「証明書の設定を Windows で確認する方法」（P.465）を参照してください。

1）［プロパティ］タブをクリックします。

2）［セキュリティー］をクリックします。

3）［証明書の設定］をクリックします。

4）［証明書のインポート］をクリックします。

5）［パスワード］にインポートする証明書に設定されたパスワードを入力します。

6）［パスワード］を入力します。

7）［確認用パスワード］を入力します。

8）インポートするファイル名を直接入力するか、［参照］ボタンをクリックして表示される、ダイアログボックスでインポートするファイルを選択し、［保存］をクリックします。

9）［インポート］ボタンをクリックします。

10）Web ブラウザーの再読み込みを行います。

3 証明書を設定します。

1）［セキュリティー］をクリックします。

2）［証明書管理］をクリックします。

3）［カテゴリー］で［本体］を、［証明書の目的］で［IP Sec］を選択し、［一覧の表示］ボタンを押します。

4）設定する証明書にチェックを付けます。

5）［証明書の表示］ボタンを押します。

6）［証明書の選択］ボタンを押します。

7）［再起動］をクリックします。本機が再起動し、設定した値が反映されます。

Step2 本体側の設定（IPsec の設定）

本機の操作パネルを使用して、IPsec の設定をする手順について説明します。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

4 ［ネットワーク設定］を押します。

5 ［セキュリティ設定］を押します。

6 ［IPsec 設定］を押します。

7 必要な設定をします。

参照
- 詳しくは、「IPsec 設定」(P.271) を参照してください。

8 ［閉じる］を押します。

Step3 コンピューター側の設定

コンピューター側の設定について説明します。

コンピューター側では次の設定を行う必要があります。

- IP セキュリティポリシーの作成
- ポリシーの割り当て

参照
- 設定方法は、コンピューターにインストールされているヘルプを参照してください。

メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定

メールの暗号化 / デジタル署名するための設定について説明します。

設置手順の概要

メールの暗号化 / デジタル署名をする場合は、次の手順で行います。

補足

- S/MIME を使用してメールの暗号化をする場合には、送信先の個人証明書またはデバイス証明書、本機のデバイス証明書が必要です。証明書には次の設定をします。
  - メールアドレス
  - V3 拡張 (KeyUsage) がある場合には、デジタル署名と鍵信号のビットをオン
  - V3 拡張 (ExtendedKeyUsage) がある場合には、「電子メール保護」
- S/MIME で暗号化できる宛先は、100 件までです。
- Windows での確認方法は「証明書の設定を Windows で確認する方法」(P.465) を参照してください。

本体側の設定

本機に証明書を設定し、S/MIME 通信を有効にします。

本機に証明書を設定します。証明書は、本体出荷時には、本機にインポートされていません。

証明書を設定する方法は、次のとおりです。

- CentreWare Internet Services で証明書を設定する

  HTTP の通信を暗号化する設定を行ってから証明書を設定してください。

送信元と送信先の設定

暗号化 / デジタル署名でメールを送受信するには、送信元および送信先になる機器で、必要な証明書を登録してください。

暗号化 / デジタル署名に必要な証明書の設定は、次のとおりです。

送信元	送信先	暗号化する	デジタル署名をする
		送信元に登録する証明書	送信先に登録する証明書
本機	コンピューター	コンピューターの個人証明書	本機の S/MIME 用デバイス証明書
	他の複合機	他の複合機の S/MIME 用デバイス証明書	本機の S/MIME 用デバイス証明書
コンピューター	本機	本機の S/MIME 用デバイス証明書	コンピューターの個人証明書
他の複合機		本機の S/MIME 用デバイス証明書	他の複合機の S/MIME 用デバイス証明書

Step1 本体側の設定

CentreWare Internet Services で証明書を設定する場合

CentreWare Internet Services で証明書を設定するには、HTTP の通信を暗号化する設定を行ってから、他の認証局で作成された証明書を本機にインポートして、S/MIME を有効にします。

補足
- S/MIME 用には、CentreWare Internet Services で作成した自己証明書は使用できません。

参照
- HTTP の通信を暗号化する設定方法は、「HTTP の通信を暗号化するための設定」(P.469) を参照してください。
- 本機にインポート可能な証明書の公開鍵は、RSA 公開鍵 4096 ビットまでとなります。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.384) を参照してください。

2 証明書をインポートします。

注記
- [本体説明]の[本体メールアドレス]と、証明書に記載されているメールアドレスが一致している必要があります。証明書のメールアドレスを確認するには、「証明書の設定を Windows で確認する方法」(P.465) を参照してください。

補足
- 証明書をインポートするときに、[本体] または [その他] のどちらかのカテゴリーに、すでに同じ証明書が登録されている場合は、インポートできません。登録されている証明書を削除してから、インポートしてください。

1) [プロパティ] タブをクリックします。

2) [本体説明] の [本体メールアドレス] が入力されていることを確認します。

3) [セキュリティー] をクリックします。

4) [証明書の設定] をクリックします。

5) [証明書のインポート] をクリックします。

6) [パスワード] にインポートする証明書に設定されたパスワードを入力します。

7) [パスワード] を入力します。

8) [確認用パスワード] を入力します。

9) インポートするファイル名を直接入力するか、[参照] ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスでインポートするファイルを選択し、[保存] をクリックします。

10) [インポート] ボタンをクリックします。

11) Web ブラウザーの再読み込みを行います。

3 証明書を設定します。

補足
- DocuCentre シリーズの場合は、この手順は不要です。

1) [セキュリティー] をクリックします。

2) [証明書管理] をクリックします。

3) [カテゴリー] で [本体] を、[証明書の目的] で [S/MIME] を選択し、[一覧の表示] ボタンを押します。

4) 設定する証明書にチェックを付けます。

5) [証明書の表示] ボタンを押します。

6) [証明書の選択] ボタンを押します。

7) [再起動] をクリックします。本機が再起動し、設定した値が反映されます。

8) Web ブラウザーの再読み込みを行います。

4 [S/MIME 通信] を [有効] に設定します。

1) [セキュリティー] をクリックします。

2) [SSL/TLS 設定] をクリックします。

3) [S/MIME 通信] の [有効] にチェックを付けます。

4) [新しい設定を適用] ボタンをクリックします。

5) Web ブラウザーの右フレームが、本機を再起動する表示に変わります。

6) [再起動] をクリックします。本機が再起動し、設定した値が反映されます。

5 S/MIME 関連の設定をします。

補足
- DocuCentre シリーズの場合は、この手順は不要です。

1) Web ブラウザーの再読み込みを行います。

2) [セキュリティー] をクリックします。

3) [S/MIME 設定] をクリックし、次の項目を設定します。

- メッセージダイジェスト方式

  使用するメッセージダイジェスト方式を、[SHA-1]、[MD5]、[SHA-256] のどれかに設定します。

- 本文の暗号化方式

  本機からメール送信する場合に、メール本文の暗号化方式を、[3DES]、[RC2-40]、[RC2-64]、[RC2-128]、[AES-128]、[AES-192]、[AES-256] の中から選択します。

- 証明書の自動保存

  宛先表に登録されているメールアドレスから、S/MIME 用証明書が添付されたメールを受信したとき、自動的に証明書を保存するかどうかを設定します。

補足
- 証明書の V3 拡張（KeyUsage）に、デジタル署名と鍵信号のビットがオンに設定されていないと、自動的に証明書を保存する設定にしていても、自動保存されません。また、登録されている宛先にも関連づけされません。

- 信頼できないメールの受信

  期限切れの証明書が添付されたメールや証明書が添付されていないメールなど、信頼できないメールを受信するかしないかを設定します。

- 署名 - メール送信

  本機からメールを送信するときに、常にデジタル署名をするかどうか、または送信するときに選択するかを設定できます。

- 信頼できないインターネットファクスの受信

  期限切れの証明書が添付されたインターネットファクスや証明書が添付されていないインターネットファクスなど、信頼できないインターネットファクスを受信するかしないかを設定します。

- 署名 - インターネットファクス送信

  本機からインターネットファクスを送信するときに、常にデジタル署名をするかどうか、または送信するときに選択するかを設定できます。

4)［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。

Step2 送信元と送信先の設定

暗号化 / デジタル署名でメールを送受信するには、本機にデバイス証明書を登録するだけでは、送受信できません。

送受信するには、機器同士でデバイス証明書や個人証明書を登録しあう必要があります。

それぞれの機器を送信元にした場合、送信元および送信先で必要な証明書と登録方法について説明します。

暗号化 / デジタル署名に必要な証明書の設定については、「送信元と送信先の設定」（P.476）の表を参照してください。

補足
- 証明書は、使用する証明書のパスに登録されている、信頼されたルート証明機関、中間証明機関のすべての登録が必要です。

送信元が本機で送信先がコンピューターの場合

本機にコンピューターの個人証明書を登録するには、CentreWare Internet Services を使用します。

コンピューターに本機のデバイス証明書を登録するには、次の 2 つの方法があります。

- 本機からコンピューターに S/MIME デジタル署名メールを送信し、メールソフトの証明書ストアに登録する

  本機の［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［セキュリティ設定］>［S/MIME 設定］>［署名 - メール送信］で、［常に署名する］または［送信時に選択する］を設定し、本機からメールを送信すると、S/MIME デジタル署名メールが送信されます。

- CentreWare Internet Services を使って、コンピューターに本機の証明書をエクスポートし、メールソフトの証明書ストアに登録する

参照
- CentreWare Internet Services を使った証明書のインポート / エクスポートについては、「CentreWare Internet Servicesを使った証明書のインポート/エクスポートについて」(P.481) または CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
- メールソフトへの証明書の登録方法は、使用しているメールソフトのマニュアルを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

送信元が本機で送信先が他の複合機の場合

本機には、他の複合機のデバイス証明書の登録が必要です。また、他の複合機には、本機のデバイス証明書の登録が必要です。

本機に他の複合機のデバイス証明書を登録するには、コンピューターから他の複合機の CentreWare Internet Services を起動し、いったんコンピューターに証明書をエクスポートします。そのあと、本機の CentreWare Internet Services を起動し、他の機種の証明書をインポートしてください。

他の複合機に本機のデバイス証明書を登録する場合も、同じような操作で登録します。

参照
- CentreWare Internet Services を使った証明書のインポート / エクスポートについては、「CentreWare Internet Servicesを使った証明書のインポート/エクスポートについて」(P.481) または CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

送信元がコンピューターで送信先が本機の場合

コンピューターには、本機のデバイス証明書の登録が必要です。本機には、コンピューターの個人証明書の登録は必要ありません。

コンピューターに本機の証明書を登録するには、次の 2 つの方法があります。

- 本機 (または他の複合機) からコンピューターに S/MIME デジタル署名メールを送信し、メールソフトの証明書ストアに登録する

  本機の［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［セキュリティ設定］>［S/MIME 設定］>［署名 - メール送信］で、［常に署名する］または［送信時に選択する］を設定し、本機からメールを送信すると、S/MIME デジタル署名メールが送信されます。

- CentreWare Internet Services を使って、コンピューターに本機の証明書をエクスポートし、メールソフトの証明書ストアに登録する

参照
- CentreWare Internet Services を使った証明書のインポート / エクスポートについては、「CentreWare Internet Servicesを使った証明書のインポート/エクスポートについて」(P.481) または CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
- メールソフトへの証明書の登録方法は、使用しているメールソフトのマニュアルを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

本機とコンピューターのメール送受信で、動作を確認しているメールソフトは次のとおりです。

- Windows：Microsoft® Outlook® 2007、Microsoft® Outlook® 2010
- OS X Yosemite：Mail8
- OS X El Capitan：Mail9
- macOS Sierra：Mail10

CentreWare Internet Services を使った証明書のインポート / エクスポートについて

証明書をインポートする場合は、［プロパティ］タブ>［セキュリティー］>［証明書の設定］>［証明書のインポート］を選択します。

証明書をエクスポートする場合は、［プロパティ］タブ>［セキュリティー］>［証明書管理］からエクスポートする証明書を選択し、［証明書のエクスポート］ボタンを押します。

参照

- 詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

PDF 署名 /DocuWorks 署名 /XPS 署名をするための設定（ApeosPort シリーズのみ）

スキャンした文書を PDF、DocuWorks、XPS 文書で送信するときに、署名する（PDF 署名 /DocuWorks 署名 /XPS 署名）ための設定について説明します。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

設置手順の概要

スキャンした文書を PDF、DocuWorks、XPS 文書で送信するときに、署名する（PDF 署名 /DocuWorks 署名 /XPS 署名）ためには、次の設定を行います。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

本体側の設定

本機に証明書を設定します。証明書は、本体出荷時には、本機にインポートされていません。

証明書を設定する方法は、次のとおりです。

- CentreWare Internet Services で証明書を設定する

  HTTP の通信を暗号化する設定を行ってから証明書を設定してください。

コンピューター側の設定

- 本機からコンピューターに DocuWorks セキュリティー証明書のファイルを送信する場合

  送信先となるコンピューターの個人証明書を本機に登録し、宛先表に割り当てる必要があります。なお、本機に登録する個人証明書は、ルート証明書を含めた形式にしてください。

  証明書の取り込みについては、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

  注記
  - CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

- 本機からコンピューターに PDF 署名、DocuWorks 署名、XPS 署名ファイルを送信する場合

  送信先のコンピューターに、本機のスキャンファイル署名用証明書のルート証明書が登録されていることを確認してください。

  補足
  - 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

Step1 本体側の設定

CentreWare Internet Services で証明書を設定する場合

CentreWare Internet Services で証明書を設定するには、HTTP の通信を暗号化する設定を行ってから、他の認証局で作成された証明書を本機にインポートして、スキャンファイル署名用証明書として設定します。

参照
- HTTP の通信を暗号化する設定については、「HTTP の通信を暗号化するための設定」（P.469）を参照してください。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」（P.384）を参照してください。

2 証明書をインポートします。

注記
- 証明書をインポートするときに、［本体］または［その他］のどちらかのカテゴリーに、すでに同じ証明書が登録されている場合は、インポートできません。登録されている証明書を削除してから、インポートしてください。

1）［プロパティ］タブをクリックします。

2）［セキュリティー］をクリックします。

3）［証明書の設定］をクリックします。

4）［証明書のインポート］ボタンをクリックします。

5）［パスワード］にインポートする証明書に設定されたパスワードを入力します。

6）［パスワード］を入力します。

7）［確認用パスワード］を入力します。

8）インポートするファイル名を直接入力するか、［参照］ボタンをクリックして表示される、ダイアログボックスでインポートするファイルを選択し、［保存］をクリックします。

9）［インポート］ボタンをクリックします。

10）Web ブラウザーの再読み込みを行います。

3 証明書を設定します。

1）［セキュリティー］をクリックします。

2）［証明書管理］をクリックします。

3）［カテゴリー］で［本体］を選択し、［証明書の目的］で［スキャンファイル］を選択して、［一覧の表示］ボタンを押します。

4）設定する証明書にチェックを付けます。

5）［証明書の表示］ボタンを押します。

6）［証明書の選択］ボタンを押します。

7)［再起動］をクリックします。本機が再起動し、設定した値が反映されます。

4 PDF 署名 /DocuWorks 署名 /XPS 署名関連の設定をします。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

1) Web ブラウザーの再読み込みを行います。

2)［セキュリティー］をクリックします。

3)［PDF/DocuWorks/XPS のセキュリティ / 署名設定］をクリックし、次の項目を設定します。

- DocuWorks 署名

  DocuWorks 文書の署名について、［常に署名しない］、［常に署名する］、［送信時に選択する］から選択します。

注記
- DocuWorks署名のあるDocuWorks文書を開くには、以下のバージョンのDocuWorksが必要です。
  - ［SHA1］を選択した場合、DocuWorks 5.0 以降の各バージョン
  - ［SHA256］を選択した場合、DocuWorks 8.0 以降の各バージョン

- PDF 署名

  PDF の署名について、［常に署名しない］、［常に可視署名する］、［常に不可視署名する］、［送信時に選択する］から選択します。

- PDF 署名ハッシュアルゴリズム

  PDF 署名を行うときのハッシュアルゴリズムについて、［SHA-1］、［SHA-256］から選択します。

- DocuWorks 署名ハッシュアルゴリズム

  DocuWorks　署名を行うときのハッシュアルゴリズムについて、［SHA1］、［SHA256］から選択します。

- XPS 署名

  XPS の署名について、［常に署名しない］、［常に署名する］、［送信時に選択する］から選択します。

4)［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。

Step2 コンピューター側の設定

- 本機からコンピューターに DocuWorks セキュリティー証明書のファイルを送信する場合

  送信先となるコンピューターの個人証明書を本機に登録し、宛先表に割り当てる必要があります。なお、本機に登録する個人証明書は、ルート証明書を含めた形式にしてください。

参照
- 証明書の登録（インポート）については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

- 本機からコンピューターに PDF 署名、DocuWorks 署名、XPS 署名ファイルを送信する場合

送信先のコンピューターに、本機のスキャンファイル署名用証明書のルート証明書が登録されていることを確認してください。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

14

認証と集計管理機能について

認証機能と集計管理機能の概要

認証機能と集計管理機能の概要について説明します。

認証機能を利用すると、本機自体の利用を制限したり、サービスごとに利用を制限したりできます。また、サービスの使用状況をユーザーごとに集計して管理することもできます。

ユーザーの種類について

認証機能を利用しているときは、次の 3 種類のユーザーに分けられます。

補足
- 認証機能を利用していないときは、機械管理者と一般ユーザーに分けられます。

■機械管理者

使用環境に合わせてシステムの設定値を登録 / 変更できるユーザーです。

機械管理者は、機械管理者 ID という特殊な定義の User ID を使用します。

■認証ユーザー

認証機能を使用しているときの、本機または外部のサーバーに登録されているユーザーです。それぞれの User ID を使って認証します。

認証ユーザーの User ID には、使用目的に応じてサブユーザーを関連づけできます。ひとつの User ID には、最大 10 個の Sub User ID を関連づけできます。

補足
- サブユーザーを利用するには、別途アプリケーションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■認証未登録ユーザー

認証機能を使用しているときの、登録されていないユーザーです。

認証未登録ユーザーは、利用が制限されているサービスを利用できません。

管理の権限と権限グループについて

本機でユーザーごとに管理の権限や権限グループを設定できます。

外部サーバーを利用しているユーザーの場合は、ApeosWare Management Suite（別売）または LDAP で設定できます。LDAP を利用する場合は、CentreWare Internet Services で設定します。

注記
- 本体認証でネット集計管理の場合、ユーザーに権限グループを指定できないため、強制印字の一時解除などの権限グループに設定した機能を使用できません。

管理の権限

認証ユーザーごとの管理の権限を設定できます。指定したユーザーに機械管理者や集計管理者の権限を持たせることができます。

■機械管理の権限

次の例外を除いて、機械管理者と同じ権限が与えられます。

- 親展ボックスへの操作はできない
- ジョブフローへの操作はできない

- 機械管理者のパスワード変更はできない

■集計管理の権限

次の権限が与えられます。

- ユーザー登録情報の登録、削除、変更（パスワードのみ変更不可）、参照（設定により操作できないことがあります）
- 集計管理の登録、削除、変更、参照
- Account ID の代替表記 /Account ID の入力表示の変更
- ユーザー別集計管理レポートのプリント

権限グループ

次の制限に対する操作を許可する権限をグループ分けして、認証ユーザーを登録できます。権限グループに属したユーザーは、機械管理者と同様に操作を実行することができます。

参照
- 詳しくは、「権限グループ登録」(P.370) を参照してください。

■宛先指示方法の制限

［宛先指示方法の制限］で［登録宛先のみ許可］が設定されているときに、宛先を入力できる権限です。

参照
- 詳しくは、「宛先指示方法の制限」(P.227) を参照してください。

■宛先表登録 / 変更の制限

宛先表編集を禁止されているときに、本機内の宛先表を編集できる権限です。

参照
- 詳しくは、「宛先表登録 / 変更の制限」(P.228) を参照してください。

■強制印字の一時解除

強制複製管理、強制ペーパーセキュリティー、UUID 印字などの強制印字を一時的に解除してジョブを実行できる権限です。この権限グループに属するユーザーはメニュー画面上の［登録 / 変更］から強制印字の一時解除設定を行うことができるようになります。

参照
- 複製管理、ペーパーセキュリティー、UUID については、「複製管理」(P.197)、「ペーパーセキュリティー」(P.199)、「UUID 印字」(P.204) を参照してください。
- 強制印字の一時解除については、「強制印字の一時解除」(P.378) を参照してください。

■複製制限コード検出時の動作

ペーパーセキュリティーで複製制限コードを検出した場合に、ジョブ継続をできる権限があるかどうかを設定します。

参照
- ペーパーセキュリティーについては、「ペーパーセキュリティー」(P.199) を参照してください。

利用制限について

本機の利用を制限することができます。

全体での利用制限

認証モードでは、本機自体および各サービスの利用を制限することができます。利用するには、ユーザー認証が必要です。

補足
- 詳しくは、「アクセス制御」(P.368) を参照してください。

■デバイスへのアクセス

本機の操作パネルのボタン操作を制限できます。

■サービスのアクセス

コピー、ファクス、スキャナーなどの機能ごとに、利用を制限するかどうかを設定できます。

■機能の使用制限

カラーコピーの使用、親展ボックスからのプリント、親展ボックスからの取り出しについて、制限できます。

ユーザーごとの利用制限

ユーザーごとに、サービスの利用制限、上限ページ数、ジョブフロー、親展ボックスの作成、編集、利用を制限できます。

参照
- 詳しくは、「認証機能を使ったサービスの利用制限」(P.496)、「ジョブフローと親展ボックスの認証」(P.498) を参照してください。

認証の種類について

本機で利用できる認証の種類や認証方法について説明します。

本機または外部のサーバーに登録されているユーザー情報などを利用して認証を行います。

認証の種類

本機の認証方法には、次の 2 種類があります。

■本体認証

本体認証は、本機に登録したユーザー情報を使用して認証管理を行います。

補足
- コンピューターから直接送信されたプリントデータは、あらかじめクライアント側のプリンタードライバーで設定した認証情報と、本機側に登録されている認証情報を照合することによって認証され、本機で受信できます。この際、外部認証の認証システムの設定により、ドメイン名が必要な場合は、プリンタードライバーでドメイン名も設定する必要があります。

参照
- プリンタードライバーの設定については、ヘルプを参照してください。

■外部認証

外部の認証サーバーに対して認証を行います。本機にユーザー情報は登録しません。

外部認証は、外部の認証サーバー（LDAP、Kerberos、SMB または ApeosWare Management Suite が使用できます）で管理されているユーザー情報を使用して認証します。

注記

- 外部認証時（ApeosWare Management Suite を使用する場合を除く）は、LDAP サーバーから取得したアクセス許可情報に基づき、本機の操作パネルから利用可能なサービスを利用できます。
- 本体認証から外部認証に変更する場合、または外部認証から本体認証に変更する場合、本機に登録されたユーザー情報、個人の親展ボックス、および個人のジョブフローは削除されます。
- 外部認証サーバーに登録する User ID は半角 32 文字以内、パスワードは半角 128 文字以内で設定してください。ただし、SMB 認証の場合、パスワードは半角 32 文字以内で設定してください。

補足

- 外部認証機能は、ApeosPort シリーズのみ対応しています。

認証方法

■User ID 認証

User ID やパスワードなどのユーザー情報を、本機または外部の認証サーバーにあらかじめ登録しておき、本機の操作パネルから直接 User ID やパスワードを入力して認証を行います。

■カード認証

カードに登録されているカード番号、または User ID やパスワードなどのユーザー情報を、本機または外部の認証サーバーにあらかじめ登録しておき、カードを使って認証を行います。

補足

- カード（IC カードリーダー（オプション）または DocuLyzer（別売））を利用して認証を行います。
- 別売の DocuLyzer を接続する場合、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご相談ください。また、利用時の管理 / 取り扱いについては、DocuLyzer の取扱説明書を参照してください。
- IC カードリーダーで認証するための設定方法は「IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定」（P.506）を参照してください。
- DocuLyzer で使用するカードには、あらかじめカード番号が登録されています。
- 外部認証と DocuLyzer を組み合わせることはできません。

■カード認証と User ID 認証の併用

本機では、User ID 認証とカード認証の両方を併用することができます。ただし、本体認証で併用して使用する場合は、User ID 認証を有効にする必要があります。

参照

- User ID 認証を有効にするには、「IC カード接続時の認証」（P.372）を参照してください。

集計管理機能について

集計管理モードの種類

本機で利用できる集計管理について説明します。

注記
- 認証モードが［外部認証］で、［認証システム］に［Authentication Agent］が選択されているときは、ApeosWare Management Suite が自動的に集計 / 認証サーバーになります。

補足
- 認証モードにより選択できない集計管理モードがあります。詳しくは、「認証モードと集計管理モードの関係」(P.493) を参照してください。

■本体集計管理

本機で集計管理を行います。

本機にあらかじめ登録されている認証ユーザー情報を利用して、ユーザー別に集計管理を行います。

補足
- ユーザー別集計管理レポートは、機械管理者、機械管理の権限が設定されているユーザー、または集計管理の権限が設定されているユーザーで認証して出力できます。レポートの出力手順は、「レポート / リストの出力」(P.135) を参照してください。

参照
- 集計できるジョブは、「本体集計管理で集計できるサービス」(P.493) を参照してください。

■ネット集計管理

外部サービスで管理されているユーザー情報を使用して集計管理を行います。

外部のサーバーが本機に保存されているジョブデータを収集し、ユーザー別に集計します。

補足
- 外部サービスで管理されているユーザー情報は、外部サービスから本機に送られてきて、本機に登録されます。外部サービスで管理されているユーザー情報が更新された場合は、外部サービスからユーザー情報を本機に送信する必要があります。
- 外部サービスの ApeosWare Management Suite（別売）を使用することで、ユーザー情報を管理したり、ジョブデータを収集したりできます。

■認証サーバーによる集計管理

認証サーバーを使って集計管理を行います。

外部のサーバーが本機に保存されているジョブデータを収集し、ユーザー別に集計します。

補足
- 認証サーバーは、ユーザー情報を管理し、集計情報を外部のサーバーから取得します。本機が対応している認証サーバーは、ApeosWare Management Suite です。

認証モードと集計管理モードの関係

認証モードと集計管理モードは別々に設定できます。設定できる組み合わせは、次のとおりです。

		集計管理モード			
		運用しない	本体集計管理	ネット集計管理	認証サーバー
認証モード	運用しない	○	×	○	×
	本体認証	×	○	○	×
	外部認証	○ *1	×	×	○ *2

○：できる、×：できない

*1 :認証モードが［外部認証］で、［認証システム］が［Authentication Agent］以外の場合、集計管理モードは「運用しない」になります。別売の ApeosWare Management Suite で集計できます。

*2 :認証モードが［外部認証］で、［認証システム］が［Authentication Agent］の場合、集計管理モードは「認証サーバー」になりますが ApeosWare Management Suite で集計はできます。

本体集計管理で集計できるサービス

サービスごとのジョブについて、集計管理できる情報について説明します。

■プリント

プリントで利用できるジョブの種類ごとに、集計管理できる情報について説明します。

対象サービス（ジョブ）		集計対象ユーザー	管理項目
通常プリント	本機用プリンタードライバー	認証ユーザー	プリント面数 / 枚数
	本機用プリンタードライバー以外（BMLinkS など）*	認証未登録ユーザー	
セキュリティープリント	文書のプリント	認証ユーザー	
サンプルプリント			
ボックス保存プリント			
時刻指定プリント			
認証プリント			
プライベートプリント			
メールプリント *		認証未登録ユーザー	

*:CentreWare Internet Services で、［ユーザー指定なし印刷の許可］を［有効］にした場合にプリントできます。

■スキャナー

スキャナーで利用できるジョブの種類ごとに、集計管理できる情報について説明します。

対象サービス	集計対象ユーザー	管理項目
スキャナー（メール送信）	認証ユーザー	スキャン読み取り、メール送信
スキャナー（ボックス保存）		スキャン読み取り
スキャナー（PC 保存）		スキャン読み取り、ファイル転送
スキャナー（URL 送信）		スキャン読み取り
スキャナー(USB メモリー保存)		スキャン読み取り

■ファクス

ファクスで利用できるジョブの種類ごとに、集計管理できる情報について説明します。

対象サービス（ジョブ）		集計対象 ユーザー	管理項目
ファクス送信	自動送信	認証ユーザー	ファクス送信回数 / 面数、通信度数
	手動送信（発呼、着呼）		
ファクス受信、プリント	自動受信プリント	– *1	受信回数 / 面数、通信度数、プリント面数 / 枚数
	手動受信プリント（発呼、着呼）		
ファクス親展受信	自動親展受信	– *1	受信回数 / 面数、通信度数
	親展受信プリント	認証ユーザー *5	プリント面数 / 枚数
ファクスポーリング	自動送信（親展送信）	認証未登録ユーザー	ファクス送信回数 / 面数
	自動受信プリント	認証ユーザー	ポーリング回数 / 面数、通信度数、プリント面数 / 枚数
	予約文書確認プリント（親展ボックス、ポーリングボックス）	認証ユーザー *5	プリント面数 / 枚数
ファクス中継同報	中継同報、プリント	– *2	ファクス送信回数 / 面数、通信度数 , プリント面数 / 枚数
ダイレクトファクス送信		認証ユーザー	ファクス送信回数 / 面数、通信度数
インターネットファクス送信		認証ユーザー	インターネットファクス送信回数 / 面数
インターネットファクス受信、プリント	自動受信プリント	– *3	受信回数 / 面数、プリント面数 / 枚数
	自動親展受信		受信回数 / 面数
	親展受信プリント	認証ユーザー *5	プリント面数 / 枚数

対象サービス（ジョブ）		集計対象 ユーザー	管理項目
インターネットファクス受信、ファクス転送	ファクス自動送信（転送）	– *4	ファクス送信回数 / 面数、通信度数

*1 :ファクス受信として集計されます。
*2 :中継同報として集計されます。
*3 :インターネット受信として集計されます。
*4 :インターネット受信ファクス転送として集計されます。
*5 :機械管理者モードの認証機能の運用設定で、親展ボックスの操作を許可している場合は、認証未登録ユーザーで集計されます。

◆ ファクスの集計管理をするときの注意制限事項

ファクスの集計管理をする場合、次の点にご注意ください。

- 別々のユーザーから同じ宛先に送信しても、一括送信の対象になりません。
- 通信度数は、本機内部の独立したタイマーで計算しています。このため、通信度数から計算した通信料金が、電話会社などからの料金請求と若干の差異を生じることがありますので、あらかじめご了承ください。
- ページ分割をして受信したときは、プリントした面数ではなく、受信した面数でカウントします。
- 通信度数は、次の通信時には集計されません。
  - 〈数字〉ボタンまたはオンフック / オフフックを使用したとき
  - 課金データが登録されていない短縮宛先番号を使用したとき
  - 通話をしたとき（通信前に通話をしたときも含みます）

◆ ファクスでの課金

- 〈数字〉ボタンでダイヤルした場合は、課金されません。
- 課金データが登録されていない短縮宛先番号への通信は、課金されません。
- 手動受信、手動送信、手動ポーリングは、課金されません。
- 通話をしたとき（通信前に通話をした場合も含みます）は、課金されません。

認証機能を使ったサービスの利用制限

認証機能と集計管理機能の概要について説明します。

制限できる機能は、本機の利用形態によって異なります。

参照

- 認証機能利用時の、親展ボックスとジョブフローの制限は、「ジョブフローと親展ボックスの認証」（P.498）を参照してください。

利用制限できるサービス

利用制限には、ユーザーごとに設定できるものと、ユーザーにかかわらず機械全体に設定できるものとがあります。

認証機能を利用すると、ユーザーごとに利用できる機能を制限したり、使用できる用紙のページ数を制限したりできます。

参照

- ユーザーごとの設定は、「サービスの利用制限」（P.358）を、デバイス全体の設定は、「サービスへのアクセス」（P.368）を参照してください。

認証モードと集計管理モードの組み合わせ

認証モードと集計管理モードの組み合わせによる、利用制限できるサービスおよび集計管理できるサービスは次のとおりです。

参照

- 認証方法については、「認証するための設定」（P.501）を参照してください。

補足

- 本体認証でUser ID認証とカード認証を併用して利用する場合は、User ID認証を有効にしてください。設定方法は、「IC カード接続時の認証」（P.372）を参照してください。

認証モードが「本体認証」で、集計管理モードが「本体集計管理」のとき

対象サービス	ユーザーごとの利用制限		ユーザー別の集計
	機能別利用限 *	上限ページ数 *	
コピー	○	○	○
プリント	○	○	○
スキャン	○	○	○
ファクス	○	×	○

○：できる、×：できない

*：ユーザーごとの設定は、「サービスの利用制限」（P.358）を参照してください。

認証モードが「本体認証」で、集計管理モードが「ネット集計管理」のとき

対象サービス	ユーザーごとの利用制限		ユーザー別の集計 *2
	機能別利用制限 *1	上限ページ数	
コピー	○	×	○
プリント	○	×	○
スキャン	○	×	○
ファクス	○	×	○

○：できる、×：できない
*1 :ApeosWare Management Suite（別売）で利用制限できます。
*2 :ApeosWare Management Suite（別売）で集計できます。

認証モードが「外部認証」のとき

対象サービス	ユーザーごとの利用制限		ユーザー別の集計 *2
	機能別利用制限 *1	上限ページ数 *1	
コピー	○	○	○
プリント	○	○	○
スキャン	○	○	○
ファクス	○	×	○

○：できる、×：できない
*1 :認証システムとして ApeosWare Management Suite（別売）を利用している場合は、利用制限できます。
*2 :ApeosWare Management Suite（別売）で集計できます。

注記

- ApeosWare Management Suite によるユーザー別集計管理を行う場合の注意事項は、次のとおりです。
  - 複数ドメインにユーザー登録して運用する場合は、User ID が重複しないように運用 / 管理する必要があります。
  - コンピューターから指示するジョブ（プリント、ファクス）は、User ID を一致させるために、コンピューターから外部認証サーバーにログインしておく必要があります。

ジョブフローと親展ボックスの認証

ジョブフロー、親展ボックスの制限について説明します。

ジョブフローの作成 / 利用について

本機で作成できるのは、親展ボックスに蓄積された文書を対象とするジョブフローです。

認証機能を利用しているときに作成したジョブフローと、認証機能を利用していないときに作成したジョブフローとでは、利用制限が異なります。また、［ボックス登録］画面 /［ボックス操作］画面、および［ジョブフロー登録］画面から作成したジョブフローでも利用制限が異なります。

注記

- 本体認証機能を「利用する」から「利用しない」、または「利用しない」から「利用する」に変更した場合は、使用していたジョブフローは、機械管理者以外は使用できなくなります。使用していたジョブフローは、すべて削除して新しく作成し直してください。
- 認証機能を外部認証に変更したり、外部認証からほかの認証モードに変更した場合、変更する前に使用していたジョブフローは削除されます。
- 認証方式の変更によって使用できなくなるジョブフローが親展ボックスに関連づけられている場合、編集 / 複製はできなくなりますが、利用はできます。

  ただし、関連づけを解除すると、そのジョブフローは表示されなくなり、利用できなくなります。
- ［ボックス登録］画面、または［ボックス登録］画面から作成したジョブフローは、ジョブフローを作成した親展ボックスでのみ利用できます。ほかの親展ボックスでは使用できません。
- ネットワーク上のコンピューターで作成されたジョブフローは、本機で編集 / 複製はできません。

補足

- Device Setup（デバイス設定ツール）を使うと、ネットワークに接続されたコンピューターで親展ボックスおよびスキャン文書を対象とするジョブフローが作成できます。Device Setup は、ApeosWare Management Suite の無償ツールです。弊社公式サイトからダウンロードできます。

参照

- 本機で作成できるジョブフローは、「ジョブフロー登録」(P.335) を参照してください。

認証機能を利用している場合

補足

- 認証機能を利用しているときに、ジョブフローを利用できるのは、次のユーザーです。
  - ［本体認証］設定時、認証されたユーザーおよび機械管理者
  - ［外部認証］設定時、ゲストユーザー以外で認証されたユーザー
  - ［ネット集計管理］で［入力情報の照合］を［あり］、［ユーザー入力項目］を［User ID と Account ID］または［User ID のみ］設定時に認証されたユーザー

■［ボックス登録］画面 /［ボックス操作］画面からジョブフロー作成

ジョブフローの作成者と利用できるユーザーおよび、利用できる操作は次のとおりです。

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
認証ユーザー	作成者 / 機械管理者	編集、表示、複製、削除、選択、実行、親展ボックスへの関連づけ
機械管理者	すべての認証ユーザー / 機械管理者	編集 *、表示、複製、削除 *、選択、実行、親展ボックスへの関連づけ

*:機械管理者のみ操作できます。

補足
- 複製したジョブフローは、複製したユーザーが作成者になります。

■[ジョブフロー登録] 画面からジョブフロー作成

ジョブフローの作成者と利用できるユーザーおよび、利用できる操作は次のとおりです。

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
認証ユーザー	作成者 / 機械管理者	編集、表示、複製、削除、選択、実行
機械管理者	すべての認証ユーザー / 機械管理者	編集*、表示、複製、削除*、選択、実行

*:機械管理者のみ操作できます。

補足
- 複製したジョブフローは、複製したユーザーが作成者になります。

認証機能を利用していない場合

■[ボックス登録] 画面 /[ボックス操作] 画面からジョブフロー作成

ジョブフローの作成者と利用できるユーザーおよび、利用できる操作は次のとおりです。

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
一般ユーザー	すべての一般ユーザー / 機械管理者	編集、表示、複製、削除、選択、実行、親展ボックスへの関連づけ
機械管理者	すべての一般ユーザー / 機械管理者	編集*、表示、複製、削除*、選択、実行、親展ボックスへの関連づけ

*:機械管理者のみ操作できます。

補足
- 複製したジョブフローは、複製したユーザーが作成者になります。

■[ジョブフロー登録] 画面からジョブフロー作成

ジョブフローの作成者と利用できるユーザーおよび、利用できる操作は次のとおりです。

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
一般ユーザー	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、編集、複製、削除、選択・実行
機械管理者	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、編集*、複製、削除*、選択・実行

*:機械管理者のみ操作できます。

補足
- 複製したジョブフローは、複製したユーザーが作成者になります。

親展ボックスの作成 / 利用について

親展ボックスは、認証機能を利用していないときに作成した親展ボックスと、認証機能を利用しているときに作成した親展ボックスでは、利用条件が異なります。

注記

- 認証機能を「利用する」から「利用しない」、または「利用しない」から「利用する」に変更した場合は、使用していた親展ボックスは、機械管理者以外は使用できなくなります。使用していた親展ボックスは、すべて削除して新しく作成し直してください。
- 認証機能を外部認証に変更したり、外部認証からほかの認証モードに変更した場合、変更する前に使用していた親展ボックスは削除されます。

認証機能を利用している場合

補足

- 認証機能を利用しているときに、親展ボックスを利用できるのは、次のユーザーです。
  - ［本体認証］設定時、認証されたユーザーおよび機械管理者
  - ［外部認証］設定時、ゲストユーザー以外で認証されたユーザー
  - ［ネット集計管理］で［入力情報の照合］を［あり］、［ユーザー入力項目］を［User ID と Account ID］または［User ID のみ］設定時に認証されたユーザー

認証機能を利用しているときに、親展ボックスを作成 / 利用できる親展ボックスの作成者と利用ユーザーの関係は次のとおりです。

親展ボックスの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
認証ユーザー	作成者 / 機械管理者	表示、削除、設定変更、文書表示、文書削除、文書登録、文書出力、ジョブフロー表示、ジョブフロー関連づけ、ジョブフロー実行
機械管理者	すべての認証未登録ユーザー *2/ すべての認証ユーザー / 機械管理者	表示、削除 *1、設定変更 *1、文書表示、文書削除、文書登録、文書出力、ジョブフロー関連づけ *1、ジョブフロー表示、ジョブフロー実行

*1 :機械管理者のみ操作できます。
*2 :機械管理者モードの認証機能の運用設定で、親展ボックスの操作を許可している場合に利用できます。

認証機能を利用していない場合

親展ボックスの作成者と利用ユーザーの関係は次のとおりです。

親展ボックスの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
一般ユーザー	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、削除、設定変更、文書表示、文書削除、文書登録、文書出力、ジョブフロー表示、ジョブフロー関連づけ、ジョブフロー実行
機械管理者	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、削除 *、設定変更 *、文書表示、文書削除、文書登録、文書出力、ジョブフロー関連づけ *、ジョブフロー表示、ジョブフロー実行

* :機械管理者のみ操作できます。

補足

- ネットワークスキャナーユーティリティ 3 を利用しての文書登録、文書出力は認証の対象外です。

認証するための設定

認証するための設定について説明します。

設置手順の概要

認証するためには、次の設定をします。

注記

- 認証状態の変化によって、使用できなくなるジョブフローが親展ボックスに関連づけられている場合、変更 / 複製はできなくなりますが、利用はできます。ただし、関連づけを解除すると、そのジョブフローは表示されなくなり、利用できなくなります。

必要に応じて、デフォルト権限グループの変更、権限グループの追加を行います。

本体認証の場合

認証方式、アクセス制御の設定、ユーザーの登録を行います。

外部認証の場合

認証方式、アクセス制御の設定、外部認証サーバーの設定を行います。

必要に応じて、デフォルト権限グループの変更、権限グループの追加を行います。

認証の設定

本体認証の場合と外部認証の場合に分けて説明します。

本体認証の設定

本体認証に設定する手順を説明します。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

4 ［認証 / セキュリティ設定］を押します。

5 ［認証の設定］を押します。

6 ［認証方式の設定］を押します。

7 ［本体認証］を選択し、［決定］を押します。

参照

- 認証方法については、「認証方式の設定」(P.367) を参照してください。

8 ［アクセス制御］を押します。

9 ［サービスへのアクセス］を押します。

10 制限しない機能を［制限しない］に設定し、［決定］を押します。

11 それぞれの機能の設定が終わったら、［閉じる］を押します。

12 操作パネルのボタンの操作を禁止する場合には、［デバイスへのアクセス］を押して［制限する］を選択し、［決定］、［閉じる］を押します。

［パスワードの運用］設定の［パスワード使用 - パネル入力時 ］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

パスワードを入力する場合には［する］を、パスワードを入力しない場合には［しない］を選択し、［決定］、［閉じる］を押します。

13 ［ユーザー登録 / 集計確認］を押します。

14 「 (未登録)」と表示されているユーザーを選択し、［登録 / 確認］を押します。

15 ユーザー名を入力してから、［決定］を押します。

［サービスの利用制限］を押します。

16 サービスごとの上限ページ数、機能制限を設定し、［閉じる］を押します。

17 必要に応じて、［ユーザーの権限］に、管理の権限、権限グループを設定し、［決定］を押します。

18 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

19 ［閉じる］を押します。

補足

- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。
- 本機が認証モードになり、メニュー画面の左下に［: ログインが必要です］が表示されます。
- ［サービスへのアクセス］で制限したいサービスに［制限する (表示)］を設定すると、メニュー画面の該当するサービスに［］が表示されます。

  また、メニュー画面の左下に［: ログインが必要です］が表示されます。
  認証すると［］および［: ログインが必要です］の表示は消えます。
- ［サービスへのアクセス］で制限したいサービスを［制限する (非表示)］に設定すると、メニュー画面に該当するサービスは表示されません。認証すると該当するサービスも表示されます。

外部認証の設定

外部認証に設定する手順を説明します。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

4 ［認証 / セキュリティ設定］を押します。

5 ［認証の設定］を押します。

6 ［認証方式の設定］を押します。

7 ［外部認証］を選択し、［決定］を押します。

参照
- 認証方法については、「認証方式の設定」(P.367) を参照してください。

8 ［はい（変更 / 削除）］を押します。

9 ［アクセス制御］を押します。

10 ［サービスへのアクセス］を押します。

11 制限しない機能を［制限しない］に設定し、［決定］を押します。

12 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

13 ［仕様設定］を押します。

14 ［ネットワーク設定］を押します。

15 ［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］を押します。

16 ［認証システムの設定］ > ［認証システム］を押し、認証のための外部サーバーを指定します。

補足
- ［Kerberos（Windows2000）］、［Kerberos（Solaris）］、［LDAP］、［SMB］、［Authentication Agent］が選択できます。
- 外部認証サーバーに、ApeosWare Management Suite を使用する場合は、［Authentication Agent］を選択してください。

参照
- 詳しくは、「外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定」(P.262) を参照してください。

17 使用する外部認証サーバーの設定をします。

参照
- 詳しくは、「Kerberos サーバー設定」 (P.262)、「LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定」(P.263)、「SMB サーバー設定」(P.267) を参照してください。

18 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

19 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。
- 本機が認証モードになり、メニュー画面の左下に［: ログインが必要です］が表示されます。
- ［サービスへのアクセス］で制限したいサービスに［制限する (表示)］を設定すると、メニュー画面の該当するサービスに［］が表示されます。
  また、メニュー画面の左下に［: ログインが必要です］が表示されます。

認証すると［ ］および［ : ログインが必要です］の表示は消えます。

- ［サービスへのアクセス］で制限したいサービスを［制限する (非表示)］に設定すると、メニュー画面に該当するサービスは表示されません。認証すると該当するサービスも表示されます。

■外部サーバーに［LDAP］を指定した場合

次の手順で、権限設定を行います。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

2 ［プロパティ］タブをクリックします。

3 ［ネットワーク設定］>［プロトコル設定］>［LDAP］>［LDAP グループアカウント］をクリックします。

4 ［機械管理の権限］、［集計管理の権限］のそれぞれに、機械管理の権限、集計管理の権限の属性を設定します。
例）
機械管理の権限 「CN=SA,CN=Users,DC=secEQ,DC=local」
集計管理の権限 「CN=AA,CN=Users,DC=secEQ,DC=local」

5 ［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。

デフォルト権限グループの変更

デフォルト権限グループを変更します。

デフォルト権限グループは、ユーザーを新規作成したときの権限グループの初期値となります。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

4 ［認証 / セキュリティ設定］を押します。

5 ［認証の設定］を押します。

6 ［権限グループ登録］を押します。

7 ［DefaultGroup（標準）］と表示されているグループを選択し、［登録 / 変更］を押します。

8 各項目を変更します。

補足

- 権限グループの変更については、「権限グループ登録」(P.370) を参照してください。

9 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

10 ［閉じる］を押します。

権限グループの追加

必要に応じて、権限グループを追加します。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

4 ［認証 / セキュリティ設定］を押します。

5 ［認証の設定］を押します。

6 ［権限グループ登録］を押します。

7 「(名称未設定)」と表示されているグループを選択し、［登録 / 変更］を押します。

8 ［グループ名］を設定します。

9 その他の項目を設定します。

参照
- 権限グループの設定については、「権限グループ登録」(P.370) を参照してください。

10 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

11 ［閉じる］を押します。

IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定

IC カードに登録した情報によって認証したり、IC カードに登録した情報と本機に登録したユーザー情報を照合したりして、本機の利用制限やジョブなどの集計管理を行うことができます。

使用できる IC カードや利用するための設定について説明します。

補足

- この機能を利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

⚠警告

- 埋込み型心臓ペースメーカーおよび埋込み型除細動器を装着されている場合は、本装置または本装置のワイヤレスカードシステムのリーダライタ部（アンテナ部）から 12cm 以上離れて携行および使用してください。電波により埋込み型心臓ペースメーカーおよび埋込み型除細動器の動作に影響を与える場合があります。
- 埋込み型心臓ペースメーカーおよび埋込み型除細動器以外の医用電気機器を本装置（ApeosPort- VI C7771/C6671/C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre- VI C7771/C6671/C5571/C4471/C3371/C2271）の近傍で使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医用電気機器などの動作に影響を与える場合があります。

Step1 事前準備

本機に設置できる IC カードリーダーは 2 種類あります。それぞれの IC カードリーダーで利用できる IC カードは次のとおりです。

IC カードリーダー A（本体内蔵型 / 外付け型 / ウイング内蔵型）をお使いの場合

- MIFARE® 仕様
  - Fuji Xerox IC card （Type A）
  - その他の MIFARE 仕様の IC カード *
- FeliCa® 仕様
  - FeliCa 仕様の IC カード （IDm のみ）*
- その他のカード *
  - HID® Prox 仕様の IC カード
  - HID® iCLASS®（UID のみ）仕様の IC カード
  - EM Prox 仕様の IC カード
  - HITAG（HITAG2）仕様の IC カード
  - LEGIC Advant（UID のみ）仕様の IC カード

*:IC カードによっては、読み取りできないものもあります。

IC カードリーダー C（本体内蔵型 / 外付け型 / ウイング内蔵型）をお使いの場合

- MIFARE® 仕様
  - Fuji Xerox IC Card（TypeA）

- その他の MIFARE 仕様の IC カード *

- TypeB 仕様
  - eLWISE 仕様の IC カード
  - ELWISE 仕様の IC カード
- FeliCa® 仕様
  - Fuji Xerox IC カード
  - SSFC® バージョン 1.0 フォーマット準拠の IC カード *
  - その他の FeliCa 仕様の IC カード *

*:IC カードによっては、読み取りできないものもあります。

補足
- どちらの IC カードリーダーが設置されているかを確認する場合は、カストマーエンジニアにお問い合わせください。

Step2 IC カード使用時の認証解除の設定

IC カード使用時の認証解除方法を設定します。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 ［仕様設定 / 登録］を押します。

4 ［認証 / セキュリティ設定］を押します。

5 ［認証の設定］>［認証情報の設定］を押します。

6 ［非接触型 IC カード設定］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

7 認証の解除方法を選択し、［決定］を押します。

参照
- 詳しくは、「非接触型 IC カード設定」(P.373) を参照してください。

8 ［閉じる］を押します。

Step3 IC カード情報の登録

機械管理者は、CentreWare Internet Services を使用して、IC カードの設定を行います。

補足
- IC カード情報を CentreWare Internet Services を使用して登録します。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
- 認証に使用する情報も、CentreWare Internet Services で設定します。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

集計管理するための設定

集計管理するための設定について説明します。

Step1 集計管理モードの設定

集計管理モードの設定について説明します。

参照
- 認証モードと集計管理モードの関係については、「認証モードと集計管理モードの関係」(P.493) を参照してください。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、[確定] を押します

パスワードを入力する場合は、[次へ] を押し、機械管理者のパスワードを入力して [確定] を押します。

3 メニュー画面の [仕様設定 / 登録] を押します。

4 [集計管理] を押します。

5 [集計管理機能の運用] を押します。

6 集計管理モードを選択し、[決定] を押します。

補足
- [本体集計管理] または [ネット集計管理] が選択できます。

参照
- 集計管理機能については、「集計管理機能の運用」(P.362) を参照してください。

7 [仕様設定 / 登録] 画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

8 [閉じる] を押します。

Step2 ユーザー情報の登録

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、[確定] を押します。

パスワードを入力する場合は、[次へ] を押し、機械管理者のパスワードを入力して [確定] を押します。

3 メニュー画面の [仕様設定 / 登録] を押します。

4 [集計管理] を押します。

5 [ユーザー登録 / 集計確認] を押します。

6 「(未登録)」と表示されているユーザーを選択し、［登録 / 確認］を押します。

7 ユーザー名を入力してから、［決定］を押します。
［サービスの利用制限］を押します。

8 サービスごとの上限ページ数、機能制限を設定し、［閉じる］を押します。

参照
- サービスの利用制限については、「サービスの利用制限」(P.358) を参照してください。

9 必要に応じて、［ユーザーの権限］に、管理の権限、権限グループを設定し、［決定］を押します。

補足
- ［ユーザーの権限］は、認証モードが本体認証のときだけ表示されます。

参照
- ユーザー権限については、「ユーザーの権限」(P.359) を参照してください。

10 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

11 ［閉じる］を押します。

ユーザー認証の操作

本機には、利用できるサービスを制限するための、認証機能があります。
制限されたサービスを利用するための認証方法について説明します。

登録ユーザーの認証

登録ユーザーを認証するには、本機の操作パネルを操作して認証する方法と、IC カードを IC カードリーダーにタッチして認証する方法があります。

操作パネルで認証する場合は、User ID の入力が必要です。

また、［認証 / セキュリティ設定］の［認証の設定］の［パスワードの運用］で、［パスワード使用 - パネル入力時］を［する］に設定されている場合は、パスワードの入力も必要になります。

補足
- この機能を利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

参照
- パスワードの運用については、「パスワードの運用」(P.373) を参照してください。
- タッチパネルディスプレイからのユーザー登録については、「ユーザー登録/集計確認」(P.357) を参照してください。

操作パネルからのユーザー認証 / 解除

■ユーザー認証

1 〈認証〉ボタン、またはタッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、パスワードを入力し、［確定］を押します。

注記
- 割り込みとユーザー認証は、連動しません。割り込みを解除する前に必ずユーザー認証を終了してください。

補足
- 利用が制限されているサービスを選択した場合に、［認証］画面が表示されることがあります。UserID やパスワードを入力すると利用できます
- ユーザーが認証されると、〈認証〉ボタンは点灯します。

■認証解除

1 〈認証〉ボタンを押します。

補足
- タッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアを押して、［認証解除］を選択してもユーザー認証を終了できます。
- ユーザー認証を終了すると、〈認証〉ボタンは消灯します。

IC カード利用時の認証 / 解除

■ユーザー認証

1 IC カードリーダーに IC カードをタッチします。

注記
- IC カードリーダーに IC カードを確実にタッチしてください。
- 本機の設定によっては、パスワードの入力が必要な場合があります。パスワードの入力を間違えた場合は、操作パネルの〈認証〉ボタンを押して、いったん認証状態を解除してから、再度 IC カードを IC カードリーダーにタッチしてください。

■認証解除

IC カード利用時、ユーザー認証を終了する方法は、［非接触型 IC カード設定］に従います。

参照
- 詳しくは、「非接触型 IC カード設定」(P.373) を参照してください。

- ［カードが離れると認証解除］を選択すると、カードをタッチしているときだけ、認証します。カードを離すと、解除されます。
- ［パネル指示で認証解除］を選択すると、操作パネル利用時と同じ操作で解除します。

パスワードの変更

ユーザー認証で使用するパスワードを変更できます。次の操作に従って、変更してください。

ユーザー自身でパスワードを変更する

ユーザーが認証されているときは、ユーザー自身のパスワードを変更できます。

1 メニュー画面で［登録 / 変更］を押します。

2 ［ユーザー情報の設定］を押します。

3 ［パスワード変更］を押します。

4 現在のパスワードを入力し、［次へ］を押します。

5 ［新しいパスワード］を選択して、新しいパスワードを入力し、［決定］を押します。

6 ［パスワードの再入力］を選択して、新しいパスワードを再入力し、［決定］を押します。

7 ［閉じる］を押します。

機械管理者がパスワードを設定 / 変更する

機械管理者は、CentreWare Internet Services を使用して、パスワードの設定や変更ができます。

参照
- タッチパネルディスプレイからのパスワードの設定 / 変更方法については、「ユーザー登録 / 集計確認」(P.357) を参照してください。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.384) を参照してください。

2 ［プロパティ］タブをクリックします。

3 ［セキュリティー］をクリックし、［認証管理］をクリックします。

4 ［次へ］を押します。

5 ［ユーザー登録番号］に設定 / 変更するユーザーの登録番号 を入力し、［編集］ボタンをクリックします。

6 ［パスワード］に新しいパスワードを入力します。

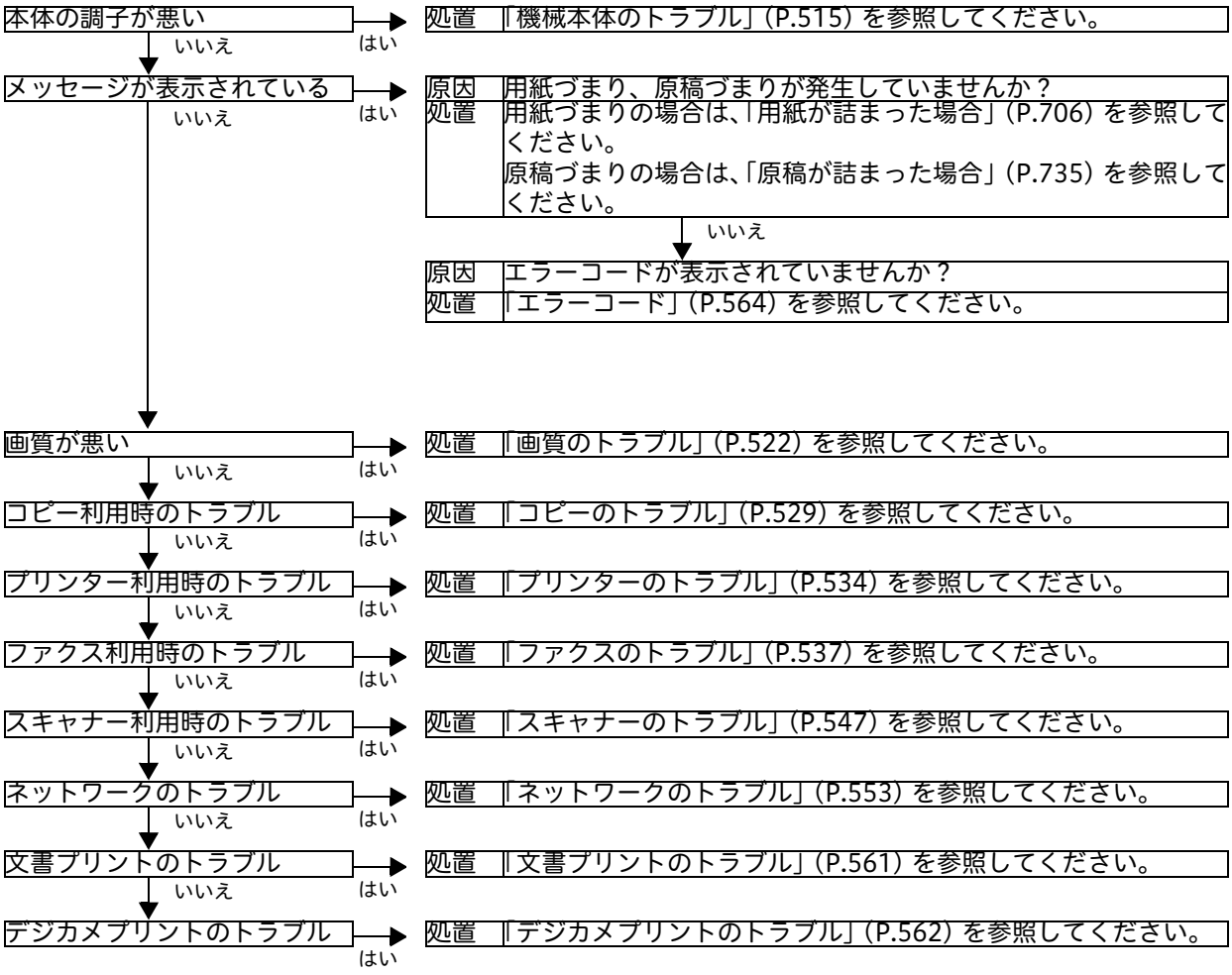
7 ［パスワードの確認入力］に新しいパスワードを再入力します。

8 ［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。

15
トラブル対処

トラブルと思ったら

本機に何らかのトラブルが発生した場合の処置について説明します。トラブルが発生した場合は、次の流れに従って処置してください。



なお、上記のトラブル対処に従って処置しても正常に作動しないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

EP システムを利用している場合、機械の点検や修理が必要になったときに、機械から弊社のカストマーコンタクトセンターに連絡が行きます。連絡を受けると、必要に応じて、カストマーエンジニアが訪問します。点検 / 修理の依頼は、機械管理者が操作してください。

補足

- EP システムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、弊社の営業担当者または販売店にお問い合わせください。

参照

- 電話回線を使ったEPシステムでの点検/修理の依頼の操作方法は、「点検/修理依頼」(P.192) を参照してください。
- インターネットを使った EP システムでの点検 / 修理の依頼の操作方法は、「点検 / 修理依頼」(P.192)、「EP 診断 / 修理依頼」(P.193) を参照してください。
- EP システムについては、「EP システムについて」(P.947) を参照してください。

機械本体のトラブル

故障かなと思う前に、もう一度、本機の状態を確認してください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない	主電源または電源が切れていませんか？	主電源および電源を入れてください。 **参照** • 『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「機械の構成」を参照してください。
	電源プラグがコンセントに差し込まれていますか？	電源および主電源をいったん切り、電源コードを確実に差し込んでください。そのあと、主電源および電源を入れてください。 **参照** • 『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「機械の構成」を参照してください。
	本機側の電源コードのコネクターが抜けていませんか？	
	電源の電圧が適切ですか？	電源が 100V（ボルト）、15A（アンペア）であることを確認してください。本機の最大消費電力（1.5kW ）に見合った電源容量が確保されていることを確認してください。 ApeosPort-VI C7771/C6671、DocuCentre-VI C7771/C6671、は、電源コードを 2 本使用しています。電源が 100V（ボルト）、13A（アンペア）+ 7A（アンペア）であることを確認してください。本機の最大消費電力（2.0kW）に見合った電源容量が確保されていることを確認してください。 **参照** • 『はじめにお読みください』を参照してください。
〈エラー〉ランプが点滅している	本機のシステムや付属機器にトラブルが発生しているおそれがあります。	本機の電源および主電源を切って、入れ直してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
〈エラー〉ランプが点灯している	用紙づまり、原稿づまりが発生していませんか？	詰まった用紙や原稿を取り除いてください。 **参照** • 用紙が詰まった場合は、「用紙が詰まった場合」（P.706）を、原稿がつまった場合は、「原稿が詰まった場合」（P.735）を参照してください。
	本機の正面カバーや上面カバーなどが開いていませんか？	表示されているメッセージに従って処置してください。

症　状	原　因	処　置
〈エラー〉ランプが点灯している	ディスプレイに消耗品の交換を促すメッセージが表示されていませんか？	メッセージに表示されている消耗品を交換してください。 参照 •「消耗品を交換する」（P.80）を参照してください。
	ディスプレイの上部にメッセージが表示されていませんか？	メッセージの内容を確認し、処置してください。 また、メッセージの末尾に「016-450」などの番号が表示されている場合はエラーコードの表で内容を確認し、処置してください。 参照 •「エラーコード」(P.564)を参照してください。
ディスプレイが暗い	〈節電〉ボタンが点灯していませんか？	節電状態に入っています。操作パネルの〈節電〉ボタンを押して、節電状態を解除してください。 参照 •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「機械の構成」を参照してください。
	画面輝度調整が暗すぎませんか？	画面輝度調整画面で、ディスプレイの輝度を調整してください。 参照 •「画面の明るさを調整する」（P.45）を参照してください。
プリントできない、またはコピーできない	操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されていませんか？	表示されているメッセージに従って処置してください。
	メモリー容量が不足していませんか？	次のどれかの方法で処置してください。 • プリンタードライバーで［印刷モード］を［標準］にするか、［ページ印刷モード］を利用して再プリントする • 使用していないポートを［停止］に設定する
	プリンターモードがオフラインになっていませんか？	〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押して、［機械状態レポート出力］画面の［プリンターモード］を確認してください。［オフライン］になっていたら、［プリンターモード］画面で、［オンライン］を選択してください。
	プリンタードライバーがオフラインになっていませんか？	プリンターアイコンを開いて、プリンターメニューのオフライン使用のチェックを外してください。
プリントを指示したのに〈データ〉ランプが点滅しない	インターフェイスケーブルが抜けていませんか？	インターフェイスケーブルの接続を確認してください。 参照 •「インターフェイスケーブルの接続」（P.24）を参照してください。

症　状	原　因	処　置
プリントを指示したのに〈データ〉ランプが点滅しない	コンピューター側の環境が正しく設定されていますか？	プリンタードライバーなど、コンピューター側の環境を確認してください。
	使用するポートが［起動］に設定されていますか？	使用するポートの状態を確認し、［起動］に設定してください。 **参照** •「ポート設定」(P.240)を参照してください。
用紙トレイ 5（手差し）にプリントを指示したのにプリントされない	指定したサイズの用紙がセットされていますか？	表示されたメッセージに従って、正しいサイズの用紙をセットして、もう一度プリントを指示してください。 **参照** •「用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする」(P.64) を参照してください。
印字品質がよくない	画質のトラブルが発生しているおそれがあります。	後述の「画質のトラブル」を参照して処置してください。 **参照** •「画質のトラブル」(P.522)を参照してください。
正しい文字が印字されない（文字化けが起こる）	本機に標準で搭載されていないフォントを使用してプリントしています。	アプリケーションまたはプリンタードライバーの設定を確認してください。PostScript（オプション）を使用している場合は、必要なフォントを本機にダウンロードしてください。
用紙トレイの出し入れができない	プリント中にカバーを開けたり、電源を切ったりしませんでしたか？	無理に用紙トレイを出し入れしないで、電源を切ってください。数秒経過後、電源を入れてください。本機がデータを受信できる状態になったことを確認して、用紙トレイの出し入れをしてください。
希望のサイズにコピーされない	原稿ガラスまたは原稿カバーが汚れていませんか？	原稿ガラスまたは原稿カバーを清掃してください。 **参照** •「本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃」(P.111) を参照してください。
	OHPフィルムなどの透過度が高い原稿ですか？	原稿ガラスに原稿をセットし、その上に白紙を載せてコピーしてください。
	原稿がずれていませんか？ 原稿が正しくセットされていますか？	原稿を正しくセットしてください。 **参照** •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。

症　状	原　因	処　置
希望のサイズにコピーされない	原稿送り装置の原稿ガイドがずれていませんか？	原稿ガイドを正しくセットしてください。 **参照** •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」> 「コピー操作の流れ」を参照してください。
	原稿が折れ曲がっていませんか？	原稿をのばして正しくセットし直してください。 **参照** •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」> 「コピー操作の流れ」を参照してください。
	定形外サイズの原稿をセットしていませんか？	原稿のサイズを入力してください。 **参照** •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」> 「コピー操作の流れ」を参照してください。
用紙づまり、紙しわがたびたび発生する	用紙が用紙トレイに正しくセットされていますか？	用紙を正しくセットしてください。 **参照** •「用紙をセットする」（P.58）を参照してください。
	用紙トレイが正しくセットされていますか？	用紙トレイを確実に奥まで押し込んで正しくセットしてください。 **参照** •「用紙をセットする」（P.58）を参照してください。
	用紙が湿気を含んでいませんか？	未開封の用紙と交換してください。 **参照** •「用紙をセットする」（P.58）を参照してください。
	用紙がカールしていませんか？	用紙トレイ内の用紙をうら返すか、未開封の用紙と交換してください。 **参照** •「用紙をセットする」（P.58）を参照してください。
	用紙と用紙トレイの設定は正しいですか？	セットしている用紙に合わせて、正しく用紙と用紙トレイを設定してください。 **参照** •「用紙 / トレイの設定」（P.183）を参照してください。

症　状	原　因	処　置
用紙づまり、紙しわがたびたび発生する	機械の内部に詰まった用紙や紙片が残っていたり、異物が入っていませんか？	機械を開けるか、用紙トレイを引き出して、紙片や異物を取り除いてください。 **参照** •「用紙が詰まった場合」(P.706)、「用紙をセットする」(P.58) を参照してください。
	規格外の用紙がトレイに入っていませんか？	使用基準内の用紙と交換してください。 **参照** •「用紙について」(P.52)、「用紙をセットする」(P.58) を参照してください。
	用紙トレイ内の用紙上限線を超えて、用紙をセットしていませんか？	用紙トレイ内の用紙上限線を超えないように、用紙をセットしてください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.58) を参照してください。
	用紙ガイドが正しくセットされていますか？	用紙を正しくセットして、用紙ガイドを用紙に軽く当てるように合わせてください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.58)、「用紙サイズを変更する」(P.68) を参照してください。
	用紙いっぱいに画像がありませんか？	先端のわく消し量を増やしてください。 **参照** • コピーの場合は『ユーザーズガイド』(メディア (ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「コピー」、プリントの場合はプリンタードライバーのヘルプを参照してください。
	用紙がきれいに裁断されていますか？	用紙の種類によっては、きれいに裁断されていない場合があります。よくさばいてから用紙をセットしてください。
原稿が送り込まれない	原稿が小さくありませんか？	• ApeosPort-VI C7771/C6671、DocuCentre-VI C7771/C6671： 原稿送り装置にセットできる原稿の最小サイズは、84 × 139.7mm です。 • その他の機種： 原稿送り装置にセットできる原稿の最小サイズは、125 × 85mm です。 **参照** •『ユーザーズガイド』(メディア (ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。

症　状	原　因	処　置
用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットして〈スタート〉ボタンを押すとエラーメッセージが表示される	用紙トレイ 5（手差し）の手前にある用紙ガイドの位置がずれていませんか？	用紙ガイドを正しい位置にセットしてください。 **参照** •「用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする」(P.64) を参照してください。
原稿がたびたび詰まる	適切な原稿を使用していますか？	原稿送り装置に適した原稿を正しくセットしてください。 **参照** •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	変形原稿や名刺、OHP フィルム、薄い原稿を使用していませんか？	
	付せん紙やクリップ、セロハンテープなどをつけたまま使用していませんか？	付せん紙やクリップ、セロハンテープなどを取ってからコピーしてください。
	原稿ガイドの位置がずれていませんか？	原稿ガイドを正しくセットしてください。 **参照** •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	原稿の一部が破れて、原稿送り装置に紙片が残っていませんか？	原稿送り装置のカバーを開けて確認してください。 **参照** •「原稿が詰まった場合」(P.735) を参照してください。
	サイズの異なる原稿を読み込むときに、[ミックスサイズ原稿送り]の設定が[する]になっていますか？	[ミックスサイズ原稿送り] の設定を[する] にしてください。 **参照** •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「読み取り方法」>「ミックスサイズ原稿送り（サイズが異なる原稿を一度に読み取る）」を参照してください。
	ミックスサイズ原稿送り機能を使用しているときに、A5 サイズの原稿をよこ向き（⏍）にして原稿送り装置にセットしていませんか？	A5 サイズの原稿は、たて向き（⏍）にセットしてください。
原稿の端が折れる	原稿がカールしていませんか？	原稿のカールを直してから、セットしてください。

症　状	原　因	処　置
カラーコピーが取れない	［カラーモード］が［白黒］になっていませんか？	［カラーモード］の［フルカラー］を選択してください。 **参照** •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「コピー」>「カラーモード（コピーの色を選択する）」を参照してください。
	ディスプレイに、トナーカートリッジ交換を促すメッセージが表示されていませんか？	メッセージに表示されている色のトナーカートリッジを交換してください。 **参照** •「トナーカートリッジを交換する」（P.82）を参照してください。
	ディスプレイに、ドラムカートリッジ交換を促すメッセージが表示されていませんか？	メッセージに表示されているドラムカートリッジを交換してください。 **参照** •「ドラムカートリッジ［R1］［R2］［R3］［R4］を交換する（スポット保守のお客様のみ）」（P.87）を参照してください。
ホチキスがうまく留められない	ホチキスカートリッジに針づまりなどが発生していませんか？	詰まった針を取り除くなどの処置をしてください。 **参照** •「ホチキスがうまく留められないとき」（P.740）を参照してください。
	プリンタードライバーが正しく設定されていますか？	コンピューターからプリントする場合、プリンタードライバーの［印刷設定］で［ホチキス］の設定を確認してください。

画質のトラブル

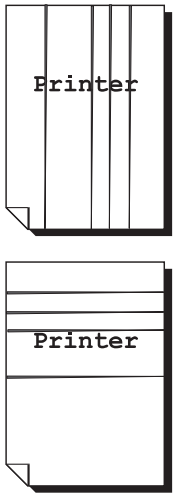
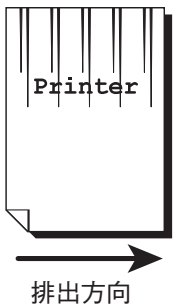
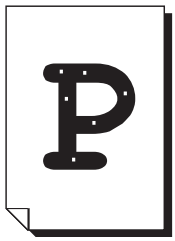
プリント結果の画質が悪い場合は、次の表から最も近いと思われる症状を選び、処置してください。

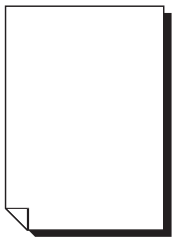
該当する処置をしても画質が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

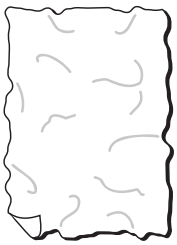
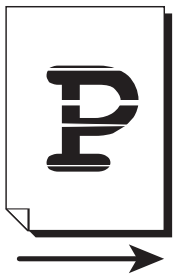
症　状	原　因	処　置
コピーが汚れている	原稿ガラスまたは原稿カバーが汚れていませんか？	原稿ガラスまたは原稿カバーを清掃してください。 参照 •「本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃」（P.111）を参照してください。
	OHPフィルムなどの透過度が高い原稿ではありませんか？	透過度が高い原稿では、原稿カバーの汚れがコピーに写ります。原稿の上に白紙を載せてコピーしてください。
	原稿がカラーペーパー、ざら紙、青焼きなどではありませんか？	コピー濃度を調整するか、画質を調整してコピーしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「画質調整」を参照してください。
	光沢のある印画紙をコピーしていませんか？	光沢のある印画紙は、原稿ガラスに張り付きやすく、影が汚れのようにコピーされることがあります。OHP フィルムなどの透明フィルムを原稿の下に敷いてコピーしてください。
コピーに黒筋が入る	原稿送り装置の読み取りガラスが汚れていませんか？	原稿読み取りガラスを清掃してください。 参照 •「フィルム、原稿読み取りガラスの清掃」（P.116）を参照してください。
コピーが濃すぎる	コピー濃度が［こく］に設定されていませんか？	コピー濃度を調整してください。 参照 •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「画質調整」を参照してください。
コピーが薄すぎる	原稿の濃度が薄くありませんか？	
	コピー濃度が［うすく］に設定されていませんか？	
コピーがわずかにずれる	用紙がずれていたり、用紙の先端が用紙トレイの角から離れていませんか？	用紙をそろえて、用紙の先端を用紙トレイの角に合わせてセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」（P.58）を参照してください。

症　状	原　因	処　置
コピーがずれたり、曲がって写る	原稿が正しくセットされていますか？	原稿を正しくセットしてください。 **参照** •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	用紙が用紙トレイに正しくセットされていますか？	用紙を正しくセットしてください。 **参照** •「用紙をセットする」（P.58）を参照してください。
	用紙トレイ 5（手差し）の用紙ガイドが用紙に触れるようにセットされていますか？	用紙を正しくセットしてください。 **参照** •「用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする」（P.64）を参照してください。
	原稿送り装置の原稿ガイドがずれていませんか？	原稿を正しくセットして、原稿ガイドを原稿の端に当ててください。 **参照** •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	用紙トレイが確実にセットされていますか？	用紙トレイを確実に奥まで押し込んで、正しくセットしてください。 **参照** •「用紙をセットする」（P.58）を参照してください。
コピーが部分的に写らない	用紙が湿気を含んでいませんか？	用紙が湿気を含んでいると、コピーが部分的に写らなかったり、不鮮明になります。未開封の用紙と交換してください。 **参照** •「用紙をセットする」（P.58）を参照してください。
	折り目やしわが入った用紙がトレイに入っていませんか？	不良用紙を取り除くか、未開封の用紙と交換してください。 **参照** •「用紙をセットする」（P.58）を参照してください。
	原稿が貼り合わせ原稿や折り込みの原稿ではありませんか？	貼り合わせたのりの部分や折りの部分が反り返って、原稿ガラスに密着せず、原稿が浮いていることが考えられます。原稿の上に白紙の束を載せて、原稿ガラスに密着するようにセットしてください。

症　状	原　因	処　置
コピーをすると縞模様が発生する	原稿の拡大コピーの倍率が大きすぎませんか？	拡大コピーをすると、倍率によって縞模様が発生することがあります。コピーの倍率を調整してください。 **参照** •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「コピー」>「倍率選択（拡大 / 縮小してコピーする）」を参照してください。
カラーコピーの色合いがずれて画質が悪い	色階調がずれていませんか？	自動階調補正をしてください。 **参照** •「自動階調補正を行う」（P.120）を参照してください。
	直射日光の当たる場所に置かれていませんか？	原稿ガラスに強い光が当たる状態で、電源を入れたり、節電状態を解除すると、色合いがずれることがあります。原稿カバーを閉じて電源を入れ、コピーまたはプリントできる状態になったら、再度電源を切って、入れ直してください。
プリントがうすい (かすれる、不鮮明) 	用紙が湿気を含んでいます。	新しい用紙と交換してください。 **参照** •「用紙をセットする」（P.58）を参照してください。
	ドラムカートリッジが劣化、または損傷しています。	新しいドラムカートリッジと交換してください。 **参照** •「ドラムカートリッジ［R1］［R2］［R3］［R4］を交換する（スポット保守のお客様のみ）」（P.87）を参照してください。
	トナーカートリッジ内にトナーが残っていません。	新しいトナーカートリッジと交換してください。 **参照** •「トナーカートリッジを交換する」（P.82）を参照してください。
黒点がプリントされる 	ドラムカートリッジが劣化、または損傷しています。	新しいドラムカートリッジと交換してください。 **参照** •「ドラムカートリッジ［R1］［R2］［R3］［R4］を交換する（スポット保守のお客様のみ）」（P.87）を参照してください。

症　状	原　因	処　置
黒線または色線がプリントされる  	ドラムカートリッジが劣化、または損傷しています。	新しいドラムカートリッジと交換してください。 **参照** •「ドラムカートリッジ［R1］［R2］［R3］［R4］を交換する（スポット保守のお客様のみ）」（P.87）を参照してください。
	本体内部（LED プリントヘッド部）が汚れています。	本体内部を清掃してください。 **参照** •「本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃」（P.111）を参照してください。
	原稿送り装置の読み取りガラスが汚れています。	原稿読み取りガラスを清掃してください。 **参照** •「フィルム、原稿読み取りガラスの清掃」（P.116）を参照してください。
等間隔に汚れが起きる  排出方向	用紙搬送路に汚れが付着しています。	数枚プリントしてください。
	ドラムカートリッジが劣化、または損傷しています。	新しいドラムカートリッジと交換してください。 **参照** •「ドラムカートリッジ［R1］［R2］［R3］［R4］を交換する（スポット保守のお客様のみ）」（P.87）を参照してください。
黒くぬりつぶされた部分に白点が現れる 	使用している用紙が適切ではありません。	適切な用紙をセットしてください。 **参照** •「用紙をセットする」（P.58）を参照してください。
	ドラムカートリッジが劣化、または損傷しています。	新しいドラムカートリッジと交換してください。 **参照** •「ドラムカートリッジ［R1］［R2］［R3］［R4］を交換する（スポット保守のお客様のみ）」（P.87）を参照してください。

症　状	原　因	処　置
指でこするとかすれる トナーが定着しない 用紙がトナーで汚れる 	用紙が湿気を含んでいます。	新しい用紙と交換してください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.58) を参照してください。
	使用している用紙が適切ではありません。	適切な用紙をセットしてください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.58) を参照してください。
用紙全体が黒くプリントされる 	ドラムカートリッジが劣化、または損傷しています。	新しいドラムカートリッジと交換してください。 **参照** •「ドラムカートリッジ [R1] [R2] [R3] [R4] を交換する（スポット保守のお客様のみ)」(P.87) を参照してください。
	高圧電源の故障が考えられます。	弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
何もプリントされない 	一度に複数枚の用紙が搬送されています（重送)。	用紙をよくさばいてからセットし直してください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.58) を参照してください。
	電源または高圧電源の故障が考えられます。	弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
白抜けや白筋または色筋が出る 	用紙が湿気を含んでいます。	新しい用紙と交換してください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.58) を参照してください。
	使用している用紙が適切ではありません。	適切な用紙をセットしてください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.58) を参照してください。
	本体内部（LED プリントヘッド部）が汚れています。	本体内部を清掃してください。 **参照** •「本体内部 (LED プリントヘッド部) の清掃」(P.111) を参照してください。

症　状	原　因	処　置
全体がうっすらとプリントされる  	用紙トレイ 5（手差し）を使用してプリントした場合で、プリンタードライバーで指定した用紙サイズと実際にセットされている用紙の種類とサイズが異なります。	用紙トレイ 5（手差し）に、正しい種類とサイズの用紙をセットしてください。 **参照** •「用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする」(P.64) を参照してください。
	一度に複数枚の用紙が搬送されています。	用紙をよくさばいてからセットし直してください。 **参照** •「用紙をセットする」（P.58）を参照してください。
用紙にしわが付く 	使用している用紙が適切ではありません。	新しい用紙と交換してください。 **参照** •「用紙をセットする」（P.58）を参照してください。
	用紙の継ぎ足しをしています。	
	用紙が湿気を含んでいます。	
文字がにじむ  	使用している用紙が適切ではありません。	新しい用紙と交換してください。 **参照** •「用紙をセットする」（P.58）を参照してください。
	用紙の継ぎ足しをしています。	
	用紙が湿気を含んでいます。	
たて長に白抜けまたは色抜けする  排出方向	ドラムカートリッジが劣化、または損傷しています。	新しいドラムカートリッジと交換してください。 **参照** •「ドラムカートリッジ［R1］［R2］［R3］［R4］を交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.87) を参照してください。
	トナーカートリッジ内にトナーが残っていません。	新しいトナーカートリッジと交換してください。 **参照** •「トナーカートリッジを交換する」(P.82) を参照してください。
	本体内部（LED プリントヘッド部）が汚れています。	本体内部を清掃してください。 **参照** •「本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃」(P.111) を参照してください。

症　状	原　因	処　置
斜めにプリントされる  	用紙カセットの用紙ガイドが正しい位置にセットされていません。	たてよこの用紙ガイドを正しい位置にセットしてください。 **参照** •「用紙をセットする」（P.58）を参照してください。

コピーのトラブル

コピー機能利用時のトラブル処置方法について説明します。

コピーできない

コピーできない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
原稿送り装置から原稿がうまく送り込まれない	原稿のサイズが小さすぎる。	原稿送り装置にセットできる原稿の最小サイズを確認して、適切なサイズの原稿をセットしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	適切な原稿を使用していない。	変形原稿、名刺、OHP フィルム、薄い原稿は原稿送り装置では使用できません。また、付せん、クリップ、セロハンテープを付けた原稿も使用できません。 参照 •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	原稿ガイドの位置がずれている。	原稿サイズに合わせて、原稿ガイドを正しくセットしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	原稿の一部が破れて、原稿送り装置に紙片が残っている。	原稿送り装置のカバーを開けて、紙片を取り除いてください。 参照 •「原稿が詰まった場合」（P.735）を参照してください。
	サイズが異なる原稿をセットしている。	サイズが異なる原稿をセットしている場合に、［ミックスサイズ原稿送り］を設定しないと、原稿詰まりが発生します。サイズが異なる原稿をセットした場合は、必ず［ミックスサイズ原稿送り］の設定を［する］にしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「読み取り方法」>「ミックスサイズ原稿送り（サイズが異なる原稿を一度に読み取る）」を参照してください。

思ったとおりのコピー結果にならない

コピー結果が予想と違う結果になる場合の対処方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
コピーが汚れている	原稿カバー、または原稿ガラスが汚れている。	原稿カバー、または原稿ガラスを清掃してください。 参照 • 原稿カバー、原稿ガラスの清掃（P.114）を参照してください。
	OHP フィルムなどの透過度の高い原稿を使用している。	透過度の高い原稿の場合、原稿カバーの汚れがコピーに写ります。原稿の上に白紙を載せてコピーしてください。
	カラーペーパー、ざら紙、青焼きなどを原稿として使用している。	紙の地色がコピーに写ります。コピー濃度を調整するか、画質を調整するか、地色除去を指定してコピーしてください。
	光沢のある印画紙を使用している。	光沢のある印画紙は、原稿ガラスに張り付きやすく、影が汚れのようにコピーされることがあります。OHP フィルムなどの透明フィルムを原稿の下に敷いてコピーしてください。
コピーが濃すぎる、または薄すぎる	コピー濃度の設定が適切ではない。	コピー濃度を調整してください。 参照 •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「画質調整」を参照してください。
	原稿の画質設定が適切ではない。	黒い文字をコピーし、薄いと感じた場合は、［原稿の画質］で［文字］を選択してください。 参照 •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「画質調整」を参照してください。
原稿の色と、コピーの色が異なる	色階調がずれている。	自動階調補正をしてください。 参照 •「自動階調補正を行う」（P.120）を参照してください。
	原稿にあった、原稿タイプを選択していない。	［原稿の画質］で、原稿のタイプに合わせた画質を選択してください。 参照 •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「画質調整」>「原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）」を参照してください。
	原稿の画質設定が適切ではない。	黒い文字をコピーし、薄いと感じた場合は、［原稿の画質］で［文字］を選択してください。 参照 •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「画質調整」を参照してください。

症　状	原　因	処　置
コピーがわずかにずれる	用紙トレイにセットした用紙がずれている。	用紙をそろえて、用紙の先端を用紙トレイの手前の角に合わせてセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.58) を参照してください。
コピーが部分的に写らない	用紙が湿気を含んでいる。	用紙が湿気を含んでいると、コピーが部分的に写らなかったり、不鮮明になったりします。未開封の用紙と交換してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.58) を参照してください。
	折り目やしわが入った用紙が用紙トレイに入っている。	不良用紙を取り除くか、未開封の用紙と交換してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.58) を参照してください。
	貼り合わせた原稿や、折り込んである原稿を使用している。	貼り合わせたのりの部分や、折りの部分が、原稿ガラスに密着していないことが考えられます。原稿の上に白紙の束などを重ねて、原稿ガラスに密着するようにしてください。
コピーに縞模様が写る	原稿の拡大倍率が大きすぎる。	拡大コピーをすると、倍率によって縞模様が発生します。コピーの倍率を調整してください。 参照 •『ユーザーズガイド』(メディア (ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「コピー」>「コピー」>「倍率選択 (拡大 / 縮小してコピーする)」を参照してください。
コピーがずれたり、曲がって写っている	原稿が正しくセットされていない。	原稿を正しくセットしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』(メディア (ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	原稿送り装置の原稿ガイドがずれている。	原稿を正しくセットして、原稿ガイドを原稿の端に当ててください。 参照 •『ユーザーズガイド』(メディア (ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	用紙トレイが確実にセットされていない。	用紙トレイを確実に奥まで押し込んで、正しくセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.58) を参照してください。

症　状	原　因	処　置
コピーがずれたり、曲がって写っている	用紙トレイ 5（手差し）の用紙ガイドがずれている。	用紙を正しくセットして、用紙ガイドを用紙の端に当ててください。 参照 •「用紙サイズを変更する」(P.68) を参照してください。
希望のサイズにコピーされない	原稿カバー、または原稿ガラスが汚れている。	原稿カバー、または原稿ガラスを清掃してください。 参照 • 原稿カバー、原稿ガラスの清掃（P.114）を参照してください。
	OHP フィルムなどの透過度の高い原稿を使用している。	原稿の上に白紙を載せてコピーしてください。
	原稿がずれている。	原稿を正しくセットしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	原稿送り装置の原稿ガイドがずれている。	原稿を正しくセットして、原稿ガイドを原稿の端に当ててください。 参照 •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	定形外サイズの原稿を使用している。	原稿のサイズを入力してコピーしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	原稿が折れ曲がっている。	原稿をのばして正しくセットし直してください。 参照 •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
カラーコピーが取れない	[カラーモード] が [白黒] になっている。	[カラーモード] で、[自動]、または [フルカラー] を選択してください。 参照 •『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コピー」>「コピー」>「カラーモード（コピーの色を選択する）」を参照してください。
コピーの端が切れる	印刷可能エリアを超えている原稿を使用している。	倍率を調整して、少し小さめにコピーしてください。

症　状	原　因	処　置
ホチキスが留められない	フィニッシャーが装着されていない。	ホチキスを留めるにはフィニッシャーが必要です。フィニッシャーを装着するか、プリントオプションでホチキスを解除してください。
	ホチキスで留める枚数が制限枚数を超えている。	コピー枚数をホチキスで留められる枚数以下にしてください。 参照 • ホチキスで留められる枚数はお使いのフィニッシャーによって異なります。詳しくは「フィニッシャー A2（オプション）*」(P.771)、「フィニッシャー B1（オプション）*」(P.772)、「フィニッシャー C3（オプション）」(P.774)、「中とじフィニッシャー C3（オプション）」(P.776) を参照してください。

プリンターのトラブル

プリント機能利用時のトラブル対処方法について説明します。

プリントできない

プリントできない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
プリンターアイコンにデータが残っている	本機の電源が入っていない。	本機の主電源および電源を入れてください。
	コンピューターのネットワークケーブルが外れている。	コンピューターのネットワークケーブルをつなげてください。
	本機のネットワークケーブルが外れている。	本機のネットワークケーブルをつなげてください。 **参照** •「インターフェイスケーブルの接続」(P.24) を参照してください。
	プリンターモードがオフラインになっている。	〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押して、[機械状態レポート出力] 画面の [プリンターモード] を確認してください。[オフライン] になっていたら、[プリンターモード] 画面で、[オンライン] を選択してください。
	本機でエラーが発生している。	エラーの内容を確認して対処してください。
	IP アドレス、または SMB のネットワークパスが正しく設定されていない。	正しい IP アドレス、または SMB のネットワークパスを設定してください。 **補足** •「プリント機能の設定」(P.389) を参照してください。
	コンピューターと本機の間のネットワークが正常ではない。	ネットワーク管理者に相談してください。
	ポートが起動していない。	利用しているポートを起動してください。 **参照** •「ポート設定」(P.240) を参照してください。
	本機のハードディスクの残り容量が不足している。	親展ボックスのデータや蓄積されている文書（認証プリント、プライベートプリント、セキュリティープリントなど）で不要になったデータを削除し、空きスペースを増やしてください。
	本機が複数のコンピューターと接続している。	しばらく待ってから、再度プリントしてください。

症　状	原　因	処　置
大量に意味不明な文字（記号文字）が印刷される	他社機のプリンタードライバーが使用されています。	適切なプリンタードライバーを使用してください。プリンタードライバーのプロパティ画面で、［詳細設定］タブのドライバが本機になっていることを確認してください。
データは本機に送られている	用紙が入っていない。	用紙を補給してください。
	指定した用紙サイズの用紙がない。	指定した用紙サイズの用紙をセットしてください。 参照 • 「用紙をセットする」（P.58）を参照してください。
	コピー操作で、割り込みが行われている。	割り込み操作を解除してください。
	本機でエラーが発生している。	エラーの内容を確認して対処してください。
	ジョブの実行が一時的に停止されている。	画面でジョブをキャンセルするかどうかを指定してください。

思ったとおりのプリント結果にならない

プリント結果が予想と違う結果になる場合の処置方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
カラーでプリントされない	プリントオプションの［カラーモード］で［白黒］が選択されている。	［カラーモード］で［カラー（自動判別）］を選択してください。
ホチキスが留められない	フィニッシャーが装着されていない。	ホチキスを留めるにはフィニッシャーが必要です。フィニッシャーを装着するか、プリントオプションでホチキスを解除してください。
	ホチキスで留める枚数が制限枚数を超えている。	コピー枚数をホチキスで留められる枚数以下にしてください。 参照 • 詳しくは「主な仕様」（P.752）を参照してください。
両面でプリントされない	プリントページバッファが不足している。	オプションに増設メモリーがある機種のみプリンタードライバーで［印刷モード］を［標準］に設定してください。また、使用していないポートを［停止］に設定してください。
紙折りされない	紙折りユニットが装着されていない。	本機に装着されているオプションを確認して、プリンター構成を再度設定してください。
異なった用紙サイズでプリントされる	指定したトレイに異なったサイズの用紙がセットされている。	トレイにセットされている用紙サイズを変更するか、指定した用紙サイズがあるトレイにプリントオプションを変更してください。

症　状	原　　因	処　　置
用紙の端にあるイメージが欠ける	本機の印字可能エリアを超えています。	本機の印刷エリアを拡張するか、ドキュメントの印字エリアを小さくしてください。
コンピューターで指定したフォントとプリント結果のフォントが異なる	プリンタードライバーで、フォントの置き換えを設定している。	フォントの置き換えテーブルを確認してください。
オフセットされない	本機にオフセット機能が装着されていない。	オフセット排出するには、オフセット排出ユニットまたはフィニッシャーが装着されている必要があります。
プリントスピードが遅い	［印刷モード］で［高精細（文字 / 線）］を選択している。	写真などのイメージデータを高精細でプリントするとプリント速度が遅くなります。［印刷モード］で［標準］を選択してください。
プリントオプションで指定した内容が無効になる	他機種のプリンタードライバーを使用している。	本機のプリンタードライバーをインストールしてください。
	オプションの装備が本機に装着されていない。	本機に装着されているオプションを確認して、プリンタードライバーの［プリンター構成］の［使用できるオプション］で再度設定してください。
端が欠ける	本機の印字可能エリアを超えています。	本機の印刷エリアを拡張するか、ドキュメントの印字エリアを小さくしてください。
セキュリティープリントと親展ボックス保存プリントで色が異なる	印刷の経路が異なるためです。親展ボックス保存プリントはコピーやファクスと同様の処理を行うため、色を「点の有無」で表現します。一方、セキュリティープリントはプリントと同様の処理のため、デフォルトの設定では、色を「濃度」で表現します。	セキュリティープリントの色を親展ボックス保存プリントの色に合わせるためには、プリンタードライバーの［詳細設定］タブの［グラフィックス］で［ページ印刷モード］を［する］に設定して印刷してください。
プリントの色が以前と違う	色階調がずれている。	自動階調補正をしてください。 参照 • 「自動階調補正を行う」（P.120）を参照してください。
出力紙に黒線が出る	他機種のプリンタードライバーを使用している。	本機のプリンタードライバーをインストールしてください。

ファクスのトラブル

ファクス利用時のトラブル対処方法について説明します。

注記

- 光回線や IP 電話回線におけるファクス通信について

  当社製品は、NTT のアナログ回線規格に準拠しています。お客様が利用している（または、これから利用しようとしている）回線が、光回線や IP 電話回線の場合には、伝送路の回線品質（パケットロス、エコー、遅延など）により、ファクス通信がエラーになることがあります。その場合は、回線事業者にお問い合わせください。

補足

- インターネットファクスのトラブルについては、「メール機能のトラブル」（P.556）を参照してください。
- ファクス機能は、お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

送信時のトラブル

送信できない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　　因	処　　置
未送信レポートが出力された	何らかのエラーにより、送信できませんでした。	未送信レポートの「通信結果」欄を確認して対処してください。エラーコードが表示されている場合は、「エラーコード」（P.564）を参照して対処してください。
通信できない（一般のファクス）	電話線が正しく接続されていない。	本機には電話線を差し込む場所が複数あります。正しい場所に差し込まれていないと通信できません。 正しい場所に差し込まれている場合、「オンフック」機能を使用して一般回線に電話できます。
	電話回線の回線種別が正しく設定されていない。	本機に設定されている回線の種別を、契約している回線の種別（PB／10pps／20pps）と合わせてください。
	電話回線に異常が発生している。	近くにある電話機で、電話ができるかどうか確認してください。電話ができない場合は、本機の異常ではなく、電話回線に問題があります。
	送信先のファクスが正常に動作していない。	送信先のファクスの電源が切れていたり、受信モードが手動受信であったり、G3 受信ができないファクスの場合、送信することはできません。 送信先に電話をかけて確認してください。
	間違った電話番号に、ファクスしている。	ファクス番号を確認して、再度送信してください。
	かけている電話番号が、ファクスの番号ではない。	相手に電話をかけて、「ピー」という音が受話器から聞こえなければ、ファクスではありません。

症　状	原　　因	処　　置
通信できない（一般のファクス）	外線発信番号を忘れている。	内線から発信している場合、外線発信番号が必要です。 ダイヤル時に、外線発信番号「0」などをダイヤルしてから、ファクス番号をダイヤルしてください。 交換機が変更になり、外線発信番号「0」をダイヤルしても通信できない場合は、「0＊」で通信できるようになる場合もあります。
	短縮宛先番号からの発信時に、外線発信番号を付けている。	短縮宛先番号で内線から外線に発信している場合、短縮宛先番号に外線発信番号の「0」が、すでに登録されている場合があります。未送信レポートで送信先の電話番号を確認してください。
	ポーリング機能など、送信先のファクスが対応していない機能を使用している。	送信先のファクスがその機能に対応しているかどうか確認してください。
	認証、集計管理機能を使用している場合で、コンピューターから直接ファクスを送信している。	認証、集計管理機能を使用している場合にコンピューターから直接ファクスを送信するときは、ファクスドライバーに、本体に登録されている正しいユーザー名と暗証番号の設定が必要です。 **参照** • 認証、集計管理機能については、「認証と集計管理機能について」（P.487）を、コンピューターからの直接ファクス送信については、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コンピューターからの操作」>「ファクス送信」を参照してください。
通信できない（IPファクス（SIP））	正しいIPアドレスが設定されていない。	本機に正しいIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを設定してください。
	正しいSIP本体アドレスが設定されていない。	本機に正しいSIP本体アドレスを設定してください。
	正しいSIPサーバーのIPアドレスが本機に設定されていない。	本機に正しいSIPサーバーのIPアドレスを設定してください。
	ネットワーク内の指定したSIPサーバーが動作していない。	SIPサーバーが正常に動作していることを、ネットワーク管理者に確認してください。
	SIPサーバーへの本機の情報の登録が失敗している。	本機の電源を切って、入れ直してください。
	送信先のIPファクス（SIP）機が正常に動作していない。	送信先のIPファクス（SIP）機の電源が切れている場合は、送信することはできません。送信先に電話をかけて確認してください。

症　状	原　　因	処　　置
通信できない（IP ファクス（SIP））	宛先の指定方法が正しくない。	次の宛先を指定してください。 • SIP サーバー、VoIP ゲートウェイともに使用していない場合 宛先に「SIP ユーザー名 @IP アドレス」を指定してください。 • SIP サーバーだけを使用している場合 宛先に「SIP ユーザー名」、または「電話番号」を 指定してください。 • VoIP ゲートウェイを使用している場合 宛先に「電話番号」を指定してください。 • SIP サーバー、VoIP ゲートウェイともに使用している場合 宛先に「SIP ユーザー名」、または「電話番号」を指定してください。
	ポーリング機能など、送信先のファクスが対応していない機能を使用している。	送信先のファクスがその機能に対応しているかどうかを確認してください。
	認証、集計管理機能を使用している場合で、コンピューターから直接ファクスを送信している。	認証、集計管理機能を使用している場合にコンピューターから直接ファクスを送信するときは、ファクスドライバーに、本体に登録されている正しいユーザー名と暗証番号の設定が必要です。 **参照** • 認証、集計管理機能については、「認証と集計管理機能について」(P.487)、コンピューターから直接ファクスを送信する方法については、『ユーザーズガイド』(メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「コンピューターからの操作」>「ファクス送信」を参照してください。
	IP ファクス（SIP）を受信中である。	IP ファクス（SIP）の同時接続数は 1 つです。同時に IP ファクス（SIP）の送受信はできません。 受信中の IP ファクス（SIP）の受信終了後に、もう一度、送信してください。
	ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーター / ファイヤーウォールなど）で、本機のポートが通過できない。	ネットワーク中継機器で、IP ファクス（SIP）用ポートを利用可能に設定してください。
	本機の受付 IP アドレスの制限が正しく設定されていない。	SIP サーバーを使用する環境で、本機で受付 IP アドレスを制限している場合は、受け付ける IP アドレスに SIP サーバーの IP アドレスを追加してください。 CentreWare Internet Services を使って、［プロパティ］タブ>［セキュリティー］>［受付 IP アドレス制限］で登録してください。
	Ethernet ケーブルが1 分以上抜けていた。	SIP サーバー上の Register リカバリが終了すると登録に成功します。処置は必要ありません。

症　状	原　　因	処　　置
通信できない（IPファクス（SIP）でVoIP ゲートウェイを使用している場合）	VoIP ゲートウェイの登録が正しくない。	本機に正しい VoIP ゲートウェイを登録してください。
	ネットワーク内の指定したVoIP ゲートウェイが動作していない。	VoIP ゲートウェイが正常に動作していることを、ネットワーク管理者に確認してください。
	VoIP ゲートウェイ上の設定が正しくない。	VoIP ゲートウェイ上の設定が正しいことをネットワーク管理者に確認してください。
	送信先のG3ファクス機が正常に動作していない。	送信先の G3 ファクス機の電源が切れている場合には、送信することはできません。送信先に電話をかけて確認してください。
IPファクス（SIP）通信に時間がかかる	本機のQoS設定値が不適切なため、ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）での本機から送信されたIPパケットの優先度が低くなっている。	使用しているネットワーク環境に合わせ、本機の［IP パケット送信優先度］の設定値を大きくしてください。 参照 • ［IP パケット送信優先度］については、「IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）」（P.260）を参照してください。
	ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）のQoS 値毎に割り当てられているキュー（バッファ）が小さいため、通信データの損失が大量に発生している。	ネットワーク中継機器で、ネットワーク環境に適したパラメーターを設定してください。
	ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）をはさんで通信速度（10M/100M/1000M）が異なっているため、通信データの損失が大量に発生している。	ネットワーク内で通信速度を統一してください。
	VoIP ゲートウェイの通信パラメーター（input gain/output attenuation、echo 設定など）がネットワーク環境に合っていないため、通信データの損失が大量に発生している。	VoIP ゲートウェイで、ネットワーク環境に適したパラメーターを設定してください。
	電話用ネットワークとデータ用ネットワークを分けて運用している場合で、IPファクス（SIP）機をデータ用ネットワークに接続している。	ネットワーク環境全体で QoS 設定をして、トラフィック管理を行ってください。 本機の QoS は［IP パケット送信優先度］を設定してください。 参照 • IP パケット送信優先度］については、「IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）」（P.260）を参照してください。

症　状	原　　因	処　　置
IPファクス(SIP)通信時にネットワークの他の通信/通話が遅くなる	本機のQoS設定値が不適切なため、ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）において本機から送信されたIPパケットの優先度が必要以上に高くなっている。または、バッファ領域を占有している。	使用しているネットワーク環境に合わせ、本機の［IP パケット送信優先度］の設定値を小さくしてください。 **参照** • ［IP パケット送信優先度］については、「IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）」（P.260）を参照してください。
	電話用ネットワークとデータ用ネットワークを分けて運用している場合で、IPファクス（SIP）機を音声用ネットワークに接続している。	ネットワーク環境全体で QoS 設定をして、トラフィック管理を行ってください。 **参照** • 本機の QoS は［IP パケット送信優先度］を設定してください。 ［IP パケット送信優先度］については、「IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）」（P.260）を参照してください。
画質が悪い	原稿読み取りガラスが汚れている。	原稿読み取りガラスを清掃してください。 **参照** • フィルム、原稿読み取りガラスの清掃（P.116）を参照してください。
	送信濃度が適正ではない。	送信濃度を調節してください。 **参照** • ユーザーズガイド（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ファクス」>「ファクス / インターネットファクス」を参照してください。
	送信元に問題がある。	送信元に確認してください。 **補足** • 通信時は、本機側だけの問題ではなく、相手機側のトラブルによって画質に異常が発生する場合があります。

受信時のトラブル

受信できない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　　因	処　　置
通信できない（一般のファクス）	電話線が正しく接続されていない。	本機には電話線を差し込む場所が複数あります。正しい場所に差し込まれていないと通信できません。正しい場所に差し込まれている場合、「オンフック」機能を使用して一般回線に電話できます。
	電話回線に異常が発生している。	近くにある電話機で、電話ができるかどうか確認してください。電話ができない場合は、本機の異常ではなく、電話回線に問題があります。

症　状	原　　因	処　　置
通信できない（一般のファクス）	回線 1 ～ 3 付加サービスが正しく設定されていない。	電話会社との回線契約（ナンバー・ディスプレイ / 発信者番号表示およびダイヤルイン）を確認して、設定してください。 **参照** •「回線 1 ～ 3 付加サービス」(P.300) を参照してください。
	ナンバー・ディスプレイの契約をしていない。	発信番号通知の振り分け機能を利用するには、NTT とのナンバー・ディスプレイの契約が必要です。
	モデムダイヤルインの契約をしていない。	モデムダイヤルインの振り分け機能を使用するには、NTT とのモデムダイヤルインの契約が必要です。
	電源が入っていない。	本機の電源が入っていないと、受信できません。本機の主電源および電源を入れてください。
	用紙がセットされていない。	本機に用紙がセットされていない場合、受信した文書をプリントできません。
	用紙が詰まっている。	本機の操作パネルを見て、詰まっている用紙を取り除いてください。 **参照** •「用紙が詰まった場合」(P.706) を参照してください。
	機械管理者モードになっている。	本機が機械管理者モードになっている場合は、受信できません。機械管理者モードを終了してください。
	受信パスワードを設定している。	受信パスワードを設定している場合､F コードで正しい受信パスワード送信してくる相手だけ、受信やポーリングを受け付けることができます。
	手動受信に設定されている。	手動受信をするか、自動受信に設定し直してください。 **参照** •「ファクス受信モード」(P.153) を参照してください。
	手動送信に設定されている。	FAX 情報サービスを利用するには、オンフックまたはオフフック画面で手動受信モードに設定し直して、情報コードなどを入力したあとで、最後に〈スタート〉ボタンを押してください。
	送信元で原稿を正しくセットしていない。	送信元に確認してください。 **補足** • 通信時は、本機側だけの問題ではなく、相手機側のトラブルによって異常が発生する場合があります。
通信できない（IP ファクス（SIP)）	正しい IP アドレスが設定されていない。	本機に正しい IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを設定してください。
	正しい SIP サーバーの IP アドレスが本機に設定されていない。	本機に正しい SIP サーバーの IP アドレスを設定してください。

症　状	原　　因	処　　置
通信できない（IP ファクス（SIP））	ネットワーク内の指定した SIP サーバーが動作していない。	SIP サーバーが正常に動作していることを、ネットワーク管理者に確認してください。
	SIP サーバーへの本機の情報の登録が失敗している。	本機の電源を切って、入れ直してください。
	電源が入っていない。	本機の電源が入っていないと、受信できません。本機の主電源および電源を入れてください。
	機械管理者モードになっている。	本機が機械管理者モードになっている場合は、受信できません。機械管理者モードを終了してください。
	間違った受信パスワードを設定している。	受信パスワードを設定している場合、F コードで正しい受信パスワードを送信してくる相手だけ、受信やポーリングを受け付けることができます。
	IP ファクス（SIP）を送信中である。	IP ファクス（SIP）の同時接続数は 1 つです。同時に IP ファクス（SIP）の送受信はできません。 送信中の IP ファクス（SIP）の送信終了後に、送信元に再送を依頼してください。
	ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーター / ファイヤーウォールなど）で、本機のポートが通過できない。	ネットワーク中継機器で、本機の IP ファクス（SIP）用ポートを利用可能に設定してください。
	本機の受付 IP アドレスの制限が正しく設定されていない。	SIP サーバーを使用する環境で、本機で受付 IP アドレスを制限している場合は、受け付ける IP アドレスに SIP サーバーの IP アドレスを追加してください。 CentreWare Internet Services を使って、［プロパティ］タブ >［セキュリティー］>［受付 IP アドレス制限］で登録してください。
	Ethernet ケーブルが 1 分以上抜けていた。	SIP サーバー上の Register リカバリが終了すると登録に成功します。処置は必要ありません。
通信できない（IP ファクス（SIP）で VoIP ゲートウェイを使用している場合）	VoIPゲートウェイの登録が正しくない。	本機に正しい VoIP ゲートウェイを登録してください。
	ネットワーク内の指定した VoIPゲートウェイが動作していない。	VoIP ゲートウェイが正常に動作していることを、ネットワーク管理者に確認してください。
	VoIPゲートウェイ上の設定が正しくない。	VoIP ゲートウェイ上の設定が正しいことをネットワーク管理者に確認してください。

症　状	原　　因	処　　置
IP ファクス(SIP)通信に時間がかかる	本機の QoS 設定値が不適切なため、ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）での本機から送信された IP パケットの優先度が低くなっている。	使用しているネットワーク環境に合わせ、本機の［IP パケット送信優先度］の設定値を大きくしてください。 参照 • ［IP パケット送信優先度］については、「IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）」(P.260）を参照してください。
	ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）の QoS 値毎に割り当てられているキュー（バッファ）が小さいため、通信データの損失が大量に発生している。	ネットワーク中継機器で、ネットワーク環境に適したパラメーターを設定してください。
	ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）をはさんで通信速度（10M/100M/1000M）が異なっているため、通信データの損失が大量に発生している。	ネットワーク内で通信速度を統一してください。
	VoIPゲートウェイの通信パラメーター（input gain/output attenuation、echo 設定など）がネットワーク環境に合っていないため、通信データの損失が大量に発生している。	VoIP ゲートウェイで、ネットワーク環境に適したパラメーターを設定してください。
	電話用ネットワークとデータ用ネットワークを分けて運用している場合で、IP ファクス（SIP）機をデータ用ネットワークに接続している。	ネットワーク環境全体で QoS 設定をして、トラフィック管理を行ってください。 本機の QoS は［IP パケット送信優先度］を設定してください。 参照 • ［IP パケット送信優先度］については、「IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）」(P.260）を参照してください。

症　状	原　　因	処　　置
IPファクス(SIP)通信時にネットワークの他の通信/通話が遅くなる	本機のQoS設定値が不適切なため、ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）において本機から送信されたIPパケットの優先度が必要以上に高くなっている。または、バッファ領域を占有している。	使用しているネットワーク環境に合わせ、本機の［IPパケット送信優先度］の設定値を小さくしてください。 **参照** • ［IPパケット送信優先度］については、「IPパケット送信優先度 /IPパケット送信優先度（Ethernet1）、IPパケット送信優先度（Ethernet2）」(P.260）を参照してください。
	電話用ネットワークとデータ用ネットワークを分けて運用している場合で、IPファクス（SIP）機を音声用ネットワークに接続している。	ネットワーク環境全体で QoS 設定をして、トラフィック管理を行ってください。 本機の QoS は［IP パケット送信優先度］を設定してください。 **参照** • ［IPパケット送信優先度］については、「IPパケット送信優先度 /IPパケット送信優先度（Ethernet1）、IPパケット送信優先度（Ethernet2）」(P.260）を参照してください。
画質が悪い	ドラムカートリッジに傷がある。	コピーして画質が悪い場合は、ドラムカートリッジを交換してください。 **参照** • 「ドラムカートリッジ［R1］［R2］［R3］［R4］を交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.87) を参照してください。
	送信元の原稿読み取り部が汚れている	送信元に確認してください。 **補足** • 通信時は、本機側だけの問題ではなく、相手機側のトラブルによって画質に異常が発生する場合があります。
	送信元の解像度の設定が低い。	送信元に確認してください。 **補足** • 通信時は、本機側だけの問題ではなく、相手機側のトラブルによって画質に異常が発生する場合があります。

<table>
<tr><th>症　状</th><th>原　　因</th><th>処　　置</th></tr>
<tr><td>1ページの受信文書が複数に分割される</td><td>送信元での原稿読み取り時に、何らかの原因により、原稿が大きく読み込まれている。</td><td>本機は、原稿を受信した場合の処理方法を、自動縮小受信との組み合わせで設定できます。組み合わせによって、受信文書は次のようにプリントされます。

<table><tr><td></td><td>自動縮小受信あり</td><td>自動縮小受信なし</td></tr><tr><td>しきい値以内の場合</td><td>自動的に縮小されて、1枚にプリント</td><td>定形サイズを超える部分をカットしてプリント</td></tr><tr><td>しきい値を超える場合</td><td>等倍で分割されてプリント</td><td>ー</td></tr></table>
参照
• 「ページ分割しきい値」(P.299)、「自動縮小受信」(P.299) を参照してください。</td></tr>
<tr><td>ボックスセレクター機能を設定しているのに、受信文書が選択した親展ボックスに蓄積されず、プリントされてしまう</td><td>ボックスセレクター機能の設定で、未登録の親展ボックスが選択されている。</td><td>ボックスセレクター機能を設定する場合は、登録済みの親展ボックスを選択してください。未登録の親展ボックスを選択すると、受信文書は親展ボックスに蓄積されず、自動的にプリントされます。

参照
• 親展ボックスの登録については「ボックス登録」(P.332) を、ボックスセレクター機能の設定については「受信文書の保存先 / 排出先」(P.303) を参照してください。</td></tr>
</table>

スキャナーのトラブル

スキャナー機能利用時のトラブル対処方法について説明します。

補足

- スキャナー機能は、お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

本機でスキャンできない

本機でスキャンできない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　　因	処　　置
原稿送り装置から原稿がうまく送り込まれない	原稿のサイズが小さすぎる。	原稿送り装置にセットできる原稿の最小サイズを確認して、適切なサイズの原稿をセットしてください。 **参照** •『ユーザーズガイド』(メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「スキャン」>「スキャン操作の流れ」を参照してください。
	適切な原稿を使用していない。	変形原稿、名刺、OHP フィルム、薄い原稿は原稿送り装置では使用できません。また、付せん、クリップ、セロハンテープを付けた原稿も使用できません。 **参照** •『ユーザーズガイド』(メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「スキャン」>「スキャン操作の流れ」を参照してください。
	原稿ガイドの位置がずれている。	原稿サイズに合わせて、原稿ガイドを正しくセットする。 **参照** •『ユーザーズガイド』(メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「スキャン」>「スキャン操作の流れ」を参照してください。
	原稿の一部が破れて、原稿送り装置に紙片が残っている。	原稿送り装置のカバーを開けて、紙片を取り除いてください。 **参照** •「原稿が詰まった場合」(P.735) を参照してください。
	サイズが異なる原稿をセットしている。	サイズが異なる原稿をセットしている場合に、[ミックスサイズ原稿送り] を設定しないと、原稿詰まりが発生します。サイズが異なる原稿をセットした場合は、必ず [ミックスサイズ原稿送り] の設定を [する] にしてください。 **参照** •『ユーザーズガイド』(メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「スキャン」>「読み取り方法」を参照してください。

スキャン文書をコンピューターに取り込めない

スキャン文書を、コンピューターに取り込めない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　　因	処　　置
スキャナーが見つからない	本機の電源が入っていない。	本機の主電源および電源を入れてください。
	コンピューターのネットワークケーブルが外れている。	コンピューターのネットワークケーブルをつなげてください。
	本機のネットワークケーブルが外れている。	本機のネットワークケーブルをつないでください。 **参照** •「インターフェイスケーブルの接続」(P.24) を参照してください。
	コンピューターと本機の間のネットワークが正常ではない。	ネットワーク管理者に相談してください。
親展ボックスが開かない	親展ボックスを登録していない。	親展ボックスを登録してください。 **参照** •「ボックス登録」(P.332)を参照してください。
	親展ボックスのパスワードを忘れてしまった。	パスワードは確認できません。機械管理者にパスワードを「なし」に設定してもらってから、再度パスワードを登録してください。 **参照** •「ボックス登録」(P.332)を参照してください。
TWAIN 通信エラーでスキャナーからデータが取り込めない	スキャナードライバーがインストールされていない。	スキャナードライバーをインストールしてください。
取り込み中に動作が止まってしまう	ファイルサイズが大きくありませんか？	解像度を低く設定して、再度読み込んでください。 **参照** •『ユーザーズガイド』(メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「スキャン」>「読み取り方法」を参照してください。
未送信レポートが出力された	何らかのエラーにより、転送できませんでした。	未送信レポートの「通信結果」欄を確認して対処してください。エラーコードが表示されている場合は、「エラーコード」(P.564) を参照して対処してください。

スキャン文書をネットワーク転送（FTP/SMB）できない

スキャン文書を、ネットワーク転送できない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　　因	処　　置
未送信レポートが出力された	何らかのエラーにより、転送できませんでした。	未送信レポートの「通信結果」欄を確認して対処してください。エラーコードが表示されている場合は、「エラーコード」(P.564) を参照して対処してください。
ネットワーク転送できない	サーバーは正しく入力されていますか？	サーバーの入力を確認してください。
	保存場所は正しく入力されていますか？	保存場所の入力を確認してください。
	SMB を選択した場合、共有名は正しく入力されていますか？	共有名の入力を確認してください。
	SMB（UNC 表記）を選択した場合、保存先は正しく入力されていますか？	保存先の入力を確認してください。
	ログイン名は正しく入力されていますか？	ログイン名の入力を確認してください。
	パスワードは正しく入力されていますか？	パスワードの入力を確認してください。
	Windows OS への転送の場合、本機と Windows の時刻設定は一致していますか？	本機と Windows の時刻設定を一致させてください。
	Windows OS を使用している場合に、パスワードを設定しないユーザーで、SMB 転送しようとしていますか？	次の方法でネットワークへのアクセス設定を変更します。 **1.** Windows を起動し、[コントロールパネル] > [管理ツール] を選択し、[ローカル セキュリティ ポリシー] を選択する。 **2.** [セキュリティの設定] > [ローカルポリシー] から [セキュリティ オプション] を選択する。 **3.** [アカウント ：ローカルアカウントの空のパスワードの使用をコンソールログオンのみに制限する] を [無効] に設定する。
	SMB 転送に指定した DFS の名前空間が 4 つ以上のルートで構成されていませんか？	3 つ以下のルートで構成された DFS 名前空間を指定してください。
	指定した保存場所のアクセス権が正しくない。	指定した保存場所で、ファイルやフォルダーの読み取りおよび書き込みができるようにアクセス権を設定してください。
	SMB　のポート番号がブロックされている。	転送先のサーバー、および複合機とサーバーの間に存在するルータや転送先のサーバー上のウィルススキャンソフト、ファイアウォールソフトなどで SMB ポートがブロックされていないか確認してください。

メール送信できない

スキャン文書を、E メール機能で送信できない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　　因	処　　置
未送信レポートが出力された	何らかのエラーにより、転送できませんでした。	未送信レポートの「送信結果」欄を確認して対処してください。エラーコードが表示されている場合は、「エラーコード」(P.564) を参照して対処してください。
メールが送信できない	入力したメールアドレスが正しくない。	メールアドレスの入力を確認してください。
	メール送信の上限データサイズを超えている。	メール送信の上限データサイズを変更するか、解像度を下げてください。 **参照** •「合計データサイズ上限」(P.313)、または『ユーザーズガイド』(メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「スキャン」>「読み取り方法」を参照してください。

イメージが思ったとおりの結果にならない

スキャンデータが、思ったとおりのイメージデータになっていない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　　因	処　　置
イメージが汚れている	原稿カバー、または原稿ガラスが汚れている。	原稿カバー、または原稿ガラスを清掃してください。 **参照** • 原稿カバー、原稿ガラスの清掃 (P.114) を参照してください。
	OHP フィルムなどの透過度の高い原稿を使用している。	透過度が高い原稿では、原稿カバーの汚れがイメージに写ります。原稿の上に白紙を載せてスキャンしてください。
	原稿がカラーペーパー、ざら紙、青焼きなどを使用している。	読み込み濃度を調整するか、画質を調整してスキャンしてください。
	光沢のある印画紙をスキャンしている。	光沢のある印画紙は、原稿ガラスに張り付きやすく、影が汚れのようにスキャンされることがあります。OHP フィルムなどの透明フィルムを原稿の下に敷いてスキャンしてください。
イメージが濃すぎる、または薄すぎる	読み込み濃度の設定が適切ではない。	読み込み濃度を調整してください。 **参照** •『ユーザーズガイド』(メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「スキャン」>「画質調整」を参照してください。
	原稿の画質設定が適切ではない。	原稿に合った画質を選択してください。 **参照** •『ユーザーズガイド』(メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「スキャン」>「画質調整」を参照してください。

症　状	原　　因	処　　置
イメージが部分的に写らない	貼り合わせた原稿や、折り込んである原稿を使用している。	貼り合わせたのりの部分や、折りの部分が、原稿ガラスに密着していないことが考えられます。原稿の上に白紙の束などを重ねて、原稿ガラスに密着するようにしてください。
イメージが希望のサイズでない	原稿カバー、または原稿ガラスが汚れている。	原稿カバー、または原稿ガラスを清掃してください。 **参照** • 原稿カバー、原稿ガラスの清掃 (P.114) を参照してください。
	OHP フィルムなどの透過度の高い原稿を使用している。	原稿の上に白紙を載せてスキャンしてください。
	原稿がずれている。	原稿を正しくセットしてください。 **参照** •『ユーザーズガイド』(メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「スキャン」>「スキャン操作の流れ」を参照してください。
	原稿送り装置の原稿ガイドがずれている。	原稿を正しくセットして、原稿ガイドを原稿の端に当ててください。 **参照** •『ユーザーズガイド』(メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「スキャン」>「スキャン操作の流れ」を参照してください。
	定形外サイズの原稿を使用している。	原稿のサイズを入力してスキャンしてください。 **参照** •『ユーザーズガイド』(メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「スキャン」>「スキャン操作の流れ」を参照してください。
イメージが希望のサイズでない	原稿が折れ曲がっている。	原稿をのばして正しくセットし直してください。 **参照** •『ユーザーズガイド』(メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「スキャン」>「スキャン操作の流れ」を参照してください。
イメージがカラーではない	[カラーモード] が [白黒 (2 階調)]、または [グレースケール (256 階調)] になっている。	[カラーモード] で [フルカラー] を選択してください。 **参照** •『ユーザーズガイド』(メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「スキャン」>「スキャナー (メール送信)」を参照してください。

症　状	原　　因	処　　置
イメージが粗い	解像度の設定が低い。	解像度を高く設定してください。 参照 •『ユーザーズガイド』(メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「スキャン」>「読み取り方法」を参照してください。
	高い圧縮率で保存している。	[画質 / ファイルサイズ] を低い圧縮率で設定してください。 参照 •『ユーザーズガイド』(メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「スキャン」>「出力形式」を参照してください。
白黒のグラデーションが希望どおり再現されない	[カラーモード] の [白黒 (2階調)] を選択している。	[カラーモード] の [グレースケール (256階調)] を選択してください。 参照 •『ユーザーズガイド』(メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内) の「スキャン」>「スキャナー (メール送信)」を参照してください。

ネットワークのトラブル

ネットワーク関連のトラブル対処について説明します。

SMB を使用したときのトラブル

SMB を使用したときの処置について説明します。

SMB マシンが見つからないとき

症　状	原　　因	処　　置
SMB の自動マスターモードが「する」に設定されている場合、マシン情報を保持できる台数に制限がある。マシン情報を保持できる台数は使用しているネットワーク環境によって異なる。	本機または他の SMB マシンがネットワークコンピューターアイコンから検索できない。	SMB の自動マスターモードの設定を確認し、自動マスターモードが「する」に設定されている場合は、自動マスターモードを「しない」に変更してください。

TCP/IP を使用したときのトラブル

TCP/IP（LPD）使用時にトラブルが発生した場合の、考えられる原因、確認方法、処置は次のとおりです。

Windows OS の場合

■ プリントされないとき

症　状	原　　因	処　　置
正しいIPアドレスが設定されていない。	ネットワーク管理者に、本機のIPアドレスが正しいかどうかを調べてもらう。	本機に、正しい IP アドレスを設定してください。
LPD スプールをメモリースプールに設定している場合に、コンピューターから 1 回のプリント指示で送信されるプリントデータの容量が、受信容量の上限を超えている。	LPD スプールのメモリー容量を確認して、1 回のプリント指示で送信しようとしているプリントデータの容量と比較してみる。	プリントデータ容量が 1 つのファイルで、メモリー容量の上限を超える場合は、そのファイルをメモリー容量の上限より小さいサイズに分割してプリントを指示してください。
		プリントデータ容量が複数のファイルで、メモリー容量の上限を超える場合は、1 度にプリントを指示するファイル数を減らす。

症　状	原　　因	処　　置
プリント処理中に対処不可能な障害が発生した。	操作パネルのディスプレイで、エラーが表示されていないかを確認する。	本機の電源を切って、ディスプレイが暗くなってから再度電源を入れてください。
コンピューターと一致するトランスポートプロトコルを選択していない。	選択されているトランスポートプロトコルを確認する。	コンピューターと一致するトランスポートプロトコルを選択してください。
本機が処理しようとするプリントデータのデータ形式と、コンピューターから送られてくるプリントデータのデータ形式が一致していない。	−	Ctrl-D を出力しない設定にしてください。

■希望どおりにプリントされないとき

症　状	原　　因	処　　置
指定したプリント言語とプリントデータのプリント言語が異なっている。	指定したプリント言語とプリントデータのプリント言語を確認する。	プリントデータのプリント言語に一致するプリント言語を指定してください。
本機に付属のプリンタードライバーを使っていない（他社のプリンタードライバーを使っている）。	本機に付属のプリンタードライバーが選択されているか確認する。	本機に付属のプリンタードライバーを選択してください。選択項目にない場合は、本機に付属のプリンタードライバーをインストールし、選択してください。他社のプリンタードライバーを使った場合は、動作が保証されません。

Mac OS の場合

■プリントされないとき

症　状	原　　因	処　　置
LPD ポートが起動していない。	LPD ポートが起動しているかを確認する。	Bonjour を使用して検出したプリンターでプリントする場合は、LPD ポートを起動してください。

CentreWare Internet Services を使用したときのトラブル

CentreWare Internet Services 使用時にトラブルが発生した場合の、症状と処置は次のとおりです。

症　状	処　置
CentreWare Internet Services に接続できない。	本機は、正常に作動していますか？ 本機の電源が入っているかを確認してください。
	［インターネットサービス］が起動していますか？ 「機能設定リスト」をプリントして確認してください。
	インターネットアドレスは正しく入力されていますか？ インターネットアドレスをもう一度確認してください。接続できない場合は、IP アドレスを入力して接続してください。
	プロキシサーバーを使っていますか？ プロキシサーバーによっては、接続できない場合があります。プロキシサーバーを使わないで、Web ブラウザーの設定を「プロキシサーバーを使用しない」にするか、使用するアドレスを「プロキシサーバーを使用しない」に設定してください。
「しばらくお待ちください」と表示されたままになる。	そのまましばらくお待ちください。 状態が変わらない場合は、［表示更新］ボタンをクリックしてください。［表示更新］ボタンをクリックしても状態が変わらない場合は、本機が正常に作動しているかを確認してください。
［表示更新］ボタンが機能しない。左側フレームのメニューを選択しても、右側フレームが更新できない。	指定されている Web ブラウザーを使っていますか？ 「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.385) を参照して、使っている Web ブラウザーが対象となっているかどうかを確認してください。
画面の表示が崩れる。	Web ブラウザーのウィンドウサイズを変更してください。
最新の情報が表示されない。	［表示更新］ボタンをクリックしてください。
日本語が正しく設定できない	シフト JIS コードを使ってください。また、半角カナ文字は使用しないでください。
［新しい設定を適用］ボタンをクリックしても反映されない。	入力した値は正しいですか？ 入力できる値以外を入力した場合は、自動的に制限値内に変更されます。
	本機の操作パネルで操作中、または操作後ではありませんか？ 自動リセット機能が設定されている場合、設定時間が経過するまで、CentreWare Internet Services での設定は適用されません。しばらくお待ちください。
［新しい設定を適用］ボタンをクリックすると、Web ブラウザーに「無効なまたは認識されない応答をサーバーが返しました」や「データがありません」などのメッセージが表示される。	パスワードは正しいですか？ パスワードの確認入力の内容が一致していません。正しいパスワードを入力してください。
	本機を再起動してください。
漢字を入力できない。	「＊」で表示される項目に漢字は入力できません。
ジョブを削除できない。	しばらく待ってから［表示更新］ボタンをクリックしてください。

メール機能のトラブル

メール通知（消耗品の状態通知）サービス、メールプリント、スキャナー（メール送信）、インターネットファクスを使用している場合のトラブルについて、処置方法を記載しています。

症　状	処　　置
メール受信ができない（メールプリント、インターネットファクス）	本体メールアドレスは設定されていますか？
	［メール受信］が［起動］に設定されていますか？
	SMTP サーバーの IP アドレス、POP3 サーバーの IP アドレス（受信プロトコルで POP3 を選択している場合）などが、正しく設定されていますか？
	POP ユーザー名、およびパスワードが正しく設定されていますか？
	［送受信ドメインの制限］を設定していませんか？ CentreWare Internet Services で、自分のドメインが送受信許可ドメインに含まれているかどうかを確認してください。
	SMTP サーバー、POP サーバーは正常に作動していますか？ ネットワーク管理者に確認してください。
メール送信ができない（メール通知、インターネットファクス、スキャナー（メール送信））	本体メールアドレスは設定されていますか？
	［メール通知サービス］が［起動］に設定されていますか？（メール通知の場合）
	［メール送信］が［起動］に設定されていますか？
	SMTP サーバーの IP アドレスなどが、正しく設定されていますか？
	送信する通知項目が正しく設定されていますか？（メール通知の場合） CentreWare Internet Services のプロパティ画面で、設定を確認してください。
	送信先メールアドレスは正しく入力されていますか？
	SMTP サーバーは正常に作動していますか？ ネットワーク管理者に確認してください。

インターネット / イントラネット接続のトラブル

インターネット / イントラネット接続時にトラブルが発生した場合の、考えられる原因と処置は次のとおりです。

インターネット / イントラネットに接続できないとき

原因	処　　置
外部サーバーで使用している認証機能が、本機では対応していない。	本機で対応している認証機能は、Basic 認証だけです。NTLM/digest には対応していません。セキュリティー上の問題を考慮する場合には、SSL を使った認証に変更してください。
使用している外部連携サービスと、本機のモデルやオプションが合っていない。	外部連携サービスを使用する場合は、該当する製品 / モデル / オプションを購入してください。

原因	処　置
IP アドレスが正しく設定されていない。	IP アドレスの設定を確認してください。IP アドレスが正しく設定されていない場合は、IP アドレスを固定で指定するか、DHCP または AutoIP などを使用して、IP アドレスを解決してください。
IP ゲートウェイアドレスが正しく設定されていない。	プロキシサーバーに接続する場合、または Web サーバーに接続するために IP ゲートウェイを経由する場合は、IP ゲートウェイアドレスを正しく入力してください。
サブネットマスクが正しく設定されていない。	サブネットマスクは、使用している環境に合わせて正しく設定してください。
DNS サーバーのアドレスが正しく設定されていない。	DNS サーバーのアドレスを確認してください。
設定されているDNS サーバーがアドレスを解決できない。	アドレスを解決できる DNS サーバーを設定してください。 • プロキシサーバーを経由する場合 プロキシサーバーのアドレスを解決できる DNS サーバーのアドレスを設定してください。 • プロキシサーバーを経由しない場合 宛先アドレスを解決できる DNS サーバーのアドレスを設定してください。
プロキシを経由しないアドレスの設定が間違っている。	プロキシを経由しないアドレスだけが指定されているかどうかを確認してください。なお、FQDN 形式でプロキシを経由しないアドレスを指定していても、IP アドレスを直接指定してサーバーにアクセスしている場合には、登録したサーバーが除外対象にはなりません。プロキシを経由しないアドレスを IP アドレスでも指定してください。同様に、IP アドレスを直接指定してプロキシを経由しないアドレスを指定していても、FQDN 形式でサーバーにアクセスする場合には、登録したサーバーが除外対象になりません。プロキシを経由しないアドレスを FDQN 形式でも指定してください。
接続するサーバー、またはプロキシサーバーがダウンしている。	接続するサーバー、またはプロキシサーバーが正常に稼働しているかどうかを確認してください。
ネットワークケーブルが抜けている、または断線している。	ネットワークケーブルの接続を確認してください。ネットワークの切断に強い環境を構築するためには、スパニングツリー環境を使用することをお勧めします。
サーバーアプリケーションに負荷がかかっているため、通信できない。	しばらく待ってから、もう一度アクセスしてください。
操作パネルには表示されていないが、エラーが発生している。	バックグラウンド処理を実行中にエラーが発生しても、操作パネルには表示されません。[ジョブ確認] 画面を表示するか、ジョブ履歴レポートをプリントして、実行結果を確認してください。

原因	処　置
プロキシサーバー、ファイアウォール、または Web サーバーに設定されているアクセス制限によって接続できない。	アクセス制限の種類には、次のものがあります。設定されているアクセス制限を確認してください。 • アドレス（ポート）制限 • SSL 利用制限 • ユーザーアクセス制限（アクセス権レベルも含む） • コンテンツブロック • 利用スキーム制限（HTTP 利用不可など） • 転送データサイズ制限 • 利用メソッド制限（POST 利用不可など） • HTTP ヘッダー制限（特定ブラウザーだけ受付など） • 時間制限（特定時間帯だけ利用可能など）

目的の Web サーバーに接続できないとき

症　状	処　置
プロキシサーバーを使用する設定になっていない。	プロキシを経由する環境では、プロキシサーバーを使用するように設定されていないと、目的の Web サーバーに接続できません。プロキシサーバーを使用するように設定してください。
プロキシを経由しない環境にもかかわらず、プロキシサーバーを使用する設定になっている。	イントラネットに接続する場合など、プロキシを経由する必要がない環境では、プロキシサーバーを使用する設定にはしないでください。
プロキシサーバーのアドレスが正しく設定されていない。	プロキシサーバーを使用する設定になっている場合には、プロキシサーバーのアドレスが正しく設定されていないと、目的の Web サーバーに接続できません。プロキシサーバーのアドレスを正しく設定してください。
プロキシサーバーに認証が設定されている場合に、ユーザー名やパスワードが正しくないため、接続できない。	プロキシサーバーに接続を許可されているユーザー名とパスワードを、本機に設定してください。

IPv4 または IPv6 接続のトラブル

IPv4 または IPv6 接続時にトラブルが発生した場合の、考えられる症状と処置は次のとおりです。

IPv4 に接続できないとき

症　状	処　置
IPv4 アドレス入力時、192.0.2.010 のように、アドレス先頭に 0 を付加した場合、正しく動作しない。	0 を付けないで指定してください。

IPv6 に接続できないとき

症　状	処　　置
リンクローカルアドレスを指定するときに本機にアクセスできない。	リンクローカルアドレスにスコープ識別子を付加してください。 たとえば Windows 7 の Internet Explorer 11 を利用して、fe80::203:baff:fe48:9010 を指定してアクセスする場合には、Windows 7 のイーサネットアダプタローカルエリア接続の番号（例：8）をスコープ識別子として付加し、fe80::203:baff:fe48:9010%8 と入力してください。
IPv6 が利用できる Windows OS と通信できない。	IPv6 が利用できる Windows OS で固定アドレスを設定してください。 通信を許可するホストアドレスとして、設定した IPv6 固定アドレスを本機に登録してください。
ルーターを越える検索が正しく動作しない。	SMB を使った検索でルーターを越える場合、宛先アドレスを直接入力してください。 マルチキャストに応答するのは、ローカルリンク内でのマルチキャスト（FF02::1）のみです。
IPv6 ネットワークを介して印刷した場合、ペーパーセキュリティーが正しく動作しない。	IPv4 環境で運用してください。 IPv6 環境ではペーパーセキュリティーは正しく動作しません。
CentreWare Internet Services で、SSL を有効に設定している場合に、http://［IPv6 アドレス］を指定しても https://［IPv6 アドレス］サイトへリダイレクトされない。	SSL を有効に設定している場合、https://［IPv6 アドレス］サイトを指定してください。

IPv6 でプリントできないとき

症　状	処　　置
DNS サーバーが存在しない IPv6 ネットワーク環境で、IPv6 が利用できる Windows OS から Windows 共有プリンターが使用できない。	IPv6 が利用できる Windows OS 上の hosts ファイルに本機のコンピューター名を登録してください。 格納先例： C:\Windows\system32\driver\etc\hosts ファイルに登録します。

IPv6 でスキャンできないとき

症　状	処　　置
リンクローカルアドレスだけの場合、ファイル転送サービスに失敗する。	グローバルアドレスを割り当ててください。
DNS サーバーが存在しない IPv6 ネットワーク環境で、スキャナー（PC 保存）の SMB 転送の格納先サーバーにコンピューター名を指定した場合、ファイル転送に失敗する。	スキャナー（PC 保存）の SMB 転送の格納先サーバーに、IPv6 アドレスを直接指定してください。

症　状	処　置
インターネットファクスダイレクト宛先としてIPv6のアドレスリテラル形式を使用すると正しく動作しない。 例：csw@[ipv6:2001:db8::1]	IPv6環境ではDNSサーバーを運用し、宛先をFQDNにて指定してください。
メールサービスなどのメールアドレスとしてIPv6アドレスリテラル指定は使用すると正しく動作しない。 例：csw@[ipv6:2001:db8::1]	IPv6 環境では DNS サーバーを運用し、メールアドレスを FQDN にて指定してください。

その他 IPv6 について

症　状	処　置
UPnP で IPv6 機器を検索できない。	IPv6 環境では Web Services on Devices（WSD）のディスカバリー機能を使用してください。
DNSサーバーが存在しないIPv6ネットワーク環境において、SMB 認証の SMB サーバー設定にコンピューター名を指定すると認証に失敗する。	認証サーバーパラメーターのコンピューター名に、IPv6 アドレスを直接指定してください。
DocuShare など外部アクセス接続サービスで、接続先 URL に IPv6 アドレスで指定すると正しく動作しない。 例：http://［ipv6:2001:db8::1］	IPv6 環境では DNS サーバーを運用し、接続先 URL を FQDN で指定してください。
出力されたジョブログに IPv6 アドレスが正しく記載されない。	IPv4 で運用してください。

ヘルプ接続時のトラブル

メニュー画面の［ ヘルプ ］を押したときに接続トラブルが発生した場合の、考えられる原因と処置は次のとおりです。

症　状	処　置
「無効な証明書が通知されました。一時的に有効な証明書として通信を行いますか？」というメッセージが表示される。	本機に登録されていた証明書が削除された可能性があります。 次のどちらかで処置してください。 • 表示された画面で、［ はい ］を選択すると、一時的にヘルプに接続できます。 • 複合機の電源を切 / 入し、再起動すると、必要な証明書が自動的に再登録されます。

文書プリントのトラブル

文書プリント使用時にトラブルが発生した場合の、考えられる症状、原因、処置は次のとおりです。

症　状	原　　因	処　　置
メニュー画面に［文書プリント］が表示されない。	USB メモリーキットのソフトウェアオプションが認識されていません。	ソフトウェアオプションを正しく設定するか、USB ケーブルをいったん抜いてから、もう一度コネクターの奥まで差し込んでください。
	CentreWare Internet Services の［メディアプリントの使用］が有効になっていません。	CentreWare Internet Services の［メディアプリントの使用］を有効にしてください。

デジカメプリントのトラブル

デジカメプリント使用時にトラブルが発生した場合の、考えられる症状、原因、処置は次のとおりです。

症　状	原　　因	処　　置
メニュー画面に［デジカメプリント］が表示されない。	USBメモリーキットのソフトウェアオプションが認識されていません。	ソフトウェアオプションを正しく設定するか、USB ケーブルをいったん抜いてから、もう一度コネクターの奥まで差し込んでください。
白紙がプリントされる。	プリントを指示したファイルの中に、プリントできないファイル（DCF1.0形式以外の画像ファイル）が含まれています。	プリントできないファイル（DCF1.0形式以外の画像ファイル）は、インデックスプリントではプリントされません。インデックスプリントで表示されない画像を除いて再度プリントを指示してください。 **補足** • DCF1.0　形式の画像ファイルをコンピューターで編集、または保存すると、DCF1.0 形式でなくなりますので、注意してください。

メールプリントのトラブル

メールプリント使用時にトラブルが発生した場合の、考えられる症状、原因、処置は次のとおりです。

症　状	原　　因	処　　置
Yahoo メールを使用して、メールプリントすると、同一文書が何回もプリントされる。	メール部分が複数添付されています。	メール送信画面で［添付ファイルとして転送］を選択してください。
コンピューターで MSN メールを使用して、メールプリントすると、同一文書が何回もプリントされる。	メール部分が複数添付されています。	Windows Live メールを使用して、転送してください。または、携帯電話から転送してください。
携帯電話で MSN メールを使用してメールプリントすると、改行位置がずれる。	MSN メールサーバーから転送されたメールは、ブラウザの端に位置していた箇所で改行されます。	-
Gmail などの Web メールを使用して、メールプリントすると、添付文書が印刷されない場合がある。	転送された Gmail などの Web メールが、さらに転送されています。	メールプリントする場合は、転送メールをさらに転送しないでください。
beat モバイルを使用して、メールプリントすると、印刷結果が印刷設定と異なる場合がある。たとえば、添付文書のみ印刷する設定にしていても、メール本文が印刷されてしまう。	beat モバイルでメールを転送すると、転送元のメールのメール本文が添付文書として送信されます。	ほかの Web メールを使用して、転送してください。

エラーコード

エラーコードについて説明します。

エラーが発生してプリントが正常に終了しなかった場合や本機に故障が発生した場合は、操作パネルのディスプレイにメッセージとエラーコード（***-***）が表示されます。

ファクスの場合、［通信管理レポート］や［未送信レポート］などにもエラーコードが表示されます。

次の表でエラーコードを参照して、処置してください。

補足

- エラーコードが表示されたときは、本機内に残っているプリントデータや、本機のメモリーに蓄えられた情報は保証されません。
- メニュー画面で、［ヘルプ］ボタンを押し、［検索］>［エラーコード検索］を選択すると、エラーコードの詳細をタッチパネル上で確認することができます。

次の表に記載されていないエラーコードが表示された場合や、記載に従って処置をしても正常に戻らないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。カストマーコンタクトセンターの電話番号は、機械に添付してあるラベル、またはカードに記載されています。

"001-001" - "004-999"

エラーコード	原因 / 処置
003-311 003-318 003-319 003-320 003-321 003-322 003-323 003-324 003-325 003-326 003-327 003-328 003-329 003-330 003-331 003-332 003-333 003-334 003-335 003-336	**【原因】** エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
003-337 003-338 003-339 003-340 003-341 003-342 003-343 003-344 003-345 003-346	**【原因】** エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
003-700	**【原因】** 紙づまりを取り除いたあと、原稿送り装置に戻した原稿枚数が多すぎます。 **【処置】** 出力された用紙を確認して、印字されていない原稿以降を戻してください。
003-701	**【原因】** 原稿に複製を抑制するためのデジタルコードが埋め込まれています。 **【処置】** デジタルコードが埋め込まれていない原稿を使用してください。
003-702	**【原因】** 原稿の両面を同時にコピーする場合、おもて面とうら面で異なる読み取り倍率が設定されています。 **【処置】** おもて面とうら面を同じ読み取り倍率に設定してください。
003-703	**【原因】** 色補正チャートが正しく検出できませんでした。 **【処置】** 色補正チャートを正しくセットしてください。
003-704	**【原因】** 読み取った色補正パターンに異常があり、本機が故障している可能性があります。 **【処置】** 色補正をやり直しても状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
003-705	**【原因】** 節電モード中に、用紙トレイにセットされている用紙のサイズを変更したあと、節電状態から復帰してトレイサイズの変更を本機が検知する前に、コピーが開始されました。 **【処置】** コピーを中止し、もう一度コピー操作をやり直してください。
003-750	**【原因】** ブック両面機能で原稿が 1 枚も蓄積できませんでした。 **【処置】** ブック両面機能の設定を確認してください。 **参照** • ブック両面
003-751	**【原因】** 指定した原稿範囲が小さすぎるため、本機で処理できない大きさ（サイズ）です。 **【処置】** 解像度を上げるか、読み取り領域を大きくしてください。
003-752	**【原因】** ミックスサイズの原稿を、フルカラー / 両面に設定して、600 dpi で読み取ろうとしたため、エラーが発生しました。 **【処置】** ［読み取り解像度］を［400dpi］以下に設定して、再度スキャンしてください。

エラーコード	原因 / 処置
003-753	**【原因】** ミックスサイズの原稿を、両面に設定して、高解像度で読み取ろうとしたため、エラーが発生しました。 **【処置】** ［読み取り解像度］を［200dpi］以下に設定して、もう一度スキャンしてください。
003-754 003-755	**【原因】** 原稿読取装置にエラーが発生しました。 **【処置】** 再度ジョブを実行してください。
003-756	**【原因】** ファクスの原稿がすべて白紙です。 **【処置】** 原稿が白紙ではないか、裏と表が逆になっていないかどうかを確認してください。
003-757	**【原因】** ミックスサイズの原稿を、両面に設定して、高解像度で読み取ろうとしたため、エラーが発生しました。 **【処置】** ［読み取り解像度］を［300dpi］以下に設定して、もう一度スキャンしてください。
003-760	**【原因】** 原稿の読み取り条件で、組み合わせできない機能が指定されています。 **【処置】** 読み取り条件を確認してください。
003-761	**【原因】** 自動トレイ選択で選択したトレイの用紙サイズと、自動トレイ切り替え機能によって選択されたトレイの用紙サイズが異なっています。 **【処置】** 同じサイズの用紙をトレイにセットするか、［用紙種類の優先順位］の設定を変更してください。
003-763	**【原因】** 階調補正チャートの読み取りエラーが発生しました。 **【処置】** 階調補正チャートを原稿ガラスに正しくセットしてください。 **参照** • 自動階調補正
003-780	**【原因】** 読み込んだ原稿の圧縮処理に失敗しました。 **【処置】** 解像度や倍率を低くしてデータ量を少なくしたり、数回に分けて送信してください。
003-795	**【原因】** 読み込んだ原稿を、指定された用紙サイズに拡大 / 縮小したときに、拡大 / 縮小の倍率が、設定可能な範囲を超えてしまいました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 倍率を直接入力する • 用紙サイズを変更する

"005-001" - "011-999"

エラーコード	原因 / 処置
005-211 005-275 005-280 005-281 005-282 005-283 005-284	**【原因】** 原稿送り装置にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
010-327 010-330 010-371 010-373 010-375 010-376 010-378 010-379 010-380 010-382	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
010-360 010-361 010-362 010-363 010-364 010-367 010-368 010-369	**【原因】** 定着部に異常があります。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
010-370	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本体に 1 本の電源コードを接続する機種の場合： • 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。 本体に 2 本の電源コードを接続する機種の場合： 次の項目を確認してください。 • 2 本の電源コードがコンセントに接続されているか • 2 本の電源コードが本体に接続されているか • 本体のブレーカースイッチが 2 つとも入（「ON」の状態）になっているか • 配電盤のブレーカーが片方だけ遮断されていないか 上記の項目を確認後、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
010-372 010-374	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
010-398	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
011-310	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"012-001" - "012-999"

エラーコード	原因 / 処置
012-210 012-211 012-212 012-213 012-221 012-222 012-223 012-224 012-227 012-228 012-231 012-232 012-233 012-234 012-243 012-247 012-249 012-260 012-263 012-265	【原因】 フィニッシャーが故障しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
012-266 012-268 012-269 012-274 012-279 012-282 012-284 012-286 012-287 012-288 012-289 012-291 012-292 012-295 012-296 012-297 012-298 012-319	**【原因】** フィニッシャーが故障しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
012-246	**【原因】** フィニッシャーの中とじユニットが奥まで押し込まれていません。 **【処置】** 中とじユニットを奥まで確実に押し込んで、電源を切って、入れ直してください。
012-254	**【原因】** フィニッシャーが故障しました。 **【処置】** 折り用紙収納トレイ引き出し時に、収納トレイがお客様に接触して引き出されない状態になっていないか確認してください。 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
012-283	**【原因】** フィニッシャーが故障しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、フィニッシャーのトレイ上の用紙を取り除いて、再度、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
012-290	**【原因】** フィニッシャーの正面カバーが開いています。 **【処置】** フィニッシャーの正面カバーを閉じてください。本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
012-299	**【原因】** フィニッシャーが故障しました。 **【処置】** セット内1枚目の用紙がフィニッシャートレイ上に現われてからフィニッシャートレイに完全に排出される前に取り出した場合に発生します。完全に排出されてから用紙を取り出してください。本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
012-326	**【原因】** フィニッシャーにエラーが発生しました。 **【処置】** 紙折りユニットの電源コードがコンセントに接続されているか確認してください。本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
012-334	**【原因】** エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
012-350 012-351	**【原因】** フィニッシャーにエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"013-001" - "015-999"

エラーコード	原因 / 処置
013-210 013-211 013-212 013-213 013-220	**【原因】** 中とじフィニッシャーでエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
013-291 013-292	**【原因】** フィニッシャーでエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"016-001" - "016-999"

エラーコード	原因 / 処置
016-210 016-211 016-212 016-213 016-214 016-215 016-216 016-217 016-218 016-219 016-230 016-233	**【原因】** ソフトウェアにエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-220 016-221 016-222 016-223 016-224 016-225 016-226 016-227 016-228 016-240	**【原因】** 原稿読取装置にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-232	**【原因】** イメージ圧縮ボード初期化中にエラーが発生しました。またはイメージ圧縮ボードと対応機種が一致していません。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-234 016-235 016-236 016-237 016-238 016-239	**【原因】** 本機の認証機能でエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-241	**【原因】** IP ファクス（SIP）キットが装着されていません。 **【処置】** オプションの IP ファクス（SIP）キットが必要です。

エラーコード	原因 / 処置
016-242 016-330 016-331 016-332 016-335 016-336 016-337 016-338 016-339 016-340 016-341 016-342 016-345 016-346 016-347 016-348 016-349 016-350 016-351 016-353	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-354 016-355 016-356 016-357 016-358 016-359 016-360 016-361 016-362 016-363 016-364 016-365 016-366 016-367 016-368 016-369 016-370 016-371 016-500 016-501	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-502	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-244	**【原因】** 自己署名証明書が自動更新できませんでした。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
016-310 016-311 016-312 016-313 016-314 016-315 016-316 016-317 016-318 016-319 016-321 016-322 016-323 016-325 016-326 016-327 016-372 016-373 016-374 016-375	**【原因】** エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-376 016-377 016-378 016-379 016-380 016-381 016-382 016-383	**【原因】** エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-400	**【原因】** Ethernet1 の設定で、802.1x 認証のユーザー名あるいはパスワードが異なっています。 **【処置】** Ethernet1 の設定で、ユーザー名あるいはパスワードを確認して正しく入力してください。それでも状態が改善されないときは、ネットワーク環境に問題がないかを確認してください。
016-401	**【原因】** Ethernet1 の設定で、802.1x 認証方式が処理できません。 **【処置】** Ethernet1 の設定で、本機の認証方式を、認証サーバーに設定されている認証方式と同じものに設定し直してください。
016-402	**【原因】** Ethernet1 で、認証接続がタイムアウトになりました。 **【処置】** 本機の Ethernet1 と物理的ネット接続されている「認証装置」のスイッチ設定やネット接続を確認し、正しく接続されているか確認してください。
016-403	**【原因】** Ethernet1 側の設定ルート証明書が一致しませんでした。 **【処置】** 認証サーバーを確認し、本機に認証サーバーのサーバー証明書のルート証明書を格納してください。 サーバー証明書のルート証明書が入手できない場合は、操作パネルで Ethernet1 側の［IEEE 802.1x 設定］の［サーバー証明書の検証］を［しない］にしてください。

エラーコード	原因 / 処置
016-404	**【原因】** Ethernet1 で 802.1x の認証エラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を実行してください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-405	**【原因】** 本機に格納されている証明書にエラーがありました。 **【処置】** 証明書の初期化を実行してください。 **参照** • 証明書の一括削除 / 初期化
016-406	**【原因】** SSL クライアント証明書にエラーがありました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 1) 本機に SSL クライアント証明書を格納し、SSL クライアント証明書として設定する。 2) SSL クライアント証明書の設定ができない場合には、認証方式として「EAP-TLS」以外のものを選択する。
016-407 016-408 016-409 016-410 016-411 016-412	**【原因】** 本機に登録したカスタマイズプログラムに問題があります。 **【処置】** カスタマイズプログラムを修正し、再度インストールしてください。
016-421	**【原因】** 本機から給紙トレイが取り外されました。 **【処置】** 取り外した給紙トレイを本機に装着してください。
016-422	**【原因】** オフライン状態です。 **【処置】** 以下を実施してください。 • ほかのメッセージが表示されている場合には、その処置をしてください。 • メンテナンスモードになっているときは、メンテナンス作業を終了してください。 • リモートアクセス中の場合は、アクセスが終了するまで待ってください。 それでも状態が改善されないときは、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
016-423	**【原因】** オフライン状態です。 **【処置】** 以下を実施してください。 • ほかのメッセージが表示されている場合には、その処置をしてください。 • コントロールパネルを操作中の場合は、操作を完了してください。 • リモートアクセス中の場合は、アクセスが終了するまで待ってください。 それでも状態が改善されないときは、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-424 016-425	**【原因】** 節電モード中です。 **【処置】** 節電モードを解除してください。それでも状態が改善されないときは、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-427	**【原因】** Ethernet2 の設定で、802.1x 認証のユーザー名あるいはパスワードが異なっています。 **【処置】** Ethernet2 の設定で、ユーザー名あるいはパスワードを確認して正しく入力してください。それでも状態が改善されないときは、ネットワーク環境に問題がないかを確認してください。
016-428	**【原因】** Ethernet2 の設定で、802.1x 認証方式が処理できません。 **【処置】** Ethernet2 の設定で、本機の認証方式を、認証サーバーに設定されている認証方式と同じものに設定し直してください。
016-429	**【原因】** Ethernet2 で、認証接続がタイムアウトになりました。 **【処置】** 本機の Ethernet2 と物理的ネット接続されている認証サーバーのスイッチ設定やネット接続を確認し、正しく接続されているか確認してください。
016-430	**【原因】** Ethernet2 側の設定ルート証明書が一致しませんでした。 **【処置】** 認証サーバーを確認し、本機に認証サーバーのサーバー証明書のルート証明書を格納してください。サーバー証明書のルート証明書が入手できない場合は、操作パネルで Ethernet2 側の［IEEE 802.1x 設定］の［サーバー証明書の検証］を［しない］にしてください。
016-431	**【原因】** 内部エラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を行ってください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
016-432	**【原因】** Ethernet2 側の SSL クライアント証明書にエラーがありました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 1) 本機に SSL クライアント証明書を格納し、SSL クライアント証明書として設定する。 2) SSL クライアント証明書の設定ができない場合には、認証方式として「EAPTLS」以外のものを選択する。
016-450	**【原因】** SMB のホスト名が重複しています。 **【処置】** ホスト名を変更してください。 **参照** • 本体メールアドレス / ホスト名
016-453	**【原因】** DNS サーバーに対する、IPv6 アドレスとホスト名の更新に失敗しました。 **【処置】** DNS サーバーアドレスが正しく設定されているか確認してください。
016-454	**【原因】** DNS から、IP アドレスを取得できませんでした。 **【処置】** DNS の設定と IP アドレスの取得方法の設定を確認してください。 **参照** • プロトコル設定
016-455	**【原因】** SNTP サーバーへの接続がタイムアウトになりました。 **【処置】** ネットワークケーブルが正しく接続されているか、SNTP サーバーの IP アドレスが合っているかを確認してください。
016-456	**【原因】** SNTP サーバーから、標準時同期源と同期していないというメッセージを受けました。 **【処置】** SNTP サーバーの設定を確認してください。
016-461	**【原因】** ［イメージログ転送］の［転送保証レベル］が［高］に設定されている場合、未転送イメージログ停滞による新規ジョブ作成制限によって、新規ジョブが生成されません。 **【処置】** イメージログを管理するサーバーの状態やネットワークの状態を確認し、イメージログサーバーへのイメージログ転送を阻害する要因を解消してください。 次のどれかの方法で処置してください。 • 転送設定の確認を行い、未転送ログをすべて転送する • イメージログの［作成保証レベル］を［低］に変更する この場合、イメージログは未転送のまま順次消去される場合があります。 イメージログキット（Adobe(R) PostScript(R) 3(TM)）* を使用しているときは、本機の電源を切ってから入れ直したとき、または本機が自動的に再起動したときには、再度、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れ直してください。 *：お使いの機種によっては、オプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

エラーコード	原因 / 処置
016-503	**【原因】** メール送信時に SMTP サーバーの名前が解決できませんでした。 **【処置】** CentreWare Internet Services から SMTP サーバーの設定が正しいか確認してください。また、DNS サーバーの設定が正しいか確認してください。
016-504	**【原因】** メール送信時に POP3 サーバーの名前が解決できませんでした。 **【処置】** CentreWare Internet Services から POP3 サーバーの設定が正しいか確認してください。また、DNS サーバーの設定が正しいか確認してください。
016-505	**【原因】** メール送信時に POP3 サーバーへのログインに失敗しました。 **【処置】** CentreWare Internet Services から POP3 サーバーで使用するユーザー名とパスワードが正しく設定されているか確認してください。
016-506	**【原因】** 本機のイメージログ格納領域が不足しているため、イメージログの書き込みに失敗しました。 **【処置】** もう一度、ジョブを実行してください。それでも同じエラーが発生する場合は、以下のどれかの方法で処置してください。 • 不要なイメージログを削除する • イメージログの［作成保証レベル］を［低］に変更する この場合、作成されたイメージログの内容は保障されません。
016-507 016-508	**【原因】** イメージログ管理機能を使用しているときに、サーバーへのイメージログの転送に失敗しました。 **【処置】** サーバーから本機へのイメージログの転送ルールを設定するか、仕様設定の［イメージログ転送］の［転送機能］を［使用しない］に変更してください。
016-509 016-510	**【原因】** イメージログ管理機能を使用しているときに、サーバーから本機へのイメージログの転送ルールが設定されていないため、イメージログの転送に失敗しました。 **【処置】** サーバーから本機へのイメージログの転送ルールを設定してください。
016-511 016-512	**【原因】** イメージログ管理機能を使用しているときに、サーバーから本機へのイメージログの転送ルールが正しく設定されていないため、イメージログの転送に失敗しました。 **【処置】** サーバーから本機へのイメージログの転送ルールを確認してください。
016-513	**【原因】** SMTP サーバーとの接続でエラーが発生しました。次の原因が考えられます。 1) SMTP サーバー、またはネットワークに負荷がかかっています。 2) SMTP 送信ポート番号が正しくありません。 **【処置】** 1. については、しばらく待ってから、もう一度操作してください。 2. については、SMTP 送信ポート番号が正しく設定されているか確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
016-514	**【原因】** XPS 文書の処理中にエラーが発生しました。 **【処置】** XPS 対応ドライバーからの印刷でエラーが発生した場合には、アプリケーションから他のプリンタードライバー（ART EX、PCL など）を使用して印刷してください。 XPS 文書をダイレクトプリント（ContentsBridge Utility、E メールプリント、文書プリントなど）した際にエラーが発生した場合には、XPS Document Viewer からプリンタードライバー（ART EX、PCL など）を使用して印刷してください。 **補足** •「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
016-515	**【原因】** XPS 文書の処理中にメモリーが不足しました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • プリンタードライバーの［印刷モード］を［標準］にする • メモリーを増設する • XPS Document Viewer からプリンタードライバー（ARTEX、PCL など ）を使用して印刷する **補足** •「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
016-516	**【原因】** XPS 文書内に含まれる PrintTicket に、不正な記述や、本機で対応していない印刷設定が含まれています。 **【処置】** プリントジョブを送信したアプリケーションの使用方法、印刷指示内容に問題がないかをご確認ください。 問題がない場合は、弊社ではなくプリントジョブを送信しているアプリケーションを作成した会社に、アプリケーションの動作を確認してください。 それでも解決しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。 **補足** •「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
016-517	**【原因】** PostScript ファイルに記述されている内容に誤りがあります。 **【処置】** PostScript ドライバーでプリントしてください。または、PostScript ファイルに記述されている ProcessColorModel でカラーモードの切り替えをしないように変更してください。
016-518	**【原因】** PostScript ドライバーで、小冊子と WaterMark を同時に指定しました。 **【処置】** PostScript ドライバーで、小冊子と WaterMark/UUID の指定は混在できません。どちらか一方を解除してください。
016-519	**【原因】** 設定しておいた印字可能な面数に達したため、終了しました。 **【処置】** 機械管理者に相談して、印字可能な面数の制限値を変更してください。

エラーコード	原因 / 処置
016-520	**【原因】** 高圧縮ハードウェアにエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を実施してください。または、出力ファイル形式やカラーモードを変更してみてください。 状態が改善されない場合、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れ直したあとに、もう一度上記の操作を実施してみてください。 それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-521	**【原因】** 電子署名を付けてスキャンしている途中で、本機と IC カードリーダーの接続が外れました。 **【処置】** 本機の電源を切り、IC カードリーダーを接続し直したあと、もう一度電源を入れてください。
016-522	**【原因】** LDAP サーバーの SSL 認証エラーです。SSL クライアント証明書が取得できません。 **【処置】** LDAP サーバーから SSL クライアント証明書が要求されています。本機に SSL クライアント証明書を設定してください。
016-523	**【原因】** LDAP サーバーの SSL 認証エラーです。サーバー証明書データが不正です。 **【処置】** 本機が LDAP サーバーの SSL 証明書を信頼できません。LDAP サーバーの SSL 証明書のルート証明書を本機に登録してください。
016-524	**【原因】** LDAP サーバーの SSL 認証エラーです。サーバー証明書が有効期限前です。 **【処置】** LDAP サーバーの SSL 証明書を有効なものに変更してください。本機の［SSL/TLS 設定］の［LDAP-SSL/TLS 通信］を［無効］に設定してもエラーを回避できますが、接続する LDAP サーバーの正当性が保証されなくなりますので注意してください。
016-525	**【原因】** LDAP サーバーの SSL 認証エラーです。サーバー証明書が有効期限切れです。 **【処置】** LDAP サーバーの SSL 証明書を有効なものに変更してください。本機の［SSL/TLS 設定］の［LDAP-SSL/TLS 通信］を［無効］に設定してもエラーを回避できますが、接続する LDAP サーバーの正当性が保証されなくなりますので注意してください。
016-526	**【原因】** LDAP サーバーの SSL 認証エラーです。サーバー名と証明書が一致していません。 **【処置】** 本機に設定してある LDAP サーバーのアドレスと LDAP サーバーの SSL 証明書に記載されているアドレスが一致するようにしてください。本機の［SSL/TLS 設定］の［LDAP-SSL/TLS 通信］を［無効］に設定してもエラーを回避できますが、接続する LDAP サーバーの正当性が保証されなくなりますので注意してください。

エラーコード	原因 / 処置
016-527	【原因】 LDAP サーバーの SSL 認証エラーです。SSL 認証内部エラーです。 【処置】 ソフトウェアにエラーが発生しました。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-528	【原因】 電子署名を付けてスキャンしている途中で、IC カードによる認証状態が解除されました。 【処置】 再度、IC カードで認証モードに入り、もう一度電子署名をつけたスキャンを実行してください。
016-529	【原因】 Remote Download サーバーに接続するときに、エラーが発生しました。規定時間（45 秒内）にサーバーから応答がありませんでした。 【処置】 ネットワーク接続を確認してください。Remote Download サーバーがネットワーク上に正しく設定されているかを確認してください。
016-533	【原因】 Kerberos サーバーの認証プロトコルエラーです。 【処置】 本機と Kerberos サーバーの時計の時間差が、Kerberos サーバー側のクロックスキューの制限値を超えています。本機の時計または Kerberos サーバーの時計が正しく設定されているかを確認してください。 このとき、本機と Kerberos サーバーの時刻だけでなく、サマータイムの設定やタイムゾーンの設定も同じであることを確認してください。
016-534	【原因】 Kerberos サーバーの認証プロトコルエラーです。 【処置】 本機に設定してある認証先が Kerberos サーバーに存在しない、または設定してある Kerberos サーバーのアドレスでは接続できません。本機の Kerberos サーバーの設定にある、認証先名、およびサーバーのアドレスが正しいことを確認してください。Windows 2000 と接続する場合は、認証先名は大文字にしてください。
016-535	【原因】 Remote Download サーバー上に、指定されたファイルがありません。 【処置】 ファイルを確認してください。
016-536	【原因】 Remote Download サーバーに接続する前に、DNS アクセスしたことにより、エラーが発生しました。 【処置】 DNS との接続を確認してください。 または、Remote Download サーバー名が DNS に登録されているかを確認してください。
016-537	【原因】 Remote Download サーバーに接続できませんでした。 接続先の Remote Download サーバーのポートが開いていません。 【処置】 ネットワーク設定のポートを確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
016-538	**【原因】** Remote Download ファイルをハードディスクへ書き込む際に、エラーが発生しました。 Remote Download サーバーから取得したファイルをハードディスクに書き込めません。 **【処置】** ハードディスクの空き容量を確認し、不要ファイルを削除してください。または、ハードディスクを交換してください。
016-539	**【原因】** Kerberos サーバーの認証プロトコルエラーです。 **【処置】** ソフトウェアにエラーが発生しました。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-543	**【原因】** 指定された認証先やドメインが、ApeosWare Management Suite から削除されました。 **【処置】** ［認証先］画面にある［最新情報に更新］を押して、認証先情報を更新するか、ApeosWare Management Suite にドメインを追加してください。
016-545	**【原因】** ApeosWare Management Suite とアクティブディレクトリーの時間が、アクティブディレクトリーで設定された Kerberos サーバーのクロックスキューの上限からずれています。 **【処置】** ApeosWare Management Suite をインストールしたコンピューターとアクティブディレクトリーのコンピューターの時間を合わせてください。ApeosWare Management Suite がインストールされたコンピューターの Windows のタイムサービスが停止している場合は、サービスを起動してください。
016-546	**【原因】** 一般ユーザーが自分以外のユーザー情報を取得しようとしました。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-548	**【原因】** 本機が ApeosWare Management Suite に登録されていません。 **【処置】** 本機を ApeosWare Management Suite に登録してください。
016-553	**【原因】** ApeosWare Management Suite が本機のインターフェイスのバージョンに対応していません。 **【処置】** ApeosWare Management Suite のバージョンを上げる必要があります。本機が、上げたバージョンに対応している商品であることを確認してください。
016-554	**【原因】** ApeosWare Management Suite のドメインのドメインユーザー照会用ログイン名、または照会用パスワードが不正です。 **【処置】** ApeosWare Management Suite のドメインのドメインユーザー照会用ログイン名と照会用パスワードを正しく設定してください。

エラーコード	原因 / 処置
016-555	【原因】 ApeosWare Management Suite がデータベース、またはアクティブディレクトリーに接続できずにタイムアウトになりました。 【処置】 ApeosWare Management Suite からデータベース、またはアクティブディレクトリーに接続できることを確認してください。
016-556	【原因】 ApeosWare Management Suite が接続するデータベースに負荷がかかりすぎているため、タイムアウトエラーになりました。 【処置】 サービスに負荷がかかりすぎているので、時間をおいて、再度認証を実施してください。 それでも改善されないときは、ApeosWare Management Suite を確認してください。
016-557	【原因】 ApeosWare Management Suite の内部エラーです。 【処置】 ApeosWare Management Suite を確認してください。
016-558	【原因】 本機が ApeosWare Management Suite から不明なエラーを受信しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-559	【原因】 Remote Download パラメーターエラーが発生しました。 必要となるシステムデータに不正な値が設定されています。 【処置】 必要なシステムデータの設定を確認してください。
016-560	【原因】 本機と ApeosWare Management Suite 間で通信エラーが発生しました。 【処置】 ネットワークケーブルの抜けや、ApeosWare Management Suite の設定を確認してください。また、機能設定リストを出力して、「サーバー名 /IP アドレス」にサーバーの DNS アドレスが設定されている場合は、DNS が有効になっていることを確認してください。
016-562	【原因】 アクティブディレクトリーまたは ApeosWare Management Suite の一時ユーザー用データベースに、同じ IC カードの情報を持つエントリーが複数見つかりました。 【処置】 アクティブディレクトリーまたは ApeosWare Management Suite の一時ユーザーエントリーを、同じ IC カード情報を持たないように修正してください。
016-564	【原因】 Remote Download Server の認証に失敗しました。 【処置】 Remote Download Server にアクセスしたときの、ユーザー名とパスワードを確認してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-565	【原因】 バックアップに失敗しました。 【処置】 USB メモリーが正しく挿入されているかを確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
016-566	**【原因】** バックアップまたはリストアに失敗しました。 **【処置】** バックアップの場合には、USB メモリーの dwld フォルダーにダウンロードファイルを格納して USB メモリーを挿入してください。リストアの場合には、ソフトウェアのバージョンがバックアップ時と同じかを確認してください。また、バックアップファイルが本機で作成されたものであるかを確認してください。
016-567	**【原因】** バックアップ先の容量不足、またはバックアップ時のデータ暗号化用メモリ不足です。 **【処置】** バックアップファイル、その他不要なファイルを削除して容量を増やしてください。
016-568	**【原因】** HDD アクセスエラー、USB メモリーアクセスエラー、またはリストア時にバックアップファイルが壊れていた可能性があります。 **【処置】** バックアップファイルを削除してください。USB によるバックアップまたはリストアの場合には、USB メモリーが正しく挿入されていることを確認してください。問題が解決しない場合には、USB メモリーをコンピューターで初期化してみてください。
016-569	**【原因】** ApeosWare Management Suite のエラーです。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-574	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、DNS アクセス時に、FTP サーバーのホスト名またはサーバー名の解決に失敗しました。 **【処置】** DNS との接続を確認してください。または、転送先の FTP サーバー名が DNS に登録されているか確認してください。
016-575	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、DNS アクセス時に、DNS サーバーが設定されていませんでした。 **【処置】** DNS サーバーアドレスを設定してください。または、転送先のFTPサーバーのアドレスをIPアドレスで設定してください。
016-576	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーに接続できませんでした。 **【処置】** 転送先の FTP サーバーと本機がネットワーク通信できる状態にあるかを確認してください。たとえば、次の内容を確認してください。 • サーバーの IP アドレスが正しいことを確認する • ネットワークケーブルの接続を確認する
016-577	**【原因】** 転送先サーバーの FTP サービスに接続できませんでした。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • サーバーの FTP サービスが起動していることを確認する • サーバーの FTP ポート番号と本機に設定された FTP ポート番号が一致していることを確認する
016-578	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーにログインできませんでした。 **【処置】** ログイン名（ユーザー名）およびパスワードが正しいかを確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
016-579	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、スキャン画像を保存場所に移動できませんでした。 **【処置】** FTP サーバーのスキャン画像を保存する場所が正しいかを確認してください。
016-580	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、FTP サーバーのファイル名またはフォルダー名の取得に失敗しました。 **【処置】** FTP サーバーのアクセス権を確認してください。
016-581	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、サーバーへ接続してサーバー内でファイル名 / フォルダー名を決定しているときに、ファイル名 / フォルダー名のサフィックスが制限値を超えました。 **【処置】** サーバーのファイル名 / 転送先フォルダーを変更してください。または、転送先フォルダー内のファイルを移動するか削除してください。
016-582	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、FTP サーバー内でのファイル作成に失敗しました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 指定した名前が、保存場所に作成可能なファイル名かを確認する。 • 保存場所に、空き領域があるかを確認する。
016-583	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバー内でロックフォルダーの作成に失敗しました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 既存の lock directory (*.LCK) が転送先に残っていた場合、手動で削除したあとに、もう一度同じ操作を実行してください。 • 指定した名前が保存場所に作成可能なフォルダー名かを確認してください。 • 指定した名前と同じ名前のフォルダーがすでに存在していないかを確認してください。 • 保存場所に空き領域があるかを確認してください。
016-584	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、FTP サーバー内でのフォルダー作成に失敗しました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 指定した名前が、保存場所に作成可能なフォルダー名かを確認する。 • 指定した名前と同じ名前のフォルダーがあるかを確認する。 • 保存場所に、空き領域があるかを確認する。
016-585	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、FTP サーバー内でのファイル削除に失敗しました。 **【処置】** FTP サーバーのアクセス権を確認してください。
016-586	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、ロックフォルダーの削除に失敗しました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • サーバーのアクセス権を確認してください。 • 既存の lock directory (*.LCK) が転送先に残っていた場合、手動で削除し、再度ジョブを実行してください。

エラーコード	原因 / 処置
016-587	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、FTP サーバー内でのフォルダー削除に失敗しました。 **【処置】** FTP サーバーのアクセス権を確認してください。
016-588	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、FTP サーバーへのデータ書き込みに失敗しました。 **【処置】** 保存場所に空き領域があるかを確認してください。
016-589	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、FTP サーバーからのデータ読み込みに失敗しました。 **【処置】** FTP サーバーにアクセス権があるかを確認し、正しい権利を付けてください。
016-590	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、ファイル名が重複しているため保存できませんでした。 **【処置】** ファイル名が重複したときの処理を、［ジョブを中止（ 保存しない ）］以外に設定してください。
016-591	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、ファイル名が重複している場合の追加処理ができませんでした。 **【処置】** ファイル名が重複したときの処理に、［ファイルを追加］を設定している場合、ファイルフォーマットがマルチページでないことを確認してください。
016-592	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、NEXTNAME.DAT ファイルのアクセスに失敗しました。 **【処置】** ファイル名が重複したときの処理に、［ファイルを追加］を設定している場合、NEXTNAME.DAT ファイルが正しいことを確認してください。
016-593	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、内部エラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-594 016-595 016-596	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、ネットワークエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-597	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、ネットワークエラーが発生しました。 **【処置】** ほかの機器からのアクセスを停止して、もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
016-598 016-599	**【原因】** ページ分割で、1 ページ分のメールデータのサイズが最大メッセージサイズを超えました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • ［画質 / ファイルサイズ］で、ファイルサイズを小さくする • ［分割送信時の分割数上限］を大きな値に変更する **参照** • 画質 / ファイルサイズ • メール送信動作制御
016-700	**【原因】** プリンタードライバーで設定した、セキュリティープリント、または認証プリントの暗証番号が、本機に設定してある［蓄積時の暗証番号最小桁数］よりも桁数が少なかったため、処理を中断しました。 **【処置】** プリンタードライバーで設定する暗証番号を、本機に設定してある［蓄積時の暗証番号最小桁数］よりも大きな桁数に設定してください。
016-701	**【原因】** メモリーが不足したため、ART EX のプリントデータを処理できませんでした。 **【処置】** プリンタードライバーで解像度を低くしたり、両面プリントや N アップをしないで、もう一度プリントを指示してください。
016-702	**【原因】** プリントページバッファが不足したため、プリントデータを処理できませんでした。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • プリンタードライバーで［印刷モード］を［標準］にする • プリンタードライバーで［ページ印刷モード］を利用する（ART EX のみ） • プリントページバッファを増やす • メモリーを増設する
016-703	**【原因】** 無効な親展ボックス番号を指定したメールを受信しました。 **【処置】** ファクス送信またはインターネットファクス送信時に発生する場合： 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。 メール受信、ファクス受信、またはインターネットファクス受信時に発生する場合： 次のどれかの方法で処置してください。 • 指定された番号の親展ボックスを登録し、メール、ファクス、またはインターネットファクスを送信するように依頼する • 有効な親展ボックスにメールを送信するように依頼する それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
016-704	**【原因】** 親展ボックスに蓄積されている文書がいっぱいになったため、ハードディスクの容量が不足しています。 **【処置】** 親展ボックスから不要な文書を削除し、文書を保存してください。 参照 • 親展ボックス操作
016-705	**【原因】** 次の原因が考えられます。 1)本機に対して、スキャン文書の親展ボックス登録を指示したが、スキャナーキット * が装着されていない 2)本機用のプリンタードライバーを使用していない 3)ハードディスクが装着されていない状態で、セキュリティープリント、ボックス保存プリント、認証プリント、プライベートプリントのどれかのジョブを受信した *：お使いの機種によっては、オプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 **【処置】** 1. の場合： 〈メニュー〉ボタンを押して、[スキャナー (ボックス保存)]が表示されるかを確認してください。表示される場合は、スキャンした文書を親展ボックスに蓄積できるかを確認してください。 親展ボックスに蓄積できない場合は、スキャナーキットを装着してください。 2. の場合： 本機用のプリンタードライバーを使用してください。 3. の場合： 本機にハードディスクが装着されているか確認してください。 ハードディスクが装着されていない場合： • 機能を利用しない場合は、プリンタードライバーで、[プリンター構成]タブ>[オプションの設定]の[内蔵ハードディスク]を[なし]設定する • 機能を利用する場合は、ハードディスクを装着する ハードディスクが装着されている場合： • プリンタードライバーで、[プリンター構成]タブ>[オプションの設定]の[内蔵ハードディスク]を[あり]に設定する それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-706	**【原因】** セキュリティープリントの最大ユーザー数を超えたため、ハードディスクの容量が不足しています。 **【処置】** 本機内に蓄積されている不要な文書やセキュリティープリントの登録ユーザーを削除してください。 参照 • 保存文書 • 親展ボックス操作

エラーコード	原因 / 処置
016-707	**【原因】** ハードディスクが故障しているため、サンプルプリントができませんでした。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-708	**【原因】** ハードディスクの領域が不足しているため、アノテーションができませんでした。 **【処置】** ハードディスク内の不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。
016-709	**【原因】** ART EX 処理でエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度プリントを指示してください。
016-710	**【原因】** ハードディスクが故障しているため、時刻指定プリント文書が登録できませんでした。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-711	**【原因】** 設定されているメールサイズの上限設定を超えています。 **【処置】** 次のどれかで対処したあと、再送信してください。 • 原稿の枚数を減らす • ［読み取り解像度］で解像度を下げる • ［読み取り倍率］で倍率を縮小する • 機械管理者に、［合計データサイズ上限］の設定値を上げてもらう • カラースキャンの場合には、［出力ファイル形式］の［高圧縮 (MRC)］を［する］に設定する
016-712	**【原因】** 指定した原稿範囲が小さすぎるため、本機で処理できない大きさ（サイズ）です。 **【処置】** 解像度を上げるか、読み取り領域を大きくしてください。
016-713	**【原因】** 親展ボックスに設定してあるパスワードと、入力したパスワードが一致しませんでした。 **【処置】** 正しいパスワードを入力してください。
016-714	**【原因】** 指定した親展ボックスが存在しませんでした。 **【処置】** 親展ボックスを作成するか、既存の親展ボックスを指定してください。
016-715	**【原因】** ESCPフォーム用のパスワードが一致しないため、ESCPフォームにアクセスできませんでした。 **【処置】** ESCP フォーム用の正しいパスワードを指定してください。

エラーコード	原因 / 処置
016-716	**【原因】** 本機に蓄積できる容量を超えたため、TIFF ファイルをスプールできませんでした。 **【処置】** 本機内に蓄積されている不要な文書や登録ユーザーを削除してください。 ハードディスクがオプションの機種の場合は、ハードディスクを装着してください。ハードディスクの装着については、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。 **参照** • 保存文書
016-717	**【原因】** 「未送信レポート」または「モニターレポート」を作成しようとしましたが、レポートを作成するのに必要な「送信結果情報」が本機メモリーに保存されていないため、レポート作成できませんでした。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 文書蓄積容量が大きい (約 2GB) インターネットファクス文書は分割してジョブを実行し、メモリーやハードディスクドライブの使用量を制限する • スキャン文書やインターネットファクス文書が多数実行されている場合は、ほかのスキャンジョブやインターネットファクスジョブが終了してからジョブを実行する • レポートを出力するジョブの終了から、レポート出力操作までに、200 個以上のジョブを実施しないようにする
016-719	**【原因】** プリントページバッファが不足したため、PCL のプリントデータを処理できませんでした。 **【処置】** プリントページバッファを増やしてください。
016-720	**【原因】** PCL のプリントデータに処理できないコマンドが含まれています。 **【処置】** プリントデータを確認して、もう一度プリントを指示してください。
016-721	**【原因】** プリント処理中にエラーが発生しました。次の原因が考えられます。 1) 仕様設定の［共通設定］の［用紙 / トレイの設定］で、［用紙種類の優先順位］がすべての用紙で［自動トレイ選択しない］に設定されているときに、自動トレイ選択でプリントを指示している 2) ESC/P のコマンドエラー **【処置】** 1. については、自動トレイ選択でプリントする場合は、［用紙種類の優先順位］で、用紙のどれかを［自動トレイ選択しない］以外に設定してください。 2. については、プリントデータを確認してください。 **参照** • 用紙種類の優先順位
016-722	**【原因】** 本機で対応していないホチキスの指定や、フィニッシャーで対応していない用紙サイズの指定がされました。 **【処置】** ホチキスの位置や用紙サイズを確認して、もう一度プリントを指示してください。

エラーコード	原因 / 処置
016-723	**【原因】** 本機で対応していないパンチの指定やフィニッシャーで対応していない用紙サイズの指定がされました。 **【処置】** パンチの位置や用紙サイズを確認して、もう一度プリントを指示してください。
016-724	**【原因】** ホチキスとパンチが両方指定されましたが、不可能な位置の組み合せになっています。 **【処置】** ホチキスとパンチの位置が同じ側になるように指定し直して、もう一度プリントを指示してください。
016-726	**【原因】** プリントモード指定が［自動］の場合に、プリント言語を自動的に選択できませんでした。 次の原因が考えられます。 1) Adobe(R) PostScript(R) 3(TM)*が装着されていない状態で、PostScript データを送信した 2) エミュレーションキット * が装着されていない場合に、プリントモード指定を［自動］で、HP-GL/2、201H、PCL のデータを送信した *: お使いの機種によっては、オプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 **【処置】** 1. については、Adobe(R) PostScript(R) 3(TM) の装着が必要です。 2. については、エミュレーションキットの装着が必要です。
016-727	**【原因】** プリント指示した結果、0 ページの文書になったため、親展ボックスに保存できず、ジョブがキャンセルされました。 **【処置】** プリント指示した結果、0 ページの文書になったため、親展ボックスに保存できませんでした。 プリントオプションで、白紙節約をしないに設定して再度プリントするか、印刷文書が白紙でないかを確認し、白紙であれば文字を入れてプリントしてください。
016-728	**【原因】** TIFF ファイルにサポートしていない Tag が含まれていました。 **【処置】** プリントデータを確認してください。
016-729	**【原因】** TIFF ファイルの色数 / 解像度が有効範囲の上限を超えているためプリントできませんでした。 **【処置】** TIFF ファイルの色数 / 解像度を変更して、もう一度プリントデータを指示してください。
016-730	**【原因】** ART IV でサポートされていないコマンドを検知しました。 **【処置】** プリントデータを確認し、エラーを引き起こすコマンドを削除して、もう一度プリントを指示してください。
016-731	**【原因】** TIFF データが途切れてプリントできませんでした。 **【処置】** もう一度プリントを指示してください。
016-732	**【原因】** エミュレーションで指定したフォームが、ホスト側に登録されていませんでした。 **【処置】** フォームデータを再送してください。

エラーコード	原因 / 処置
016-733	**【原因】** 次の原因が考えられます。 1) メール送信時、宛先メールアドレスの@の右側の文字列から IP アドレスを取得できませんでした。 2) メール送信時、@の右側のインターネットアドレスを DNS で解決できませんでした。 **【処置】** 1. については、宛先メールアドレスが正しく入力されているか確認してください。 2. については、DNS サーバーアドレスを正しく設定してください。
016-738	**【原因】** PostScript* で製本を指定したが、出力できない用紙サイズが設定されています。 *: お使いの機種によっては、オプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 **【処置】** 製本が可能な用紙サイズを指定して、もう一度プリントを指示してください。
016-739	**【原因】** PostScript* で製本を指定したが、原稿サイズと用紙サイズの組み合わせが合っていません。 *: お使いの機種によっては、オプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 **【処置】** 製本が可能な原稿サイズと用紙サイズの組み合わせを指定して、もう一度プリントを指示してください。
016-740	**【原因】** PostScript* で製本を指定したが、製本ができない用紙トレイが設定されています。 *: お使いの機種によっては、オプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 **【処置】** 製本が可能な用紙トレイを指定して、もう一度プリントを指示してください。
016-741 016-742 016-743 016-744 016-745	**【原因】** 本体の更新処理にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-746	**【原因】** 受信した PDF には、サポートしていない機能が含まれています。 **【処置】** プリンタードライバーを使用してプリントしてください。
016-747	**【原因】** コピーの画像繰り返し機能とアノテーション機能を同時に使用しているときに、メモリー不足が発生しました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • アノテーションのイメージのサイズを大きくする • 画像繰り返しの個数指定を少なくする • メモリーを増設する (オプションに増設メモリーがある機種のみ)

エラーコード	原因 / 処置
016-748	**【原因】** ハードディスクの領域が不足しているため、プリントできません。 **【処置】** プリントデータを分割する、複数部プリントしている場合は 1 部ずつプリントするなどで、プリントデータのページ数を少なくしてください。
016-749	**【原因】** 1) プリントジョブで発生する場合： プリンタードライバーから受信したプリント言語が、本機で印刷できないプリント言語でした。 2) インターネットファクス受信文書をプリントするときに発生する場合： 相手機からインターネットファクス送信されてきた文書が、本機で印刷できないプリント言語でした。 **【処置】** 1. については、本機用のプリンタードライバーを使用して印刷してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。 2. については、インターネットファクス送信側に本機で印刷可能なプリント言語で送信するように依頼してください。 **補足** • PostScript など印刷するプリント言語によっては、オプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
016-750	**【原因】** 「ContentsBridge Utility」など、ファイルを直接送信して印刷するアプリケーションを使用している場合、PDF、XPS、DocuWorks とともに送信されるプリントジョブチケットを本機が受信しましたが、プリントジョブチケットデータが本機で対応していない文法、または本機で対応していない印刷指示内容でした。 **【処置】** 「ContensBridge」など、プリントジョブを送信しているアプリケーションの使用方法、印刷指示内容に問題がないかをご確認ください。 問題がない場合は、弊社ではなくプリントジョブを送信しているアプリケーション作成会社にアプリケーションの動作を確認してください。 それでも解決しない場合は、機能設定リスト（共通項目）、ジョブ履歴レポート、および送信しているプリントジョブチケット付きのプリントデータを取得の上、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。 **補足** •「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

エラーコード	原因 / 処置
016-751	**【原因】** 次の原因が考えられます。 1) PDF Bridge 処理中に構文エラー、未定義コマンドの使用、パラメーターエラー、PDF ファイルの破損が発生しました。 2) PDF ダイレクトプリント機能の設定項目で「プリント処理モード」を「PS」に設定しているときに、メモリー不足が発生しました。 3) PDF ダイレクトプリント機能の設定項目で「プリント処理モード」を「PS」に設定して、OpenType フォントが含まれている PDF を処理しました。 **【処置】** 1. については、プリンタードライバーを使用してプリントしてください。 2. については、次のどれかの方法で対処してください。 • プリンタードライバーを使用してプリントする • PostScript 使用メモリーを増やす 3. については、OpenType フォントを含まない PDF を作成してください。 **参照** • メモリー設定
016-752	**【原因】** メモリー容量が不足したため、PDF Bridge の処理ができませんでした。 **【処置】** 印刷モードが「高画質」になっている場合は「標準」に、「標準」の場合は「高速」に変更してください。または、メモリーを増設してください。
016-753	**【原因】** パスワードで保護されている PDF ファイルを処理する場合で、パスワードが一致しませんでした。 **【処置】** 正しいパスワードを ContentsBridge で指定してください。
016-755	**【原因】** 印刷禁止指定された PDF ファイルを処理しようとしました。 **【処置】** Adobe Acrobat(R) を使用して、印刷禁止指定を解除して再プリントしてください。
016-756	**【原因】** サービスの利用が許可されていません。 **【処置】** 機械管理者に確認してください。
016-757	**【原因】** アカウント情報が間違っています。 **【処置】** 入力したアカウント情報、または登録されているアカウント情報を確認して、再度やり直して下さい。
016-758	**【原因】** サービスを利用できる部門として登録されていません。 **【処置】** 集計管理者にご相談ください。
016-759	**【原因】** サービスを利用できる上限ページ数に達しました。 **【処置】** 集計管理者にご相談ください。
016-761	**【原因】** イメージ処理中にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機用のプリンタードライバーで、［印刷モード］を［標準］にして、もう一度プリントを指示してください。それでもプリントできない場合は、ページ印刷モードでプリントしてください。

エラーコード	原因 / 処置
016-762	**【原因】** 実装されていないプリント言語が指定されました。 **【処置】** ［ポート設定］で、使用するポートのプリントモードに正しいプリント言語を指定してください。
016-763	**【原因】** POP サーバーとの接続でエラーが発生しました。 **【処置】** 本機に設定した、POP サーバーの IP アドレスを確認してください。
016-764	**【原因】** SMTP サーバーに接続できませんでした。 **【処置】** SMTP サーバーの管理者にご相談ください。
016-765	**【原因】** SMTP サーバーのハードディスクの空き容量がないため、メール送信ができませんでした。 **【処置】** SMTP サーバーの管理者にご相談ください。
016-766	**【原因】** SMTP サーバーでエラーが発生しました。 **【処置】** SMTP サーバーの管理者にご相談ください。
016-767	**【原因】** メールアドレスが間違っているため、メール送信ができませんでした。 **【処置】** メールアドレスを確認し、もう一度送信してください。
016-768	**【原因】** 本機のメールアドレスが正しくないため、SMTP サーバーに接続できませんでした。 **【処置】** 本体メールアドレスを確認してください。
016-769	**【原因】** SMTP サーバーが配送確認（DSN）に対応していません。 **【処置】** 配送確認（DSN）の設定をしないで、メールを送信してください。
016-770	**【原因】** ダイレクトファクスが禁止されています。 **【処置】** システム管理者にダイレクトファクスが使用可能かどうかを確認してください。使用可能な場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-772	**【原因】** DNS サーバーアドレスが設定されていません。 **【処置】** DNS サーバーアドレスを設定してください。
016-774	**【原因】** ハードディスクの容量が不足しているため、圧縮変換処理ができませんでした。 **【処置】** ハードディスク内の不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。
016-775	**【原因】** ハードディスクの容量が不足しているため、画像変換処理ができませんでした。 **【処置】** ハードディスク内の不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。

エラーコード	原因 / 処置
016-776	**【原因】** 画像変換処理中にエラーが発生しました。 **【処置】** スキャナー（ボックス保存）またはインターネットファクス転送中に発生した場合： データの一部は画像変換処理が終了している場合があります。CentreWare Internet Services を使用して、親展ボックスからページ単位で取り出してみてください。 証明書による暗号化や署名を指示して発生した場合： 次のどれかの方法で対処してください。 • 証明書が有効であるかどうかを確認する • 本機に設定されている日付や時間を正しくする ［出力ファイル形式］を［Microsoft(R)　Word］または［Microsoft(R) Excel(R)］に設定している場合： 文書に含まれる画像部分の数が上限を超えたため、実行できませんでした。 ［出力ファイル形式］で［1 ページずつ分割する］を設定するか、［画像部分の形式］で［図オブジェクト］を設定してください。
016-777	**【原因】** イメージ処理中にハードディスクでエラーが発生しました。 **【処置】** ハードディスクが故障している可能性があります。ハードディスクの交換については、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-778	**【原因】** ハードディスクの容量を超えたため、スキャン画像の変換処理が中断されました。 **【処置】** ハードディスク内の不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。
016-779	**【原因】** スキャン画像の変換処理中にエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度スキャンを指示してください。 A3 などの比較的大きなサイズの原稿で、［読み取り方法］タブの［読み取り解像度］に 600dpi を指定して、スキャンがエラーにより中断される場合は、［読み取り解像度］を 400dpi 以下に設定してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-780	**【原因】** スキャン画像の変換処理中に、ハードディスクにエラーが発生しました。 **【処置】** ハードディスクが故障している可能性があります。ハードディスクの交換については、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
016-781	**【原因】** 次の原因が考えられます。 1) メール送信時に、メールサーバーが見つかりませんでした（TCP/IP のセッション確立失敗）。 2) メール送信時に、メールサーバーから本機へSMTPサーバーエラーを受信しました。 **【処置】** 1. 次のどれかの方法で処置してください。 • ネットワークケーブルを確認する • SMTPサーバーをIPアドレスで指定している場合は、IPアドレスが正しいか確認する 2. 本機のホスト名を、ASCII 文字で指定してください。 使用できる文字 • アルファベット（a ～ z、A ～ Z） • 数字（0 ～ 9） ASCII 文字を使用しているかどうかは、本機の［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［本体メールアドレス / ホスト名］で確認してください。
016-786	**【原因】** スキャン機能を使用したときに、ハードディスクにファイルの書き込みができませんでした。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 本機の電源を切って、操作パネルのディスプレイが消灯してから、入れ直す • 本機の用紙トレイの用紙がなくなっている場合は、用紙を補給する • メール送信で発生する場合は、次のどれかの方法で処置する • 解像度を低くして送信する • サイズを縮小して送信する • ページ数を減らして、ジョブを数回に分けて送信する • ［カラーモード］を［白黒 (2 階調)］にして送信する
016-788	**【原因】** Web ブラウザーからのファイルの取り出しに失敗しました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してから、もう一度、取り出し操作をしてください。 • ブラウザーのページを再表示する • ブラウザーを再起動する • 本機の電源を切って、操作パネルのディスプレイが消灯してから、入れ直す
016-790	**【原因】** メールの分割送信時に、分割数の上限を超えたため送信できませんでした。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • ［画質 / ファイルサイズ］で、ファイルサイズを小さくする • ［分割送信時の分割数上限］を大きな値に変更する **参照** • 画質 / ファイルサイズ • メール送信動作制御
016-792	**【原因】** 「ジョブ別集計レポート」をプリントする場合に、指定したジョブの履歴が取得できませんでした。 **【処置】** 指定されたジョブの履歴は存在しません。

エラーコード	原因 / 処置
016-794	【原因】 メディアが正しく挿入されていません。 【処置】 メディアが正しく挿入されているか確認してください。
016-795 016-796 016-797	【原因】 メディア内のデータを読み取るときにエラーが発生しました。 【処置】 コンピューターで、メディアに記録されている内容を確認してください。
016-798	【原因】 ハードディスクが取り付けられていないため、指定されたプリントはできません。 【処置】 ハードディスクの装着が必要です。ハードディスクの装着については、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-799	【原因】 アプリケーション側のプリントデータそのものに不正なパラメーターが含まれている、もしくはプリントデータと印刷設定に不整合が生じている可能性があります。 【処置】 アプリケーション側のプリントデータと印刷設定を確認し、もう一度プリントを指示してください。
016-725	【原因】 本機のジョブフロー機能を使用して、親展ボックスに保存されているスキャン文書をファクス送信するための処理中、親展ボックス文書からファクス用のデータに変換できないエラーが発生しました。 【処置】 ジョブフロー機能を使用しないでください。本機のファクス指示画面から、原稿を直接読み込んで、相手先にファクス送信してください。

"017-001" - "017-999"

エラーコード	原因 / 処置
017-700	【原因】 ThinPrint .print Engine との接続がタイムアウトになりました。 【処置】 ThinPrint .print Engine との接続を確認してください。
017-701	【原因】 ThinPrint .print Engine との接続でエラーが発生しました。 【処置】 ThinPrint .print Engine との接続を確認してください。
017-702	【原因】 ThinPrint .print Engine から送信されたデータが不正です。 【処置】 ThinPrint .print Engine のエラーの可能性があります。再度印刷処理を行うと成功する場合があります。
017-703	【原因】 ThinPrint .print Engine から送信された印刷データが本機で扱える最大サイズを超えました。 【処置】 ジョブを分割して、再度印刷処理をやり直してください。
017-704	【原因】 内部エラーが発生しました。 【処置】 電源を入れ直して、もう一度送信してください。
017-705 017-706 017-707 017-708	【原因】 ThinPrint .print Engine の SSL 認証エラーです。 【処置】 ThinPrint .print Engine に登録しているサーバー証明書の内容（有効期限、アドレスなど）を確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
017-709	**【原因】** ThinPrint .print EngineとのSSL通信エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の設定を確認してください。
017-710	**【原因】** IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 **【処置】** 通信先の機器が IP ファクス（SIP）通信に対応しているか確認してください。
017-711	**【原因】** IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 **【処置】** 通信先のアドレスを確認してください。
017-712	**【原因】** IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 **【処置】** 通信先の機器に異常などがないか確認してください。
017-713	**【原因】** SMTP サーバーが［STARTTLS 接続］に対応していません。 **【処置】** SSL/TLS 通信の設定を［STARTTLS 接続］以外に変更してください。
017-714	**【原因】** SMTP サーバーとの SSL 接続に失敗しました。 **【処置】** SMTP サーバーが SSL 接続に対応しているか確認ください。対応している場合、SMTP サーバーのポート番号を確認してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
017-715	**【原因】** SMTP サーバーの SSL サーバー認証エラーです。サーバー証明書データが不正です。 **【処置】** 本機が SMTP サーバーの SSL 証明書を信頼できません。SMTP サーバーの SSL 証明書のルート証明書を本機に登録してください。
017-716	**【原因】** SMTP サーバーの SSL 認証エラーです。サーバー証明書が有効期間より前のものです。 **【処置】** SMTP サーバーの SSL 証明書を有効なものに変更してください。本機の［SSL/TLS 設定］の［SMTP-SSL/TLS 通信］を［無効］に設定してもエラーを回避できますが、接続する SMTP サーバーの正当性が保証されなくなりますので注意してください。
017-717	**【原因】** SMTP サーバーの SSL 認証エラーです。サーバー証明書が有効期限切れです。 **【処置】** SMTP サーバーの SSL 証明書を有効なものに変更してください。本機の［SSL/TLS 設定］の［SMTP-SSL/TLS 通信］を［無効］に設定してもエラーを回避できますが、接続する SMTP サーバーの正当性が保証されなくなりますので注意してください。
017-718	**【原因】** SMTP サーバーの SSL 認証エラーです。サーバー名と証明書が一致していません。 **【処置】** SMTP サーバーの SSL 証明書を有効なものに変更してください。本機の［SSL/TLS 設定］の［SMTP-SSL/TLS 通信］を［無効］に設定してもエラーを回避できますが、接続する SMTP サーバーの正当性が保証されなくなりますので注意してください。

エラーコード	原因 / 処置
017-719	**【原因】** SMTP サーバーの SSL 認証エラーです。SSL 認証内部エラーです。 **【処置】** もう一度、同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
017-723	**【原因】** DocuWorksダイレクトプリントに対応していない文字が使用されています。 **【処置】** DocuWorks Viewer からプリンタードライバー（ART-EX など）を使用して印刷してください。
017-724	**【原因】** Denshi-Pen からのプリント指示でエラーが発生しました。 **【処置】** お使いの機種がDenshi-Penに対応しているかを確認してください。Denshi-Pen に対応している場合は、もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
017-725	**【原因】** 強制アノテーションを印字する設定にしているときに、プリント指示でエラーが発生しました。 **【処置】** 強制アノテーションのテンプレート名が正しくありません。 もう一度、本機に登録されている強制アノテーションのテンプレート名をご確認ください。
017-729	**【原因】** プリントジョブ蓄積先の機器（親機）で、受け付けられるジョブの数が上限を超えているか、ジョブのスプール領域不足により、ジョブが一時的に送信できませんでした。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • プリントジョブ蓄積先の機器（親機）で、プリントデータのスプール先をハードディスクに設定してください。CentreWare Internet Services で、［プロパティ］>［一般設定］>［メモリー設定］>［IPP］で［ハードディスク］を選択します。 • しばらく待ってから、再度ジョブを送信してください。
017-730	**【原因】** プリントジョブ蓄積先の機器（親機）にジョブを送信するときに、ネットワークエラーが発生しました。 **【処置】** 次の確認を行ってください。 • ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認する。 • プリントジョブ蓄積先の機器（親機）の電源が入っていることを確認する。 • プリントジョブ蓄積先の機器（親機）の IPP ポートが起動していることを確認する。 それでも状態が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
017-731	**【原因】** POP サーバーとの接続に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • 本機に設定した、POP サーバーの IP アドレスが正しく設定されているか • ネットワークケーブルが接続されているか
017-732	**【原因】** プリントジョブ蓄積先の機器（親機）がオフライン状態になっているため送信できませんでした。 **【処置】** プリントジョブ蓄積先の機器（親機）で、〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押し、［機械状態レポート出力］>［プリンターモード］で、［オンライン］を選択してください。 それでも状態が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
017-733	**【原因】** プリントジョブ蓄積先の機器（親機）にジョブを送信するときに、ソフトウェアの内部エラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
017-734	**【原因】** AirPrint/Mopria 等の処理中に、内部エラーが発生しました。 **【処置】** IPPからのプリント以外の弊社製プリンタードライバーやソフトウェアを使用した別な手段で、もう一度プリントを指示してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
017-735	**【原因】** デバイスの利用が禁止されています。 **【処置】** 機械管理者に相談してください。
017-737	**【原因】** メモリ不足が発生したため、データを送信できませんでした。 **【処置】** 機械管理者に相談し、不要なプラグインを停止または削除してください。状態が改善されない場合、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れ直したあとに、もう一度上記の操作を実施してみてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
017-738	**【原因】** 内部エラーが発生したため、データを送信できませんでした。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
017-739	**【原因】** プラグイン機能が無効のため、データを送信できませんでした。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
017-740	**【原因】** 対応するプラグインの実行に失敗したため、データを送信できませんでした。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • CentreWare Internet Services の［プロパティ］>［セキュリティー］>［プラグイン設定］>［プラグイン設定］で、［有効］にチェックが付いている • CentreWare Internet Services の［プロパティ］>［セキュリティー］>［プラグイン設定］>［組み込みプラグイン一覧］で、対応するプラグインの［状態］が［実行中］と表示されている
017-741	**【原因】** ジョブフローが実行できないため、データを送信できませんでした。 **【処置】** 次のどちらかの方法で処置してください。 • 最新のプラグインをインストールする • ジョブフローの設定内容を確認する
017-742	**【原因】** 転送先との接続でエラーが発生しました。 **【処置】** ネットワークケーブルの接続状態や、本機および転送先サーバーの設定が正しいか確認してください。
017-743	**【原因】** 転送先へのログインに失敗しました。 **【処置】** 転送先サーバーで使用するユーザー名とパスワードが正しく設定されているか確認してください。
017-744	**【原因】** 転送先との接続でエラーが発生しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • 本機で指定したパスを使用して、コンピューターからアクセスできるか • 転送先サーバーの空き容量が不足していないか
017-745	**【原因】** ハードディスクにエラーが発生したため、データを送信できませんでした。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 解像度を下げて送信する • サイズを縮小して送信する • ページ数を減らし、ジョブを数回に分けて送信する •［カラーモード］を［白黒 (2 階調)］にして送信する
017-746	**【原因】** ハードディスクにエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
017-747	**【原因】** 転送先との接続がタイムアウトになりました。 **【処置】** しばらく待ってから、もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
017-748	**【原因】** 転送プラグイン動作に必要な本機の設定が不足しているため、データの転送に失敗しました。 **【処置】** 本機のネットワーク設定を確認してください。
017-749	**【原因】** プラグインで転送エラーが発生しました。 **【処置】** ジョブフローの設定内容を確認してください。
017-750	**【原因】** プラグインで転送エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、プラグインをインストールし直してください。
017-751	**【原因】** プラグインで転送エラーが発生しました。 **【処置】** 未送信レポートでエラーの詳細を確認してください。
017-755	**【原因】** ソフトウェアダウンロードに失敗しました。 **【処置】** CentreWare Internet Services の［プロパティ］>［サービス設定］>［Machine Software］>［ネットワーク経由のソフトウェアダウンロード］で、［許可］にチェックが付いているかを確認してください。
017-756	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本体の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。 それでも状態が改善しないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
017-759	**【原因】** 本機のファームウェアを更新中にエラーが発生しました。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
017-760 017-766	**【原因】** POP3 サーバーとの接続でエラーが発生しました。 次の原因が考えられます。 1) TLS 通信で POP3 サーバーに接続している場合、ポート番号が異なっている可能性があります。 2) それ以外の場合、プログラムの内部エラーが発生した可能性があります。 **【処置】** 1. については、POP3 サーバーのポート番号を正しい値に設定してください。 2. については、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
017-761	**【原因】** POP3 サーバーのサーバー証明書に不正があるため、SSL サーバー認証でエラーが発生しました。 **【処置】** 本機に正しいPOP3サーバーのサーバー証明書を登録してください。
017-762 017-768	**【原因】** 有効期間前のサーバー証明書で POP3 サーバーに接続しました。 **【処置】** POP3 サーバーと本機の時計を正しい時刻に合わせてください。時計が正しい場合は、本機に有効期間内のサーバー証明書を登録してください。
017-763 017-769	**【原因】** 有効期限が切れたサーバー証明書でPOP3サーバーに接続しました。 **【処置】** POP3 サーバーと本機の時計を正しい時刻に合わせてください。時計が正しい場合は、本機に有効期間内のサーバー証明書を登録してください。
017-764 017-770	**【原因】** POP3サーバーとサーバー証明書のサーバーアドレスが一致していません。 **【処置】** 正しいサーバーアドレスが記載されたサーバー証明書を本機に登録してください。
017-765	**【原因】** POP3 サーバーとの接続でエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
017-767	**【原因】** POP3 サーバーのサーバー証明書に不正があるため、SSL サーバー認証でエラーが発生しました。 **【処置】** 本機にPOP3サーバーの正しいサーバー証明書を登録してください。
017-771	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
017-772	**【原因】** スキャンした原稿がすべて白紙と検知されました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 原稿が白紙ではないか、裏と表が逆になっていないかどうかを確認する。 • ファクスの場合、［ファクス / インターネットファクス］>［ファクス / インターネットファクス］を選択して、送信濃度を濃くする。 • スキャナーの場合、［画質調整］>［読み込み濃度 / シャープネス］を選択して、原稿の読み込み濃度を濃くする。 • 白紙スキップが有効になっている場合は［仕様設定］>［ファクス設定］>［ファクス動作制御］>［白紙スキップ］を選択して、白紙スキップを無効にする。 **補足** • 白紙スキップはカストマーエンジニアが設定します。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
017-780	**【原因】** プリントジョブの追い越しを［許可］に設定した場合、追い越されたプリントジョブが一定時間を経過して自動解除されました。 **【処置】** 特に処置は必要ありません。追い越されたプリントジョブの自動解除設定が有効になっている場合にこの機能が働きます。 運用上不都合がある場合は、設定を［禁止］にするか、自動解除までの時間を適切な値（1 分～ 120 時間）に設定し直してください。
017-782 017-784 017-786	**【原因】** 画像処理で内部エラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を行ってください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
017-783	**【原因】** 画像処理でメモリー不足が発生しました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 解像度を下げて送信する • ［カラーモード］を［白黒（2 階調）］にして送信する

エラーコード	原因 / 処置
017-785	**【原因】** 画像処理で内部エラーが発生しました。QR コードをご利用の場合、QR コードが正常に読み取れていない可能性があります。 **【処置】** 原稿を再度確認し、次の方法で処置してください。 • QR コード自体の領域（コード領域）を正方形にする • QR コード自体の領域（コード領域）と QR コード周辺の余白を含めた領域（印字領域）を正しいサイズで印字する • QR コードの一部が欠けて印字されていないか確認する • QR コードの印字を濃くする • 一般 QR コードと業務別らくらくスキャン専用の QR コードが混在していないか確認する • ヘッダーシートだけの原稿、またはヘッダーシート以外に白紙原稿だけの原稿でないことを確認する それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
017-787	**【原因】** Google クラウドプリントのプリントデータ処理中にエラーが発生しました。 **【処置】** Google クラウドプリント以外の方法でプリントしてください。

"018-001" - "020-999"

エラーコード	原因 / 処置
018-400	**【原因】** IPsec が有効になっているが、IPsec 設定に不整合があります。 • ［認証方式］に［事前共有鍵］が設定されているがパスワード設定されていない • ［認証方式］に［デジタル署名］が設定されているが IPsec 証明書が設定されていない **【処置】** IPsec 設定の不整合を解消して、再度 IPSec を有効にしてください。 • ［認証方式］に［事前共有鍵］が設定されている場合、パスワードを設定する • ［認証方式］に［デジタル署名］が設定されている場合、IPsec 証明書を設定する

エラーコード	原因 / 処置
018-401	**【原因】** ［TCP/IP -IP 動作モード］と［SIP サーバーアドレス取得方法］または［SIP プロキシサーバー設定］、［SIP レジストラサーバー設定］に不整合があります。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置をしてください。 • ［TCP/IP -IP 動作モード］が［IPv4 モード］で［IPv4-IP アドレス取得方法］が［手動で設定］の場合、［SIP サーバーアドレス取得方法］は［手動で設定］にしてください。 • ［TCP/IP -IP 動作モード］が［IPv4 モード］で［IPv4-IP アドレス取得方法］が［手動で設定］以外の場合、［SIP サーバーアドレス取得方法］は［手動で設定］または［DHCP から取得］にしてください。 • ［TCP/IP -IP 動作モード］が［IPv6 モード］の場合、［SIP サーバーアドレス取得方法］は［手動で設定］または［DHCPv6 から取得］にしてください。 • ［TCP/IP -IP 動作モード］が［手動で設定］の場合、［SIP プロキシサーバー設定］と［SIP レジストラサーバー設定］の［プライマリーサーバー - アドレス］や［セカンダリーサーバー - アドレス］は必ず設定してください。 IPv4 は、IPv4 アドレスまたは FQDN 文字列で、IPv6 は、IPv6 アドレスまたは FQDN 文字列で設定してください。 • アドレスを FQDN 文字列で設定した場合、DNS で正しくアドレス解決ができるように、DNS の設定を行ってください。
018-402	**【原因】** 以下のいずれかの原因で、SIP レジストラーサーバーへの本機の情報登録に失敗しました。 • DHCP または DHCPv6 で SIP サーバーアドレス情報を取得できなかった。 • 手動設定した SIP レジストラーサーバーと通信できなかった。 • DHCP または DHCPv6 で取得した SIP レジストラーサーバーと通信できなかった。 • SIP レジストラーサーバーと通信できなかった。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置をしてください。 • ［SIP サーバーアドレス取得方法］が DHCP または DHCPv6 の場合、本機と DHCP サーバーまたは DHCPv6 サーバーとの通信が正しく行える状態にあるかを確認してください。ケーブル抜けやスイッチ / ハブの異常などがないかを確認してください。 • ［SIP サーバーアドレス取得方法］が DHCP または DHCPv6 の場合、DHCP サーバーまたは DHCPv6 サーバーが起動していることを確認してください。また、SIP サーバーアドレスを配布できる設定になっているかを確認してください。 • ［SIP サーバーアドレス取得方法］が手動設定の場合、設定したアドレスが正しいかを確認してください。アドレスを FQDN 文字列で設定した場合、DNS で正しくアドレス解決できるように DNS 設定を行ってください。 • ［SIP サーバーアドレス取得方法］を DHCP または DHCPv6 に設定している場合、DHCP サーバーまたは DHCPv6 サーバーが配布している SIP サーバーアドレスが正しいかを確認してください。 • 本機と SIP レジストラーサーバーとの通信が正しく行える状態にあるかを確認してください。ケーブル抜けやスイッチ / ハブの異常などがないかを確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-403	**【原因】** 認証エラーでSIPレジストラーサーバーへの本機の情報登録が失敗しました。 **【処置】** SIP レジストラーサーバーが認証を必要とする設定の場合、本機の SIP レジストラーサーバー設定で認証ユーザー名とパスワードを正しく設定してください。
018-404	**【原因】** 認証エラー以外のその他のエラーでSIPレジストラーサーバーへの本機の情報登録が失敗しました。 **【処置】** SIPレジストラーサーバーが本機からの情報登録を受け付ける設定になっているかを確認してください。
018-405	**【原因】** LDAP 認証エラーで認証に失敗しました。 **【処置】** 認証先のアクティブディレクトリーでアカウントが無効に設定されています。または、サーバー側でアクセス禁止に設定になっています。サーバー管理者にお問い合わせください。
018-406	**【原因】** Ethernet1とセカンダリーイーサネットを独立したネットワークに接続した場合に、同一の IPv4 アドレスが設定されたことを検知しました。 **【処置】** 各イーサネットに別々のIPアドレスを設定し直してください。同一 IP アドレスを設定したい場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
018-407	**【原因】** Ethernet1とセカンダリーイーサネットを独立したネットワークに接続した場合に、同一の IPv6 アドレスが設定されたことを検知しました。 **【処置】** 各イーサネットに別々のIPアドレスを設定し直してください。同一 IP アドレスを設定したい場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
018-408	**【原因】** Ethernet2 側のネットワークで、IPv4 の IP アドレスが重複しています。 **【処置】** Ethernet2 側の IPv4 アドレスを変更して IP アドレスの重複を解消してください。
018-409 018-416	**【原因】** Ethernet2 側のネットワークで、IPv6 の IP アドレスが重複しています。 **【処置】** 重複しているネットワーク上機器のIPv6アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
018-410	**【原因】** Ethernet2 側のネットワークで、DNS サーバーに対する、IPv4 アドレスとホスト名の更新に失敗しました。 **【処置】** DNS サーバーアドレスが正しく設定されているか確認してください。
018-411	**【原因】** Ethernet2 側のネットワークで、DNS サーバーに対する、IPv6 アドレスとホスト名の更新に失敗しました。 **【処置】** DNS サーバーアドレスが正しく設定されているか確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-412 018-413	【原因】 Ethernet2 側のネットワークで、IPv6 の IP アドレスが重複しています。 【処置】 重複しているネットワーク上機器の IPv6 アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
018-414	【原因】 Ethernet2 側で手動設定した IPv6 の IP アドレスが間違っています。 【処置】 正しい IPv6 アドレスを設定し直してください。
018-415	【原因】 Ethernet2 側で手動設定した IPv6 の IP アドレスが間違っています。 【処置】 本機 IPv6 の「手動設定アドレス」、またはネットワーク上機器の IPv6 アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
018-424	【原因】 WPA-Enterprise認証のルート証明書またはクライアント証明書が本機に登録されていません。 【処置】 本機にWPA-Enterprise認証のルート証明書またはクライアント証明書を格納してください。 WPA-Enterprise認証のルート証明書またはクライアント証明書が入手できない場合は、WPA-Enterprise 以外の無線セキュリティを使用してください。
018-425	【原因】 WPA-Enterprise認証のルート証明書またはクライアント証明書が不正です。 【処置】 証明書の内容を確認して、本機に有効な WPA-Enterprise 認証のルート証明書またはクライアント証明書を格納してください。 WPA-Enterprise認証のルート証明書またはクライアント証明書が入手できない場合は、WPA-Enterprise 以外の無線セキュリティを使用してください。
018-426	【原因】 WPA-Enterprise 認証のサーバー証明書が不正です。 【処置】 • サーバー証明書の内容（有効期限、証明書の形式、署名アルゴリズムなど）を確認してください。 • 有効なサーバー証明書を入手できない場合は、WPA-Enterprise 以外の無線セキュリティを使用してください。
018-427	【原因】 Wi-Fi IP アドレスと Wi-Fi Direct IP アドレスが重複しています。 【処置】 Wi-Fi Direct DHCP サーバーの IP アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
018-428	【原因】 無線 LAN モジュールが正しく接続されていません。 【処置】 本機の電源を切り、無線 LAN モジュールが取り付けられていることを確認してください。
018-429	【原因】 Wi-Fi 側のネットワークで、IPv4 の IP アドレスが重複しています。 【処置】 本機の IPv4 アドレス、またはネットワーク上機器の IPv4 アドレスを変更してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-430	**【原因】** Wi-Fi Direct 側のネットワークで、IPv4 の IP アドレスが重複しています。 **【処置】** 本機の IPv4 アドレス、またはネットワーク上機器の IPv4 アドレスを変更してください。
018-431	**【原因】** Wi-Fi 側のネットワークで、IPv6 の IP アドレス（ステートレス自動設定アドレス 1 または DHCPv6 自動設定アドレス）が重複しています。 **【処置】** 重複しているネットワーク上機器のIPv6アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
018-432	**【原因】** Wi-Fi 側のネットワークで、IPv6 の IP アドレス（ステートレス自動設定アドレス 2）が重複しています。 **【処置】** 重複しているネットワーク上機器のIPv6アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
018-433	**【原因】** Wi-Fi 側のネットワークで、IPv6 の IP アドレス（ステートレス自動設定アドレス 3）が重複しています。 **【処置】** 重複しているネットワーク上機器のIPv6アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
018-434	**【原因】** Wi-Fi側で手動設定したIPv6のIPアドレスが間違っています。 **【処置】** 正しい IPv6 アドレスを設定し直してください。
018-435	**【原因】** Wi-Fi側で手動設定したIPv6のIPアドレスが重複しています。 **【処置】** 本機 IPv6 の「手動設定アドレス」、またはネットワーク上機器の IPv6 アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
018-436	**【原因】** Wi-Fi 側のネットワークで、IPv6 の IP アドレス（リンクローカルアドレス）が重複しています。 **【処置】** 重複しているネットワーク上機器のIPv6アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
018-439	**【原因】** ［通信モード］が［Ad-hoc］に設定されているため、Wi-Fi Direct を使用できません。 **【処置】** ［通信モード］を［Infrastructure］に変更してください。
018-440	**【原因】** ［IP 動作モード］が［IPv6 モード］に設定されているため、Wi-Fi Direct を使用できません。 **【処置】** ［IP 動作モード］を［デュアルスタック］または［IPv4 モード］に変更してください。
018-441	**【原因】** ［動作周波数帯］が［5GHz］に設定されているため、Wi-Fi Direct を使用できません。 **【処置】** ［動作周波数帯］を［自動］または［2.4GHz］に変更してください。
018-443	**【原因】** Wi-Fi 側のネットワークで、DNS サーバーに対する、IPv4 アドレスとホスト名の更新に失敗しました。 **【処置】** DNS サーバーアドレスが正しく設定されているか確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-444	**【原因】** Wi-Fi 側のネットワークで、DNS サーバーに対する、IPv6 アドレスとホスト名の更新に失敗しました。 **【処置】** DNS サーバーアドレスが正しく設定されているか確認してください。
018-500	**【原因】** 認証サーバーに証明書がありません。 **【処置】** サーバー証明書を設定してください。または、認証機能を解除してください。
018-501	**【原因】** 本機に設定された CA 認証サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** ネットワーク接続および CA 認証サーバーのアドレスを確認してください。
018-502	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、ログイン可能なコンピューターが制限されています。 **【処置】** 指定したユーザーのプロパティ情報を確認し、サーバーにログインできるコンピューターが制限されていないかを確認してください。
018-503 018-504 018-506	**【原因】** 本機に設定された CA 認証サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** もう一度、認証操作を行ってください。

エラーコード	原因 / 処置
018-505	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送時に、転送先サーバーへのログインに失敗しました。 **【処置】** 本機に設定してある、SMB 転送先のユーザー名、またはパスワードが正しいか確認してください。 転送先が Macintosh の場合、Windows ユーザーとのファイル共有が有効になるように、共有フォルダーのアカウント設定の変更が必要です。設定については、システム管理者に確認してください。 共有フォルダーの設定を変更する手順を、Mac OS X 10.6 の場合を例に説明します。 転送で使用するために、専用のアカウントを作成することをお勧めします。アップルメニューから［システム環境設定］>［アカウント］を選択して表示される画面で設定できます。 1) アップルメニューから［システム設定］>［共有］を選択します。 2)［ファイル共有］のチェックボックスにチェックが付いていることを確認し、［オプション］をクリックします。 3)［SMB　を使用してファイルやフォルダを共有］を選択します。 4) ファイル共有に使用するユーザーアカウントの左のチェックボックスにチェックを付けて、そのユーザーのパスワードを入力し、［OK］をクリックします。 5)［完了］をクリックします。 以上の処置のあと、別の PC から同じユーザーで SMB サーバーにログインして、同じ場所にファイルが保存できるかを確認してください。書き込みができる場合、本機からもう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、サーバーの情報（メーカー、機種名、OS バージョン）をお調べの上、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。 **注記** • パスワードの確認はできません。パスワードを忘れてしまった場合は、パスワードをリセットする必要があります。パスワードのリセット方法については、システム管理者にお尋ねください。 • お客様の環境によっては、ユーザー名を""ドメイン\ユーザー名""形式で入力する必要があります。 • ユーザー名を入力した場合、パスワードなしでは運用できません。 **補足** • Mac OS X 10.6 以外の Mac OS での設定方法については、システム管理者に確認するか、Apple Japan 社の公式ホームページをご参照ください。
018-507	**【原因】** 入力されたユーザー名またはパスワードが正しくないため、認証に失敗しました。 **【処置】** ユーザー名またはパスワードを確認して正しく入力してください。
018-508	**【原因】** 認証中にサーバーエラーが発生しました。 **【処置】** 認証サーバーの状態を確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-510	**【原因】** BMLinkS スキャンで、転送先のホスト名のインターネットアドレスを解決できませんでした。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 本機に設定してある DNS サーバーのアドレスを確認する • DNS サーバーに、BMLinkS ストレージサービスのサーバー名またはホスト名が登録されているか確認する
018-511	**【原因】** DNS サーバーのアドレスが設定されていません。 **【処置】** 本機に DNS サーバーのアドレスを設定してください。または、転送先の BMLinkS ストレージサービスのアドレスを IP アドレスで設定してください。
018-512	**【原因】** BMLinkS サーバーに接続できませんでした。 **【処置】** サーバーの検索を行い、最新のサーバーリストを取得してください。それで接続できない場合は BMLinkS サーバーが起動しているか確認してください。
018-513	**【原因】** BMLinkS サーバーが見つかりません。 **【処置】** サーバーの検索を行い、最新のサーバーリストを取得してください。それで接続できない場合は BMLinkS サーバーが起動しているか確認してください。
018-514	**【原因】** BMLinkS サーバーにログインできませんでした。 **【処置】** ユーザー名、またはパスワードが正しいか確認してください。
018-515	**【原因】** 何らかの理由で、本機が BMLinkS サービスから該当エラーコードを受信しました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 指定したファイル名が保存場所に作成可能なファイル名かを確認する • 指定したファイル名が別のユーザーによって使用されていないかを確認する
018-516	**【原因】** BMLinkS サーバーにデータが保存できませんでした。 **【処置】** 次の原因が考えられます。 • 保存するファイル名に、BMLinkS サーバーで使用できない文字が使われている • BMLinkS サーバーに、同じファイル名のファイルが存在する • 保存先のフォルダー名、またはファイル名が長い
018-517	**【原因】** BMLinkS サーバーにデータが保存できませんでした。 **【処置】** BMLinkS サーバーのディスク空き容量が不足しています。不要なファイルを削除して、空き容量を増やしてください。
018-518	**【原因】** BMLinkS サーバーでエラーが発生しました。 **【処置】** しばらく待ってから、操作してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-519	**【原因】** BMLinkS サーバーでエラーが発生しました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • サーバーの検索を行い、最新のサーバーリストを取得する • BMLinkS サーバーが利用可能な状態か確認する それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
018-520 018-521 018-522 018-523	**【原因】** BMLinkS サーバーでエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を実施してください。 それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
018-543	**【原因】** 次の原因が考えられます。 1) スキャナー（PC 保存）の SMB 転送先に設定した共有名が存在しません。 2) スキャナー（PC 保存）の SMB 転送先に設定した共有名に、禁則文字が使用されています。 3) スキャナー（PC 保存）の SMB 転送先が Macintosh の場合、指定した共有名にアクセス権が設定されていません。 **【処置】** 1. の場合は、設定した共有名が、転送先の PC に存在するか確認してください。 2. の場合は、次のどれかの方法で処置してください。 • 本機に設定してある共有名に、以下の禁則文字が含まれていないか確認する " / : | < > ; , * ? \ [ ] + = • 本機に設定してある共有名の先頭または末尾にスペースが含まれていないか確認する • 本機に設定してある共有名が、ピリオドだけで指定されていないか確認する 3. の場合は、転送先が Macintosh の場合、共有フォルダーのユーザーに対するアクセス権の設定変更が必要です。設定については、システム管理者に確認してください。共有フォルダーの設定を変更する手順を、Mac OS X 10.6 の場合を例に説明します。 転送で使用するために、専用のアカウントを作成することをお勧めします。アップルメニューから［システム設定］>［アカウント］を選択して表示される画面で設定できます。 1) アップルメニューから［システム設定］>［共有］を選択します。 2) ［ファイル共有］のチェックボックスにチェックが付いていることを確認します。 3) ［共有フォルダ］のリストで、対象となるフォルダーを選択します。 4) ［ユーザ］のリストで、対象となるユーザー名の右に表示されているアクセス権を［読み / 書き］に設定します。 **補足** • Mac OS X 10.6 以外の Mac OS での設定方法については、システム管理者に確認するか、Apple Japan 社の公式ホームページをご参照ください。

エラーコード	原因 / 処置
018-547	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバーログイン時に、ユーザー数が制限を超えました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 共有フォルダーの接続ユーザー数の制限を確認する • サーバーの同時使用ユーザー数が最大数を超えていないかを確認する
018-556	**【原因】** HTTP サーバーでエラーが発生しました。 **【処置】** スキャン文書送信先の HTTP サーバーに指定したドライブおよびディレクトリーにアクセスできるか確認してください。もう一度、同じ操作をし、それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
018-557	**【原因】** スキャン文書の送信先に指定したファイル名に禁則文字が使用されています。 **【処置】** 禁則文字を含まないファイル名を指定してください。
018-558	**【原因】** HTTP サーバーでエラーが発生しました。 **【処置】** スキャン文書送信先の HTTP サーバーに指定したディレクトリーおよびファイル名が存在するか確認してください。
018-559	**【原因】** HTTP サーバーでエラーが発生しました。 **【処置】** スキャン文書のファイル名が重複したときの処理が「上書き禁止」に設定されている場合は、「ジョブを中止 (保存しない)」以外に設定してください。
018-560	**【原因】** HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか • ログインユーザー名 • ログインパスワード • スキャン文書送信先の HTTP サーバー名 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーパス名
018-561	**【原因】** HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか • スキャン文書送信先の HTTP サーバー名 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーパス名
018-562 018-563	**【原因】** HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか • HTTP サーバー設定

エラーコード	原因 / 処置
018-564	**【原因】** HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • スキャン文書送信先のHTTPサーバーがDNSに登録されているか • DNS サーバーと接続されているか • DNS サーバーのアドレスが正しく設定されているか
018-565	**【原因】** HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • 本機に設定されているプロキシサーバー名が DNS に登録されているか • DNS サーバーと接続されているか • DNS サーバーのアドレスが正しく設定されているか
018-566	**【原因】** HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • ネットワークケーブルが接続されているか • スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか
018-567	**【原因】** HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか確認してください。
018-568	**【原因】** HTTP サーバーとの SSL/TLS 通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか • スキャン文書送信先の HTTP サーバーの SSL 設定が有効か • スキャン文書送信先の HTTP サーバー名 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーパス名
018-569	**【原因】** HTTP サーバーとの SSL/TLS 通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか • スキャン文書送信先の HTTP サーバーの SSL 証明書が本機に登録されているか • スキャン文書送信先の HTTP サーバーの SSL 証明書が正しいか スキャン文書送信先の HTTP サーバーに SSL 証明書が登録されていない場合は、本機の証明書検証を無効に設定してください。
018-570	**【原因】** HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか • 本機に SSL クライアント証明書が正しく設定されているか • スキャン文書送信先の HTTP サーバーのデバイス証明書が正しいか

エラーコード	原因 / 処置
018-571	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
018-572	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 指定したコンテキスト名が正しいか確認してください。
018-573	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 指定した接続名が正しいか確認してください。
018-574	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 指定したボリューム名が正しいか確認してください。
018-575	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 指定したユーザー名およびパスワードが正しいか確認してください。
018-576	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 指定したパス名が正しいか確認してください。
018-577	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 指定したファイル名が正しいか確認してください。
018-578	**【原因】** NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 1) ネットワークケーブルが接続されているか 2) NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか 3) サーバー名およびツリー名 また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。
018-579	**【原因】** NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 1) NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか 2) データが格納されているサーバー容量 また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。
018-580	**【原因】** NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 1) NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか 2) ボリューム名 また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。

エラーコード	原因 / 処置
018-581	**【原因】** NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 1) NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか 2) ディレクトリーパス名 また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。
018-582	**【原因】** NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 1) NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか 2) ユーザー権限 また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。
018-583	**【原因】** NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 1) NetWare サーバーのハードディスクの状態 2) NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。
018-584	**【原因】** NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか確認してください。 また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。
018-585	**【原因】** NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 1) NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか 2) ほかのユーザーの利用状況（使用中、書き込みロック中など） また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。
018-586	**【原因】** NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 1) NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか 2) ログインユーザー名 3) ログインパスワード 4) ボリューム名 5) サーバー名およびツリー名 6) コンテキスト名 また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。
018-587	**【原因】** ファイル名が重複しています。 スキャンファイル名が重複したときに、「上書き禁止」を設定しています。 **【処置】** ファイル名が重複したときの処理を、［ジョブを中止（ 保存しない ）］以外に設定してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-588	**【原因】** サーバーへ接続したあとに、ファイリングポリシー不正（追加選択時）が検知されました。 **【処置】** ファイル名が重複したときの処理に、［ファイルを追加］を設定している場合、ファイルフォーマットがマルチページでないことを確認してください。
018-589	**【原因】** NEXTNAME.DAT ファイルアクセスに失敗しました。 **【処置】** ファイル名が重複したときの処理に、［ファイルを追加］を設定している場合、NEXTNAME.DAT ファイルが正しいことを確認してください。
018-590	**【原因】** サーバー上で同名のファイルやフォルダーを検知しました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 1) 複数の機械から同じサーバーの同じフォルダーにアクセスしていない状態で、もう一度同じ操作をしてください。 2) 再発する場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
018-591	**【原因】** サーバーへ接続してサーバー内でファイル名 / フォルダー名を決定しているときに、ファイル名 / フォルダー名のサフィックスが制限値を超えました。 **【処置】** スキャンサーバーのファイル名 / 転送先フォルダーを変更してください。または、転送先フォルダー内のファイルを移動するか削除してください。
018-592	**【原因】** スキャンロックフォルダーの削除に失敗しました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 1) 既存の lock directory (*.LCK) が転送先に残っていた場合、手動で削除したあとに、再度ジョブを実行してください。 2) 指定した名前と同じ名前のフォルダーがあることを確認してください。
018-593	**【原因】** スキャンロックフォルダーの作成に失敗しました。 **【処置】** 既存の lock directory（*.LCK）が転送先に残っていた場合、手動で削除したあとに、もう一度同じ操作を実行してください。
018-595	**【原因】** LDAP サーバーのデータベース上に、現在使用中の IC カードと同じ情報を持つエントリーが複数見つかりました。 **【処置】** LDAP サーバーのデータベース上に、ユーザーのエントリーが同じ IC カード情報を持たないように修正してください。
018-596	**【原因】** LDAP サーバーの認証でエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を実施してください。 それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
018-700	**【原因】** 外部認証時にエラーが発生しました。 **【処置】** しばらくしてから、もう一度同じ操作を実施してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-701	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「1」（操作エラー）が返されました。 **【処置】** 本機の［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］の［LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定］が正しく設定されているか確認してください。または、サーバー側に問題が発生しています。ネットワーク管理者に確認してください。
018-702	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「2」（プロトコルエラー）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの設定を見直して再度実行してください。
018-703	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「3」（検索時間タイムアウト）が返されました。 **【処置】** アドレス帳に対して、検索条件 / 検索開始位置の見直しなど、検索対象を絞って再度検索してください。 それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-704	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「4」（検索結果が多すぎて処理できない）が返されました。 **【処置】** アドレス帳に対して、検索条件 / 検索開始位置の見直しなど、検索対象を絞って再度検索してください。 それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-705	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「5」（比較要求の結果は偽）が返されました。 **【処置】** 指定した内容と異なる結果が出ている可能性があります。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-706	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「6」（比較要求の結果は真）が返されました。 **【処置】** 指定した内容どおりの結果が出ています。問題は発生していません。

エラーコード	原因 / 処置
018-707	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「7」（指定された認証方式はサポートしていない）が返されました。 **【処置】** 指定された認証方式に対応していません。認証方式を変更してください。ネットワーク管理者に相談し、認証設定を見直してください。
018-708	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「8」（強力な認証が必要です）が返されました。 **【処置】** 認証設定に誤りがないか確認してください。ネットワーク管理者に相談し、現在よりも認証設定を強化して再度実行してください。
018-709	**【原因】** 外部アクセス中に、エラーが発生しました。 **【処置】** 環境に応じて、次のどれかの方法で処置してください。 IPv4 環境の場合 • 本機の IPv4 アドレスを確認する • ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認する • DHCP サーバーのアドレスを確認する IPv6 環境の場合 • 本機の IPv6 アドレスに IPv6 ルーターから配布されるグローバルアドレスが割り当てられているか確認する • ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認する • IPv6 ルーターが正しく設定されているか確認する
018-710	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「10」（referral（紹介、参照）です）が返されました。 **【処置】** 指定された検索範囲に何も登録がありません。ネットワーク管理者に相談し、認証設定の状態を確認してください。
018-711	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「11」（アドミン制限を超えた）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、サーバーの稼働状態を確認してください。
018-712	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「12」（拡張機能が使用できない）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、サーバーの稼働状態を確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-713	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「13」（機密性が必要）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、サーバーの稼働状態を確認してください。
018-714	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「14」（SASL バインド処理中）が返されました。 **【処置】** しばらく待ってからもう一度操作してください。それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-715	**【原因】** Kerberos サーバーの認証プロトコルエラーです。Kerberos サーバーに、本機で使用できる認証方式と一致するものがない、または本機に、Kerberos サーバーで使用できる認証方式と一致するものがありません。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 1）Kerberos サーバーの認証方式を設定しなおしてください。 2）本機の FIPS 認証モードを解除してください。 それでも状態が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
018-716	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「16」（要求された属性は存在しない）が返されました。 **【処置】** Attribute（属性）の問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-717	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「17」（指定された属性は未定義）が返されました。 **【処置】** Attribute（属性）の問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-718	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「18」（不適合な組み合わせ）が返されました。 **【処置】** Attribute（属性）の問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-719	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「19」（制約違反）が返されました。 **【処置】** Attribute（属性）の問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-720	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「20」（指定された属性は、すでに存在する）が返されました。 【処置】 Attribute（属性）の問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-721	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「21」（指定された属性値のシンタックスが間違っている）が返されました。 【処置】 Attribute（属性）の問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-722 018-738	【原因】 Google Cloud Print との通信で、ネットワークエラーが発生しました。 【処置】 ネットワークケーブルが正しく接続されているか、使用環境の設定が正しいかを確認してください。
018-723	【原因】 Google Cloud Print との通信で、証明書にエラーがありました。 【処置】 正しいルート CA 証明書が機械に登録されているか、証明書検証の設定が正しいかを確認してください。
018-724	【原因】 Google Cloud Print との通信で、SSL 通信エラーが発生しました。 【処置】 SSL の設定が正しいかを確認してください。
018-725	【原因】 Kerberos サーバーに設定されたユーザーのパスワードの使用期限が切れています。 【処置】 パスワードの使用期限を延長してください。
018-726	【原因】 IC カード内の上位の CA 証明書が本機に登録されていません。 【処置】 IC カード内の上位の CA 証明書を本機に登録してください。
018-727	【原因】 Kerberos サーバーに認証されませんでした。 【処置】 IC カード内の証明書を確認し、無効または失効している場合は、証明書を更新してください。また、サーバー側で使用禁止となっていないか確認してください。
018-728	【原因】 Kerberos サーバーに認証されませんでした。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • KDC 証明書のルート CA 証明書が登録されていない場合は、ルート CA 証明書を登録する • KDC 証明書が失効している場合は、サーバーの KDC 側の証明書を更新する • 本機に設定した Kerberos サーバーのアドレスと、Kerberos サーバーの KDC 証明書に記載されたアドレスが一致していることを確認する
018-729	【原因】 Google Cloud Print との接続がタイムアウトになりました。 【処置】 しばらく待ってから、もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、ネットワークケーブルが正しく接続されているか、使用環境の設定が正しいかを確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-730	**【原因】** Google Cloud Print との通信で、ネットワークエラーが発生しました。 **【処置】** ネットワークケーブルが正しく接続されているか、使用環境の設定が正しいかを確認してください。それでも状態が改善されないときは、内部エラーが発生している可能性があります。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
018-731	**【原因】** ハードディスクの容量が不足しているため、ジョブを中止しました。 **【処置】** ハードディスクの空き容量を確認し、不要ファイルを削除してください。処理中のジョブはすべて実行してから、もう一度操作してください。
018-732	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「32」（該当するオブジェクトがない）が返されました。 **【処置】** 該当するメールアドレスはありません。 入力したメールアドレスを見直して修正するか、LDAP サーバーに登録してあるメールアドレスを確認してください。
018-733	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「33」（エイリアスが間違っている）が返されました。 **【処置】** Name（ネーム）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-734	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「34」（DN の形式が間違っている）が返されました。 **【処置】** Name（ネーム）に関する問題が発生しています。ユーザー名とパスワードを再確認して、不正な検索パスワード名を解除してください。改善されないときは、ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの認証設定や状態を確認してください。
018-735	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「35」（オブジェクトが終端である）が返されました。 **【処置】** Name（ネーム）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-736	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「36」（エイリアスの参照ができなかった）が返されました。 **【処置】** Name（ネーム）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-737 018-739 018-741	**【原因】** 内部エラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
018-740	**【原因】** Google Cloud Print との通信で、証明書にエラーがありました。 **【処置】** 正しいルート CA 証明書が機械に登録されているか、証明書検証の設定が正しいかを確認してください。
018-743 018-745	**【原因】** Google Cloud Print との通信で、プロキシ接続のエラーが発生しました。 **【処置】** プロキシサーバーの設定が正しいかを確認してください。
018-744 018-746	**【原因】** Google Cloud Print との通信で、DNS による名前の解決に失敗しました。 **【処置】** DNS の設定が正しいかを確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-747	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送時に、転送先の SMB サーバーが見つかりませんでした。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • ネットワークケーブルの接続を確認する。 • 転送先アドレスをIPアドレス指定している場合、IPアドレスが正しいか確認する。 • SMB 関連ポート（*1）がブロックされていないかシステム管理者に確認する。(転送先のサーバー、および複合機とサーバーの間に存在するルータなどでポートがブロックされていないかを確認する。) • <SMB サーバー > サーバー上のウイルススキャンソフト、ファイアーウォールソフトなどで SMB 関連ポート（*1）がブロックされていないことを確認する。 • < 名前解決サーバー > サーバー名が 15 文字以下で、サブネットを越える通信の場合、WINS サーバーの設定を確認し、サーバー名のアドレス解決が正しくできるかを確認する。 • <Windows ネット環境 > Windows 環境の場合、意図しないマスターブラウザー (*2) が立ちあがっていないかを確認する。意図しない PC がマスターブラウザーになると、存在するはずのサーバーが見えなくなり、本エラーとなる場合があります。 問題がなければ、別の PC から同じユーザーで SMB サーバーにログインし、SMB サーバーの同一保存場所でファイル書き込みができるか確認してください。書き込みができる場合、本機からもう一度同じ操作を実施してください。状況が改善されない場合は、ご使用のサーバー情報（ メーカー / 機種名、OS バージョン ）をお調べの上、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。 **補足** • (*1) SMB 関連ポートとは、次の通りです。 ファイル共有サービス (137 番ポート /NetBIOS Name Service(UDP)、138 番ポート /NetBIOS Datagram Service(UDP)、139 番ポート / NetBIOS Session Service(TCP)) ダイレクトホスティングサービス (445 番ポート (TCP)) • (*2) マスターブラウザーは、Windows ネットワークでコンピューターの一覧をブラウズリストという情報として管理しています。通常はドメインコントローラーがマスターブラウザーです。
018-748	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「48」（認証拒否）が返されました。 **【処置】** セキュリティーに関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの認証設定を確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-749	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「49」（指定された認証証明書は無効）が返されました。 認証に使うユーザー名とパスワードが不正なまま、アドレス検索が実施されました。 **【処置】** セキュリティーに関する問題が発生しています。認証に使うユーザー名とパスワードを再確認して不正な検索ログイン名を解除してください。改善されないときは、ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの認証設定を確認してください。
018-750	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「50」（ユーザーアクセス権がない）が返されました。 **【処置】** セキュリティーに関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーのアクセス権を確認してください。
018-751	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「51」（ビジー）が返されました。 **【処置】** サービスに関する問題が発生しています。しばらく待ってからもう一度操作してください。それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-752	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「52」（処理不可能）が返されました。 **【処置】** サービスに関する問題が発生しています。しばらく待ってからもう一度操作してください。それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-753	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「53」（実行拒否）が返されました。 **【処置】** サービスに関する問題が発生しています。しばらく待ってからもう一度操作してください。それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-754	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「54」（ループ検出）が返されました。 **【処置】** サービスに関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーのサービス状態を確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-755	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送時に、転送先に指定している SMB サーバーから、本機への応答がありません。 **【処置】** 転送先のサーバー、および複合機とサーバーの間に存在するルータや転送先のサーバー上のウイルススキャンソフト、ファイアーウォールソフトなどで139 番ポート（TCP）、445 番ポート（TCP）による通信がブロックされていないか確認してください。 複数のゲートウェイが存在する環境で、サブネット越えの接続ができない場合は、本機に設定されているゲートウェイアドレスが正しいか確認してください。 問題がなければ、別の PC から同じユーザーで SMB サーバーにログインし、SMB サーバーの同一保存場所でファイル書き込みができるか確認してください。書き込みができる場合、本機からもう一度同じ操作を実施してください。状況が改善されない場合は、ご使用のサーバー情報（ メーカー / 機種名、OS バージョン ）をお調べの上、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
018-756	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 認証時に、規定時間内にサーバーから応答を受信できませんでした。 **【処置】** 転送先のサーバーがActiveDirectoryのドメインに所属している場合、転送先のサーバーとドメインコントローラ間の通信に遅延が発生していないか次の方法で確認してください。 • PC クライアントから転送先のサーバーにアクセスして時間がかかっていないか確認する • 時間がかかっている場合はシステム管理者に相談してください。
018-757	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送先に指定している SMB サーバー名の名前解決に失敗しました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 本機に設定してある転送先サーバー名を FQDN 文字列(例: mypc01.fuji0.co.jp）で入力している場合、本機のネットワーク設定で、DNS サーバーアドレスが正しく設定されていることを確認する • DNS サーバーとの接続に問題がない場合、本機に設定してある転送先サーバー名が、DNS サーバーに登録されていることを確認する
018-758	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、指定されたスキャン画像の保存場所またはファイル名に問題があるか、または、指定された保存場所がサーバー上に存在しません。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 保存場所が正しいか確認する • 指定したファイル名が SMB サーバー上に作成可能なファイル名かを確認する

エラーコード	原因 / 処置
018-759	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、指定されたスキャン画像の保存場所またはファイル名に禁則文字が使用されています。 **【処置】** 本機に設定してあるスキャン画像の保存場所またはファイル名について以下の事項を確認してください。 • 保存場所の名称に、以下の禁則文字が含まれていないか確認する “ / : | < > ; , * ?　の 10 文字 • ファイル名に、以下の禁則文字が含まれていないか確認する “ / : | < > ; , * ? \ の 11 文字 • 文字列の先頭または末尾にスペースが含まれていないか確認する • 文字列の先頭または末尾にピリオドが指定されていないか確認する 機種依存文字を使用しないことをお勧めします。Shift-JIS に -（emdash）と～（波ダッシュ）はないため、これらも禁則文字となります。 MacOS をご利用場合、さらに禁則文字が増えます。 問題がなければ、別の PC から同じユーザーで SMB サーバーにログインし、SMB サーバーの同一保存場所でファイル書き込みができるか確認してください。書き込みができる場合、本機からもう一度同じ操作を実施してください。状況が改善されない場合は、ご使用のサーバー情報（メーカー / 機種名、OS バージョン）をお調べの上、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
018-760	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、指定された保存場所は、分散ファイルシステム（DFS）設定のため、別の共有フォルダーにリンクされています。 **【処置】** システム管理者に分散ファイルシステム（DFS）の設定を確認する。確認方法は次のとおりです。 1) SMB サーバー上で、［スタート］メニュー→［すべてのプログラム］→［管理ツール］→［分散ファイルシステム］を選択する。 2) ［分散ファイルシステム］ウインドウの左枠から指定した保存場所を選択し、ウインドウの右枠に表示される［ターゲット］情報を確認する。 3) 確認した情報に基づいて、SMB サーバー、共有名および保存場所を直接指定する。
018-761	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、保存先 PC 上でメモリー不足が発生しました。 **【処置】** 保存先 PC 上でメモリー不足が発生するような使用状況が発生していないか確認ください。空きメモリーが少ない場合、使用していないアプリケーションを終了させてください。

エラーコード	原因 / 処置
018-762	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、保存先 PC からの応答に時間がかかりタイムアウトが発生しました。 **【処置】** 保存先の PC でウイルススキャンソフトが動作しているか確認ください。ウイルススキャンソフトによっては PC からの応答に時間がかかる場合があります。ウイルススキャンソフトが動作している場合、転送ファイルサイズが小さくなるように、原稿枚数を少なくしてください。
018-763	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送時、本機内で文字コード変換処理に失敗しました。 **【処置】** サーバー名、共有名、パス名などに㈱、丸付き数字①、ローマ数字Ⅳなどの機種依存文字が含まれていないか確認してください。機種依存文字が含まれている場合は、それが含まれない名前に変更してください。
018-764	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「64」（ネーミング違反）が返されました。 **【処置】** Update（更新）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-765	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「65」（オブジェクトクラス指定誤り）が返されました。 **【処置】** Update（更新）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-766	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「66」（終端以外のエントリーでは実行できない）が返されました。 **【処置】** Update（更新）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-767	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「67」（RDN での実行不可）が返されました。 **【処置】** Update（更新）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-768	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「68」（指定されたエントリーは、すでに存在する）が返されました。 **【処置】** Update（更新）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-769	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「69」（オブジェクトクラスの変更不可）が返されました。 **【処置】** Update（更新）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-770	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「70」（検索結果が大きすぎる）が返されました。 **【処置】** アドレス帳に対して、検索条件 / 検索開始位置の見直しなど、検索対象を絞って再度検索してください。 それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-771	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「71」（複数の DSA に影響がある）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-772	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、設定した共有名が転送先サーバー上に存在しません。 **【処置】** 本機に設定した共有名が、転送先の PC に存在するか確認してください。転送先の PC に共有名が存在しなかった場合は、新たな共有名を作成するか、既存の共有名を設定してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-773	**【原因】** 次の原因が考えられます。 1) スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、転送先に設定した共有名に、禁則文字が使用されています。 2) スキャナー（PC 保存）の SMB 転送先が Macintosh の場合、指定した共有名にアクセス権が設定されていません。 **【処置】** 1. については、次のどれかの方法で処置してください。 • 本機に設定してある共有名に、以下の禁則文字が含まれていないか確認する / : | < > ; , * ? \ [ ] + = • 本機に設定してある共有名の先頭または末尾にスペースが含まれていないか確認する • 本機に設定してある共有名が、ピリオドだけで指定されていないか確認する 2. については、共有フォルダーのユーザーに対するアクセス権の設定変更が必要です。設定については、システム管理者に確認してください。 共有フォルダーの設定を変更する手順を、Mac OS X 10.6 の場合を例に説明します。 転送で使用するために、専用のアカウントを作成することをお勧めします。アップルメニューから［システム設定］>［アカウント］を選択して表示される画面で設定できます。 1) アップルメニューから［システム設定］>［共有］を選択します。 2) ［ファイル共有］のチェックボックスにチェックが付いていることを確認します。 3) ［共有フォルダ］のリストで、対象となるフォルダーを選択します。 4) ［ユーザー］のリストで、対象となるユーザー名の右に表示されているアクセス権を［読み / 書き］に設定します。 **補足** • Mac OS X 10.6 以外の Mac OS での設定方法については、システム管理者に確認するか、Apple Japan 社の公式ホームページをご参照ください。
018-780	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「80」（未知のエラー発生）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-781	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーと接続できません。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • ネットワークケーブルが接続されているか確認する • ネットワークケーブルが接続されている場合は、要求先のサーバーの起動状態確認する • ［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］の［LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定］で、サーバー名称が正しいか確認する

エラーコード	原因 / 処置
018-782	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「82」（プログラムエラー、または SASL 認証に関するエラー）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-783	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「83」（送信メッセージエンコードエラー）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-784	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「84」（受信メッセージデコードエラー）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-785	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「85」（検索時間タイムアウト）が返されました。 **【処置】** アドレス帳に対して、検索条件 / 検索開始位置の見直しなど、検索対象を絞って再度検索してください。 それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-786	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「86」（未知の認証方式が指定された）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-787	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「87」（検索フィルターの記述に誤り）が返されました。 **【処置】** アドレス帳に対して、検索条件を確認してください。 それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-788	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「88」（指示がキャンセルされた）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-789	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「89」（不正なパラメーターが渡された）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-790	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「90」（メモリー不足）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-791	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「91」（サーバーと接続不可）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-792	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「92」（機能未サポート）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-793	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「93」（結果が返されない）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-794	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「94」（結果がもうない）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-795	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「95」（結果が未だある）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-796	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「96」（クライアントのループを検出）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
018-797	**【原因】** アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「97」（参照の最大ホップ数を超えた）が返されました。 **【処置】** ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。

"021-001" - "022-999"

エラーコード	原因 / 処置
021-210 021-211 021-212	**【原因】** IC カードリーダーにエラーが発生しました。 **【処置】** IC カードリーダーの接続を確認して、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、IC カードリーダーが故障している可能性があります。壊れていない IC カードリーダーを取り付けて、もう一度電源を入れなおしてください。
021-213	**【原因】** インターネットを使用する関連商品の単価テーブルの設定に問題があります。 **【処置】** 機械管理者が CentreWare Internet Services を使用し、単価テーブルを読み出して、修正してください。1 ～ 9,999,999 の範囲で任意の値を設定して、書き込みを行ってください。
021-214	**【原因】** USB メモリーとの暗号通信中にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れ直したあとに、もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-215	**【原因】** 接続された課金集計機器と本機で設定した課金集計機器が異なります。 **【処置】** 本機の設定を修正するか、本機の設定にあった機器を取り付けて、電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れ直してください。
021-360 021-361	**【原因】** エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-401	**【原因】** 設定した数より多い IC カードリーダーなどの認証機器が差し込まれました。 **【処置】** 差し込んだ認証機器を抜いてください。

エラーコード	原因 / 処置
021-402	**【原因】** プロキシサーバー名のアドレス解決に失敗しています。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-403	**【原因】** EP 運用センター、または EP 通信集約サーバーソフトウェアのアドレス解決に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-404	**【原因】** サーバーの電源が切れていた等の理由により、サーバーまたはプロキシサーバーに接続できませんでした。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 • EP プロキシサーバー設定（BB-Direct 構成の場合） 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。 また EP 通信集約サーバー構成で、EP 通信集約サーバーの FQDN が変更されていた場合も、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
021-405	**【原因】** 外部サーバーとの SSL 通信でエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-406	**【原因】** 外部サーバーの SSL 証明書が正しくありません。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-407	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でプロキシサーバーの認証に失敗しました。(HTTPステータスコード407を受信) **【処置】** 次の項目を確認してください。 • EP プロキシサーバーの認証ユーザーを確認する • EP プロキシサーバーの認証パスワードを確認する 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-408	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信で通信タイムアウトが発生しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 • EP プロキシサーバー設定（BB-Direct 構成の場合） 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。 また EP 通信集約サーバー構成で、EP 通信集約サーバーの FQDN が変更されていた場合も、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
021-409 021-542 021-543	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-410 021-411	**【原因】** インターネットを使用するEPシステムとの通信で認証局(CA)との通信時 (EP 証明書取得時) に通信エラーが発生しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 • EP プロキシサーバー設定（BB-Direct 構成の場合） 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。 また EP 通信集約サーバー構成で、EP 通信集約サーバーのFQDN が変更されていた場合も、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-412	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。EP プロキシサーバー名のアドレスに問題があります。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 • EP プロキシサーバー URL 設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくは DNS サーバー障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
021-413	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくは DNS サーバー障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-414	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。EP クライアント証明書発行局または EP プロキシサーバーから応答を受信できませんでした。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 • EP プロキシサーバー設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-415	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの SSL/TLS 通信でエラーが発生しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 • EP プロキシサーバー設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくは DNS サーバー障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
021-416	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 • EP プロキシサーバー設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-417	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信で EP プロキシサーバーの認証に失敗しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • EP プロキシサーバー URL 設定 • EP プロキシサーバーの認証ユーザー • EP プロキシサーバーの認証パスワード 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-418	**【原因】** プロキシ設定ファイルの書式にエラーがありました。 **【処置】** HTTP サーバーに登録されているプロキシ設定ファイルの書式に不正がある可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 プロキシ設定ファイルが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-419	**【原因】** EP システムとの通信に使用する、プロキシ設定ファイルの書式にエラーがありました。 **【処置】** HTTP サーバーに登録されているプロキシ設定ファイルの書式に不正がある可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 プロキシ設定ファイルが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
021-420	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信で、プロキシ設定ファイル取得通信時に通信タイムアウトが発生しました。このためプロキシ設定ファイルを取得できませんでした。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続を確認する • デフォルトゲートウェイ設定を確認する • サブネットマスク設定を確認する • CentreWare Internet ServicesのEPプロキシサーバー設定画面を確認する • プロキシ設定ファイルが登録されている HTTP プロキシーサーバーの稼働状況を確認する 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-421	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信で、プロキシ設定ファイルの取得通信時にエラーが発生しました。このためプロキシ設定ファイルを取得できませんでした。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続を確認する • DNS サーバーアドレス設定を確認する • デフォルトゲートウェイ設定を確認する • CentreWare Internet ServicesのEPプロキシサーバー設定画面を確認する • プロキシ設定ファイルが登録されている HTTP プロキシーサーバーの稼働状況を確認する 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-422	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信で、プロキシ設定ファイルが見つかりませんでした。 **【処置】** CentreWare Internet ServicesのEPプロキシサーバー設定画面を確認してください。設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、HTTP サーバーにプロキシ設定ファイルが登録されていない可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 プロキシ設定ファイルが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
021-423	**【原因】** プロキシ設定ファイルのサイズが大きすぎたため、プロキシ設定ファイルを取得できませんでした。 **【処置】** CentreWare Internet ServicesのEPプロキシサーバー設定画面を確認してください。設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、プロキシ設定ファイルのサイズを確認してください。64KB を超えている場合は、この大きさに収まるように修正します。 プロキシ設定ファイルが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-424	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信で、プロキシサーバーと通信するための、プロキシ設定ファイルの URL 情報が間違っています。 **【処置】** CentreWare Internet ServicesのEPプロキシサーバー設定画面を確認してください。設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク管理者に確認し、プロキシ設定ファイルの URL が正しいか確認する。または下記の通り、DHCP サーバーか DNS サーバーのプロキシ設定ファイルの URL 情報を確認します。 • DHCP オプションが 252 になっているか確認する • "wpad.(ドメイン名)" ホストの SRV レコードが正しいか確認する 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-425	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信で、プロキシ設定ファイルの URL 情報(CURL)を取得する通信時に DHCP サーバー、もしくは DNS サーバーと通信タイムアウトしました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続を確認する • DNS サーバーアドレス設定を確認する • デフォルトゲートウェイ設定を確認する • EP プロキシサーバー設定（CURL）を確認する • プロキシ設定ファイルのURL情報を登録したDHCPまたはDNS サーバーの稼働状況を確認する 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
021-426	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でプロキシ設定ファイル URL 情報（CURL）を取得するための通信時に DHCP サーバー、もしくは DNS サーバー上に URL 情報（CURL）が見つかりませんでした。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • EP プロキシサーバー設定を確認する • DHCP サーバー、もしくは DNS サーバーにプロキシ設定ファイルの URL 情報が正しく登録されているかを確認する 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-427 021-565	**【原因】** 4G/3Gnet-BOX を使用した LTE/3G 通信で、接続がタイムアウトになりました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-428 021-566	**【原因】** 4G/3Gnet-BOX を使用した LTE/3G 通信で、電波状態が圏外になりました。 **【処置】** アンテナが倒れている場合は、垂直に立て直してください。それでも状態が改善されないときは、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-429 021-567	**【原因】** 4G/3Gnet-BOX に挿入した SIM カードにエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-430 021-568	**【原因】** 4G/3Gnet-BOX との時刻同期に失敗しました。 **【処置】** 本機の時計を正しい時刻に合わせてください。それでも状態が改善されないときは、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
021-431 021-569	**【原因】** 4G/3Gnet-BOX との USB 接続に失敗しました。 **【処置】** 4G/3Gnet-BOX の USB ケーブルが抜けていないか確認し、抜けている場合は正しく挿し直してください。それでも状態が改善されないときは、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-432 021-570	**【原因】** 4G/3Gnet-BOX を使用した LTE/3G 通信で、本機にエラーが発生し、通信が開始できませんでした。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-433 021-436 021-571 021-575 021-579	**【原因】** 4G/3Gnet-BOX を使用した LTE/3G 通信で、本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-434 021-573	**【原因】** 4G/3Gnet-BOX にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-435 021-574	**【原因】** 4G/3Gnet-BOX を使用した LTE/3G 通信で、4G/3Gnet-BOX のリセットと本機の再起動が必要なエラーを検出したため、通信が開始できませんでした。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-437 021-576	**【原因】** 4G/3Gnet-BOX を使用した LTE/3G 通信で、DNS サーバーの通信エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
021-438 021-577	**【原因】** 4G/3Gnet-BOX を使用した LTE/3G 通信で、EP サーバーの名前解決に失敗しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-439 021-578	**【原因】** 4G/3Gnet-BOX を使用した LTE/3G 通信で、EP クライアント証明書発行局の名前解決に失敗しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-440 021-580	**【原因】** 4G/3Gnet-BOX を使用した LTE/3G 通信で、本機が通信不可状態であることを検出しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-500	**【原因】** ファクス送信の課金機能が有効になっている場合に、次の操作が行われました。 • ファクス送信ジョブの動作中に、ほかの課金対象ジョブを起動 • ほかの課金対象ジョブを動作中に、ファクス送信ジョブを起動 **【処置】** 処理中のジョブが終わってから、次のジョブを起動してください。
021-501	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信に失敗しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-502	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。EP プロキシサーバー名のアドレスに問題があります。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
021-503	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。EP プロキシサーバー名のアドレスに問題があります。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくは DNS サーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-504	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-505	**【原因】** EP サーバーとの SSL/TLS 通信に失敗しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-506	**【原因】** EP サーバーのサーバーの SSL 証明書が正しくありません。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
021-507	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • EP プロキシサーバーの認証ユーザー • EP プロキシサーバーの認証パスワード 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-508	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-509	**【原因】** EP サーバーとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-510	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** EP システムの契約期間を確認してください。 EP システムの契約期間中にこのエラーコードが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-511 021-512 021-513 021-514	**【原因】** EP サーバーで、本機がすでに設定されています。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
021-515 021-516	**【原因】** EP サーバーでの本機の設定が正しくありません。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-517 021-518 021-519 021-530 021-531	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** しばらく待ってから、もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-520 021-521 021-522	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 BB-Direct 構成の場合は、次の確認をしてください。 • EP プロキシサーバー設定 これらの設定を確認しても状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくは DNS サーバー障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-523	**【原因】** EP サーバーとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** SOAP ポートを起動して、電源を切って、入れ直してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-524 021-525 021-526 021-527 021-528	**【原因】** EP サーバーとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-529	**【原因】** インターネットを使用する EP システムにソフトウェアバージョンアップの問い合わせをした結果、すでに最新バージョンのソフトウェアになっています。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
021-532 021-533 021-534 021-535	**【原因】** インターネットを使用する EP システムにソフトウェアバージョンアップの問い合わせをした結果、ソフトウェアバージョンアップができません。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-536	**【原因】** ソフトウェアに最新の設定が反映されていません。 **【処置】** 本機を再起動してソフトウェアを最新の状態にしてから、もう一度同じ操作を実施してください。
021-538	**【原因】** 操作パネルからソフトウェアバージョンアップを指示しましたが、すでに予約されていたバージョンアップの処理中だったため、実行できませんでした。 **【処置】** 機械管理者に相談してください。予約者が機械管理者でない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-539	**【原因】** ソフトウェアバージョンアップの予約日時に本機を使用中だったため、バージョンアップを実行できませんでした。 **【処置】** 機械管理者に相談してください。予約者が機械管理者でない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-540	**【原因】** ソフトウェア更新ファイルのダウンロード中に複合機の電源が切られたため、ソフトウェアの更新処理に失敗しました。 **【処置】** 必要に応じ、再度操作してください。
021-541	**【原因】** 複合機の動作設定不正のため、ソフトウェアの更新機能を実行できませんでした。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-545	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** EP システムの契約期間を確認してください。EP システムの契約期間中にこのエラーコードが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-572	**【原因】** 4G/3Gnet-BOX を使用した LTE/3G 通信で、通信ライブラリーにエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
021-581	**【原因】** 4G/3Gnet-BOX　を使用した LTE/3G　通信で、Remote Download サーバーへの名前解決に失敗しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-582	**【原因】** ソフトウェアのバージョンアップが、何らかの一括設定 / 取得処理と干渉することを検知しました。 **【処置】** ［保守］画面を閉じてから、本機の画面を操作せずに最大 5 分程度待ち、一括設定 / 取得処理が完了してから、再度ソフトウェアのバージョンアップを行ってください。 状態が改善されないときは、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-700	**【原因】** USB ケーブルが外れているか、USB インターフェイスが壊れている可能性があります。 **【処置】** USB ケーブルが接続されているか確認して、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-701	**【原因】** USB インターフェイスにエラーが発生しました。 **【処置】** しばらく待ってから、もう一度操作するか、USB ケーブルが接続されているか確認して、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
021-731	**【原因】** 関連商品を使用しているとき、カラーの利用が制限されている状態でカラーコピーをしようとしました。 **【処置】** カラーの使用を許可するか、利用制限されていないカードを挿入してください。
021-732	**【原因】** カード抜け、料金不足（電子マネーを含む）または、度数不足になっています。あるいは認証されていません。 **【処置】** カードを挿入または料金（電子マネー）を入れて、料金 / 度数の不足がないようにしてください。または認証（例えば IC カードかパネルにより）してください。 **補足** • エラーコードが表示されたときは、本機内に残っているプリントデータや、本機のメモリー上に蓄えられた情報は保証されません。

エラーコード	原因 / 処置
021-733	**【原因】** カラーの利用が禁止されているか、カラー枚数の上限値に達しています。 **【処置】** カラーの利用を許可するか、上限値に達していないカードを使用してください。

"023-001" - "025-999"

エラーコード	原因 / 処置
023-500 024-316 024-317 024-318 024-319 024-320 024-321 024-340 024-341 024-342 024-343 024-345 024-346 024-347 024-348 024-349 024-350 024-351 024-352 024-353	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
024-354 024-355 024-356 024-357 024-358 024-359 024-360 024-361 024-362 024-363 024-364 024-365 024-366 024-367 024-368 024-370 024-371 024-372 024-373 024-375	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
024-376	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
024-700	**【原因】** オプション機能を利用するために必要なメモリー容量、またはハードディスクが装着されていません。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
024-701	**【原因】** 指定した用紙と組み合わせができない排出面設定になっています。 **【処置】** 組み合わせ可能な用紙と排出面設定を指定してください。
024-702	**【原因】** [プリンター設定] で [紙づまり発生時のプリント処理] を [プリントを中止する] に設定しているときに、紙づまりが発生しました。 **【処置】** 詰まった用紙を取り除いて、もう一度プリント指示をしてください。
024-703	**【原因】** 製本可能な枚数の上限を超えているためプリントできませんでした。 **【処置】** 坪量の少ない用紙に変更してください。または、製本の作成を解除してください。
024-704	**【原因】** Denshi-Pen からのプリント指示でエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
024-705	**【原因】** 指定された強制アノテーションのテンプレートが本機内にありません。 **【処置】** 親展ボックスから文書を削除し、プリンタードライバーから [ボックス保存] を指定して、再度蓄積してください。
024-706	**【原因】** [強制複製管理 - クライアントプリント] または [強制ペーパーセキュリティー] > [クライアントプリント] が [する] に設定された状態で、Denshi-Pen から指示された文書を印刷しようとしました。 **【処置】** 仕様設定の [認証 / セキュリティ設定] で、[強制印字の一時解除] を [する] に設定してください。
024-742 024-775	**【原因】** プリントオプションで製本を指定したジョブのプリント枚数が、製本を作成可能な枚数を超えました。 **【処置】** プリントオプションで、製本を作成可能な枚数ごとに分冊するか、製本の作成を解除してください。

エラーコード	原因 / 処置
024-746	**【原因】** 指定した紙質と組み合わせできない機能（用紙サイズ、用紙トレイ、排出トレイ、両面プリントのどれか）が指定されました。 **【処置】** プリントデータを確認してください。
024-747	**【原因】** プリンターパラメーターの組み合わせが不正です。原稿サイズ、用紙サイズ、給紙トレイ、両面印刷、排出トレイなどで、組み合わせできない機能が指定されています。 **【処置】** プリントデータを確認して、もう一度プリントを指示してください。
024-748	**【原因】** アノテーションで設定した［ページ桁数］と、［開始番号］で設定したページの桁数が合っていません。 **【処置】** ［ページ桁数］に、［開始番号］で指定したページの桁数を設定するか、［自動］を選択してください。
025-596 025-597	**【原因】** ハードディスクにエラーが発生しました。 **【処置】** ハードディスクを交換する必要があります。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"026-001" - "026-999"

エラーコード	原因 / 処置
026-400	**【原因】** USB ホストポートに 3 つ以上の機器が接続されています。 **【処置】** 接続機器が最大 2 つになるように、取り外してください。それでも状態が改善されないときは、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。
026-700	**【原因】** アドレス帳の操作で、本機が対応してないプロトコルを LDAP サーバーから受信しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
026-701	**【原因】** 本機のアドレス帳への問い合わせ数が、本機の処理能力を超えました。 **【処置】** しばらく待ってから、アドレス帳の操作をしてください。 アドレス帳の操作が 1 件だけの場合は、本機のソフトウェアに不具合があります。 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
026-702	**【原因】** アドレス帳の操作で、LDAP サーバーから本機への通信数が、本機の処理能力を超えました。 **【処置】** しばらく待ってから、アドレス帳の操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
026-704	**【原因】** DocuWorks 文書の処理中にエラーが発生しました。 **【処置】** DocuWorks Viewer からプリンタードライバー（ART EX、PCL など）を使用して印刷してください。
026-705	**【原因】** メモリー容量が不足したため、DocuWorks 文書の処理ができません。 **【処置】** 印刷モードが「高画質」になっている場合には、「標準」に、「標準」の場合には「高速」に変更してください。それでも発生する場合には、メモリーを増設してください。 最大まで増設しても発生する場合は、DocuWorks Viewer からプリンタードライバー（ART EX、PCL など）を使用して印刷してください。
026-706	**【原因】** 印刷禁止指定された DocuWorks 文書を処理しようとしました。 **【処置】** DocuWorks Viewer を使用して印刷禁止指定を解除して、再プリントしてください。
026-707	**【原因】** パスワードで保護されている DocuWorks 文書を処理する場合で、パスワードが一致しませんでした。 **【処置】** 正しいパスワードを ContentsBridge で指定してください。
026-708	**【原因】** スキャナー（URL 送信）で、1 つのジョブで蓄積できるスキャンデータサイズの上限を超えました。 **【処置】** 次のいずれかを実行してください。 1) スキャンパラメーターの解像度（スキャン画質）を落として再度実行する。 2) スキャンパラメーターの倍率で画像を縮小して再度実行する。（A3 → A4 など） 3) ［URL 送信の最大蓄積サイズ］を小さい値にしている場合、大きな値に変更する。
026-709	**【原因】** スキャナー（URL 送信）で、スキャンデータ蓄積で利用できるハードディスクの容量が不足しています。 **【処置】** 時間（1 日程度）をおいて、文書の自動削除により空き容量ができたあと、再度実行してください。
026-710	**【原因】** 本機が対応していない暗号方式で暗号化された S/MIME メールを受信しました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • メール送信者に暗号方式（3DES）で暗号化したメールの送信を依頼してください。 • 本機の FIPS140 認証モードを解除してください。

エラーコード	原因 / 処置
026-711	**【原因】** スキャンで、マルチページファイルの上限サイズを超えました。 **【処置】** 次のいずれかを実行してください。 1)スキャンパラメーターの解像度（スキャン画質）を落として再度実行する。 2)原稿枚数を減らして再度実行する。 上限サイズは、TIFF、XPS、PDF は 2GB、XDW は 1GB です。 **補足** •「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
026-712	**【原因】** CentreWare Internet Services からの操作中にエラーが発生しました。 **【処置】** しばらくしてから、もう一度操作してください。
026-718	**【原因】** プリントの指示で、原稿サイズ、用紙サイズ、給紙トレイ、両面印刷、排出トレイなどで、組み合わせできない機能が指定されています。 **【処置】** プリントデータを確認して、もう一度プリントを指示してください。
026-719	**【原因】** スキャナー（USB メモリー保存）の操作中にエラーが発生しました。 **【処置】** しばらく待ってから、もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
026-720	**【原因】** スキャナー（USB メモリー保存）で、スキャンデータの転送先の USB メモリーの容量が不足しています。 **【処置】** USB メモリーの空き容量を確認してください。
026-721	**【原因】** スキャナー（USB メモリー保存）の操作中にエラーが発生しました。 **【処置】** 次のことを確認してください。 • USBメモリー差込口にUSBメモリーが正しく挿入されているか • コンピューターから USB メモリーにアクセスできるか • 暗号化されていない USB メモリーを使用しているか
026-722	**【原因】** USB メモリーがフォーマットされていません。 **【処置】** コンピューターを使用して、USBメモリーを次の形式でフォーマットしてから、もう一度同じ操作を実施してください。 • 対応フォーマット：FAT12、FAT16（FAT)、FAT32 それでも状況が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。 **補足** • NTFS フォーマットには対応していません。 • ソフトウェアによって暗号化された USB メモリーには対応していません。

エラーコード	原因 / 処置
026-723	**【原因】** スキャナー（USB メモリー保存）の操作中にエラーが発生しました。 **【処置】** 次のことを確認してください。 • 操作中に、USB メモリーを抜いたり、別の USB メモリーに挿し替えたりしていないか • USB メモリー内のファイルが、コンピューターで開けるか
026-724 026-725	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
026-726	**【原因】** プリントジョブの指定時に機器構成情報が、実際の機器構成と一致していません。 **【処置】** プリンタードライバー画面で機器構成情報と、実際の機器構成を合わせてください。
026-727	**【原因】** 次の原因が考えられます。 1)保存先のパス名に、使用できない文字（①など）が使われています。 2)保存先のパス名（拡張子を含む）が利用できる文字数を超えています。 **【処置】** 次のいずれかを実行してください。 1. については、保存先のパス名を変更してください。 2. については、保存先のパス名を 1 ～ 255 バイト以内で設定してください。
026-728	**【原因】** WSD の通信中にエラーが発生しました。 **【処置】** ネットワークケーブルの接続状態や転送先機器のメモリーの空き容量などを確認してください。 **補足** •「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。
026-729	**【原因】** 次の原因が考えられます。 1)WSD の通信中にエラーが発生しました。 2)スキャナー（WSD）で、原稿送り装置にセットした原稿を［Windows FAX とスキャン］以外のアプリケーションを使用してスキャンしようとしました。 **【処置】** 1. については、ネットワークケーブルの接続状態や転送先機器のメモリーの空き容量などを確認してください。 2. については、[Windows FAX とスキャン]を使用してスキャンしてください。［Windows FAX とスキャン］以外のアプリケーションを使用するときは、原稿を原稿ガラスにセットしてスキャンしてください。 **補足** •「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。
026-730	**【原因】** 指定した用紙トレイにセットされている用紙のサイズが不明です。 **【処置】** 指定した用紙トレイの用紙ガイドの位置を確認し、再度ジョブを実行してください。

エラーコード	原因 / 処置
026-735	**【原因】** 認証成功時または認証解除時に、一時停止中のプリントジョブがあったため、印刷待ちのすべてのジョブが中止されました。 **【処置】** 操作は必要ありません。
026-736	**【原因】** HTTP サーバーへのスキャン文書送信中に、内部エラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
026-737	**【原因】** HTTP サーバーへのスキャン文書送信時に、ネットワークエラーが発生しました。 **【処置】** ネットワーク環境やサーバー環境に問題がないか、ネットワーク管理者に確認してください。
026-738	**【原因】** HTTP サーバーへのスキャン文書送信中に、Web アプリケーションを閉じたため、送信が完了しませんでした。 **【処置】** もう一度同じ操作を実施してください。
026-739	**【原因】** 認証成功時または認証解除時に、一時停止中のスキャンジョブやファクスジョブがあったため、処理中のそれらのジョブが中止されました。 **【処置】** 操作は必要ありません。

"027-001" - "032-999"

エラーコード	原因 / 処置
027-442 027-443 027-444	**【原因】** IPv6 の IP アドレスが重複しています。 **【処置】** 重複しているネットワーク上機器のIPv6アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
027-445	**【原因】** 手動設定した IPv6 の IP アドレスが間違っています。 **【処置】** 正しい IPv6 アドレスを設定し直してください。
027-446	**【原因】** 手動設定した IPv6 の IP アドレスが重複しています。 **【処置】** 本機 IPv6 の「IPv6- 手動設定 IP アドレス」、またはネットワーク上機器の IPv6 アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
027-447	**【原因】** IPv6 の IPv6 アドレスが重複しています。 **【処置】** 重複しているネットワーク上機器の IPv6 アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
027-452	**【原因】** IPv4 の IP アドレスが重複しています。 **【処置】** 本機の IPv4 アドレス、またはネットワーク上の機器の IPv4 アドレスを変更してください。
027-500	**【原因】** SMTP サーバーに接続できませんでした。 **【処置】** SMTP サーバー名を正しく指定するか、IP アドレスで指定してください。

エラーコード	原因 / 処置
027-501 027-503	**【原因】** POP サーバーでエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
027-502	**【原因】** POP3 プロトコル利用時に、POP3 サーバーへのログインに失敗しました。 **【処置】** CentreWare Internet Services から POP3 サーバーで使用するユーザー名とパスワードが正しく設定されているか確認してください。
027-504	**【原因】** SMTP サーバーでエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
027-513	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバーへのアクセス権がありません。 **【処置】** 指定した保存場所で、ファイルやフォルダーの読み取りおよび書き込みができるように設定してください。 設定方法については、システム管理者に確認するか、お使いの OS により、マイクロソフト社または Apple Japan 社の公式ホームページをご参照ください。
027-514	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバーと DNS サーバー間でエラーが発生しました。 **【処置】** 次のことを確認してください。 • DNS サーバーと接続されているか • DNS サーバーに SMB サーバー名が登録されているか
027-515	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、エラーが発生しました。 **【処置】** 次の設定をしてください。 • DNS サーバーアドレスを設定する • 転送先のSMBサーバーのアドレスをIPアドレスで設定する

エラーコード	原因 / 処置
027-516	**【原因】** 次の原因が考えられます。 1) スキャナー（PC 保存）の SMB 転送時に、転送先の SMB サーバーが見つかりませんでした（TCP/IP のセッション確立に失敗）。 2) スキャナー（PC 保存）の SMB 転送時に、転送先に指定している SMB サーバーから、本機への応答がありません。 3) スキャナー（PC 保存）の SMB 転送先に指定している SMB サーバー名の名前解決に失敗しました。 **【処置】** 1. の場合は、次のどれかの方法で処置してください。 • ネットワークケーブルの接続を確認する • サブネットを越える通信の場合、WINS サーバーの設定を確認し、サーバー名のアドレス解決が正しくできるかを確認する • 転送先の SMB サーバーのファイアウォール設定において、ファイル共有サービス（137 番ポート（UDP）、138 番ポート（UDP）、139 番ポート（TCP）による通信）が許可されていることを確認する 2. の場合は、転送先に指定している SMB サーバーで、ファイル共有サービスが有効になっているか、確認してください。 • Microsoft　ネットワーク用のファイル共有サービスが有効になっていること 改善されない場合は、次の設定を確認してください。 • TCP/IP 設定において NetBIOS over TCP/IP が有効になっていること 3. の場合は、次のどれかの方法で処置してください。 • 本機に設定してある転送先サーバー名を FQDN 文字列（例：mypc01.fuji0.co.jp）で入力している場合、本機のネットワーク設定で、DNS サーバーアドレスが正しく設定されていることを確認する • DNS サーバーとの接続に問題がない場合、本機に設定してある転送先サーバー名が、DNS サーバーに登録されていることを確認する
027-518	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、指定したパスワードが間違っています。 転送先が Macintosh の場合、指定したユーザーが Windows 共有を使用できるユーザーとして登録されていません。 **【処置】** 共有フォルダーに設定したパスワードを確認してください。 転送先が Macintosh の場合、Windows 共有を利用できるユーザーを、ユーザー名に指定してください。

エラーコード	原因 / 処置
027-519	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、指定されたスキャン画像の保存場所またはファイル名に問題があります。 次の原因が考えられます。 • 画像の保存場所かファイル名に、問題がある • 指定された保存場所がサーバー上に存在しない • 指定された保存場所かファイル名に、禁則文字が使用されていた • 指定された保存場所は、分散ファイルシステム（DFS）設定のため、別の共有フォルダーにリンクされている **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 保存場所が正しいか確認する • 指定したファイル名が SMB サーバー上に作成可能なファイル名かを確認する • システム管理者に分散ファイルシステム（DFS）の設定を確認する 確認方法は次のとおりです。 1) SMB サーバー上で、［スタート］メニュー >［すべてのプログラム］>［管理ツール］>［分散ファイルシステム］を選択する。 2)［分散ファイルシステム］ウインドウの左枠から指定した保存場所を選択し、ウインドウの右枠に表示される［ターゲット］情報を確認する。 3) 確認した情報に基づいて、SMB サーバー、共有名および保存場所を直接指定する。
027-520	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバー上でのファイル名またはフォルダー名の取得に失敗しました。 **【処置】** SMB サーバーのアクセス権を確認してください。
027-521	**【原因】** SMB スキャンで指定可能なファイル名またはフォルダー名のサフィックスが制限値を超えました。 **【処置】** SMB スキャンサーバーのファイル名または転送先フォルダーを変更してください。または、転送先フォルダー内のファイルを移動または削除してください。
027-522	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、次の理由により、SMB サーバー上でのスキャン画像ファイルの作成に失敗しました。 • 指定されたファイル名は、サーバー上にすでに存在している • 指定されたファイル名は、使用されている • 指定されたファイル名は、ディレクトリーとしてすでに存在している • 指定されたファイル名に、禁則文字が使用されている **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 指定したファイル名が、保存場所に作成可能なファイル名かを確認する • 指定したファイル名が、別のユーザーによって使用されていないかを確認する • 指定したファイル名と同じ名前のファイル、またはフォルダーがあるかを確認する

エラーコード	原因 / 処置
027-523	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバー上でのロックフォルダー作成に失敗しました。指定したフォルダーは、すでに存在します。 **【処置】** 指定した名前と同じ名前のファイルまたはロックフォルダーが SMB サーバー上にあるかを確認してください。
027-524	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバー上でのロックフォルダー作成に失敗しました。指定したフォルダーは、すでに存在します。 **【処置】** 指定した名前と同じ名前のファイルまたはフォルダーが SMB サーバー上にあるかを確認してください。
027-525	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、次の理由により、SMB サーバー上でのファイルの削除に失敗しました。 • ファイルが存在しない • すでにファイルがオープンされている • 指定したファイル名はディレクトリーとして、すでに存在している **【処置】** 指定した保存場所で、ほかのユーザーがファイル操作を行っていないかを確認してください。
027-526	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバー上のロックフォルダーの削除に失敗しました。 **【処置】** 既存の lock directory（*.LCK）が転送先に残っていた場合、手動で削除したあとに、もう一度同じ操作を実行してください。
027-527	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、次の理由により、SMB サーバー上でのフォルダーの削除に失敗しました。 • ファイルが存在しない • ディレクトリーが空ではない • 指定したディレクトリー名がディレクトリーではない **【処置】** 指定した保存場所で、ほかのユーザーがファイル操作を行っていないかを確認してください。
027-528	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバー上の格納先に空き領域がありません。 **【処置】** 保存場所に空き領域があるかを確認してください。
027-529	**【原因】** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバーから予期しないエラー応答を受信したか、または本機内部で予期せぬエラーが発生しました。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
027-530	**【原因】** ファイル名が重複しています。スキャンファイル名が重複したときに、「上書き禁止」を設定しています。 **【処置】** ファイル名が重複したときの処理を、「ジョブを中止（ 保存しない ）」以外に設定してください。

エラーコード	原因 / 処置
027-531	**【原因】** サーバーへ接続したあとに、ファイリングポリシー不正（追加選択時）が検知されました。 **【処置】** ファイル名が重複したときの処理に「追加」を設定している場合、ファイルフォーマットがマルチページでないことを確認してください。
027-532	**【原因】** NEXTNAME.DAT ファイルアクセスに失敗しました。 **【処置】** ファイル名が重複したときの処理に「追加」を設定している場合、NEXTNAME.DAT ファイルが正しいことを確認してください。
027-533	**【原因】** 内部エラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を行ってください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
027-543	**【原因】** SMB サーバー（NetBIOS）名が不正です。 **【処置】** SMB サーバーのサーバー名が正しいかを確認してください。
027-547	**【原因】** SMB のプロトコルエラーです。 指定されたドメイン名に禁則文字を検出しました。 **【処置】** SMB 認証時に発生した場合： ネットワーク管理者にドメイン名を確認して、正しく設定してください。また、本機に設定されたドメイン名が正しいかを確認してください。 本機に設定されたドメイン名の確認方法は、次のとおりです。 1) 機械管理者モードに入り、［仕様設定 / 登録］>［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］>［SMB サーバー設定］を選択する。 2) 対象の SMB サーバーを選択し、ドメイン名を確認する。 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送時に発生した場合： ログイン名入力時に指定したドメイン名が正しいかをネットワーク管理者に確認してください。 サーバー上のドメイン名の確認方法は、次のとおりです。 1) アクティブディレクトリーのドメインコントローラー上で、［スタート］メニュー>［すべてのプログラム］>［管理ツール］>［Active Directory ドメインと信頼関係］を選択する。 2)［Active Directory ドメインと信頼関係］ウインドウの左枠から［Active Directory ドメインと信頼関係］>［ドメイン］を選択し、右クリック後、［プロパティ］を選択する。 3)［ドメインのプロパティ］ウインドウの［全般］タブを選択し、［ドメイン名（Windows 2000 以前）］のドメイン名を確認する。

エラーコード	原因 / 処置
027-548	**【原因】** SMB のプロトコルエラーです。 指定されたユーザー名に禁則文字を検出しました。 **【処置】** ネットワーク管理者にサーバー上のユーザー名を、禁則文字を使用しないで設定してもらってください。 サーバー上のユーザー名の確認手順は、次のとおりです。 1)ユーザー情報が設定されたアクティブディレクトリーのドメインコントローラー上で、［スタート］メニュー>［すべてのプログラム］>［管理ツール］>［Active Directory ユーザとコンピュータ］を選択する。 2)［Active Directory ユーザとコンピュータ］ウインドウの左枠から［ドメイン］>［Users］を選択し、ユーザー情報をリストする。 3)［Active Directory ユーザとコンピュータ］ウインドウの右枠から対象ユーザーを右クリックし、［プロパティ］を選択する。 4)［ユーザのプロパティ］ウインドウの［アカウント］タブを選択し、［ユーザーログオン名（Windows 2000 以前)］のユーザー名を確認する。
027-549 027-565 027-572 027-573 027-574 027-576 027-578	**【原因】** SMB のプロトコルエラーです。 **【処置】** もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
027-564	**【原因】** SMB のプロトコルエラーです。 SMB サーバーが見つかりませんでした。 **【処置】** 認証サーバーと本機がネットワーク通信できる状態にあるかを確認してください。 たとえば、次の内容を確認してください。 • ネットワークケーブルの接続確認 • TCP/IP 設定確認 • 137 番ポート（UDP)、138 番ポート（UDP)、139 番ポート（TCP）による通信の確認
027-566	**【原因】** SMB のプロトコルエラーです。 SMB（TCP/IP）が起動されていません。 **【処置】** 機械管理者モードで入り、［仕様設定 / 登録］>［ネットワーク設定］>［ポート設定］画面で［SMB クライアント］が［起動］に設定されていることを確認してください。
027-569	**【原因】** SMB（TCP/IP）ポートが起動されていません。 **【処置】** 機械管理者モードで入り、［仕様設定 / 登録］>［ネットワーク設定］>［ポート設定］画面で［SMB クライアント］が［起動］に設定されていることを確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
027-584	**【原因】** SMB のプロトコルエラーです。 SMB サーバーが共有セキュリティーモードで動作しています。 **【処置】** SMBサーバーがWindows 95、Windows 98、またはWindows Me の OS に設定されている可能性があります。SMB サーバーを Windows 95、Windows 98、および Windows Me 以外の OS に設定してください。
027-585	**【原因】** SMB のプロトコルエラーです。 ログインできない時間帯です。 **【処置】** システム管理者にログインが許可されている時間帯を確認してください。
027-586	**【原因】** SMB のプロトコルエラーです。 パスワードの有効期間が過ぎています。 **【処置】** システム管理者から有効なパスワードを取得してください。
027-587	**【原因】** SMB のプロトコルエラーです。 パスワードの変更が必要です。 **【処置】** Windows でログインし、パスワードを変更してください。システム管理者に、次回ログイン時のパスワード変更をしなくてよいように、設定を変更してもらってください。
027-588	**【原因】** SMB のプロトコルエラーです。 ユーザーが無効になっています。 **【処置】** システム管理者に、ユーザーの有効化を依頼してください。
027-589	**【原因】** SMB のプロトコルエラーです。 ユーザーがロックアウトされています。 **【処置】** システム管理者に、ロックアウトの解除を依頼してください。
027-590	**【原因】** SMB のプロトコルエラーです。 ユーザーの有効期間が過ぎています。 **【処置】** システム管理者から有効なユーザーを取得してください。または、システム管理者にアカウントの期限の延長を依頼してください。
027-591	**【原因】** SMB のプロトコルエラーです。 ユーザーが制限されています。空パスワードは許可されていません。 **【処置】** ユーザーのパスワードを設定してください。
027-700	**【原因】** 宛先メールアドレスのドメイン部分が禁止ドメインに指定されています。 **【処置】** 宛先メールアドレスのドメイン部分が禁止ドメインに指定されていないことを確認してください。
027-701	**【原因】** 本機からネットワークケーブルが抜けています。 **【処置】** ネットワークケーブルが抜けていることを確認し、ケーブルを接続し直してください。

エラーコード	原因 / 処置
027-702	**【原因】** 指定した宛先用証明書がありません。 **【処置】** 宛先用証明書を本機に登録してください。
027-703	**【原因】** 指定した宛先用証明書の有効期限が切れています。 **【処置】** 有効期限が切れていない宛先用証明書を本機に登録してください。
027-704	**【原因】** 指定した宛先用証明書の CA 証明書がありません。 **【処置】** 宛先用証明書の証明書パスを確認して、必要な CA 証明書を本機に登録してください。
027-705	**【原因】** 指定した宛先用証明書が、廃棄対象になっています。 **【処置】** 廃棄対象ではない宛先用証明書を指定してください。
027-706	**【原因】** メールの送信時に、本体メールアドレスに関連付けられた S/MIME 証明書が存在しませんでした。 **【処置】** メールアドレスに対応したS/MIME証明書を､本機にインポートしてください。
027-707	**【原因】** メールの送信時に、本体メールアドレスに関連付けられた S/MIME 証明書の有効期限が過ぎていました。 **【処置】** 新しく S/MIME 証明書を発行してもらい、本機にインポートしてください。
027-708	**【原因】** メールの送信時に、本体メールアドレスに関連付けられている S/MIME 証明書が、信頼できない証明書でした。 **【処置】** 信頼できる証明書を本機にインポートしてください。
027-709	**【原因】** メールの送信時に、本体メールアドレスに関連付けられている S/MIME 証明書が、廃棄されていました。 **【処置】** 新しい S/MIME 証明書を本機にインポートしてください。
027-710	**【原因】** 受信したメールに、S/MIME 証明書がありません。 **【処置】** 送信者に、S/MIME 証明書を添付してメールを送信するよう、連絡してください。
027-711	**【原因】** 受信したメールから、送信者の S/MIME 証明書が取得できませんでした。 **【処置】** 送信者の S/MIME 証明書を本機にインポートするか、送信者が送信する S/MIME 署名メールに、S/MIME 証明書を添付してください。
027-712	**【原因】** 受信したメールの S/MIME 証明書が、有効期限を過ぎているか、信頼できない証明書でした。 **【処置】** 送信者に、期限の有効な S/MIME 証明書を添付してメールを送信するように連絡してください。
027-713	**【原因】** 受信したメールが､送信経路で改ざんされている可能性があるため、受信したメールを破棄しました。 **【処置】** 送信者に､メールが改ざんされている可能性があることを連絡し、メールを再送信してもらってください。

エラーコード	原因 / 処置
027-714	**【原因】** 受信したメールの From フィールドと、S/MIME 署名メールのメールアドレスが異なっていたため、受信したメールを破棄しました。 **【処置】** 送信者に、From フィールドと S/MIME 署名メールのメールアドレスが異なっていることを連絡し、メールを再送信してもらってください。
027-715	**【原因】** 受信したメールの S/MIME 証明書が、本機に登録されていないか、本機で使用するように設定されていません。 **【処置】** 送信者の S/MIME 証明書を本機にインポートするか、すでに S/MIME 証明書が登録済みの場合は、本機で使用するように設定してください。
027-716	**【原因】** 受信したメールの S/MIME 証明書が信頼できないため、受信メールを破棄しました。 **【処置】** 送信者に信頼できる S/MIME 証明書を添付して送信するように連絡してください。
027-717	**【原因】** メール送信で使用する SMTP サーバーのアドレスを DNS サーバーから取得できませんでした。 **【処置】** DNS サーバーが正しく設定されているか確認してください。
027-720	**【原因】** アプリケーション連携先のサーバーが見つかりません。 **【処置】** DNS サーバーのアドレスが正しく設定されているか確認してください。または、連携するアプリケーション（ApeosWare Management Suite）がインストールされているコンピューターが、DNS 登録されているかを確認してください。
027-721	**【原因】** アプリケーション連携先が存在しません。 **【処置】** 連携するアプリケーション（ApeosWare Management Suite）が正しく動作しているかを確認してください。
027-722	**【原因】** アプリケーション連携先との接続中に、タイムアウトになりました。 **【処置】** ジョブフローを、もう一度実行してください。
027-723	**【原因】** アプリケーション連携先（ApeosWare Management Suite）の認証に失敗しました。 **【処置】** ジョブフロー作成時に、入力するユーザー名、パスワードを確認してください。
027-724	**【原因】** アプリケーション連携（ApeosWare Management Suite）に失敗しました。 **【処置】** ApeosWare Management Suite が正しく動作しているか確認してください。正しく動作している場合はログを確認してください。
027-725	**【原因】** アプリケーション連携でジョブ操作に失敗しました。 **【処置】** 連携するアプリケーション（ApeosWare Management Suite）が正しく動作しているかを確認してください。動作している場合は、ログを確認してください。動作していない場合は、ネットワーク環境を確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
027-726	**【原因】** アプリケーション連携先（ApeosWare Management Suite）のステータスが不明になりました。 **【処置】** ApeosWare Management Suite が正しく動作しているか確認してください。正しく動作している場合はログを確認してください。
027-727	**【原因】** アプリケーション連携でパラメーターが不正です。 **【処置】** ジョブフローを、もう一度実行してください。
027-728	**【原因】** 外部サービスへの送信要求ファイル数が、送信可能最大数を超えました。 **【処置】** 送信可能枚数を超えない枚数で、もう一度実行してください。
027-730	**【原因】** SMTP メールで、分割可能なページ数の上限を超えました。 **【処置】** ページ分割に設定してあるページ数を大きくするか、原稿のページ数を少なくしてください。
027-735	**【原因】** SSL を使った転送指定に対して、本機の SSL 設定が無効になっています。 **【処置】** 本機の SSL 設定を有効にしてください。または、転送プロトコルを HTTP に指定してください。
027-736	**【原因】** サーバー証明書検証指定に対して、本機のサーバー証明書検証が無効になっています。 **【処置】** 本機のサーバー証明書検証設定を有効にしてください。または、転送時のサーバー証明書検証指定を無効にしてください。
027-750	**【原因】** スキャン文書に対して、ファクス転送 / プリント / インターネットファクス転送 /IP ファクス（SIP）転送を実行しようとしました。（ファクス転送 / インターネットファクス /IP ファクス（SIP）はファクス機能搭載機の場合） **【処置】** スキャン文書は、ファクス転送 / プリント / インターネットファクス転送 /IP ファクス（SIP）転送できません。ジョブフローを正しく設定してください。
027-751	**【原因】** ジョブフローに従って実行するときに、エラーが起きました。 **【処置】** ジョブフローの設定内容を確認してください。
027-752	**【原因】** ジョブフローの必須入力項目が入力されていません。 **【処置】** 次のどちらかの方法で処置してください。 • 必須入力項目があるジョブフローは、親展ボックスに関連付けない • ジョブフローの必須入力項目に既定値を設定する

エラーコード	原因 / 処置
027-753	**【原因】** 次の原因が考えられます。 1) ジョブフローを実行するために必要なポートが、起動されていないか使用できない状態で、サービスを実行しようとしました。 2) S/MIME 通信を無効に設定している状態で、暗号化またはデジタル署名ありのメールを送信するジョブフローを実行しました。 **【処置】** 1. については、機械管理者にポートの状態を確認してもらってください。 2. については、S/MIME 通信を有効に設定するか、暗号化、およびデジタル署名なしでメールを送信するようにジョブフローの設定を変更してください。
027-754	**【原因】** ジョブフローで［DocuWorks 署名］または［PDF 署名］について設定している場合に、設定内容に矛盾が生じています。 **【処置】** ［DocuWorks 署名］または［PDF 署名］のシステムデータの設定（本機の現在の設定）と実施したジョブフローの署名の設定を確認してください。システムデータの設定とジョブフローの設定が異なっている場合には、どちらかの設定を変更してください。
027-757	**【原因】** 次の原因が考えられます。 1) サーバーとの通信でエラーが発生しました。 2) 本機に信頼する証明書がインポートされていません。 3) SSL プロキシサーバーを経由したため、SSL 証明書記載のサーバーアドレスと接続先サーバーアドレスが一致しませんでした。 4) 本機未対応の暗号方式が使われるサーバーと通信しようとしました。 5) SSL サーバーがクライアント証明書認証の設定の場合、本機にクライアント証明書が未登録または一致しません。 6) サーバー証明書の有効期限が切れている、または期限前です。 **【処置】** 1. については、ping または traceroute コマンドを使用して、本機とサーバーまたは DNS との接続を確認してください。 2. については、本機に、SSL サーバーの証明書が信頼する CA 証明書・中間証明書がインポートされているかをブラウザで確認してください。不足なら CA 証明書・中間証明書をインポートしてください。 3. については、本機が SSL 通信内容を確認する機能を持つ SSL プロキシを経由しないか確認してください。経由していた場合、本機を SSL プロキシの対象外に指定してください。 4. については、本機が対応する暗号方式にサーバーが対応しているか確認してください。対応してない場合は、対応している暗号方式を SSL サーバー設定に含めてください。 5. については、本機にクライアント証明書を設定してください。本機にクライアント証明書をインポートし、クライアント証明書として利用します。 6. については、本機の日時が正しいか、サマータイムまたは時差を確認します。ずれがある場合は日時または時刻を合わせます。

エラーコード	原因 / 処置
027-758	**【原因】** ［LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定］の［検索用ログイン名］と［検索用パスワード］が正しく設定されていない状態で、外部認証が実行され、LDAP サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「49」（指定された認証証明書は無効）が返されました。 **【処置】** セキュリティーに関する問題が発生しています。［LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定］の［検索用ログイン名］と［検索用パスワード］が正しく設定されているかを確認してください。詳しくは、「LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定」を参照してください。 改善されないときは、ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバー側の認証設定を確認してください。
027-759	**【原因】** 「LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定」で指定された LDAP サーバーから照会された LDAP サーバーに対する接続に失敗しました。 **【処置】** 本機のネットワーク設定が正しく設定されているかを確認してください。 状態が改善されないときは、ネットワーク管理者に相談し、本機から照会先のサーバーへの接続状態を確認してください。
027-760	**【原因】** XJT コマンドで仕様範囲外のパラメーターが指定されました。 **【処置】** 指定したパラメーターを確認してください。
027-761	**【原因】** 本機に外部アクセス機能を使ったオンデマンドプリントを指示しましたが、印刷要求をしてから実際に印刷処理を開始するまでの時間が、本機に設定されている時間を超えました。 **【処置】** 複数文書を外部アクセス機能を使ってオンデマンドプリントした場合は、文書数を減らして再度実行してください。 それでも改善されない場合は、機械管理者モードで入り、［仕様設定 / 登録］>［仕様設定］>［共通設定］>［システム時計 / タイマー設定］>［オンデマンド印刷の有効時間］で、時間を長くするか、0 に設定してください。 外部アクセス機能を使ったオンデマンドプリントで複数の文書を指示した場合、最後の文書を受け付けるまでの印刷処理時間は考慮されません。そのため、大量の文書の場合やデータ処理時間がかかる複雑な文書の場合は、最後の文書を受け付ける前にタイムアウトする可能性があります。印刷指示する文書の形態に合わせて、有効時間を設定してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
027-762	**【原因】** 外部アクセス機能を使ったオンデマンドプリントジョブが本機に指示されましたが、指示されたジョブチケットが次のように不正でした。 • 本機ソフトウェア不具合によるジョブチケット異常書き換え • 送信元の外部サーバーのバグによるジョブチケット異常書き換え • ネットワークトラブルによるジョブチケット異常書き換え • 意図的なジョブチケットの改ざん **【処置】** もう一度プリントを指示してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
027-763	**【原因】** 外部のアカウンティングサーバーとユーザー情報の照合ができませんでした。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • 外部アカウンティングサーバーが正しく動作しているか確認する • ネットワークに障害がないか確認する • ネットワークケーブルを正しく接続する • 本機の設定を確認する
027-764	**【原因】** Client Scan クライアントとの通信中にエラーが発生しました。または、Client Scan クライアントからジョブをキャンセルされました。 **【処置】** 転送先のClient Scanクライアントと本機がネットワーク通信できる状態にあるかを次の方法で確認してください。 • Client Scanクライアントの空き容量が十分にあることを確認してください。 • ネットワークケーブルの接続を確認してください。
027-770	**【原因】** プリントジョブに問題があります。 **【処置】** ジョブを再度実行してください。
027-771	**【原因】** 本機に接続しているサーバーのハードディスクがいっぱいになりました。 **【処置】** サーバーのデータを削除してください。
027-772	**【原因】** SMTP サーバーとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** ［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［本体メールアドレス / ホスト名］に設定されているホスト名を、ASCII 文字で設定してください。 それでも状態が改善されないときは、ネットワーク管理者にSMTP サーバーが HELO コマンドに対応しているか確認してください。
027-773	**【原因】** SMTP サーバーとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** しばらく待ってから、もう一度操作してください。

エラーコード	原因 / 処置
027-774	**【原因】** 指定したメールアドレスに使用できない文字が含まれています。 **【処置】** 宛先のメールアドレスは、ASCII 文字だけで設定してください。
027-775	**【原因】** 送信する宛先数が多すぎます。 **【処置】** 宛先数を減らしてください。 それでも状態が改善されないときは、ネットワーク管理者にSMTP サーバーが EHLO コマンドに対応しているか確認してください。
027-776	**【原因】** SMTP サーバーとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** ［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［本体メールアドレス / ホスト名］に設定されているホスト名を、ASCII 文字で設定してください。 それでも状態が改善されないときは、ネットワーク管理者にSMTP サーバーが EHLO コマンドに対応しているか確認してください。
027-777	**【原因】** 送信先のSMTPサーバーがSMTP-AUTHに対応していません。 **【処置】** ［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［メール送受信設定］>［SMTP サーバー設定］>［送信時の認証方式］を［利用しない］に設定してください。
027-778	**【原因】** 送信先のSMTPサーバーが、本機に設定してあるSMTP-AUTHの認証方式に対応していません。 **【処置】** ネットワーク管理者に、SMTP サーバーに認証方式を確認してください。 本機が対応している認証方式は、AUTH GSSAPI（Kerberos 指定時のみ）、AUTH NTLMv2、AUTH NTLMv1、AUTH PLAIN、AUTHLOGIN、AUTH CRAM-MD5 です。
027-779	**【原因】** SMTP サーバーの認証に失敗しました。 **【処置】** SMTP-AUTH に設定してあるログイン名とパスワードを確認してください。
027-796	**【原因】** メール受信時に添付文書だけをプリントするように設定している場合に、文書が添付されていないメールを受信したので、そのメールが破棄されました。 **【処置】** メール本文やメールヘッダー情報などもプリントする場合は、CentreWare Internet Services のプロパティ画面で、設定を変更してください。 参照 • メールプリント
027-797	**【原因】** 受信メールの出力先が不正です。 **【処置】** 正しい出力先を指定して、もう一度メールを送信してください。
027-798	**【原因】** ジョブフローで指定した文書が存在しませんでした。 **【処置】** ジョブフローの設定内容を確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
029-703	【原因】 Client Scan クライアントとの通信中にエラーが発生しました。または、Client Scan クライアントからジョブをキャンセルされました。 【処置】 転送先のClient Scan クライアントと本機がネットワーク通信できる状態にあるかを次の方法で確認してください。 • ネットワークケーブルの接続を確認してください。 • 転送先のClient Scanクライアントの状態を確認してください。

"033-001" - "033-999"

エラーコード	原因 / 処置
033-310 033-312 033-313 033-314 033-315 033-316 033-317 033-318 033-319 033-320 033-321 033-322 033-323 033-324 033-325 033-326 033-327 033-328 033-329 033-330	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
033-331 033-332 033-333 033-334 033-335 033-336 033-339 033-340	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
033-341	【原因】 ファクスキット 3 を接続すべき機種に対して、ファクスキット 3 以外の機器が接続されています。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
033-500 033-501 033-505 033-516	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 宛先を確認し、もう一度操作をしてください。着信の場合は、再送信を相手側に依頼してください。

エラーコード	原因 / 処置
033-502	**【原因】** ファクスへの応答がありません。 **【処置】** 宛先を確認し、もう一度操作をしてください。相手機の状態（メモリーフル・保守中などでないか）を確認し、もう一度操作をしてください。
033-503 033-504 033-575 033-577	**【原因】** ファクスの使用中にエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度操作をしてください。
033-506	**【原因】** 相手側で通信が中断されました。 **【処置】** 相手機側でジョブがキャンセルの可能性があります。 キャンセルされていない場合は、相手機側が問題がないかを確認して、もう一度同じ操作をしてください。
033-507	**【原因】** 相手機に受信能力がありません。 **【処置】** 相手機の状態（メモリーフル・保守中などでないか）を確認し、もう一度操作をしてください。
033-508	**【原因】** 相手機にポーリング文書がありません。 **【処置】** 相手側に、ポーリング文書の準備を依頼し、もう一度操作してください。
033-509 033-517	**【原因】** ファクスの使用中にエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、相手機の状況を確認してください。
033-510	**【原因】** ファクスの使用中にエラーが発生しました。 **【処置】** 回線状態、相手機を確認して、もう一度操作してください。
033-511	**【原因】** ファクスの使用中にエラーが発生しました。 **【処置】** 次のことを確認してください。 • 相手機にポーリング原稿があるか • 相手機に原稿づまりが発生しているか • パスワードが一致していない
033-512	**【原因】** 相手機が中継同報をできません。 **【処置】** 相手機が中継同報をできるかどうかを確認してください。
033-513	**【原因】** 相手機にメールボックス機能がありません。 **【処置】** 相手機にメールボックス機能があるかどうかを確認してください。
033-514 033-528	**【原因】** ファクスの使用中にエラーが発生しました。 **【処置】** 相手側に再送信を依頼してください。
033-518	**【原因】** 相手機が SUB 受信できません。 **【処置】** 相手機が SUB 受信できるかどうかを確認し、もう一度操作をしてください。
033-519	**【原因】** 相手機が SEP 受信できません。 **【処置】** 相手機が SEP 受信できるかどうかを確認し、もう一度操作をしてください。

エラーコード	原因 / 処置
033-520	**【原因】** 相手機が PWD/SID 受信できません。 **【処置】** 相手機が PWD/SID 受信できるかどうかを確認し、もう一度操作をしてください。
033-521	**【原因】** ファクスの使用中にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の状態（メモリーフル・紙切れなどでないか）を確認し、相手側に再操作を依頼してください。
033-522	**【原因】** ファクスの使用中にエラーが発生しました。 **【処置】** 相手側に再操作を依頼してください。
033-523	**【原因】** 回線（チャネル 1）が正しく接続されていません。 **【処置】** 回線（チャネル 1）の接続を確認し、正しく接続し直して、もう一度操作してください。
033-524	**【原因】** 回線（チャネル 2）が正しく接続されていません。 **【処置】** 回線（チャネル 2）の接続を確認し、正しく接続し直して、もう一度操作してください。
033-525	**【原因】** 回線（チャネル 3）が正しく接続されていません。 **【処置】** 回線（チャネル 3）の接続を確認し、正しく接続し直して、もう一度操作してください。
033-526	**【原因】** ファクスの使用中にエラーが発生しました。 **【処置】** 相手機の機種を確認し、もう一度操作をしてください。着信の場合は、相手側に再送信を依頼してください。
033-527 033-529	**【原因】** ファクスの使用中にエラーが発生しました。 **【処置】** 相手機側に問題がないかを確認して、もう一度操作をしてください。
033-530	**【原因】** 手順無効信号を受信しました。 **【処置】** DTMF 方式での操作方法を確認し、もう一度操作してください。 参照 • DTMF 方式
033-531	**【原因】** 命令拒否信号を受信しました。 **【処置】** 相手機の状態（メモリーフル・紙切れなどでないか）を確認し、もう一度操作してください。
033-532 033-533	**【原因】** ファクスの使用中にエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度操作してください。着信の場合は、相手機に再送信を依頼してください。
033-534	**【原因】** 相手機に送信部数出力機能がありません。 **【処置】** 送信部数の指示をしないでください。
033-535	**【原因】** ファクスの使用中にエラーが発生しました。 **【処置】** 相手機宛先、親展ボックス情報などを確認して、もう一度操作してください。
033-536 033-537	**【原因】** ファクスの使用中にエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度操作してください。

エラーコード	原因 / 処置
033-538 033-539 033-540	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 もう一度操作してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
033-541	【原因】 宛先が指定されていません。 【処置】 正しい宛先を指定してください。
033-542	【原因】 接続されていない回線が指定されています。 【処置】 接続されている回線を指定してください。
033-543	【原因】 宛先（ファクス番号）が正しくありません。 【処置】 正しい電話番号を入力し、もう一度操作してください。
033-544	【原因】 送信先が話中です。 【処置】 しばらく待ってから、もう一度操作してください。
033-545	【原因】 相手機がファクスでない可能性があります。 【処置】 相手機がファクスかどうかを確認してください。
033-546	【原因】 ダイヤルトーン * が検知できませんでした。 *: 交換機から発信される音。交換機と正常につながったことを示します。 【処置】 回線が正しく接続されていることを確認してください。また、回線種別の設定が［NTT］で本エラーが発生した場合には、回線種別を［PBX］に変更して、通信の再確認をしてください。
033-547	【原因】 〈ストップ〉ボタンなどにより、通信が停止されました。 【処置】 操作は必要ありません。
033-548	【原因】 回線がないため、手動通信できません。 【処置】 電話などで通信を確立してから、もう一度操作してください。
033-549	【原因】 メモリー不足などで、ファクスが使用できません。 【処置】 しばらく待ってから、もう一度操作してください。
033-550	【原因】 ファクス通信中のため、ほかのジョブが実行できません。 【処置】 通信中のジョブが完了してから、もう一度操作してください。
033-551	【原因】 電話やファクス通信が終了する直前にジョブを変更しようとしました。 【処置】 しばらく待ってから、もう一度操作してください。
033-552	【原因】 G3 で検知した合計エラーライン数が、設定値を超えました。 【処置】 相手機の機種を確認し、もう一度操作してください。着信の場合は、相手側に再送信を依頼してください。
033-553	【原因】 本機には親展または中継能力はありません。相手機から送られた F コードに、本機にない機能の指示があります。 【処置】 必要なら、相手機の操作者に、誤った F コードを入力していないか確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
033-554	**【原因】** パスワードがないファクス受信または、パスワードが一致しないファクス通信がありました。 **【処置】** 操作は必要ありません。
033-555	**【原因】** 本機のファクス受信をするためのパスワードと、相手機から送られたパスワードが一致しませんでした。 **【処置】** 相手機の操作者に、誤ったマシンパスワードを指示していないか確認してください。
033-556	**【原因】** 相手機に送ったパスワードが、相手機のファクス受信をするためのパスワードと一致しませんでした。 **【処置】** 必要なら、相手側に正しいマシンパスワードを指示しているかを確認してください。
033-557	**【原因】** サービス数または宛先数が上限値を超えています。 **【処置】** 送信待ちのジョブが減るのを待つか、宛先数を減らして、もう一度送信してください。
033-558	**【原因】** 相手局のリモート ID が、自局のブラックリストに登録されています。 **【処置】** その相手局から受信する場合には、相手局のリモート ID をブラックリストから削除してください。
033-559	**【原因】** 「リモート ID がなければ受信を拒否する」という設定をしていて、相手機からリモート ID が送られなかった。 **【処置】** 相手側にリモートIDを設定してもらうよう依頼してください。必要なら、リモート ID が送られなくても受信できるように本機を設定してください。
033-563	**【原因】** 受信した原稿をプリントできる用紙が本機にセットされていません。 **【処置】** 次のどちらかを実行してください。 • 記録紙サイズを指定する • 記録紙トレイが正しくセットされているか確認する
033-564 033-570	**【原因】** 通信中に本機の電源が切られました。 **【処置】** 時間をおいて、ファクス機能設定内容やダイヤル番号を確認したあとに、送信の場合は再送信してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
033-565	**【原因】** 指定された宛先数が多すぎて、送信できません。 **【処置】** 送信待ちのジョブが減るのを待つか、宛先数を減らして、もう一度送信してください。
033-566	**【原因】** 宛先（ファクス番号）が指定されていないので、送信できません。 **【処置】** 正しく宛先電話番号を指定してください。
033-567	**【原因】** 宛先（ファクス番号）が正しくありません。 **【処置】** 正しい宛先電話番号を入力し、もう一度操作してください。

エラーコード	原因 / 処置
033-568	**【原因】** ファクス通信中にエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を行ってください。着信の場合は、相手先に再送信を依頼してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
033-569	**【原因】** 受信したデータをプリントできる向きに、用紙がセットされていません。 **【処置】** 操作パネルに表示された用紙の向きに従って、手差しトレイに用紙をセットしてください。
033-571	**【原因】** メモリー不足などで、ファクスが使用できません。 **【処置】** 送信予約のデータをキャンセルするか、しばらくしてから、もう一度操作してください。
033-572	**【原因】** 受信したデータがプリントされません。 **【処置】** 操作は必要ありません。しばらくすると自動的にプリントします。
033-573	**【原因】** 送受信が禁止されているドメインに IP ファクス（SIP）を送信しようとしました。 **【処置】** 次のどちらかの方法で処置をしてください。 • 送信先を確認し、送信先を再入力する • IP ファクス（SIP）のドメインによる送受信制限の設定を確認し、送信先を再入力する
033-574	**【原因】** 使用できない回線が指定されています。 **【処置】** 使用可能な回線を指定してください。
033-576	**【原因】** 宛先（ファクス番号）が正しくありません。 **【処置】** 正しい電話番号を入力し、もう一度操作をしてください。
033-578	**【原因】** ファクスの受信中にエラーが発生しました。 **【処置】** 回線状態、相手機を確認して、相手側に再送信を依頼してください。
033-580	**【原因】** 電話番号に対応する VoIP ゲートウェイが登録されていません。 **【処置】** 入力した電話番号に対応する VoIP ゲートウェイのアドレスを設定してください。
033-581	**【原因】** 認証エラーにより SIP サーバーに接続できませんでした。 **【処置】** 本機の［SIP 設定］>［SIP プロキシサーバー設定］の認証ユーザー名、認証パスワード、および SIP サーバーの設定を確認してください。
033-582	**【原因】** IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 **【処置】** 通信相手先の機器が IP ファクス（SIP）対応機であるかを確認してください。 機器が IP ファクス（SIP）対応機である場合、使用している SIP サーバー上の設定を確認してください。
033-583	**【原因】** IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 **【処置】** しばらく待ってからもう一度送信してください。

エラーコード	原因 / 処置
033-584	**【原因】** IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 **【処置】** 次の点を確認してください。 • 入力したアドレスまたは電話番号が正しいか • ネットワークケーブルが接続されているか • SIP サーバーが起動しているか • 本機 - SIP サーバー間のネットワークケーブルが接続されているか • 本機 - 通信相手先のネットワークケーブルが接続されているか • SIP サーバー、通信相手先が通信可能な状態か
033-585	**【原因】** IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
033-586	**【原因】** IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 **【処置】** しばらく待ってからもう一度送信してください。 また、次の点を確認してください。 • IP アドレスを取得できるようになっているか • レジストラーサーバーへの登録ができるようになっているか
033-587 033-590	**【原因】** IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 **【処置】** 次の点を確認してください。 • ネットワークケーブルが接続されているか • IP ファクス（SIP）の通信相手先の機器が起動しているか
033-588	**【原因】** IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を行ってください。ほかのジョブが実行中の場合には、もう一度同じ操作を行ってください。
033-589	**【原因】** IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 **【処置】** 通信相手先の機器が IP ファクス（SIP）対応機であるかを確認してください。 機器が IP ファクス（SIP）対応機である場合、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
033-591	**【原因】** IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 **【処置】** 実行中の IP ファクス（SIP）送受信が終了してからもう一度送信してください。
033-592	**【原因】** IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 **【処置】** 次の点を確認してください。 • ネットワークケーブルが接続されているか • 通信相手先の機器が起動しているか
033-593	**【原因】** 通信相手側で IP ファクス（SIP）がキャンセルされました。 **【処置】** 通信相手に、再度の送信を依頼してください。

エラーコード	原因 / 処置
033-700	**【原因】** ファクスの発信時、または相手先からの着信時に接続がタイムアウトになりました。 **【処置】** 発信の場合は、もう一度操作をしてください。着信の場合は、相手先が送信を途中でキャンセルした可能性があります。相手先に確認してください。
033-701	**【原因】** ファクスのリトライタイムアウト時間内に、通信が正常に終了しませんでした。次の原因が考えられます。 • 相手が通話中です。 • 電話番号が間違っています。 • 相手機がファクス機ではありません。 • 回線が正しく接続されていません。 **【処置】** 電話番号が正しいことと、回線が正しく接続されていることを確認してください。また、相手機がファクス機であることを確認してください。問題がなければ、しばらくしてからもう一度操作してください。
033-710	**【原因】** ポーリング送信しようとした文書が削除されています。 **【処置】** もう一度原稿を蓄積し直してください。
033-711	**【原因】** 指示されたページが存在しない、または指示されたページがデータ異常です。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
033-712	**【原因】** メモリーが不足したため、処理を継続できません。 **【処置】** 不要なデータを削除してください。
033-716	**【原因】** 相手機から指定された親展ボックスがありません。 **【処置】** 親展ボックスを登録してください。 **参照** • ボックス登録
033-717	**【原因】** 相手機から指定された親展ボックスのパスワードが一致しませんでした。または、パスワード受信のパスワードが一致しませんでした。 **【処置】** 相手機に、正しいパスワードを通知してください。
033-718	**【原因】** 相手機から指定された親展ボックスにファクス文書がありません。またはポーリング予約文書がありません。 **【処置】** 必要であれば、親展ボックスに、ファクス文書またはポーリング予約文書を蓄積してください。
033-721 033-733 033-735 033-743 033-744 033-745 033-746 033-750	**【原因】** ファクスの使用中にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
033-724	**【原因】** 一度に受信できる画像データ量の上限値を超えたため、受信を停止しました。 **【処置】** 増設メモリーを取り付けると、一度に受信できる画像データ量を増やすことができます。
033-725	**【原因】** ハードディスクがいっぱいになりました。 **【処置】** ハードディスク内の不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。
033-726	**【原因】** 1 つの受信文書内に複数のサイズのページがあり、両面印刷できなかったため、片面印刷しました。 **【処置】** 操作は必要ありません。
033-728	**【原因】** ファクス受信文書の自動プリントのフォーマット中に、ファクス受信文書の手動プリントを指示されたので、自動プリントのフォーマットを一時中断しました。 **【処置】** 手動プリント終了後に、機械が自動的に自動プリントジョブを開始しますので、操作は必要ありません。
033-731	**【原因】** 受信文書のプリントが中止されました。 **【処置】** 受信文書の自動プリント処理中に手動プリントを指示されたので、自動プリント処理を一時中断しました。操作は必要ありません。
033-732	**【原因】** EP システムの通信中にエラーが発生しました。 **【処置】** 弊社の保守システム運用中のエラーです。処置は必要ありません。
033-734	**【原因】** ファクスの受信プリント準備中にレポートジョブが発生したため、ファクスの受信プリントを一時保留しました。 **【処置】** 操作は必要ありません。
033-736	**【原因】** 転送するデータ量が設定している上限値を超えたため、転送を中止しました。 **【処置】** 操作は必要ありません。
033-737 033-741	**【原因】** ファクスの使用中にエラーが発生しました。 **【処置】** もう一度同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
033-738	**【原因】** 異常な JBIG データを受信しました。 **【処置】** 操作は必要ありません。
033-740	**【原因】** 受信文書のプリントが中止されました。 **【処置】** 操作は必要ありません。

エラーコード	原因 / 処置
033-742	【原因】 ファクスの送信中にエラーが発生しました。 本機のメモリー残量が 10% 前後と少ないときに、手動送信を行うと発生することがあります。 【処置】 手動送信を行ったときに発生する場合は、原稿蓄積後に回線を接続する「蓄積送信」操作をしてください。 それでも改善されないときは、ハードディスク内の不要なデータを削除して、ハードディスクの容量を確保してから、もう一度同じ操作をしてください。 それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
033-747	【原因】 ジョブを一時保留しました。 【処置】 操作は必要ありません。
033-749	【原因】 機械が自動的に修復して印字出力します。 【処置】 操作は必要ありません。
033-751	【原因】 プリント禁止時間帯に通信管理レポートが発生しました。スリープモードでレポート排出を保留にしました。 【処置】 自動的に再開するので処置不要です。

"041-001" - "044-999"

エラーコード	原因 / 処置
041-310 041-316 041-317 041-340 041-341 041-344 041-345 041-346 041-350 041-352 041-353 041-354 041-355 041-356 041-358 041-368 041-369	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
041-388 041-391 042-324 042-330 042-342 042-344 042-347 042-385 043-322 043-338 043-344 043-345 043-346 043-347 043-348 043-349 043-351 043-352 043-353 043-354	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
043-355 043-356 044-312 044-313 044-314 044-329 044-389	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"045-001" - "046-999"

エラーコード	原因 / 処置
045-310 045-311 045-359 045-368 045-369 045-370 045-371 045-377 045-382	**【原因】** エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"047-001" - "047-999"

エラーコード	原因 / 処置
047-211 047-212	**【原因】** オフセット排出ユニットにエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
047-213	**【原因】** 異なるタイプのフィニッシャーが取り付けられていることを検知しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
047-216	**【原因】** フィニッシャーとの接続異常が発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
047-217	**【原因】** 大容量トレイとの接続異常が発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
047-320	**【原因】** エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。 フィニッシャー A2 を使用している場合は、フィニッシャーのトレイ上の用紙を取り除き、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。 それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"055-001" - "058-999"

エラーコード	原因 / 処置
058-322 058-323 058-324 058-325 058-326 058-327 058-328 058-329 058-330 058-331 058-332 058-333 058-334 058-338	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
058-335 058-337	**【原因】** トレイに設定されている用紙種類とは異なる用紙です。 **【処置】** トレイに設定している用紙種類を変更してください。 **参照** • 用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定

"060-001" - "060-999"

エラーコード	原因 / 処置
060-341 060-342 060-343 060-344 060-345 060-346 060-347 060-348 060-349 060-350 060-351 060-352 060-353 060-354 060-355 060-356 060-357 060-358 060-359 060-360	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
060-361	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"061-001" - "061-999"

エラーコード	原因 / 処置
061-310 061-354 061-355 061-356 061-357 061-358 061-359 061-360 061-361 061-362 061-363 061-364 061-365 061-366 061-367 061-368 061-369 061-370 061-371 061-372	**【原因】** エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
061-373 061-390 061-391 061-392 061-393	**【原因】** エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"062-001" - "062-999"

エラーコード	原因 / 処置
062-277	**【原因】** 機械の原稿読み取り部分と原稿送り装置の間で通信エラーが発生しました。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
062-311 062-313 062-345 062-357 062-360 062-362 062-371 062-380 062-386 062-389 062-393 062-395 062-397 062-398	**【原因】** エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
062-790	【原因】 読み込んだ原稿が、コピー禁止の原稿です。 【処置】 コピーできる原稿を確認してください。 参照 • 法律上の注意事項

"065-001" - "070-999"

エラーコード	原因 / 処置
065-221 065-222 065-223 065-224 065-225	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"071-001" - "076-999"

エラーコード	原因 / 処置
071-210	【原因】 用紙トレイ 1 が故障しました。 【処置】 用紙トレイ 1 の用紙セット状態を確認し、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。なお、用紙トレイ 1 以外の用紙トレイは使用できます。
071-212	【原因】 用紙トレイ 1 が故障しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。なお、用紙トレイ 1 以外の用紙トレイは使用できます。
072-210	【原因】 用紙トレイ 2 が故障しました。 【処置】 用紙トレイ 2 の用紙セット状態を確認し、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。なお、用紙トレイ 2 以外の用紙トレイは使用できます。

エラーコード	原因 / 処置
072-212	**【原因】** 用紙トレイ 2 が故障しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。なお、用紙トレイ 2 以外の用紙トレイは使用できます。
073-210	**【原因】** 用紙トレイ 3 が故障しました。 **【処置】** 用紙トレイ 3 の用紙セット状態を確認し、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。なお、用紙トレイ 3 以外の用紙トレイは使用できます。
073-212	**【原因】** 用紙トレイ 3 が故障しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。なお、用紙トレイ 3 以外の用紙トレイは使用できます。
074-210	**【原因】** 用紙トレイ 4 が故障しました。 **【処置】** 用紙トレイ 4 の用紙セット状態を確認し、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。なお、用紙トレイ 4 以外の用紙トレイは使用できます。
074-212	**【原因】** 用紙トレイ 4 が故障しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。なお、用紙トレイ 4 以外の用紙トレイは使用できます。
075-212	**【原因】** 用紙トレイ 5（手差し）が故障しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。なお、用紙トレイ 5 以外の用紙トレイは使用できます。

"077-001" - "077-999"

エラーコード	原因 / 処置
077-211	**【原因】** 異なるタイプの用紙トレイモジュールが取り付けられていることを検知しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
077-314 077-320	**【原因】** エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"078-001" - "080-999"

エラーコード	原因 / 処置
078-216 078-219	**【原因】** 大容量給紙トレイにエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
078-250	**【原因】** 用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ）にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"081-001" - "091-999"

エラーコード	原因 / 処置
081-799	**【原因】** ［宛先表によるファクス転送制限］が［する］に設定されているが、受信文書のファクス転送先が宛先表に登録されていません。 **【処置】** 転送先のファクス番号を宛先表に登録するか、［宛先表によるファクス転送制限］を［しない］に設定してください。

エラーコード	原因 / 処置
089-313 089-314 089-316 089-317	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
091-328 091-329 091-330 091-331	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示されたときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"092-001" - "092-999"

エラーコード	原因 / 処置
092-312 092-313 092-314 092-315	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"093-001" - "093-999"

エラーコード	原因 / 処置
093-324 093-335 093-336 093-337 093-338	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示されたときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"094-001" - "098-999"

エラーコード	原因 / 処置
094-318	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"099-001" - "101-999"

エラーコード	原因 / 処置
099-364 099-373 099-395	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"102-001" - "115-999"

エラーコード	原因 / 処置
102-356 103-310 103-311 103-312 103-313 103-314	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
112-700	**【原因】** フィニッシャーのパンチダストボックスが、切りくずでいっぱいになりました。 **【処置】** パンチダストボックスの切りくずを捨ててください。

"116-001" - "116-999"

エラーコード	原因 / 処置
116-210 116-211 116-212	**【原因】** USB メモリーにエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
116-220	**【原因】** ダウンロードモードへの移行に失敗しました。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
116-310 116-311 116-312 116-313 116-319 116-321 116-322 116-323 116-325 116-328 116-329 116-330 116-331 116-333 116-334 116-336 116-337 116-338 116-340 116-343	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
116-346 116-348 116-349 116-350 116-351 116-352 116-353 116-354 116-355 116-357 116-358 116-360 116-361 116-362 116-363 116-364 116-365 116-366 116-367 116-368	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
116-370 116-371 116-372 116-373 116-374 116-375 116-376 116-378 116-379 116-380 116-381 116-382 116-383 116-384 116-385 116-387 116-391 116-392 116-393 116-394	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
116-395 116-396 116-397 116-399	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
116-324	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** プリントで発生した場合は、いったん本機の電源を切り、〈スタート〉ボタンと〈ストップ〉ボタンを同時に押した状態で本機の電源を入れ、その状態を 6 秒間保持してください。エラー発生の要因となったプリントデータが自動的に削除されて起動します。それ以外で発生した場合は、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
116-339	**【原因】** ハードディスク未装着のまま、Job Based Accounting システムを起動しました。 **【処置】** Job Based Accounting システムを利用する場合は、ハードディスクが必要です。本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れ直して操作をリセットしてください。
116-342	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
116-386	**【原因】** ファクスの接続ケーブルが、正しく接続されていません。 **【処置】** 接続ケーブルを正しく接続し、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
116-388	**【原因】** ハードディスクが取り付けられていません。 **【処置】** ハードディスクを取り付けてください。 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
116-389	**【原因】** エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
116-701	**【原因】** メモリーが不足したため、両面プリントができません。 **【処置】** メモリーを増設するか、ハードディスクがオプションの機種の場合は、ハードディスクを装着してください。メモリーやハードディスクの装着については、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
116-703	**【原因】** 次の原因が考えられます。 1) PostScript* でエラーが発生しました。 2) メモリーが不足したため、エラーが発生しました。 3) PostScript 用のメモリーが不足したため、エラーが発生しました。 *: お使いの機種によっては、オプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 **【処置】** 1. については、プリントデータを確認してください。 2. については、メモリーを増設してください。 3. については、［PostScript 使用メモリー］を増やしてください。
116-704	**【原因】** メディア内のデータを読み取るときにエラーが発生しました。 **【処置】** メディアが正しく挿入されているか確認してください。
116-705 116-706 116-707 116-708 116-709 116-716 116-717	**【原因】** メディア内のデータを読み取るときにエラーが発生しました。 **【処置】** コンピューターで、メディアに記録されている内容を確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
116-710	**【原因】** 受信データが HP-GL/2* スプールサイズを超えたため、正しい原稿サイズ判定が行われていない可能性があります。 *: お使いの機種によっては、オプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 **【処置】** HP-GL/2 オートレイアウトメモリーの割り当て量を増やしてください。
116-711	**【原因】** 指定した ART EX フォームのサイズと向きが、プリントする用紙と合っていません。 **【処置】** 用紙のサイズと向きを、指定した ART EX フォームに合わせて、もう一度プリントを指示してください。
116-712	**【原因】** ART EX フォームメモリーが不足したため、フォームが登録できません。 **【処置】** 不要なフォームを削除するか、ART EX フォームメモリーの領域を増やしてください。
116-713	**【原因】** ハードディスクがいっぱいになったため、ジョブを分割してプリントしました。 **【処置】** ハードディスク内の不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。
116-714	**【原因】** HP-GL/2* コマンドエラーが発生しました。 *: お使いの機種によっては、オプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 **【処置】** プリントデータを確認してください。
116-715	**【原因】** ART EX フォームの登録上限数に達したので、フォームが登録できませんでした。 **【処置】** 不要なフォームを削除してください。フォームの登録上限数は、ハードディスクを装着している機種は 2048 で、ハードディスクを装着していない機種は 64 です。
116-718	**【原因】** 指定した ART EX 用フォームは登録されていません。 **【処置】** 登録されているフォームを使用するか、フォームを登録してください。フォームの登録状態は、［ART EX フォーム登録リスト］で確認できます。 **参照** • ART EX フォーム登録リスト
116-720	**【原因】** メモリーが不足したため、プリント処理時にエラーが起きました。 **【処置】** 不要なポートを停止したり、データを削除して、空き容量を増やしてください。
116-725	**【原因】** 本機のイメージログ格納領域が不足しているため、イメージログの書き込みに失敗しました。 **【処置】** もう一度ジョブを実行してください。それでも、同じエラーが発生する場合は、次のどちらかの方法で処置してください。 • 不要なイメージログを削除する • イメージログの［作成保証レベル］を［低］に変更する この場合作成されたイメージログの内容は保障されません。

エラーコード	原因 / 処置
116-737	【原因】 ART IV ユーザー定義メモリーが不足したため、ユーザー定義データが登録できません。 【処置】 不要なデータを削除するか、ART IV ユーザー定義メモリーの領域を増やしてください。
116-738	【原因】 指定した ART IV フォームのサイズと向きが、プリントする用紙と合っていません。 【処置】 用紙のサイズと向きを、指定した ART IV フォームに合わせて、もう一度プリントを指示してください。
116-739	【原因】 ART IV 用のメモリー、またはハードディスクの容量が不足して、フォーム、またはロゴデータが登録できません。 【処置】 不要なデータを削除するか、ART IV フォームメモリーの領域を増やしてください。
116-740	【原因】 プリントデータに本機の制限値を超える値が使用されているため、数値演算エラーが発生しました。 【処置】 プリントデータを確認してください。
116-741	【原因】 ART IV フォームの登録上限数に達したので、フォームが登録できませんでした。 【処置】 不要なフォームを削除してください。フォームの登録上限数は、ハードディスクを装着している機種は 2048 で、ハードディスクを装着していない機種は 64 です。
116-742	【原因】 ART IV ロゴデータの登録上限数に達したので、ロゴデータが登録できません。 【処置】 不要なロゴデータを削除してください。
116-743	【原因】 ART IV 用のメモリーが不足して、フォーム、またはロゴデータが登録できません。 【処置】 メモリーの領域を増やしてください。
116-745	【原因】 ART IV コマンドエラーが発生しました。 【処置】 プリントデータを確認してください。
116-746	【原因】 指定した ART IV 用フォームは登録されていません。 【処置】 登録されているフォームを使用するか、フォームを登録してください。フォームの登録状態は、［ART IV,ESC/P ユーザー定義リスト］で確認できます。
116-747	【原因】 HP-GL/2* の有効座標エリアに対して、ペーパーマージン値が多すぎます。 *: お使いの機種によっては、オプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 【処置】 ペーパーマージン値を少なくして、もう一度プリントを指示してください。
116-748	【原因】 HP-GL/2* のプリントデータに描画データがありません。 *: お使いの機種によっては、オプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 【処置】 プリントデータを確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
116-749	**【原因】** 指定されたフォントがないため、ジョブを中止しました。 **【処置】** フォントをインストールするか、プリンタードライバー側でフォント置き換えを設定してください。
116-750	**【原因】** バナーシートの給紙トレイに不具合があります。 **【処置】** バナーシートの給紙トレイを正常な状態にもどすか、バナーシートの給紙トレイを変更してください。
116-751	**【原因】** ハードディスクの容量がいっぱいで処理が中止されました。 **【処置】** 蓄積文書を削除してください。それでも状態が改善されないときは、ファイルを分割して処理してください。
116-752	**【原因】** PDF のプリントジョブチケットの記述内容に問題があります。 **【処置】** もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
116-771 116-772 116-773 116-774 116-775 116-776 116-777 116-778	**【原因】** データに含まれるパラメーターに問題があったため、自動修正しました。 **【処置】** プリントされた画像は完全ではない可能性があります。相手に画像の確認をするか、再送信を依頼してください。また、インターネットファクスの転送機能を設定している場合は、メールの宛先に確認してください。
116-780	**【原因】** 受信したメールの添付文書に問題があります。 **【処置】** 添付文書を確認してください。
116-790	**【原因】** 次の原因が考えられます。 1) ファクス親展受信またはインターネットファクス親展受信した 文書を印刷中に、オペレーターが中止した場合、先頭の 1 部をホチキス留めをしないで印刷した。 2) 1. 以外の場合 すべての部数をホチキス留めをしないで印刷した。 **【処置】** 1. については、先頭の 1 部は手動でホチキス留めにしてください。または、ファクス親展受信またはインターネットファクス親展受信した文書を印刷中に、中止しないようにしてください。 2. については、ホチキスの設定位置が正しいかを確認し、もう一度実行してください。

"117-001" - "117-999"

エラーコード	原因 / 処置
117-310	**【原因】** コンピューターから WSD を使って、スキャン操作中にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れ直したあとに、もう一度同じ操作を実施してください。 **補足** •「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。
117-312	**【原因】** 本機に異常が発生しました。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
117-319 117-320 117-321 117-323 117-324 117-326 117-329 117-331 117-332 117-333 117-347 117-350	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
117-334	**【原因】** ソフトウェア処理中にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
117-343	**【原因】** 次の原因が考えられます。 1)仕様設定の［イメージログ管理］が無効で、かつ［イメージログ転送］の［転送機能］が［使用する］の場合に、［転送動作］が［ジョブ単位で転送］に設定されている。 2)［イメージログ転送］が無効（ハードディスク未装着）の場合に、［転送機能］が［使用する］に設定されている。 **【処置】** 1. については、［転送動作］を［ジョブ単位で転送］以外に設定してください。 2. 本体にハードディスクを装着してください。または、［転送動作］を［一時停止］に設定してください。
117-345	**【原因】** 本機と接続機器の間でエラーが発生しました。 **【処置】** EP システムの関連機器を接続しないで本機を起動し、［仕様設定 / 登録］>［認証 / セキュリティ設定］>［認証の設定］で［認証方式の設定］を［外部認証］以外の設定にしてください。

エラーコード	原因 / 処置
117-348	**【原因】** 異なる機械で利用された未フォーマットのSDカードが本体に装着されました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
117-360	**【原因】** 日時設定の年の値が設定可能な範囲外です。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。電源再投入後、正しい値を設定してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"118-001" - "122-999"

エラーコード	原因 / 処置
118-310 121-310	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
118-311	**【原因】** ソフトウェア処理中にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
121-311	**【原因】** 本機と接続機器の間でエラーが発生しました。 **【処置】** IC Card Gate を接続している場合は、［仕様設定 / 登録］>［認証 / セキュリティ設定］>［認証の設定］>［パスワードの運用］>［パスワード使用 -IC カード認証時］>［する］に変更されます。必要に応じて、設定を変更してください。
121-312 121-313	**【原因】** 本機と接続機器の間でエラーが発生しました。 **【処置】** EP システムの関連機器を接続しないで本機を起動し、［仕様設定 / 登録］>［認証 / セキュリティ設定］>［認証の設定］で［認証方式の設定］を［外部認証］以外の設定にしてください。

エラーコード	原因 / 処置
121-314 121-316 121-317 121-318 121-319 121-322 121-323 121-324 121-340 121-350	**【原因】** 本機と接続機器の間でエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
121-325	**【原因】** 本機の起動時に、本機が許容できない組み合わせを検知したため、［IC カード接続時の認証］の設定を自動的に［IC カードのみ］に変更しました。このエラーは以下の条件がすべて満たされたときに発生します。 • USB接続のICカードリーダーとEP関連商品が併用されている • ［認証方式の設定］が［本体認証］に設定されている • ［IC カード接続時の認証］が［IC カードまたはパネル入力］に設定されている **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • IC カードとパネル入力の認証を併用しない。 ［IC カード接続時の認証］が自動的に［IC カードのみ］に変更されたので、そのままご利用になれます。特に処置は必要ありません。 • USB 接続の IC カードリーダーのみ本機に接続し、IC カードとパネル入力の認証を併用する。 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
121-326	**【原因】** 4G/3Gnet-BOX を使用した LTE/3G 通信で、回線の切断に失敗しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
121-327	**【原因】** 本機がサポートしていない商品が接続されたことを検知しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
121-339	**【原因】** 本機と接続機器の間でエラーが発生しました。 **【処置】** CoinKit の単価テーブルを確認してください。単価テーブルに未設定の単価ある場合は、単価設定を修正し、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"123-001" - "126-999"

エラーコード	原因 / 処置
123-310 123-311 123-312 123-325 123-326 123-333 123-343 123-344 123-350 123-352 123-353 123-354 123-355 123-356 123-357 123-358 123-362 123-368 123-369 123-371	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
123-374 123-377 123-379 123-380 123-381 123-382 123-383 123-384 123-389 123-390 123-392 123-393 123-395 123-396 123-397 123-398 123-399 124-310 124-311 124-312	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
124-313 124-314 124-315 124-316 124-317 124-318 124-319 124-320 124-321 124-322 124-323 124-324 124-325 124-327 124-329 124-330 124-331 124-332 124-333 124-334	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
124-335 124-336 124-337 124-338 124-339 124-340 124-341 124-342 124-343 124-345 124-346 124-347 124-348 124-349 124-350 124-351 124-352 124-353 124-354 124-355	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
124-360 124-361 124-362 124-363 124-367 124-372 124-373 124-374 124-380 124-381 124-382 124-383 124-390 124-391 124-392 124-393 125-311 124-344	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
124-326	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 画面の指示にしたがって情報を入力してください。
124-328	**【原因】** フィニッシャーのパンチユニットの設定が必要です。 **【処置】** 画面案内にしたがって、パンチユニットを選択してください。
124-364	**【原因】** 本機が自動的に再起動します。 **【処置】** 処置は必要ありません。
124-701	**【原因】** 指定した排出先（サイドトレイ）が故障しているため、排出先を変更しました。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。なお、故障している排出トレイ以外の排出トレイは使用できます。
124-702	**【原因】** 指定した排出先（フィニッシャートレイ）が故障しているため、排出先を変更しました。 **【処置】** 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。なお、故障している排出トレイ以外の排出トレイは使用できます。
124-705	**【原因】** パンチの設定を解除しました。 **【処置】** パンチの設定位置が正しいか確認し、もう一度実行してください。
124-706	**【原因】** 紙折りの設定を解除しました。 **【処置】** 紙折りの設定が正しいか確認し、もう一度実行してください。

エラーコード	原因 / 処置
124-708	【原因】 用紙の排出先が、指定したトレイとは別のトレイに排出されました。次の原因が考えられます。 1) 両面指定時に指定した用紙サイズと異なるサイズの用紙が送られた 2) フィニッシャーのパンチが故障した 【処置】 1. については、指定したサイズの用紙が用紙トレイにセットされているか確認してください。 2. については、操作パネルに、012-231、012-232、012-233、012-234 のどれかのエラーコードが表示されていることを確認して、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
124-709	【原因】 ホチキスで留められる枚数を超えています。 【処置】 ホチキスで留められる枚数を超えないようにするか、ホチキスの設定を解除し、もう一度実行してください。
124-710	【原因】 指定した排出先から排出できません。排出できない用紙サイズや紙質が指定されているか、排出先が故障しています。 【処置】 操作は必要ありません。自動で利用可能な排出先を選択して排出されます。正しい用紙サイズや紙質を指定しても、指定した排出先から排出されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

"127-001" - "132-999"

エラーコード	原因 / 処置
127-310 127-311 127-312 127-313 127-314 127-315 127-320 127-342 127-353 127-354 127-396 127-398	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

エラーコード	原因 / 処置
127-399	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。 改善されない場合は、いったん本機の電源を切り、〈スタート〉ボタンと〈ストップ〉ボタンを同時に押した状態で本機の電源を入れ、その状態を 6 秒間保持してください。エラー発生の要因となったプリントデータが自動的に削除されて起動します。 それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
127-700	【原因】 SIP レジストラーサーバーが利用できません。 【処置】 SIPレジストラーサーバーが利用可能な状態になっているか確認してください。また、本機の仕様設定で、［SIP レジストラサーバー］が正しく設定されているか確認してください。

"133-001" - "148-999"

エラーコード	原因 / 処置
133-213 133-214 133-215 133-216 133-217 133-218 133-219 133-220 133-221 133-222 133-280	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
133-226	【原因】 本機で対応していない国コードが指定されました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
133-700	【原因】 ホチキス / パンチの設定を解除しました。 【処置】 ホチキス / パンチの設定位置が正しいか確認し、もう一度実行してください。

エラーコード	原因 / 処置
133-701	**【原因】** 次の原因が考えられます。 1. 送信は正常に終了しましたが、宛先名、発信元名、コメントのいずれかに使用できない文字が含まれていたため、発信元記録、送信シートにおいて、文字を■に置き換えました。（ダイレクトファクスも含みます） 2. 送信または受信は正常に終了しましたが、自局名に使用できない文字が含まれていたため、文字を _ に置き換えました。 **【処置】** 1. については、宛先名、発信元名、コメントには本機で使用可能な文字を入力してください。 使用可能な文字の種類がわからない場合は、英数字のみに限定してください。 ダイレクトファクスや宛先表ツールでパソコンから宛先名を入力する場合は、JIS X 0208 で規定されている文字を入力するようにしてください。 2. については、全ての送受信が 133-701 で警告終了する場合は、自局名の設定を確認して下さい。 自局名には、本機操作パネルのキーボードで入力可能な文字（JIS X0201）のみが使用可能です。 **参照** •「操作パネルで表示できる漢字一覧
133-710	**【原因】** ファクスの受信文書をプリントするときに、使用できない用紙トレイが指定されたので、手差しトレイの用紙にプリントしました。 **【処置】** 次のどれかの方法で処置してください。 • ファクスの受信プリントに使用できるサイズの用紙をセットする A3（よこ置き）、A4（たて置き）、B4（よこ置き）、B5（たて置き）、A4（よこ置き）、A5（よこ置き）、B5（よこ置き）、8.5 ×11”（よこ置き）、8.5 × 13”（よこ置き）、8.5 × 14”（よこ置き）、11 × 17”（よこ置き）、8.5× 11”（たて置き）、5.5 × 8.5”（よこ置き）、が使用可能です。 • ファクスの受信プリントに使用できる紙質の用紙をセットする 普通紙、上質紙、再生紙、裏紙、ユーザー用紙が使用可能です。 • ［仕様設定］>［ファクス設定］>［ファクス動作制御］>［受信紙宣言］の設定を確認する • ［受信紙宣言］>［トレイモード］の用紙トレイに、ファクスの受信プリントに使用する用紙トレイを追加する • ［トレイモード］で指定した用紙トレイで受信ファクスのプリントができるように用紙をセットする それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

その他のエラーについて

次のようなメッセージが表示された場合の処置について説明します。

エラーメッセージ	原因 / 処置
故障が発生しました。電源を切り入りしてください。(xxx-yyy)	**【原因】** エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。 ふたたび同じメッセージが表示された場合は、「(xxx-yyy)」の表示内容を書き写してください。そのあと、本機の電源および主電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
異常終了しました。(xxx-yyy)	**【原因】** エラーが発生して異常終了しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を指示してください。
機械内部に異常が発生したため、自動的に再起動しました。[閉じる]を押してください。なおらないときは、カストマーコンタクトセンターに故障を連絡してください。(xxx-yyy)	**【原因】** 機械内部で自動復帰可能なエラーが発生し、自動で再立ち上げをしました。 **【処置】** [閉じる]を押すと、その後は正常に使用できます。ふたたび同じエラーが発生した場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。

用紙が詰まった場合

用紙が詰まると、機械が停止してアラームが鳴ります。また、ディスプレイには、メッセージが表示されます。表示されているメッセージに従って、詰まっている用紙を取り除いてください。

用紙は破れないように、ゆっくり取り除いてください。取り出す途中で紙が破れたときも紙片を機械の中に残さないで、すべて取り除いてください。

処置を終了しても紙づまりのメッセージが表示されるときは、ほかの箇所でも用紙が詰まっています。メッセージに従って処置してください。

紙づまりの処置が終了すると、自動的に用紙が詰まる前の状態からプリントが再開されます。

コピーの途中の場合は〈スタート〉ボタンを押すと、用紙が詰まる前の状態からコピーが再開されます。

> ⚠警告
>
> トレイを引き抜いて紙詰まり処理を行う場合には、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。お客様自身で行うと思わぬケガをするおそれがあります。

> ⚠注意
>
> 機械内部に詰まった用紙や紙片は無理に取り除かないでください。
>
> 特に、定着部やローラー部に用紙が巻き付いているときは無理に取らないでください。ケガややけどの原因となるおそれがあります。ただちに電源スイッチを切り、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

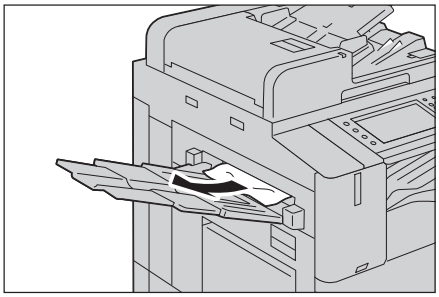
注記

- 紙づまりが発生したとき、紙づまり位置を確認しないで用紙トレイを引き出すと、用紙が破れて機械の中に紙片が残ってしまうことがあります。故障の原因になるので、紙づまりの位置を確認してから、処置をしてください。
- 紙片が本機内に残っていると、紙づまりの表示は消えません。
- 紙づまりの処置をするときは、本機の電源を入れたままの状態にしておいてください。電源を切ると、本機のメモリー上に蓄えられた情報が消去されます。
- 本機内部の部品には触れないでください。印字不良の原因になります。

サイドトレイでの紙づまり

サイドトレイ（オプション）で発生した紙づまりの処置について説明します。

1 詰まっている用紙を取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

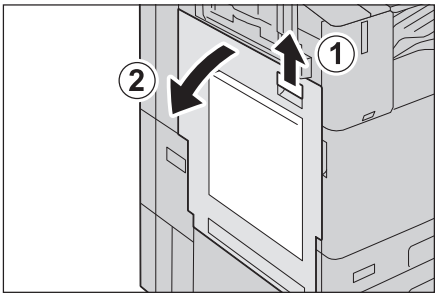
本体の左側面上部カバー［A］での紙づまり

本体の左側面上部のカバー内で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

注記
- 用紙を取り除くとき、左側面上部のカバーの内部にある本体側の転写ベルト（黒いフィルム状のベルト）に画像が付いていることがあります。この転写ベルトには、触れないでください。画質に影響をおよぼしたり、転写ベルトが損傷して交換が必要になることがあります。

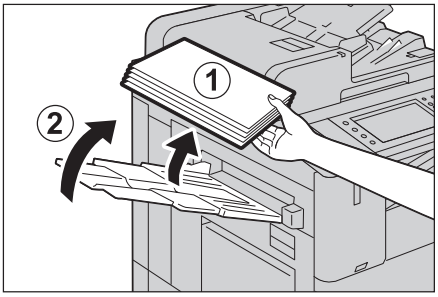
定着部（定着装置）での紙づまり

1 リリースレバーを上げながら（①）、左側面上部のカバーをゆっくりと開きます（②）。

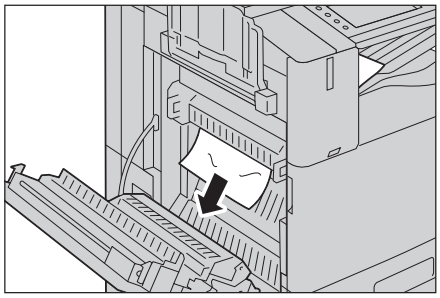


■サイドトレイ（オプション）装着時

サイドトレイの用紙を取り除いて（①）サイドトレイを閉じてから（②）、左側面上部のカバーを開いてください。

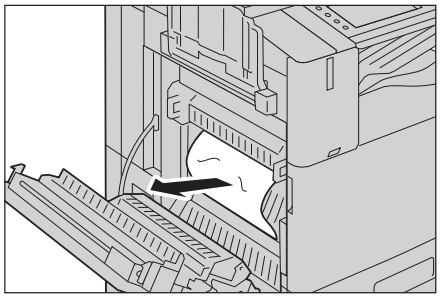


2 詰まっている用紙の先端が排出トレイの方向に出ているときは、矢印の方向にまっすぐに引いて用紙を取り除きます。



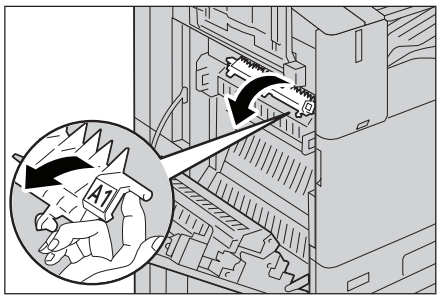
補足
- 転写ローラーにトナーが付着している場合がありますが、画質には影響ありません。

3 詰まっている用紙を取り除きます。

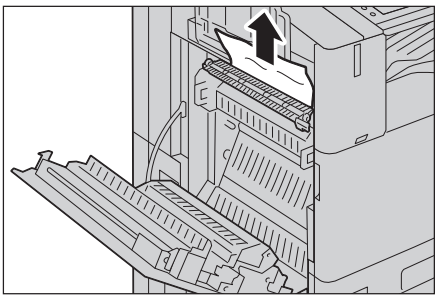


補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

4 定着部（定着装置）に用紙が詰まっているときは、レバー［A1］を矢印の方向に倒して、定着部のシュートを開きます。



5 詰まっている用紙を取り除きます。



注記
- 定着部は高温になっています。やけどの原因となるおそれがあります。触れないように注意してください。

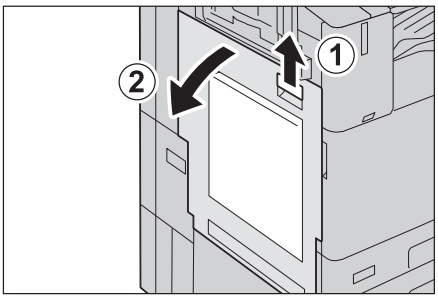
補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

6 レバー［A1］を戻して定着部のシュートを閉じます。

7 左側面上部のカバーの中央部を押して、カバーをゆっくりと閉じます。

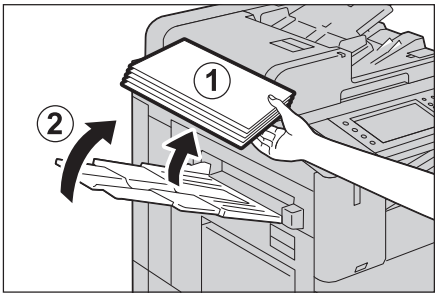
センタートレイ排出口での紙づまり

1 リリースレバーを上げながら（①）、左側面上部のカバーをゆっくりと開きます（②）。

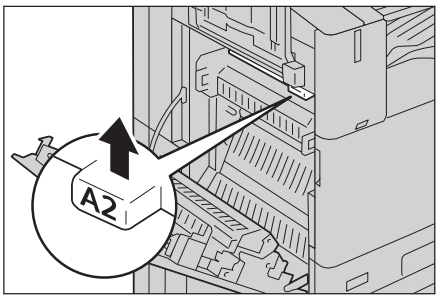


■サイドトレイ（オプション）装着時

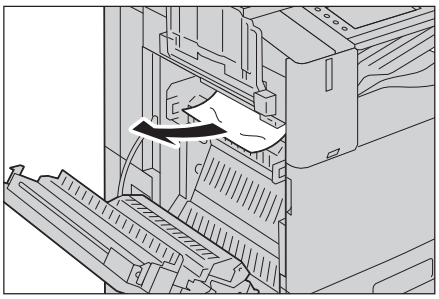
サイドトレイの用紙を取り除いて（①）サイドトレイを閉じてから（②）、左側面上部のカバーを開いてください。



2 レバー［A2］を矢印の方向に動かします。



3 レバー［A2］を支えながら、詰まっている用紙を取り除きます。



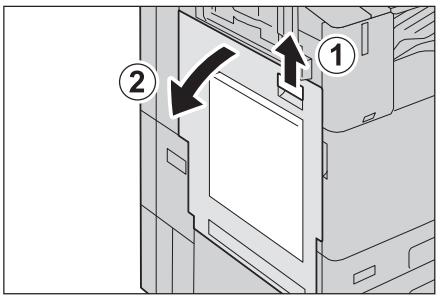
補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

4 レバー［A2］を元に戻します。

5 左側面上部のカバーの中央部を押して、カバーをゆっくりと閉じます。

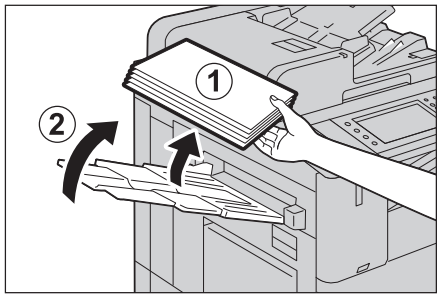
両面ユニットでの紙づまり

1 リリースレバーを上げながら（①）、左側面上部のカバーをゆっくりと開きます（②）。

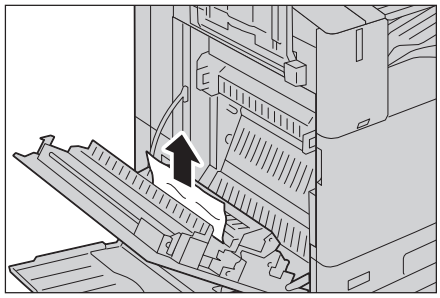


■サイドトレイ（オプション）装着時

サイドトレイの用紙を取り除いて（①）サイドトレイを閉じてから（②）、左側面上部のカバーを開いてください。



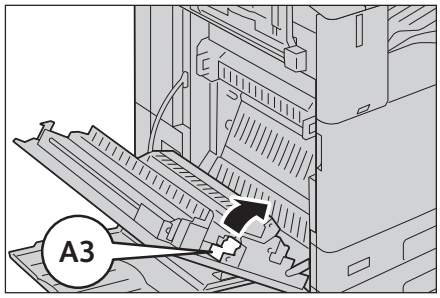
2 詰まっている用紙を取り除きます。



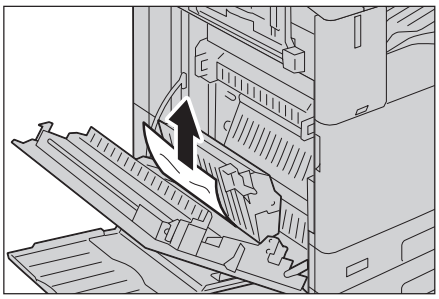
補足

- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 用紙が見つからない場合は、レバー［A3］を矢印の方向に倒して、両面ユニットを開きます。



4 レバー［A3］を支えながら、詰まっている用紙を取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

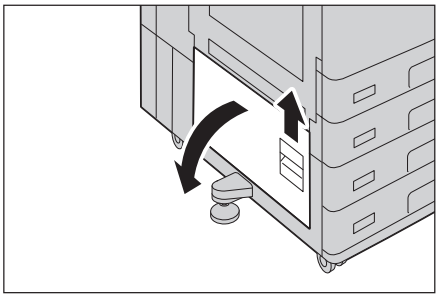
5 レバー［A3］を戻して両面ユニットを閉じます。

6 左側面上部のカバーの中央部を押して、カバーをゆっくりと閉じます。

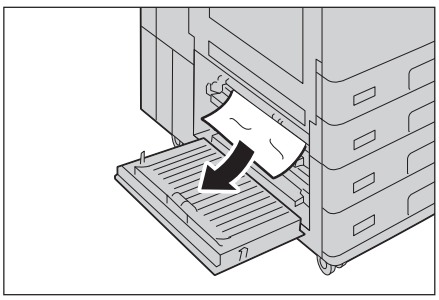
本体の左側面下部カバー［B］での紙づまり

本体の左側面下部のカバー内で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

1 リリースレバーを上げながら、左側面下部のカバーをゆっくりと開きます。



2 詰まっている用紙を取り除きます。



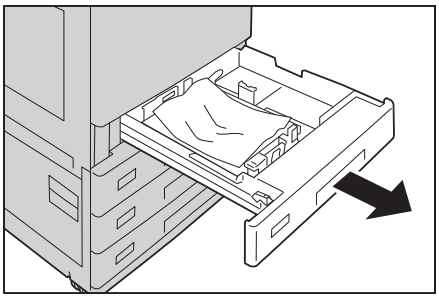
補足
- 上部の見えにくい所に用紙が詰まっている場合があります。よく確認してください。
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 左側面下部のカバーをゆっくりと閉じます。

用紙トレイ 1 ～ 4 での紙づまり

用紙トレイ 1 ～ 4 で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

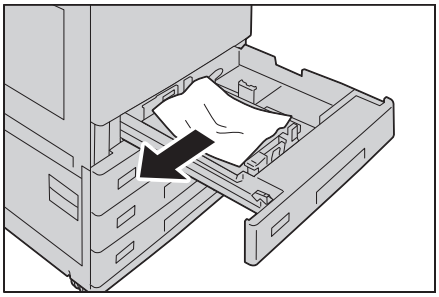
1 用紙が詰まっている用紙トレイを引き出します。



注記

- 紙づまりの位置を確認しないで用紙トレイを引き出すと、用紙が破れて機械の中に紙片が残ってしまうことがあります。故障の原因になるので、ディスプレイで紙づまりの位置を確認してから処置をしてください。

2 詰まっている用紙を取り除きます。



補足

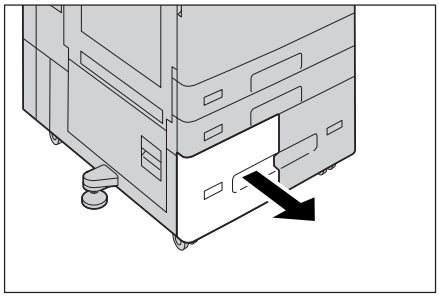
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

タンデムトレイモジュール内での紙づまり

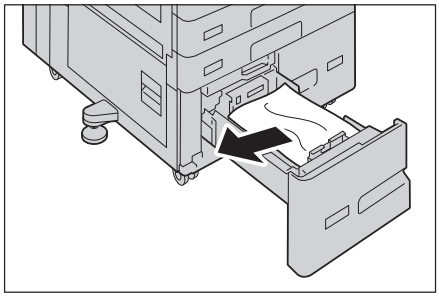
タンデムトレイモジュール内で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

1 用紙トレイ 3 に用紙が詰まっている場合は、用紙トレイ 3 を引き出します。



注記
- 紙づまりの位置を確認しないで用紙トレイを引き出すと、用紙が破れて機械の中に紙片が残ってしまうことがあります。故障の原因になるので、ディスプレイで紙づまりの位置を確認してから処置をしてください。

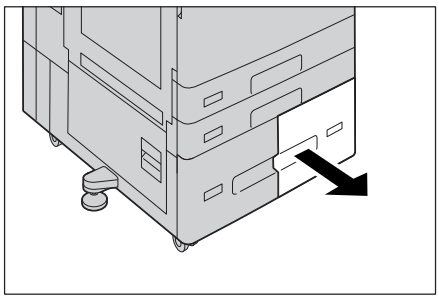
2 詰まっている用紙を取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

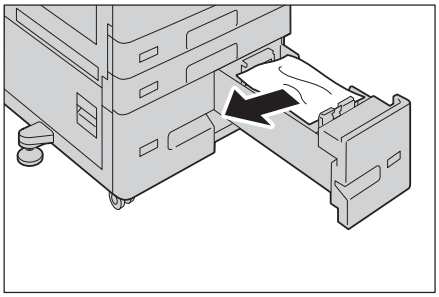
3 用紙トレイ 3 を奥に突き当たるところまでゆっくりと押し込みます。

4 用紙トレイ 4 に用紙が詰まっている場合は、用紙トレイ 4 を引き出します。



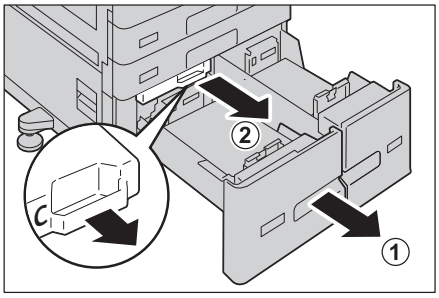
注記
- 紙づまりの位置を確認しないで用紙トレイを引き出すと、用紙が破れて機械の中に紙片が残ってしまうことがあります。故障の原因になるので、ディスプレイで紙づまりの位置を確認してから処置をしてください。

5 詰まっている用紙を取り除きます。

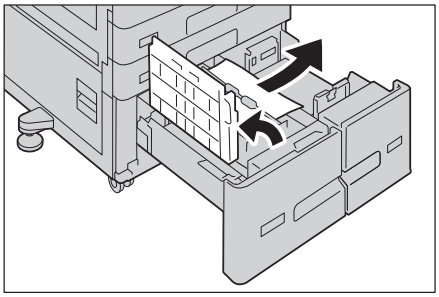


補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

6 用紙搬送部に用紙が詰まっている場合は、用紙トレイ 3 を引き出してから、[C] を引き出します。



7 中のカバーを開けて用紙を取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

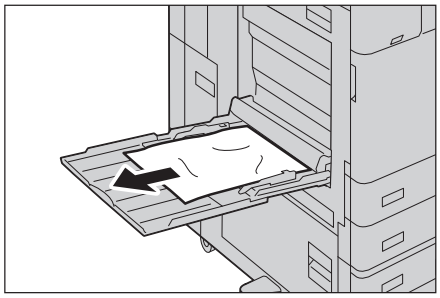
8 カバーを閉じて、用紙トレイ 3 を奥に突き当たるところまでゆっくりと押し込みます。

9 用紙トレイ 4 を奥に突き当たるところまでゆっくりと押し込みます。

用紙トレイ 5（手差し）での紙づまり

用紙トレイ 5（手差し）で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

1 用紙トレイ 5（手差し）の奥（用紙の差し込み口付近）を点検し、詰まっている用紙を取り除きます。

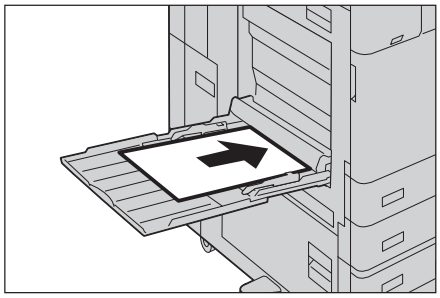


注記
- 用紙を複数枚セットしていたときは、いったんすべての用紙を取り出してください。

補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

2 用紙を複数枚セットしていた場合、取り出しておいた用紙の四隅をそろえます。

3 プリントしたい面を下にして、用紙先端を差し込み口に軽く突き当たるまで入れます。



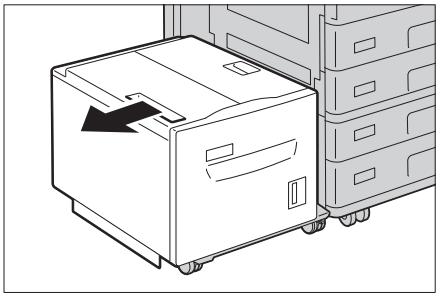
用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））での紙づまり

用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））（オプション）で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

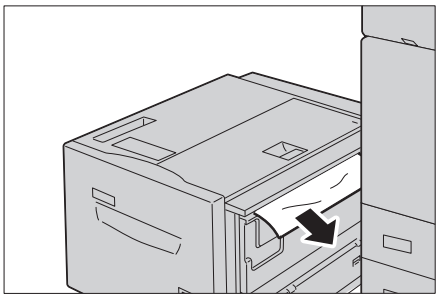
補足
- 用紙が詰まる箇所によって処置方法が異なります。表示されたメッセージに従って、詰まっている用紙を取り除いてください。

排出口で詰まった場合

1 用紙トレイ 6 の上部左側にある取っ手を持って、左方向へ止まるまでゆっくりと移動します。



2 詰まっている用紙を取り除きます。



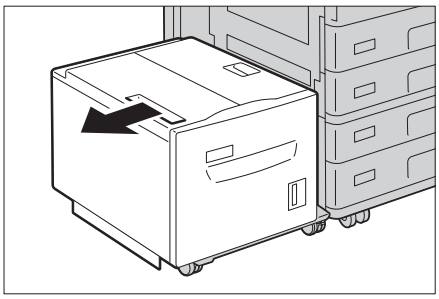
補足

- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

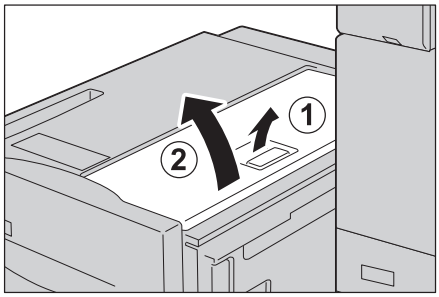
3 用紙トレイ 6 をゆっくりと元に戻します。

上部カバー内で詰まった場合

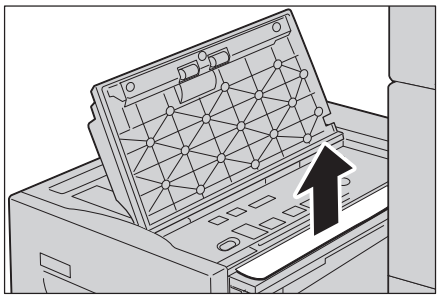
1 用紙トレイ 6 の上部左側にある取っ手を持って、左方向へ止まるまでゆっくりと移動します。



2 用紙トレイ 6 の上部カバーを開けます。



3 詰まっている用紙を取り除きます。



補足

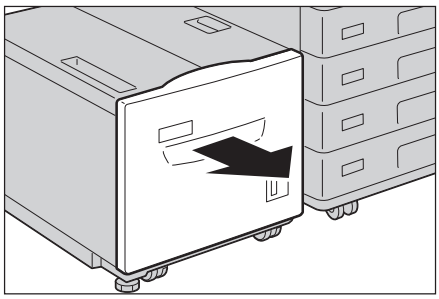
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

4 用紙トレイ 6 の上部カバーを閉じます。

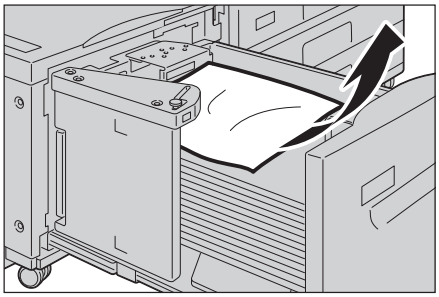
5 用紙トレイ 6 をゆっくりと元に戻します。

用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））内で詰まった場合

1 用紙トレイ 6 を、手前に止まるところまで引き出します。



2 詰まっている用紙を取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

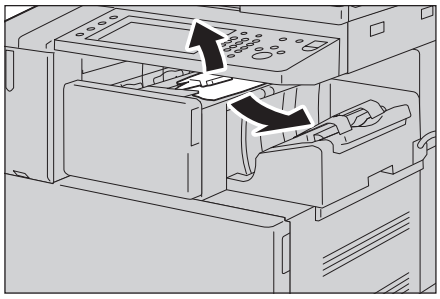
3 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

フィニッシャー A2 での紙づまり

フィニッシャー A2（オプション）を装着している場合に、フィニッシャー内部で発生した紙づまりの処置について説明します。

フィニッシャーの上面カバーでの紙づまり

1 フィニッシャーの上面カバーを開け、詰まっている用紙を取り除きます。

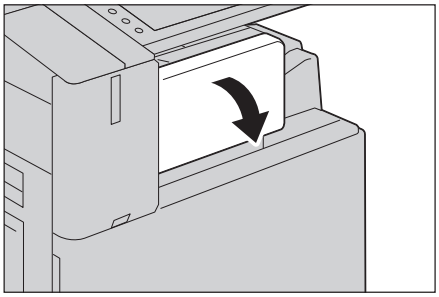


補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

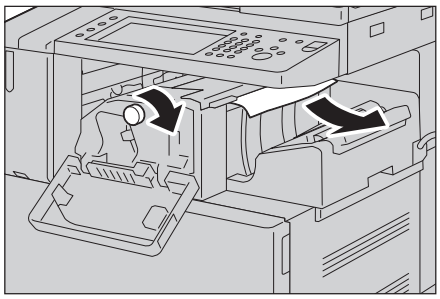
2 上面カバーを閉じます。

フィニッシャー接続部での紙づまり

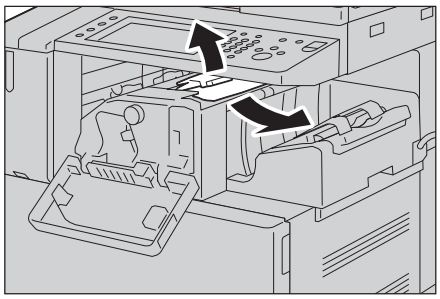
1 フィニッシャーの正面カバーをゆっくりと開けます。



2 ノブを回して、詰まっている用紙をフィニッシャートレイ側に送ります。



3 フィニッシャーの上面カバーを開け、用紙を取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

4 上面カバーを閉じます。

5 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

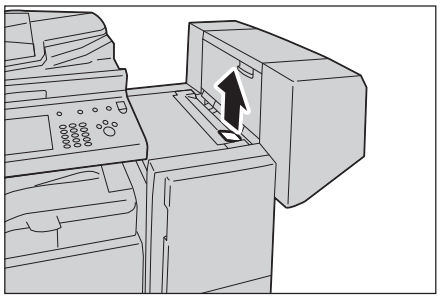
補足
- フィニッシャーの正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

フィニッシャー B1 での紙づまり

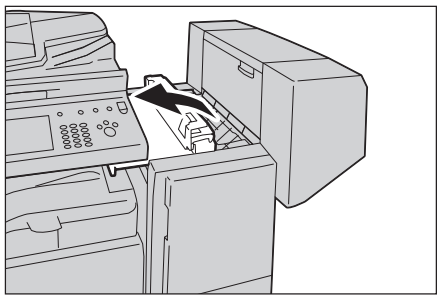
フィニッシャー B1（オプション）を装着している場合に、フィニッシャー内部で発生した紙づまりの処置について説明します。

フィニッシャー上面カバーでの紙づまり

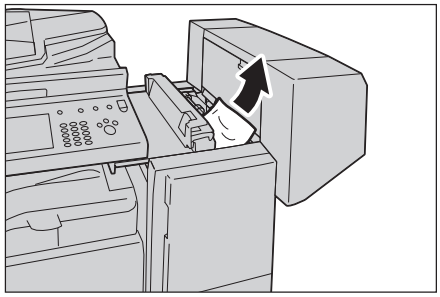
1 フィニッシャーの上面カバーにあるレバーを押し上げます。



2 フィニッシャーの上面カバーが開きます。



3 詰まっている用紙を取り除きます。

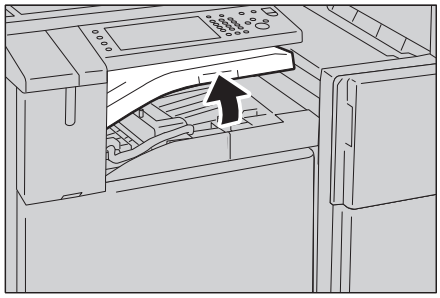


補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

4 フィニッシャーの上面カバーを閉じます。

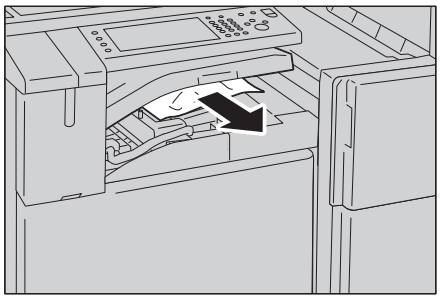
センター部の紙づまり

1 上面カバーを上に持ち上げ、開きます。



補足
- 上面カバーは外れません。

2 詰まっている用紙を取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 上面カバーを閉じます。

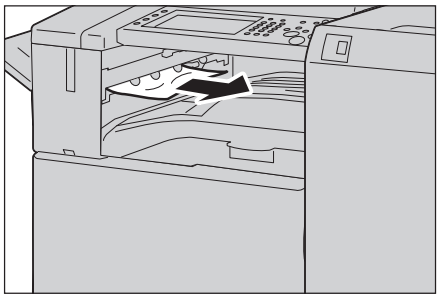
フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 での紙づまり

オプションのフィニッシャー C3、または中とじフィニッシャー C3 を装着している場合に、フィニッシャー内部で発生した紙づまりの処置について説明します。

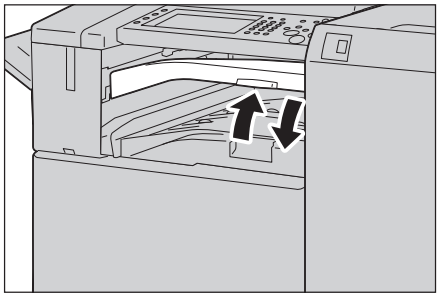
補足
- 用紙が詰まる箇所によって処置方法が異なります。ディスプレイに表示されたメッセージに従って、詰まっている用紙を取り除いてください。

センタートレイでの紙づまり

1 センタートレイの排出口に用紙があれば、右方向に用紙をゆっくり引き抜いて、取り除きます。

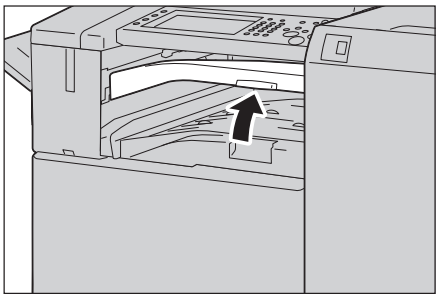


2 フィニッシャー接続部の上面カバーを、1 度開けてから閉じます。

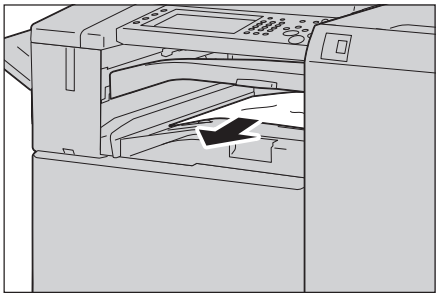


フィニッシャー接続部での紙づまり

1 フィニッシャー接続部の上面カバーを開けます。



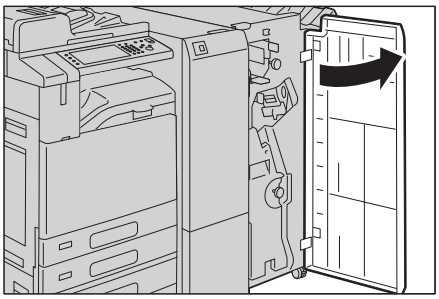
2 用紙があれば取り除きます。



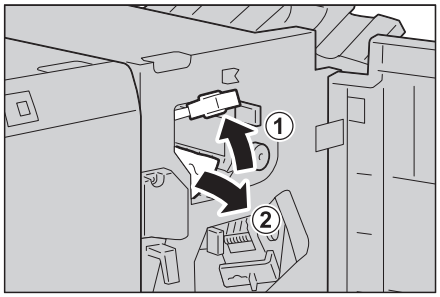
3 フィニッシャー接続部の上面カバーを閉じます。

レバー「3a」での紙づまり

1 フィニッシャーの正面カバーを開けます。



2 レバー「3a」を上方向に開いて（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

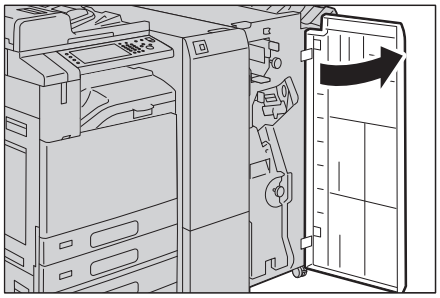
3 レバー「3a」を元に戻します。

4 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

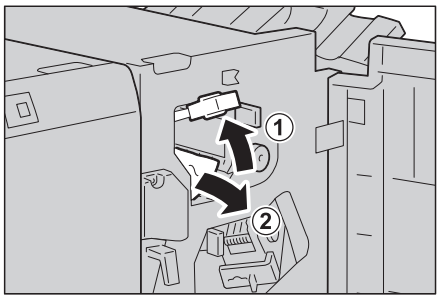
補足
- フィニッシャーの正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー「3a」での紙づまり（ノブ「3b」を使う場合）

1 フィニッシャーの正面カバーを開けます。

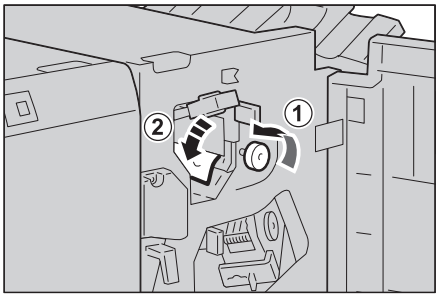


2 レバー「3a」を上方向に開いて（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。

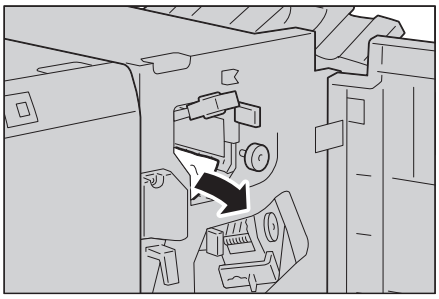


補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 ノブ「3b」を左方向に回して（①）、詰まっている用紙を送り出します（②）。



4 用紙をゆっくり引き抜き、取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

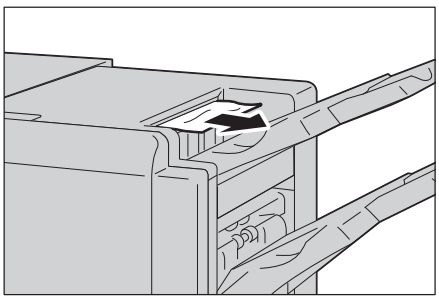
5 レバー「3a」を元に戻します。

6 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

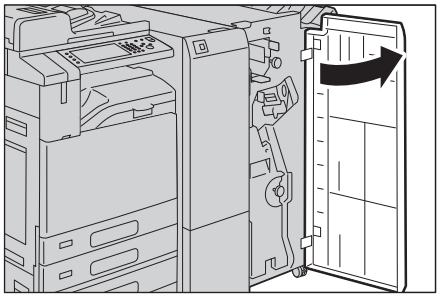
補足
- フィニッシャーの正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー「3c」での紙づまり

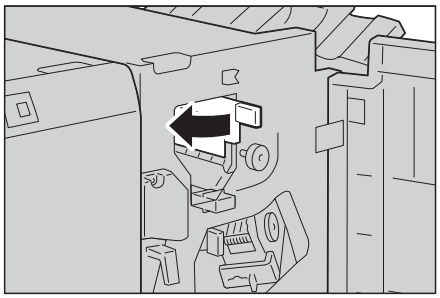
1 排出トレイの排出口から用紙が出ている場合は、用紙をゆっくり引き抜いて、取り除きます。取り除けない場合、または排出口から用紙が出ていない場合は、手順 2 に進みます。



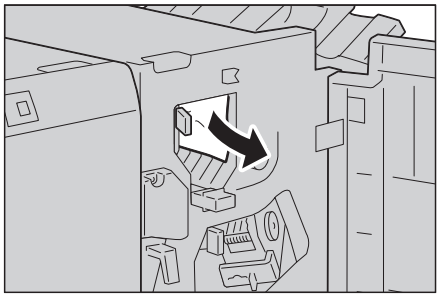
2 フィニッシャーの正面カバーを開けます。



3 レバー「3c」を左方向に開きます。



4 詰まっている用紙を取り除きます。



補足

- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

5 レバー「3c」を元に戻します。

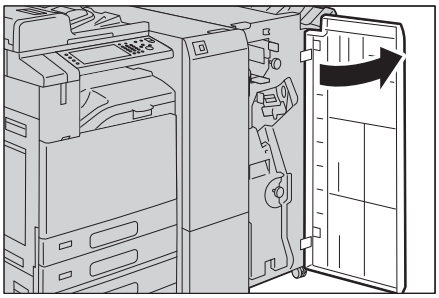
6 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

補足

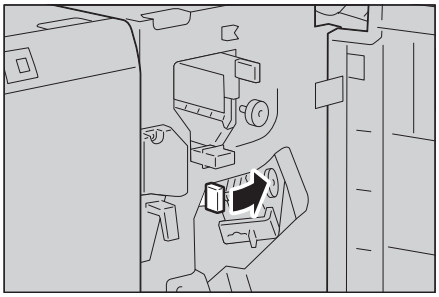
- フィニッシャーの正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー「3d」での紙づまり

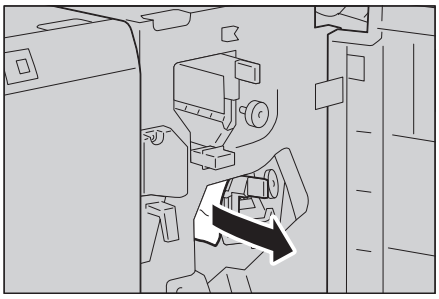
1 フィニッシャーの正面カバーを開けます。



2 レバー「3d」を右方向に開きます。



3 詰まっている用紙を取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

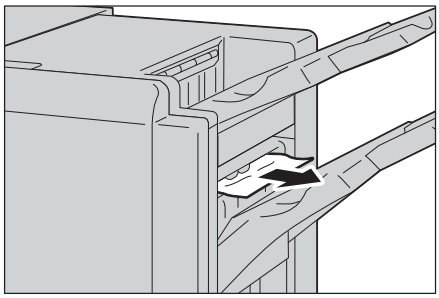
4 レバー「3d」を元に戻します。

5 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

補足
- フィニッシャーの正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー「3d」での紙づまり（排出口から用紙が出ている場合）

1 詰まっている用紙を、右方向にゆっくり引き抜いて、取り除きます。

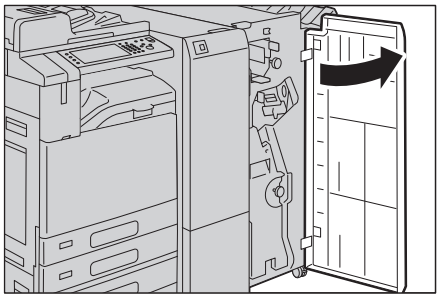


補足

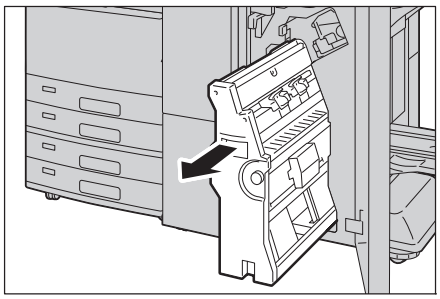
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

中とじユニット「4」での紙づまり（中とじフィニッシャー C3 のみ）

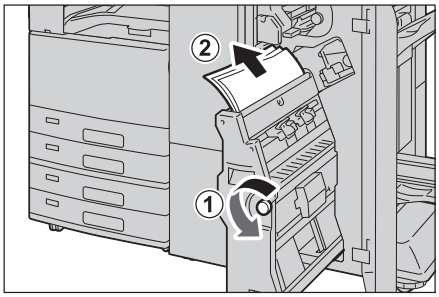
1 フィニッシャーの正面カバーを開けます。



2 中とじユニット「4」を引き出します。



3 ノブ「4a」を左方向に回して（①）、すべての用紙を取り除きます（②）。



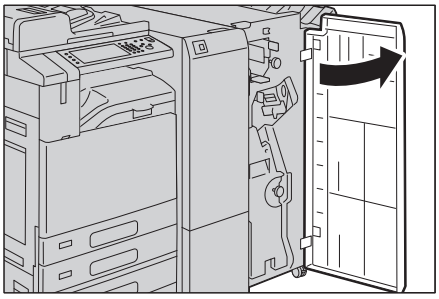
4 中とじユニット「4」を元に戻します。

5 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

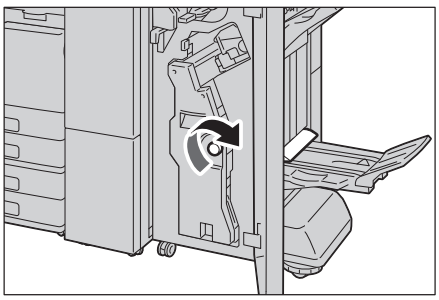
補足
- フィニッシャーの正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

製本トレイ「4a」での紙づまり（中とじフィニッシャー C3 のみ）

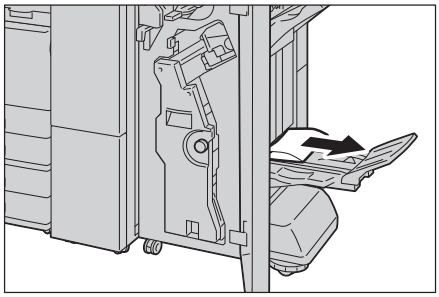
1 フィニッシャーの正面カバーを開けます。



2 ノブ「4a」を右方向に回して、用紙を製本トレイに送り出します。



3 用紙を取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

4 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

補足
- フィニッシャーの正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

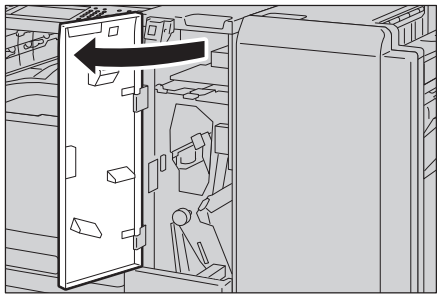
紙折りユニット CD1 での紙づまり

オプションの紙折りユニット CD1 を装着している場合に、紙折りユニットの内部で発生した紙づまりの処置について説明します。

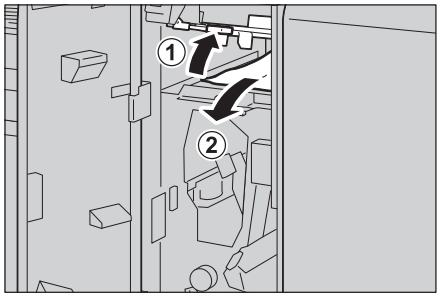
補足
- 用紙が詰まる箇所によって処置方法が異なります。ディスプレイに表示されたメッセージに従って、詰まっている用紙を取り除いてください。

レバー「2a」での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、紙折りユニット CD1 のカバーを開けます。

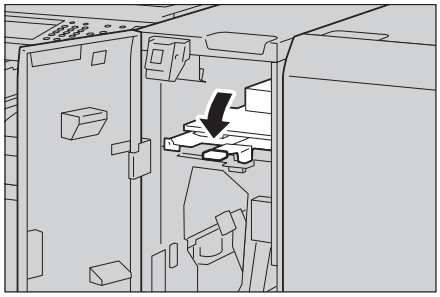


2 レバー「2a」を上方向に開いて（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー「2a」を戻します。

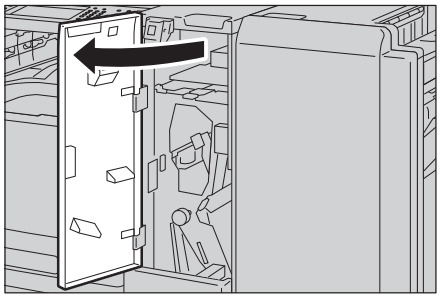


4 紙折りユニット CD1 のカバーを閉じます。

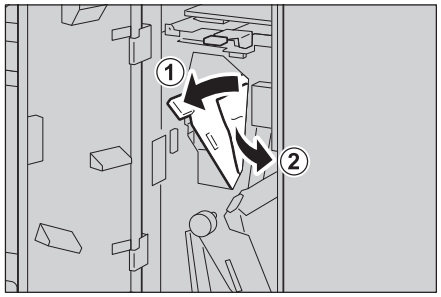
補足
- 紙折りユニット CD1 のカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー「2b」での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、紙折りユニット CD1 のカバーを開けます。



2 レバー「2b」を左方向に開いて（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー「2b」を戻します。

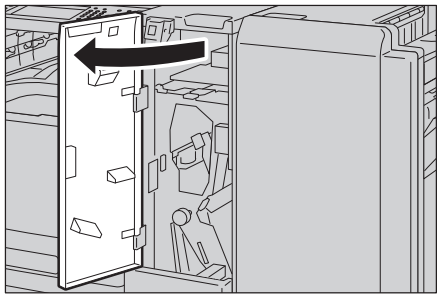


4 紙折りユニット CD1 のカバーを閉じます。

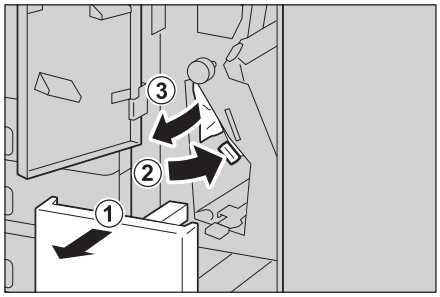
補足
- 紙折りユニット CD1 のカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

ノブ「2c」、レバー「2e」/「2f」、三つ折り排出トレイ「2d」での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、紙折りユニット CD1 のカバーを開けます。

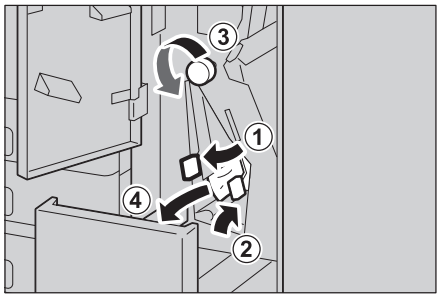


2 三つ折り排出トレイ「2d」を引き出し（①）、レバー「2e」を右方向に開き（②）、詰まっている用紙を取り除きます（③）。



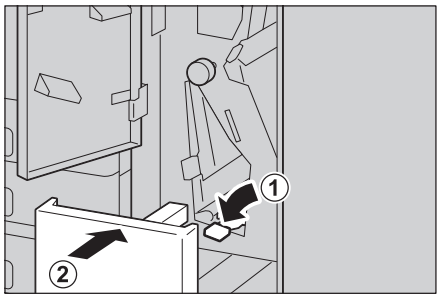
補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 手順 2 で用紙が取り除けない場合は、レバー「2e」を戻してから（①）、レバー「2f」を開き（②）、ノブ「2c」を左方向に回し（③）、詰まっている用紙を取り除きます（④）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

4 開いたレバー（「2f」または「2e」）を元の位置に戻し（①）、三つ折り排出トレイ「2d」を戻します（②）。

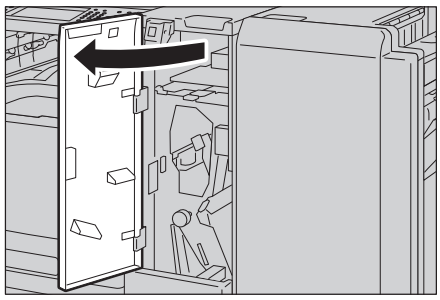


5 紙折りユニット CD1 のカバーを閉じます。

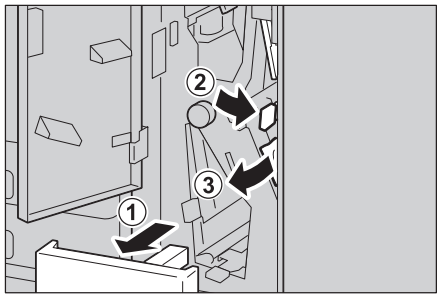
補足
- 紙折りユニット CD1 のカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

三つ折り排出トレイ「2d」、レバー「2g」での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、紙折りユニット CD1 のカバーを開けます。

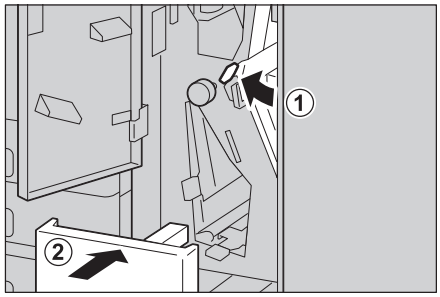


2 三つ折り排出トレイ「2d」を引き出し（①）、レバー「2g」を右方向に開き（②）、詰まっている用紙を取り除きます（③）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー「2g」を戻し（①）、三つ折り排出トレイ「2d」を戻します（②）。



4 紙折りユニット CD1 のカバーを閉じます。

補足
- 紙折りユニット CD1 のカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

原稿が詰まった場合

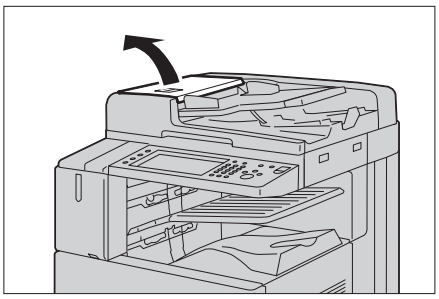
原稿送り装置に原稿が詰まると、機械が停止し、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。メッセージに従って、原稿づまりの処置をしたあと原稿送り装置に原稿をセットし直します。

補足

- 自動両面原稿送り装置は、次の 2 種類あります。種類に応じた処置をしてください。
  - 自動両面原稿送り装置　B1-PC（オプション）
  - 自動両面原稿送り装置　C1-PC

自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）

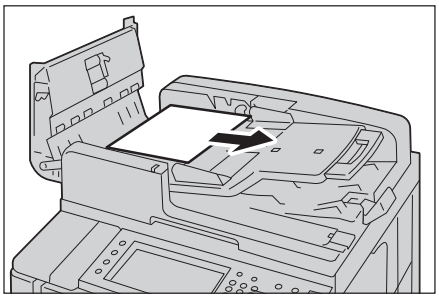
1 原稿送り装置の左側カバー手前の取っ手を引き上げて、左側カバーを止まるところまで開けます。



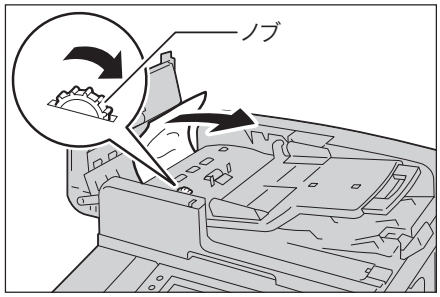
補足

- カバーを十分に開くと、固定される位置があります。カバーは、ゆっくりと開けてください。

2 原稿が引き込み部にはさまっていない場合は、そのまま原稿を取り除きます。



3 メッセージにノブを回す指示がある場合は、ノブを回して、上側に原稿を送り出して取り除きます。

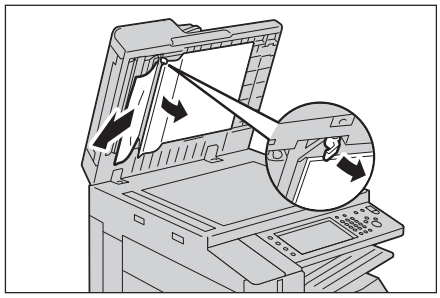


注記

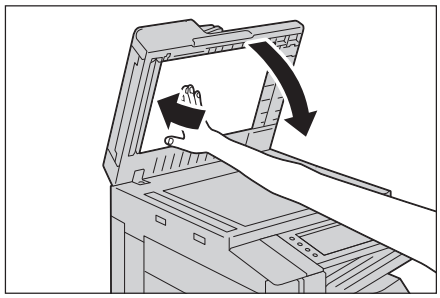
- 原稿がはさまっている場合は、直接引き抜かないでください。原稿が破損するおそれがあります。

4 原稿送り装置の左側カバーを「カチッ」と音がするまで閉じ、カバーの手前や奥に浮きが無いことを確認します。

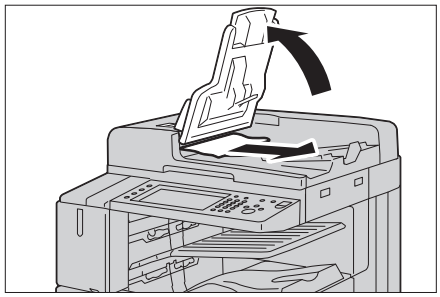
5 原稿が見つからない場合は、原稿送り装置を静かに持ち上げて、原稿の裏面読み取り部を開け、原稿があれば取り出します。



6 原稿の裏面読み取り部を閉じてから、原稿送り装置を静かに閉じます。



7 手順 5 で、原稿が見つからない場合は、原稿送りトレイを持ち上げて、原稿を取り除きます。



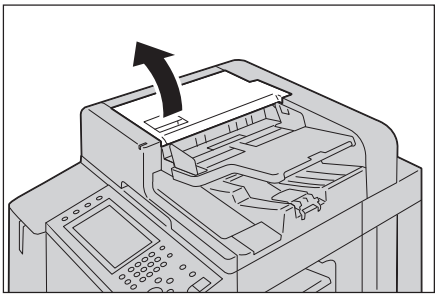
8 原稿送りトレイを静かに戻します。

9 原稿に破れ、しわ、折れがないことを確認し、ディスプレイに表示されているメッセージに従って、原稿をもう一度セットします。

補足
- 詰まっている原稿を取り除いたあとは、排出された原稿も含めて、すべての原稿をセットし直してください。読み込み済みの原稿は、自動的にスキップして読み込み前の原稿から読み込みを開始します。
- 原稿に破れ、しわ、折れがあると、原稿づまりや原稿破損の原因になります。このような場合は原稿を原稿ガラスに直接セットしてください。

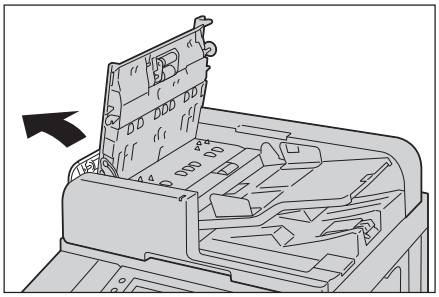
自動両面原稿送り装置 C1-PC

1 原稿送り装置の上面カバー手前の取っ手を引き上げて、上面カバーを止まるところまで開けます。

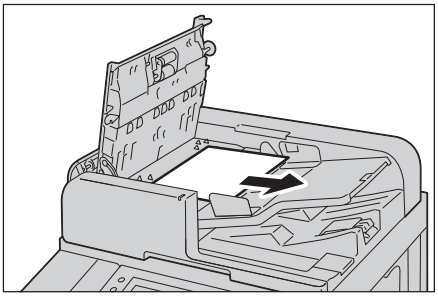


補足
- カバーを十分に開くと、固定される位置があります。カバーは、ゆっくり開けてください。

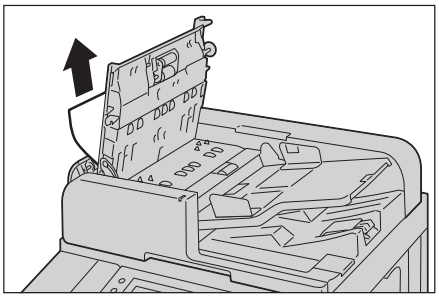
2 左側カバーを止まるところまで開きます。



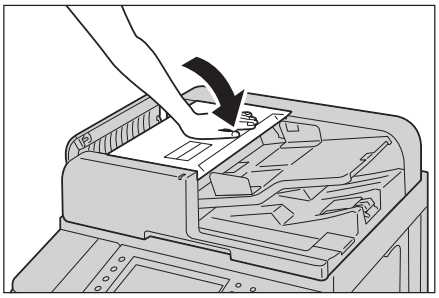
3 原稿が引き込み部にはさまっていない場合は、そのまま原稿を取り除きます。



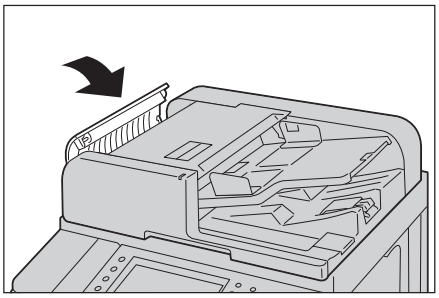
4 メッセージ上で左側カバー内に原稿が詰まっていると指示がある場合は、左側カバーから詰まっている原稿を取り除きます。



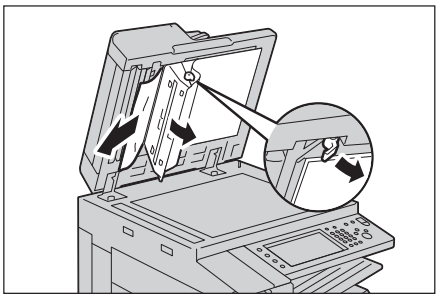
5 原稿送り装置の上面カバーを「カチッ」と音がするまで閉じ、カバーの手前や奥に浮きが無いことを確認します。



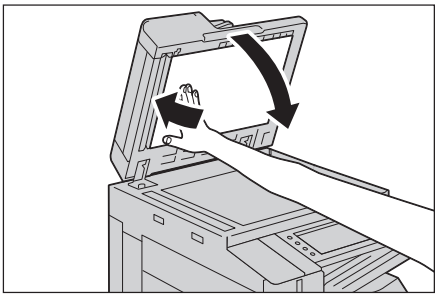
6 左側カバーを「カチッ」と音がするまで閉じます。



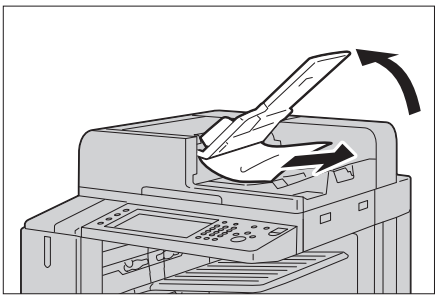
7 原稿が見つからない場合は、原稿送り装置を静かに持ち上げて、原稿の裏面読み取り部を開け、原稿があれば取り出します。



8 原稿の裏面読み取り部を閉じてから、原稿送り装置を静かに閉じます。



9 手順 7 で、原稿が見つからない場合は、原稿送りトレイを持ち上げて、原稿を取り除きます。



10 原稿送りトレイを静かに戻します。

11 原稿に、破れ、しわ、折れがないことを確認し、ディスプレイに表示されているメッセージに従って、原稿をもう一度セットします。

補足

- 詰まっている原稿を取り除いたあとは、排出された原稿も含めて、すべての原稿をセットし直してください。読み込み済みの原稿は、自動的にスキップして読み込み前の原稿から読み込みを開始します。
- 原稿に破れ、しわ、折れがあると、原稿づまりや原稿破損の原因になります。このような場合は原稿を原稿ガラスに直接セットしてください。

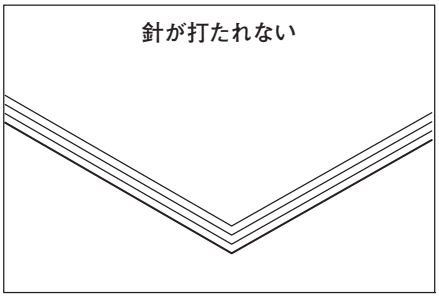
ホチキスがうまく留められないとき

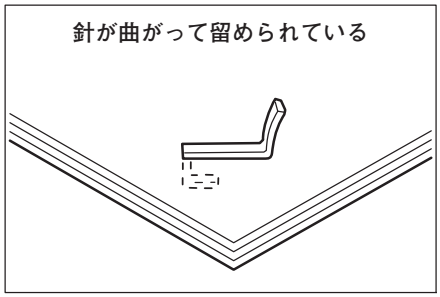
フィニッシャー（オプション）が装着されている場合に、ホチキスがうまく留められないときの対処方法を説明します。

ホチキス針が打たれなかったり、針が曲がって留められているときは、次ページの手順に従って対処してください。対処しても正常に戻らないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

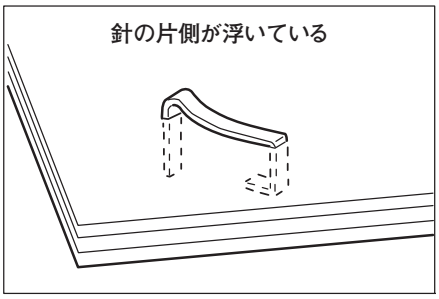
注記

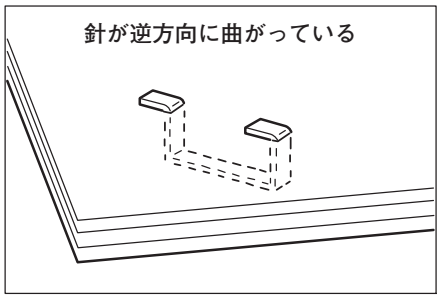
- ホチキスが正しく留まっていても、排出された用紙の取り扱い方によっては、針の先端が用紙から離れることがあります。

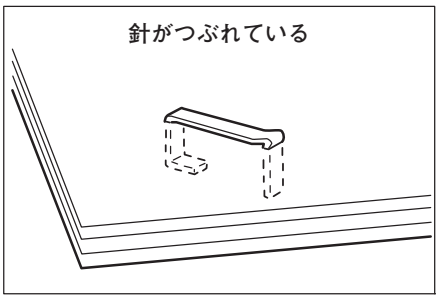


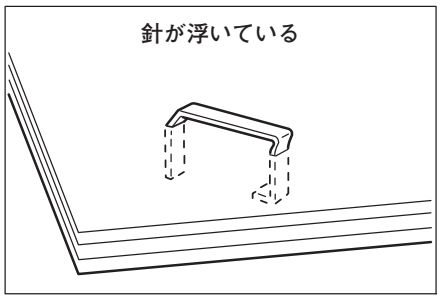


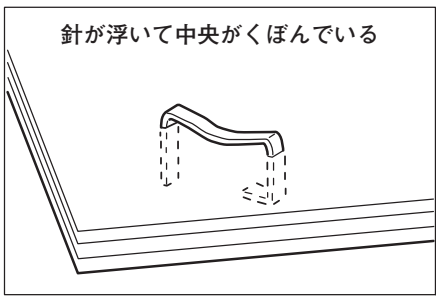
下図のように針が打たれているときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。







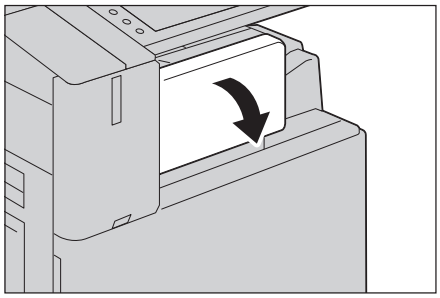




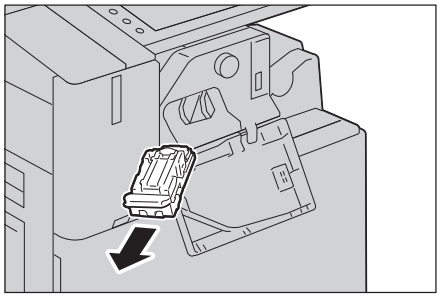
ホチキスカートリッジの針づまり（フィニッシャー A2 の場合）

フィニッシャー A2（オプション）を装着している場合の、ホチキスカートリッジの針づまり処置について説明します。

1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの正面カバーをゆっくりと開けます。



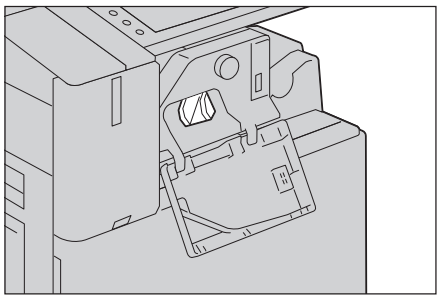
2 ホチキスカートリッジを取り出します。



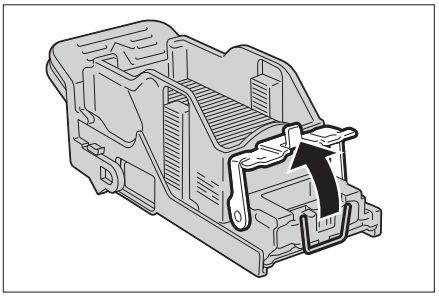
補足

- ホチキスカートリッジはしっかりセットされています。取り出すときは、強めにホチキスカートリッジを引いてください。

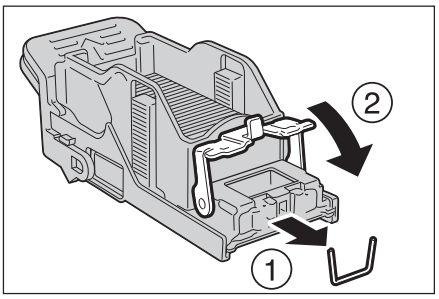
3 ホチキスカートリッジを取り出したあと、フィニッシャー内にホチキスが残っていないことを確認します。ホチキスがあったら取り除いてください。



4 ホチキスカートリッジの、図の位置にある金属部分を押し上げます。

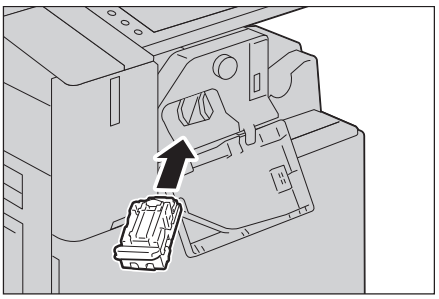


5 詰まっているホチキス針を取り除き（①）、手順 4 で押し上げた金属部分を元に戻します（②）。



> ⚠注意
>
> 詰まったホチキス針を取り除くときには、指などにケガをしないように十分注意してください。

6 「カチッ」と音がするまで、ホチキスカートリッジを押し込みます。



7 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

補足

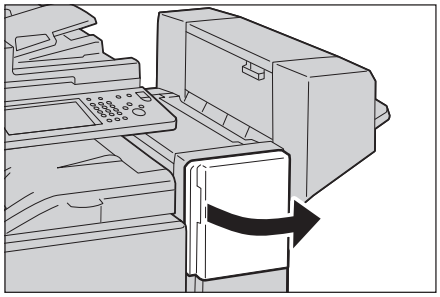
- フィニッシャーの正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

上記の処置をしても針が取り除けないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

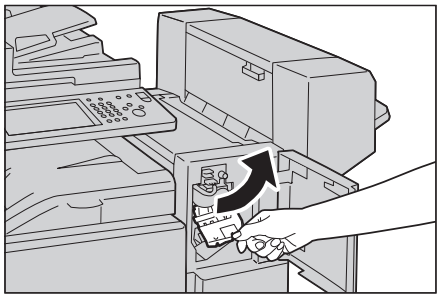
ホチキスカートリッジの針づまり（フィニッシャー B1 の場合）

フィニッシャー B1（オプション）を装着している場合の、ホチキスカートリッジの針づまり処置について説明します。

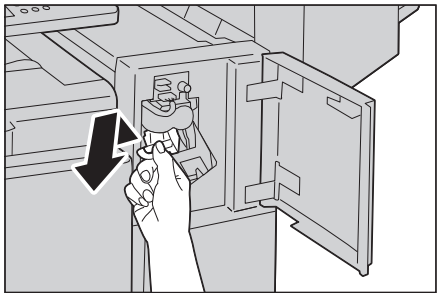
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの正面カバーを開けます。



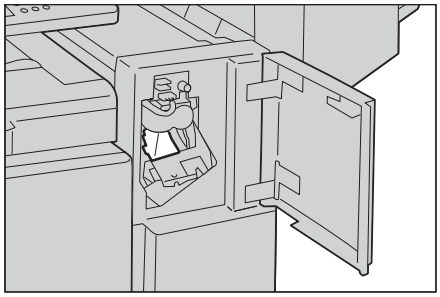
2 レバーを握って、ホチキスカートリッジを右方向（手前）へ引き寄せます。



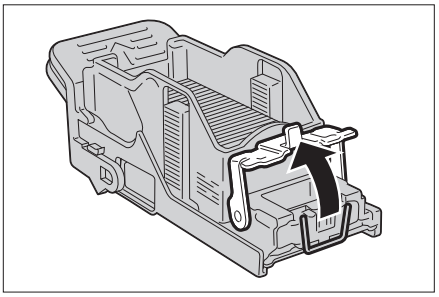
3 上方向へ引き上げ、ホチキスカートリッジを取り出します。



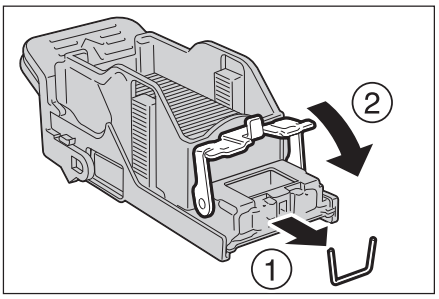
4 ホチキスカートリッジを取り出したあと、フィニッシャー内部に針が無いか確認します。



5 ホチキスカートリッジの、図の位置にある金属部分を押し上げます。

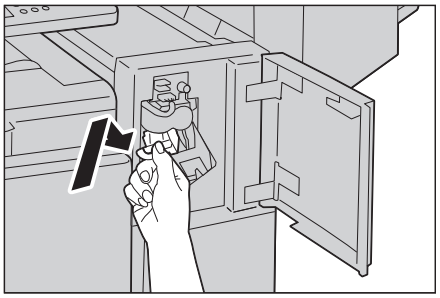


6 詰まっているホチキス針を取り除き（①）、手順 5 で押し上げた金属部分を元に戻します（②）。



> ⚠注意
>
> 詰まったホチキス針を取り除くときには、指などにケガをしないように十分注意してください。

7 ホチキスカートリッジを、元の位置に、「カチッ」と音がするまでレバーを押し込みます。



8 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

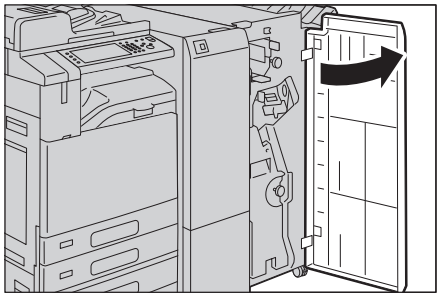
補足

- フィニッシャーの正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

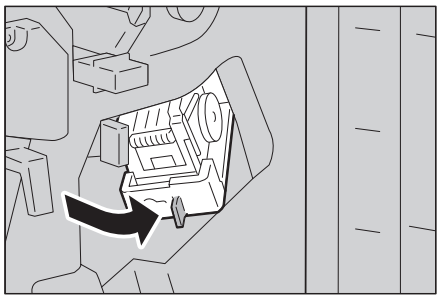
平とじホチキスカートリッジの針づまり （フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 装着時）

オプションのフィニッシャー C3、または中とじフィニッシャー C3 を装着している場合の、平とじホチキスカートリッジの針づまり処置について説明します。

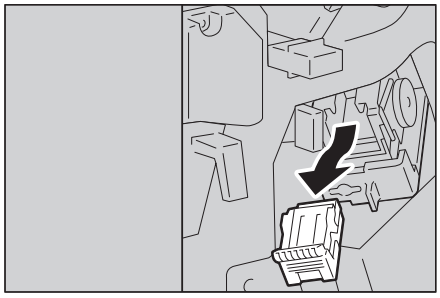
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの正面カバーを開けます。



2 ホチキスカートリッジホルダーのレバー「R1」を持って、ホチキスカートリッジホルダーを右端（手前）へ引き寄せます。

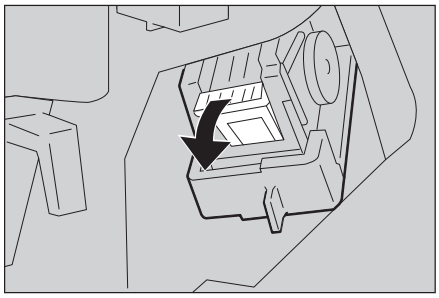


3 オレンジ色のレバーを持って、ホチキスカートリッジを取り出します。

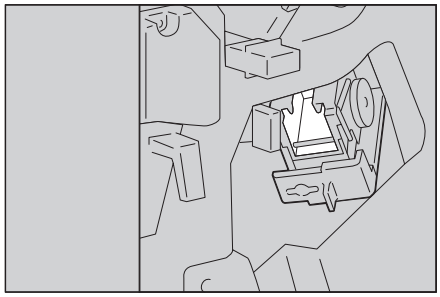


補足

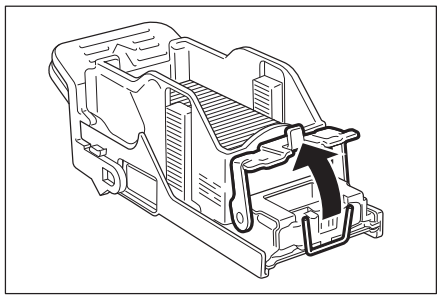
- ホチキスカートリッジはしっかりセットされています。取り出すときは、強めにホチキスカートリッジを引いてください。
- 65 枚用ホチキスカートリッジを装着している場合は、オレンジ色のレバーを下方向に倒して、ホチキスカートリッジを引き出してください。



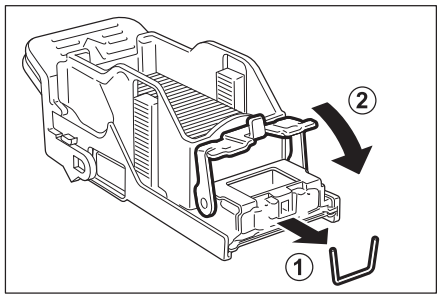
4 ホチキスカートリッジを取り出したあと、フィニッシャー内部に針がないか確認します。



5 ホチキスカートリッジの金属部分を押し上げます。



6 詰まっているホチキス針を取り除き (①)、手順 5 で押し上げた金属部分を元に戻します（②)。



> ⚠注意
>
> 詰まったホチキス針を取り除くときには、指などにケガをしないように十分注意してください。

7 ホチキスカートリッジのオレンジ色のレバーを持って、元の位置に戻し、カチッと音がするまで押し込みます。



8 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

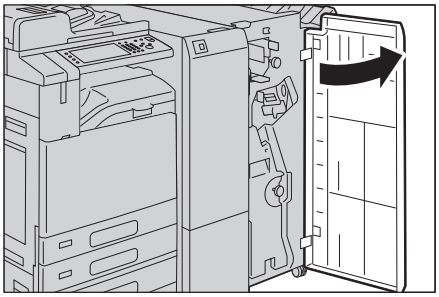
補足
- フィニッシャーの正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

上記の処置をしても針が取り除けないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

中とじホチキスカートリッジの針づまり（中とじフィニッシャー C3 装着時）

オプションの中とじフィニッシャー C3 を装着している場合の、中とじホチキスカートリッジの針づまりの処置について説明します。

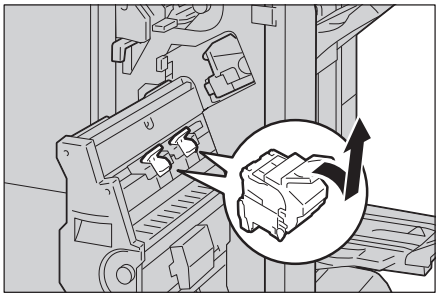
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの正面カバーを開けます。



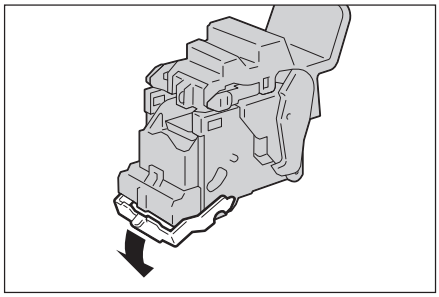
2 中とじユニットを引き出します。



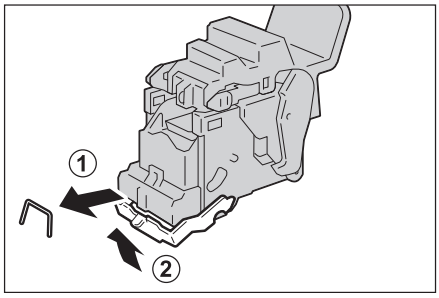
3 中とじホチキスカートリッジのレバーを持ち、下方向に倒してから、上に引いて取り出します。



4 ホチキスカートリッジの金属部分を押し下げます。

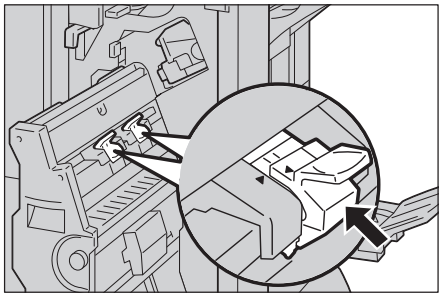


5 詰まっているホチキス針を取り除き（①）、手順 4 で押し下げた金属部分を元に戻します（②）。

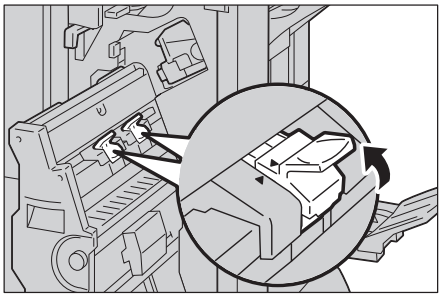


> ⚠注意
>
> 詰まったホチキス針を取り除くときには、指などにケガをしないように十分注意してください。

6 中とじホチキスカートリッジを元の位置に戻します。



7 軽く押し上げて、カチッと音がするのを確認します。



補足

- 中とじホチキスカートリッジの（▶）と中とじユニットの（◀）が合うように戻してください。

8 中とじユニットを元の位置にもどします。



9 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

補足

- フィニッシャーの正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

上記の処置をしても針が取り除けないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

16
付録

主な仕様

本機の主な仕様を記載します。製品の仕様、および外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

基本機能 / コピー機能

■形式

コンソールタイプ

■メモリー容量

4 GB（最大：4 GB）

■ハードディスク容量

160 GB 以上（使用領域：128 GB）

注記

- 表記されたハードディスク容量のすべてをお客様が利用できるわけではありません。

■カラー対応

フルカラー

■読み取り解像度

600×600 dpi

■書き込み解像度

1200×2400 dpi（多値写真）、600×600 dpi（文字 / 文字写真 / 写真 / 地図）

■階調 / 表現色

各色 256 階調（1,670 万色）

■ウォームアップ・タイム

組み込みプラグイン機能 / カスタムサービス有効時 *

36 秒以下 (主電源が入っている場合は 30 秒以下) (室温 23 ℃)

組み込みプラグイン機能 / カスタムサービス無効時 *

30 秒以下 (主電源が入っている場合は 24 秒以下) (室温 23 ℃)

*:工場出荷時に組み込みプラグイン機能 / カスタムサービスが有効で設定されています。お客様のご使用に合わせ変更が可能です。

■リカバリータイム（スリープ復帰時間）

- ApeosPort-VI C7771/C6671、DocuCentre-VI C7771/C6671
  13 秒以下（室温 23 ℃）
- ApeosPort-VI C5571/C4471、DocuCentre-VI C5571/C4471
  5 秒以下（室温 23 ℃）
- ApeosPort-VI C3371/C2271、DocuCentre-VI C3371/C2271
  4 秒以下（室温 23 ℃）

■原稿サイズ

シート、ブック共に最大 297×432 mm（A3、11×17”）

■用紙サイズ

- 最大：SRA3（320×450 mm）、12×18"（305×457 mm）、A3
  ［手差しトレイでは 12×19"（305×483 mm）］
- 最小：A5、郵便はがき（日本郵便製）
  ［手差しトレイでは 89×98 mm］
- 画像欠け幅：先端 4.0 mm、後端 2.0 mm、左 / 右 2.0 mm

■用紙坪量

トレイ：52 ～ 300 g/m^2

手差しトレイ：52 ～ 300 g/m^2

注記
- 弊社推奨紙の使用をお勧めします。使用条件によっては正しくコピーできない場合があります。
- 用紙によっては、紙づまり、しわが出る場合があります。

■ファーストコピー・タイム

注記
- 機器構成によって、数値が変わることがあります。

＜原稿ガラス使用時（A4□、等倍、用紙トレイ 1 使用、片面、センタートレイ排出）＞

- ApeosPort-VI C7771、DocuCentre-VI C7771
  モノクロ：3.3 秒以下、カラー：5.4 秒以下（白黒優先モード時）
  モノクロ：4.6 秒以下、カラー：4.1 秒以下（カラー優先モード時）
- ApeosPort-VI C6671、DocuCentre-VI C6671
  モノクロ：3.3 秒以下、カラー：5.4 秒以下（白黒優先モード時）
  モノクロ：4.6 秒以下、カラー：4.1 秒以下（カラー優先モード時）
- ApeosPort-VI C5571、DocuCentre-VI C5571
  モノクロ：3.7 秒以下、カラー：6.5 秒以下（白黒優先モード時）
  モノクロ：5.2 秒以下、カラー：5.2 秒以下（カラー優先モード時）
- ApeosPort-VI C4471、DocuCentre-VI C4471
  モノクロ：4.4 秒以下、カラー：7.0 秒以下（白黒優先モード時）
  モノクロ：5.8 秒以下、カラー：5.7 秒以下（カラー優先モード時）
- ApeosPort-VI C3371、DocuCentre-VI C3371
  モノクロ：4.9 秒以下、カラー：8.0 秒以下（白黒優先モード時）
  モノクロ：6.3 秒以下、カラー：6.7 秒以下（カラー優先モード時）
- ApeosPort-VI C2271、DocuCentre-VI C2271
  モノクロ：6.3 秒以下、カラー：10.0 秒以下（白黒優先モード時）
  モノクロ：8.0 秒以下、カラー：8.7 秒以下（カラー優先モード時）

＜自動原稿送り装置使用時（A4□、等倍、用紙トレイ 1 使用、片面、センタートレイ排出）＞

- ApeosPort-VI C7771、DocuCentre-VI C7771

モノクロ：5.1 秒以下、カラー：7.2 秒以下（白黒優先モード時）
モノクロ：6.4 秒以下、カラー：6.5 秒以下（カラー優先モード時）

- ApeosPort-VI C6671、DocuCentre-VI C6671
  モノクロ：5.1 秒以下、カラー：7.2 秒以下（白黒優先モード時）
  モノクロ：6.4 秒以下、カラー：6.5 秒以下（カラー優先モード時）
- ApeosPort-VI C5571、DocuCentre-VI C5571
  モノクロ：6.6 秒以下、カラー：9.4 秒以下（白黒優先モード時）
  モノクロ：7.9 秒以下、カラー：8.1 秒以下（カラー優先モード時）
- ApeosPort-VI C4471、DocuCentre-VI C4471
  モノクロ：7.7 秒以下、カラー：10.1 秒以下（白黒優先モード時）
  モノクロ：8.0 秒以下、カラー：8.9 秒以下（カラー優先モード時）
- ApeosPort-VI C3371、DocuCentre-VI C3371
  モノクロ：8.3 秒以下、カラー：10.4 秒以下（白黒優先モード時）
  モノクロ：8.4 秒以下、カラー：9.8 秒以下（カラー優先モード時）
- ApeosPort-VI C2271、DocuCentre-VI C2271
  モノクロ：8.8 秒以下、カラー：10.7 秒以下（白黒優先モード時）
  モノクロ：8.8 秒以下、カラー：10.7 秒以下（カラー優先モード時）

■複写倍率

- 等倍：1:1 ± 0.7 %
- 固定倍率：50 %、70 %、81 %、86 %、115 %、122 %、141 %、200 %
- 任意倍率：25 ～ 400 %（1 % きざみ）

■連続複写速度

注記

- 用紙トレイ 5（手差し）から給紙するとき、用紙サイズで［自動サイズ検知］を選択した場合、1 枚めのプリント速度は遅くなります。
- 画質調整のため速度が低下することがあります。
- 用紙種類や用紙トレイによっては生産性が落ちることがあります。
- 郵便はがきなど、B5 サイズより幅の狭い用紙を連続して出力すると、定着装置の非通紙部の温度が高くなるため、途中で「お待ちください。」とメッセージを表示して、出力を中断する場合があります。その後、1 分で出力が再開されます。また、A5 サイズ以下の用紙では、1 枚出力しただけでも「お待ちください。」とメッセージが表示され、30 秒程度出力を中断する場合があります。
- 両面コピー時は、センタートレイ上段から出力すると生産性が落ちることがあります。

< ApeosPort-VI C7771、DocuCentre-VI C7771 >

- 用紙トレイ 1 ～ 4、6：連続片面コピー / 等倍時
  B5□/A4□:［モノクロ］70 枚 / 分 ［カラー］70 枚 / 分
  A4/B5：［モノクロ］50 枚 / 分 ［カラー］50 枚 / 分
  B4：［モノクロ］41 枚 / 分 ［カラー］41 枚 / 分
  A3：［モノクロ］35 枚 / 分 ［カラー］35 枚 / 分
- 用紙トレイ 1 ～ 4、6：連続両面コピー / 等倍時
  B5□/A4□:［モノクロ］70 ページ / 分 ［カラー］70 ページ / 分
  A4/B5：［モノクロ］50 ページ / 分 ［カラー］50 ページ / 分
  B4：［モノクロ］26.7 ページ / 分 ［カラー］26.7 ページ / 分

A3：［モノクロ］24 ページ / 分 ［カラー］24 ページ / 分

- 用紙トレイ 5：連続片面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:［モノクロ］52 枚 / 分 ［カラー］52 枚 / 分
  A4/B5：［モノクロ］42 枚 / 分 ［カラー］42 枚 / 分
  B4：［モノクロ］36 枚 / 分 ［カラー］36 枚 / 分
  A3：［モノクロ］32 枚 / 分 ［カラー］32 枚 / 分
- 用紙トレイ 5：連続両面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:［モノクロ］52 ページ / 分 ［カラー］52 ページ / 分
  A4/B5：［モノクロ］46 ページ / 分 ［カラー］46 ページ / 分
  B4：［モノクロ］25 ページ / 分 ［カラー］25 ページ / 分
  A3：［モノクロ］23 ページ / 分 ［カラー］23 ページ / 分

< ApeosPort-VI C6671、DocuCentre-VI C6671 >

- 用紙トレイ 1 ～ 4、6：連続片面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:［モノクロ］65 枚 / 分 ［カラー］65 枚 / 分
  A4/B5：［モノクロ］47 枚 / 分 ［カラー］47 枚 / 分
  B4：［モノクロ］38 枚 / 分 ［カラー］38 枚 / 分
  A3：［モノクロ］32 枚 / 分 ［カラー］32 枚 / 分
- 用紙トレイ 1 ～ 4、6：連続両面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:［モノクロ］65 ページ / 分 ［カラー］65 ページ / 分
  A4/B5：［モノクロ］47 ページ / 分 ［カラー］47 ページ / 分
  B4：［モノクロ］24.6 ページ / 分 ［カラー］24.6 ページ / 分
  A3：［モノクロ］23 ページ / 分 ［カラー］23 ページ / 分
- 用紙トレイ 5：連続片面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:［モノクロ］52 枚 / 分 ［カラー］52 枚 / 分
  A4/B5：［モノクロ］42 枚 / 分 ［カラー］42 枚 / 分
  B4：［モノクロ］36 枚 / 分 ［カラー］36 枚 / 分
  A3：［モノクロ］32 枚 / 分 ［カラー］32 枚 / 分
- 用紙トレイ 5：連続両面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:［モノクロ］52 ページ / 分 ［カラー］52 ページ / 分
  A4/B5：［モノクロ］46 ページ / 分 ［カラー］46 ページ / 分
  B4：［モノクロ］25 ページ / 分 ［カラー］25 ページ / 分
  A3：［モノクロ］23 ページ / 分 ［カラー］23 ページ / 分

< ApeosPort-VI C5571、DocuCentre-VI C5571 >

- 用紙トレイ 1 ～ 4、6：連続片面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:［モノクロ］55 枚 / 分 ［カラー］55 枚 / 分
  A4/B5：［モノクロ］40 枚 / 分 ［カラー］40 枚 / 分
  B4：［モノクロ］32 枚 / 分 ［カラー］32 枚 / 分
  A3：［モノクロ］27 枚 / 分 ［カラー］27 枚 / 分
- 用紙トレイ 1 ～ 4、6：連続両面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:［モノクロ］55 ページ / 分 ［カラー］55 ページ / 分

A4/B5：[モノクロ] 40 ページ / 分 [カラー] 40 ページ / 分
B4：[モノクロ] 21 ページ / 分 [カラー] 21 ページ / 分
A3：[モノクロ] 19 ページ / 分 [カラー] 19 ページ / 分

- 用紙トレイ 5：連続片面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:[モノクロ] 47 枚 / 分 [カラー] 47 枚 / 分
  A4/B5：[モノクロ] 38 枚 / 分 [カラー] 38 枚 / 分
  B4：[モノクロ] 32 枚 / 分 [カラー] 32 枚 / 分
  A3：[モノクロ] 27 枚 / 分 [カラー] 27 枚 / 分
- 用紙トレイ 5：連続両面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:[モノクロ] 47 ページ / 分 [カラー] 47 ページ / 分
  A4/B5：[モノクロ] 38 ページ / 分 [カラー] 38 ページ / 分
  B4：[モノクロ] 21 ページ / 分 [カラー] 21 ページ / 分
  A3：[モノクロ] 19 ページ / 分 [カラー] 19 ページ / 分

< ApeosPort-VI C4471、DocuCentre-VI C4471 >

- 用紙トレイ 1 ～ 4、6：連続片面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:[モノクロ] 45 枚 / 分 [カラー] 45 枚 / 分
  A4/B5：[モノクロ] 32 枚 / 分 [カラー] 32 枚 / 分
  B4：[モノクロ] 26 枚 / 分 [カラー] 26 枚 / 分
  A3：[モノクロ] 22 枚 / 分 [カラー] 22 枚 / 分
- 用紙トレイ 1 ～ 4、6：連続両面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:[モノクロ] 45 ページ / 分 [カラー] 45 ページ / 分
  A4/B5：[モノクロ] 32 ページ / 分 [カラー] 32 ページ / 分
  B4：[モノクロ] 17 ページ / 分 [カラー] 17 ページ / 分
  A3：[モノクロ] 15 ページ / 分 [カラー] 15 ページ / 分
- 用紙トレイ 5：連続片面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:[モノクロ] 40 枚 / 分 [カラー] 40 枚 / 分
  A4/B5：[モノクロ] 31 枚 / 分 [カラー] 31 枚 / 分
  B4：[モノクロ] 26 枚 / 分 [カラー] 26 枚 / 分
  A3：[モノクロ] 22 枚 / 分 [カラー] 22 枚 / 分
- 用紙トレイ 5：連続両面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:[モノクロ] 40 ページ / 分 [カラー] 40 ページ / 分
  A4/B5：[モノクロ] 31 ページ / 分 [カラー] 31 ページ / 分
  B4：[モノクロ] 17 ページ / 分 [カラー] 17 ページ / 分
  A3：[モノクロ] 15 ページ / 分 [カラー] 15 ページ / 分

< ApeosPort-VI C3371、DocuCentre-VI C3371 >

- 用紙トレイ 1 ～ 4、6：連続片面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:[モノクロ] 35 枚 / 分 [カラー] 35 枚 / 分
  A4/B5：[モノクロ] 27 枚 / 分 [カラー] 27 枚 / 分
  B4：[モノクロ] 22.5 枚 / 分 [カラー] 22.5 枚 / 分
  A3：[モノクロ] 19 枚 / 分 [カラー] 19 枚 / 分

- 用紙トレイ 1 ～ 4、6：連続両面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:［モノクロ］35 ページ / 分 ［カラー］35 ページ / 分
  A4/B5：［モノクロ］27 ページ / 分 ［カラー］27 ページ / 分
  B4：［モノクロ］14 ページ / 分 ［カラー］14 ページ / 分
  A3：［モノクロ］13 ページ / 分 ［カラー］13 ページ / 分
- 用紙トレイ 5：連続片面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:［モノクロ］30 枚 / 分 ［カラー］30 枚 / 分
  A4/B5：［モノクロ］24 枚 / 分 ［カラー］24 枚 / 分
  B4：［モノクロ］21 枚 / 分 ［カラー］21 枚 / 分
  A3：［モノクロ］18 枚 / 分 ［カラー］18 枚 / 分
- 用紙トレイ 5：連続両面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:［モノクロ］32 ページ / 分 ［カラー］32 ページ / 分
  A4/B5：［モノクロ］25 ページ / 分 ［カラー］25 ページ / 分
  B4：［モノクロ］13 ページ / 分 ［カラー］13 ページ / 分
  A3：［モノクロ］12 ページ / 分 ［カラー］12 ページ / 分

< ApeosPort-VI C2271、DocuCentre-VI C2271 >

- 用紙トレイ 1 ～ 4、6：連続片面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:［モノクロ］25 枚 / 分 ［カラー］25 枚 / 分
  A4/B5：［モノクロ］19 枚 / 分 ［カラー］19 枚 / 分
  B4：［モノクロ］16 枚 / 分 ［カラー］16 枚 / 分
  A3：［モノクロ］14 枚 / 分 ［カラー］14 枚 / 分
- 用紙トレイ 1 ～ 4、6：連続両面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:［モノクロ］25 ページ / 分 ［カラー］25 ページ / 分
  A4/B5：［モノクロ］19 ページ / 分 ［カラー］19 ページ / 分
  B4：［モノクロ］9.9 ページ / 分 ［カラー］9.9 ページ / 分
  A3：［モノクロ］9.0 ページ / 分 ［カラー］9.0 ページ / 分
- 用紙トレイ 5：連続片面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:［モノクロ］24 枚 / 分 ［カラー］24 枚 / 分
  A4/B5：［モノクロ］19 枚 / 分 ［カラー］19 枚 / 分
  B4：［モノクロ］16 枚 / 分 ［カラー］16 枚 / 分
  A3：［モノクロ］14 枚 / 分 ［カラー］14 枚 / 分
- 用紙トレイ 5：連続両面コピー / 等倍時
  B5▯/A4▯:［モノクロ］24 ページ / 分 ［カラー］24 ページ / 分
  A4/B5：［モノクロ］19 ページ / 分 ［カラー］19 ページ / 分
  B4：［モノクロ］9.8 ページ / 分 ［カラー］9.8 ページ / 分
  A3：［モノクロ］8.9 ページ / 分 ［カラー］8.9 ページ / 分

■給紙方式 / 給紙容量

標準：

< ApeosPort-VI C7771/C6671、DocuCentre-VI C7771/C6671 >

560 枚 ×2 トレイ +980 枚 +1280 枚 + 手差しトレイ 100 枚

< ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271 >

560 枚 ×4 トレイ + 手差しトレイ 100 枚

オプション：大容量給紙トレイ（1 段）2,300 枚

最大給紙容量：

< ApeosPort-VI C7771/C6671、DocuCentre-VI C7771/C6671 >

5,780 枚（標準 + 大容量給紙トレイ（1 段））

< ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271 >

4,640 枚 （標準 + 大容量給紙トレイ（1 段））

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■連続複写枚数

999 枚

注記
- 画像安定化処理のため、機械の動作を一時的に中断することがあります。

■出力トレイ容量

約 400 枚（A4□）*、200 枚（A3）

*:オプションのインナー排出トレイ装着時のトレイ容量はセンタートレイが 250 枚（A4□）、インナー排出トレイが 250 枚（A4□）になります。

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■電源

< ApeosPort-VI C7771/C6671・DocuCentre-VI C7771/C6671 >

AC 100 V ± 10 %、13 A + 7 A、50/60 Hz 共用（2 電源）

< ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271・DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271 >

AC 100 V ± 10 %、15 A、50/60 Hz 共用

■最大消費電力

< ApeosPort-VI C7771/C6671・DocuCentre-VI C7771/C6671 >
2.0 kW
スリープモード時：0.5 W
低電力モード時：77 W*
< ApeosPort-VI C5571/C4471・DocuCentre-VI C5571/C4471 >
1.5 kW
スリープモード時：0.5 W
低電力モード時：49 W*
< ApeosPort-VI C3371/C2271・DocuCentre-VI C3371/C2271 >
1.5 kW
スリープモード時：0.5 W
低電力モード時：49 W*
*:工場出荷時に低電力モードは設定されていません。

■エネルギー消費効率

- DocuCentre-VI C2271 P
  47 kWh/ 年　区分：複合機 a
- DocuCentre-VI C2271 PFS
  47 kWh/ 年　区分：複合機 a
- ApeosPort-VI C2271
  47 kWh/ 年　区分：複合機 a
- DocuCentre-VI C3371 P
  71 kWh/ 年　区分：複合機 a
- DocuCentre-VI C3371 PFS
  71 kWh/ 年　区分：複合機 a
- ApeosPort-VI C3371
  71 kWh/ 年　区分：複合機 a
- DocuCentre-VI C4471
  100 kWh/ 年　区分：複合機 b
- ApeosPort-VI C4471
  100 kWh/ 年　区分：複合機 b
- DocuCentre-VI C5571
  127 kWh/ 年　区分：複合機 b
- ApeosPort-VI C5571
  127 kWh/ 年　区分：複合機 b

補足
- ApeosPort-VI C7771/C6671、DocuCentre-VI C7771/C6671 は「省エネ法」の対象外です。

■大きさ

< ApeosPort-VI C7771/C6671・DocuCentre-VI C7771/C6671 >

幅 620× 奥行 793× 高さ 1169 mm

< ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271・DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271 >

- P モデル：幅 669× 奥行 723× 高さ 1040 mm
- PFS モデル：幅 669× 奥行 723× 高さ 1141 mm

（転倒防止フットを含めない場合は幅 620mm）

■質量

< ApeosPort-VI C7771/C6671・DocuCentre-VI C7771/C6671 >

155 kg

< ApeosPort-VI C5571/C4471・DocuCentre-VI C5571/C4471 >

- PFS モデル：132 kg

< ApeosPort-VI C3371/C2271・DocuCentre-VI C3371/C2271 >

- P モデル：122 kg
- PFS モデル：132 kg

注記

- トナーカートリッジ、用紙は含まない状態の質量です。

■機械占有寸法

P モデル（C3371/C2271）：幅 1056× 奥行 723 mm*1

PFS モデル（C5571/C4471/C3371/C2271）：幅 1072× 奥行 723 mm*2

PFS モデル（C7771/C6671）：幅 1141× 奥行 793 mm*2

*1 :手差しトレイを最大に伸ばしたとき。
*2 :手差しトレイを最大に伸ばし、自動両面原稿送り装置ストッパーを開いたとき。

プリント機能

■形式

内蔵型

■プリントサイズ

最大：SRA3（320×450 mm）、12×18"（305×457 mm）、A3

［手差しトレイでは 12×19"（305×483 mm）、320×1200 mm*

最小：A5、郵便はがき（日本郵便製）

［手差しトレイでは 89×98 mm］

画像欠け幅：先端 4.0 mm、後端 2.0 mm、左 / 右 2.0 mm

*:106 ～ 220 g/m^2（厚紙 1、厚紙 2）の長尺用紙にプリントできます。なお、フィニッシャーを取り付けている場合、フィニッシャーB4/B5 のときはセントートレイまたはサイドトレイに、それ以外のときはサイドトレイに排出できます。

■連続プリント速度

基本機能 / コピー機能に準ずる

注記

- 画質調整のため速度が低下することがあります。
- 用紙種類によっては生産性が落ちることがあります。

■書き込み解像度

600×600 dpi、1,200×2,400 dpi、1,200×1,200 dpi

■ページ記述言語

標準：ART EX

オプション：Adobe® PostScript® 3 ™

■対応プロトコル

- Ethernet（標準）：

  TCP/IP（lpd、IPP、Port9100、WSD、BMLinkS®、ThinPrint®）

補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

■対応 OS

- 標準：

  ［ART EX ドライバー］

  Windows® 10（32 ビット）

  Windows® 10 （64 ビット）

  Windows® 8.1（32 ビット）

  Windows® 8.1（64 ビット）

  Windows® 8（32 ビット）

  Windows® 8 （64 ビット）

  Windows® 7（32 ビット）

  Windows® 7（64 ビット）

  Windows Vista®（32 ビット）

  Windows Vista®（64 ビット）

  Windows Server® 2016（64 ビット）

  Windows Server® 2012 R2（64 ビット）

  Windows Server® 2012（64 ビット）

  Windows Server® 2008 R2（64 ビット）

  Windows Server® 2008（32 ビット）

  Windows Server® 2008（64 ビット）

  ［Mac OS X ドライバー］

  macOS 10.12 Sierra

  OS X 10.11 El Capitan

  OS X 10.10 Yosemite

  OS X 10.9 Mavericks

  OS X 10.8 Mountain Lion

  Mac OS X 10.7 Lion

  Mac OS X 10.6 Snow Leopard

- オプション：

  ［Adobe® PostScript®3™ ドライバー］

  Windows® 10（32 ビット）

  Windows® 10 （64 ビット）

  Windows® 8.1（32 ビット）

  Windows® 8.1（64 ビット）

  Windows® 8（32 ビット）

  Windows® 8 （64 ビット）

  Windows® 7（32 ビット）

  Windows® 7（64 ビット）

  Windows Vista®（32 ビット）

  Windows Vista®（64 ビット）

  Windows Server® 2016（64 ビット）

  Windows Server® 2012 R2（64 ビット）

  Windows Server® 2012（64 ビット）

  Windows Server® 2008 R2（64 ビット）

  Windows Server® 2008（32 ビット）

  Windows Server® 2008（64 ビット）

  macOS 10.12 Sierra

  OS X 10.11 El Capitan

  OS X 10.10 Yosemite

  OS X 10.9 Mavericks

  OS X 10.8 Mountain Lion

  Mac OS X 10.7 Lion

  Mac OS X 10.6 Snow Leopard

注記

- 最新の対応 OS については、弊社公式サイトをご覧ください。

■内蔵フォント

- 標準：

  アウトラインフォント（日本語 2 書体（平成明朝体™ W3*、平成角ゴシック体™ W5*）、欧文 19 書体）

*:JIS2004 対応フォント

補足

- ART EX では日本語 2 書体の JIS 第一水準、第二水準の文字は JIS2004 の字形で出力されます。

- オプション：

  Adobe® PostScript® 3™：

  日本語 2 書体（平成明朝体™ W3、平成角ゴシック体™ W5）、または日本語 2 書体（リュウミン L-KL™、中ゴシック BBB™）、欧文 136 書体

エミュレーション キット：

ストロークフォント（日本語書体、欧文書体：HP-GL 用）、欧文 82 書体、シンボル 37 セット

■エミュレーション

- 標準：

  ART IV、ESC/P（VP-1000）、BMLinkS®、PDF、XPS、DocuWorks、TIFF、JPEG

- オプション：

  エミュレーションキットまたは Adobe® PostScript® 3™キット

  HP-GL（HP7586B）、HP-GL2/RTL（HP Designjet 750C Plus）、PC-PR201H、PCL5/PCL6

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■インターフェイス

Ethernet 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T、USB 3.0

スキャン機能（オプション）

■形式

カラースキャナー

■原稿サイズ

基本機能 / コピー機能に準ずる

■読み取り解像度

600×600 dpi、400×400 dpi、300×300 dpi、200×200 dpi

■原稿読み取り速度

自動両面原稿送り装置の「原稿読み取り速度」に準じる

■インターフェイス

Ethernet 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T

■ボックス保存

- 対応プロトコル：TCP/IP（WebDAV、HTTP）
- 出力フォーマット：
  - モノクロ 2 値：TIFF、DocuWorks 文書 *1、PDF*1、XPS*1
  - グレースケール：TIFF、JPEG*2、DocuWorks 文書 *1、PDF*1、XPS*1
  - フルカラー：TIFF、JPEG、DocuWorks 文書*1、PDF*1、XPS*1、高圧縮 DocuWorks 文書 *1、高圧縮 PDF*1、高圧縮 XPS*1

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

*1 :CentreWare Internet Services を利用して文書を取り出す場合だけ対応しています。
*2 :ネットワークスキャナーユーティリティ 3 を使用している場合だけ対応しています。

- ドライバー：

  TWAIN インターフェイス対応

- ドライバー対応 OS：

  Windows® 10（32 ビット）

  Windows® 10 （64 ビット）

  Windows® 8.1（32 ビット）

  Windows® 8.1（64 ビット）

  Windows® 8（32 ビット）

  Windows® 8 （64 ビット）

  Windows® 7（32 ビット）

  Windows® 7（64 ビット）

  Windows Vista®（32 ビット）

  Windows Vista®（64 ビット）

  Windows Server® 2016（64 ビット）

  Windows Server® 2012 R2（64 ビット）

  Windows Server® 2012（64 ビット）

  Windows Server® 2008 R2（64 ビット）

  Windows Server® 2008（32 ビット）

  Windows Server® 2008（64 ビット）

注記

- 最新の対応 OS については、弊社公式サイトをご覧ください。

■PC 保存

- 対応プロトコル：TCP/IP（SMB、FTP）
- 対応 OS：

  Windows® 10（32 ビット）

  Windows® 10 （64 ビット）

  Windows® 8.1（32 ビット）

  Windows® 8.1（64 ビット）

  Windows® 8（32 ビット）

  Windows® 8 （64 ビット）

  Windows® 7（32 ビット）

  Windows® 7（64 ビット）

  Windows Vista®（32 ビット）

  Windows Vista®（64 ビット）

  Windows Server® 2016（64 ビット）

  Windows Server® 2012 R2（64 ビット）

  Windows Server® 2012（64 ビット）

  Windows Server® 2008 R2（64 ビット）

Windows Server® 2008（32 ビット）

Windows Server® 2008（64 ビット）

macOS 10.12、OS X 10.11 / 10.10*/ 10.9 / 10.8、Mac OS X 10.7 / 10.6

*: FTP のみ対応しています。

注記

- 最新の対応 OS については、弊社公式サイトをご覧ください。

- 出力フォーマット：
  - モノクロ 2 値：
    TIFF、DocuWorks 文書、PDF、XPS
  - グレースケール / フルカラー：
    TIFF、JPEG、DocuWorks 文書、PDF、XPS、高圧縮 DocuWorks 文書、高圧縮 PDF、高圧縮 XPS、Microsoft® Word*、Microsoft® Excel®*

*: スキャン機能拡張キット（オプション）が必要です。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■メール送信

- 対応プロトコル：
  TCP/IP（SMTP）
- 出力フォーマット：
  - モノクロ 2 値：
    TIFF、DocuWorks 文書、PDF、XPS
  - グレースケール / フルカラー：
    TIFF、JPEG、DocuWorks 文書、PDF、XPS、高圧縮 DocuWorks 文書、高圧縮 PDF、高圧縮 XPS、Microsoft® Word*、Microsoft® Excel®*

*: スキャン機能拡張キット（オプション）が必要です。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

ファクス機能（オプション）

■送信原稿サイズ

最大：A3、11×17"、長尺原稿可（最大 600 mm）

■記録紙サイズ

最大：A3、11×17"、最小：A5

■電送時間

2 秒台

注記

- A4 判 700 字程度の原稿を、標準画質（8×3.85 本 /mm）、高速モード（28.8 kbps 以上：JBIG）送信時。画像情報のみの伝送時間で、通信の制御時間は含まれておりません。なお、実際の通信時間は原稿の内容、相手機種、回線の状況により異なります。

■通信モード

ITU-T G3

■走査線密度

- 標準：8×3.85 本 /mm、200×100 dpi
- 高画質：8×7.7 本 /mm、200×200 dpi
- 超高画質（400 dpi）：16×15.4 本 /mm、400×400 dpi
- 超高画質（600 dpi）：600×600 dpi

■符号化方式

MH、MR、MMR、JBIG

■通信速度

G3：

33.6/31.2/28.8/26.4/24.0/21.6/19.2/16.8/14.4/12.0/9.6/7.2/4.8/2.4 kbps

■適用回線

加入電話回線、PBX、ファクシミリ通信網（PSTN）、最大 3 ポート*（G3：3 ポート）

*:接続可能な回線数は最大 3 回線です。ポートとは通信可能なチャンネル数のことです。

ダイレクトファクス機能（オプション）

■送信原稿サイズ

A3、B4、A4

■送信画質

ファクス機能の走査線密度に準ずる

■通信速度

ファクス機能に準ずる

■適用回線

ファクス機能に準ずる

■対応 OS

- ART EX ドライバー

  Windows® 10（32 ビット）

  Windows® 10 （64 ビット）

  Windows® 8.1（32 ビット）

  Windows® 8.1（64 ビット）

  Windows® 8（32 ビット）

  Windows® 8 （64 ビット）

  Windows® 7（32 ビット）

  Windows® 7（64 ビット）

  Windows Vista®（32 ビット）

  Windows Vista®（64 ビット）

Windows Server® 2016（64 ビット）
Windows Server® 2012 R2（64 ビット）
Windows Server® 2012（64 ビット）
Windows Server® 2008 R2（64 ビット）
Windows Server® 2008（32 ビット）
Windows Server® 2008（64 ビット）

- Mac OS X ドライバー
  macOS 10.12 Sierra
  OS X 10.11 El Capitan
  OS X 10.10 Yosemite
  OS X 10.9 Mavericks
  OS X 10.8 Mountain Lion
  Mac OS X 10.7 Lion
  Mac OS X 10.6 Snow Leopard

注記
- 最新の対応 OS については、弊社公式サイトをご覧ください。

インターネットファクス機能（オプション）

■送信原稿サイズ
A3、B4、A4

■走査線密度
ファクス機能に準ずる

■出力フォーマット
フォーマット：TIFF-FX
圧縮方式：MH、MMR、JBIG

■プロファイル
TIFF-S、TIFF-F、TIFF-J

■対応プロトコル
送信：SMTP、受信：SMTP、POP3

■インターフェイス
Ethernet 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T

IP ファクス（SIP）機能（オプション）

■送信原稿サイズ
ファクス機能に準ずる

■走査線密度
ファクス機能に準ずる

■対応プロトコル

SIP、JT-T.38

■符号化方式

ファクス機能に準ずる

■インターフェイス

Ethernet 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T

両面出力機能

■自動両面可能用紙サイズ

最大：SRA3（320 x 450 mm）、12 x 18"（305 x 457 mm）、A3

最小：A5

■用紙坪量

52 ～ 300 g/m^2

注記

- 弊社推奨紙の使用をお勧めします。使用条件によっては正しく印刷できない場合があります。

自動両面原稿送り装置 B1-PC（オプション）

■原稿送り装置の種類

1 パス両面原稿送り装置

■原稿サイズ

最大：A3、11×17”

最小：A5*

*:非定形サイズの場合は、125×85 mm です。

■用紙坪量

38 ～ 128 g/m^2（両面時：50 ～ 128 g/m^2）

■原稿積載枚数

130 枚

注記

- 弊社 P 紙の場合です。

■原稿読み取り速度

- コピー時

< ApeosPort-VI C5571、DocuCentre-VI C5571 >

モノクロ：55 枚 / 分、カラー：55 枚 / 分（A4 片面）

モノクロ：50 ページ / 分、カラー：50 ページ / 分（A4 両面）

< ApeosPort-VI C4471、DocuCentre-VI C4471 >

モノクロ：45 枚 / 分、カラー：45 枚 / 分（A4 片面）

モノクロ：45 ページ / 分、カラー：45 ページ / 分（A4 両面）

< ApeosPort-VI C3371、DocuCentre-VI C3371 >

モノクロ：35 枚 / 分、カラー：35 枚 / 分（A4 片面）

モノクロ：35 ページ / 分、カラー：35 ページ / 分（A4 両面）

< ApeosPort-VI C2271、DocuCentre-VI C2271 >

モノクロ：25 枚 / 分、カラー：25 枚 / 分（A4 片面）

モノクロ：25 ページ / 分、カラー：25 ページ / 分（A4 両面）

- スキャン時

  モノクロ : 80 枚 / 分、カラー 80 枚 / 分

  （1 パス両面読み取り時モノクロ：154 ページ / 分*、カラー：154 ページ / 分*）

  ［当社標準原稿（A4）200 dpi、親展ボックスまで］

  *:静音モード無効時はモノクロ：160 ページ / 分、カラー：160 ページ / 分になります。工場出荷時に静音モード有効で設定されています。お客様のご使用に合わせ変更が可能です。

注記
- 原稿によって読み取り速度は異なります。

■大きさ

幅 560× 奥行 498× 高さ 140 mm

■質量

11 kg

自動両面原稿送り装置 C1-PC

■原稿送り装置の種類

1 パス両面原稿送り装置

■原稿サイズ

最大：A3、11×17”

最小：A6*

*:非定形サイズの場合は、84×139.7 mm です。

■用紙坪量

38 ～ 200 g/m^2（両面時：50 ～ 200 g/m^2）

■原稿積載枚数

250 枚

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■原稿読み取り速度

- コピー時

  < ApeosPort-VI C7771、DocuCentre-VI C7771 >

  モノクロ：70 枚 / 分、カラー：70 枚 / 分（A4 片面）

  モノクロ：70 ページ / 分、カラー：70 ページ / 分（A4 両面）

  < ApeosPort-VI C6671、DocuCentre-VI C6671 >

モノクロ：65 枚 / 分、カラー：65 枚 / 分（A4 片面）

モノクロ：65 ページ / 分、カラー：65 ページ / 分（A4 両面）

- スキャン時

  モノクロ : 135 枚 / 分、カラー : 135 枚 / 分

  (1 パス両面読み取り時モノクロ：270 ページ / 分、カラー：270 ページ / 分)

  ［当社標準原稿（A4）200 dpi、親展ボックスまで］

注記
- 原稿によって読み取り速度は異なります。

大容量給紙トレイ（1 段）（オプション）

■用紙サイズ

A4、B5、レター（8.5×11"）

■用紙坪量

55 ～ 216 g/m^2

■給紙容量 / 給紙段数

2,300 枚 × 1 段

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■大きさ

幅 389× 奥行 610× 高さ 380 mm

■質量

29 kg

■本体接続時の占有寸法 *

< ApeosPort-VI C7771/C6671、DocuCentre-VI C7771/C6671 >

幅 1,141 × 奥行 793 mm

< ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271 >

幅 1,072 × 奥行 723 mm

*:本体 + 大容量給紙トレイ（1 段）、手差しトレイを最大に伸ばし、自動両面原稿送り装置ストッパーを開いたとき。

サイドトレイ（オプション）

■用紙サイズ

基本機能 / コピー機能に準ずる

■用紙坪量

52 ～ 300 g/m^2

■トレイ容量

100 枚

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■大きさ

幅 329× 奥行 567× 高さ 228 mm

■本体接続時の占有寸法 *

< ApeosPort-VI C7771/C6671、DocuCentre-VI C7771/C6671 >

幅 1,141× 奥行 793 mm

< ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271 >

幅 1,072 × 奥行 723 mm

*:本体+サイドトレイ、手差しトレイを最大に伸ばし、自動両面原稿送り装置ストッパーを開いたとき。

フィニッシャー A2（オプション）*

*:ApeosPort-VI C7771/C6671、DocuCentre-VI C7771/C6671 には取り付けができません。

■トレイ形式

ソート（オフセット可 *）/ スタック（オフセット可 *）

*:工場出荷時の初期値は、「オフセット排出しない」に設定されています。お客様のご使用に合わせ変更が可能です。

■用紙サイズ

最大：A3、11×17”

最小：郵便はがき（日本郵便製）

■用紙坪量

52 ～ 256 g/m^2*

*:52 ～ 55 g/m^2 は、出力紙により正しく収容できない場合があります。

■トレイ容量

- ステープルなしの場合

  A4□: 500 枚 *1、B4：250 枚、A3 以上：200 枚、ミックススタック *2：250 枚

- ステープルした場合

  30 部または A4□: 500 枚、B4：250 枚、A3 以上：200 枚、ミックススタック *2：250 枚

*1 :オフセット出力を選択した場合は A4□ ：250 枚になります。
*2 :小さいサイズの上に大きいサイズの用紙が積載された場合

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■ステープル

- 最大ステープル枚数：

  A4: 50 枚（90 g/m^2 以下）、B4 以上 : 30 枚（90 g/m^2 以下）

- ステープル用紙サイズ：

  最大：A3、11×17"

最小：B5

- ステープル位置：

  1 か所

  2 か所

■大きさ

幅 478× 奥行 461× 高さ 238 mm

■質量

11 kg

■本体接続時の占有寸法

幅 1,255× 奥行 723 mm（本体 + フィニッシャー A2、延長トレイ引き出し時、手差しトレイ最大伸張時）

フィニッシャー B1（オプション）*

*:ApeosPort-VI C7771/C6671、DocuCentre-V C7771/C6671 には取り付けができません。

■トレイ形式

ソート（オフセット可）/ スタック（オフセット可）

■用紙サイズ

最大：A3、11×17"

最小：B5

補足

- A3、11×17" より大きいサイズ、または B5 より小さいサイズはセンター部に排出されます。

■用紙坪量

52 ～ 220 g/m^{2*}

*:52 ～ 55 g/m^2 は、出力紙により正しく収容できない場合があります。

■トレイ容量

- ステープルなしの場合

  A4：2,000 枚

  B4 以上：1,000 枚

  ミックススタック *1：300 枚

- ステープルありの場合

  A4：1 か所の場合、100 部または 1,000 枚

  2 か所の場合、75 部または 750 枚

  B4 以上：75 部または 750 枚

  中とじ / 折り目をつけた場合 *2：50 部または 600 枚

  折り目をつけた場合 *2：500 枚

*1 :小さいサイズの上に大きいサイズの用紙を積載することをいいます。

*2 :中とじ / 折り目機能はオプションのフィニッシャー B1 中とじユニットが必要です。中とじ / 折り目を指定した出力の後は、トレイから用紙を取り除かないと、次のジョブは出力されない場合があります。また、小さいサイ

ズの上に中とじ / 折り目を指定した出力の場合も、トレイから用紙を取り除かないと排出されない場合があります。

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■ステープル

- 最大ステープル枚数：

  50 枚（90 g/m^2 以下）
- ステープル用紙サイズ：

  最大：A3、11×17"

  最小：B5
- ステープル位置：

  1 か所

  2 か所

■パンチ

- パンチ用紙サイズ：A3、11×17"、B4[*1]、A4[*2]、A4、レター（8.5×11"）[*2]、レター（8.5×11"）、B5[*1]
- パンチ数：2 穴 /4 穴または 2 穴 /3 穴（US 規格）
- 用紙坪量：52 ～ 200 g/m^2

*1 :4 穴は使用できません。
*2 :3 穴、4 穴は使用できません。

補足
- パンチ機能はオプションのフィニッシャー B1 パンチユニット 2/4 穴、またはフィニッシャー B1 パンチユニット 2/3 穴（US 規格）が必要です。

■中とじ / 折り目 [*1]

- 最大枚数：

  中とじ 15 枚、折り目 5 枚
- 用紙サイズ：

  最大：A3、11×17"

  最小：A4、レター
- 用紙坪量：

  中とじ：60 ～ 80 g/m^2[*2]、折り目：60 ～ 105 g/m^2

*1 :中とじ / 折り目機能を利用するには、オプションのフィニッシャー B1 中とじユニットが必要です。中とじ / 折り目を指定した出力の後は、トレイから用紙を取り除かないと、次のジョブは出力されません。また、小さなサイズの上に中とじ / 折り目を指定した出力の場合も、トレイから用紙を取り除かないと排出されません。
*2 :中とじの表紙は最大 220 g/m^2（厚紙 2）まで選択可能です。

■大きさ

幅 619× 奥行 552× 高さ 1010 mm

幅 619× 奥行 597× 高さ 1082 mm（中とじユニット装着時）

補足
- 本体内に収まる接続部は除く

■質量

28 kg

38 kg（中とじユニット装着時）

■本体接続時の占有寸法

幅 1,694× 奥行 723 mm（本体 + フィニッシャー B1、延長トレイ引き出し時、手差しトレイ最大伸張時）

幅 1,694× 奥行 723 mm（本体 + フィニッシャー B1+ 中とじユニット、延長トレイ引き出し時、手差しトレイ最大伸張時）

フィニッシャー C3（オプション）

■トレイ形式

- 排出トレイ：ソート / スタック
- フィニッシャートレイ：ソート（オフセット可）/ スタック（オフセット可）

■用紙サイズ

- 排出トレイ

  最大：12×19”（305×483 mm）

  最小：郵便はがき（日本郵便製）
- フィニッシャートレイ

  最大：12×19”（305×483 mm）

  最小：B5

■用紙坪量

- 排出トレイ：52 ～ 300 g/m^{2*}
- フィニッシャートレイ：52 ～ 300 g/m^{2*}

*:52 ～ 55 g/m^2 は、出力紙により正しく収容できない場合があります。

■トレイ容量

- 排出トレイ：500 枚（A4）
- フィニッシャートレイ
  - ステープルなしの場合
    A4：3,000 枚
    B4 以上：1,500 枚
    ミックススタック：300 枚
  - ステープルありの場合
    A4：200 部
    ミックススタック：70 部

注記

- 弊社 P 紙の場合です。
- ミックススタックは、小さいサイズの上に大きいサイズの用紙が積載された場合です。

■ステープル

- 最大ステープル枚数：50 枚（90 g/m^2 以下）

補足
- オプションのフィニッシャー C3 ステープルユニット 65 枚を装着すると最大 65 枚まで可能です。ただし、用紙の種類によっては、用紙がずれたり、正しくステープルされない場合があります。
- 紙折りユニット CD1 を併用した場合、Z 折りした用紙をステープルできますが、A3、11×17” の用紙を Z 折りすると、1 枚で 10 枚分の厚みになるため、最大ステープル枚数が少なくなります。1 枚あたり 10 枚に換算した枚数が最大ステープル枚数となります。同様に、その他のサイズでは、1 枚あたり 20 枚に換算した枚数になります。また、印刷された用紙のカールが強いと、正しくステープルできない場合があります。

- ステープル用紙サイズ

  最大：A3、11×17"

  最小：B5

- ステープル位置

  1 か所

  2 か所

■パンチ

- パンチ数：2 穴 / 4 穴、または 2 穴 / 3 穴（US 規格）
- パンチ用紙サイズ

  A3、11×17"、B4、A4*、A4、レター*、レター、B5、7.25×10.5" (184×267 mm)、8×10" (203×254 mm)、十六開 (194×267 mm)、表紙 A4 (223×297 mm)、9×11" (229×279 mm)、215×315 mm、8.5×13" (216×330 mm)、リーガル、11×15" (279×381 mm)、八開 (267×388 mm)

*:オプションの 3 穴は使用できません。

補足
- オプションのフィニッシャーC3 パンチユニット 2 / 4 穴またはフィニッシャーC3 パンチユニット 2 / 3 穴 が必要です。
- オプションのフィニッシャーC3 パンチユニット 2 / 4 穴で 2 穴または 4 穴に切り替えが、フィニッシャー C3 パンチユニット 2 / 3 穴で 2 穴または 3 穴に切り替え可能です。

- 用紙坪量：52 ～ 200 g/m^2

■大きさ

幅 716× 奥行 589× 高さ 1,056 mm（フィニッシャー C3）

幅 953× 奥行き 726× 高さ 1,056 mm（フィニッシャー C3 + 紙折りユニット CD1）

補足
- オプションのトランスポートユニット H3 を装着し、延長トレイを最大に伸ばしたときの数値です。

■質量

49 kg（フィニッシャー C3）

101 kg（フィニッシャー C3+ 紙折りユニット CD1）

補足
- トランスポートユニット H3 の質量を含みます。

■本体接続時の占有寸法

< ApeosPort-VI C7771/C6671、DocuCentre-VI C7771/C6671 >

幅 1,772 × 奥行 793 mm（本体＋フィニッシャー C3 ）

幅 2,009 × 奥行 793 mm（本体＋フィニッシャー C3 ＋紙折りユニット CD1）

< ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271 >

幅 1,772 × 奥行 723 mm（本体＋フィニッシャー C3 ）

幅 2,009 × 奥行 728 mm（本体＋フィニッシャー C3 ＋紙折りユニット CD1）

補足

- 本体＋トランスポートユニット H3 ＋フィニッシャー C3、延長トレイ引出し時、手差しトレイを最大に伸ばしたとき。

中とじフィニッシャー C3（オプション）

■トレイ形式

- 排出トレイ：ソート / スタック
- フィニッシャートレイ：ソート（オフセット可）/ スタック（オフセット可）
- 製本トレイ：ソート / スタック

■用紙サイズ

- 排出トレイ
  最大：12×19”（305×483 mm）
  最小：郵便はがき（日本郵便製）
- フィニッシャートレイ
  最大：12×19”（305×483 mm）
  最小：B5
- 製本トレイ
  最大：12×18”（305×457 mm）
  最小：B5

■用紙坪量

- 排出トレイ：52 ～ 300 g/m^{2*}
- フィニッシャートレイ：52 ～ 300 g/m^{2*}
- 製本トレイ：64 ～ 220 g/m^{2}

*:52 ～ 55 g/m^{2} は、出力紙により正しく収容できない場合があります。

■トレイ容量

- 排出トレイ：500 枚（A4）
- フィニッシャートレイ
  - ステープルなしの場合
    A4：1,500 枚
    B4 以上：1,500 枚
    ミックススタック：300 枚

- ステープルありの場合
  A4：200 部
  ミックススタック：70 部

• 製本トレイ：20 部

注記
- 弊社 P 紙の場合です。
- ミックススタックは、小さいサイズの上に大きいサイズの用紙が積載された場合です。
- 製本トレイの容量は、同サイズの用紙での出力時です。

■ステープル

• 最大ステープル枚数：50 枚（90 g/m^2 以下）

補足
- オプションのフィニッシャー C3 ステープルユニット 65 枚を装着すると最大 65 枚まで可能です。ただし、用紙の種類によっては、用紙がずれたり、正しくステープルされない場合があります。
- 紙折りユニット CD1 を併用した場合、Z 折りした用紙をステープルできますが、A3、11×17” の用紙を Z 折りすると、1 枚で 10 枚分の厚みになるため、最大ステープル枚数が少なくなります。
  1 枚あたり 10 枚に換算した枚数が最大ステープル枚数となります。同様に、その他のサイズでは、1 枚あたり 20 枚に換算した枚数になります。
  また、印刷された用紙のカールが強いと、正しくステープルできない場合があります。

• ステープル用紙サイズ

  最大：A3、11×17”

  最小：B5

• ステープル位置

  1 か所

  2 か所

■パンチ

• パンチ数：2/4 穴、または 2/3 穴（US 規格）

• パンチ用紙サイズ

  A3、11×17"、B4、A4*、A4、レター*、レター、B5、7.25×10.5" (184×267 mm)、8×10" (203×254 mm)、十六開 (194×267 mm)、表紙 A4 (223×297 mm)、9×11" (229×279 mm)、215×315 mm、8.5×13" (216×330 mm)、リーガル、11×15" (279×381 mm)、八開 (267×388 mm)

*:オプションの 3 穴は使用できません。

補足
- オプションのフィニッシャーC3パンチユニット2 / 4穴 またはフィニッシャーC3パンチユニット2 / 3 穴が必要です。
- フィニッシャーC3パンチユニット2 / 4穴で2穴または4穴に切り替えが、フィニッシャーC3パンチユニット 2 / 3 穴で 2 穴または 3 穴に切り替え可能です。

用紙坪量：52 ～ 200 g/m^2

■中とじ / 中折り

• 最大枚数

  中とじ：16 枚 (90 g/m^2 以下) *、中折り：5 枚 (90 g/m^2 以下) *、二つ折り：1 枚

• 用紙サイズ

  最大：SRA3 (320×450 mm)、12×18” (305×457 mm)

  最小：B5

- 用紙坪量

  中とじ：60 ～ 300 g/m^2、中折り：60 ～ 300 g/m^2、二つ折り：60 ～ 300 g/m^2

*:利用する用紙坪量により枚数は変わります。用紙サイズや用紙種類によっては冊子が開いてしまう場合があります。

■大きさ

幅 776× 奥行 589× 高さ 1,056 mm（中とじフィニッシャー C3）

幅 1,013× 奥行き 726× 高さ 1,056 mm（中とじフィニッシャー C3 + 紙折りユニット CD1）

補足
- トランスポートユニット H3 を装着し、延長トレイを最大に伸ばしたときの数値です。

■質量

66 kg（中とじフィニッシャー C3）

118 kg（中とじフィニッシャー C3+ 紙折りユニット CD1）

補足
- トランスポートユニット H3 の質量を含みます。

■本体接続時の占有寸法

< ApeosPort-VI C7771/C6671、DocuCentre-VI C7771/C6671 >

幅 1,831× 奥行 793 mm（本体 + 中とじフィニッシャー C3 ）

幅 2,068× 奥行 793 mm（本体 + 中とじフィニッシャー C3 ＋紙折りユニット CD1）

< ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271 >

幅 1,831× 奥行 723 mm（本体 + 中とじフィニッシャー C3 ）

幅 2,068× 奥行 728mm（本体 + 中とじフィニッシャー C3 ＋紙折りユニット CD1）

補足
- 本体 + トランスポートユニット H3 ＋中とじフィニッシャー C3、延長トレイ引出し時、手差しトレイを最大に伸ばしたとき。

紙折りユニット CD1（オプション）

■用紙サイズ

- Z 折り：A3、11×17”、B4
- 三つ折り：A4、レター

■用紙坪量

- Z 折り：60 ～ 90 g/m^2
- 三つ折り：60 ～ 90 g/m^2

■トレイ容量

- 三つ折り：40 枚

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■電源 / 最大消費電力

AC 100 V ± 10 %、1.0 A、50/60 Hz 共用、100 W 以下

注記

- 紙折りユニット CD1 装着時は、本体とは別に電源が必要になります。

■大きさ / 質量

幅 232× 奥行 726× 高さ 992 mm、53 kg

プリント可能領域

プリントできる領域は、次のとおりです。

標準印字領域

用紙の上下左右の端から余白（4.1mm）を除いた領域です。

拡張印字領域

印字領域を広げてプリントします。

ただし、本機の制限によって用紙の端までプリントできない部分があります。

注記

- 本機は、用紙の上端から 4.0mm、下端および左右の端から 2.0mm はプリントできません。また、プリント時の本機の最大印字可能領域は、305.0mm×1194.0mm です。これを越えてプリントすることができません。

補足

- プリント領域を拡張するには、ART EX プリンタードライバー、または操作パネルの［プリント可能領域］で設定を変更します。

参照

- プリンタードライバーでの設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。操作パネルでの設定方法については、「プリント可能領域」(P.278) を参照してください。

操作パネルで表示できる漢字一覧

部門名やジョブメモリーなどを登録するときに、単漢字変換をする場合、次の一覧表の漢字を使用できます。使用できる漢字は、JIS の第一水準すべてと第二水準の一部（36 文字）です。第一水準の漢字は、読みがなの 1 文字めで分類しています。第二水準の漢字は、読みがなと漢字を示しています。漢字を登録する場合、対応した読みがなを入力して単漢字変換をしてください。そのほかのアルファベットやひらがな、数字、記号についてはタッチパネルディスプレイに表示されるキーボードをお使いください。

漢字一覧表（第一水準）

あ		亜	唖	娃	阿	哀	愛	挨	姶	逢
	葵	茜	穐	悪	握	渥	旭	葦	芦	鯵
	梓	圧	斡	扱	宛	姐	虻	飴	絢	綾
	鮎	或	粟	袷	安	庵	按	暗	案	闇
	鞍	杏								
い			以	伊	位	依	偉	囲	夷	委
	威	尉	惟	意	慰	易	椅	為	畏	異
	移	維	緯	胃	萎	衣	謂	違	遺	医
	井	亥	域	育	郁	磯	一	壱	溢	逸
	稲	茨	芋	鰯	允	印	咽	員	因	姻
	引	飲	淫	胤	蔭					
		院	陰	隠	韻	吋				
う							右	宇	烏	羽
	迂	雨	卯	鵜	窺	丑	碓	臼	渦	嘘
	唄	欝	蔚	鰻	姥	厩	浦	瓜	閏	噂
	云	運	雲							
え				荏	餌	叡	営	嬰	影	映
	曳	栄	永	泳	洩	瑛	盈	穎	頴	英
	衛	詠	鋭	液	疫	益	駅	悦	謁	越
	閲	榎	厭	円	園	堰	奄	宴	延	怨
	掩	援	沿	演	炎	焔	煙	燕	猿	縁
	艶	苑	薗	遠	鉛	鴛	塩			
お								於	汚	甥
	凹	央	奥	往	応					
		押	旺	横	欧	殴	王	翁	襖	鴬
	鴎	黄	岡	沖	荻	億	屋	憶	臆	桶
	牡	乙	俺	卸	恩	温	穏	音		
か									下	化
	仮	何	伽	価	佳	加	可	嘉	夏	嫁
	家	寡	科	暇	果	架	歌	河	火	珂
	禍	禾	稼	箇	花	苛	茄	荷	華	菓
	蝦	課	嘩	貨	迦	過	霞	蚊	俄	峨
	我	牙	画	臥	芽	蛾	賀	雅	餓	駕
	介	会	解	回	塊	壊	廻	快	怪	悔
	恢	懐	戒	拐	改					

か		魁	晦	械	海	灰	界	皆	絵	芥
	蟹	開	階	貝	凱	劾	外	咳	害	崖
	慨	概	涯	碍	蓋	街	該	鎧	骸	浬
	馨	蛙	垣	柿	蛎	鈎	劃	嚇	各	廓
	拡	撹	格	核	殻	獲	確	穫	覚	角
	赫	較	郭	閣	隔	革	学	岳	楽	額
	顎	掛	笠	樫	橿	梶	鰍	潟	割	喝
	恰	括	活	渇	滑	葛	褐	轄	且	鰹
	叶	椛	樺	鞄	株	兜	竈	蒲	釜	鎌
	噛	鴨	栢	茅	萱					
		粥	刈	苅	瓦	乾	侃	冠	寒	刊
	勘	勧	巻	喚	堪	姦	完	官	寛	干
	幹	患	感	慣	憾	換	敢	柑	桓	棺
	款	歓	汗	漢	澗	潅	環	甘	監	看
	竿	管	簡	緩	缶	翰	肝	艦	莞	観
	諌	貫	還	鑑	間	閑	関	陥	韓	館
	舘	丸	含	岸	巌	玩	癌	眼	岩	翫
	贋	雁	頑	顔	願					
き							企	伎	危	喜	器
	基	奇	嬉	寄	岐	希	幾	忌	揮	机
	旗	既	期	棋	棄					
		機	帰	毅	気	汽	畿	祈	季	稀
	紀	徽	規	記	貴	起	軌	輝	飢	騎
	鬼	亀	偽	儀	妓	宜	戯	技	擬	欺
	犠	疑	祇	義	蟻	誼	議	掬	菊	鞠
	吉	吃	喫	桔	橘	詰	砧	杵	黍	却
	客	脚	虐	逆	丘	久	仇	休	及	吸
	宮	弓	急	救	朽	求	汲	泣	灸	球
	究	窮	笈	級	糾	給	旧	牛	去	居
	巨	拒	拠	挙	渠	虚	許	距	鋸	漁
	禦	魚	亨	享	京					
		供	侠	僑	兇	競	共	凶	協	匡
	卿	叫	喬	境	峡	強	彊	怯	恐	恭
	挟	教	橋	況	狂	狭	矯	胸	脅	興
	蕎	郷	鏡	響	饗	驚	仰	凝	尭	暁

き	業	局	曲	極	玉	桐	粁	僅	勤	均
	巾	錦	斤	欣	欽	琴	禁	禽	筋	緊
	芹	菌	衿	襟	謹	近	金	吟	銀	
く										九
	倶	句	区	狗	玖	矩	苦	躯	駆	駈
	駒	具	愚	虞	喰	空	偶	寓	遇	隅
	串	櫛	釧	屑	屈					
		掘	窟	沓	靴	轡	窪	熊	隈	粂
	栗	繰	桑	鍬	勲	君	薫	訓	群	軍
	郡									
け		卦	袈	祁	係	傾	刑	兄	啓	圭
	珪	型	契	形	径	恵	慶	慧	憩	掲
	携	敬	景	桂	渓	畦	稽	系	経	継
	繋	罫	茎	荊	蛍	計	詣	警	軽	頚
	鶏	芸	迎	鯨	劇	戟	撃	激	隙	桁
	傑	欠	決	潔	穴	結	血	訣	月	件
	倹	倦	健	兼	券	剣	喧	圏	堅	嫌
	建	憲	懸	挙	捲					
		検	権	牽	犬	献	研	硯	絹	県
	肩	見	謙	賢	軒	遣	鍵	険	顕	験
	鹸	元	原	厳	幻	弦	減	源	玄	現
	絃	舷	言	諺	限					
こ							乎	個	古	呼	固
	姑	孤	己	庫	弧	戸	故	枯	湖	狐
	糊	袴	股	胡	菰	虎	誇	跨	鈷	雇
	顧	鼓	五	互	伍	午	呉	吾	娯	後
	御	悟	梧	檎	瑚	碁	語	誤	護	醐
	乞	鯉	交	佼	侯	候	倖	光	公	功
	効	勾	厚	口	向					
		后	喉	坑	垢	好	孔	孝	宏	工
	巧	巷	幸	広	庚	康	弘	恒	慌	抗
	拘	控	攻	昂	晃	更	杭	校	梗	構
	江	洪	浩	港	溝	甲	皇	硬	稿	糠
	紅	紘	絞	綱	耕	考	肯	肱	腔	膏
	航	荒	行	衡	講	貢	購	郊	酵	鉱

そ	倉	喪	壮	奏	爽	宋	層	匝	惣	想
	捜	掃	挿	掻	操	早	曹	巣	槍	槽
	漕	燥	争	痩	相	窓	糟	総	綜	聡
	草	荘	葬	蒼	藻	装	走	送	遭	鎗
	霜	騒	像	増	憎					
		臓	蔵	贈	造	促	側	則	即	息
	捉	束	測	足	速	俗	属	賊	族	続
	卒	袖	其	揃	存	孫	尊	損	村	遜
た	他	多	太	汰	詑	唾	堕	妥	惰	打
	柁	舵	楕	陀	駄	騨	体	堆	対	耐
	岱	帯	待	怠	態	戴	替	泰	滞	胎
	腿	苔	袋	貸	退	逮	隊	黛	鯛	代
	台	大	第	醍	題	鷹	滝	瀧	卓	啄
	宅	托	択	拓	沢	濯	琢	託	鐸	濁
	諾	茸	凧	蛸	只					
		叩	但	達	辰	奪	脱	巽	竪	辿
	棚	谷	狸	鱈	樽	誰	丹	単	嘆	坦
	担	探	旦	歎	淡	湛	炭	短	端	箪
	綻	耽	胆	蛋	誕	鍛	団	壇	弾	断
	暖	檀	段	男	談					
ち						値	知	地	弛	恥
	智	池	痴	稚	置	致	蜘	遅	馳	築
	畜	竹	筑	蓄	逐	秩	窒	茶	嫡	着
	中	仲	宙	忠	抽	昼	柱	注	虫	衷
	註	酎	鋳	駐	樗	瀦	猪	苧	著	貯
	丁	兆	凋	喋	寵					
		帖	帳	庁	弔	張	彫	徴	懲	挑
	暢	朝	潮	牒	町	眺	聴	脹	腸	蝶
	調	諜	超	跳	銚	長	頂	鳥	勅	捗
	直	朕	沈	珍	賃	鎮	陳			
つ								津	墜	椎
	槌	追	鎚	痛	通	塚	栂	掴	槻	佃
	漬	柘	辻	蔦	綴	鍔	椿	潰	坪	壺
	嬬	紬	爪	吊	釣	鶴				
て							亭	低	停	偵
	剃	貞	呈	堤	定	帝	底	庭	廷	弟
	悌	抵	挺	提	梯	汀	碇	禎	程	締
	艇	訂	諦	蹄	逓					
		邸	鄭	釘	鼎	泥	摘	擢	敵	滴
	的	笛	適	鏑	溺	哲	徹	撤	轍	迭
	鉄	典	填	天	展	店	添	纏	甜	貼
	転	顛	点	伝	殿	澱	田	電		

し	旬	楯	殉	淳	準	潤	盾	純	巡	遵
	醇	順	処	初	所	暑	曙	渚	庶	緒
	署	書	薯	諸	諸	助	叙	女	序	徐
	恕	鋤	除	傷	償					
		勝	匠	升	召	哨	商	唱	嘗	奨
	妾	娼	宵	将	小	少	尚	庄	床	廠
	彰	承	抄	招	掌	捷	昇	昌	昭	晶
	松	梢	樟	樵	沼	消	渉	湘	焼	焦
	照	症	省	硝	礁	祥	称	章	笑	粧
	紹	肖	菖	蔣	蕉	衝	裳	訟	証	詔
	詳	象	賞	醤	鉦	鍾	鐘	障	鞘	上
	丈	丞	乗	冗	剰	城	場	壌	嬢	常
	情	擾	条	杖	浄	状	畳	穣	蒸	譲
	醸	錠	嘱	埴	飾					
		拭	植	殖	燭	織	職	色	触	食
	蝕	辱	尻	伸	信	侵	唇	娠	寝	審
	心	慎	振	新	晋	森	榛	浸	深	申
	疹	真	神	秦	紳	臣	芯	薪	親	診
	身	辛	進	針	震	人	仁	刃	塵	壬
	尋	甚	尽	腎	訊	迅	陣	靭		
す									筒	諏
	須	酢	図	厨	逗	吹	垂	帥	推	水
	炊	睡	粋	翠	衰	遂	酔	錐	錘	随
	瑞	髄	崇	嵩	数	枢	趨	雛	据	形
	椙	菅	頗	雀	裾					
		澄	摺	寸						
せ					世	瀬	畝	是	凄	制
	勢	姓	征	性	成	政	整	星	晴	棲
	栖	正	清	牲	生	盛	精	聖	声	製
	西	誠	誓	請	逝	醒	青	静	斉	税
	脆	隻	席	惜	戚	斥	昔	析	石	積
	籍	績	脊	責	赤	跡	蹟	碩	切	拙
	接	摂	折	設	窃	節	説	雪	絶	舌
	蝉	仙	先	千	占	宣	専	尖	川	戦
	扇	撰	栓	梅	泉	浅	洗	染	潜	煎
	煽	旋	穿	箭	線					
		繊	羨	腺	舛	船	薦	詮	賤	践
	選	遷	銭	銑	閃	鮮	前	善	漸	然
	全	禅	繕	膳	糎					
そ						噌	塑	岨	措	曾
	曽	楚	狙	疏	疎	礎	祖	租	粗	素
	組	蘇	訴	阻	遡	鼠	僧	創	双	叢

こ	砿	鋼	閣	降	項	香	高	鴻	剛	劫
	号	合	壕	拷	濠	豪	轟	麹	克	刻
	告	国	穀	酷	鵠	黒	獄	漉	腰	甑
	忽	惚	骨	狛	込					
		此	頃	今	困	坤	墾	婚	恨	懇
	昏	昆	根	梱	混	痕	紺	艮	魂	
さ										些
	佐	叉	唆	嵯	左	差	査	沙	瑳	砂
	詐	鎖	娑	坐	座	挫	債	催	再	最
	哉	塞	妻	宰	彩	才	採	栽	歳	済
	災	采	犀	砕	砦	祭	斎	細	菜	裁
	載	際	剤	在	材	罪	財	冴	坂	阪
	堺	榊	肴	咲	崎	埼	碕	鷺	作	削
	咋	搾	昨	朔	柵	窄	策	索	錯	桜
	鮭	笹	匙	冊	刷					
		察	拶	撮	擦	札	殺	薩	雑	皐
	鯖	捌	錆	鮫	皿	晒	三	傘	参	山
	惨	撒	散	桟	燦	珊	産	算	纂	蚕
	讃	賛	酸	餐	斬	暫	残			
し								仕	仔	伺
	使	刺	司	史	嗣	四	士	始	姉	姿
	子	屍	市	師	志	思	指	支	孜	斯
	施	旨	枝	止	死	氏	獅	祉	私	糸
	紙	紫	肢	脂	至	視	詞	詩	試	誌
	諮	資	賜	雌	飼	歯	事	似	侍	児
	字	寺	慈	持	時					
		次	滋	治	爾	璽	痔	磁	示	而
	耳	自	蒔	辞	汐	鹿	式	識	鳴	竺
	軸	宍	雫	七	叱	執	失	嫉	室	悉
	湿	漆	疾	質	実	蔀	篠	偲	柴	芝
	屡	蕊	縞	舎	写	射	捨	赦	斜	煮
	社	紗	者	謝	車	遮	蛇	邪	借	勺
	尺	杓	灼	爵	酌	釈	錫	若	寂	弱
	惹	主	取	守	手	朱	殊	狩	珠	種
	腫	趣	酒	首	儒	受	呪	寿	授	樹
	綬	需	囚	収	周					
		宗	就	州	修	愁	拾	洲	秀	秋
	終	繍	習	臭	舟	蒐	衆	襲	讐	蹴
	輯	週	酋	酬	集	醜	什	住	充	十
	従	戎	柔	汁	渋	獣	縦	重	銃	叔
	夙	宿	淑	祝	縮	粛	塾	熟	出	術
	述	俊	峻	春	瞬	竣	舜	駿	准	循

と	兎 吐 堵 塗 妬 屠 徒 斗 杜 渡 登 菟 賭 途 都 鍍 砥 砺 努 度 土 奴 怒 倒 党 冬 凍 刀 唐 塔 塘 套 宕 島 嶋 悼 投 搭 東 桃 梼 棟 盗 淘 湯 涛 灯 燈 当 痘 祷 等 答 筒 糖 統 到 董 蕩 藤 討 謄 豆 踏 逃 透 鐙 陶 頭 騰 闘 働 動 同 堂 導 憧 撞 洞 瞳 童 胴 萄 道 銅 峠 鴇 匿 得 徳 涜 特 督 禿 篤 毒 独 読 栃 橡 凸 突 椴 届 鳶 苫 寅 酉 瀞 噸 屯 惇 敦 沌 豚 遁 頓 呑 曇 鈍
な	奈 那 内 乍 凪 南 楠 謎 灘 捺 鍋 梨 縄 暖 軟 難 汝
に	二 尼 弐 迩 匂 賑 肉 虹 廿 日 乳 入 如 尿 韮 任 妊 忍 認
ぬ	濡
ね	禰 祢 寧 葱 猫 熱 年 念 捻 撚 燃 粘
の	乃 廼 之 埜 嚢 悩 濃 納 能 脳 膿 農 覗 蚤
は	巴 把 播 覇 杷 波 派 琶 破 婆 罵 芭 馬 俳 廃 拝 排 敗 杯 盃 牌 背 肺 輩 配 倍 培 媒 梅 楳 煤 狽 買 売 賠 陪 這 蝿 秤 矧 萩 伯 剝 博 拍 柏 泊 白 箔 粕 舶 薄 迫 曝 漠 爆 縛 莫 駁 麦 函 箱 硲 箸 肇 筈 櫨 幡 肌 畑 畠 八 鉢 溌 発 醗 髪 伐 罰 抜 筏 閥 鳩 噺 塙 蛤 隼 伴 判 半 反 叛 帆 搬 斑 板 氾 汎 版 犯 班 畔 繁 般 藩 販 範 釆 煩 頒 飯 挽 晩 番 盤 磐 蕃 蛮
ひ	匪 卑 否 妃 庇 彼 悲 扉 批 披 斐 比 泌 疲 皮 碑 秘 緋 罷 肥 被
ひ	誹 費 避 非 飛 樋 簸 備 尾 微 枇 毘 琵 眉 美 鼻 柊 稗 匹 疋 髭 彦 膝 菱 肘 弼 必 畢 筆 逼 桧 姫 媛 紐 百 謬 俵 彪 標 氷 漂 瓢 票 表 評 豹 廟 描 病 秒 苗 錨 鋲 蒜 蛭 鰭 品 彬 斌 浜 瀕 貧 賓 頻 敏 瓶
ふ	不 付 埠 夫 婦 富 冨 布 府 怖 扶 敷 斧 普 浮 父 符 腐 膚 芙 譜 負 賦 赴 阜 附 侮 撫 武 舞 葡 蕪 部 封 楓 風 葺 蕗 伏 副 復 幅 服 福 腹 複 覆 淵 弗 払 沸 仏 物 frequency 分 吻 噴 墳 憤 扮 焚 奮 粉 糞 紛 雰 文 聞
へ	丙 併 兵 塀 幣 平 弊 柄 並 蔽 閉 陛 米 頁 僻 壁 癖 碧 別 瞥 蔑 箆 偏 変 片 篇 編 辺 返 遍 便 勉 娩 弁 鞭
ほ	保 舗 鋪 圃 捕 歩 甫 補 輔 穂 募 墓 慕 戊 暮 母 簿 菩 倣 俸 包 呆 報 奉 宝 峰 峯 崩 庖 抱 捧 放 方 朋 法 泡 烹 砲 縫 胞 芳 萌 蓬 蜂 褒 訪 豊 邦 鋒 飽 鳳 鵬 乏 亡 傍 剖 坊 妨 帽 忘 忙 房 暴 望 某 棒 冒 紡 肪 膨 謀 貌 貿 鉾 防 吠 頬 北 僕 卜 墨 撲 朴 牧 睦 穆 釦 勃 没 殆 堀 幌 奔 本 翻 凡 盆
ま	摩 磨 魔 麻 埋 妹 味 枚 毎 哩 槇 幕 膜 枕 鮪 柾 鱒 桝 亦 俣 又 抹 末 沫 迄 侭 繭 麿 万 慢 満 漫 蔓
み	味 未 魅 巳 箕 岬 密 蜜 湊 蓑 稔 脈 妙 粍 民 眠
む	務 夢 無 牟 矛 霧 鵡 椋 婿 娘
め	冥
め	名 命 明 盟 迷 銘 鳴 姪 牝 滅 免 棉 綿 緬 面 麺
も	摸 模 茂 妄 孟 毛 猛 盲 網 耗 蒙 儲 木 黙 目 杢 勿 餅 尤 戻 籾 貰 問 悶 紋 門 匁
や	也 冶 夜 爺 耶 野 弥 矢 厄 役 約 薬 訳 躍 靖 柳 薮 鑓 愉 愈 油 癒
ゆ	諭 輸 唯 佑 優 勇 友 宥 幽 悠 憂 揖 有 柚 湧 涌 猶 猷 由 祐 裕 誘 遊 邑 郵 雄 融 夕
よ	予 余 与 誉 輿 預 傭 幼 妖 容 庸 揚 揺 擁 曜 楊 様 洋 溶 熔 用 窯 羊 耀 葉 蓉 要 謡 踊 遙 陽 養 慾 抑 欲 沃 浴 翌 翼 淀
ら	羅 螺 裸 来 莱 頼 雷 洛 絡 落 酪 乱 卵 嵐 欄 濫 藍 蘭 覧
り	利 吏 履 李 梨 理 璃 痢 裏 裡 里 離 陸 律 率 立 葎 掠 略 劉 流 溜 流 留 硫 粒 隆 竜 龍 侶 慮 旅 虜 了 亮 僚 両 凌 寮 料 梁 涼 猟 療 瞭 稜 糧 良 諒 遼 量 陵 領 力 緑 倫 厘 林 淋 燐 琳 臨 輪 隣 鱗 麟
る	瑠 塁 涙 累 類
れ	令 伶 例 冷 励 嶺 怜 玲 礼 苓 鈴 隷 零 霊 麗 齢 暦 歴 列 劣 烈 裂 廉 恋 憐 漣 煉 簾 練 聯 蓮 連 錬
ろ	呂 魯 櫓 炉 賂 路 露 労 婁 廊 弄 朗 楼 榔 浪 漏 牢 狼 篭 老 聾 蠟 郎 六 麓 禄 肋 録 論
わ	倭 和 語 歪 賄 脇 惑 枠 鷲 亙 亘 鰐 詫 藁 蕨 椀 湾 碗 腕

漢字一覧表（第二水準）

読み	漢字
ボウ	眸
キョウ	筐
ショウ	翔
ヨ	與
ホウ	萌
エビ	蛯
ショウ	誦
キュウ	赳
テキ	迪
ハン	飯
ショウ	頌

読み	漢字
サイ	齋
コウ	篁
コウ	肛
マツ	茉
マン	萬
ケン	蜷
ジュン	諄
ケイ	蹊
マイ	邁
テツ	鐵
セン	餞

読み	漢字
リン	凜
キュウ	糺
シュウ	脩
リ	莉
ロ	蘆
フ	訃
ショウ	證
リョウ	輌
ヘン	邉
カン	鑵
キョウ	筐

読み	漢字
リン	稟
ヘン	邊
テツ	鐵

内蔵フォント

標準で次のフォントを使用できます。

参照

- HP-GL/2、PC-PR201H、PCL のフォントについては、「PC-PR201H エミュレーションを使用するには」(P.854)、「PCL エミュレーションを使用するには」(P.871)、「HP-GL/2 エミュレーションを使用するには」(P.878) を参照してください。

アウトラインフォント

搭載されているアウトラインフォントと、使用できるページ記述言語、またはエミュレーションモードとの関係は、次のとおりです。

なお、標準で搭載されているアウトラインフォントは、PostScript（オプション）では使用できません。

	書体	ART EX	ART IV	ESC/P	PDF Bridge	Docu-Works Bridge
和文	平成明朝体 W3*	●	●	●	●	●
	平成角ゴシック体 W5*	●	●	●	●	●
欧文	ローマン			●		
	サンセリフ			●		
	Arial	●	●	●	●	●
	Arial Italic	●	●	●	●	●
	Arial Bold	●	●	●	●	●
	Arial Bold Italic	●	●	●	●	●
	Century	●				●
	Courier	●	●	●	●	●
	Courier Italic	●	●	●	●	●
	Courier Bold	●	●	●	●	●
	Courier Bold Italic	●	●	●	●	●
	GoldSEMM				●	
	GoldSAMM				●	
	Symbol	●	●	●	●	●
	Times New Roman	●	●	●	●	●
	Times New Roman Italic	●	●	●	●	●
	Times New Roman Bold	●	●	●	●	●
	Times New Roman Bold Italic	●	●	●	●	●
	ITC Zapf Dingbats				●	
	Wingdings	●				●
	OCRBLetM		●	●		

●：標準装備

*：JIS2004 対応フォント

補足

- ART EX では日本語 2 書体の JIS 第一水準、第二水準の文字は JIS2004 の字形で出力されます。
- ART IV では、次の対応で指定します。
  - Arial: CS Triumvirate
  - Arial Bold: CS Triumvirate Bold
  - Arial Italic: CS Triumvirate Italic
  - Arial Bold Italic: CS Triumvirate Bold Italic
  - Courier: CSCourier Medium
  - Courier: CSCourier Bold
  - Courier: CSCourier Oblique
  - Courier: CSCourier Bold Oblique
  - Times New Roman: CSTimes
  - Times New Roman: CSTimes Bold
  - Times New Roman: CSTimes Italic
  - Times New Roman: CSTimes Bold Italic
  - Symbol: CSSymbol

オプション製品一覧

主なオプション製品は、次のとおりです。お買い求めは、販売店までご連絡ください。

商品名	説明
自動両面原稿送り装置 B1-PC	複数枚の原稿を自動的に送り込む装置です。
大型カラー操作パネル	10.4 インチ SVGA たて型カラータッチパネルディスプレイを備えた操作パネルです。
大型カラー操作パネル取り付けキット	大型カラー操作パネルを付けるためのキットです。 **補足** • ApeosPort-VI C5571/C4471/C3371/C2271、DocuCentre-VI C5571/C4471/C3371/C2271 用
大型カラー操作パネル取り付けキット 2	大型カラー操作パネルを付けるためのキットです。 **補足** • ApeosPort-VI C7771/C6671、DocuCentre-VI C7771/C6671 用
サイドトレイ	プリントやコピーした用紙が、印字面を上にして排出されます。
インナー排出トレイ	センタートレイを 2 段に分けるときに必要な装置です。
フィニッシャー A2	プリントやコピーした用紙に、ホチキス留めをして排出できる装置です。
フィニッシャー B1	プリントやコピーした用紙に、ホチキス留めをして排出できる装置です。
フィニッシャー B1 中とじユニット	プリントやコピーした用紙に 2 つ折りの折り目をつけたり、折り目をつけたものにホチキス留めをしたりもできます。
フィニッシャー B1 パンチユニット 2/4 穴	プリントやコピーした用紙に、2/4 穴のパンチ穴を開けて排出できる装置です。 **補足** • フィニッシャー B1 を装着している場合に使用できます。
フィニッシャー B1 パンチユニット 2/3 穴(US 規格)	プリントやコピーした用紙に、2/3 穴のパンチ穴を開けて排出できる装置です。パンチユニット 2/3 穴（US 規格）の 2 穴間隔は 70mm であり、パンチユニット 2/4 穴の 2 穴間隔 80mm とは異なります。 **補足** • フィニッシャー B1 を装着している場合に使用できます。
フィニッシャー C3	プリントやコピーした用紙に、ホチキス留めをして排出できる装置です。
中とじフィニッシャー C3	プリントやコピーした用紙に、ホチキス留めをして排出できる装置です。用紙を二つ折りにしたり、二つ折りしたものにホチキス留めをしたりもできます。
フィニッシャー C3 パンチユニット 2/4 穴	プリントやコピーした用紙に、2/4 穴のパンチ穴を開けて排出できる装置です。 **補足** • フィニッシャー C3、または中とじフィニッシャー C3 を装着している場合に使用できます。

商品名	説明
フィニッシャー C3 パンチユニット 2/3 穴	プリントやコピーした用紙に、2/3 穴のパンチ穴を開けて排出できる装置です。 **補足** • フィニッシャー C3、または中とじフィニッシャー C3 を装着している場合に使用できます。
フィニッシャー C3 ステープルユニット 65 枚	平とじ用のホチキス針です。用紙の種類により、最大 65 枚までホチキス留めができます。 **補足** • フィニッシャー C3、または中とじフィニッシャー C3 を装着している場合に使用できます。
紙折りユニット CD1	Z 折りや三つ折りをして、用紙を排出できるようになります。 **補足** • フィニッシャー C3 または中とじフィニッシャー C3 を装着している場合に使用できます。
大容量給紙トレイ（1 段）	用紙を 2,300 枚（弊社 P 紙）セットできる用紙トレイです。
英文キット	操作パネルを英語表示に変更できます。
ウイングテーブル	関連商品を載せたり、作業スペースとして使ったりできるキットです。 **補足** • 音声ナビには対応していません。 • 機械本体の左側に取り付けます。
ウイングテーブル	関連商品を載せたり、作業スペースとして使ったりできるキットです。（音声ナビ 2 用） **補足** • 機械本体の左側に取り付けます。
アクセサリーテーブル A	関連商品を載せるためのテーブルです。 **補足** • 機械本体の右奥側に取り付けます。
アクセサリーテーブル B	関連商品を載せるためのテーブルです。 **補足** • 機械本体の右手前側に取り付けます。
お知らせライト II	複合機の異常時やジョブ終了時に点滅します。
アシストハンドル	原稿カバーを閉じやすいように補助するハンドルです。
音声ナビ 2	音声ガイドに従い、数字ボタンを使用して本体を操作できます。 **補足** • USB 増設キットとウイングテーブルが必要です。
センタートレイ容量センサー	センタートレイで大量印刷時に排紙許容量を超えた場合、プリント動作を自動的に中断させます。
Smart WelcomEyes Advance 2	2 つのセンサーで人の動きを検知し、機械が自動的にスリープ状態から復帰します。また、カメラを使った顔認識機能による簡易認証システムも利用できます。
長尺用紙セットガイド	長さ 1200mm までの長尺用紙をセットできます。

商品名	説明
指静脈認証システム	複合機に接続された指静脈リーダーを用いた生体認証で、個人を識別します。 **補足** • ApeosPort モデル用
無線 LAN コンバーター	10/100/1000BASE-T の有線 LAN 対応機器を、無線 LAN に対応させます。
無線 LAN キット	Wi-Fi アクセスポイントとのインフラストラクチャ接続およびモバイル端末との Wi-Fi Direct 接続に複合機を対応させます。
エミュレーションキット	エミュレーションの HP-GL/2、PC-PR201H、PCL でプリントできるキットです。
Adobe PostScript 3 キット（平成 2 書体）	平成 2 書体の PostScript 3 キットです。 本機を PostScript 対応プリンターとして利用できるほか、エミュレーションの HP-GL/2、PC-PR201H、PCL でプリントできるようになります。また、Macintosh からもプリントできるようになります。
Adobe PostScript 3 キット（モリサワ 2 書体）	モリサワ 2 書体の PostScript 3 キットです。 本機を PostScript 対応プリンターとして利用できるほか、エミュレーションの HP-GL/2、PC-PR201H、PCL でプリントできるようになります。また、Macintosh からもプリントできるようになります。
多言語フォントキット	SAP などの基幹システム向け、PCL 言語用の Unicode™ フォントキットです。 **補足** •「Unicode™」とは、中国語、韓国語、日本語、英語などの多言語を同一の文字コードで扱うために、ゼロックスが提唱した文字コードです。
USB メモリーキット	スキャンしたデータを USB メモリーに保存できるようになります。また、操作パネルから、USB メモリーに保存されている画像データや文書ファイルを読み込んでプリントできるようになります。 **補足** • お使いの機種によっては、オプションのスキャナーキットが必要です
サーバーレスオンデマンドプリントキット	コンピューターから指示したプリントジョブは、いったん機械に蓄積されます。ジョブを受信した機械が使用中でも、ネットワーク上にある別の機械からジョブを呼び出してプリントできます。ジョブを蓄積するためのサーバーは必要ありません。
セカンダリーイーサネットキット	Ethernet インターフェイスを 2 回線利用できるようになるキットです。
スキャナーキット	スキャナー機能（USB メモリー保存を除く）が利用できるようになるキットです。
スキャン機能拡張キット	スキャナー（メール送信）、スキャナー（PC 保存）、スキャナー（USB メモリー保存）機能を使用する場合に、Word、Excel 文書が作成できます。また、スキャンで文字認識（OCR）を利用できるようになります。 **補足** • お使いの機種によっては、オプションのスキャナーキットが必要です。

商品名	説明
外部アクセスキット	操作パネルから、外部のアプリケーションと連携できるようになります。 **補足** • ApeosPort モデル用
USB 増設キット	USB ポートを増設します。
業務別らくらくスキャンキット	スキャンする文書を分類し、文書の種類ごとにファイル形式や保存先を設定して管理できます。 **補足** • お使いの機種によっては、オプションのスキャナーキットが必要です。 • 文字認識（OCR）機能を利用するには、オプションのスキャン機能拡張キットが必要です。
ファクスキット 3	ファクス機能やインターネットファクス機能が利用できるようになるキットです。
ファクスポート増設キット 3	回線の増設に必要なキットです。 **補足** • お使いの機種によっては、オプションのファクスキット 3 が必要です。
G3 増設ポートキット 3	G3 回線を増設します。 **補足** • お使いの機種によっては、オプションのファクスキット 3 が必要です。
ハンドセット	通話のときに使用します。 **補足** • お使いの機種によっては、オプションのファクスキット 3 が必要です。
IP ファクス（SIP）キット	IP ファクス（SIP）機能や次世代ネットワーク（NGN）機能が利用できるようになるキットです。 **補足** • お使いの機種によっては、オプションのファクスキット 3 が必要です。
TEL/FAX 切り替えキット	1 本の電話回線に電話機と本機を接続し、電話とファクスを自動で切り替えます。 **補足** • お使いの機種によっては、オプションのファクスキット 3 が必要です。
ペーパーレスファクス仕分けキット	本機が受信したファクス文書を、送信者ごとに自動的に親展ボックスに振り分け、保存できます。 **補足** • お使いの機種によっては、オプションのファクスキット 3 が必要です。
通過スタンプキット 2	ファクス送信するときに、自動両面原稿送り装置で読み取った原稿にスタンプを押すキットです。 **補足** • 自動両面原稿送り装置 B1-PC 用

商品名	説明
通過スタンプキット 3	ファクス送信するときに、自動両面原稿送り装置で読み取った原稿にスタンプを押すキットです。 **補足** • 自動両面原稿送り装置 C1-PC 用
複製管理拡張キット	ページ全体に日時や番号を印字することによって、機密文書などの複写を抑止するためのキットです。
データ上書き消去キット	ハードディスクの上書き消去をするためのキットです。
ペーパーセキュリティキット	文書に複製抑制の情報を埋め込み、文書の複製を制限して、セキュリティー管理をするためのキットです。
イメージログキット	本機で実行されたジョブの文書のイメージに、ジョブの利用者、利用時刻、部数などのジョブログを付加して、蓄積 / 管理するためのキットです。 **補足** • ApeosPort モデル用
イメージログキット (Adobe PostScript® 3™)	本機で実行されたジョブの文書のイメージに、ジョブの利用者、利用時刻、部数などのジョブログを付加して、蓄積 / 管理するためのキットです。 **補足** • ApeosPort モデル用
IC カードリーダー A (本体内蔵型)	IC カードの情報を読み込む、本体内蔵型の装置です。 **補足** • USB 増設キットが必要です。 • ワンタッチボタンと一緒に設置できません。 **参照** • 本機に設置できるICカードリーダーは2種類あります。それぞれの IC カードリーダーで利用できる IC カードについて、詳しくは、「IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定」(P.506) を参照してください。
IC カードリーダー A (外付け型)	IC カードの情報を読み込む、外付け型の装置です。 **参照** • 本機に設置できるICカードリーダーは2種類あります。それぞれの IC カードリーダーで利用できる IC カードについて、詳しくは、「IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定」(P.506) を参照してください。
IC カードリーダー A (ウイング内蔵型)	IC カードの情報を読み込む、ウイングテーブル内蔵型の装置です。 **参照** • 本機に設置できるICカードリーダーは2種類あります。それぞれの IC カードリーダーで利用できる IC カードについて、詳しくは、「IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定」(P.506) を参照してください。

商品名	説明
IC カードリーダー C（本体内蔵型）	IC カードの情報を読み込む、本体内蔵型の装置です。 **補足** • USB 増設キットが必要です。 • ワンタッチボタンと一緒に設置できません。 **参照** • 本機に設置できるICカードリーダーは2種類あります。それぞれの IC カードリーダーで利用できる IC カードについて、詳しくは、「IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定」（P.506）を参照してください。
IC カードリーダー C（外付け型）	IC カードの情報を読み込む、外付け型の装置です。 **参照** • 本機に設置できるICカードリーダーは2種類あります。それぞれの IC カードリーダーで利用できる IC カードについて、詳しくは、「IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定」（P.506）を参照してください。
IC カードリーダー C（ウイング内蔵型）	IC カードの情報を読み込む、ウイングテーブル内蔵型の装置です。 **参照** • 本機に設置できるICカードリーダーは2種類あります。それぞれの IC カードリーダーで利用できる IC カードについて、詳しくは、「IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定」（P.506）を参照してください。
地震対策キット	地震による本機の移動を防止します。 **補足** • 床（コンクリート）に アンカー施工が必要です。
マニュアルポケット	取扱説明書を収納するためのポケットです。
サーバーレス認証連携キット	複合機に登録されたユーザー情報を、連携する複数の複合機間で共有できます。最大 31500 ユーザーまで登録できます。
サーバーレス認証連携キット（本体認証版）	複合機に登録されたユーザー情報を、連携する複数の複合機間で共有できます。最大 999 ユーザーまで登録でき、IC Card Gate を設置した複合機と連携して利用することも可能です。
Print Server N03	高性能・高速 RIP 処理のネットワーク対応プリントサーバーです。 **補足** • 複合機本体のスキャナーによるキャリブレーションを利用するには、お使いの機種によっては、オプションのスキャナーキットが必要です。
DTP 機能拡張キット	Print Server N03 用オプション。APPE（Adobe PDF Print Engine）、トラッピングの自動処理、および Ripped PDF 機能が利用できるようになります。
面付け /PPML オプション	Print Server N03 用オプション。製本印刷向けの面付け加工と、PPML（Personalized Print Markup Language）対応のソフトウェア連携によるバリアブルプリントが利用できるようになります。
LCD モニターキット	Print Server N03 用オプション。ディスプレイ、キーボード、およびスティックポインターのセットです。
i1Pro 2 キット	Print Server N03 用オプション。X-Rite 社製の測色器です。

補足

- 商品の種類は変更されることがあります。
- Adobe PostScript 3 キットとエミュレーションキットは、同時に装着できません。
- 最新の情報については、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

出力イメージの自動位置調整（自動アライメント調整）

出力イメージの位置を用紙トレイごとに自動で調整する方法（自動アライメント調整）について説明します。

用紙の伸縮、断裁精度、用紙の保管状態などによって、出力イメージの位置がずれたときなどに調整してください。

補足

- アライメント補正で出力する用紙もプリントページ数にカウントされます。詳しくは、「メーター確認」(P.157) を参照してください。

  アライメント調整で出力する用紙もプリントページ数にカウントされます。詳しくは、「メーター確認」(P.157) を参照してください。
- 原稿ガラスでは、背景用シートを用い、調整用チャートを 4 回に分けて読み込むため、高精度な調整が可能です。原稿送り装置では、調整用チャートを自動的に読み込みますが、原稿送り装置の機構や状態により、読み取り誤差が発生する場合があります。
- 背景用シートは、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内の［Alignment Background Sheet］フォルダーに格納されている「SIQA_sheet1_11x17.pdf」または「SIQA_sheet1_A3.pdf」を両面出力したものを使用してください。
- カード認証機器を使用している場合、調整用チャートの出力や読み込み時に、カード認証が必要となる場合があります。

アライメント調整用チャートのプリント

出力イメージの位置の調整用チャートをプリントします。

1 出力イメージの位置を調整したいトレイに、調整したい用紙をセットします。

補足

- よこ 182mm × たて 182mm 以上のサイズの用紙をセットしてください。
- 色紙や下地色の強い用紙を使用すると、正しく調整できないことがあります。

2 〈認証〉ボタンを押して、機械管理者モードに入ります。

補足

- 機械管理者モードに入る方法については、「仕様設定の流れ」(P.162) を参照してください。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

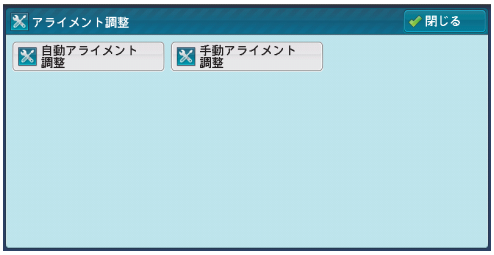
4 ［仕様設定］>［共通設定］>［保守］を押します。

5 ［アライメント調整］を選択します。

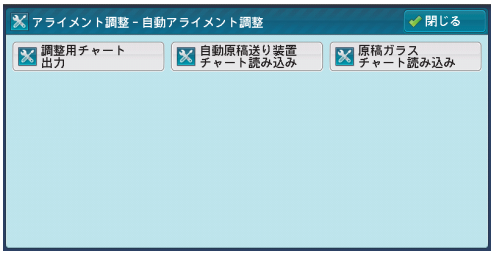
補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

6 ［自動アライメント調整］を選択します。



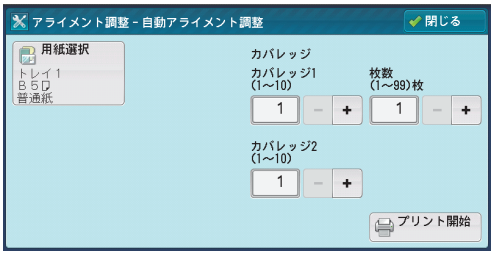
7 ［調整用チャート出力］を選択します。



8 手順 1 で用紙をセットしたトレイを、［用紙選択］で選択します。

カバレッジ 1、カバレッジ 2、および調整用チャートのプリント枚数を指定して、［プリント開始］を押します。

アライメント調整用チャートがプリントされます。



補足

- ばらつきの平均値を算出するため、調整用チャートは3枚以上プリントおよびスキャンすることをお勧めします。
- 複数の用紙トレイのアライメント調整を一度に行うには、ひとつの用紙トレイの調整用チャートをプリントしたあと、別の用紙トレイを選択し、調整用チャートを再度プリントしてください。すべての調整用チャートを読み込むことで、各用紙トレイの調整値を続けて保存することができます。
- 調整用チャートには、「どの用紙トレイから」「何枚め」にプリントされたかの情報がコード化されており、スキャン時にその情報が読み取られます。

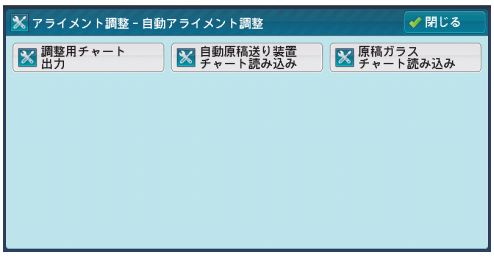
9 調整用チャートを読み込みます。

- 原稿送り装置で読み込む場合は、「アライメント調整用チャートのプリント」(P.795) を参照してください。
- 原稿ガラスで読み込む場合は、「原稿ガラスによる調整用チャートの読み込み」(P.798) を参照してください。
- 原稿送り装置での読み込みが異常終了した場合でも、原稿ガラスの読み込みは正常終了する場合があります。

原稿送り装置による調整用チャートの読み込み

原稿送り装置を使って調整用チャートを読み込み、アライメントを調整します。

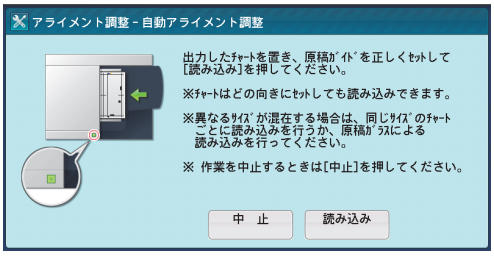
1 ［アライメント調整 - 自動アライメント調整］画面で［自動原稿送り装置チャート読み込み］を選択します。



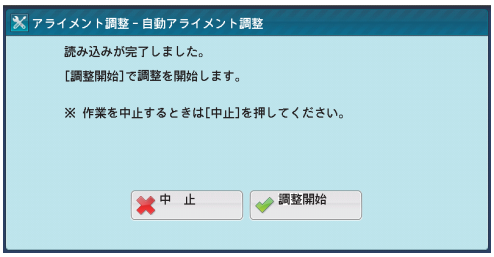
2 画面の指示に従って、原稿送り装置に調整用チャートをセットし、［読み込み］を押します。

注記

- 複数の用紙トレイの調整用シートも、同時に読み込むことができます。
- 異なるサイズの調整用チャートを、同時に読み込まないでください。

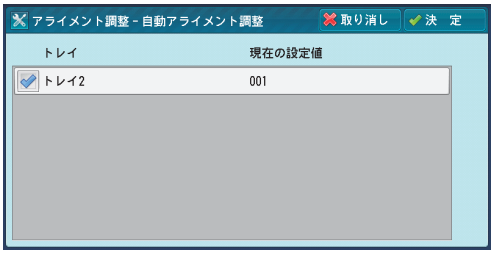


3 ［調整開始］を押します。



4 調整値を反映するトレイを選択して、［決定］を押します。

選択したトレイにアライメント調整値が反映されます。



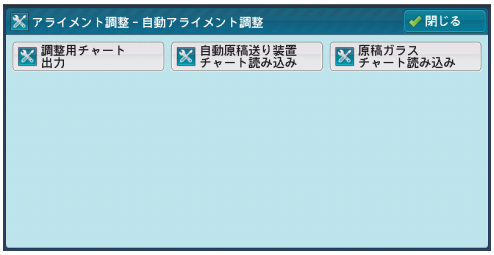
5 サンプルをプリントして、必要に応じて出力イメージの位置を微調整します。

参照
- 詳しくは、「出力イメージの位置の微調整」(P.799) を参照してください。

原稿ガラスによる調整用チャートの読み込み

原稿ガラスを使って調整用チャートを読み込み、アライメントを調整します。

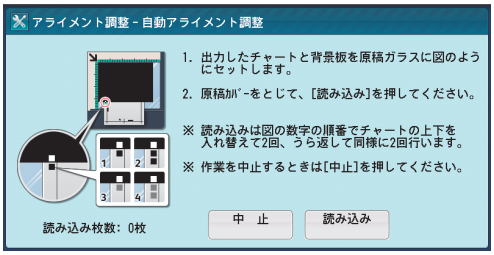
1 ［アライメント調整 - 自動アライメント調整］画面で［原稿ガラスチャート読み込み］を選択します。



2 画面の指示に従って、調整用チャートと背景用シートを原稿ガラスにセットし、［読み込み］を押します。

調整用チャートの表裏を上下 1 ヵ所ずつ、 4 回に分けて読み込んでください。

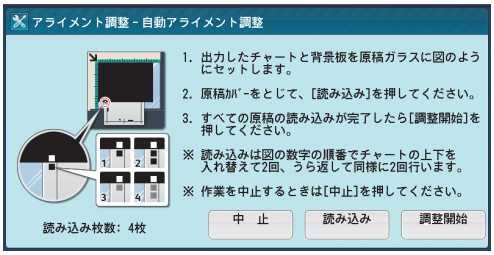
補足
- 縦位置：調整用チャートの■上部にある線と、背景用シートの下辺を合わせてください。
- 横位置：背景用シートの□と調整用チャートの■の位置を、画面の指示に従って調整してください。



補足
- 背景用シートは、メディア (ソフトウェア / 製品マニュアル) 内の［Alignment Background Sheet］フォルダに格納されている「SIQA_sheet1_11x17.pdf」または「SIQA_sheet1_A3.pdf」を両面出力して使用してください。
- 調整用チャートの表裏上下 4 ヵ所のスキャンデータを、調整 1 回分の測定データとして使用します。
- 複数の用紙トレイの調整用シートも、続けて読み込むことができます。
- 調整用チャートの置き位置や読み込み箇所を間違えた場合は、何度でも［読み込み］を押してやり直すことができます。

3 調整用チャートと背景用シートを原稿ガラスから取り除き、原稿カバーを閉じます。

4 ［調整開始］を押します。



5 調整値を反映するトレイを選択して、［決定］を押します。

選択したトレイにアライメント調整値が反映されます。

6 サンプルをプリントして、必要に応じて出力イメージの位置を微調整します。

参照

- 詳しくは、「出力イメージの位置の微調整」（P.799）を参照してください。

出力イメージの位置の微調整

必要に応じて、出力イメージの位置を微調整します。

1 カバレッジ１、カバレッジ２、およびサンプルのプリント枚数を指定して、［プリント開始］を押します。

サンプルがプリントされます。

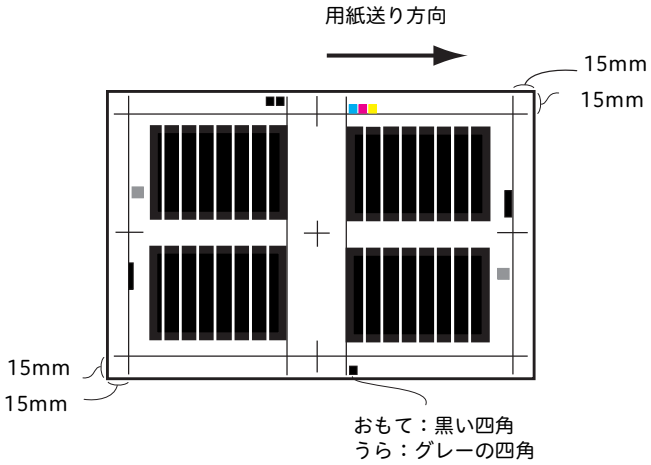
補足

- ばらつきの平均値を算出するため、サンプルは 3 枚程度プリントすることをお勧めします。

2 ［確認］を押します。

3 サンプルを確認し、必要に応じて出力イメージの位置を微調整します。

出力イメージの位置が正しい場合には、用紙の端から 15mm の位置に線がプリントされます。線の位置がずれているときには、調整をしてください。



注記

- 複数の種類のずれを調整する場合は、［直角度］→［副走査方向倍率］→［リード / サイドレジ］の順番で調整してください。

補足

- アライメント調整値は、おもて面とうら面のそれぞれに設定できます。一方の面の設定可能値の範囲が調整したい量に足りない場合は、もう一方の面も調整してください。

参照

- それぞれの調整方法の詳細は、次を参照してください。
  - 直角度の調整については「直角度の調整」(P.804)
  - 副走査方向倍率の調整については「副走査方向倍率の調整」(P.805)
  - リード / サイドレジの調整については「リード / サイドレジの調整」(P.806)

出力イメージの手動位置調整（手動アライメント調整）

出力イメージの位置を手動で調整する方法（手動アライメント調整）について説明します。

用紙の伸縮、断裁精度、用紙の保管状態などによって、出力イメージの位置がずれたときなどに調整してください。

補足

- カード認証機器を使用している場合、補正用チャートの出力や読み込み時に、カード認証が必要となる場合があります。

手動アライメント調整の種類

本機では、次の位置調整ができます。

直角度の調整

菱形に変形したイメージの直角度を調整します。

副走査方向倍率の調整

副走査方向（用紙送り方向）の出力イメージのサイズ（倍率）のずれを調整します。

リード / サイドレジの調整

リードレジ（用紙送り方向）やサイドレジ（用紙送り方向に対して垂直方向）の出力イメージのずれを調整します。

おもて面とうら面のイメージがずれているときなどに調整します。

手動アライメント調整

出力イメージの位置を手動で調整します。

1 出力イメージの位置を調整したいトレイに、調整したい用紙をセットします。

補足

- A3□、A4□、11x17□、8.5x11□のいずれかのサイズの用紙をセットしてください。

2 〈認証〉ボタンを押して、機械管理者モードに入ります。

補足

- 機械管理者モードに入る方法については、「仕様設定の流れ」（P.162）を参照してください。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

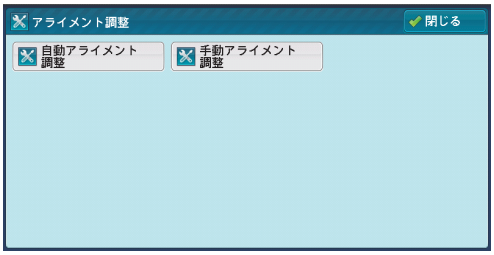
4 ［仕様設定］>［共通設定］>［保守］を押します。

5 ［アライメント調整］を選択します。

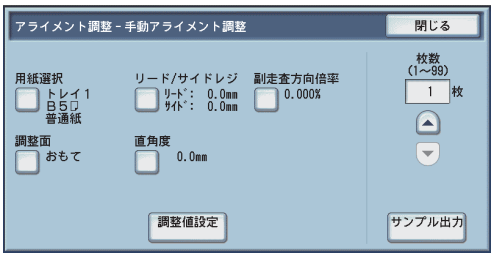
補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

6 ［手動アライメント調整］を選択します。



7 手順 1 で用紙をセットしたトレイを、［用紙選択］で選択します。
サンプルのプリント枚数を指定して、［サンプル出力］を押します。
サンプルがプリントされます。



補足

- ばらつきの平均値を算出するため、サンプルは 3 枚程度プリントすることをお勧めします。

8 ［確認］を押します。

9 ［閉じる］を押します。

10 サンプルを確認します。

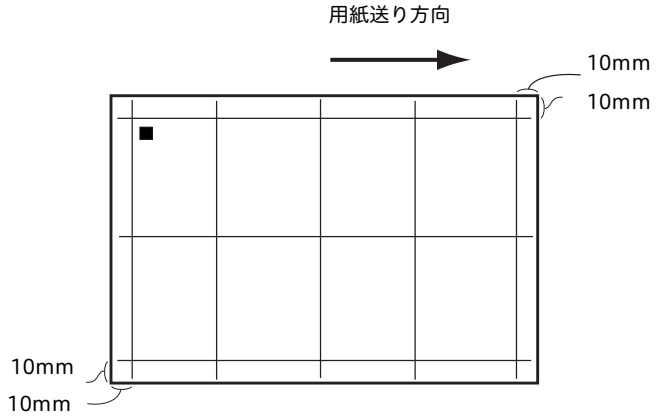
出力イメージの位置が正しい場合には、用紙の端から 10mm の位置に線がプリントされます。線の位置がずれているときには、調整をしてください。

注記

- 用紙送り方向を示すため、用紙の後端には■がプリントされます。おもて面には■が 1 つ、うら面には■が 2 つプリントされます。
- 複数の種類のずれを調整する場合は、［直角度］→［副走査方向倍率］→［リード / サイドレジ］の順番で調整してください。

補足

- アライメント調整値は、おもて面とうら面のそれぞれに設定できます。一方の面の設定可能値の範囲が調整したい量に足りない場合は、もう一方の面も調整してください。



参照

- それぞれの調整方法の詳細は、次を参照してください。
  - 直角度の調整については「直角度の調整」(P.804)
  - 副走査方向倍率の調整については「副走査方向倍率の調整」(P.805)
  - リード / サイドレジの調整については「リード / サイドレジの調整」(P.806)

11 ［調整面］を押します。

12 アライメント調整値を反映したい面を選択し、［閉じる］を押します。



13 ［調整値設定］を押します。

選択されている用紙トレイと面に、アライメント調整値が反映されます。

14 ［サンプル出力］を押してサンプルをプリントし、調整結果を確認します。

15 必要があれば、もう一度、調整し直します。

16［決定］を押します。

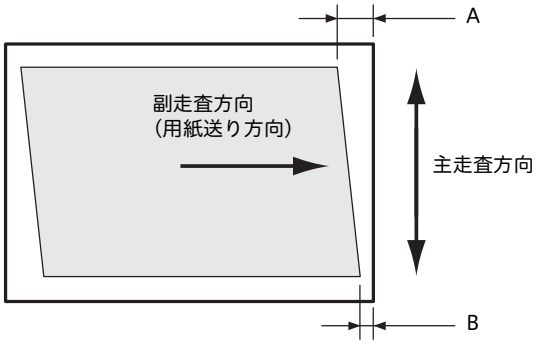
17［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

18［閉じる］を押します。

直角度の調整

イメージの直角度を 0.1mm 単位で調整します。

1 サンプルを確認し、イメージの直角度のずれ量（mm）を計測します。



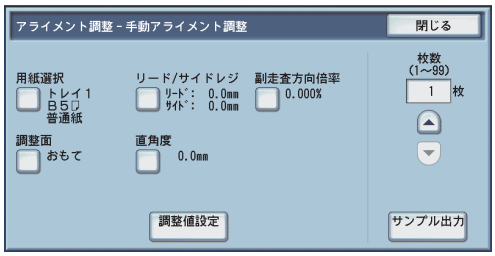
用紙の先端を上にしたときに、左側のリードレジの長さ（mm）を「A」、右側のリードレジの長さ（mm）を「B」として、次の式で直角度のずれ量を求めます。

直角度のずれ量（mm）= （A − B）×（副走査方向の用紙長さ − 20）÷（主走査方向の用紙幅（mm） − 20）

補足

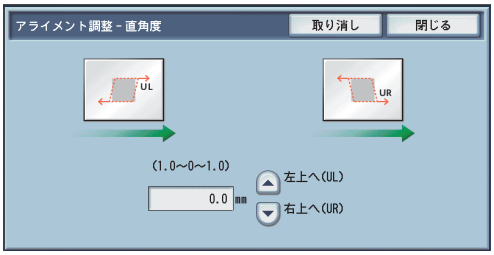
- 自動アライメント調整後の微調整を行う場合は、サンプルのプリント内容が異なるため、上記の式の「20」を「30」に置き換えて計算してください。自動アライメント調整後の微調整については、出力イメージの自動位置調整（自動アライメント調整）(P.795）を参照してください。

2 ［直角度］を選択します。



3 手順１で計測したずれ量を現在の設定値に加えた値を、入力します。

用紙の先端を上にしたときに、右上がりの平行四辺形を長方形に補正したい場合は［左上へ（UL)］、左下がりの平行四辺形を長方形に補正したい場合は［右上へ（UR)］を押して、調整値を入力します。



4 ［閉じる］を押します。

副走査方向倍率の調整

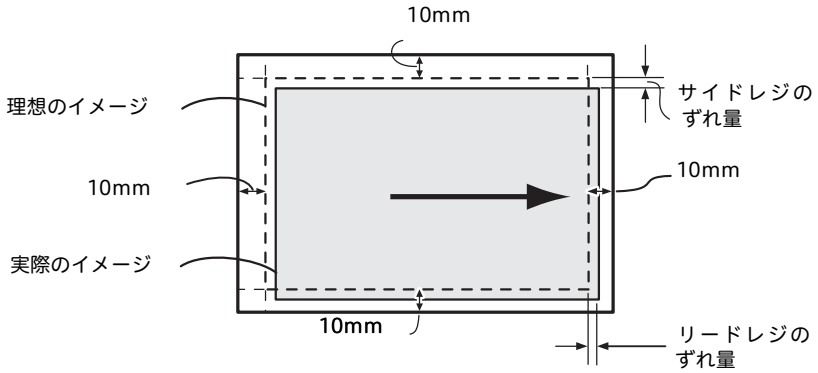
副走査方向（用紙送り方向）のイメージの倍率を 0.025%単位で調整します。

1 サンプルを確認し、副走査方向のイメージ長のずれ量（mm）を計測します。

副走査方向のイメージ長のずれ量（mm）＝副走査方向のイメージ長（mm）－（副走査方向の用紙長さ（mm）－ 20）

補足

- 自動アライメント調整後の微調整を行う場合は、サンプルのプリント内容が異なるため、上記の式の「20」を「30」に置き換えて計算してください。自動アライメント調整後の微調整については、「出力イメージの自動位置調整（自動アライメント調整)」(P.795) を参照してください。



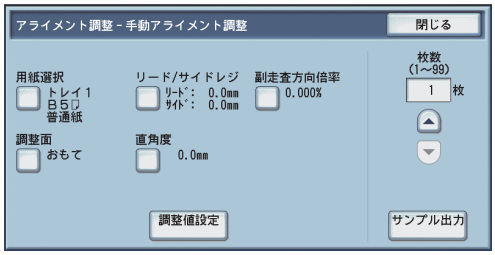
2 副走査方向倍率の調整値（%）を算出します。

副走査方向倍率の調整値（%）＝－１ ×（ずれ量（mm）÷（副走査方向の用紙長さ（mm）－ 20））× 100

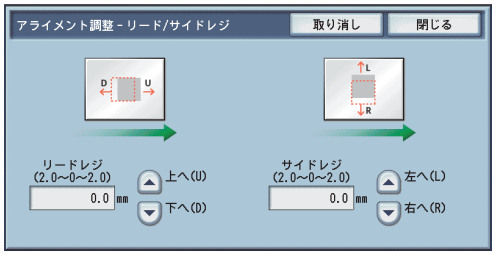
補足

- 自動アライメント調整後の微調整を行う場合は、サンプルのプリント内容が異なるため、上記の式の「20」を「30」に置き換えて計算してください。自動アライメント調整後の微調整については、「出力イメージの自動位置調整（自動アライメント調整)」(P.795) を参照してください。

3 ［副走査方向倍率］を選択します。



4 手順 2 で算出した調整値を現在の設定値に加えた値を、入力します。

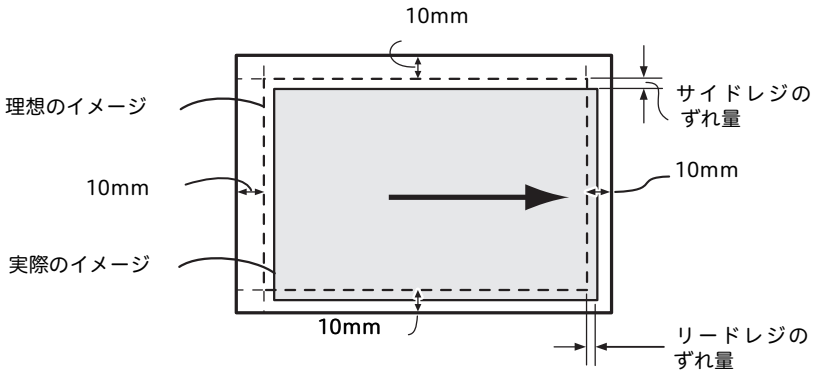


5 ［閉じる］を押します。

リード / サイドレジの調整

リードレジ（用紙送り方向）、サイドレジ（用紙送り方向に対して垂直方向）のイメージの位置を 0.1mm 単位で調整します。

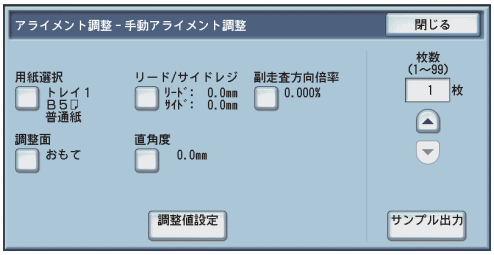
1 サンプルを確認し、イメージの位置のずれ量（mm）を計測します。



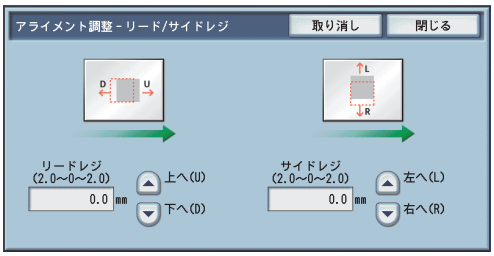
補足

- 自動アライメント調整後の微調整を行う場合は、サンプルのプリント内容が異なるため、上図の「10mm」を「15mm」に置き換えて計算してください。自動アライメント調整については、「出力イメージの自動位置調整（自動アライメント調整）」(P.795) を参照してください。

2 ［リード / サイドレジ］を選択します。



3 手順 1 で計測したずれ量を現在の設定値に加えた値を、入力します。



- リードレジ

  用紙の先端を上にしたときに、画像の位置を上へ移動させたい場合は［上へ（U)］、下へ移動させたい場合は［下へ（D)］を押して、調整値を入力します。

- サイドレジ

  用紙の先端を上にしたときに、画像の位置を左へ移動させたい場合は［左へ（L)］、右へ移動させたい場合は［右へ（R)］を押して、調整値を入力します。

4 ［閉じる］を押します。

出力イメージの自動濃度調整（自動面内ムラ調整）

出力イメージの濃度ムラを自動で調整する方法について説明します。

補足

- 面内ムラ調整で出力する用紙もプリントページ数にカウントされます。詳しくは、「メーター確認」（P.157）を参照してください。
- カード認証機器を使用している場合、補正用チャートの出力や読み込み時に、カード認証が必要となる場合があります。

1 トレイに用紙をセットします。

補足

- 210 mm x 210 mm 以上のサイズの用紙をセットしてください。
- 色紙や下地色の強い用紙を使用すると、正しく補正できないことがあります。

2 〈認証〉ボタンを押して、機械管理者モードに入ります。

参照

- 機械管理者モードに入る方法については、「仕様設定の流れ」（P.162）を参照してください。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

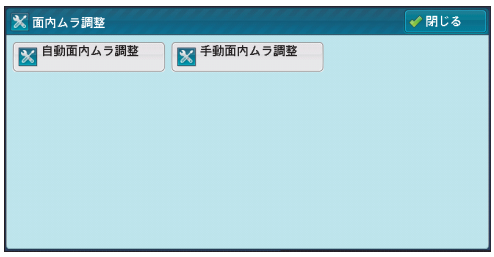
4 ［仕様設定］>［共通設定］>［保守］を押します。

5 ［面内ムラ調整］を選択します。

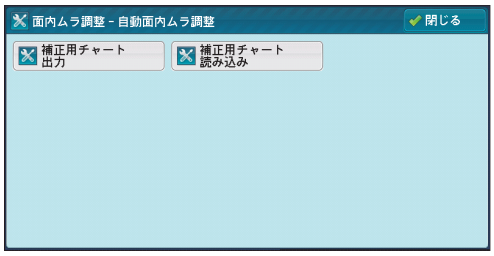
補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

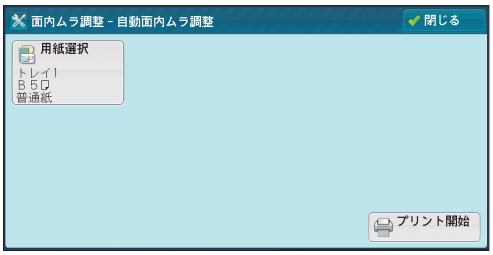
6 ［自動面内ムラ調整］を選択します。



7 ［補正用チャート出力］を押します。



8 手順 1 で用紙をセットしたトレイを選択し、［プリント開始］を押します。
CMYK チャートが 1 枚目に、RGB チャートが 2 枚目にプリントされます。

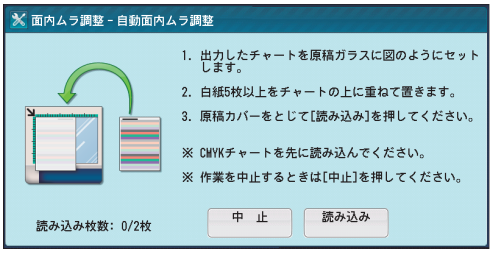


9 ［閉じる］を押します。

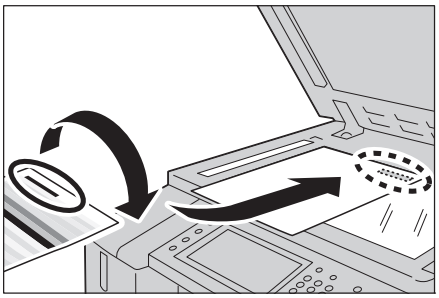
10 ［補正用チャート読み込み］を押します。

11 画面の指示に従って、CMYK チャートと RGB チャートを読み込みます。

補足
- CMYK チャートを先に読み込んでください。



1) CMYK チャートを原稿ガラスにセットします。プリント面を下に向け、黒いマークがある辺を原稿ガラスの奥に合わせてください。

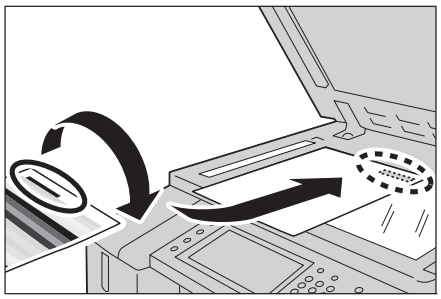


2) チャートと同じサイズの白紙を 5 枚以上、チャートの上に重ねて置きます。

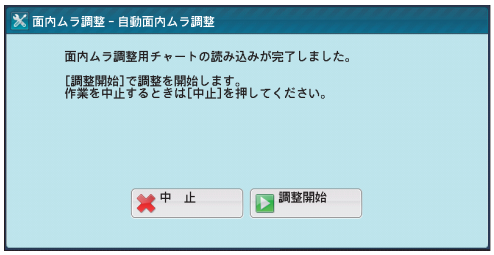
3) 原稿カバーを閉じて、［読み込み］を押します。

4) 読み込みが完了したら、チャートと白紙を原稿ガラスから取り除きます。

5) RGB チャートも、同様の手順で読み込みます。



12 ［調整開始］を押します。



13 ［確認］を押します。

14 補正用チャートを再度出力し、出力イメージの濃度ムラに問題が無いか確認します。

15 ［決定］を押します。

16 メニュー画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

出力イメージの手動濃度調整（手動面内ムラ調整）

出力イメージの濃度ムラを手動で調整する方法について説明します。

補足

- 面内ムラ調整で出力する用紙もプリントページ数にカウントされます。詳しくは、「メーター確認」（P.157）を参照してください。
- カード認証機器を使用している場合、補正用チャートの出力や読み込み時に、カード認証が必要となる場合があります。

1 トレイに用紙をセットします。

2 〈認証〉ボタンを押して、機械管理者モードに入ります。

参照

- 機械管理者モードに入る方法については、「仕様設定の流れ」（P.162）を参照してください。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

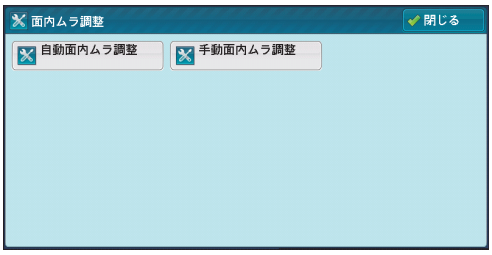
4 ［仕様設定］ > ［共通設定］ > ［保守］を押します。

5 ［面内ムラ調整］を選択します。

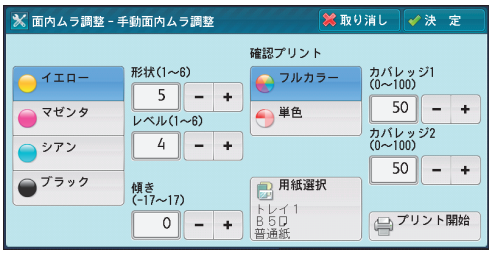
補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

6 ［手動面内ムラ調整］を選択します。



7 手順 1 で用紙をセットしたトレイを選択し、［プリント開始］を押します。



■カバレッジ 1、2

出力サンプルにプリントする濃度を、イエロー、マゼンタ、シアン、ブラックの色ごとに、2 種類設定できます。

■フルカラー / 単色

全ての色の濃度とバランスを確認するときは［フルカラー］を選択し、特定の色に限定して濃度を確認するときは［単色］を選択します。

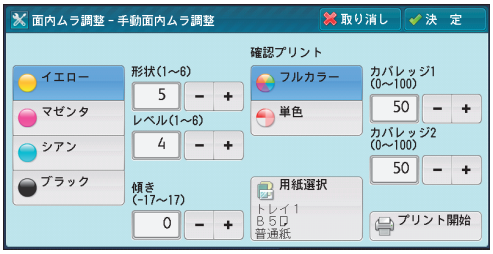
［単色］を選択した場合は、プリントする色を［イエロー］、［マゼンタ］、［シアン］、［ブラック］から選択してください。

■用紙選択

濃度を調整したい用紙がセットされたトレイを選択します。

8 ［確認］を押します。

9 出力サンプルを確認し、ムラが発生している場合は、濃度を調整します。



1) ［イエロー］、［マゼンタ］、［シアン］、［ブラック］から調整する色を選択します。

2) 出力サンプルの状態に応じて、形状、レベル、傾きを設定します。

■形状

出力サンプルへの濃度分布調整量を形状 1 ～ 6 のうちから選択します。

参照

- 形状については、「形状一覧」(P.813) を参照してください。

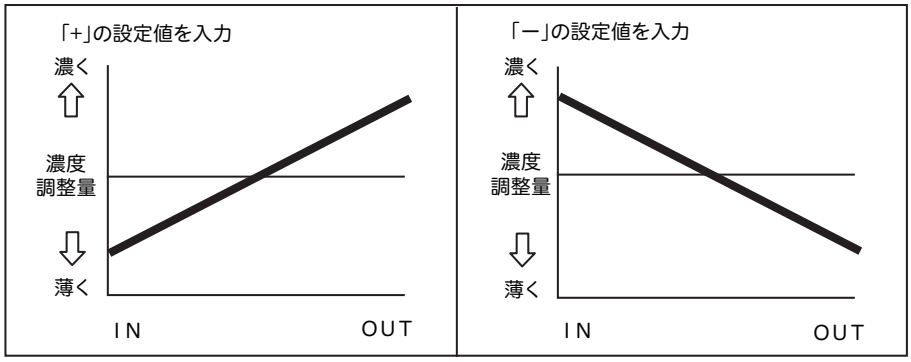
■レベル

出力サンプルの濃度差のレベルを 1 ～ 6 のうちから選択します。レベル 1 は調整量が無いことを表し、値が大きいほど調整量が大きいことを表します。

■傾き

出力サンプルに対して、濃度分布を次のように調整します。調整量を -17 ～ 17 の範囲で設定します。

値が大きいほど調整量が大きいことを表します。



補足

- 濃度分布がこれらのパターンとは異なるときは、［形状］、［レベル］を使用して調整してください。

10 調整後、再度［プリント開始］で出力サンプルをプリントし、調整結果を確認します。

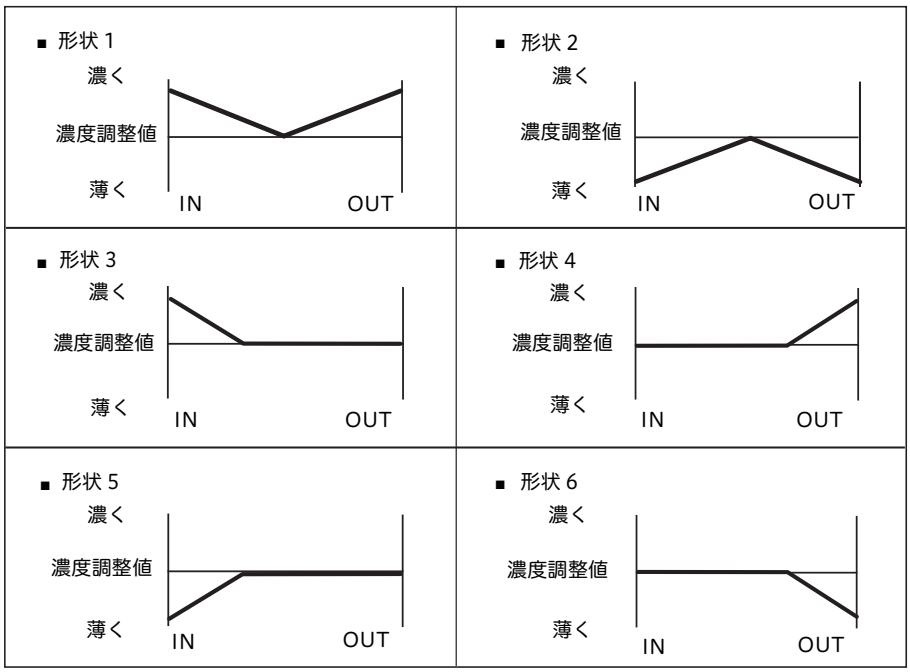
11 必要があれば、もう一度、調整し直します。

12 ［決定］を押します。

13 ［閉じる］を押します。

形状一覧

次の表を参照して、形状を選択してください。



出力イメージの濃度調整（プリントヘッド縦ムラ調整）

プリントヘッドによってスキャンイメージ上に発生する濃度の縦ムラを調整します。

補足
- ［調整値をリセット］を押すと、現在の調整値をリセットできます。
- カード認証機器を使用している場合、補正用チャートの出力や読み込み時に、カード認証が必要となる場合があります。

1 トレイに用紙をセットします。

補足
- 210 mm x 279.4 mm 以上の用紙をセットしてください。

2 〈認証〉ボタンを押して、機械管理者モードに入ります。

参照
- 機械管理者モードに入る方法については、「仕様設定の流れ」（P.162）を参照してください。

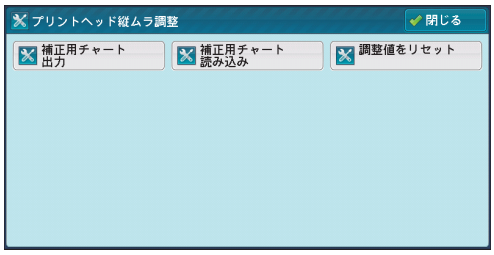
3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

4 ［仕様設定］>［共通設定］>［保守］を押します。

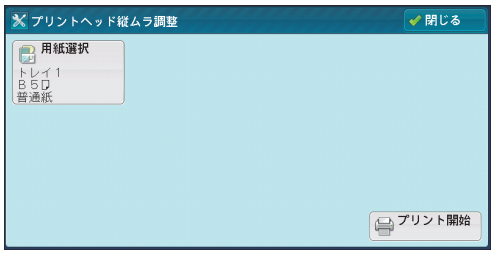
5 ［プリントヘッド縦ムラ調整］を押します。

補足
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

6 ［補正用チャート出力］を押します。

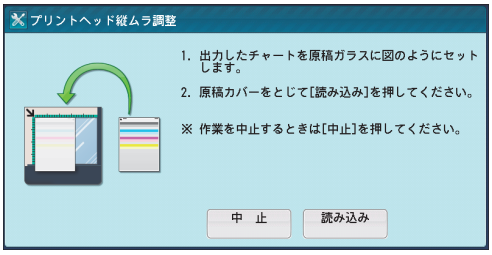


7 手順 1 で用紙をセットしたトレイを選択し、［プリント開始］を押します。

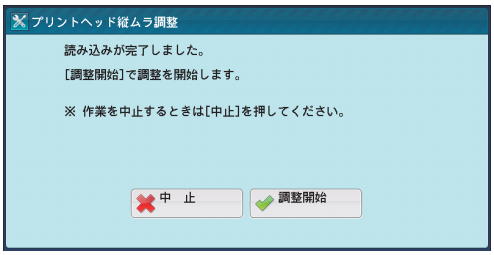


8 ［補正用チャート読み込み］を押します。

9 補正用チャートを原稿ガラスにセットし、［読み込み］を押します。



10 ［調整開始］を押して、調整を開始します。



11 再度、補正用チャートを出力し、調整結果を確認します。

12 必要があれば、もう一度、調整し直します。

13 ［決定］を押します。

14 ［閉じる］を押します。

紙折り位置の調整

紙折り位置の調整について説明します。

用紙の種類ごとに紙折りの位置を調整し、10 種類のタイプに設定できます。設定したタイプは各トレイに関連付けます。

二つ折り、製本、内三つ折り、外三つ折り、Z 折りの折り位置が調整できます。

紙折り位置の調整

1 トレイに折り位置を調整する用紙をセットします。

2 〈認証〉ボタンを押して、機械管理者モードに入ります。

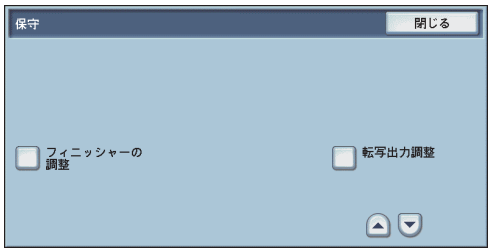
参照

- 機械管理者モードに入る方法については、「仕様設定の流れ」(P.162) を参照してください。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

4 ［仕様設定］>［共通設定］>［保守］を押します。

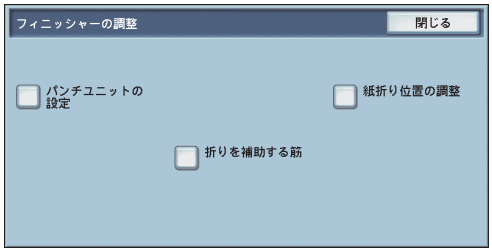
5 ［フィニッシャーの調整］を選択します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

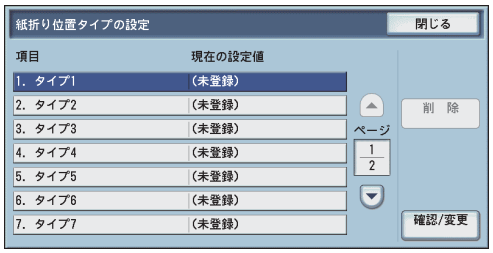
6 ［紙折り位置の調整］を選択します。



7 ［紙折り位置タイプの設定］を選択して、［設定 / 変更］を押します。



8 設定または調整したい紙折り位置タイプを選択して、［確認 / 変更］を押します。



9 ［名称］を選択して、［確認 / 変更］を押します。



10 タイプ名を入力して、［決定］を押します。

補足

- 「二つ折り標準」など、内容のわかる名称にすることをお勧めします。

11 折りのタイプを選択して、［確認 / 変更］を押します。

参照

- それぞれの折り調整の詳細は、次を参照してください。
  - 「二つ折りの位置調整」(P.817)
  - 「製本の位置調整」(P.819)
  - 「内三つ折りの位置調整」(P.821)
  - 「外三つ折りの位置調整」(P.823)
  - 「Z 折りの位置調整」(P.825)

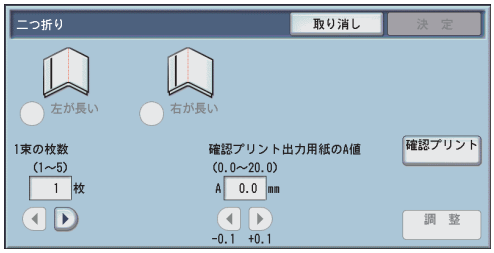
二つ折りの位置調整

二つ折りの位置を調整します。

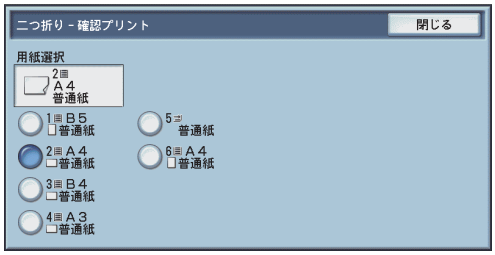
1 ［二つ折り］を選択して、［確認 / 変更］を押します。



2 ［1 束の枚数］を指定して、［確認プリント］を押します。



3 用紙をセットしたトレイを選択して、〈スタート〉ボタンを押します。

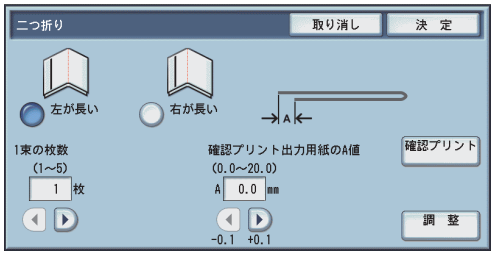


出力サンプルがプリントされます。

4 ［閉じる］を押します。

5 プリントされた出力サンプルを確認して、ずれ量を計測します。

6 ［左が長い］または［右が長い］を選択し、［確認プリント出力用紙の A 値］に、手順 5 で計測した値を入力します。



7 ［調整］を押します。

8 再度［確認プリント］を押します。

9 用紙をセットしたトレイを選択し、< スタート > ボタンを押します。出力サンプルがプリントされます。

10 ［閉じる］を押します。

11 出力サンプルの結果を確認します。

12 必要あれば、再度、調整します。（手順 5 ～ 11）

13 ［決定］を押します。

14 メニュー画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

補足
- ［仕様設定］以降または［登録 / 変更］以降の機能を設定した後で、〈メニュー〉ボタンを押すと 1 回でメニュー画面に戻ります。

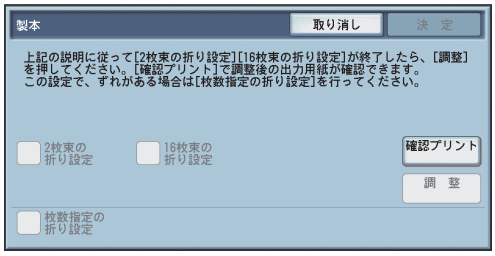
製本の位置調整

製本の位置を調整します。

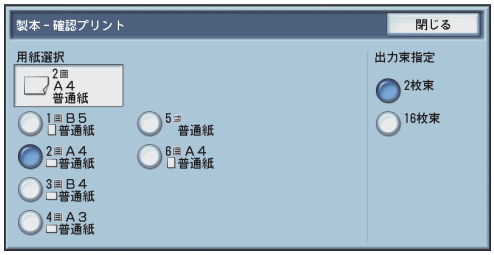
1 ［製本］を選択して、［確認 / 変更］を押します。



2 ［確認プリント］を押します。



3 用紙をセットしたトレイを選択し、[2 枚束] を選択して、〈スタート〉ボタンを押します。



出力サンプルがプリントされます。

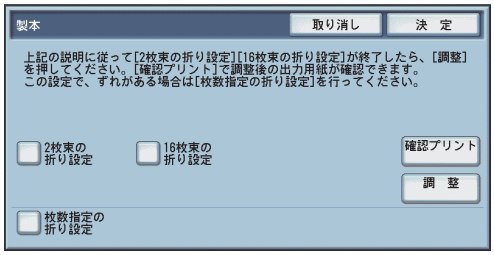
4 用紙をセットしたトレイを選択し、[16 枚束] を選択して、〈スタート〉ボタンを押します。

出力サンプルがプリントされます。

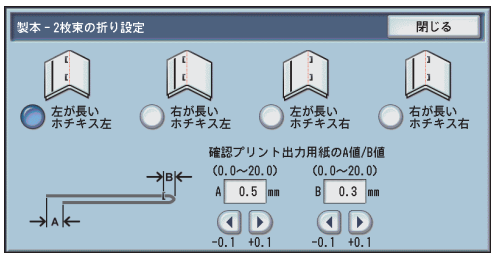
5 [閉じる] を押します。

6 出力サンプルを確認して、2 枚束、16 枚束の位置のずれ量を計測します。

7 [2 枚束の折り設定] を押します。

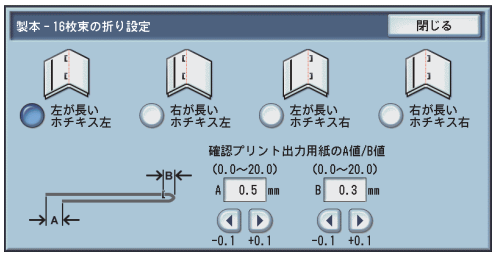


8 出力用紙の折りとホチキスの位置の状態を選択して、[確認プリント出力用紙の A 値 / B 値] に手順 6 で計測した 2 枚束のずれ量を入力します。



9 [閉じる] を押します。

10 同様に、［16 枚束の折り設定］を設定します。



［枚数指定の折り設定］を設定します。



補足

- 2 枚束と 16 枚束の設定で 2 枚束から 16 枚束まで自動的に調整されます。
- 2 枚束と 16 枚束の自動調整で合わない枚数がある場合は、［枚数指定の折り設定］で設定してください。

11 ［調整］を押します。

12 用紙をセットしたトレイを選択し、< スタート > ボタンを押します。出力サンプルがプリントされます。

13 ［閉じる］を押します。

14 出力サンプルの結果を確認します。

15 必要あれば、再度、調整します。（手順 6 ～ 14）

16 ［決定］を押します。

17 メニュー画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

補足

- ［仕様設定］以降または［登録 / 変更］以降の機能を設定した後で、〈メニュー〉ボタンを押すと 1 回でメニュー画面に戻ります。

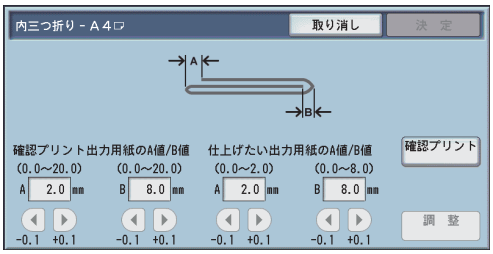
内三つ折りの位置調整

内三つ折りの位置を調整します。

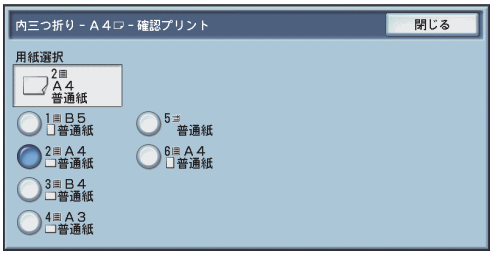
1 ［内三つ折り - A4□］または［内三つ折り - 8.5x11"□］を選択して、［確認 / 変更］を押します。



2 ［確認プリント］を押します。



3 用紙をセットしたトレイを選択して、〈スタート〉ボタンを押します。



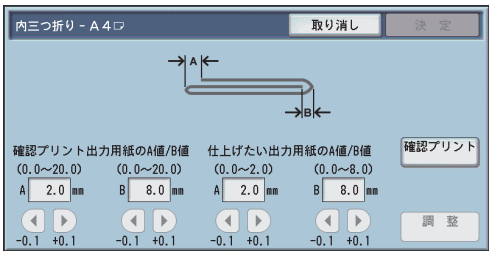
出力サンプルがプリントされます。

4 ［閉じる］を押します。

5 プリントされた出力サンプルを確認して、折り位置移動量 A、B を計測します。



6 ［確認プリント出力用紙の A 値 /B 値］に手順 5 で計測した値を、［仕上げたい出力用紙の A 値 /B 値］に仕上げたい（調整後にほしい）値を入力します。



注記

- 用紙の端が折り位置より外に出ないように A 値、B 値を設定してください。用紙の端が折り位置より外に出ると、紙づまりの原因になることがあります。

7 ［調整］を押します。

8 再度［確認プリント］を押します。

9 用紙をセットしたトレイを選択し、< スタート > ボタンを押します。出力サンプルがプリントされます。

10 ［閉じる］を押します。

11 出力サンプルの結果を確認します。

12 必要があれば、再度、調整します。（手順 5 ～ 11）

13 ［決定］を押します。

14 メニュー画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

補足

- ［仕様設定］以降または［登録 / 変更］以降の機能を設定した後で、〈メニュー〉ボタンを押すと 1 回でメニュー画面に戻ります。

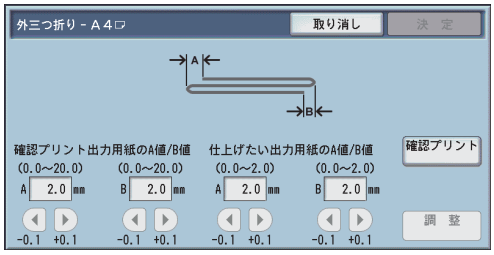
外三つ折りの位置調整

外三つ折りの位置を調整します。

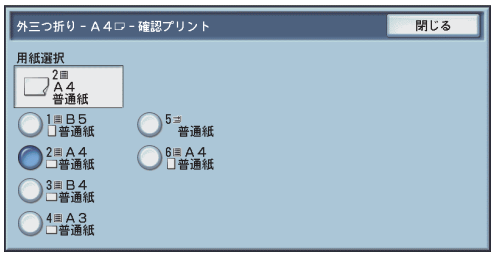
1 ［外三つ折り - A4］または［外三つ折り - 8.5x11"］を選択して、［確認 / 変更］を押します。



2 ［確認プリント］を押します。



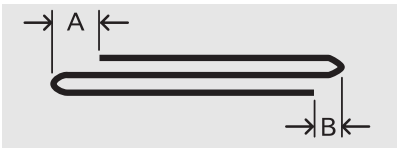
3 用紙をセットしたトレイを選択して、〈スタート〉ボタンを押します。



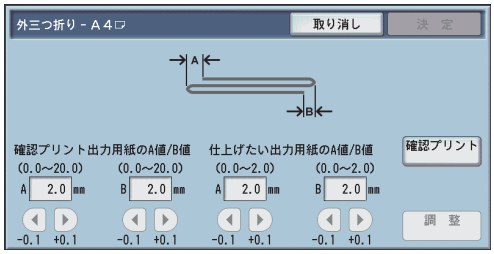
出力サンプルがプリントされます。

4 ［閉じる］を押します。

5 プリントされた出力サンプルを確認して、折り位置移動量 A、B を計測します。



6 ［確認プリント出力用紙の A 値 /B 値］に手順 5 で計測した値を、［仕上げたい出力用紙の A 値 /B 値］に仕上げたい（調整後にほしい）値を入力します。



注記

- 用紙の端が折り位置より外に出ないように A 値、B 値を設定してください。用紙の端が折り位置より外に出ると、紙づまりの原因になることがあります。

7 ［調整］を押します。

8 再度［確認プリント］を押します。

9 用紙をセットしたトレイを選択し、< スタート > ボタンを押します。出力サンプルがプリントされます。

10 ［閉じる］を押します。

11 出力サンプルの結果を確認します。

12 必要があれば、再度、調整します。（手順 5 ～ 11）

13 ［決定］を押します。

14 メニュー画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

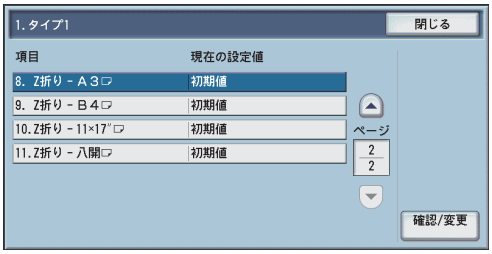
補足

- ［仕様設定］以降または［登録 / 変更］以降の機能を設定した後で、〈メニュー〉ボタンを押すと 1 回でメニュー画面に戻ります。

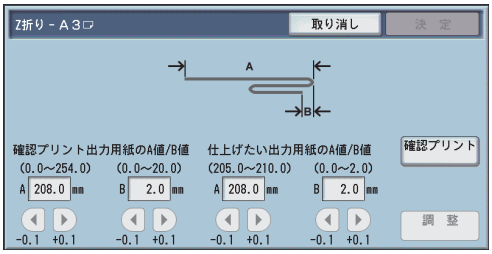
Z 折りの位置調整

Z 折りの位置を調整します。

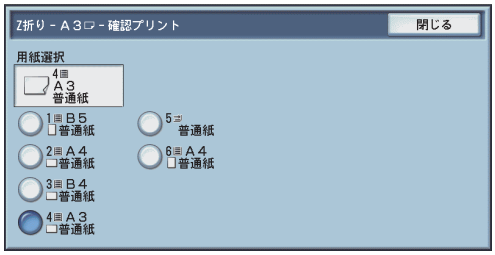
1 ［Z 折り - A3□］、［Z 折り - B4□］、［Z 折り - 11x17"□］または［Z 折り - 八開□］を選択して、［確認 / 変更］を押します。



2 ［確認プリント］を押します。



3 用紙をセットしたトレイを選択し、〈スタート〉ボタンを押します。



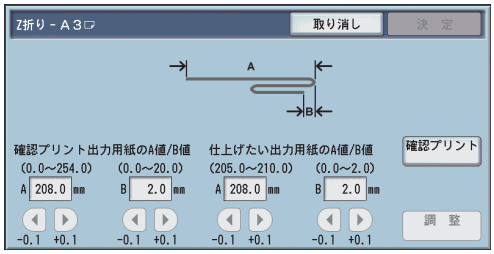
出力サンプルがプリントされます。

4 ［閉じる］を押します。

5 プリントされた出力サンプルを確認して、折り位置移動量 A、B を計測します。



6 ［確認プリント出力用紙の A 値 /B 値］に手順 5 で計測した値を、［仕上げたい出力用紙の A 値 /B 値］に、仕上げたい（調整後にほしい）値を入力します。



注記

- 用紙の端が折り位置より外に出ないように B 値を設定してください。用紙の端が折り位置より外に出ると、紙づまりの原因になることがあります。

7 ［調整］を押します。

8 再度［確認プリント］を押します。

9 用紙をセットしたトレイを選択し、< スタート > ボタンを押します。出力サンプルがプリントされます。

10 ［閉じる］を押します。

11 出力サンプルの結果を確認します。

12 必要があれば、再度、調整します。（手順 5 ～ 11）

13 ［決定］を押します。

14 メニュー画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

補足

- ［仕様設定］以降または［登録 / 変更］以降の機能を設定した後で、〈メニュー〉ボタンを押すと 1 回でメニュー画面に戻ります。

転写出力調整

ここでは、転写出力調整について説明します。

本機で転写不良が発生した場合などに、転写出力値を手動またはサンプルプリントを読み込むことによって調整できます。

転写出力調整の設定

用紙種類ごとに、転写出力値を調整します。

補足

- お使いの機種によって、設定できる用紙種類は異なります。手順説明で使用している画面が、お客様のお使いの機種と異なる場合があります。

転写出力値を手動で調整する場合

1 〈認証〉ボタンを押して、機械管理者モードに入ります。

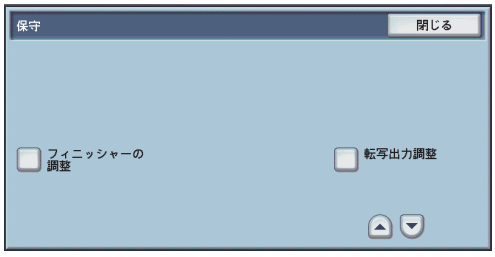
参照

- 機械管理者モードに入る方法については、「仕様設定の流れ」(P.162) を参照してください。

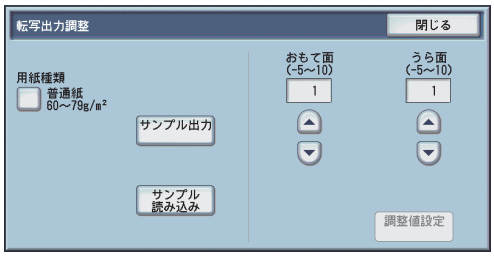
2 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

3 ［仕様設定］>［共通設定］>［保守］を押します。

4 ［転写出力調整］を押します。



5 ［用紙種類］を選択します。



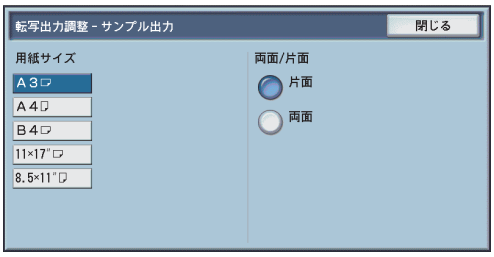
6 調整する用紙種類を選択して、［閉じる］を押します。



7 ［サンプル出力］を押します。

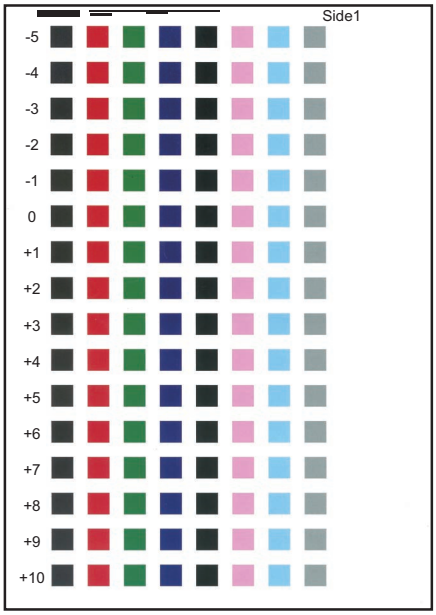


8 手差しトレイに選択した用紙サイズの用紙をセットして、［片面］または［両面］を選択します。



9 〈スタート〉ボタンを押します。

次のようなサンプルがプリントされます。



補足

- サンプルの右上に、おもて面は「Side1」、うら面は「Side2」とプリントされます。
- 用紙サイズが A4、B4、8.5 × 11 インチの場合は、サンプルが 2 枚に分かれてプリントされます。

10 サンプルを確認して、良好な行の左端の数値（-5 ～ +10）を控えておきます。

補足

- 両面でプリントした場合は、おもて面の数値と、うら面の数値の両方を控えてください。

11 ［おもて面］と［うら面］に、手順 10 で控えた数値を指定します。



12 ［調整値設定］を押します。

以降のプリントでは、ここで設定した転写出力値が反映されます。

13 ［閉じる］を押します。

転写出力値をサンプルプリントを読み込んで調整する場合

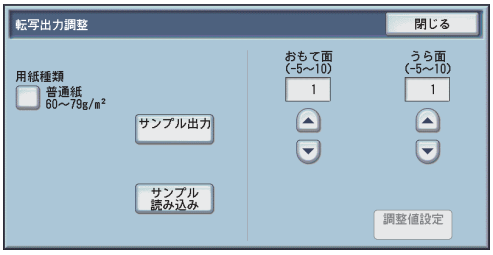
1 〈認証〉ボタンを押して、機械管理者モードに入ります。

2 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

3 ［仕様設定］ > ［共通設定］ > ［保守］を押します。

4 ［転写出力調整］を押します。

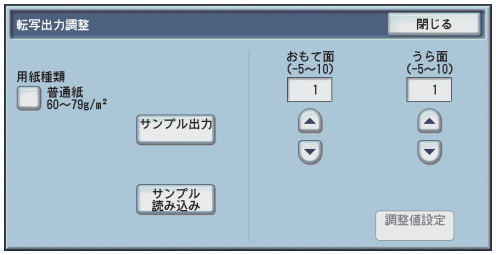
5 ［用紙種類］を選択します。



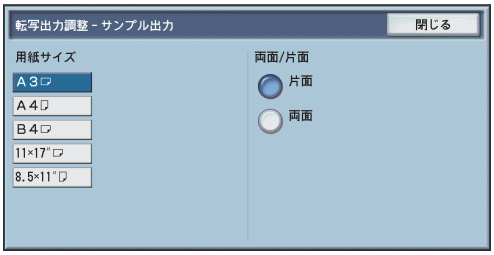
6 調整する用紙種類を選択して、［閉じる］を押します。



7 ［サンプル出力］を押します。

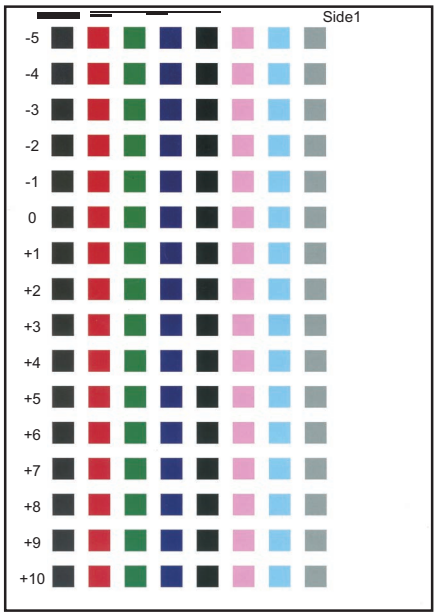


8 手差しトレイに選択した用紙サイズの用紙をセットして、［片面］または［両面］を選択します。



9 〈スタート〉ボタンを押します。

次のようなサンプルがプリントされます。



補足

- サンプルの右上に、おもて面は「Side1」、うら面は「Side2」とプリントされます。
- 用紙サイズが A4、B4、8.5 × 11 インチの場合は、サンプルが 2 枚に分かれてプリントされます。

10 ［サンプル読み込み］を押します。



11 画面の指示に従って、サンプルプリントを原稿ガラスにセットします。

12 サンプルプリントの上に、サンプルプリントと同じサイズの白紙を 5 枚以上重ねて置き、原稿カバーを閉じて、［読み込み］を押します。スキャンが終了したら、チャートと白紙を取り除きます。サンプルプリントが両面の場合は、サンプルプリントのおもて面とうら面に手順 11 と 12 を行います。

補足

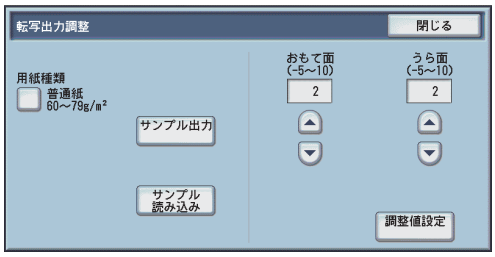
- サンプルプリントの内容と枚数によって、必要なスキャン回数が決定されます。
  - サンプルプリントが片面 1 枚のとき：1 回
  - サンプルプリントが両面 1 枚のとき：2 回
  - サンプルプリントが片面 2 枚のとき：2 回
  - サンプルプリントが両面 2 枚のとき：4 回
- ［調整開始］はサンプルプリントを 1 回スキャンすると画面に表示されます。必要な数サンプルプリントをスキャンしたあと、押してください。

- 必要なスキャン回数が不足したまま［調整開始］を押すと、次の手順で転写出力調整が異常終了します。
- サンプルプリントの内容に関わらず、スキャンは最大 4 回まで行うことができます。必要回数を超えてスキャンを行った場合は、あとからスキャンしたデータを優先的に使用し、必要回数のスキャンデータで転写出力調整を行います。
- スキャン回数が 2 回以上のサンプルプリントをスキャンするときは、［サンプル出力］で出力したサンプルプリント一式を全てスキャンしてください。出力時間差が 24 時間以上あるサンプルプリントを混ぜてスキャンすると、24 時間以上前のサンプルプリントは調整用のデータとして使用されません。

13 スキャンが終了したら、［調整開始］を押します。

補足
- 転写出力調整が正常に終了すると［完了しました］というメッセージが表示されます。

14 ［おもて面］と［うら面］に本機が算出した推奨調整値（サンプル番号）が表示されます。



15 ［調整値設定］を押します。

以降のプリントでは、ここで設定した転写出力値が反映されます。

16 ［閉じる］を押します。

ESC/P エミュレーションを使用するには

ESC/P エミュレーションを使用する方法について説明します。

エミュレーションについて

本機で使用できるプリント言語のエミュレーションについて説明します。

プリントデータはある規則（文法）に従ったデータになっています。本機では、この規則（文法）をプリント言語といいます。

本機が対応しているプリント言語は、ページ単位にイメージを作るページ記述言語と、他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることができるエミュレーションに分類できます。なお、他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることをエミュレートするといいます。

エミュレーションモード

本機が対応するページ記述言語以外のデータをプリントするときは、本機をエミュレーションモードにします。エミュレーションモードと、エミュレートするプリンターの対応は、次のとおりです。

エミュレーションモード	エミュレートするプリンター
ESC/P エミュレーションモード（ESC/P モード）	VP-1000

ホストインターフェイスとエミュレーション

ホストインターフェイスごとに、対応するプリント言語は異なります。プリント言語に対応しているホストインターフェイスは、次のとおりです。

- USB ポート
- LPD ポート
- IPP ポート
- Port 9100 ポート
- WSD ポート

補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

プリント言語の切り替え

本機は、マルチエミュレーションに対応しています。このため、対応するプリント言語の切り替えができるようになっています。

対応するプリント言語を切り替える方法は、次のとおりです。

■コマンド切り替え

対応するプリント言語を切り替えるコマンドを用意しています。本機は、コマンドを受け取ると、対応するプリント言語に切り替えます。

■自動切り替え

ホストインターフェイスが受信したデータを分析し、プリント言語を自動的に特定します。そして、対応するプリント言語に切り替えます。

■インターフェイス従属

CentreWare Internet Services を使って、ホストインターフェイスごとにプリント言語を設定します。データを受信したホストインターフェイスに合わせて、対応するプリント言語を切り替えます。

フォントについて

エミュレーションから使用できるフォントについて説明します。

使用できるフォント

エミュレーションでは、次のフォントが使用できます。

■ESC/P エミュレーション

使用できるアウトラインフォントは、次のとおりです。

◆和文

- 平成明朝体 W3
- 平成角ゴシック体 W5

◆欧文

- 平成明朝体（ローマン）
- 平成角ゴシック体（サンセリフ）
- OCR-B

ユーザー定義文字（外字）

本機では、ユーザー定義文字（外字）を使用できます。

ユーザー定義文字を格納するメモリーの容量は、その他のユーザー定義データの容量と合わせた値を、操作パネルから設定できます。この値は、電源を切っても保持されます。

ユーザー定義文字は、ビットマップフォントとして登録します。ユーザー定義文字は、各プリント言語の間で共有できません。

フォントキャッシュ

高速プリントを実現するために、ある程度の大きさまでのアウトラインフォントについては、フォントキャッシュを実行します。アウトラインフォントを印字するときには、一度、ビットマップの形式に変換されます。この処理時間をできるだけ短縮するために、処理後のビットマップ形式のデータを、メモリーに保存しておきます。これをフォントキャッシュといいます。

保存されたビットマップ形式のデータは、電源を切ったりシステムリセットをしたりすると消えます。

排出機能について

排出について説明します。

プリント待ちジョブの排出

プリンターに受信されているジョブを優先してプリントします。

参照
- プリンター内のジョブを優先してプリントする手順は、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ジョブ確認」>「実行中 / 実行待ちのジョブを確認する」を参照してください。

ESC/P エミュレーションモードでのプリント機能

N アップ

N アップは、複数ページを縮小して、1 枚の用紙にプリントする機能です。

N アップは、ESC/P モードのエミュレーションモードで利用できます。ESC/P モードでは、2 アップを利用できます。

フォームオーバーレイ

ESC/P モードでは、あらかじめフォームをプリンターに登録しておき、プリントデータに合成してプリントできます。

操作パネルから、合成するフォームを指定できます。

参照
- フォームの登録については、『リファレンスマニュアル（ESC/P 対応）』（別売）を参照してください。

バーコード

ESC/P モードでは、バーコードを利用できます。利用できるバーコード規格は、次のとおりです。

- JAN コード
- CODE39
- CODABAR
- Industrial 2 of 5
- Matrix 2 of 5
- Interleaved 2 of 5

フォームについて

本機では、ESC/P を使用して定形のフォームを登録できます。フォームは、64 登録できます。

参照
- フォームの登録については、『リファレンスマニュアル（ESC/P 対応）』（別売）を参照してください。

ESC/P エミュレーションモード設定項目

ESC/P のモードメニューで設定できる項目について、基本設定項目と拡張設定項目に分けて説明します。

基本設定項目

設定項目	項目番号	設定値
カラーモード	5	カラーモードを設定します。 【0】（初期値）：カラー 【1】：モノクロ **補足** • カラーモードでは、モノクロのデータを印字しても、カラーのトナーやドラムなどを消費します。
給紙トレイ	3	プリントに使用する用紙トレイを設定します。 【0】：自動 【1】（初期値）：トレイ 1 【2】：トレイ 2 【3】：トレイ 3 【4】：トレイ 4 【5】：トレイ 5（手差し） 【6】：トレイ 6（大容量） 手差しトレイから給紙する場合は、プリントを指示したあとに本体側の操作でプリントを開始します。設定を解除するには、「トレイ 5 確認表示」の設定を変更してください。 **注記** •「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」を選択した場合、その用紙トレイにセットされている用紙の大きさが用紙サイズとなるため、「用紙サイズ」の設定はできません。 **補足** •「自動」を選択した場合、同じサイズの用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 → トレイ 2 → トレイ 3 → トレイ 4 → トレイ 6 の順に給紙されます。また、同じサイズの用紙が異なる向きで複数のトレイにセットされているときは、よこにセットされている用紙が優先されます。

設定項目	項目番号	設定値
原稿サイズ	1	クライアントで作成された原稿のサイズを設定します。 【99】（初期値）：用紙 【100】：連続紙（10×12） 【101】：連続紙（10×11） 【102】：連続紙（15×12） 【103】：連続紙（15×11） 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14 【22】：8.5×13 【23】：8.5×11 【24】：11×17 【0】：はがき 印刷保証桁は、連続紙（10×12）は 80 桁 /72 行、連続紙（10×11）は 80 桁 /66 行、連続紙（15×12）は 136 桁 /72 行、連続紙（15×11）は 136 桁 /66 行です。 **補足** •「原稿サイズ」で連続紙を選択した場合、「用紙位置」の設定はできません。 •「倍率」で「固定倍率」または「カット紙全面」が設定されている場合、「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせで倍率が自動設定されます。ただし、45 ～ 210% に収まらない倍率値となった場合、原稿は自動拡張 / 縮小されず等倍でプリントされます。また、2 アップモードが設定されている場合は、「原稿サイズ」と「用紙サイズの 1/2」の組み合わせで倍率が自動設定されます。 • ここで設定する方向は「原稿の向き」です。トレイ内の用紙のセットの方向には影響しません。
用紙方向	19	用紙の向きを設定します。 【0】（初期値）：縦 【1】：横
用紙サイズ	2	プリントする用紙のサイズを設定します。「給紙トレイ」の設定が「自動」、または「トレイ 5（手差し）」の場合に設定できます。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14 【22】：8.5×13 【23】：8.5×11 【24】：11×17 【0】：はがき **注記** •「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」のどれかに設定しているときには、「用紙サイズ」の設定はできません。 **補足** •「倍率」で「固定倍率」または「カット紙全面」が設定されている場合、「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせで倍率が自動設定されます。ただし、45 ～ 210% に収まらない倍率値となった場合、原稿は自動拡張 / 縮小されず等倍でプリントされます。 また、2 アップモードが設定されている場合は、「原稿サイズ」と「用紙サイズの 1/2」の組み合わせで倍率が自動設定されます。

拡張設定項目

設定項目	項目番号	設定値
用紙位置	20	用紙位置を設定します。 【0】（初期値）：カットシートフィーダーなし（左） 【1】：カットシートフィーダーあり（中央） **補足** • カットシートフィーダーなしの場合は、FF（改ページコマンド）を受信すると、VFU で設定された値だけ行送りをします。カットシートフィーダーありの場合は、改ページします。 •「原稿サイズ」で連続紙を選択した場合、「用紙位置」の設定はできません。
出力部数	8	プリントする部数を設定します。 【1 ～ 250】（初期値：1）：1 ～ 250 枚 **注記** • クライアントからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、lpd ポートから指定された部数は、プリント後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。
倍率	54 （倍率モード）	原稿を印字する倍率を設定します。 【0】（初期値）：固定倍率 【1】：任意倍率 【2】：カット紙全面 固定倍率とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、原稿サイズの印字エリアが用紙サイズの印字エリアに収まるように印字されます。このため、原稿サイズと用紙サイズが同じであれば 100%（等倍）印字となります。また、2 アップが設定されている場合には、2 枚分の原稿サイズが 1 枚の用紙サイズの印字エリアに収まるように印字されます。 任意倍率とは、「倍率」>「任意倍率」で設定される倍率のことです。倍率の基準値は印字エリアの左上です。これは文字、イメージ、グラフィックスすべてにおける基準点になります。 カット紙全面領域が印字エリアに印字されます。 カット紙全面とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、設定されている原稿サイズの物理的な紙の大きさが用紙サイズの印字エリアに収まるよう印字されます。
	17 （任意倍率 / 縦倍率）	原稿を印字するたてまたはよこの倍率を設定します。 【45 ～ 210】（初期値：100）：45 ～ 210% **補足** •「原稿サイズ」で連続紙が設定されている場合、「固定倍率」と「カット紙全面」は同じ印字結果となります。
	18 （任意倍率 / 横倍率）	
2UP モード	21	2 アップ印字をするか、1 ページごとに印字するかを設定します。2 アップとは、2 ページ分のデータを 1 ページに印字する機能です。用紙方向によって上下または左右のどちらかに印字されます。 【0】（初期値）：なし 【1】：順方向 【2】：逆方向 **注記** •「原稿サイズ」でよこ向きを指定している場合、「順方向」と「逆方向」のどちらを設定しても同じ結果となります。

設定項目	項目番号	設定値
排出先	9	プリントした用紙の排出先トレイを設定します。 【0】（初期値）：センタートレイ（下段） 【1】：サイドトレイ（オプション） 【2】：センタートレイ（上段）（オプション） 【80】：フィニッシャートレイ（オプション） 【81】：フィニッシャー排出トレイ（オプション） **補足** • オプションのインナー排出トレイが装着されていない場合は、「センタートレイ（下段）」がセンタートレイになります。
トレイ5確認表示	67	トレイ 5（手差し）から給紙するプリント指示をしたあと、本体側の操作によってプリントを開始します。 【0】（初期値）：なし 【1】：あり
罫線	22	2 バイト系罫線フォントの印字方法を設定します。候補値は次のとおりです。 【0】（初期値）：イメージ 【1】：フォント
両面	12	両面プリントを設定します。 【0】（初期値）：なし 【1】：左右開き 【2】：上下開き **注記** • 「用紙サイズ」に「はがき」が設定されている場合は、「左右開き」と「上下開き」は選択できません。
フォント	13 （漢字書体）	2 バイト系文字（漢字）の書体を設定します。なお、2 バイト系半角文字もこの書体が適用されます。 【0】（初期値）：明朝 【1】：ゴシック **注記** • 本設定は、初期値を選択する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
	14 （英数字書体）	1 バイト系文字（ANK）の書体を設定します。 【0】（初期値）：ローマン 【1】：サンセリフ **注記** • 本設定は、初期値を選択する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
印字制御	50 （漢字コード）	使用する漢字コード表を設定します。 【0】（初期値）：エプソン 【1】：東芝
	51 （白紙排出）	改ページだけのデータのように、プリントするデータがまったくない場合に、白紙を排出するかしないかを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：する **補足** • 「しない」に設定した場合でも、外字で作成されたスペースや、白だけのイメージデータのときは白紙が排出されます。 • 「しない」が設定され、2 アッププリントまたは両面プリントの指示がされている場合、白紙となるページはスキップして処理します。

設定項目	項目番号	設定値
	52 （印字桁範囲）	右マージンの位置を拡張できます。 【0】（初期値）：標準 【1】：拡張 **注記** • 印字桁範囲を「拡張」から「標準」に設定変更した場合は、左右マージン値が初期化されます。 • コマンドで右マージン位置が設定された場合は、その位置が右端となります。
	53 （イメージエンハンスメント）	イメージエンハンスメントを行うか行わないかを設定します。 イメージエンハンスメントとは、白黒の境めを滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。 【0】：OFF 【1】（初期値）：ON
ESCP スイッチ	55 （文字品位）	文字の印字品質モードを高品位かドラフトに設定します。 【0】（初期値）：高品位 【1】：ドラフト **注記** •「文字品位」、「縮小文字」、「文字コード表」、「ページ長」および「1 インチミシン目スキップ」の各設定は、初期値を選択する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。 **補足** • 設定状態の変更で、実際の印字は変化しません。 • 本設定は、文字品位選択コマンドに影響します。文字品位選択コマンドについては、『リファレンスマニュアル（ESC/P 対応）』（別売）を参照してください。
	56 （縮小文字）	1 バイト系の英数字を印字する場合、文字を縮小して印字できます。縮小するか等倍で印字するかを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：する
	57 （文字コード表）	1 バイト系の英数字を印字する場合のコード表の種類を設定します。国内版アプリケーションをご使用の場合はカタカナを、海外版アプリケーションをご使用の場合は拡張グラフィックスに設定してください。 【0】（初期値）：カタカナ 【1】：拡張グラフィックス
	58 （ページ長）	1ページの長さ(印字エリア)を11インチまたは12インチに設定します。 【0】（初期値）：11 インチ 【1】：12 インチ
	59 （1 インチミシン目スキップ）	ページとページの間を 1 インチ空けるか、空けないかを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：する **注記** •「用紙位置」で CSF が「なし」に設定されている場合だけ実行されます。
	60 （給紙位置）	印字開始位置を、用紙の上端から 8.5mm か 22mm に設定します。 【0】（初期値）：8.5mm 【1】：22mm
	61 （CR の機能）	CR コマンド受信時の動作を設定します。 【0】（初期値）：復帰 【1】：復帰改行
位置補正	15 （縦位置補正）	データをプリントする位置をたてまたはよこ方向に移動し、余白の位置を変える機能です。 【0】（初期値）：しない 【1 ～ 500】：-250 ～ +250mm

設定項目	項目番号	設定値
	16 （横位置補正）	**注記** • 印字エリアを超えるデータは、位置補正をしても印字されません。また、位置補正により印字エリアを超えたデータは、印字されません。
拡張子	62 （拡張子指定）	通常の拡張コマンドは、コマンドを識別するための拡張子として、先頭に 16 進法で 1BH である ESC とそれに続く；（セミコロン= 3BH）を指定しています。 ホストコンピューターで ESC コードやセミコロンを使用できない場合は、それに代わる特定の文字列を拡張子として使用できます。この拡張子の置き換え機能を有効にするかどうかを設定します。 有効にする場合、項目番号 63 で、拡張子を指定します。 【0】（初期値）：無効 【1】：有効 **補足** • 拡張コマンドについては、『リファレンスマニュアル（ESC/P 対応）』（別売）を参照してください。
	63 （拡張子）	テキストコードで制御できるようにする場合は、拡張コマンドの拡張子（先頭 2 バイト）を指定します。画面に表示されるキーボードから 2 文字を入力します。 【&%】（初期値）：0x21 ～ 0x7e
フォーム合成	64	登録されているフォーム名（No.01 ～ 64）を選択することによって、常にフォーム合成を行います。 【0】（初期値）：しない 【1 ～ 64】：No.1 ～ No.64 **注記** • 本設定は、初期値を選択する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。 • フォームを選択したあと、フォームが削除された場合でも、そのフォーム名が表示されています。なお、上下キーでフォーム選択を行ったあとは、表示されません。この場合は「しない」を選択していることになります。
ホチキス留め	66	ホチキス留めをする位置を設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：左上 1 か所 【2】：上辺 2 か所 【3】：右上 1 か所 【4】：左辺 2 か所 【5】：右辺 2 か所 【6】：下 1 か所 【7】：下辺 2 か所 【8】：右下 1 か所
手差し給紙の一時停止	67	手差しトレイから給紙するときに、一時停止するかしないかを設定します。一時停止したあとに本体側の操作によって、プリントを開始します。 【0】：しない 【1】（初期値）：する
フォーム種類	68	フォームの種類を設定します。 【0】（初期値）：ESC/P 【1】：ART IV
パンチ	69	パンチ穴を開ける位置を設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：上辺 【2】：下辺 【3】：左辺 【4】：右辺

設定項目	項目番号	設定値
パンチ穴数	70	パンチ穴の数を設定します。 【0】（初期値）：2 穴 【1】：3 穴 【2】：4 穴
文字コード	71	文字コードの種類を設定します。 【0】（初期値）：JIS 【1】：ShiftJIS
バイナリーデータの指定文字列	72	16 進表記でコマンドを入力する指定文字列を設定します。 【0】（初期値）：OFF 【1】：&$%$ 【2】：$?!#
0 の字体	73	0 の字体を設定します。 【0】（初期値）：0 【1】：Ø
有効出力部数	74	プリント部数の指定方法を設定します。 【0】：プロトコル指定 【1】：パネル 【2】（初期値）：コマンド
バーコードモード	75	バーコードモードを設定します。バーコードモードに設定すると、バーコードの輪郭がはっきりと印刷されます。 【0】（初期値）：通常モード 【1】：バーコードモード

倍率値一覧表

固定倍率値

原稿サイズ	用紙サイズ	A3	A4	A5	B4	B5	11 x 17	8.5 x 14	8.5 x 13	8.5 x 11	はがき
A3	長辺	100	70	49	86	60	103	84	78	66	100
	短辺	100	70	48	86	60	94	72	72	72	100
A4	長辺	143	100	70	123	86	147	120	112	94	48
	短辺	143	100	69	123	86	135	103	103	103	45
A5	長辺	204	143	100	177	123	210	172	160	135	69
	短辺	207	145	100	178	124	195	149	149	149	65
B4	長辺	116	81	57	100	70	119	98	90	76	100
	短辺	116	81	56	100	70	109	83	83	83	100
B5	長辺	164	116	81	143	100	171	140	130	109	56
	短辺	164	116	81	143	100	156	120	120	120	53
11×17	長辺	97	68	48	84	59	100	82	76	64	100
	短辺	106	74	51	92	64	100	77	77	77	100
8.5×14	長辺	119	83	58	102	72	122	100	93	78	100
	短辺	139	97	67	120	84	131	100	100	100	100
8.5×13	長辺	128	90	63	111	77	132	108	100	84	100
	短辺	139	97	67	120	84	131	100	100	100	100
8.5×11	長辺	152	106	74	131	92	156	128	119	100	100
	短辺	139	97	67	120	84	131	100	100	100	100
はがき	長辺	100	100	145	100	178	100	100	100	100	100
	短辺	100	100	153	100	190	100	100	100	100	100
15×11	長辺	119	83	58	103	72	122	100	93	78	100
	短辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
15×12	長辺	119	83	58	103	72	122	100	93	78	100
	短辺	95	66	46	81	57	89	68	68	68	100
10×11	長辺	147	103	72	127	89	151	124	115	97	50
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45
10×12	長辺	135	95	66	117	81	139	114	105	89	46
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45

単位：[%]

補足

- 長辺または短辺の倍率値が45～210%を超えた場合には、長辺と短辺の両方の倍率値は100%となります。

固定倍率値（2 アップ指定時）

原稿サイズ	用紙サイズ	A3/2	A4/2	A5/2	B4/2	B5/2	11×17/2	8.5×14/2	8.5×13/2	8.5×11/2	はがき/2
A3	長辺	70	49	100	60	100	66	50	50	50	100
	短辺	70	48	100	60	100	72	59	54	45	100
A4	長辺	100	70	48	86	60	94	72	72	72	100
	短辺	100	69	48	86	59	103	84	78	65	100
A5	長辺	143	100	69	123	86	135	103	103	103	45
	短辺	145	100	69	124	86	149	121	112	94	47
B4	長辺	81	57	100	70	49	76	58	58	58	100
	短辺	81	56	100	70	48	83	68	63	53	100
B5	長辺	116	81	56	100	70	109	83	83	83	100
	短辺	116	80	55	100	69	120	98	90	76	100
11×17	長辺	68	48	100	59	100	64	49	49	49	100
	短辺	74	51	100	64	100	77	62	58	48	100
8.5×14	長辺	83	58	100	72	50	78	60	60	60	100
	短辺	97	67	100	84	57	100	82	75	63	100
8.5×13	長辺	90	63	100	77	54	84	64	64	64	100
	短辺	97	67	100	84	57	100	82	75	63	100
8.5×11	長辺	106	74	51	92	64	100	77	77	77	100
	短辺	97	67	46	84	57	100	82	75	63	100
はがき	長辺	100	145	100	178	124	100	149	149	149	65
	短辺	100	153	105	190	131	100	185	172	144	71
15×11	長辺	83	58	100	72	100	78	60	60	60	100
	短辺	72	50	100	62	100	74	60	56	47	100
15×12	長辺	83	58	100	72	100	78	60	60	100	100
	短辺	66	46	100	57	100	68	55	51	100	100
10×11	長辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100
10×12	長辺	95	66	46	81	57	89	68	68	68	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100

単位：[%]

補足

- 長辺または短辺の倍率値が45～210%を超えた場合には、長辺と短辺の両方の倍率値は100%となります。

カット紙全面倍率値

原稿サイズ	用紙サイズ	A3	A4	A5	B4	B5	11×17	8.5×14	8.5×13	8.5×11	はがき
A3	長辺	98	69	48	85	59	101	83	77	64	100
	短辺	97	68	47	84	58	91	70	70	70	100
A4	長辺	138	97	68	120	84	142	117	108	91	100
	短辺	137	96	66	118	82	129	99	99	99	100
A5	長辺	196	137	96	169	118	201	165	153	129	66
	短辺	195	136	94	168	117	183	140	140	140	62
B4	長辺	113	79	55	98	68	116	95	88	74	100
	短辺	112	78	54	97	67	105	81	81	81	100
B5	長辺	160	112	78	138	97	165	135	125	105	54
	短辺	158	110	76	136	95	149	114	114	114	50
11×17	長辺	95	67	47	82	57	98	80	74	63	100
	短辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
8.5×14	長辺	116	81	57	100	70	119	98	90	76	100
	短辺	133	93	64	115	80	125	96	96	96	100
8.5×13	長辺	125	87	61	108	75	128	105	97	82	100
	短辺	133	93	64	115	80	125	96	96	96	100
8.5×11	長辺	147	103	72	127	89	151	124	115	97	100
	短辺	133	93	64	115	80	125	96	96	96	100
はがき	長辺	100	195	136	100	168	100	100	100	183	94
	短辺	100	201	139	100	173	100	100	100	207	91
15×11	長辺	135	95	66	117	81	139	105	114	89	46
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45
15×12	長辺	135	95	66	117	81	139	105	114	89	46
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45
10×11	長辺	147	103	72	127	89	151	115	124	97	50
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45
10×12	長辺	147	103	72	127	89	151	124	115	97	50
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45

単位：[%]

補足

- 長辺または短辺の倍率値が45～210%を超えた場合には、長辺と短辺の両方の倍率値は100%となります。

カット紙全面倍率値（2 アップ指定時）

原稿サイズ	用紙サイズ	A3/2	A4/2	A5/2	B4/2	B5/2	11×17/2	8.5×14/2	8.5×13/2	8.5×11/2	はがき/2
A3	長辺	69	48	100	59	100	64	49	49	100	100
	短辺	68	47	100	58	100	70	57	53	100	100
A4	長辺	97	68	47	84	58	91	70	70	70	100
	短辺	96	66	46	82	57	99	80	74	62	100
A5	長辺	137	96	66	118	82	129	99	99	99	100
	短辺	136	84	65	117	80	140	114	106	88	100
B4	長辺	79	55	100	68	48	74	57	57	57	100
	短辺	78	54	100	67	46	81	66	61	51	100
B5	長辺	112	78	54	97	67	105	81	81	81	100
	短辺	110	76	53	95	65	114	93	86	72	100
11×17	長辺	67	47	100	57	100	63	48	48	48	100
	短辺	72	50	100	62	100	74	60	56	47	100
8.5×14	長辺	81	47	100	70	49	76	58	58	58	100
	短辺	93	50	100	80	55	96	78	72	61	100
8.5×13	長辺	87	61	100	75	52	82	63	63	63	100
	短辺	93	64	100	80	55	96	78	72	61	100
8.5×11	長辺	103	89	100	89	72	97	74	74	74	100
	短辺	93	80	100	80	55	96	78	72	61	100
はがき	長辺	195	136	94	168	117	183	140	140	140	62
	短辺	201	139	96	173	119	207	169	156	131	65
15×11	長辺	95	66	46	81	57	89	68	68	68	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100
15×12	長辺	95	66	46	81	57	89	68	68	68	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100
10×11	長辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100
10×12	長辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100

単位：[%]

補足

- 長辺または短辺の倍率値が45～210%を超えた場合には、長辺と短辺の両方の倍率値は100%となります。

用紙サイズと印字可能桁数

給紙位置 22mm の場合

用紙サイズ	たて置き		よこ置き	
	印字桁数	印字行数	印字桁数	印字行数
A3	113	92	161	63
B4	97	78	139	53
A4	79	63	113	42
B5	68	53	97	35
A5	54	42	79	27
はがき	35	30	54	19
11×17	106	94	166	58
8.5×14	81	76	136	43
8.5×13	81	70	126	43
8.5×11	81	58	106	43

給紙位置 8.5mm の場合

用紙サイズ	たて置き		よこ置き	
	印字桁数	印字行数	印字桁数	印字行数
A3	113	95	161	66
B4	97	82	139	56
A4	79	66	113	45
B5	68	56	97	39
A5	54	45	79	31
はがき	35	30	54	19
11×17	106	98	166	62
8.5×14	81	80	136	47
8.5×13	81	74	126	47
8.5×11	81	62	106	47

補足

- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。
- たて / よこ倍率はそれぞれ 100% です。
- ハードウエアの構成によって使用できない用紙サイズもあります。

カット紙全面の場合

用紙サイズ	たて置き		よこ置き	
	印字桁数	印字行数	印字桁数	印字行数
A3	116	99	165	70
B4	101	85	143	60
A4	82	70	116	49
B5	71	60	101	42
A5	58	49	82	34
はがき	39	34	58	23
11×17	110	102	170	66
8.5×14	85	84	140	51
8.5×13	85	78	130	51
8.5×11	85	66	110	51

補足

- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。
- ハードウエアの構成によって使用できない用紙サイズもあります。

15 インチ連続紙モード（よこ固定 / 左置き）の場合

用紙サイズ	たて置き		よこ置き	
	印字桁数	印字行数	印字桁数	印字行数
対応する全用紙サイズ	136	66	136	72

補足

- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。

10 インチ連続紙モード

用紙サイズ	たて置き		よこ置き	
	印字桁数	印字行数	印字桁数	印字行数
対応する全用紙サイズ	80	66	80	72

PDF ダイレクトプリントを使用するには

PDF ダイレクトプリントとは、PDF ファイルをプリンタードライバーを使わないで、直接 lpr コマンドなどを使ってプリントする機能です。PDF ダイレクトプリントを使ってプリントする場合、次の項目は［プリンターモード］の［PDF エミュレーション設定］の設定に従ってプリントされます。

- 出力部数
- 両面
- 印刷モード
- ソート
- レイアウト
- 用紙サイズ
- カラーモード
- プリント処理モード

補足

- PDFファイルのダイレクトプリント機能は、Adobe純正のPDFダイレクトプリントとPostScript非搭載の PDF ダイレクトプリント（PDF Bridge）の 2 種類が可能です。どちらを優先するかは、［プリント処理モード］で設定できます。
- lpr コマンドを使ってプリントする場合、部数の指定は lpr コマンドで行います。［PDF エミュレーション設定］の「部数」の設定は無効になります。なお、lpr コマンドで部数の指定をしない場合は、1 部として処理されます。
- lprコマンドを使ってPDFファイルをプリントする場合は、操作パネルまたはCentreWare Internet Services を使って、本体側の LPD プロトコルを起動しておく必要があります。

PDF ダイレクトプリント機能の設定項目

PDF ダイレクトプリント機能で設定できる項目について、説明します。

弊社ユーティリティの「ContentsBridge」を使用しないで PDF ファイルをプリントする場合は、ここでの設定が有効になります。

補足

- ContentsBridge Utility を使用して PDF ファイルをプリントする場合は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内の『メディア情報』を参照してください。

設定項目	項目番号	設定値
出力部数	401	プリントする部数を設定します。 【1 ～ 999】（初期値：1）：1 ～ 999 枚
両面	402	両面プリントを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：長辺とじ 【2】：短辺とじ 長辺とじは、用紙の長い辺でとじた場合に、正しい向きで読めるように両面プリントを行います。 短辺とじは、用紙の短い辺でとじた場合に、正しい向きで読めるように両面プリントを行います。
印刷モード	403	画質を優先するか、速度を優先するかを設定します。 【0】（初期値）：標準 【1】：高速 【2】：高画質 標準は、標準的な速度、画質でプリントします。 高速は、速度を優先してプリントします。 高画質は、プリント速度は遅くなりますが、画質を優先して、よりきれいにプリントします。
ソート	404	複数部数を、1 部ごとにソート（1、2、3...1、2、3...）してプリントするかどうかを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：する

設定項目	項目番号	設定値
レイアウト	405	プリントするときのレイアウトについて設定します。 **補足** • この項目は、「プリント処理モード」で「PDF Bridge」を選択した場合だけ、設定が有効になります。 【0】（初期値）：自動倍率 【1】：カタログ（製本） 【2】：2 アップ 【3】：4 アップ 【4】：100%（等倍） 自動倍率は、プリントする用紙サイズに対して、最も拡大率が大きくなるように、自動的に倍率が設定されてプリントされます。 カタログ（製本）は、プリントする PDF ファイルのページ構成に応じて、プリント結果がカタログのようにページ割り付けされて両面プリントされます。ただし、ページ構成によっては、カタログ（製本）プリントができない場合があります。その場合は、［0］（自動倍率）でプリントされます。 **補足** •「用紙サイズ」で「A4」を設定している場合は、A4 サイズの用紙にプリントされます。 •「用紙サイズ」で「自動」を設定している場合は、A3 または A4 の用紙にプリントされます。 2 アップは、1 枚の用紙に、2 ページ分の原稿を割り付けてプリントします。2 アップを選択した場合、用紙サイズは、A4 固定になります。 4 アップは、1 枚の用紙に、4 ページ分の原稿を割り付けてプリントします。4 アップを選択した場合、用紙サイズは、A4 固定になります。
用紙サイズ	406	プリントする用紙のサイズを設定します。 【0】（初期値）：自動 【1】：A4 自動は、プリントする PDF ファイルの原稿サイズと設定に応じて、自動的に用紙サイズが判別されます。
カラーモード	407	カラーでプリントするか、白黒でプリントするかを設定します。 【0】（初期値）：自動 【1】：白黒 自動は、原稿のページごとにカラーか白黒かが自動的に判断されます。白黒以外の色が使われている場合はカラーでプリントされ、白黒だけが使われている場合は白黒でプリントされます。
プリント処理モード	408	PDF エミュレーション機能を使用するとき、プリント処理をするモードを選択します。 【0】（初期値）：PDF Bridge 【1】：PS PDF Bridge は、PDF を弊社製の PDF エミュレーション機能を使用して処理します。 PS は、PDF を Adobe 社製の PostScript の機能を使用して処理します。 **補足** • この項目は、Adobe® PostScript® 3™ キットを装着している場合に表示されます。 •「PDF Bridge」を選択した場合と「PS」を選択した場合では、プリント結果が異なることがあります。 •「PS」を選択した場合は、「レイアウト」での設定は無効になります。

DocuWorks ダイレクトプリントを使用するには

DocuWorks ダイレクトプリントとは、DocuWorks ファイルをプリンタードライバーを使わないで、直接 lpr コマンドなどを使ってプリントする機能です。
DocuWorks ダイレクトプリントを使ってプリントする場合、次の項目は［プリンターモード］の［DocuWorks プリント設定］の設定に従ってプリントされます。

- 出力部数
- 両面
- 印刷モード
- ソート
- レイアウト
- 用紙サイズ
- カラーモード

注記

- DocuWorks文書をダイレクトプリント方式でプリントすると、デバイスフォントに置き換わってプリントされます。DocuWorks 文書をコンピューター上で表示した場合やプリンタードライバー経由でプリントした場合とは、フォントの違いなどから見栄えが異なりますので注意が必要です。
- DocuWorks Desk Ver.7.0とContentsBridgeの組み合わせた場合だけ、コンピューターの画面表示どおりのフォントでプリントされます。

補足

- lpr コマンドを使ってプリントする場合、部数の指定は lpr コマンドで行います。［DocuWorks プリント設定］の「部数」の設定は無効になります。なお、lpr コマンドで部数の指定をしない場合は、1 部として処理されます。
- lpr コマンドを使って DocuWorks ファイルをプリントする場合は、操作パネルまたは CentreWare Internet Services を使って、本体側の LPD プロトコルを起動しておく必要があります。

DocuWorks ダイレクトプリント機能の設定項目

DocuWorks ダイレクトプリント機能で設定できる項目について、説明します。

弊社ユーティリティの「ContentsBridge」を使用しないで DocuWorks ファイルをプリントする場合は、ここでの設定が有効になります。

補足

- ContentsBridge Utility を使用して DocuWorks ファイルをプリントする場合は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内の『メディア情報』を参照してください。

設定項目	項目番号	設定値
出力部数	501	プリントする部数を設定します。 【1 ～ 999】（初期値：1）：1 ～ 999 枚
両面	502	両面プリントを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：長辺とじ 【2】：短辺とじ 長辺とじは、用紙の長い辺でとじた場合に、正しい向きで読めるように両面プリントを行います。 短辺とじは、用紙の短い辺でとじた場合に、正しい向きで読めるように両面プリントを行います。
印刷モード	503	画質を優先するか、速度を優先するかを設定します。 【0】（初期値）：標準 【1】：高速 【2】：高画質 標準は、標準的な速度、画質でプリントします。 高速は、速度を優先してプリントします。 高画質は、プリント速度は遅くなりますが、画質を優先して、よりきれいにプリントします。

設定項目	項目番号	設定値
ソート	504	複数部数を、1 部ごとにソート（1、2、3...1、2、3...）してプリントするかどうかを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：する
レイアウト	505	プリントするときのレイアウトについて設定します。 【0】（初期値）：自動倍率 【2】：2 アップ 【3】：4 アップ 【4】：100%（等倍） 自動倍率は、プリントする用紙サイズに対して、最も拡大率が大きくなるように、自動的に倍率が設定されてプリントされます。 2 アップは、1 枚の用紙に、2 ページ分の原稿を割り付けてプリントします。2 アップを選択した場合、用紙サイズは、A4 固定になります。 4 アップは、1 枚の用紙に、4 ページ分の原稿を割り付けてプリントします。4 アップを選択した場合、用紙サイズは、A4 固定になります。
用紙サイズ	506	プリントする用紙のサイズを設定します。 【0】（初期値）：自動 【1】：A4 自動は、プリントする DocuWorks ファイルの原稿サイズと設定に応じて、自動的に用紙サイズが判別されます。
カラーモード	507	カラーでプリントするか、白黒でプリントするかを設定します。 【0】（初期値）：自動 【2】：白黒 自動は、原稿のページごとにカラーか白黒かが自動的に判断されます。白黒以外の色が使われている場合はカラーでプリントされ、白黒だけが使われている場合は白黒でプリントされます。

PC-PR201H エミュレーションを使用するには

エミュレーションについて

本機で使用できるプリント言語のエミュレーションについて説明します。

プリントデータはある規則（文法）に従ったデータになっています。本機では、この規則（文法）をプリント言語といいます。

本機が対応しているプリント言語は、ページ単位にイメージを作るページ記述言語と、他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることができるエミュレーションに分類することができます。他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることをエミュレートするといいます。

エミュレーションモード

本機が対応するページ記述言語以外のデータをプリントするときは、本機をエミュレーションモードにします。本機には、複数のエミュレーションモードがあります。エミュレーションモードと、エミュレートするプリンターの対応は、次のとおりです。

エミュレーションモード	エミュレートするプリンター
PC-PR201H エミュレーションモード	PC-PR201H2

■プリント言語の切り替え

本機は、マルチエミュレーションに対応しています。このため、対応するプリント言語の切り替えができるようになっています。

対応するプリント言語を切り替える方法は、次のとおりです。

■コマンド切り替え

対応するプリント言語を切り替えるコマンドを用意しています。本機は、コマンドを受け取ると、対応するプリント言語に切り替えます。

■自動切り替え

ホストインターフェイスが受信したデータを分析し、プリント言語を自動的に特定します。そして、対応するプリント言語に切り替えます。

■インターフェイス従属

CentreWare Internet Services を使って、ホストインターフェイスごとにプリント言語を設定します。データを受信したホストインターフェイスに合わせて、対応するプリント言語を切り替えます。

フォントについて

使用できるフォント

PC-PR201H エミュレーションでは、次のフォントが使用できます。

■和文

- 平成明朝体 W3
- 平成角ゴシック体 W5

■欧文

- 平成明朝体（ローマン）
- 平成角ゴシック体（サンセリフ）

ユーザー定義文字（外字）

PC-PR201H エミュレーションモードでは、ユーザー定義文字（外字）を使用できます。ユーザー定義文字は、電源を切っても保持されます。

ユーザー定義文字は、ビットマップフォントとして登録します。ユーザー定義文字は、各プリント言語の間で共有できません。

フォントキャッシュ

高速プリントを実現するために、ある程度の大きさまでのアウトラインフォントについては、フォントキャッシュを実行します。アウトラインフォントを印字するときには、一度、ビットマップの形式に変換されます。この処理時間をできるだけ短縮するために、処理後のビットマップ形式のデータを、メモリーに保存しておきます。これをフォントキャッシュといいます。

保存されたビットマップ形式のデータは、電源を切ったり、再起動したりすると、消えます。

排出機能について

排出について説明します。排出には、次の 2 種類があります。

- プリント待ちジョブの排出
- エミュレーションモードでの強制排出

プリント待ちジョブの排出

プリンターに受信されているジョブを優先してプリントします。

参照
- プリンター内のジョブを優先してプリントする手順は、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ジョブ確認」を参照してください。

エミュレーションモードでの強制排出

エミュレーションモードでは、1 ページ分のデータがすべてそろうか、改ページコマンドを受信するまでデータは排出されません。USB インターフェイスの場合、データの最後がページの途中で終了してしまうと、「自動排出時間」で設定されている時間が経過するまで次のデータ待ちとなります。

強制排出は、このようなときに自動排出時間まで待たず、プリンター内のデータを強制的にプリントする操作です。

参照
- 強制排出の手順は、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ジョブ確認」を参照してください。
- 自動排出時間は、「USB での設置」（P.393）を参照してください。

PC-PR201H エミュレーションモードでのプリント機能

PC-PR201H エミュレーションモードで使用できるいくつかのプリント機能について説明します。

N アップ

N アップは、複数ページを縮小して、1 枚の用紙にプリントする機能です。

N アップは、PC-PR201H モードのエミュレーションモードで利用できます。PCPR201H モードでは、2 アップを利用できます。

フォーム合成

PC-PR201H モードでは、あらかじめフォームをプリンターに登録しておき、プリントデータに合成してプリントできます。

操作パネルから、合成するフォームを指定できます。

参照

- フォームの登録については、『リファレンスマニュアル（201H 対応）』をご覧ください。

バーコード

PC-PR201H モードでは、バーコードを利用できます。利用できるバーコード規格は、次のとおりです。

- JAN コード
- CODE39
- CODABAR
- Industrial 2 of 5
- Matrix 2 of 5
- Interleaved 2 of 5

フォームについて

本機では、PC-PR201H を使用して定形のフォームを登録できます。登録できるフォームは、64 個です。

参照

- フォームの登録については、『リファレンスマニュアル（201H 対応）』をご覧ください。

PC-PR201H エミュレーションのモード設定項目

PC-PR201H のモードメニューで設定できる項目とその操作方法について説明します。

PC-PR201H 設定項目一覧

モードメニューで設定できる項目について、基本設定項目と拡張設定項目に分けて説明します。

基本設定項目

設定項目	項目番号	設定値
	301	コンピューターで作成された原稿のサイズを設定します。 【0】：はがき 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14 【22】：8.5×13 【23】：8.5×11 【24】：11×17 【99】（初期値）：用紙 【100】：連続紙（10×12） 【101】：連続紙（10×11） 【102】：連続紙（15×12） 【103】：連続紙（15×11） プリント保証桁は、連続紙（10×12）は 80 桁 /72 行、連続紙（10×11）は 80 桁 /66 行、連続紙（15×12）は 136 桁 /72 行、連続紙（15×11）は 136 桁 /66 行です。 **補足** •「原稿サイズ」で連続紙を選択した場合、「用紙位置」の設定はできません。 •「倍率」で「固定倍率」または「カット紙全面」が設定されている場合、「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせで倍率が自動設定されます。ただし、45 ～ 210% に収まらない倍率値となった場合、原稿は自動拡張 / 縮小されず等倍でプリントされます。 また、2 アップモードが設定されている場合は、「原稿サイズ」と「用紙サイズの 1/2」の組み合わせで倍率が自動設定されます。 • ここで設定する方向は「原稿の向き」です。トレイ内の用紙のセットの方向には影響しません。
用紙サイズ	302	プリントする用紙のサイズを設定します。「給紙トレイ」の設定が「自動」、または「トレイ 5（手差し）」の場合に設定できます。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【0】：はがき 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14 【22】：8.5×13 【23】：8.5×11 【24】：11×17 **注記** •「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」のいずれかに設定しているときには、その用紙トレイにセットされている用紙の大きさが用紙サイズとなるため、「用紙サイズ」の設定はできません。 **補足** •「倍率」で「固定倍率」または「カット紙全面」が設定されている場合、「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせで倍率が自動設定されます。ただし、45 ～ 210% に収まらない倍率値となった場合、原稿は自動拡張 / 縮小されず等倍でプリントされます。 また、2 アップモードが設定されている場合は、「原稿サイズ」と「用紙サイズの 1/2」の組み合わせで倍率が自動設定されます。

設定項目	項目番号	設定値
給紙トレイ	303	プリントに使用する用紙トレイを設定します。 【0】：自動 【1】（初期値）：トレイ 1 【2】：トレイ 2 【3】：トレイ 3 【4】：トレイ 4 【5】：トレイ 5（手差し） 【6】：トレイ 6（大容量給紙トレイ） 手差しトレイから給紙する場合は、プリントを指示したあとに本体側の操作でプリントを開始します。設定を解除するには、「トレイ 5 確認表示」の設定を変更してください。 **注記** •「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」を選択した場合、その用紙トレイにセットされている用紙の大きさが用紙サイズとなるため、「用紙サイズ」の設定はできません。 **補足** •「自動」を選択した場合、同じサイズの用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 → トレイ 2 → トレイ 3 → トレイ 4 → トレイ 6 の順に給紙されます。また、同じサイズの用紙が異なる向きで複数のトレイにセットされているときは、よこにセットされている用紙が優先されます。
カラーモード	304	カラーモードを設定します。 【0】：カラー 【1】（初期値）：モノクロ
出力部数	305	プリントする部数を設定します。 【1】～【250】（初期値：1）：1 ～ 250 枚 **注記** • コンピューターからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、lpd ポートから指定された部数は、プリント後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。

拡張設定項目

設定項目	項目番号	設定値
排出先	306	プリントした用紙の排出先トレイを設定します。 【0】（初期値）：センタートレイ（下段） 【1】：サイドトレイ（オプション） 【2】：センタートレイ（上段）（オプション） 【80】：フィニッシャートレイ（オプション） 【81】：フィニッシャー排出トレイ（オプション） **補足** • オプションのインナー排出トレイが装着されていない場合は、「センタートレイ（下段）」がセンタートレイになります。
両面	307	両面プリントを設定します。 【0】（初期値）：なし 【1】：左右開き 【2】：上下開き **注記** •「用紙サイズ」に「はがき」が設定されている場合は、「左右開き」と「上下開き」は選択できません。

設定項目	項目番号	設定値
フォント	308 （漢字書体）	2 バイト系文字（漢字）の書体を設定します。なお、2 バイト系半角文字もこの書体が適用されます。 **参照** • フォントについては「フォントについて」(P.854) を参照してください。 【0】（初期値）：明朝 【1】：ゴシック **注記** • 本設定は、初期値を選択する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
	309 （英数字書体）	1 バイト系文字（ANK）の書体を設定します。 **参照** • フォントについては「フォントについて」(P.854) を参照してください。 【0】（初期値）：ローマン 【1】：サンセリフ **注記** • 本設定は、初期値を選択する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
位置補正	310 （横位置補正）	データをプリントする位置をたてまたはよこ方向に移動し、余白の位置を変える機能です。 【0】（初期値）：しない 【1】～【250】：-250 ～ -1mm 【251】～【500】：+1 ～ +250mm **注記** • 印字エリアを超えるデータは、位置補正をしても印字されません。また、位置補正により印字エリアを超えたデータは、印字されません。
	311 （横位置補正）	
倍率	312 （縦倍率）	原稿を印字するたてまたはよこの倍率を設定します。 【45】～【210】（初期値：100）：45 ～ 210%
	313 （横倍率）	
用紙方向	314	用紙の向きを設定します。 【0】（初期値）：縦 【1】：横
用紙位置	315	用紙位置を設定します。 【0】（初期値）：左置き 【1】：中央置き **補足** •「原稿サイズ」で連続紙を選択した場合、「用紙位置」の設定はできません。
2UP モード	316	2 アップ印字をするか、1 ページごとに印字するかを設定します。 2 アップとは、2 ページ分のデータを 1 ページに印字する機能です。用紙方向によって上下または左右のどちらかに印字されます。 【0】（初期値）：なし 【1】：順方向 【2】：逆方向 **注記** •「原稿サイズ」でよこ向きを指定している場合、「順方向」と「逆方向」のどちらを設定しても同じ結果となります。
罫線	317	2 バイト系罫線フォントの印字方法を設定します。 【0】（初期値）：イメージ 【1】：フォント

設定項目	項目番号	設定値
印字制御	318 （白紙排出）	改ページだけのデータのように、プリントするデータがまったくない場合に、白紙を排出するかしないかを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：する **補足** •「しない」に設定した場合でも、外字で作成されたスペースや、白だけのイメージデータのときは白紙が排出されます。 •「しない」が設定され、2 アッププリントまたは両面プリントの指示がされている場合、白紙となるページはスキップして処理します。
	319 （印字桁範囲）	右マージンの位置を拡張できます。 【0】（初期値）：標準 【1】：拡張 **注記** • 印字桁範囲を「拡張」から「標準」に設定変更した場合は、左右マージン値が初期化されます。 • コマンドで右マージン位置が設定された場合は、その位置が右端となります。
	320 （イメージエンハンス）	イメージエンハンスメントを行うか行わないかを設定します。 イメージエンハンスメントとは、画像の境めを滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。 【0】：OFF 【1】（初期値）：ON
	321 （倍率モード）	原稿を印字する倍率を設定します。 【0】（初期値）：固定 【1】：任意 【2】：カット全面 固定倍率とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、原稿サイズの印字エリアが用紙サイズの印字エリアに収まるように印字されます。このため、原稿サイズと用紙サイズが同じであれば 100%（等倍）印字となります。また、2 アップが設定されている場合には、2 枚分の原稿サイズが 1 枚の用紙サイズの印字エリアに収まるように印字されます。 任意倍率とは、「倍率」>「任意倍率」で設定される倍率のことです。倍率の基準値は印字エリアの左上です。これは文字、イメージ、グラフィックスすべてにおける基準点になります。 カット紙全面領域が印字エリアに印字されます。 カット紙全面とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、設定されている原稿サイズの物理的な紙の大きさが用紙サイズの印字エリアに収まるよう印字されます。
	322 （国別文字）	使用する文字を日本語、アメリカ、イギリス、ドイツ、スウェーデンの中から設定します。 【0】（初期値）：日本 【1】：アメリカ 【2】：イギリス 【3】：ドイツ 【4】：スウェーデン **参照** • 国別の文字コードについては、「国別コード表」(P.870) を参照してください。
	323 （自動改行）	右マージン位置を超えたときの自動改行の動作を設定します。 【0】：CR 【1】（初期値）：CR/LF 「CR」は印字復帰だけを行います。「CR/LF」は印字復帰したあと改行します。

設定項目	項目番号	設定値
印字制御	324 （印字指令）	印字指令のコマンドを設定します。 【0】（初期値）：CR 【1】：すべて 「CR」は印字指令のコマンドを CR のみ、「すべて」は印字指令のコマンドを、CR、LF、VT、FF、US、ESC a、ESC b とします。
	325 （CR の機能）	CR コマンド受信時の動作を設定します。 【0】（初期値）：復帰 【1】：復帰改行 **注記** • この設定は、初期値を設定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。 **補足** • この設定は、8 ビットドットイメージ印字コマンドの印字結果に影響します。
	326 （0 の書体）	数字の 0 の字体を設定します。 【0】（初期値）：0 【1】：Ø 「0」は普通の字体、「Ø」は斜線のついた字体に設定します。
	327 （グラフィックドット数）	ドット対応のグラフィックドット数の種類を設定します。 【0】（初期値）：ネイティブ 【1】：コピー
	328 （データサイズ）	データのビットサイズを設定します。 【0】：7 ビット 【1】（初期値）：8 ビット
	329 （1 ページ長）	1 ページの長さ（印字エリア）を 11 インチ（初期値）か 12 インチに設定します。 【0】（初期値）：11 インチ 【1】：12 インチ
	330 （拡張子指定）	通常の拡張コマンドは、コマンドを識別するための拡張子として、先頭に 16 進法で 1BH である ESC とそれに続く；（セミコロン =3BH）を指定しています。 ホストコンピューターで ESC コードやセミコロンを使用できない場合は、それに代わる特定の文字列を拡張子として使用することができます。この拡張子の置き換え機能を有効にするかどうかを設定します。 有効にする場合、項目番号 331 で、拡張子を指定します。 【0】（初期値）：無効 【1】：有効 **補足** • 拡張子に 1B3B を使用する時は「無効」、任意の文字列を使用する場合は「有効」を設定してください。
	331 （拡張子）	テキストコードで制御できるようにしたい場合は、拡張コマンドの拡張子（先頭 2 バイト）を指定します。画面に表示されるキーボードから 2 文字を入力します。 【&%】（初期値）：0×21 ～ 0×7e
	332 （フォーム合成）	登録されているフォーム名（No.01 ～ 64）を選択することによって、常にフォーム合成を行います。 【0】（初期値）：しない 【1】～【64】：No．1 ～ No．64 **注記** • 本設定は、初期値を選択する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。

設定項目	項目番号	設定値
印字制御	336 （フォーム種類）	フォームの種類を選択します。 【0】（初期値）：PC-PR201H 【1】：ART IV
ホチキスとめ	333	ホチキスとめをする位置を設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：左上 1 か所 【2】：上辺 2 か所 【3】：右上 1 か所 【4】：左辺 2 か所 【5】：右辺 2 か所 【6】：左下 1 か所 【7】：下辺 2 か所 【8】：右下 1 か所
パンチ	334	パンチ穴を開ける位置を設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：上辺 【2】：下辺 【3】：左辺 【4】：右辺
パンチ穴数	337	パンチ穴の数を設定します。 【0】（初期値）：2 穴 【1】：3 穴 【2】：4 穴
トレイ5確認表示	335	トレイ 5（手差し）から給紙するプリント指示をしたあと、本体側の操作によってプリントを開始します。 【0】（初期値）：なし 【1】：あり
カットシートフィーダー（CSF）	338	カットシートフィーダー機能を設定します。 CSF なしの場合は、改ページコマンドを受信したら、VFU で設定された設定値まで印字ヘッドを移動させ、印字位置は左よりになります。 CSF ありの場合は、改ページコマンドを受信したら、用紙を自動排出後に自動給紙して、印字位置は中央になります。 【0】（初期値）：CSF なし 【1】：CSF あり
有効出力部数	339	プリント部数の指定方法を設定します。 【0】：プロトコル指定 【1】：パネル 【2】（初期値）：コマンド

倍率値一覧表

固定倍率値

原稿サイズ	用紙サイズ	A3	A4	A5	B4	B5	11×17	8.5×14	8.5×13	8.5×11	ハガキ
A3	長辺	100	70	49	86	60	103	84	78	66	100
	短辺	100	70	48	86	60	94	72	72	72	100
A4	長辺	143	100	70	123	86	147	120	112	94	48
	短辺	143	100	69	123	86	135	103	103	103	45
A5	長辺	204	143	100	177	123	210	172	160	135	69
	短辺	207	145	100	178	124	195	149	149	149	65
B4	長辺	116	81	57	100	70	119	98	90	76	100
	短辺	116	81	56	100	70	109	83	83	83	100
B5	長辺	164	116	81	143	100	171	140	130	109	56
	短辺	164	116	81	143	100	156	120	120	120	53
11×17	長辺	97	68	48	84	59	100	82	76	64	100
	短辺	106	74	51	92	64	100	77	77	77	100
8.5×14	長辺	119	83	58	102	72	122	100	93	78	100
	短辺	139	97	67	120	84	131	100	100	100	100
8.5×13	長辺	128	90	63	111	77	132	108	100	84	100
	短辺	139	97	67	120	84	131	100	100	100	100
8.5×11	長辺	152	106	74	131	92	156	128	119	100	100
	短辺	139	97	67	120	84	131	100	100	100	100
ハガキ	長辺	100	100	145	100	178	100	100	100	100	100
	短辺	100	100	153	100	190	100	100	100	100	100
15×11	長辺	119	83	58	103	72	122	100	93	78	100
	短辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
15×12	長辺	119	83	58	103	72	122	100	93	78	100
	短辺	95	66	46	81	57	89	68	68	68	100
10×11	長辺	147	103	72	127	89	151	124	115	97	50
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45
10×12	長辺	135	95	66	117	81	139	114	105	89	46
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45

単位：［%］

補足

- 長辺または短辺の倍率値が45～210%を超えた場合には、長辺と短辺の両方の倍率値は100%となります。

固定倍率値（2 アップ指定時）

原稿サイズ	用紙サイズ	A3/2	A4/2	A5/2	B4/2	B5/2	11×17/2	8.5×14/2	8.5×13/2	8.5×11/2	ハガキ/2
A3	長辺	70	49	100	60	100	66	50	50	50	100
	短辺	70	48	100	60	100	72	59	54	45	100
A4	長辺	100	70	48	86	60	94	72	72	72	100
	短辺	100	69	48	86	59	103	84	78	65	100
A5	長辺	143	100	69	123	86	135	103	103	103	45
	短辺	145	100	69	124	86	149	121	112	94	47
B4	長辺	81	57	100	70	49	76	58	58	58	100
	短辺	81	56	100	70	48	83	68	63	53	100
B5	長辺	116	81	56	100	70	109	83	83	83	100
	短辺	116	80	55	100	69	120	98	90	76	100
11×17	長辺	68	48	100	59	100	64	49	49	49	100
	短辺	74	51	100	64	100	77	62	58	48	100
8.5×14	長辺	83	58	100	72	50	78	60	60	60	100
	短辺	97	67	100	84	57	100	82	75	63	100
8.5×13	長辺	90	63	100	77	54	84	64	64	64	100
	短辺	97	67	100	84	57	100	82	75	63	100
8.5×11	長辺	106	74	51	92	64	100	77	77	77	100
	短辺	97	67	46	84	57	100	82	75	63	100
ハガキ	長辺	100	145	100	178	124	100	149	149	149	65
	短辺	100	153	105	190	131	100	185	172	144	71
15×11	長辺	83	58	100	72	100	78	60	60	60	100
	短辺	72	50	100	62	100	74	60	56	47	100
15×12	長辺	83	58	100	72	100	78	60	60	100	100
	短辺	66	46	100	57	100	68	55	51	100	100
10×11	長辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100
10×12	長辺	95	66	46	81	57	89	68	68	68	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100

単位：［%］

補足

- 長辺または短辺の倍率値が45～210%を超えた場合には、長辺と短辺の両方の倍率値は100%となります。

カット紙全面倍率値

原稿サイズ	用紙サイズ	A3	A4	A5	B4	B5	11×17	8.5×14	8.5×13	8.5×11	ハガキ
A3	長辺	98	69	48	85	59	101	83	77	64	100
	短辺	97	68	47	84	58	91	70	70	70	100
A4	長辺	138	97	68	120	84	142	117	108	91	100
	短辺	137	96	66	118	82	129	99	99	99	100
A5	長辺	196	137	96	169	118	201	165	153	129	66
	短辺	195	136	94	168	117	183	140	140	140	62
B4	長辺	113	79	55	98	68	116	95	88	74	100
	短辺	112	78	54	97	67	105	81	81	81	100
B5	長辺	160	112	78	138	97	165	135	125	105	54
	短辺	158	110	76	136	95	149	114	114	114	50
11×17	長辺	95	67	47	82	57	98	80	74	63	100
	短辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
8.5×14	長辺	116	81	57	100	70	119	98	90	76	100
	短辺	133	93	64	115	80	125	96	96	96	100
8.5×13	長辺	125	87	61	108	75	128	105	97	82	100
	短辺	133	93	64	115	80	125	96	96	96	100
8.5×11	長辺	147	103	72	127	89	151	124	115	97	100
	短辺	133	93	64	115	80	125	96	96	96	100
ハガキ	長辺	100	195	136	100	168	100	100	100	183	94
	短辺	100	201	139	100	173	100	100	100	207	91
15×11	長辺	135	95	66	117	81	139	105	114	89	46
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45
15×12	長辺	135	95	66	117	81	139	105	114	89	46
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45
10×11	長辺	147	103	72	127	89	151	115	124	97	50
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45
10×12	長辺	147	103	72	127	89	151	124	115	97	50
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45

単位：［%］

補足

- 長辺または短辺の倍率値が45～210%を超えた場合には、長辺と短辺の両方の倍率値は100%となります。

カット紙全面倍率値（2 アップ指定時）

原稿サイズ	用紙サイズ	A3/2	A4/2	A5/2	B4/2	B5/2	11×17/2	8.5×14/2	8.5×13/2	8.5×11/2	ハガキ/2
A3	長辺	69	48	100	59	100	64	49	49	100	100
	短辺	68	47	100	58	100	70	57	53	100	100
A4	長辺	97	68	47	84	58	91	70	70	70	100
	短辺	96	66	46	82	57	99	80	74	62	100
A5	長辺	137	96	66	118	82	129	99	99	99	100
	短辺	136	84	65	117	80	140	114	106	88	100
B4	長辺	79	55	100	68	48	74	57	57	57	100
	短辺	78	54	100	67	46	81	66	61	51	100
B5	長辺	112	78	54	97	67	105	81	81	81	100
	短辺	110	76	53	95	65	114	93	86	72	100
11×17	長辺	67	47	100	57	100	63	48	48	48	100
	短辺	72	50	100	62	100	74	60	56	47	100
8.5×14	長辺	81	47	100	70	49	76	58	58	58	100
	短辺	93	50	100	80	55	96	78	72	61	100
8.5×13	長辺	87	61	100	75	52	82	63	63	63	100
	短辺	93	64	100	80	55	96	78	72	61	100
8.5×11	長辺	103	89	100	89	72	97	74	74	74	100
	短辺	93	80	100	80	55	96	78	72	61	100
ハガキ	長辺	195	136	94	168	117	183	140	140	140	62
	短辺	201	139	96	173	119	207	169	156	131	65
15×11	長辺	95	66	46	81	57	89	68	68	68	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100
15×12	長辺	95	66	46	81	57	89	68	68	68	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100
10×11	長辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100
10×12	長辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100

単位：[%]

補足

- 長辺または短辺の倍率値が45～210%を超えた場合には、長辺と短辺の両方の倍率値は100%となります。

用紙サイズと印字可能桁数

左置き、シートフィーダー設定なしの場合

用紙サイズ	たて置き			よこ置き		
	印字開始桁	印字桁数	印字行数	印字開始桁	印字桁数	印字行数
A3	1	113	89	1	161	60
B4	1	97	76	1	139	51
A4	1	79	60	1	113	40
B5	1	68	51	1	97	33
A5	1	54	40	1	79	25
ハガキ	1	35	29	1	54	18
11×17	1	106	92	1	166	56
8.5×14	1	81	74	1	136	41
8.5×13	1	81	68	1	126	41
8.5×11	1	81	56	1	106	41

左置き、シートフィーダー設定ありの場合

用紙サイズ	たて置き			よこ置き		
	印字開始桁	印字桁数	印字行数	印字開始桁	印字桁数	印字行数
A3	1	113	96	1	161	67
B4	1	97	83	1	139	58
A4	1	79	67	1	113	47
B5	1	68	58	1	97	40
A5	1	54	47	1	79	32
ハガキ	1	35	29	1	54	18
11×17	1	106	99	1	166	63
8.5×14	1	81	81	1	136	48
8.5×13	1	81	75	1	126	48
8.5×11	1	81	63	1	106	48

補足

- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。
- たて / よこ倍率はそれぞれ 100% です。
- ハードウエアの構成によって使用できない用紙サイズもあります。

中央置き、シートフィーダー設定なしの場合

用紙サイズ	たて置き			よこ置き		
	印字開始桁	印字桁数	印字行数	印字開始桁	印字桁数	印字行数
A3	13	112	89	1	148	60
B4	21	96	76	1	137	51
A4	30	78	60	13	112	40
B5	35	68	51	21	96	33
A5	42	54	40	30	78	25
ハガキ	48	35	29	48	54	18
11×17	16	106	92	1	151	56
8.5×14	29	80	74	1	136	41
8.5×13	29	80	68	6	126	41
8.5×11	29	80	56	16	106	41

中央置き、シートフィーダー設定ありの場合

用紙サイズ	たて置き			よこ置き		
	印字開始桁	印字桁数	印字行数	印字開始桁	印字桁数	印字行数
A3	13	112	96	1	148	67
B4	21	96	83	1	137	58
A4	30	78	67	13	112	47
B5	35	68	58	21	96	40
A5	42	54	47	30	78	32
ハガキ	48	35	29	48	54	18
11×17	16	106	99	1	151	63
8.5×14	29	80	81	1	136	48
8.5×13	29	80	75	6	126	48
8.5×11	29	80	63	16	106	48

補足

- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。
- たて / よこ倍率はそれぞれ 100% です。
- 印字開始桁とは、用紙上のいちばん左に印字される文字の桁位置です。
- 中央置きの場合は、68 桁めと 69 桁めが用紙の中央になります。このため、印字桁数が 136 桁を超える場合（A3 よこ置きなど）、左端が 1 桁めよりも左になります。この場合、開始桁は 1 桁めになります。1 桁めよりも左側（0 桁めや -1 桁めなど）は印字できません。
- ハードウエアの構成によって使用できない用紙サイズもあります。

左置き、カット紙全面の場合

用紙サイズ	たて置き			よこ置き		
	印字開始桁	印字桁数	印字行数	印字開始桁	印字桁数	印字行数
A3	1	116	99	1	165	70
B4	1	101	85	1	143	60
A4	1	82	70	1	116	49
B5	1	71	60	1	101	42
A5	1	58	49	1	82	34
ハガキ	1	39	34	1	58	23
11×17	1	110	102	1	170	66
8.5×14	1	85	84	1	140	51
8.5×13	1	85	78	1	130	51
8.5×11	1	85	66	1	110	51

補足
- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。

中央置き、カット紙全面の場合

用紙サイズ	たて置き			よこ置き		
	印字開始桁	印字桁数	印字行数	印字開始桁	印字桁数	印字行数
A3	11	116	99	1	164	70
B4	19	100	85	1	142	60
A4	28	82	70	11	116	49
B5	34	70	60	19	100	42
A5	40	58	49	28	82	34
ハガキ	46	39	34	46	58	23
11×17	14	110	102	1	170	66
8.5×14	27	84	84	1	140	51
8.5×13	27	84	78	4	130	51
8.5×11	27	84	66	14	110	51

補足
- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。
- 印字開始桁とは、用紙上のいちばん左に印字される文字の桁位置です。
- 中央置きの場合は、68 桁めと 69 桁めが用紙の中央になります。このため、印字桁数が 136 桁を超える場合（A3 よこ置きなど）、左端が 1 桁めよりも左になります。この場合、開始桁は 1 桁めになります。1 桁めよりも左側（0 桁めや -1 桁めなど）は印字できません。
- ハードウエアの構成によって使用できない用紙サイズもあります。

15 インチ連続紙モード（よこ固定 / 左置き）の場合

用紙サイズ	15×11			15×12		
	印字開始桁	印字桁数	印字行数	印字開始桁	印字桁数	印字行数
対応する全用紙サイズ	1	136	66	1	136	72

補足
- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。

10 インチ連続紙モード（たて固定 / 中央置き）

用紙サイズ	10×11			10×12		
	印字開始桁	印字桁数	印字行数	印字開始桁	印字桁数	印字行数
対応する全用紙サイズ	29	80	66	29	80	72

補足
- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。
- 印字開始桁とは、用紙上のいちばん左に印字される文字の桁位置です。
- ハードウエアの構成によって使用できない用紙サイズもあります。

国別コード表

国別コードは以下のとおりです。

	23	24	40	5B	5C	5D	5E	60	7B	7C	7D	7E
アメリカ	#	$	@	[	\	]	^	`	{	¦	}	~
イギリス	£	$	@	[	\	]	^	`	{	¦	}	~
ドイツ	#	$	§	Ä	Ö	Ü	^	`	ä	ö	ü	ß
スウェーデン	#	¤	É	Ä	Ö	Å	Ü	é	ä	ö	å	ü
日本	#	$	@	[	¥	]	^	`	{	¦	}	~

PCL エミュレーションを使用するには

エミュレーションについて

本機で使用できるプリント言語のエミュレーションについて説明します。

プリントデータはある規則（文法）に従ったデータになっています。本機では、この規則（文法）をプリント言語といいます。

本機が対応しているプリント言語は、ページ単位にイメージを作るページ記述言語と、他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることができるエミュレーションに分類することができます。他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることをエミュレートするといいます。

エミュレーションモード

本機が対応するページ記述言語以外のデータをプリントするときは、本機をエミュレーションモードにします。本機には、複数のエミュレーションモードがあります。エミュレーションモードと、エミュレートするプリンターの対応は、次のとおりです。

エミュレーションモード	エミュレートするプリンター
PCL エミュレーションモード（PCL モード）	CLJ5500

プリント言語の切り替え

本機は、マルチエミュレーションに対応しています。このため、対応するプリント言語の切り替えができるようになっています。

対応するプリント言語を切り替える方法は、次のとおりです。

■コマンド切り替え

対応するプリント言語を切り替えるコマンドを用意しています。本機は、コマンドを受け取ると、対応するプリント言語に切り替えます。

■自動切り替え

ホストインターフェイスが受信したデータを分析し、プリント言語を自動的に特定します。そして、対応するプリント言語に切り替えます。

■インターフェイス従属

CentreWare Internet Services を使って、ホストインターフェイスごとにプリント言語を設定します。データを受信したホストインターフェイスに合わせて、対応するプリント言語を切り替えます。

フォントについて

使用できるフォント

PCL エミュレーションで使用できるフォントは、PCL フォントリストをプリントすることで確認できます。

フォントキャッシュ

高速プリントを実現するために、ある程度の大きさまでのアウトラインフォントについては、フォントキャッシュを実行します。アウトラインフォントを印字するときには、一度、ビットマップの形式に変換されます。この処理時間をできるだけ短縮するために、処理後のビットマップ形式のデータを、メモリーに保存しておきます。これをフォントキャッシュといいます。

保存されたビットマップ形式のデータは、電源を切ったり、再起動したりすると、消えます。なお、PCL エミュレーションモードの場合は、ジョブの処理中以外はデータは保存されません。

排出機能について

排出について説明します。排出には、次の 2 種類があります。

- プリント待ちジョブの排出
- エミュレーションモードでの強制排出

プリント待ちジョブの排出

プリンターに受信されているジョブを優先してプリントします。

参照
- プリンター内のジョブを優先してプリントする手順は、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ジョブ確認」を参照してください。

エミュレーションモードでの強制排出

エミュレーションモードでは、1 ページ分のデータがすべてそろうか、改ページコマンドを受信するまでデータは排出されません。USB インターフェイスの場合、データの最後がページの途中で終了してしまうと、「自動排出時間」で設定されている時間が経過するまで次のデータ待ちとなります。

強制排出は、このようなときに自動排出時間まで待たず、プリンター内のデータを強制的にプリントする操作です。

参照
- 強制排出の手順は、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ジョブ確認」を参照してください。
- 自動排出時間は、USB での設置（P.393）を参照してください。

PCL エミュレーションのモード設定項目

PCL のモードメニューで設定できる項目とその操作方法について説明します。

PCL 設定項目一覧

モードメニューで設定できる項目について説明します。

設定項目	項目番号	設定値
給紙トレイ	201	プリントに使用する用紙トレイを設定します。 【0】（初期値）：自動 【1】：トレイ 1 【2】：トレイ 2 【3】：トレイ 3 【4】：トレイ 4 【5】：トレイ 5（手差し） 【6】：トレイ 6（大容量給紙トレイ） **注記** •「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」を選択した場合、その用紙トレイにセットされている用紙の大きさが用紙サイズとなるため、「用紙サイズ」の設定はできません。 **補足** •「自動」を選択した場合、同じサイズの用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 → トレイ 2 → トレイ 3 → トレイ 4 → トレイ 6 の順に給紙されます。また、同じサイズの用紙が異なる向きで複数のトレイにセットされているときは、よこにセットされている用紙が優先されます。
用紙サイズ（「給紙トレイ」が「自動」の場合）	202	プリントする用紙のサイズを設定します。「給紙トレイ」の設定が「自動」の場合に設定できます。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【3】：A3 【4】（初期値）：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14 【22】：8.5×13 【23】：8.5×11 【24】：11×17 【25】：ユーザー定義用紙 【30】：8K **注記** •「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」のいずれかに設定しているときには、「用紙サイズ」の設定はできません。設定しているトレイにセットされている用紙サイズが表示されます。 **補足** •「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」のいずれかに設定すると、選択された給紙トレイの用紙サイズになります。 •「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって、倍率符号が「?」となることがあります。この場合、原稿は等倍でプリントされます。
用紙サイズ（「給紙トレイ」が「手差しトレイ」の場合）	203	プリントする用紙のサイズを設定します。「給紙トレイ」の設定が「手差し」の場合に設定できます。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【3】：A3 【4】（初期値）：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14 【22】：8.5×13 【23】：8.5×11 【24】：11×17 【25】：ユーザー定義用紙

設定項目	項目番号	設定値
排出先	204	プリントした用紙の排出先トレイを設定します。 【0】（初期値）：センタートレイ（下段） 【1】：サイドトレイ（オプション） 【2】：センタートレイ（上段）（オプション） 【80】：フィニッシャートレイ（オプション） 【81】：フィニッシャー排出トレイ（オプション） **補足** • オプションのインナー排出トレイが装着されていない場合は、「センタートレイ（下段）」がセンタートレイになります。
原稿の向き	205	原稿がたて長かよこ長を設定します。 【0】（初期値）：縦 【1】：横
両面	206	両面プリントを設定します。 【0】（初期値）：オフ 【1】：オン
デフォルトフォント	207	1 バイト系文字（ANK）の書体を設定します。初期値は「23」で Courier です。フォントについては「フォントについて」(P.871) を参照してください。 【0】: CG Times 【1】: CG Times Italic 【2】: CG Times Bold 【3】: CG Times Italic Bold 【4】: Univers Medium 【5】: Univers Medium Italic 【6】: Univers Bold 【7】: Univers Bold Italic 【8】: Univers Medium Condensed 【9】: Univers Medium Condensed Italic 【10】: Univers Bold Condensed 【11】: Univers Bold Condensed Italic 【12】: Antique Olive 【13】: Antique Olive Italic 【14】: Antique Olive Bold 【15】: CG Omega 【16】: CG Omega Italic 【17】: CG Omega Bold 【18】: CG Omega Bold Italic 【19】: Garamond Antiqua 【20】: Garamond Kursiv 【21】: Garamond Halbfett 【22】: Garamond Kursiv Halbfett 【23】（初期値）: Courier 【24】: Courier Italic 【25】: Courier Bold 【26】: Courier Bold Italic 【27】: Letter Gothic 【28】: Letter Gothic Italic 【29】: Letter Gothic Bold 【30】: Albertus Medium 【31】: Albertus Extra Bold 【32】: Clarendon Condensed 【33】: Coronet 【34】: Marigold

設定項目	項目番号	設定値
		【35】: Arial 【36】: Arial Italic 【37】: Arial Bold 【38】: Arial Bold Italic 【39】: Times New 【40】: Times New Italic 【41】: Times New Bold 【42】: Times New Bold Italic 【43】: Symbol 【44】: Wingdings 【45】: Line Printer 【46】: Times Roman 【47】: Times Italic 【48】: Times Bold 【49】: Times Bold Italic 【50】: Helvetica 【51】: Helvetica Oblique 【52】: Helvetica Bold 【53】: Helvetica Bold Oblique 【54】: CourierPS 【55】: CourierPS Oblique 【56】: CourierPS Bold 【57】: CourierPS Bold Oblique 【58】: SymbolPS 【59】: Palatino Roman 【60】: Palatino Italic 【61】: Palatino Bold 【62】: Palatino Bold Italic 【63】: ITC Bookman Light 【64】: ITC Bookman Light Italic 【65】: ITC Bookman Demi 【66】: ITC Bookman Demi Italic 【67】: Helvetica Narrow 【68】: Helvetica Narrow Oblique 【69】: Helvetica Narrow Bold 【70】: Helvetica Narrow Bold Oblique 【71】: New Century Schoolbook Roman 【72】: New Century Schoolbook Italic 【73】: New Century Schoolbook Bold 【74】: New Century Schoolbook Bold Italic 【75】: ITC Avant Garde Book 【76】: ITC Avant Garde Book Oblique 【77】: ITC Avant Garde Demi 【78】: ITC Avant Garde Demi Oblique 【79】: ITC Zapf Chancery Medium Italic 【80】: ITC Zapf Dingbats

設定項目	項目番号	設定値
デフォルトシンボル	208	シンボルセットの初期値を設定します。 【0】（初期値）: Roman 8 【1】: ISO 8859-1 Latin 1 【2】: ISO 8859-2 Latin 2 【3】: ISO 8859-9 Latin 5 【4】: ISO 8859-10 Latin 6 【5】: PC-8 【6】: PC-8 DN 【7】: PC-775 【8】: PC-850 【9】: PC-852 【10】: PC-1004 (OS/2) 【11】: PC Turkish 【12】: Windows 3.1 Latin 1 【13】: Windows 3.1 Latin 2 【14】: Windows 3.1 Latin 5 【15】: DeskTop 【16】: PS Text 【17】: MC Text 【18】: Microsoft Publishing 【19】: Math 8 【20】: PS Math 【21】: Pi Font 【22】: Legal 【23】: ISO 4 United Kingdom 【24】: ISO 6 ASCII 【25】: ISO 11 Swedish:names 【26】: ISO 15 Italian 【27】: ISO 17 Spanish 【28】: ISO 21 German 【29】: ISO 60 Norwegian v1 【30】: ISO 69 French 【31】: Windows 3.0 Latin 1 【32】: Windows Baltic 【33】: Symbol 【34】: Wingdings 【35】: UCS-2
フォントサイズ	209	フォントサイズを設定します。フォントサイズの単位が 0.25 刻みなので、25 刻みで入力します。 【400】～【5000】（初期値：1200）：4.00 ～ 50.00 ポイント
フォントピッチサイズ	210	フォントピッチサイズを設定します。 【600】～【2400】（初期値：1000）：6.00 ～ 24.00 ポイント
フォント行数	211	行数を設定します。 【5】～【128】（初期値：64）：6.00 ～ 24.00 ポイント
プリント部数	212	プリントする部数を設定します。 【1】～【999】（初期値：1）：1 ～ 999 部 **注記** • コンピューターからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、lpd ポートから指定された部数は、プリント後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。
イメージエンハンス	213	イメージエンハンスを行うか行わないかを設定します。 イメージエンハンスとは、画像の境界を滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。 【0】：OFF 【1】（初期値）：ON

設定項目	項目番号	設定値
HexDump	214	HexDump を有効にするかどうかを設定します。 【0】（初期値）：OFF 【1】：ON
薄墨印刷	215	白黒でプリントする場合に、黒でプリントされる部分を薄墨色でプリントします。この機能は、原稿全体に対して有効です。 【0】（初期値）：OFF 【1】：ON
カラーモード	216	カラーモードを設定します。 【0】（初期値）：自動 【1】：カラー 【2】：モノクロ
両面時のとじ方	217	両面でプリントするときのとじ方を設定します。 両面プリントには、「長辺とじ」と「短辺とじ」があります。とじる辺に合わせて、どちらかを選択します。長辺とじは用紙の長辺、短辺とじは用紙の短辺を軸に、おもてとうらのイメージの上方向が一致するようにプリントされます。 【0】（初期値）：長辺とじ 【1】：短辺とじ
行末処理	218	行末処理を設定します。 「CR-××」は、CR のとき LF を後につけ、LF と FF のとき CR を前につけます。 【0】（初期値）：OFF 【1】：LF を後につける 【2】：CR を前につける 【3】：CR-××
ユーザー定義用紙サイズの初期値	219 （短辺）	ユーザー定義用紙の初期値を設定します。 【2100】（短辺初期値）：210.0mm 【2970】（長辺初期値）：297.0mm
	220 （長辺）	【0】～【9999】：0 ～ 999.9mm
有効出力部数	221	プリント部数の指定方法を設定します。 【0】：プロトコル 【1】：パネル 【2】（初期値）：コマンド

HP-GL/2 エミュレーションを使用するには

エミュレーションについて

本機で使用できるプリント言語のエミュレーションについて説明します。

プリントデータはある規則（文法）に従ったデータになっています。本機では、この規則（文法）をプリント言語といいます。

本機が対応しているプリント言語は、ページ単位にイメージを作るページ記述言語と、他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることができるエミュレーションに分類することができます。他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることをエミュレートするといいます。

エミュレーションモード

本機が対応するページ記述言語以外のデータをプリントするときは、本機をエミュレーションモードにします。本機には、複数のエミュレーションモードがあります。エミュレーションモードと、エミュレートするプリンターの対応は、次のとおりです。

エミュレーションモード	エミュレートするプリンター
HP-G/2 エミュレーションモード （HP-GL/2 モード）	DJ750C Plus

プリント言語の切り替え

本機は、マルチエミュレーションに対応しています。このため、対応するプリント言語の切り替えができるようになっています。

対応するプリント言語を切り替える方法は、次のとおりです。

■コマンド切り替え

対応するプリント言語を切り替えるコマンドを用意しています。本機は、コマンドを受け取ると、対応するプリント言語に切り替えます。

■自動切り替え

ホストインターフェイスが受信したデータを分析し、プリント言語を自動的に特定します。そして、対応するプリント言語に切り替えます。

■インターフェイス従属

CentreWare Internet Services を使って、ホストインターフェイスごとにプリント言語を設定します。データを受信したホストインターフェイスに合わせて、対応するプリント言語を切り替えます。

フォントについて

使用できるフォント

HP-GL/2 エミュレーションでは、次のフォントが使用できます。

■和文

- 平成明朝体 W3
- 平成角ゴシック体 W5

■ **欧文**

- 平成明朝体（ローマン）
- 平成角ゴシック体（サンセリフ）

また、ストロークフォントでは、「欧文 + カタカナ」と日本語が使えます。

フォントキャッシュ

高速プリントを実現するために、ある程度の大きさまでのアウトラインフォントについては、フォントキャッシュを実行します。アウトラインフォントを印字するときには、一度、ビットマップの形式に変換されます。この処理時間をできるだけ短縮するために、処理後のビットマップ形式のデータを、メモリーに保存しておきます。これをフォントキャッシュといいます。

保存されたビットマップ形式のデータは、電源を切ったり、再起動したりすると、消えます。

排出機能について

排出について説明します。排出には、次の 2 種類があります。

- プリント待ちジョブの排出
- エミュレーションモードでの強制排出

プリント待ちジョブの排出

プリンターに受信されているジョブを優先してプリントします。

参照
- プリンター内のジョブを優先してプリントする手順は、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ジョブ確認」を参照してください。

エミュレーションモードでの強制排出

エミュレーションモードでは、1 ページ分のデータがすべてそろうか、改ページコマンドを受信するまでデータは排出されません。USB インターフェイスの場合、データの最後がページの途中で終了してしまうと、「自動排出時間」で設定されている時間が経過するまで次のデータ待ちとなります。

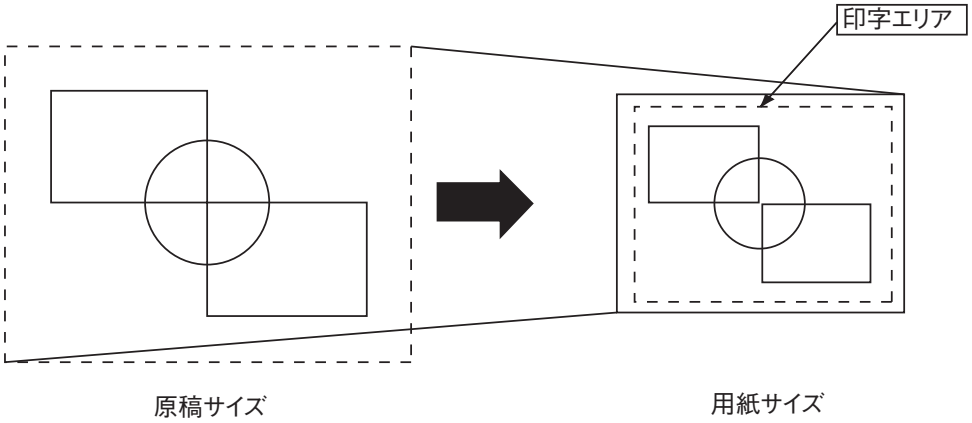
強制排出は、このようなときに自動排出時間まで待たず、プリンター内のデータを強制的にプリントする操作です。

参照
- 強制排出の手順は、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ジョブ確認」を参照してください。
- 自動排出時間は、「USB での設置」（P.393）を参照してください。

工場出荷時の設定

工場出荷時の、HP-GL、HP-GL/2 エミュレーションモードの設定では、以下のように用紙サイズに合わせて、原稿データを縮小拡大してプリント（オートレイアウト）します。

■原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：用紙サイズ、スケール：ON



補足

- 必要に応じて工場出荷時の設定を変更してください。設定変更は、「HP-GL/2 エミュレーションを使用するには」(P.878) を参照してください。

ペーパーマージン

工場出荷時は用紙サイズが A サイズに設定されており、少しでもプリントデータが有効座標エリアからはみ出す場合は、次の大きさの A 系列サイズに（例：A4 サイズの次は A3）プリントされます。

ペーパーマージンを設定すると、エリア判定モードで求めた有効座標エリアから、ページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを有効座標エリアとします。指定した用紙サイズより大きいサイズにプリントされるような場合は、本設定を行ってください。0 ～ 99mm の範囲で設定します。初期値は 0mm です。

HP-GL/2 エミュレーションのモード設定項目

HP-GL/2 のモードメニューで設定できる項目とその操作方法について説明します。

HP-GL/2 設定項目一覧

モードメニューで設定できる項目について、基本設定項目と拡張設定項目に分けて説明します。

基本設定項目

設定項目	項目番号	設定値
原稿サイズ	101	コンピューターで作成された原稿のサイズを設定します。 【0】：A0 【1】：A1 【2】：A2 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【10】：B0 【11】：B1 【12】：B2 【13】：B3 【14】：B4 【15】：B5 【99】（初期値）：オート 【100】：用紙 「オート」を選択すると、「印字制御」のスケールモード、エリア判定モード、ペーパーマージンの設定が有効になります。 **補足** •「オート」以外を選択すると、拡張設定項目の「オートレイアウト」の設定は「しない」になります。 •「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって、原稿は等倍でプリントされます。
用紙サイズ	102	プリントする用紙のサイズを設定します。「給紙トレイ」の設定が「自動」、または「トレイ 5（手差し）」の場合に設定できます。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【99】：オート 【101】（初期値）：A サイズ **注記** •「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」のいずれかに設定しているときには、「用紙サイズ」の設定はできません。設定しているトレイにセットされている用紙サイズが表示されます。 **補足** •「A サイズ」または「オート」を選択した場合は、次のように設定されます。 •「原稿サイズ」を「オート」以外に設定すると、「A3」になります。 •「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」に設定すると、選択された給紙トレイの用紙サイズになります。 •「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって、倍率符号が「?」となることがあります。この場合、原稿は等倍でプリントされます。

設定項目	項目番号	設定値
給紙トレイ	103	プリントに使用する用紙トレイを設定します。 【0】（初期値）：自動 【1】：トレイ 1 【2】：トレイ 2 【3】：トレイ 3 【4】：トレイ 4 【5】：トレイ 5（手差し） 【6】：トレイ 6（大容量） **注記** •「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」を選択した場合、その用紙トレイにセットされている用紙の大きさが用紙サイズとなるため、「用紙サイズ」の設定はできません。 **補足** •「自動」を選択した場合、同じサイズの用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 → トレイ 2 → トレイ 3 → トレイ 4 → トレイ 6 の順に給紙されます。また、同じサイズの用紙が異なる向きで複数のトレイにセットされているときは、よこにセットされている用紙が優先されます。
座標回転	104	プリントに使用する用紙方向を設定します。 【0】（初期値）：0 度 【1】：90 度
カラーモード	105	階調モードを設定します。 【0】（初期値）：カラー 【1】（初期値）：グレースケール 【2】：黒ペン

拡張設定項目

設定項目	項目番号	設定値
オートレイアウト	106	オートレイアウトを使用するかしないかを設定します。 【0】（初期値）：ON 【1】：OFF
パレット優先指定	107	優先して使用するパレットを設定します。 【0】（初期値）：コマンド 【1】：パネル
プリント部数	108	プリントする部数を設定します。 【1】～【250】（初期値：1）：1 ～ 250 枚 **注記** • コンピューターからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、lpd ポートから指定された部数は、プリント後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。
排出先	109	プリントした用紙の排出先トレイを設定します。 【0】（初期値）：センタートレイ（下段） 【1】：サイドトレイ（オプション） 【2】：センタートレイ（上段）（オプション） 【80】：フィニッシャートレイ（オプション） 【81】：フィニッシャー排出トレイ（オプション） **補足** • オプションのインナー排出トレイが装着されていない場合は、「センタートレイ（下段）」がセンタートレイになります。

設定項目	項目番号	設定値
両面	110	両面プリントを設定します。 【0】（初期値）：なし 【1】：左右開き 【2】：上下開き
フォント	111 （漢字書体）	2 バイト系文字（漢字）の書体を設定します。なお、2 バイト系半角文字もこの書体が適用されます。 **参照** • フォントについては「フォントについて」(P.878) を参照してください。 【0】（初期値）：ストローク 【1】：明朝 【2】：ゴシック
	112 （英数字書体）	1 バイト系文字（ANK）の書体を設定します。 **参照** • フォントについては「フォントについて」(P.878) を参照してください。 【0】（初期値）：ストローク 【1】：ローマン 【2】：サンセリフ
位置補正	113 （縦位置補正） 114 （横位置補正）	ハードクリップエリアをたてまたはよこ方向に移動させる機能です。-250 ～ 250mm まで 1mm 単位で設定できます。 【0】（初期値）：しない 【1】～【250】：-250 ～ -1mm 【251】～【500】：+1 ～ +250mm **注記** • 印字エリアを超えるデータは、位置補正をしても印字されません。また、位置補正により印字エリアを超えたデータは、印字されません。
有効出力部数	115	プリント部数の指定方法を設定します。 【0】（初期値）：プロトコル指定 【1】：パネル 【2】：コマンド
印字制御	150 （HP-GL モード）	グラフィックス言語の変更ができます。この設定は、HP-GL コマンドの IW、OW、UC コマンドに影響します。 【0】（初期値）：HP-GL 【1】：HP-GL/2 **補足** • BPコマンドを含まないHP-GL/2コマンドを印字する場合は「HP-GL/2」を選択してください。
	151 （ハードクリップ）	ハードクリップエリアの大きさを設定します。 HP-GL モードでは、用紙によって作画可能な領域が決まっています。この領域はハードクリップエリアと呼ばれ、ペンが移動する最大範囲を決定します。したがって、ハードクリップエリアを超えて描画することはできません。 【0】：標準 【2】（初期値）：用紙 **参照** • ハードクリップエリアについては「ハードクリップエリア」(P.886) を参照して下さい。

設定項目	項目番号	設定値
印字制御（つづき）	152（排出コマンド（SP））	描画の終了を示すコマンドを設定します。ここで指定したコマンドを受信すると描画を終了し、用紙が排出されます。 【0】：OFF 【1】：ON 初期値は、SP0 は「ON」、SP0 以外のコマンドは「OFF」に設定されています。 **参照** • 複数のコマンドが指定された場合は、どれか1つのコマンドを受信した時点で、描画を終了して用紙が排出されます。
	153（排出コマンド（SP0））	
	154（排出コマンド（NR））	
	155（排出コマンド（FR））	
	156（排出コマンド（PG））	
	157（排出コマンド（AF））	
	158（排出コマンド（AH）	
	159（スケール）	原稿サイズが用紙サイズに合うように、原稿サイズを拡大 / 縮小（スケーリング）するかを設定します。 【0】：OFF 【1】（初期値）：ON
	160（スケールモード）	オートスケール実行時の原稿サイズを、A 系列の用紙サイズ（A0、A1、A2、A3、A4、A5 の 6 種類）とするか、エリア判定モードで選択された方法によって求められた有効座標エリアとするかを設定します。 【0】（初期値）：用紙サイズ 【1】：有効座標エリア **補足** • 「有効座標エリア」は、「オートレイアウト」が「ON」の場合だけ設定できます。「OFF」の場合は、「用紙サイズ」になります。 • スケールモードの設定は、「原稿サイズ」が「オート」の場合に有効になります。
	161（エリア判定コマンド）	オートスケール実行時、有効座標エリアを求める方法を設定します。 【0】（初期値）：Auto 【1】：PS 【2】：IW 【3】：IP 【4】：Adapted **補足** • エリア判定コマンドの設定は、「原稿サイズ」が「オート」の場合に有効になります。
	162（ペーパーマージン）	オートスケール実行時のペーパーマージンを設定します。 【0】～【99】（初期値：0）：0 ～ 99mm **補足** • ペーパーマージンの設定は、「原稿サイズ」が「オート」の場合に有効になります。

設定項目	項目番号	設定値
印字制御（つづき）	163 （イメージエンハンス）	イメージエンハンスを行うか行わないかを設定します。 イメージエンハンスとは、画像の境界を滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。 【0】：OFF 【1】（初期値）：ON
ホチキスとめ	164	ホチキスとめをする位置を設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：左上 1 か所 【2】：上辺 2 か所 【3】：右上 1 か所 【4】：左辺 2 か所 【5】：右辺 2 か所 【6】：左下 1 か所 【7】：下辺 2 か所 【8】：右下 1 か所
パンチ	166	パンチ穴を開ける位置を設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：上辺 【2】：下辺 【3】：左辺 【4】：右辺
パンチ穴数	167	パンチ穴の数を設定します。 【0】（初期値）：2 穴 【1】：3 穴 【2】：4 穴
トレイ5確認表示	165	【0】：なし 【1】（初期値）：あり
対象機	169	エミュレーションする対象機を設定します。 【0】（初期値）：HP750 【1】：FX4036
ペン属性	800 ～ 815 （幅）	16 本のペン（No.00 ～ No.15）の幅（太さ）を設定します。ペンの幅は、0.0 ～ 25.5mm の範囲で、0.1mm 刻みに設定できます。No.00 の項目番号が 800 です。 【0】～【255】（初期値：3）：0 ～ 25.5mm **補足** • 「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって縮小された場合、ペンの幅も最小 0.1mm まで縮小します。 • 線の幅は線の中心から太くなります。 • 太さが 0.0mm の場合は、何も描画されません。
	850 ～ 865 （ペン終端形状）	16 本のペン（No.00 ～ No.15）の先端を設定します。No.00 の項目番号が 850 です。 【0】（初期値）：切断 【1】：丸め 【2】：矩形 「切断」（初期値） •：座標指定位置 「丸め」 •：座標指定位置 「矩形」 •：座標指定位置

設定項目	項目番号	設定値
ペン属性（つづき）	900 ～ 915（ペン接続形状）	16 本のペン（No.00 ～ No.15）の、ペンの線を接続した場合の処理を設定します。No.00 の項目番号が 900 です。 【0】（初期値）：なし 【1】：交差 【2】：丸め 【3】：切断 「なし」（初期値）  「交差」  「丸め」  「切断」  **補足** • 「なし」は、処理時間がもっとも短く、確認用に適しています。 • シンボルモードコマンドによってシンボルが設定されている場合、連結処理は行われません。シンボルモードコマンドとは、シンボルを指定する HPGL コマンドです。
	950 ～ 965（ペンカラー）	16 本のペン（No.00 ～ No.15）の色を設定します。0 ～ 255 の範囲で設定します。No.00 ～ No.15 の初期値は、それぞれ 0、1、2、3、4、5、6、7、8、12、19、27、35、68、100、110 になります。 No.00 の項目番号が 950 です。 【0】～【255】：0 ～ 255（カラー） **補足** • ペン属性と、文字書体の関係は次のとおりです。

ハードクリップエリア

HP-GL モードでは、印字可能エリアとは別に、用紙によって作画可能な領域が決まっています。この領域はハードクリップエリアと呼ばれ、ペンが移動する最大範囲を決定します。したがって、ハードクリップエリアを超えて作画することはできません。本機では、次の中からハードクリップエリアを選択します。

- 標準

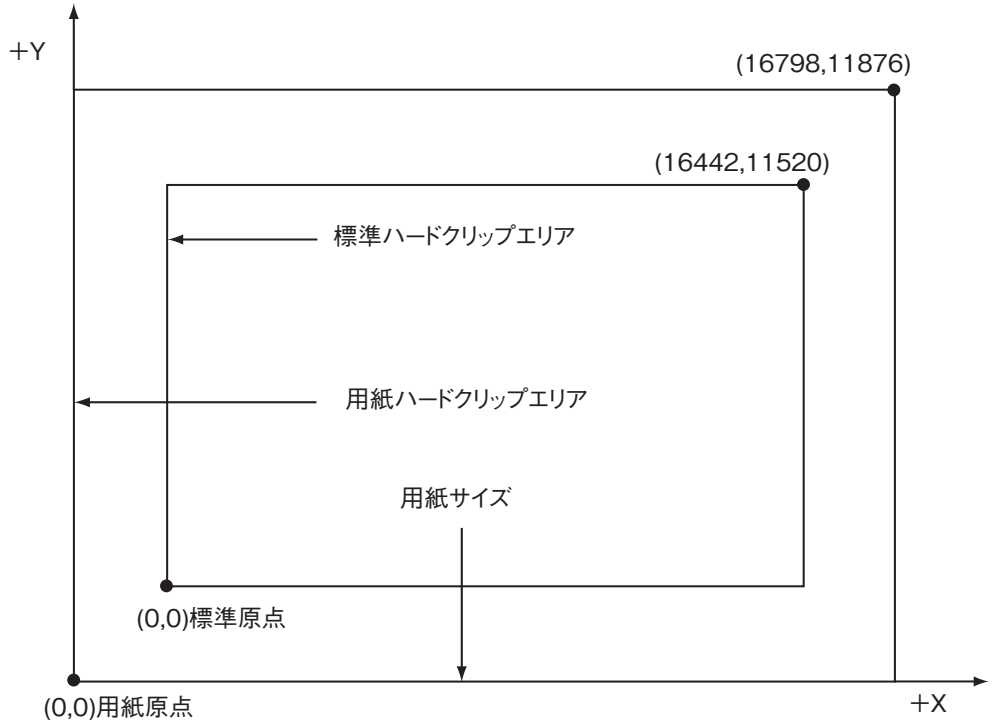
  本機の印字可能エリアをハードクリップとして定義します。

- 用紙

  用紙と同じサイズをハードクリップエリアとして定義します。しかし、実際にプリントできる領域は印字可能エリア内のみとなります。

  ハードクリップエリアの設定は、HP-GL エミュレーションモード設定、またはハードクリップの指定コマンド &I で行うことができます。

下図の座標値は、A3 サイズで原点が左下（HP-GL/2 でオートレイアウト時）に設定されている場合です。



印字可能エリア

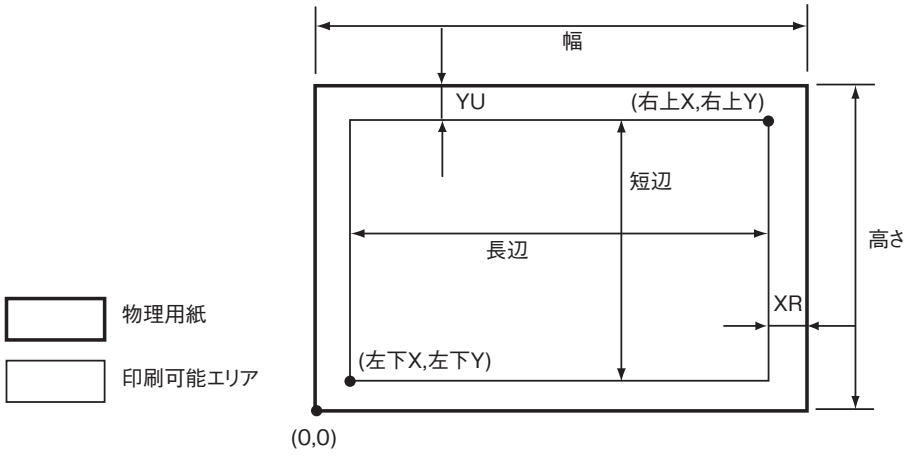
HP-GL モードで印刷できるエリアは、次のとおりです。

用紙サイズと印刷可能エリア

用紙サイズ	用紙長（1/7200 インチ）		座標値（1/7200 インチ）							
	X 方向	Y 方向	マージン		印刷可能エリア		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下 X	左下 Y	長辺	短辺	右上 X	右上 Y	XR	YU
A3	119052	84168	1260	1260	116532	81648	117792	82908	1260	1260
A4	84168	59508	1260	1260	81648	56988	82908	58248	1260	1260
A5	59508	41940	1260	1260	56988	39420	58248	40680	1260	1260
B4	103176	72828	1260	1260	100656	70308	101916	71568	1260	1260
B5	72828	51588	1260	1260	70308	49068	71568	50328	1260	1260

補足

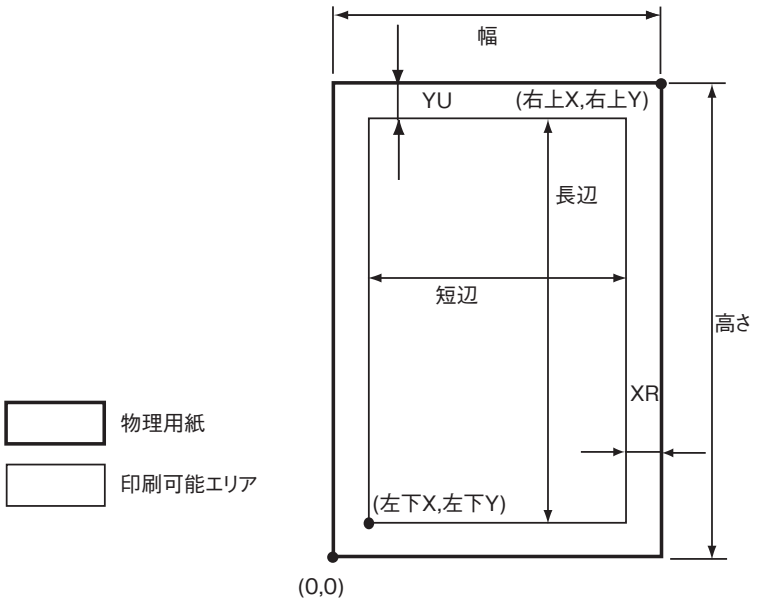
- HP-GL エミュレーションでサポートしている用紙サイズは、A3、A5、A4、B4、B5 の 5 種類です。



用紙サイズ	用紙長（1/7200 インチ）		座標値（1/7200 インチ）							
	X 方向	Y 方向	マージン		印刷可能エリア		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下 X	左下 Y	長辺	短辺	右上 X	右上 Y	XR	YU
A3	84168	119052	1260	1260	81648	116532	82908	117792	1260	1260
A4	59508	84168	1260	1260	56988	81648	58248	82908	1260	1260
A5	41940	59508	1260	1260	39420	56988	40680	58248	1260	1260
B4	72828	103176	1260	1260	70308	100656	71568	101916	1260	1260
B5	51588	72828	1260	1260	49068	70308	50328	71568	1260	1260

補足

- HP-GL エミュレーションでサポートしている用紙サイズは、A3、A5、A4、B4、B5 の 5 種類です。



オートレイアウト

オートレイアウトとは

オートレイアウトとは、ホスト装置から入力された HP-GL データをもとに原稿サイズを判断し、描画する用紙サイズに合わせて拡大・縮小し、描画データが用紙の中央にくるようにレイアウトする機能のことです。オートスケール・オートレイアウト機能を使用することによって、原稿サイズ、原点位置などを意識することなく、HP-GL モードでプリントできます。

オートレイアウトの指定はすべて操作パネルで行います。拡張コマンドで設定することはできません。

オートレイアウト機能を有効にするためには

オートレイアウト機能を有効にするためには、操作パネルを使って次の項目の設定をします。

- 原稿サイズを「オート」に設定します。初期値は、「オート」です。
- 原点位置を設定するために、オートレイアウトを「ON」に設定します。初期値は、「ON」です。
- スケールを「ON」に設定します。初期値は、「ON」です。
- エリア判定モードで、有効座標エリアを求める方法を選びます。初期値は、「Auto 」です。
- ペーパーマージンでペーパーマージンを設定します。初期値は、「0mm」です。
- スケールモードを設定します。初期値は、「用紙サイズ」です。

設定項目の詳細

各項目の詳細は、次のとおりです。

■原稿サイズ

モードボタンを押し、原稿サイズで「オート」を選択すると、オートレイアウトの設定を「ON」にできるようになります。

■オートレイアウト

オートレイアウトの設定を「ON」に設定します。「ON」に設定すると、スケール、エリア判定モード、ペーパーマージン、スケールモードの設定が有効になります。

■スケール

原稿サイズが用紙サイズに合うように、原稿サイズを拡大・縮小（スケーリング）するかどうかを設定します。

■エリア判定モード

HP-GL データをもとに有効座標エリアを求める方法には、次のものがあります。

「自動」

有効座標エリア判定方法を、PS、IW、IP、Adapted の中から自動的に選択します。このときの優先順位は、PS > IW > IP > Adapted となります。

「IW」

データ中の最後の IW コマンドで指定された領域を、有効座標エリアとします。データ中に IW コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。

「IP」

データ中のすべての IP コマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中に IP コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。

「Adapted」

以下の条件から有効座標エリアを決定します。

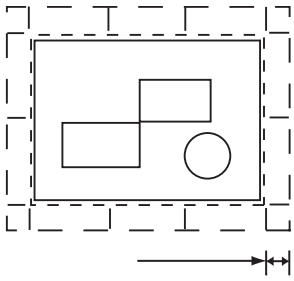
- 描画するコマンドがプロットする最大と最小の位置座標
- そのページ内に指定された最大の文字サイズ
- 最大の線幅

「PS」

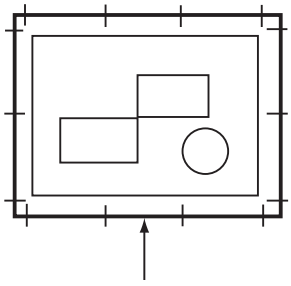
データ中の最初に PS コマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中に PS コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。

■ペーパーマージン

0 ～ 99mm の範囲で設定します。初期値は 0mm です。エリア判定モードで求めた有効座標エリアから、ページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを有効座標エリアとします。



ペーパーマージン



ハードクリップを超えるため描画されない

エリア判定モードで求めたエリア

エリア判定モードで求めたエリアからペーパーマージンを差し引いたエリア

■スケールモード

求めた有効座標エリアから、原稿サイズを決定するモードを選択します。また、有効座標エリアからよこ置きまたはたて置きの判断もします。

「有効座標エリア」の場合

エリア判定モードで求めたエリアからページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを原稿サイズとします。

「用紙サイズ」の場合

求めた有効座標エリアと原点位置の設定から、原稿サイズを設定します。原稿サイズは、A 系列の用紙サイズ（A0、A1、A2、A3、A4、A5 の 6 種類）から選択されます。

原稿サイズの決定方法

原稿サイズは、スケールモード、ペーパーマージン、エリア判定モードで求めた有効座標エリアをもとに、各用紙サイズの用紙ハードクリップエリアと比較し、決定されます。

■スケールモードが用紙サイズの場合

1）エリア判定モードに従い、入力された HP-GL データから有効となる座標エリアを求めます。

2）手順 1 で求めた有効となる座標エリアに対し、ページ内で指定された文字の大きさまたはデフォルトの文字の大きさ、または指定されたペン幅の 1/2 のいずれか値の大きいほうをマージンとして加えます。

3）手順 2 で求めた有効な座標エリアから、ペーパーマージンで設定された値を引きます。

4）手順 3 で求めた有効な座標エリアを含む最小のサイズを原稿サイズとします。

■スケールモードが有効座標エリアの場合

1) エリア判定モードに従い、入力された HP-GL データから有効となる座標エリアを求めます。

2) 手順 1 で求めた有効となる座標エリアに対し、ページ内で指定された文字の大きさまたはデフォルトの文字の大きさ、または指定されたペン幅の 1/2 のいずれか値の大きいほうをマージンとして加えます。

3) 手順 2 で求めた有効な座標エリアから、ペーパーマージンで設定された値を引きます。

4) 手順 3 までの処理で求めた座標エリアを原稿サイズとします。

例 :

スケールモード = 用紙サイズ、原点位置 = オート、ペーパーマージン 10mm、エリア判定モード =IP の場合に下記データが入力された場合

ペン幅設定はすべて 0.1mm

下記データでは文字サイズ指定コマンドは存在せず、IP,IW で指定しているエリアは A3 物理サイズ

IN;

IP-8399,-5938,8399,5938;

IW-8399,-5938,8399,5938;

PU;

SP1;

:

:

SP0;

1) エリア判定モードが IP のため IP コマンドで指定されたエリア -8399,-5938,8399,5938 を有効座標エリアとします。

2) 上記例では文字サイズ指定コマンドなし、ペン幅はすべて 0.1mm のため A3 サイズのデフォルト文字サイズの高さ /2（75 プロッタユニット）のサイズを手順 1 で求めた有効座標エリアに加えます。

手順 2 で求めた有効座標エリア　-8474,-6013,8474,6013

3) ペーパーマージンで設定されている値（10mm=400 プロッタユニット）を手順 2 で求めた有効座標エリアから差し引きます。

手順 3 で求めた有効座標エリア　-8074,-5613,8074,5613

4) 手順 3 で求めた有効座標エリアは A4 サイズを超え A3 サイズのため、原稿サイズは A3 と判断されます。

また、ペーパーマージンの設定が 0mm だった場合の有効座標エリアは -8474,-6013,8474,6013 なので、A3 サイズを超え A2 サイズ以下のため、原稿サイズは A2 と判断されます。

用紙サイズの決定方法

操作パネルの設定が次の場合、用紙サイズの決定方法は以下のようになります。

- 原稿サイズ : オート
- 給紙トレイ : 自動

用紙サイズの決定方法は、操作パネルの用紙サイズの設定、およびスケールモードの設定によって異なります。

■用紙サイズの設定が「A サイズ」の場合

A3、A4、A5 の 3 種類の中から実際にトレイにセットされている用紙サイズが、用紙サイズの候補となります。

A 系列（A3、A4、A5）の用紙がトレイにセットされていない場合は、A3,A4,A5 すべてのサイズを候補とし、操作パネルには、A 系列の用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

■用紙サイズの設定が「オート」の場合

A3、B4、A4、B5、A5 の 5 種類の中から実際にトレイにセットされている用紙サイズが、用紙サイズの候補となります。

A3、B4、A4、B5、A5 の用紙がトレイにセットされていない場合は、このすべてのサイズを候補とし、操作パネルには、用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

■スケールモードの設定が「用紙サイズ」の場合

原稿サイズと同じ用紙サイズがある場合は、原稿サイズと同じサイズの用紙を選択します。

原稿サイズが、候補となったどの用紙サイズよりも大きい場合は、いちばん大きいサイズの用紙を選択します。

原稿サイズが、候補となったどの用紙サイズよりも小さい場合は、いちばん近いサイズの用紙を選択します。

■スケールモードの設定が「有効座標エリア」の場合

有効座標エリアを含むいちばん小さい用紙サイズを選択します。

有効座標エリアが、候補となったどの用紙サイズよりも大きい場合は、いちばん大きいサイズの用紙を選択します。

有効座標エリアが、候補となったどの用紙サイズよりも小さい場合は、いちばん近いサイズの用紙を選択します。

補足

- 原稿サイズが「オート」以外に設定されている場合、用紙サイズは操作パネルの用紙サイズで設定されている用紙サイズとなります。
- 給紙トレイが「自動」に設定されている場合、用紙サイズは各トレイにセットされている用紙サイズとなります。ただし、サポートされていないサイズの用紙がセットされていると、サポートしているサイズの用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

倍率の決定方法

オートスケール実行時、スケーリングの倍率は原稿サイズおよび用紙サイズで決定しますが、スケールモードの設定によって異なります。

補足

- スケーリングを有効にするためには、操作パネルのスケールの設定を「ON」にします。「OFF」の場合は、等倍（100%）で描画されます。

■原稿サイズが「オート」、スケールモードが「用紙サイズ」の場合

ハードクリップの設定は、無効になります。ハードクリップエリアは常に用紙ハードクリップエリアとなります。

- 原稿サイズ＝用紙サイズの場合は、等倍（100%）で描画します。
- 原稿サイズ＞用紙サイズの場合は、縮小して描画します。

• 原稿サイズ＜用紙サイズの場合は、等倍（100%）で描画します。

		用紙				
		A3	A4	A5	B4	B5
原稿	A0	35	25	100	31	100
	A1	50	35	25	43	31
	A2	71	50	35	61	43
	A3	100	71	50	87	61
	A4	100	100	71	100	87
	A5	100	100	100	100	100

描画位置は、原点位置がレイアウトの場合、原稿を用紙の中央に配置して描画します。

原点位置が左下または中央の場合、原稿、用紙それぞれの原点を合わせて描画します。

■原稿サイズが「オート」、スケールモードが「有効座標エリア」の場合

ハードクリップの設定は、無効になります。ハードクリップエリアは常に拡張ハードクリップエリアとなります。

倍率は、有効座標エリアと用紙サイズによって決定します。各用紙サイズの有効座標範囲は次のとおりです。

単位 : プロッターユニット

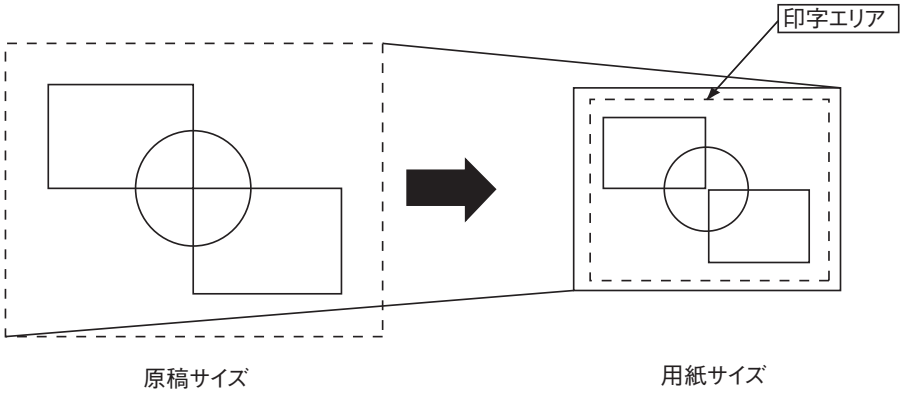
用紙サイズ	0 度				90 度			
	最小値		最大値		最小値		最大値	
	P2x - P1x	P2y - P1y	P2x - P1x	P2y - P1y	P2x - P1x	P2y - P1y	P2x - P1x	P2y - P1y
A3	7829	5485	73075	51200	5485	7829	51200	73075
A4	5485	3828	51200	35733	3828	5485	35733	51200
A5	3828	2648	35733	24720	2648	3828	44088	35733
B4	6762	4723	63120	44088	4723	6762	44088	63120
B5	4723	3297	44088	30773	3297	4723	30773	44088

倍率の最大値は、各用紙サイズの拡張ハードクリップエリアの 210.0%、倍率の最小値は、22.5% となります。

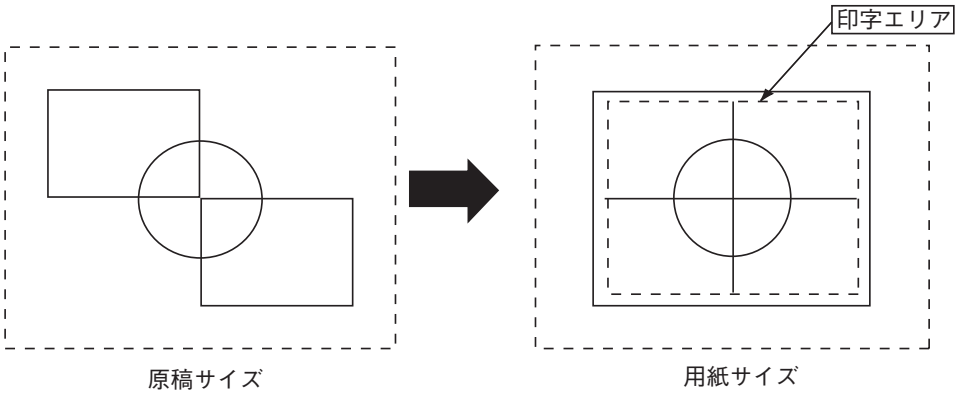
各機能組み合わせ例

以下に各機能の組み合わせによって、どのような印刷結果となるか例を記載します。

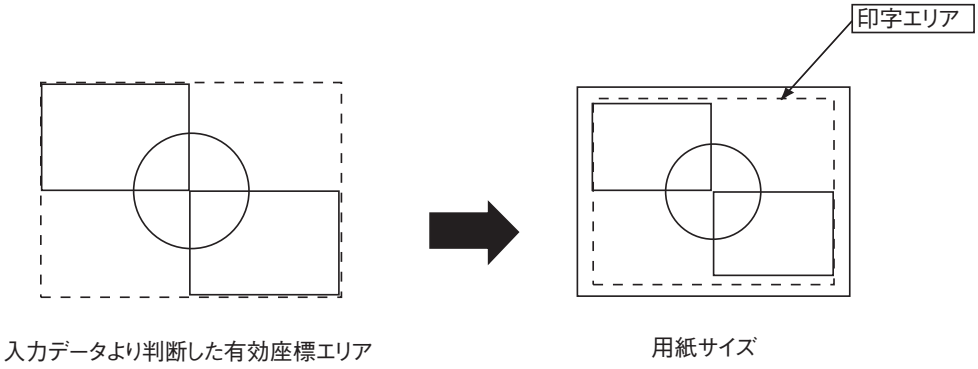
■原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：用紙サイズ、スケール：ON



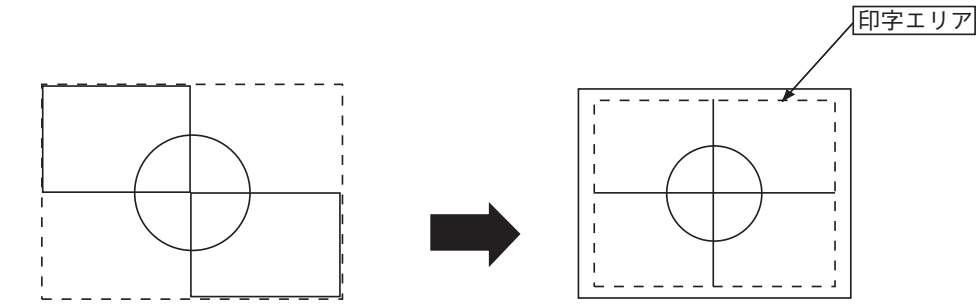
■原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：用紙サイズ、スケール：OFF



■原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：有効座標エリア、スケール：ON



■原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：有効座標エリア、スケール：OFF



入力データより判断した有効座標エリア　　用紙サイズ

注意制限事項について

本機を使用するうえでの注意、および制限について説明します。

本機使用上の注意 / 制限

■電源・主電源を切るときのご注意

電源スイッチを切ったあとも、しばらくの間は本機内部で電源オフ処理をしています。従って、電源スイッチを切った直後に主電源を切らないでください。タッチパネルディスプレイ画面が表示されているとき、または〈節電〉ボタンが点滅しているときは、主電源を切らないでください。ハードディスクやメモリーが破損したり、故障の原因になることがあります。また、電源を切ったあと、画面表示が消える前に電源スイッチを入れても、すぐに起動しません。電源を入れる場合は、操作画面の表示が消えたことを確認してから電源スイッチを入れてください。

■主電源ランプについて

主電源を切っても、すぐには電源ランプは消灯しません。消灯までに 40 秒程度かかります。

■リモート操作での電源オフについて

CentreWare Internet Services から電源を切ることはできますが、電源を入れることはできません。なお、CentreWare Internet Services から操作するには、機械管理者モードに入る必要があります。

ジョブがある場合には、電源オフを受け付けません。

■オプションについて

- ボックスプリントを使用する場合、お使いの機種によっては、スキャナーキット（オプション）が必要です。
- 本機を PostScript 対応プリンターとして使用する場合は、オプションの Adobe PostScript 3 キットの装着が必要です。
- HP-GL/2、PC-PR201H をエミュレートする場合は、オプションのエミュレーションキットまたは Adobe PostScript 3 キットの装着が必要です。
- Adobe PostScript 3 キットとエミュレーションキットは、同時に装着できません。

■本体の設置 / 移動について

- 本体を移動する場合は、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたはカストマーエンジニアにお問い合わせください。
- 本機が作動しているとき、本体に衝撃を与えないでください。
- 原稿カバーを閉じるとき、指のはさみ込みに注意してください。
- 本体外部にあるファンの吸排出口の近くには物を置かないでください。

■文字コードについて

- コンピューターからのデータ送信、USB メモリーなどのメディアからのデータ読み込みでは、フォルダー名やファイル名に本機でサポートしていない文字が使用されていると、本機で正しく表示されないことがあります。
- コンピューター上で、ジョブフローを作成する場合、次の文字を使用してください。
  - S-JIS 20-7E（JIS X0201　ローマ文字）
  - S-JIS 889F-8972（JIS X0208 第一水準漢字）

- 「操作パネルで表示できる漢字一覧」(P.781)のJIS X0208 第2水準の一部の漢字
- S-JIS 8140-84BE （JIS X0208 非漢字）のうち、8160、8161、817C、8191、8192 81CA を除くもの

なお、半角カナ、①、ローマ数字などの特殊文字は使用できません。

■排出先トレイの設定について

フィニッシャーの接続を変更した場合は、［仕様設定］>［コピー設定］>［コピー機能設定初期値］>［排出先］で排出トレイを設定し直してください。

また、メールプリント、親展ボックスの文書プリント、ファクス受信文書のプリントなども排出先を指定できるので、必要に応じて設定変更してください。

■製品の互換性について

ApeosPort シリーズと DocuCentre シリーズの互換性はありません。どちらかのシリーズを購入いただいた後で、別のシリーズへのアップグレード / ダウングレードはできません。

■宛先指定方法の制限について

- 機械管理者モードで宛先指定方法を制限するように設定されているときには、ファクス / インターネットファクス / メール送信で宛先を指定するときに、［キーボード］と［リダイヤル］ボタンが表示されないことがあります。その場合、〈数字〉ボタンも使用できません。送信先の指定は、宛先表に登録されている宛先だけに制限されます。

  宛先の登録は、CentreWare Internet Services や、Device Setup（ApeosWare Management Suite の無償ツール）、ApeosWare EasyAdmin から行う必要があります。ただし、宛先指定方法が制限されているときでも、機械管理者は、本機の操作パネルで宛先を登録できます。

- 認証機能の設定で、［宛先指示方法の制限］が［解除する］に設定されている権限グループのユーザーは、ファクスやメールなどの宛先を直接入力できます。

■ワンタッチボタンについて

ワンタッチボタンの割り当て（ファクス機能搭載機のみ）は、ファクス、インターネットファクス、および IP ファクス（SIP)、スキャナー (メール送信)、スキャナー（PC 保存) の宛先を指定するときに使用します。

ワンタッチボタンへの短縮宛先番号の割り当てには、次の 2 つの方法があります。

- ［タイプ1］:1～70を短縮宛先番号(登録した短縮宛先番号の0001～0070に対応)、71 と 72 をジョブメモリー（登録したジョブメモリーの 1 番と 2 番に対応）
- ［タイプ2］:1～60を短縮宛先番号(登録した短縮宛先番号の0001～0060に対応)、61 ～ 72 をジョブメモリー（登録したジョブメモリーの 1 番～ 12 番に対応）

補足

- 工場出荷時は、［タイプ 1］が設定されています。

参照

- 短縮番号の割り当て数の変更方法は、「ワンタッチボタンの割り当て」(P.178）を参照してください。

■ワンタッチボタンの割り当てについて

ワンタッチボタンへの短縮宛先番号とジョブメモリーの割り当て数は、変更できます。割り当て数を変更した場合、短縮宛先番号のボタンがジョブメモリーのボタンになる場合と、ジョブメモリーのボタンが短縮宛先番号になる場合がありますので、誤操作に注意してください。

■本機の USB インターフェイスコネクターについて

- 操作パネル上のUSBメモリー差込口を使用する場合は、オプションのUSBメモリーキットが必要です。
- 操作パネル上の USB メモリー差込口には、USB メモリーを直接差し込んでください。USB ケーブルを使った接続の動作は保障していません。
- USB ケーブルを使って接続する場合は、USB 増設ポート（オプション）を使用してください。
- USB 増設ポート（オプション）を装着した場合、本機の USB インターフェイスコネクターは、操作パネル上の USB メモリー差し込み口（1 口）と本機背面にあるUSB増設ポート(2 口)の3 つになりますが、同時に接続できる機器は2 つまでです。
- メモリーカードリーダーと USB メモリーを同時に本機に接続することはできません。同時に接続した場合は、最初に接続したものだけが認識されます。

■IC カードリーダー（オプション）について

- 本機にIC カードリーダーを取り付けることによって、認証機能をプラスすることができます。出力機器の利用制限、ドキュメントのセキュリティー管理強化や利便性の向上などが可能です。
- Dispenser 2（CopyLyzer モード設定）を利用している場合、IC カードリーダーは接続できません。
- IC カードリーダーは次の EP 関連商品と同時接続できます。
  - Dispenser 2
  - IC Card Cashier
  - Coinkit 8
  - Coinkit 9
  - フットスイッチ
  - EPnet-BOX type L
  - EPnet-BOX type W2

補足

- IC Card Cashier を接続する場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。設定は、カストマーエンジニアが行います。

- IC カードリーダーに接続する EP 関連商品は、次の組み合わせで併設できます。併設の設定は、弊社カストマーエンジニアが行います。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

併設できる EP 関連商品の組み合わせ	
フットスイッチ	Dispenser 2
	IC Card Cashier
	Coinkit 8
	Coinkit 9

■強制アノテーションで印字される時刻について

機械の状況や設定、出力内容などによっては、お客様が出力を指示した時刻と、機械内部での出力ジョブの開始時刻、実際のプリントの開始時刻がずれる場合があります。強制アノテーションで印字されるのは、出力ジョブの開始時刻となります。

■ジョブメモリーについて

- ジョブメモリーには、次の機能や操作を登録することはできません。

- ジョブメモリーの登録や実行
- EP 診断
- 各仕様の設定
- メニュー画面の［文書プリント］ボタン、［デジカメプリント］ボタン
- メニュー画面の［スキャナー（USB メモリー保存）］ボタン
- メニュー画面の［ジョブフロー］ボタン、［外部アクセス］ボタン（ApeosPort シリーズのみ）
- ジョブフロー機能が登録されている〈登録〉ボタン（ApeosPort シリーズのみ）
- ファクス / インターネットファクス、スキャナー (メール送信)、スキャナー（PC 保存) の宛先表
- 選択できないボタン
- メニュー画面の［言語切り替え Language］ボタン
- メニュー画面の［画面輝度調整］ボタン
- プレビュー表示時のスクロール操作
- ドラッグおよびフリック操作
- スキャナー（PC 保存) の［ネットワーク参照］ボタン
- BMLinkS の［ネットワーク保存］>［保存先を選択］ボタン
- スキャナー (メール送信) のアドレス編集操作（[宛先名 / メールアドレス］や［送信者］を選択すると表示されるポップアップメニューの［キーボード］、［削除]、[確認 / 変更])
- 〈節電〉ボタン

• ジョブメモリー登録後に、次の操作を実行すると、登録されたジョブメモリーが正しく呼び出せないことがあります。
- ジョブメモリーに複製管理機能が登録されている場合に、複製管理機能の初期値をジョブメモリー登録時から変更した場合
- 親展ボックスを操作するジョブメモリーで、操作の対象となる親展ボックスのパスワードがジョブメモリー登録時と異なる場合
- 操作パネルの設定を変更した場合
- 登録ボタンに登録されている機能を変更した場合
- ［仕様設定 / 登録］>［仕様設定］>［コピー設定］>［プリセットボタンの設定］で内容を変更した場合
- 宛先表やジョブフローの一覧から選択する場合
- オプションの変更によりボタンが機能しなくなった場合
- ミリ、インチなど単位設定を変更した場合
- ジョブ確認（保存文書）で文書一覧から文書を選択する場合
- スクロールバーによる項目選択

■カラーモード［自動］について

コピー機能でカラーモードの［自動]、プリンター機能でカラーモードの［カラー (自動判別)］を選択した場合、原稿が白黒であっても、イエロー、マゼンタ、シアンのドラムやトナーを消耗する場合があります。

また、［仕様設定］>［共通設定］>［その他の設定］>［カラーモード自動時の印刷動作］で［速度優先］を選択した場合は、常にイエロー、マゼンダ、シアンのドラムやトナーが使用されるため、白黒の原稿であっても、イエロー、マゼンダ、シアンのドラムやトナーが消耗します。

■音声ナビ（オプション）について

• 音声ナビで利用できる機能は限定されています。利用できる機能については、音声ナビに付属の取扱説明書をご確認ください。

- 音声ナビの操作ボタン（電源スイッチや音量調整スライダー）を操作しても、低電力モードおよびスリープモードからは自動復帰しません。

■節電モード中の原稿カバーの開閉について

機械が節電状態中に、原稿カバーを開いて、節電状態から復帰した直後に、原稿の読み取りを開始しようとすると、読み取りサイズエラーが発生する場合があります。この場合は、原稿サイズを手動で設定してください。節電状態から復帰したあと、機械が原稿サイズを自動検知できるようになるまでには、数秒かかります。原稿をセットしてから原稿カバーを閉じるまで、数秒待ってから、原稿の読み取りを開始させれば、読み取りサイズエラーは発生しません。

補足

- Smart WelcomEyes が稼働していても、人を検知できない領域から機械に近づいた場合、機械は節電状態のままとなります。

■大型カラー操作パネル（オプション）について

- 大型カラー操作パネルの画面下部には、日時が表示されます（工場出荷時）。日時を非表示にする場合は、カストマーエンジニアにお問い合わせください。
- 日時の表示形式は、機械管理者モードで変更できます。
- 時計は、1 分単位の表示です。実際の時刻とは秒単位で異なる場合があります。
- ジョブ確認画面では、[実行中 / 待ち]、[実行完了] の一覧が画面いっぱいに表示され、日時は表示されません。

■節電状態からの操作について

- 本機では、[節電解除の制御] の初期値が [使用する部分のみ解除する] に設定されています。

参照

- 設定については、「節電解除の制御」(P.175) を参照してください。

- スリープモードから復帰後、仕様設定の操作が可能になるには、数秒がかかります。
- タッチパネルディスプレイの点灯が必要ない操作（コンピューターからのプリント指示など）をした場合、〈節電〉ボタンは点灯したままになります。
- スキャナーを使用するサービスが選択されていない状態などのように、原稿送り装置に通電されていない状態で原稿送り装置の上面カバーを開閉しても、タッチパネルディスプレイにメッセージは表示されません。ただし、上面カバーを開いた状態で、通電する（節電を解除する）とタッチパネルディスプレイに、確認メッセージが表示され、〈エラー〉ランプが点灯します。
- 原稿ガラスでコピーおよびスキャンをするために、節電中に原稿カバーを開けた場合、節電を解除します。

参照

- Smart WelcomEyes が稼働していても、人を検知できない領域から機械に近づいた場合、機械は節電状態のままとなります。

- 節電解除後、原稿読み取り装置が通電されていない状態で原稿カバーを開けた場合、原稿読み取り装置および原稿送り装置に通電されます。ただし、原稿ガラスで原稿検知が可能になるためには、原稿ガラス内の原稿読み取り部が、原稿サイズ検知位置に移動するのを確認してから原稿カバーを閉じてください。
- 節電復帰後、コピー、セキュリティープリント出力などの出力装置を使用するサービスが選択されていない状態で次の操作をしても、タッチパネルディスプレイにメッセージは表示されません。
  - 原稿送り装置の上面カバーの開閉
  - 正面カバーの開閉

- 左側面下部カバーの開閉
- 用紙トレイの引き出し
- フィニッシャーのフロントカバーの開閉、ボタン押下など、すべての操作

ただし、各カバーを開いたまま、または用紙トレイを引き出したままの状態で通電する（節電を解除する）と、確認メッセージが表示され、〈エラー〉ランプが点灯します。

- 節電解除後、出力装置を利用する機能が実行されていない状態では、トナー残量やドラムの状態、用紙などの消耗品関連の情報と、用紙トレイの状態は、節電状態に入る前に検知した値を表示または通知します。
- 節電解除後、出力装置を利用する機能を実行する前にコピー機能を利用する場合、次の点に注意してください。用紙トレイにセットされている用紙サイズや残量などの情報は、節電に入る前の情報が表示されています。節電中に用紙サイズ、残量を変更した場合、画面に反映されるまでに数秒かかります。
- タッチパネルディスプレイの初期表示画面に、コピー、らくらくコピー、ジョブメモリー、音声ナビを設定している場合は、節電状態が解除されると、本機全体が節電解除されます。
- トレイセット時の用紙変更画面表示が「する」に設定されている場合は、節電状態が解除されると、本機全体が節電解除されます。
- 〈機械確認〉ボタン操作時、機械管理者モード移行時、ジョブメモリー選択時には、本機全体が節電解除されます。
- EP-DX による EP サービス利用時は、スリープモードが解除され、本機全体が節電解除されます。EP-BB による EP サービス利用時は、スリープモードは解除されません。
- ［仕様設定 / 登録］>［ネットワーク設定］>［ポート設定］>［USB］>［USB-プリントモード指定］を［自動］以外に設定しているときは、節電状態が解除されると、本機全体が節電解除されます。
- ContentsBridge Utility のジョブチケットを使って、セキュリティープリント実行した場合、出力装置にも通電されます。

■実行中 / 実行待ちのジョブ数について

複合機の実行中 / 実行待ちジョブの最大数は 114 件です。複合機が最大ジョブ数に達している状態では、コンピューターからのダイレクトファクスの送信指示やプリント指示、複合機本体からのファクス送信、コピー (割り込みを除く)、スキャン指示も受け付けられません。

コピー機能使用上の注意 / 制限

■コピー機能について

本機には、全面コピー機能はありません。

■2 色コピー / 単色コピー時のメーターカウントについて

2 色カラーコピー、単色カラーコピーは、カラーコピーでメーターがカウントされます。

■2 色カラーコピーでの色調整について

2 色カラーコピーで色の抽出を行う場合、事前にご使用になる原稿で色調整を実施してください。

調整は、弊社カストマーエンジニアが行います。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

■自動コントラスト機能について

［おまかせ画質調整］には自動コントラスト機能はありません。

■白黒原稿 / カラー原稿混在時の N アップ機能とメーターのカウントについて

白黒とカラーが混在した原稿を［まとめて 1 枚（N アップ）］でコピーした場合、白黒ページとカラーページが 1 枚になったページは、カラーページとしてカウントされます。

■コピーとらくらくコピーについて

コピー機能とらくらくコピー機能との間で、画面の切り替えはできません。メニュー画面に戻ってから選択し直してください。この場合、どちらかの機能で設定した内容はクリアされます。

■ID カードコピーについて

- IDカードコピーでは、倍率/画像サイズにかかわらずセンター移動は実施しません。
- ID カードコピーの倍率を縮小に設定すると、縮小率によっては、原稿のセット向きと異なる向きにコピーされる場合があります。

プリント機能使用上の注意 / 制限

■PostScript ドライバーについて

PostScript ドライバーでは、［ポスター（拡大連写）］などには対応していません。また、［まとめて 1 枚］の機能では、2/4/6/9/16 アップと、枠線の有無の指定が可能です。

■Macintosh から USB 接続でプリントする場合

USB を使用して PostScript ドライバーからプリントする場合、図形データ（バイナリーデータを含む EPS ファイル）を貼り付けたアプリケーションデータを印刷すると、バイナリーデータ部分をプロトコルデータと誤検知して文字データが数ページにわたってプリントされることがあります。

［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［ポート設定］>［USB］>［USB-Adobe 通信プロトコル］を［RAW］に設定すると、バイナリーデータを含む EPS ファイルを使ったデータを正常にプリントできます。

■ContentsBridge について

ContentsBridge を使用すると、DocuWorks 文書、PDF、TIFF、JPEG、XPS をドラッグするだけでプリントできます。

PDF、TIFF は本機に直接ファイル転送しますが、DocuWorks 文書はコンピューター上で内部的にプリント処理をしてから本機にファイルを転送し、プリントします。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■文書プリント / デジカメプリントについて

文書プリント / デジカメプリントでは、市販のシングルスロットタイプのメモリーカードリーダーを使用できますが、動作保証はできません。

マルチスロットのメモリーカードリーダーでは、特定の 1 つのスロットだけしか使用できません。どのスロットを使用できるかはリーダーの機種毎に異なり、お客様

が使いたいメディア / メモリーカードのスロットを複合機では使えない場合があります。

また、動作保証はできません。

■メディアプリントの表示機能について

デジカメプリントは、サムネール表示はできますが、プレビュー表示には対応していません。また、文書プリントは、サムネール表示およびプレビュー表示ともに対応していません。

■Gigabit イーサネットについて

Gigabit イーサネットを搭載すると、ネットワーク通信速度は速くなりますが、プリント時間全体が速くなるわけではありません。

■操作パネル操作中のプリントジョブについて

次のときには、プリントジョブの処理・出力速度が遅くなることがあります。

- プリントジョブを実行中に操作パネルを操作した場合
- ［ジョブ確認］画面でプリントジョブの状態を表示している場合

■プリント結果が設定と異なるとき

プリントページバッファの容量不足が原因で、次のように、設定と異なる結果になることがあります。この場合、メモリーの増設をお勧めします。

- 両面の指定が片面でプリントされる
- ジョブが中止される（プリントページバッファに展開できない場合、そのページを含むジョブが中止されます）

■USB Host（USB メモリー）からダイレクトプリントをするとき

本機が「スリープモード」のときに、USB メモリーを接続した場合、コンピューターは本機を検知できません。「スリープモード」を解除してから USB メモリーを接続し、印刷指示を行ってください。

■USB メモリープリントについて

- USB メモリープリントを行うには、USB メモリーキット（オプション）が必要です。
- USBホストアダプターを利用して、お客様がお持ちのUSBメモリーおよびUSBケーブル（必要に応じて）からプリントできますが、動作保証はできません。
- 次の USB メモリーは対象外です。
  - USB メモリーのコンテンツにアクセスするために別途ユーティリティが必要なメディア、パーティションが複数ある USB メモリー
  - 外付けのハブを介して接続した USB メモリー
- 複数の USB メモリーを同時に装着して使用することはできません。
- USB メモリーにアクセス中の取り出しを回避するためのメニューは提供していません。

■両面プリントでのメーターのカウントについて

両面プリントする場合、使用しているアプリケーションによっては、部数を指定するときの条件などにより、自動的にページ調整の白紙を挿入することがあります。このときにアプリケーションが挿入する白紙出力は、カウントアップの対象となります。

■透かし印字でのメーターのカウントについて

複製管理拡張キットを利用して原稿に透かし印字（アノテーション、強制アノテーションなど）をした場合、メーターのカウントは次のようになります。

- カラー原稿の場合は、透かし印字の有無にかかわらず、カラーコピーでメーターがカウントされます。
- 白黒原稿の場合は、透かし文字をカラーで指定していればカラーでカウントされ、白黒で指定していれば白黒でカウントされます。

■操作パネル操作時のプリントジョブの速度について

ApeosPort シリーズ、または大型カラー操作パネル（オプション）を接続した DocuCentre シリーズをお使いの場合、プリントジョブを実行中に操作パネルを操作したり、［ジョブ確認］画面でプリントジョブの状態を表示しているときは、プリントジョブの処理・出力速度が遅くなることがあります。

■PDF ダイレクトプリント機能について

PDF ダイレクトプリント機能は、Adobe PDF 1.6 に対応しますが、次の点に注意してください。

- レンダリング処理が複雑になるため、PDF の出力に時間がかかる場合があります。
- Adobe® Acrobat® 7（PDF1.6）の「OpenType フォントを埋め込む」指定には対応していません。
- Adobe Acrobat 7 以降で作成された PDF1.6 の機能に対応していますが、PDF1.7（Adobe Acrobat 8 および 9）の機能には対応していません。
- 本機で提供されている弊社独自の PDF Bridge は、透明オブジェクトなどの PDF1.6 の機能に対応しています。
- PostScript のメモリー設定を最大値（128 MB）にしないと、PDF ファイルを正常に印刷できない場合があります。

■カラー UD プリントについて

- RGB 画質調整により、文字または文字列の色が変更された場合、変更される前の色が本機能の対象色となります。ただし、本機能によって付加される網かけ、下線には、RGB 画質調整後の色が適用されます。
- 本機能は、OS から通知される色情報（RGB）を元に処理しているため、本機のカラーバランス機能により、最終的に印刷する色は変更される可能性があります。
- ［薄墨印刷］は、本機能と同時に指定できません。薄墨印刷機能が優先されます。
- ［スタンプ］や［ヘッダー / フッター印刷］は、本機能と同時に指定できません。
- ［すべての色を黒に変換］は、本機能と同時に指定できます。

  同時に指定した場合は、本機能の処理対象となる色の文字に、指定の網かけ、下線が付加されると同時に黒色に変換されます。

■まとめて 1 枚（N アップ）機能について

9 アップができるのは、アプリケーションからのプリント指示により受信した印刷ジョブだけです。

■ThinPrint について

- 「ThinPrint .print」を Windows Server 2008 または Windows Server 2003 に設定するには、ライセンス「.print Application Server Engine」が必要です。
- ThinPrint は、通信プロトコルが IPv4 で動作しているときだけ利用できます。IPv6 には対応していません。

- 同時に接続できる最大接続数は3です。これを超えて接続要求を受け付けた場合、接続要求は待ち状態になります。ただし、待ち状態になる接続数は最大 10 までで、これを超えると接続要求を受け付けられません。すでに開設済みの接続が終了して最大接続数よりも少なくなりしだい、待ち状態になっていた接続要求が順次接続されます。
- ジョブのキャンセル、一時停止などのジョブ制御機能は提供していません。操作パネルでの［ジョブ確認］画面、CentreWare Internet Services からのジョブのキャンセルは可能です。
- プリンターにデータのスプールが終了したジョブから順に印刷されます。印刷指示を受信した順に印刷されない場合があります。
- プリンターの電源が切断された場合、本機能は受信済みジョブのスプール順序とデータを保存します。受信中のジョブは破棄されます。

■サイズ混在原稿をプリントするときの向きについて

- プリンタードライバーからのサイズ混在原稿のプリント可能な組み合わせは、A4とA3、B5 と B4、8.5 × 11 インチ（Letter）と 11 × 17 インチ（Tabloid）、十六開と八開の 4 種類です。
- 使用するアプリケーションによっては、原稿の向き（縦向き、横向き）を正しく判断できないため、サイズ混在原稿の組み合わせによっては、原稿の上下が逆にプリントされる場合があります。
- 親展ボックス内の文書をプリントするとき、原稿の上下が逆にプリントされる場合があります。

■ダイレクトファクスドライバーについて

ダイレクトファクスドライバーは、長形 4 号、角型 6 号、角型 20 号、洋長形 3 号の封筒に対応していません。

■プレビュー画像の生成について

原稿によっては、プレビュー用画像の生成に時間がかかる場合があります。出力までの時間を早くしたいときや、プレビュー表示の必要がない場合は、プリンタードライバー側の設定で、プレビュー用の画像を生成しないでプリントの指示をすることができます。

補足
- プリンタードライバー側の設定が優先されます。

■プリンターフォントを使用してプリントする場合

本機は、プリンター搭載フォントに JIS2004 を採用しています。TrueType フォントをプリンターフォントに置き換えてプリントすると、MS 明朝および MS ゴシックの文字が従来の JIS90 と変わる場合があります。

■lpr ポートを使用したプリントについて

lpr ポートを使用してプリントした場合、プリント中画面やショブ確認画面、ジョブ履歴レポートで、ユーザー名やファイル名、ホスト名が文字化けし、正しく表示されないことがあります。

正しく表示したい場合は、lpr 以外のポートを使用してください。

■本機で認証機能を使用している場合

プリンタードライバーで認証情報を設定する場合、User ID は半角 32 文字（全角 16 文字）以内で設定してください。全角で 17 文字以上を設定すると、認証エラーになりプリントできません。

スキャン機能使用上の注意 / 制限

スキャン機能使用時の注意 / 制限事項は、次のとおりです。

参照
- ネットワークスキャナードライバー、および親展ボックスビューワー3の注意/制限事項については、同梱されているメディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内に入っている「Readme」を参照してください。

■親展ボックスからの文書取り出し時

- CentreWare Internet Services によって取り出した場合は、［文書取り出し後の削除］の設定にかかわらず、文書は削除されません。

■ネットワークスキャナードライバーと親展ボックスビューワー 3 の同時使用

1 台のコンピューターから、ネットワークスキャナードライバーと親展ボックスビューワー 3 を同時に使用して、本機に接続することはできません。

複数のコンピューターで、ネットワークスキャナードライバーまたは親展ボックスビューワー 3 を使用して、同時に同じ機械から文書を取り出す場合は、最大で 3 台までです。

■ほかのファクスからの親展ポーリング時

ほかのファクスから、本機に親展ポーリングを指示された場合、スキャン文書は送信されません。

■TIFF ファイル使用時

親展ボックスビューワー 3 を使用して作成された TIFF ファイルは、MMR、MH、JBIG、または JPEG 圧縮方式で圧縮されています。TIFF ファイルを開く場合は、これらの圧縮方式に対応したアプリケーションソフトウェアを使用してください。

■読み込み容量の制限について

1 ページの最大読み込み容量は、297 × 432 mm です。定形サイズでは、A3 または 11 × 17 インチです。

■読み込める原稿の枚数（親展ボックス方式）

親展ボックス方式で、1 回の読み取り操作で読み込める原稿の枚数は、999 ページです。読み込める原稿の枚数は、原稿のサイズや解像度によって変化します。

■スキャナー（USB メモリー保存）について

- スキャナー（USB メモリー保存 ）機能を利用するには、スキャナーキットと USB メモリーキットが必要です。
- ジョブフロー（スキャン起点、ボックス起点とも）には対応しません。
- USB メモリー内のファイルやフォルダーの削除は、本機からはできません。
- アクセス中に USB メモリーの抜き取りを禁止するため、タッチパネルディスプレイに、USB メモリーの抜き取りを禁止するアイコンが表示されます。USB メモリーは、このアイコンが消えたことを確認してから抜き取ってください。
- スキャナー（USB メモリー保存 ）の実行中に、USB メモリーの容量オーバーになった場合は、実行中のジョブは中止されます。
- スキャナー（USB メモリー保存 ）の実行中に、文書プリント / デジカメプリントはできません。文書プリント / デジカメプリント中の USB メモリー保存もできません。
- スキャナー（USB メモリー保存 ）機能の有効 / 無効の設定は、CentreWare Internet Services から、機械管理者モードで設定できます。操作パネルでは設定できません。（初期値は［有効］）

- 操作パネルで、メニュー画面の［スキャナー（USB メモリー保存）］機能を非表示に変更にできます。
- デジタルカメラや Windows 標準のフォーマットツール以外でフォーマットした USB メモリーは、認識できない可能性があります。

■USB メモリー挿入時の画面切り替え機能について

- 本機の電源が入っていないときに USB メモリーを挿入した状態で、電源を入れた場合は、メニュー画面が表示されます。
- 節電中は、USB メモリー差込口に USB メモリーを差し込んでも、タッチパネルディスプレイは点灯しません。〈節電〉ボタンを押して節電状態を解除してから、USB メモリーを差し込みなおすか、メニュー画面から利用する機能を選択してください。
- USB メモリーを抜いた場合は、画面は切り替わりません。
- 対応フォーマット以外の USB メモリーを挿入した場合にも画面が切り替わりますが、メニュー選択時にエラーが発生します。
- 市販のメモリーカードリーダーにメディアを挿入していない状態で、本機の USB メモリー差込口に差し込んだ場合にも画面が切り替わります。
- 市販のメモリーカードリーダーをお使いで、本機の USB メモリー差込口に常時差し込んである場合、そのメモリーカードリーダーにメディアを挿入しても、画面は切り替わりません。

■SMB 環境でのネットワーク参照について

- Windows OS を使用している場合に、共有フォルダー以外の共有リソース（共有プリンターなど）が 256 個以上設定されていると、共有フォルダーリストに、共有フォルダー以外の共有リソースが表示されることがあります。
- ネットワーク上のワークグループ名、サーバー名、共有名などを一覧表示すると、辞書順に表示されないことがあります。

■スキャン高圧縮機能について

- 本機能を利用するには、スキャナー機能が必要です。
- 選択可能な解像度は、200dpi および 300dpi です。
- 本機能で出力される高圧縮 DocuWorks 文書をコンピューター上で閲覧・印刷するには、次のどれかのソフトウェアが必要です。
  - DocuWorks 6.0 以降
  - DocuWorks Viewer Light 5.1 以降
  - DocuWorks Viewer Light for Web 5.1 以降

補足

- 「DocuWorks 体験版」は使用できません。弊社公式サイトから「DocuWorks Viewer Light」（無償ソフトウェア）をダウンロードしてご利用ください。

- 高圧縮 PDF ファイルは、Adobe Acrobat 4.0（PDF 1.3）以降で開けます。
- イメージ圧縮機能では、圧縮率を向上するための画像処理の特性上、原稿の色を忠実にスキャンできない場合があります。
- 本機能は標準で搭載されていますが、オプションのスキャン機能拡張キットを装着した場合と比べ、処理に時間がかかります。そのため、生産性や処理速度を重視する場合、スキャン機能拡張キットの使用をお勧めします。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 本機能を利用した場合、オプションのスキャン機能拡張キットと処理結果が一致しないことがあります。

■スキャン文書の PKI 暗号化、PKI 署名について

- DocuWorks の電子印鑑（スタンプ）による署名には対応していません。
- Acrobat の「文書の証明（承認）」には対応していません。

■PDF、DocuWorks 文書の PKI 暗号化、PKI 署名について

- PDF の PKI（公開鍵暗号基盤）暗号化機能はありません。また、パスワード暗号には証明書は利用しません。
- DocuWorks および PDF のビューアー側で、失効確認ができないというメッセージが表示され、署名検証エラーになった場合は、ビューアー側で証明書の失効確認の設定を確認してください。

■PDF の電子署名について

- 弊社のセキュリティハンドラ（XERX.FX.PPKMS）は提供されていません。
- 本機が署名した PDF 文書を Adobe 社の Acrobat（Adobe Reader®）で表示した場合、署名確認のハンドラが見つからないというメッセージが表示されることがあります。この場合には、「Windows 電子認証セキュリティ」または「 Adobe デフォルトセキュリティ」を選択してください。
- PDF の電子署名に使う証明書は、「S/MIME」項の証明書の条件を満たす必要があります。

■S/MIME 通信について

スキャナー（ メール送信 ）機能とインターネットファクス機能が S/MIME に対応しています。

■サーチャブル PDF について

- 文字認識（OCR）機能利用時は、［読み取り解像度］で［300dpi］を指定することをお勧めします。
- スキャナー（ ボックス保存 ）の場合、［文字認識（OCR）］を［する］に指定することはできません。
- CentreWare Internet Services を使用して、親展ボックス内の文書を取り出すとき、次の条件を満たしている場合、OCR 処理が可能です。
  - 画像サイズ：15 × 15 mm ～ 309 × 432 mm
  - 原稿の画質：文字 / 写真、文字（ファクス文書の場合は、全画質）
  - 色空間：標準色空間
  - 読み取り解像度：200dpi、300dpi（ファクス文書の場合は、全解像度）
  - 読み取り倍率：100%（ファクス文書の場合は、全倍率）

■スキャン画像の圧縮形式について

- グレースケール画像 / フルカラー画像を非圧縮（Raw 形式）で取り出すことはできません。
- PDF の JBIG2 圧縮形式に対応しています。

■スキャン文書のプレビューについて

- 以下の場合は、プレビュー画面で画像を回転しても出力結果には反映されません。
  - 出力ファイル形式が TIFF または JPEG の場合
  - 親展ボックスへのスキャンの場合
  - ジョブフローを実行してスキャンする場合

- プレビュー表示で、スキャンイメージが希望と異なる場合は、一度ジョブをキャンセルし、設定し直してから再度スキャンしてください。
- 文書をスキャン中に操作パネルの〈ストップ〉ボタン、またはタッチパネルディスプレイの［ストップ］を押して中止した場合は、プレビュー表示をしても、すべてのスキャン済み文書を表示できないことがあります。

■少数色スキャン（少数色で圧縮する）について

- 本機能は標準で搭載されていますが、オプションのスキャン機能拡張キットを装着した場合と比べ、処理に時間がかかります。そのため、生産性や処理速度を重視する場合、スキャン機能拡張キットの使用をお勧めします。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 本機能を利用した場合、オプションのスキャン機能拡張キットと処理結果が一致しないことがあります。
- 少数色スキャン（PDF/DocuWorks）と高圧縮（PDF/DocuWorks）を同時に利用することはできません。
- ネットワークスキャナーユーティリティ 3 での文書取り出しには、対応していません。
- この機能は、カラーモードを［フルカラー］、解像度を［200dpi］または［300dpi］、出力ファイル形式を［PDF］または［DocuWorks］に設定した場合に利用できます。
- 少数色の色数は変更できません（上限は 16 色）。
- 少数色を選択した場合でもサムネールを付加できますが、サムネール画像はフルカラーになります。
- 少数色スキャンを利用した白黒画像は、通常の白黒 2 値画質と異なる場合があります。
- グラフや写真が混在するような文書や、多くの色を使っている文書には適しません。これらの文書の場合は、高圧縮を使用してください。

■LDAP サーバーからの宛先取得について

- スキャナー（メール送信）で、LDAP サーバーから取得できる宛先は、メール宛先、インターネットファクス宛先、ファクス宛先、IP ファクス（SIP）宛先です。

■Internet Explorer での制限事項

- Internet Explorer を使用しているときに、スキャナー（URL 送信 ）のファイル削除リンク「ファイルを削除する場合はここをクリックしてください」をクリックしても削除できない場合があります。その場合は、ほかのブラウザーを使用して削除してください。

■ファイル分割について

スキャナー（ ボックス保存 ）、ジョブフロー、BMLinkS ネットワーク保存機能を利用したときは、ファイル分割の指定はできません。

■サムネール表示について

- 次のように、親展ボックスに蓄積保存された文書がサムネールで表示されない場合があります。リスト表示で確認してください。
  - 親展ボックスに保存されているのに、サムネールで表示されない文書がある
  - 文字やイメージが正しく表示されない（サムネールで表示される画像イメージは、縮小されて表示されるため）
- サムネールで表示される画像イメージの向きは、文書が保存されたときの向きのまま表示されます。

- スキャンした文書を親展ボックスに保存した直後に電源が切れたり、スキャンした文書を親展ボックスに保存し、サムネールを蓄積するときにデータ格納領域の容量が足りなくなると、親展ボックスに蓄積された文書がサムネールで表示されないことがあります。その場合は、リスト表示で文書を選択してプレビュー表示してください。

■両面同時読み取り時の制限事項

［カラーモード］の［フルカラー］を選択して、［色空間］で［デバイス色空間］を選択した場合、両面同時読み込みはできません。

■スキャナー（PC 保存）の FTP 転送について

- 本機からスキャン画像を FTP 転送する場合の通信モードは、Passive 通信モードです（工場出荷時）。
- FTP の通信モードは、CentreWare Internet Services で切り替えできますが、ジョブ単位、転送先の FTP サーバーごとの切り替えはできません。
- お客様のネットワーク環境によっては、FTP の通信モードを［Passive モード］から［Active モード］に切り替えないと、正しく動作しない場合があります。
- ［受付 IP アドレス制限］を［する］に設定している場合は、FTP の通信モードを必ず［Active モード］に切り替えてください。

  ［Passive モード］は、接続時にサーバーがクライアントへデータ転送用のポートへの接続を許可し、クライアント側から接続します。［Active モード］よりもセキュリティー上の危険性が少なく、一般的な通信モードです。

  ［Active モード］は、接続時にクライアントからデータ転送用のポート番号を通知して、サーバー側から接続します。この方法では、第三者によるなりすましなどセキュリティー上の危険性があります。

  また、ファイアーウォールなどを使った環境では、うまく接続できないことがあります。その場合は、［Passive モード］を選択してください。

■スキャナー（WSD）について

補足
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

- WSD　　スキャナーポートを起動していない場合、メニュー画面に［スキャナー（WSD）］ボタンは表示されません。本機でスキャナー（WSD）機能を使用するには、WSD スキャナーポートを起動しておく必要があります。
- スキャナー（WSD）機能は、Windows Vista Service Pack 2 以降に標準で搭載されているスキャナードライバーを使用します。Windows Vista Service Pack 2 以降の OS がインストールされている場合は、［Windows FAX とスキャン］や、［ペイント］の［カメラまたはスキャナから取り込み］などを使ってスキャン指示ができます。
- スキャナー（WSD）機能を使用する場合は、［次の原稿あり］は表示されません。
- 複数のジョブを同時に処理できません。ジョブの処理中に別のジョブを指示した場合、後から指示したジョブは、受け付けられません。
- スキャナー（WSD）機能を使用する場合は、本機の操作パネルで、読み取り方法の設定を変更できません。Windows 標準のスキャナードライバーを使用して、コンピューターから設定してください。
- 本機で［PC からの指示待ち］を押して、コンピューターからの指示待ち画面を表示しないと、コンピューターから本機を認識できていても、スキャンを開始できません。また、コンピューターからの指示待ち画面が表示されている間は、自動リセットや節電モードへの移行はされません。

- スキャン完了後、原稿を取り出してから［原稿取り出し確認］画面で［確認］を押してください。［確認］を押さないと、次の操作に移れません。
- スキャナー（WSD）機能は、Windows Vista 以降に標準で搭載されているスキャナードライバーを使用するため、本機専用のスキャナードライバーと設定項目が異なります。

■Microsoft® Office 形式での出力

- 本機能は、Microsoft® Word ファイル形式（doc）および Microsoft® Excel® ファイル形式（xls）を対象としています。
- 本機能を利用するにはオプションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 本機能は、紙原稿をスキャンして保存後に、変換されたテキストや画像などを適宜編集して再利用することを前提とした、補助機能です。紙原稿上の文字や表、図形、写真を 100% 再現することを保証するものではありません。
- ジョブフロー（ボックス起点）、CentreWare InternetServices からの親展ボックスに保存されている文書の取り込み、およびネットワークスキャナーユーティリティ 3 からの文書の取り込みでは、本機能を利用できません。
- 次の条件を満たしている場合、Microsoft® Office 形式での出力が可能です。
  - カラーモード：自動、フルカラー、グレースケール
  - 読み取りサイズ：50 × 50 mm ～ 297 × 432 mm
  - 読み取り解像度：300dpi のみ
  - 読み取り倍率：100% のみ

  補足
  - ［カラーモード］で［フルカラー］を選択しても、印画紙スキャンは利用できません。
- Mac OS 版の Microsoft® Office、および Microsoft® Word/Excel® 2000 での本機能の利用は保証していません。
- Microsoft® PowerPoint®、XML 形式の Microsoft® Office 文書（Word/Excel®）、Text、HTML、CSV、一太郎の形式には変換できません。
- BMLinkS は対象外です。
- 画像を確認するために、PDF や XDW 形式でも保存しておくことをお勧めします。

ファクス機能使用上の注意 / 制限

■ファクスの手動送信時の設定について

手動送信時の各種設定は、［ファクス機能設定初期値］で設定した値で実行されます。

発信動作から通話画面になる前に、ファクス画面で設定を変更した場合には、その設定値で実行されます。

■ファクスの対応機能について

本機は、以下の機能には対応していません。

- ISDN 接続
- G4 通信
- 中継同報の中継局機能
- ワイルドカード（*）による全宛先指定
- 増設回線での通話機能

■光回線や IP 電話回線におけるファクス通信について

当社製品は、NTT のアナログ回線規格に準拠しています。お客様が利用している（または、これから利用しようとしている）回線が、光回線や IP 電話回線の場合には、伝送路の回線品質（パケットロス、エコー、遅延など）により、ファクス通信がエラーになることがあります。その場合は、回線事業者にお問い合わせください。

■ファクス通信環境について

ISDN 回線での G4 通信および G3 通信は利用できません。

■中継同報機能について

本機には、中継指示局の機能はありますが、中継局の機能はありません。

本機は G4 通信に対応していませんが、中継局が G4 通信に対応している場合は、中継同報指示として、中継局が行う G4 通信の機能を選択できます。

■F コード通信で対応している機能について

F コード通信で対応している機能は、親展送信、親展ポーリング、親展受信文書、中継同報、リモート中継同報だけです。

■1300 Hz 無鳴動受信について

工場出荷時は、ファクシミリ通信網からの着信信号（1300 Hz 無鳴動信号）の検知は［しない］に設定されています。現在の契約内容を確認し、必要に応じて［1300 Hz 無鳴動受信］を［する］に設定してください。

■ファクス受信時のイミディエト受信について

本機では、ファクス受信時に本機内のメモリー残量が少ないと、自動的にイミディエト受信に切り替わります。イミディエト受信をした場合、1 ページ分の受信を完了した時点で受信文書をプリントしますが、写真のように中間濃度の使用が多く、サイズが A3 などの大きい原稿を受信した場合、1 ページ分の受信が完了してもプリントされない場合があります。このような場合には、〈ストップ〉ボタンを押すか、電源を切り、入れ直すと、受信文書のプリントが開始されます。

■白紙スキップ機能について

使用する原稿によって、白紙かどうかを判定する精度が異なります。たとえば、裏写りする原稿の場合には、白紙の原稿でも白紙として判定されないことがあります。

■ボックスセレクター機能の利用に必要な契約について

NTT が提供しているダイヤルインサービス、または発信者番号通知サービスを利用して、受信ファクスを任意の親展ボックスに振り分けることができます。

ただし、これらのサービスは、NTT との契約（有料）が必要です。

■宛先表登録時のサービス種別の設定

宛先表に登録できるアドレスには複数の種類があります。

- ファクス用
- IP ファクス（SIP）用
- インターネットファクス用
- メール用
- サーバー（FTP/SMB）保存用

宛先表に登録するときは、使用する機能に合わせて、宛先種別を正しく選択してください。誤った宛先種別で登録されたアドレスは、必要な機能から呼び出すことができないため、ご注意ください。

■らくらくファクスについて

- ファクスの操作中に、らくらくファクスへの画面切り替えはできません。画面を切り替えるときは、メニュー画面に戻ってください。ただし、メニューに戻ると、設定していた内容はすべて消去されます。
- 誤送信を防止するために、宛先の再入力ができます。
- 同報送信、グループダイヤル、宛先表、ワイルドカードでの短縮宛先指示はできません。

■プリント禁止の設定について

［プリント禁止の設定］で［禁止時間帯を設定する］と［手動で禁止する］の両方が設定されている場合に、本機の電源を切ると、電源を切る前に手動で自動プリントの禁止 / 許可を選択していても、次に電源を入れたとき、手動で選択した禁止 / 許可は取り消され、［禁止時間帯を設定する］の設定が有効となります。

■通信管理レポートについて

- DocuLyzer のカード番号を表示させることができます。
- IC カードの番号は表示できません。
- 旧型の IC カード（IC Card Gate 1.0 for FeliCa/IC Card Gate Pro 1.0 対応）をお使いの場合、カード番号が表示されることがあります。

■ダイレクトファクスについて

ダイレクトファクス送信をした場合、通信管理レポートやモニターレポート / 未送信レポート、同報レポート、ジョブ履歴レポートには宛先名が表示されます。宛先名ではなく電話番号や SIP URL を表示させたいときは、ドライバー画面の［名前］ボックスに何も入力しないでください。ただし、この場合、送信シートの［送信先］も空白になります。

■ダイレクトファクスの誤送信抑止機能について

- プロパティ画面の［初期設定］タブで［ファクス宛先の再入力］を［する］に設定しても、短縮宛先番号または宛先表から参照する方法で宛先を指定した場合は、再入力画面が表示されません。
- プロパティ画面の［初期設定］タブで［宛先の指定方法］を［短縮番号のみ］または［宛先表参照のみ］に設定した場合は、ファクス番号を入力する方法で宛先を指定できません。この場合は、短縮宛先番号または宛先表から参照する方法のどちらかで指定します。
- 同報送信時の誤送信を防止するために［同報送信の制限］を［する］に設定した場合、複数の宛先を指定できません。

メール / インターネットファクス機能使用上の注意 / 制限

■メール送信時のご注意

本機の通信確認画面、通信管理レポート、モニターレポートに表示される「送信完了」は、本機に設定したメール送信用の SMTP サーバーまで送信できたことを示します。メール送信では、インターネット網の途中経路の問題により、受信側にメールが到着しない場合があります。このような場合、本機に対しては何も通知がありません。重要な内容を送受信する場合は、電話などによる確認をお勧めします。

■インターネットファクス送信時の機能の組み合わせについて

◆［ファクス / インターネットファクス］画面の［送信画質］

［送信オプション］画面の［インターネットファクスプロファイル］で［TIFF-S］を選択しているときは、［超高画質（400dpi)］、［超高画質（600dpi)］は選択できません。

参照
- インターネットファクスプロファイルについては、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ファクス」>「送信オプション」>「インターネットファクスプロファイル（インターネットファクスプロファイルを指定する)」を参照してください。

◆［送信オプション］画面の［通信モード］

ファクスゲートウェイ機能を使って送信するときにだけ通信モードを指定できます。それ以外の場合は、G3 自動で送信されます。

参照
- ファクスゲートウェイ機能については、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ファクス」>「インターネットファクスについて」>「便利な機能を使う」>「中継局を介してインターネットファクスを一般のファクスに送信する」を参照してください。

◆［読み取り方法］画面の［読み取りサイズ］

［送信オプション］画面の［インターネットファクスプロファイル］で［TIFF-S］を選択しているときは、A4 サイズ以上を指定しても、A4 サイズに縮小されて送信されます。

参照
- インターネットファクスプロファイルについては、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ファクス」>「送信オプション」>「インターネットファクスプロファイル（インターネットファクスプロファイルを指定する)」を参照してください。

■インターネットファクスとインターネットファクスダイレクトについて

- 通常のインターネットファクスとインターネットファクスダイレクトは、機械管理者モードで切り替えられます。両方を同時に利用できません。切り替えについては、機械管理者に確認してください。
- インターネットファクスとスキャナー (メール送信) は、両方を同時に利用できます。インターネットファクスダイレクトとスキャナー (メール送信) も同様です。
- インターネットファクスダイレクトを使用できる相手機種（ファクス機能搭載機）は、次のとおりです。
  - ApeosPort-VI C7771/C6671/C5571/C4471/C3371/C2271
  - DocuCentre-VI C7771/C6671/C5571/C4471/C3371/C2271
  - DocuCentre-V C2263
  - DocuCentre-V 3060/2060
  - DocuCentre-V 1060
  - ApeosPort-V C7776/C6676/C5576/C4476/C3376/C2276
  - DocuCentre-V C7776/C6676/C5576/C4476/C3376/C2276
  - ApeosPort-V C7785/C6685/C5585
  - DocuCentre-V C7785/C6685/C5585
  - ApeosPort-V C3320
  - ApeosPort-V 4020
  - ApeosPort-V 4070/3070
  - DocuCentre-V 4070/3070
  - ApeosPort-V 7080/6080/5080
  - DocuCentre-V 7080/6080/5080

- ApeosPort-V C7775/C6675/C5575/C4475/C3375/C2275
- DocuCentre-V C7775/C6675/C5575/C4475/C3375/C2275
- ApeosPort-V C7780/C6680/C5580
- DocuCentre-V C7780/C6680/C5580
- DocuCentre-IV C2263
- ApeosPort-IV C5575/C4475/C3375/C2275
- DocuCentre-IV C5575/C4475/C3375/C2275
- ApeosPort-IV 4070/3070
- DocuCentre-IV 4070/3070
- ApeosPort-IV 7080/6080/5080
- DocuCentre-IV 7080/6080/5080
- DocuCentre-IV 3060/2060
- DocuColor 1450 GA
- ApeosPort-IV C7780/C6680/C5580
- DocuCentre-IV C7780/C6680/C5580
- DocuCentre-IV C2260
- ApeosPort-IV C5570/C4470/C3370/C2270
- DocuCentre-IV C5570/C4470/C3370/C2270
- ApeosPort-III 4000/3010
- DocuCentre-III 4000/3010
- ApeosPort-III 7000/6000/5000
- DocuCentre-III 7000/6000/5000
- DocuCentre-III C7600/C6500/C5500
- ApeosPort-III C7600/C6500/C5500
- ApeosPort-III C4405
- DocuCentre-III C4405
- ApeosPort-III C3305/C2205
- DocuCentre-III C3305/C2205
- DocuCentre-III C3000/C2000
- ApeosPort-III C3300/C2200
- DocuCentre-III C3300/C2200
- ApeosPort-III C4400
- DocuCentre-III C4400
- ApeosPort-II 7000/6000/5000
- DocuCentre-II 7000/6000/5000
- ApeosPort-II C7500/C6500/C5400
- DocuCentre-II C7500/C6500/C5400
- ApeosPort-II 4000/3000
- DocuCentre-II 4000/3000
- ApeosPort-II C4300/C3300/C2200
- DocuCentre-II C4300/C3300/C2200
- ApeosPort C750 I/C650 I/C550 I
- ApeosPort C7550 I/C6550 I/C5540 I
- ApeosPort C4535 I/C3626 I/C2521 I
- ApeosPort 450 I/350 I
- DocuCentre Color f450/f360/f250
- DocuCentre f285/f235

- ［送信失敗時の再送信］を［する］に設定している場合、インターネットファクスダイレクトで送信後に再送信待ちの状態になったとき、それ以降のジョブは、待機中のジョブが終了するまで実行されません。
- インターネットファクスでは、［未送信レポート］または［モニターレポート］で、宛先ごとに通信結果を残すことはできません。ただし、インターネットファクスダイレクトでは、残すことができます。

■インターネットファクスプロファイルについて

◆インターネットファクスプロファイルを指定するときは

相手先によって、処理できるインターネットファクスプロファイルが異なります。インターネットファクスプロファイルを指定する場合は、相手先で処理できるインターネットファクスプロファイルを確認してください。

◆対応していないインターネットファクスプロファイルが指定されると

インターネットファクスプロファイルの指定が異なると、受信側では、受信した画像を表示 / プリントできません。送信側、受信側で共に処理できるインターネットファクスプロファイルを確認して使用してください。

◆受信時に扱える TIFF ファイルとインターネットファクスプロファイル

- TIFF ファイル形式：TIFF-FX（RFC2301）
- インターネットファクスプロファイル：TIFF-S、TIFF-F、TIFF-J、TIFF-C

対応していないインターネットファクスプロファイルを受信した場合は、ファイルをプリントできないことがあります。また、TIFF-C を受信すると白黒でプリントされます。

補足
- Image/tiff-fx は、CIAJ（情報通信ネットワーク産業協会）で使用上の問題がないことを確認しています。

◆同報送信時の送信条件について

- 同報送信をする場合、インターネットファクス送信をする相手先と、通常のファクス送信をする相手先を混在させることもできます。この場合、インターネットファクスで送信する相手先にはメールが、通常のファクス送信をする相手先にはファクスが送信されます。
- 同報送信する相手先ごとの送信条件が異なるときは、すべての宛先を次の設定にして送信します。
  - 送信モード：G3 自動
  - インターネットファクスプロファイル：TIFF-S
  - 開封 / 配送確認：なし

■メール転送について

ファクス受信した画像が JBIG 圧縮形式の場合で、転送先のインターネットファクスプロファイルを TIFF-F に設定したときは、MH 圧縮方式に変換して転送します。また、インターネットファクスプロファイルが TIFF-S の場合、サイズと解像度はそのままの設定で転送されます。

■インターネットファクスでの S/MIME 通信について

親展ボックスを指定したインターネットファクスの受信や、インターネットファクス受信したメールのファクス転送では、メールアドレスが特殊なため、S/MIME の暗号化はできません。

補足
- S/MIME は ApeosPort シリーズだけが対応しています。

■S/MIME の非信頼メール受信の設定について

機械管理者モードで、［ネットワーク設定］>［セキュリティ設定］>［S/MIME 設定］の［信頼できないメール］や［信頼できないインターネットファクス］を［受信しない］に設定すると、［開封確認（MDN）機能の使用］を［許可］に設定しても、確認結果を受信することはできません。

■ファクスゲートウェイ機能について

この機能は、ファクス送信をするインターネットファクス対応機のメール受信方法が SMTP の場合にだけ使用できます。

メールをファクス文書に変換して送信する場合、相手先に正常に送信できなかったときは、受信した元のメールは削除されます。

参照

- ファクスゲートウェイ機能については、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ファクス」>「インターネットファクスについて」>「便利な機能を使う」>「中継局を介してインターネットファクスを一般のファクスに送信する」を参照してください。

■インターネットファクス受信時の用紙選択制限について

本機は、メール受信時に添付されている TIFF ファイルが、RFC2301 および RFC3250 に記載された content-type で示されているか判断します。前記仕様と判断した場合は、ファクス受信としてイメージを再現するための用紙選択を行います。

インターネットファクスからの受信であっても、不一致と判断した場合は、用紙選択が正しく行われません。たとえば、送信側が A4 を送っている場合に、B4 にプリントされる現象が発生します。

使用条件によっては改善する場合がありますので、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご相談ください。

■宛先グループを指定した場合の送信画質

インターネットファクスで宛先グループを指定した場合、グループに登録されている短縮宛先番号の［送信画質］は無視されます。送信時の［ファクス / インターネットファクス］画面の［送信画質］の設定に従って送信されます。

■メールサーバーの制限について

システム環境（メールサーバーの制限など）によって、大きなサイズの電子メールを送受信できない場合があります。送信メールの分割サイズを設定するときは、送信側、受信側のシステム環境をそれぞれ確認してください。

送信メールを分割しても 1 ページ分のサイズが大きい場合は、送信画質や原稿の画質を変更してサイズを小さくしてください。

■ネットワークでの機密保持について

ネットワークでの機密保持については保証できません。

■メールのシステム環境の整備について

メールの送受信には、メールのシステム環境が整備されている必要があります。必要に応じて、SMTP、POP3、DNS サーバーなどの環境を整備してください。

■セキュリティーに関するご注意

メールは、世界中のコンピューターとつながったインターネットを伝送経路として使用します。このため、一般的にインターネットで送信される電子メールなどの信

号と同様に、第三者に盗み見られたり、改ざんされたりすることがないよう、セキュリティーに関して注意が必要です。

したがって、重要情報に関しては、セキュリティーが確保されているほかの方法を利用されることをお勧めします。また、不要メールの受信を防止するため、メールアドレスを、不用意に第三者に開示しないことをお勧めします。

■不要メールの受信防止について

本機には、メールアドレスを知る外部の第三者から使用者のメールアドレス宛に送信される迷惑メールを防止する機能があります。

この機能は、受信を許可するドメインを指定することによって、送信元のアドレスを制限できます。

参照

- 送受信ドメインの制限については、「送受信ドメインの制限」(P.274) を参照してください。

■メール受信時のご注意

送られてくるメールのデータによっては、メモリーが不足し、プリントできない場合があります。その場合はメモリーを増設するか、送信元に解像度を下げて送信するよう依頼してください。

■[データサイズ単位で分割] を指定したときのメール受信時のご注意

メールの分割方式を [データサイズ単位で分割] にした場合、本機で分割メールを受信しても復元して印刷することはできません。

■[データサイズ単位で分割] を指定したときのメール送信先に関するご注意

[データサイズ単位で分割] を指定した場合、Message Partial 規格に対応したメールソフトでメール受信を行うようにしてください。

■機能別カウンターレポートについて

ビルドジョブ機能を使用して、設定の異なる複数の [まとめて 1 枚 (N アップ)] を指定した場合、最後に指定した [まとめて 1 枚 (N アップ)] の設定に従って、機能別カウンターレポートに表示される [2 アップ]、[2 アップ以外] のページ数が計算されます。

例 1)

原稿 1 (4 ページ) を [2 枚→ 1 枚 (2 アップ)] 出力、原稿 2 (2 ページ) を [しない] と設定してコピーした場合、原稿 1、2 ともに [しない] として、次のようにページ数が計算されます。

- 総ページ数：4
- 2 アップ：0

例 2)

原稿 1 (4 ページ) を [しない] 出力、原稿 2 (2 ページ) を [2 枚→ 1 枚 (2 アップ)] と設定してコピーした場合、原稿 1、2 ともに [2 枚→ 1 枚 (2 アップ)] として、次のようにページ数が計算されます。

- 総ページ数：5
- 2 アップ：5

また、DocuLyzer、および ApeosWare Management Suite で集計される、2in1、4in1、8in1 のページ数も上記の例と同様にページ数を計算します。

なお、[メーター確認] 画面のメーターは、[まとめて 1 枚 (N アップ)] の設定にかかわらず、プリントされたページ数が正しく計算されます。

■親展ボックスのパスワードについて

IP ファクス（SIP）では、親展通信時に、宛先で親展ボックスのパスワードを指定する必要がありません。そのため、宛先に「¥」または「/」で囲んで親展ボックスのパスワードを指定しても、一般のファクスのように「＊」で置き換えません。

一般のファクスやインターネットファクスをするとき、誤って、ファクスの種別を IP ファクス（SIP）にし、宛先に親展ボックスのパスワードを指定すると、操作パネル、ジョブ確認、レポートで、パスワードがそのまま表示されます。親展通信をする場合は、ファクスの種別を確認のうえ、行ってください。

補足

- image/tiff-fx は、CIAJ（情報通信ネットワーク産業協会）で使用上の問題がないことを確認しています。

IP ファクス（SIP）の注意 / 制限

IP ファクス（SIP）についての注意 / 制限事項は、次のとおりです。

■IP ファクス（SIP）機能について

- インターネットへの接続はできません。
- IP ファクス（SIP）では、呼接続に SIP、データ通信には T.38 を使用しています。H.323 方式での通信や、みなし音声方式での通信など、その他の IP ファクス通信プロトコルはサポートしていません。
- SSL/TLS 通信では動作しません。
- IP ファクス（SIP）では、本機と SIP サーバーとの間で認証を行います。

  その認証では、ダイジェスト認証だけをサポートしています。NTLM やその他の認証方式はサポートしていません。
- IPファクス（SIP）の同時接続数は1つです。送受信を同時に行うことはできません。

  ファクス / インターネットファクスとの同時通信は可能です。
- 利用できる SIP サーバーは、レジストラーサーバー、プロキシサーバー、それぞれ 2 台までです。
- SIP サーバーの IP アドレスは、DHCP または DHCPv6 を使用して取得できます（DHCP、DHCPv6 サーバーのオプション番号 120 に SIP サーバーの IP アドレスを設定しておく必要があります）。ただし、次のような注意事項があります。
  - IP アドレスを IPv4 環境で DHCP から自動取得する場合は、［IPv4-IP アドレス取得方法］を［DHCP から取得］または［DHCP/AutoIP から取得］に設定してください。
  - IP アドレスを DHCP または DHCPv6 から自動取得する場合でも、ポート番号、認証ユーザー名、認証パスワード、サーバー種別は自動取得できません。これらの項目は手動で設定してください。
  - IP アドレスを自動取得した場合は、プロキシサーバーとレジストラーサーバーの両方に同じ自動取得した IP アドレスが設定されます。プロキシサーバーとレジストラーサーバーで異なるアドレスを使用したい場合は、手動で設定してください。
  - 複数のアドレスを自動取得した場合は、1 番めのアドレスをプライマリーのプロキシ / レジストラーサーバーに、2 番めのアドレスをセカンダリーのプロキシ / レジストラーサーバーにそれぞれ設定します。3 番め以降のアドレスは使用されません。
- QoS 制御の方法として ToS（IP Precedence/DSCP）だけをサポートしています。

  CoS やその他の QoS 制御はサポートしていません。

本機では、［IP パケット送信優先度］で、IP パケットの送信優先度を設定し、QoS 制御を行います。

■通信できる相手機について

- IP ファクス（SIP）機の通信は、イントラネット内に設置された弊社、および株式会社リコーの SIP 対応ファクス搭載複合機間で交信性を確認しています。対応機については、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 他社製品との T.38 通信は保証していません。

■SIP サーバーについて

- SIP サーバーは、弊社の推奨品をお使いください。（推奨品以外を使用した場合、通信エラーが発生する可能性があります。）詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 動作を確認している SIP サーバーは、Cisco MCS 7800 シリーズ（Cisco Unified Communications Manager 6.0/6.1/7.1/8.0 搭載機が動作していること）です。
- Cisco 社製 SIP サーバーを使用する場合、T.38 プロトコルとして使用できるのは UDP だけです。
- IPsec 通信では動作しません。
- IPv6 環境では動作しません。
- Cisco 社製 CISCO2801 などで動作する SRST には対応していません。
- Cisco社製CISCO2801などで動作するCisco Call Manager Expressには対応していません。
- Cisco 社製 SIP サーバーを使用する場合、本機に設定する［SIP 本体アドレス］では、@ 以降は SIP サーバーの IPv4 アドレス文字列だけが指定できます。IPv6 アドレス文字列、FQDN 文字列、および SIP ドメイン名文字列を指定した場合は、動作しません。
- SIP サーバー上で、本機の SIP 端末として設定した際に、弊社指定以外の設定がされた場合は動作しません。
- Cisco 社製 SIP サーバーでは、アドレス登録を保持する時間は固定（120 秒）です。Timer Register Expires 値を変更しても反映されません（120 秒のままです）。

■VoIP ゲートウェイについて

- VoIP ゲートウェイは、弊社の推奨品をお使いください。（推奨品以外を使用した場合、通信エラーが発生する可能性があります。）詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 動作を確認している　VoIP　ゲートウェイは、Cisco　社製：CISCO2801-V/K9（IOS12.4）です。
- お客様の環境によっては、アナログ回線では正しく動作しない場合があります。
- 動作を確認しているデジタル回線は、「INS ネット 64」です。
- Cisco社製のVoIPゲートウェイを使用する場合、T.38プロトコルとして使用できるのは UDP だけです。
- IPsec 通信では動作しません。
- IPv6 環境では動作しません。
- VoIP ゲートウェイ上のダイヤルピア、または Voice Port に弊社指定以外の設定がされた場合は、動作しません。

- ネットワーク上で転送データの一部が失われた場合、画像の一部が欠けたり、詰まったりすることがあります。このような現象を防ぐには、ECM モードが有効です。

  本機では、いつでも ECM モードを使用できますが、VoIP ゲートウェイの設定によっては、ECM モードを使用できないことがあります。

  ECM モードが使用可能かどうかをネットワーク管理者に確認してください。

■NAT/NAPT について

UPnP、TURN、STUN、ICE、UDP ホールパンチングなどの SIP 通信での NAT/NAPT を透過させる通信プロトコルには対応していません。

ALG も含め、NAT/NAPT 機器を使用した環境では動作しません。

次世代ネットワーク（NGN）の注意 / 制限

次世代ネットワーク（NGN）についての注意 / 制限事項は、次のとおりです。

■次世代ネットワーク（NGN）を利用した IP ファクス（SIP）機能と設定について

- 次世代ネットワーク（NGN）利用時、［SIP 本体アドレス］は自動取得され、ユーザーによる変更はできません。また、［SIP サーバーの使用］は、［する］に設定されます。
- IPv6 には対応していません。IP 動作モードでは［IPv4 モード］または［デュアルスタック］を選択してください。
- IP アドレスの取得方法は、［DHCP/AutoIP から取得］または［DHCP から取得］を選択してください。
- 送信相手に IP ファクス（SIP）機能がなく、G3 通信が利用できる場合、自動的に G3 通信で再送信できます。［ファクスによる自動再送信］を［する］に設定してください。
- G3 で自動再送信した場合の通信費は、従来の公衆電話網の料金となります。
- G3 通信で自動再送信した場合、通信管理 / モニターレポートには「正常終了（G3）」のログだけが記載されます。
- リダイヤルを 0 回に設定すると、G3 ファクス機への自動再送信は動作しません（初期値は 5 回です）。
- 送信相手がひかり電話付加サービスの「ダブルチャネル」を契約して、ひかり対応ゲートウェイに同一の着信番号で IP ファクスと G3 ファクスを接続している場合、送信相手の IP ファクスが通信中に、IP ファクスを送信すると、送信に失敗したままになります。IP ファクスへの送信が失敗した場合は、自動的に G3 ファクスへ再送信できるように、［ファクスによる自動再送信］を［する］に設定してください。

■通信できる相手機について

NGN 通信ができる対応機については、弊社の営業担当者にお尋ねください。送信相手が NGN 通信に対応していない場合は、G3 ファクス通信することもできます。

インターネットサービスプロバイダーに接続する場合の注意 / 制限

本機で、インターネットサービスプロバイダー（以下、ISP とします。）に接続し、メールまたはインターネットファクスに関連する機能を利用する場合に必要な情報について説明します。

本機のメールに関連する機能は、次のとおりです。

- スキャナー（メール送信）

- メール通知サービス
- メールプリント
- インターネットファクス

■ISP 接続に関する注意 / 制限事項

本機を ISP に接続する場合、次のような注意 / 制限事項があります。

- ダイアルアップ接続はサポート対象外です。常時接続がサポートの前提になります。
- 本機は、IP マスカレードを使用した環境で接続してください。本機へグローバル IP アドレスを割り当てて接続する場合は、サポート対象外となります。
- POP 受信を行う場合には、必ず専用のメールアカウントの申請を行ってください。他のユーザーとの共用を行うとトラブルの原因になります。
- メール送信時には、必ず送信サイズ制限の設定を行ってください。適用可能なサイズは ISP によって異なりますが、小さめの値の設定をお勧めします。
- ADSL やケーブル接続でない常時接続も可能ですが、画像データの送受信は非常に負荷がかかります。
- SMTP 受信はサポート対象外です。本機の運用は POP 受信だけになります。
- プライベートセグメントに、MTA（Mail Transfer Agent）を立てて運用している環境で設置する場合は、運用形態に合わせてください。
- 動作を保証している ISP については、弊社営業にお問い合わせください。
- POP 受信を行った場合、ファクスゲートウェイ機能を使用したファクス送信はできません。POP 受信の場合、メールで受信したインターネットファクス文書をファクス機へ転送する処理が行えないためです。

■機能詳細

メール関連機能の詳細は、次のとおりです。

- 送信機能

  対応プロトコル：SMTP

  ポート番号：25（初期値）

- 送信時認証機能

  SMTP 認証機能：AUTH GSSAPI（Kerberos 指定時のみ）、AUTH NTLMv2、AUTH NTLMv1、AUTH PLAIN、AUTH LOGIN、AUTH CRAM-MD5 に対応

  POP before SMTP：Plain と APOP に対応

  POP 認証後の待ち時間：変更できません。

  暗号化通信（SSL）：対応しています。

- 受信機能

  対応プロトコル：POP3

  POP3 ポート番号：110（初期値）

  POP3 の認証方式：Plain と APOP に対応

  POP3 受信後のメール処理：受信後は必ず、受信したメールをサーバーから削除します。サーバーにメールを残すように設定することはできません。

  通信路の暗号化（SSL）：対応していません。

補足

- IMAP4 には対応していません。

■IP アドレスの設定

本機は、グローバル IP アドレスでの運用は保証していません。必ず IP マスカレードを使用した環境でご利用ください。

◆固定アドレスで運用する場合

お使いのルーター、またはドメイン管理サーバーなどの IP アドレスを管理するサーバーに、本機で使う IP アドレスを登録します。

◆DHCP で運用する場合

設定は特に不要ですが、ルーターや DHCP サーバーの設定によっては登録が必要になる場合があります。お使いのルーターや DHCP サーバーの運用ルールをご確認ください。特に、MAC アドレスによる利用制限を行っている場合には、DHCP サーバー側への登録が必要になることがあります。

■操作パネルからの設定

スキャナー (メール送信) を利用する場合は、本機の操作パネルから、メール送信の上限データサイズを設定してください。上限値は、ISP のガイドラインを参照してください。推奨値は 1MB または 2MB です。

設定は機械管理者モードに入り、［仕様設定 / 登録］>［仕様設定］>［メール / インターネットファクス設定］を選択し、［メール送信動作制御］の［合計データサイズ上限］で行います。

参照

- 設定方法は、「合計データサイズ上限」(P.313) を参照してください。

画像のサイズは次のサイズを目安にしてください。

- A4 フルカラー 200dpi 標準圧縮：約 700 KB
- A4 フルカラー 200dpi 高圧縮：約 400 KB
- A4 白黒 200dpi（文字原稿）：約 25 KB
- A4 白黒 200dpi（文字写真混在原稿）：約 200 KB

補足

- 上記サイズはメール送信時のサイズです。実際のファイルサイズとは異なります。

■CentreWare Internet Services からの設定

参照

- CentreWare Internet Servicesから行う設定については、CentreWare Internet Services画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。
- ISP に接続する場合、［POP3 サーバー確認間隔］は 10 分以上に設定してください。

割り込み時の注意 / 制限

出力中に〈割り込み〉ボタンを押すと、出力を一時中断して割り込み状態に入ります。

補足

- 出力中であっても、読み込み中のジョブがある場合は、割り込みできません。

割り込み中に実行できる / できないジョブは、次のとおりです。

ジョブ		操作パネルからの指示 *1	ジョブの実行
コピー		あり	○
プリント	クライアントから指示した文書 *2 のプリント	あり *3	○
	操作パネルの［ジョブ確認］>［保存文書］から指示した文書 *4 のプリント	あり	○
ファクス	ファクス送信、同報送信	あり	○
	ファクスポーリング予約	あり	○
	ファクス受信プリント	あり *3	○
	ポーリング予約ボックス（操作パネルの〈ジョブ確認〉ボタン>［保存文書］）の文書のプリント	あり	○
ダイレクトファクス	ダイレクトファクス送信	なし	△
インターネットファクス	インターネットファクス送信	あり	○
	インターネットファクス受信プリント	あり *3	○
	インターネットファクス受信、インターネットファクス親展受信	なし	△
	インターネットファクス受信文書を一般ファクス機に転送	なし	△
	ファクス受信文書をインターネットファクス転送	なし	×
スキャン	ボックス保存、PC 保存、メール送信、URL 送信、USB メモリー保存	あり	○
レポート / リスト	ジョブ履歴レポート以外の自動プリント	なし	×
	ジョブ履歴レポートの自動プリント	なし	○
	操作パネルの〈機械確認（メーター確認）〉ボタン>［レポート / リストの出力］から指示したレポート / リストのプリント	あり	○
親展ボックス	蓄積文書の自動ファイル転送、自動ファクス / インターネットファクス送信	なし	×

ジョブ		操作パネルからの指示 *1	ジョブの実行
	蓄積文書（ファクス親展ポーリング予約文書 / ファクス親展受信文書 / インターネットファクス親展受信文書）の操作パネルから指示したプリント	あり	○
	蓄積文書（スキャン文書 / プリント文書）の操作パネルから指示したプリント	あり	×
	蓄積文書の自動プリント	あり *3	○
ジョブフロー	操作パネルの［ボックス操作］または［ジョブフロー］から指示したジョブフローの実行	あり	○

○ 割り込み操作中に実行できる
× 割り込み操作中に実行できない
△ クライアントまたはほかのマシンからの要求は受け付けるが、割り込み操作中は実行しない

*1 :ジョブを実行するために、本機のタッチパネルディプスレイからの指示あり / なし
*2 :通常プリント、サンプルプリントの最初の 1 部、時刻指定プリント (自動プリント)
*3 :割り込み時に、［ジョブ確認］画面の実行待ちジョブに表示されている文書は、［優先］を押すことによってプリントできます。なお、割り込み中に優先プリントを指示した場合、指示したジョブのプリントが終了するまで、次の優先プリントの指示はできません。
*4 :セキュリティープリント、プライベートプリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、認証プリント

補足
- 次のジョブは、割り込み操作とは関係なく実行されます。
  - ファクス自動送信（親展送信）
  - ファクス受信

親展ボックスの注意 / 制限

■スキャン文書のプリントについて

親展ボックス内の次のような文書をプリントする場合、1 ページめが排出されるまでに時間がかかることがあります。

- 複数ページものの文書
- カラーや高解像度で保存された文書

■CentreWare Internet Services からの文書取り出しについて

- 親展ボックス内の文書を取り出す場合、DocuWorks、PDF のファイル形式で取り出すことはできますが、取り出すときに DocuWorks、PDF ファイルを暗号化、または署名することはできません。
- 親展ボックス内の文書をPDFファイル形式で取り出すときに、Web表示用に最適化することはできません。

■ボックスに親展受信したファクス文書のメール送信、FTP 送信、SMB 送信について

- 本機能を利用するには、スキャナーキットに加え、ファクスキット 2 または IP ファクス（SIP）キットのどちらかが必要です。
- DocuCentre シリーズをお使いの場合、本機能を使用するジョブフローを［ジョブフロー］画面から選択して実行することはできません。

■親展ボックスビューワー 3 でのドラッグ＆ドロップ文書取り出しについて

- ドラッグ＆ドロップによって取り出された文書は、コピー操作となるため、ドロップした文書は親展ボックス内に残ります。親展ボックス内の文書を削除するには、ツールバーの［削除］ボタンをクリックします。
- ドラッグ＆ドロップでは、文書の一時保存先のパス名が 107 文字以上の場合、文書の取り出しができません。

  パス名の初期値は、次のとおりです。

  ユーザー名が 39 文字以上の場合、107 文字を超えることがあります。

  - Windows 7 の場合

  <SYSTEMDRIVE>￥Users￥ユーザー名￥Documents￥Fuji Xerox￥Network Scan3

  文書の一時保存先は、［ファイル］メニュー>［詳細設定］>「その他の設定」タブ>「文書の一時保存先」で変更できます

インターネット / イントラネット接続の注意 / 制限

■イントラネット / インターネット接続について

接続先の Web サーバーや、使用しているサーバーアプリケーション、プロキシサーバー、ファイアウォールの種類によっては、イントラネットやインターネットに接続できないことがあります。

他社から提供されているサーバーアプリケーションソフトウェア、プロキシ、ファイアウォールを使用して、イントラネット / インターネットに接続する場合は、次の条件が必要です。

- Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016、Windows Vista、Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、Windows 10 上で動作していること
- 次の条件に準拠していること
  - RFC2616: Hypertext Transfer Protocol HTTP/1.1
    （通常接続 /SSL 接続 /Proxy 認証）
  - RFC2617: HTTP Authentication: Basic and Digest Access Authentication
    （Basic 認証だけサポート、その他の認証はサポートしない）
  - RFC2817: Upgrading to TLS Within HTTP/1.1
  - RFC2818: HTTP Over TLS
- HTTP/HTTPS スキームに対応していること
- GET/CONNECT/POST メソッドに対応していること

コンピューターから操作する場合の注意 / 制限

■対象 OS について

Microsoft Windows Vista x64、Microsoft Windows Server 2008 x64 Editions、Microsoft Windows 7 x64、Microsoft Windows Server 2008 R2 x64 Editions、Microsoft Windows 8 x64、Microsoft Windows 8.1 x64、Microsoft Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Microsoft Windows 10 x64、Windows Server 2016 ドライバーに関しては、注意・制限事項があります。弊社公式サイトのダウンロードページで、「重要なお知らせ」を確認してからご使用ください。

■ **Macintosh について（標準）**

Macintosh 環境において、ダイレクトファクス機能、TWAIN スキャナードライバーを使用したスキャナー機能は使用できません。

- Mac OS X 用プリンタードライバーは、Plugin ドライバーを採用しているため、認証情報の設定、セキュリティープリントなどが使用できます。

■ **Macintosh について（Adobe PostScript 3 キット（オプション））**

- PostScript で印刷する場合は、Adobe® PostScript® 3™ キット（オプション）が必要です。
- Mac OS X 10.6、Mac OS X 10.7 Lion、OS X 10.8 Mountain Lion、OS X 10.9 Mavericks、OS X 10.10 Yosemite、OS X 10.11 El Capitan、macOS 10.12 Sierra 用のプリンタードライバーは、Plug-in を採用しているため、認証情報の設定、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、ボックス保存プリントなどが使用できます。

■ **Mac OS X 用プリンタードライバーについて**

- 対象 OS は、Mac OS X 10.6、Mac OS X 10.7 Lion、OS X 10.8 Mountain Lion、OS X 10.9 Mavericks、OS X 10.10 Yosemite、OS X 10.11 El Capitan、macOS 10.12 Sierra です。
- ダイレクトファクスには対応していません。
- 画質調整やトナー節約機能はありません。また、用紙サイズ設定や用紙種類の一部だけをサポートしているなど、機能制限があります。プリント機能を十分に利用される場合は、Adobe® PostScript® 3 ™キット（オプション）を追加してください。

■ **Mac OS からのダイレクトファクスについて**

- サイズが混在した原稿のファクス送信はサポートしていません。
- 向きが混在した原稿をファクス送信した場合、アプリケーションによってはページの向きごとに独立したファクスジョブとして送信される場合があります。
- 表紙を付けたファクス送信には対応していません。
- Mac OS で提供している機能を利用して表紙を付けた場合、表紙のみがファクス送信されます。複数部数を指定した場合も、1 部しかファクス送信されません。
- 丁合い機能は利用できません。

■ **CentreWare Internet Services について**

- CentreWare Internet Services の［CSRF 対策］を有効にすると、お使いの Web ブラウザーや、Web　ブラウザーの利用状況、ネットワーク環境によっては、CentreWare Internet Services にアクセスできなくなることがあります。その場合は、アクセス可能なコンピューターからアクセスしてください。［CSRF 対策］を無効にする場合は、機械管理者にお問い合わせください。アクセス可能なコンピューターがない場合は、カストマーエンジニアにお問い合わせください。CSRF とは、悪意のある Web サイトが、そこにアクセスしてきたコンピューターを介して、ほかの Web サイト上で操作を実行させる攻撃手法のことです。本機能は、お客様が悪意のあるWebサイトにアクセスしてしまった際に、CentreWare Internet Services へ意図しない操作が実行され、本機の設定等が変更されることを防ぐための機能です。
- CentreWare Internet Services を使用して取り出した CSV フォーマットのファイル（宛先表のデータ）は Excel® などのソフトウェアを使用して編集 / 変更しないでください。取り出した機種によっては、登録時に警告メッセージが表示されずに

本機に登録できてしまい、その結果、既存データが損なわれたり、改変されたデータによって意図しない送信先にファクスが送信されてしまうおそれがあります。

- CentreWare Internet Services の［宛先表］タブで［データのインポート］をした場合、取り込んだ宛先は本機に追加登録されます。上書き登録する場合は、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- CentreWare Internet Services の［宛先表］タブの［データのインポート］で登録できる宛先表は、［宛先表］タブの［データのエクスポート］で取りだした宛先のみです。
- 本機で認証機能を使用している場合、User ID に英数文字以外が設定されていると、CentreWare Internet Services を使用できません。

ジョブフローの注意 / 制限

■ジョブフローについて（ApeosPort シリーズのみ）

- ファクスまたはインターネットファクス文書を、SMB、FTP、またはメールで転送する場合、定形サイズ（A4、A3 など）に変換して出力されます。
- 次の設定でジョブフローを行った場合は、干渉縞（モアレ）が発生する可能性があります。
  - 原稿の画質：［文字 / 写真］、［写真］
  - 読み取り解像度：［400dpi］、［600dpi］
  - インターネットファクス送信のインターネットファクスプロファイル：［TIFF-S］
- 干渉縞（モアレ）が発生する場合は、次の設定に変更してください。
  - 読み取り解像度：［200dpi］、［300dpi］
  - インターネットファクス送信のインターネットファクスプロファイル：［TIFF-F］、［TIFF-J］

■外部アクセス機能について（ApeosPort シリーズのみ）

- 外部サーバーに格納してあるファイルをプリントする場合には、次の条件や制限があります。
  - ［排出先］の指定はできますが、ホチキスやパンチなどの指定はできません。
  - ［まとめて 1 枚（N アップ）］の機能は、PDF ファイルをプリントする場合だけ使用できます。
  - 本機と外部サーバーとの通信には、HTTP または HTTPS が使用できます。
  - プリント可能なファイル形式は、［TIFF］、［PDF］、［XPS］、［DocuWorks］です。
  - 印刷データは、本機のハードディスクに一度スプールされたあとに、ジョブとしてプリントを開始します。したがって、ハードディスクへのスプール中は、ジョブとしては認識されません。
  - セキュリティープリントは使用できません。
  - ［仕様設定］>［共通設定］>［システム時計 / タイマー設定］で［プリント起動］が［する］に設定されているときでも、プリントできます。
  - ジョブ確認の画面表示は、「外部アクセスプリント」になります。
  - 印刷データのスプール中は、〈データ〉ランプは点灯しません。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■ジョブフローの高圧縮対応について

スキャン機能の［出力ファイル形式］の［高圧縮 (MRC)］を［する］に設定する場合は、次のように設定してください。

- カラーモード：［自動］、［フルカラー］、［グレースケール (256 階調)］

- 読み取り解像度：[200dpi]、[300dpi]
- 読み取り倍率：[100%]
- 出力ファイル形式（サムネール指定なし）：[PDF]、[DocuWorks]、[XPS]
- 出力ファイル形式（サムネール指定あり）：[DocuWorks]、[XPS]

注記
- 上記以外の設定の場合には、高圧縮設定が解除されてジョブフローが実行されます。
  ただし、PDF でサムネール指定した場合には、サムネール指定の解除のみ実行されます。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■ジョブフローの宛先について

本機でジョブフローを作成するとき、宛先表に登録された短縮番号や宛先で指定した場合、ジョブフロー作成後に、宛先表の短縮番号や宛先を変更しても、ジョブフローに変更内容は反映されず、変更前の宛先に送られます。変更後の宛先に送りたい場合は、ジョブフローの宛先も変更してください。

セキュリティー機能使用上の注意 / 制限

■暗号化通信について

HTTP の通信を暗号化することによって、IPP でプリントするときに通信データを暗号化（SSL 暗号化通信）できます。ここで暗号化されるのは、ネットワーク上だけです。送信されるデータ自体を暗号化するわけではありません。

■ペーパーセキュリティキット（オプション）について

ペーパーセキュリティキットを装着し、[ペーパーセキュリティーの検出] を [する] に設定している場合、スキャン機能を次の読み取り設定にしたときは、原稿読み取り速度が遅くなります。

- カラーモード：[白黒 (2 階調)]
- 読み取り解像度：[200dpi]
- 両面原稿送り：[両面 (左右開き)]、[両面 (上下開き)]

■強制印字の一時解除について

通常のプリントは一時解除の対象外です。コピー、セキュリティープリント、プライベートプリント、ボックスプリント、文書プリント、デジカメプリントなど、機械にジョブを蓄積し、操作パネルから出力指示するジョブが一時解除の対象となります。

■IPsec について

- IPsec はグローバルアドレス同士の通信にのみ適用され、リンクローカルアドレスとグローバルアドレスの間の通信や、リンクローカルアドレス同士の通信には適用されません。IPsec が適用されない通信については、[非 IPsec 通信] が [許可] に設定されている場合は通常の IP 通信が行われ、[非 IPsec 通信] が [禁止] に設定されている場合は通信できません。
- 複数のIKE認証方式が設定されたWindowsとIPsec通信を行う場合、本機のIKE認証方式と、Windows で最も高い優先度の IKE 認証方式が一致していないと、通信できません。通信を行うためには、本機の IKE 認証方式を Windows で最も高い優先度の IKE 認証方式に合わせるか、Windows の IKE 認証方式のうち、本機に設定されている IKE 認証方式の優先度を最も高く設定してください。

- 通信先の機器に IPsec の設定がされていないと、本機は最大回数に達するまで通信のリトライを繰り返します。IPsec の通信先を複数指定している場合、その中に IPsec の設定がされていない機器が含まれていると、その機器へリトライ中は他の機器と IPsec 通信を開始できません。リトライが終わるまで待てない場合は、IPsec の設定がされている機器だけ通信するようにするか、相手先のすべての機器に IPsec の設定をしてください。

認証 / 集計管理機能使用上の注意 / 制限

■外部認証について（ApeosPort シリーズのみ）

- Kerberosサーバーを利用してプリントまたはダイレクトファクスをする場合、本機で認証中のユーザー情報で Kerberos サーバーに認証しようとすると認証エラーになります。
- 外部認証に変更する場合、または外部認証からほかの認証モードに変更する場合、本機に登録されたユーザー情報、個人の親展ボックス、およびジョブフローが削除されます。
- ApeosWare Management Suite は、認証ユーザーの証明書をサーバーから自動で取得する機能には対応していません。

■ジョブ操作の設定に関するご注意

［仕様設定］>［認証 / セキュリティ設定］>［ジョブ操作の設定］で、ジョブの表示をしない設定にした場合、自分が実行したジョブを止めたり、削除したりできなくなります。そのため、コピー操作やファクスご送信の場合でも、自分でジョブをキャンセルできません。

■外部認証と ApeosWare Management Suite について

- ApeosWare Management Suite が使用できる外部認証サーバーは、Active Directory だけです。
- カラーモード制限はできますが、枚数制限はできません。

■IC カードを利用した外部認証について

- 外部認証は、「ApeosWare Management Suite」、「Active Directory」、「ApeosWare Management Suite + Active Directory」の環境で使用できます。
- レルム名には初期値が設定されています。初期値と異なるレルム名を使用する場合だけ、設定を変更してください。

関連商品に関する注意 / 制限

■DocuLyzer と関連商品設置に関する注意 / 制限事項

DocuLyzer と減算型関連商品との連携で使用する場合は、弊社の営業担当者、または販売店にお問い合わせください。

■DocuLyzer 使用時の操作と機能に関する制限事項

- DocuLyzer 使用時は、本機の操作パネルで操作中にカードを抜くと、操作が中断されたことを示すメッセージが表示され、操作中のジョブがキャンセルされます。
- DocuLyzer を減算型で使用する場合、次の制限があります。
  - 読み取った原稿のコピーが終了するまでは、次のコピーの設定または新たな原稿の読み取りはできません。
  - 割り込みはできません。
  - 本体認証は使用できません。認証しないモードに設定してください。

- カード認証で親展ボックスやジョブフローの個人認証（個人管理）はできません。

■関連商品装着時のご注意

DocuLyzer NW 経由で、Dispenser 2 または Coinkit 5 を併設する場合は、弊社の営業担当者、または販売店にお問い合わせください。

■Coinkit 8 についての注意 / 制限事項

- 次の場合は、Coinkit 8 での課金ファクス送信ができません。
  - ファクスポートを増設している場合
  - ファクス送信課金用の単価テーブルの設定がない場合
  -「標準画質の単価」が、「高画質の単価」より高い場合
  - 単価 × 枚数が、CoinKit 8 の最大投入可能金額（￥15,120）を超えている場合
- 次のファクス機能は使用できません。
  - 手動送受信
  - イミディエト送信
  - ダイレクトファクス送信
  - 親展ボックス文書のファクス送信（ジョブフロー）
  - インターネットファクス受信した文書のファクス転送
  - 短縮ダイヤルからのファクス送信
  - 同報送信、中継局による同報送信
  - 通信管理レポート、未送信レポート、親展受信レポート、同報レポート、集信レポートの自動プリント
  - 未送信文書の再送信
  - 両面白紙スキップ
- ファクス送信中に電源が切れたなどにより、ファクス送信が途中で中断した場合は、再度電源を入れ直しても中断されたファクス送信を再開できません。
- ファクス送信ジョブの動作中に、他の課金対象となるジョブを実行できません。
- 課金対象となるジョブの動作中に、新たなファクス送信ジョブを実行できません。

  （例：ファクス送信動作中に、新たなファクス送信ジョブを実行できません。）
- リダイヤルはできません。
- 操作パネルに、［オンフック］ボタン、［オフフック］ボタンは表示されません。
- 機械管理者だけが〈ジョブ確認〉ボタン、〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを操作できます。
- ファクス送信中の実行画面を閉じることはできません。
- インターネットファクス送信は、課金できません。
- CoinKit 8 以外の EP 関連商品（EPnet-BOX を除く）と併設することはできません。

SMB の注意 / 制限

SMB の注意 / 制限事項は、次のとおりです。

■本機側の設定

- IP アドレスはシステム全体で管理されているアドレスです。ネットワーク管理者と十分相談のうえ、設定してください。
- ネットワーク環境によっては、サブネットマスクやゲートウェイの設定が必要になります。ネットワーク管理者に相談のうえ、必要な項目を設定してください。

■コンピューター側の設定

- IP アドレスはシステム全体で管理されているアドレスです。ネットワーク管理者と十分相談のうえ、設定してください。
- NIS（Network Information Service）の管理下で使用されているホストで、ネットワーク（IPアドレスなど）の設定を行う場合は、NISの管理者に相談してください。

■SMB での認証について

認証サーバーを、IP アドレスまたはホスト名で指定して SMB 認証を行うと、ドメイン名は一致しなくても、ユーザー名とパスワードが一致しているだけで、認証に成功します。

TCP/IP の注意 / 制限

TCP/IP（LPD）での注意 / 制限事項は、次のとおりです。

■本機側の設定

- IP アドレスはシステム全体で管理されているアドレスです。ネットワーク管理者と十分相談のうえ、設定してください。
- ネットワーク環境によっては、サブネットマスクやゲートウェイの設定が必要になります。ネットワーク管理者に相談のうえ、必要な項目を設定してください。
- ポート状態を［起動］に設定したとき、メモリーが不足すると、ポート状態が自動的に［停止］に設定されることがあります。この場合は、使っていないポートを［停止］にするか、メモリー割り当て容量を変更してください。
- 使用環境に応じて、受信バッファ容量［受信バッファ -LPD］のサイズを設定してください。送信されたデータより、受信バッファ容量［受信バッファ -LPD］のサイズが小さい場合、受信できないことがあります。

■コンピューター側の設定

- IP アドレスはシステム全体で管理されているアドレスです。ネットワーク管理者と十分相談のうえ、設定してください。
- NIS（Network Information Service）の管理下で使用されているホストで、ネットワーク（IPアドレスなど）の設定を行う場合は、NISの管理者に相談してください。

■電源を切るとき

本機の電源を切るときは、次の点に注意してください。

- ［受信バッファ -LPD］の設定が［メモリースプール］のとき

  プリント中のデータを含め、本機のメモリーにスプールされたプリントデータはすべて削除されます。再び電源を入れたときは、プリントデータはありません。

  ただし、プリント指示の直後に電源を切った場合、プリントデータがコンピューター上に保存されることがあります。この場合、再び電源を入れたときに、新しくプリント指示が行われても、保存されているプリントデータから順にプリントされます。

- ［受信バッファ -LPD］の設定が［ハードディスクスプール］のとき

  プリント中のデータを含め、本機のハードディスクにスプールされたプリントデータはすべて保存されます。再び電源を入れたときに、新しくプリント指示が行われても、保存されているプリントデータから順にプリントされます。

- ［受信バッファ -LPD］の設定が［スプールしない］のとき

  プリント中のデータを含め、本機の受信バッファにスプールされたプリントデータはすべて削除されます。再び電源を入れたときは、プリントデータはありません。

ただし、プリント指示の直後に電源を切った場合、プリントデータがコンピューター上に保存されることがあります。この場合、再び電源を入れたときに、新しくプリント指示が行われても、保存されているプリントデータから順にプリントされます。

■プリント時

- ［受信バッファ -LPD］の設定が、［ハードディスクスプール］または［メモリースプール］のとき

  プリントデータの受信を開始したときに、プリントデータのサイズがハードディスク、またはメモリーの残り容量より大きい場合、そのプリントデータは受信できません。

補足
- プリントデータが受信容量を超えた場合、コンピューターによってはすぐに再送信することがあります。このときコンピューターが停止したように見えます。対処として、コンピューター側でそのプリントデータの送信を中止してください。

- ［受信バッファ -LPD］の設定が［スプールしない］のとき

  あるコンピューターからプリント要求を受け付けていた場合、別のコンピューターからのプリント要求の受け付けができません。

- コンピューターの IP アドレスやコンピューター名を変更した場合

  コンピューターの IP アドレスやコンピューター名を変更した場合、本機側からの問い合わせ処理や取り消し処理が正常に行われなくなります。本機の受信バッファにプリントデータがない状態で、電源を切って入れ直してください。

補足
- 本機の受信バッファにあるプリントデータのプリント中止 / 強制排出は、本機の操作パネルから操作できます。操作方法は、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「ジョブ確認」を参照してください。

セカンダリーイーサネット（オプション）使用時の注意 / 制限

セカンダリーイーサネット（オプション）を使用したときの注意 / 制限事項は、次のとおりです。

- ［HTTP - SSL/TLS 通信］が有効かつ、Ethernet2 から FQDN で CentreWare Internet Services にアクセスすると、Web ブラウザーの例外登録ダイアログが表示される場合があります。
- ジョブログではEthernet1 と Ethernet2 を分けて記録しないため、どちらのネットワークから通信があったか識別できません。
- 消耗品の残量やメーター情報は Ethernet1 と Ethernet2 共に同じ情報を発信します。機器の利用状況の把握を弊社以外のソフトで行なう際は、機器情報の重複を避けるため、IP アドレスではなく、UUID 等のお使いの機器固有の情報を利用するようにしてください。
- ［LPD のプリント順序］を［プリント受け付け順］に設定した場合、Ethernet1 または Ethernet2 のどちらかを優先してプリントを受け付けることはできません。
- 同一　IP　アドレスを持つ異なるホストからの印刷指示や印刷ジョブの状態確認（lpq）、キャンセル（lprm）は、同一ホストからの要求として処理されます。
- Ethernet インターフェース回線が 2 回線のとき、Port9100 は 2 回線同時に通信できません。
- ［IPv6 - DNS 設定 ］の［DHCP からのアドレス取得］設定は、［TCP/IP 設定（Ethernet1）］のみ有効です。［TCP/IP 設定（Ethernet2）］の場合は、手動で DNS サーバーのアドレスを設定してください。

- CentreWare Internet Services の［プロパティ］タブ>［ネットワーク設定］>［プロトコル設定］>［TCP/IP］で、Ethernet1 と Ethernet2 の両方について［DNS の動的更新 ］を［する］に設定した場合、DNS の動的更新が失敗することがあります。DNS の動的更新機能を利用する場合は、Ethernet1 と Ethernet2 のどちらか一方のみ、［する］に設定してください。

Bonjour の注意 / 制限

Bonjour を使用したときの注意制限事項について説明します。

■ Bonjour を使用できる環境について

Bonjour は、MAC OS X 10.6、Mac OS X 10.7 Lion、OS X 10.8 Mountain Lion、OS X 10.9 Mavericks、OS X 10.10 Yosemite、OS X 10.11 El Capitan、macOS 10.12 Sierra のプリンターセットアップツール（Print Center、Printer Setup Utility）、または Safari を使用している Macintosh コンピューターで使用できます。また、Bonjour のディスカバリー機能は、同一のサブネット内でだけ有効です。

■ プリンター名について

- 設定されているプリンター名、またはホスト名を変更すると、指定したプリンターとは別のプリンターからプリントされることがあります。
- プリンター名やホスト名が同一ネットワーク上で重複している場合、片方の名前の最後に数字を付け加えるなどして、名前が重複しないように自動的に変更します。
- プリンター名やホスト名を変更する場合、文字数や使用する文字の種類の制限から、指定した名前と別の名前で登録されることがあります。プリンター名やホスト名は変更しないことをお勧めします。

IPv6 接続の注意 / 制限

IPv6 接続時の注意 / 制限事項は、次のとおりです。

- IPv6 での印刷は、次のバージョンの OS でだけ動作します。
  - Windows Vista
  - Windows 7
  - Windows 8
  - Windows 8.1
  - Windows 10
  - Windows Server 2008
  - Windows Server 2008 R2
  - Windows Server 2012
  - Windows Server 2012 R2
  - Windows Server 2016
  - Mac OS X 10.6、Mac OS X 10.7 Lion、OS X 10.8 Mountain Lion、OS X 10.9 Mavericks、OS X 10.10 Yosemite、OS X 10.11 El Capitan、macOS 10.12 Sierra
  - Common Unix Printing System が IPv6 対応で印刷可能な Linux distribution
- 以下の機能は、IPv6 に対応していません。IPv4 で運用してください。
  - UPnP Discovery
  - BMLinkS
  - FTP Server
- SMB の一部機能には対応していません。(NetBIOS 名を使ってサービスを利用しようとした場合に、通信できない環境があります。)

- 機械自体による IPv6 in IPv4 トンネル機能には対応していません。

注記
- 機械の［IP 動作モード］を［IPv6 モード］に設定した場合、IPv6 に未対応の上記サービスは起動されません。

- 同一サブネットに複数のルーターが存在する場合、通信に問題が発生する可能性があります。
- デュアルスタック環境では、DNS サーバーや複合機から利用するサーバーの運用状況により各種サービスを利用する上で、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。
- マルチプレフィックス環境（IPv6 グローバルアドレスを複数扱う環境）では、本機から外部ネットワークへの送信に失敗する可能性があります。
- マルチプレフィックス環境（IPv6 グローバルアドレスを複数扱う環境）では、登録されていないアドレスで通信されることがあります。
- 自動設定する IPv6 アドレス（IPv6 自動設定アドレス、IPv6 DNS サーバーアドレス）には、取得した IPv6 アドレスが運用上使用できないアドレスが設定されることがあります。

  運用上使用できない IPv6 アドレスとは、サイトローカルアドレス（fec0::）や文書作成用アドレス空間（2001:db8::/32）のアドレスのことです。
- IP 動作モードがデュアルスタックで、IPv4/IPv6 ともに DNS 情報が設定されていて、FQDN で指定されている装置と通信するとき、本機の起動直後には、IPv4 の DNS 情報が使用されることがあります。
- 本機の IP アドレスとして表示されるアドレスが変わることがあります。たとえば、デュアルスタックモードで IPv4 アドレスと IPv6 アドレスのどちらか一方が表示されない、IPv6 アドレスの内容が変わるなどです。
- IPv6 ネットワークを使用して印刷した場合、ペーパーセキュリティーが正しく動作しません。
- IPv6 環境では、時刻サーバーとの同期はできません。IPv4 環境で時刻サーバーにアドレスを直接指定してください。
- WINS は IPv6 ネットワークでは通信できません。
- SSL 通信に自己生成証明書を使用する場合、プリンター URL の指定方法に、次の制限事項があります。
  - FQDN で指定する場合（IPv4、IPv6 共通）
    自己証明書作成前に、デバイスのホスト名とドメイン名を正しく指定しておく必要があります。
    例：FQDN が csw.ipv6.domain.local の場合、ホスト名に csw、ドメイン名に ipv6.domain.local を指定する
  - IPv4 アドレスで指定する場合
    IPv4 モードまたはデュアルモードで作成した自己証明書をインポートしておく必要があります。
  - IPv6 アドレスで指定する場合
    Secure IPP（IPP-S）で通信ができません。
- 本機で「IPv6 有効」かつ「IPv4 無効」が設定されている場合、スキャナー（PC 保存）の SMB 転送のネットワーク参照機能による格納先指定が使用できません。
- スキャンの FTP 転送時のファイル名には ASCII だけが使用できます。
- 次のような場合、同一機器のアドレスとして判断できないことがあるため、ユーザーが LPD でプリント指示をした印刷ジョブの状態確認（lpq）やキャンセル（lprm）を実施できないことがあります。
  - 同一ホストで IPv4 と IPv6 を同時に動作させている場合

- 同一ホストで複数の IPv6 アドレスを同時に動作させている場合

- ジョブログにIPv6アドレスが正しく記載されないことがあります。IPv4で運用してください。
- SMB を使った検索でルーターを超える場合、宛先のアドレスを直接入力してください。マルチキャストに応答するのは、ローカルリンク内でのマルチキャスト（FF02::1）だけです。
- DNSサーバーが存在しないIPv6ネットワーク環境で、SMB認証のSMBサーバー設定にコンピューター名を指定すると認証に失敗します。認証サーバーのコンピューター名は、IPv6 アドレスを直接指定してください。
- DocuShare などの外部アクセスサービスで、接続先 URL に IPv6 アドレスを指定すると正しく動作しません。IPv6 環境では DNS サーバーを運用し、接続先 URL を FQDN で指定してください。

GS1-128（旧 UCC/EAN128）バーコード（コンビニバーコード）出力についての注意 / 制限

本機のプリンタードライバーから［バーコードモード］を［する］を選択してプリントした場合、または操作パネルや CentreWare Internet Services から、PostScript,ESC/P エミュレーションの論理プリンター設定で［バーコードモード］を有効にしてプリントした場合、GS1-128 バーコード出力に適した条件でプリントされます。ご使用にあたっては、以下の事項にご注意ください。

- バーコードの読み取り品質は、お客様の使用される環境、用紙、バーコード生成アプリケーションソフトウェア、バーコードリーダーの性能などにより、大きく左右されるため、本機が正常な状態で印字されたバーコードであっても、バーコードの読み取りが保証されるものではありません。
- 本機能をご使用になる場合、事前に弊社担当営業にお客様の使用環境の検証を依頼することをお勧めします。またバーコードの印字品質を維持するため、本機の定期的な検査をお勧めします。
- バーコードモードを選択している状態で、バーコード以外のデータや文字などをプリントした場合、通常のプリントモードで印字した場合と比べ、画質が劣る場合があります。
- バーコードの印字品質を保持するため、本機の印字スピードが通常より低下する場合があります。
- 適切なバーコードの印字品質を維持するため、早めにドラムカートリッジ / トナーカートリッジ交換することをお勧めします。
- 黒色以外で印字されたバーコードは、想定された印字品質を満たさないことがあります。バーコード生成アプリケーションソフトウェアなど、ご使用環境の設定の変更が必要になる場合がありますので、ご注意ください。

メールプリント機能使用上の注意 / 制限

■メールプリントについて

ハードディスクの空き領域が少ない状態でメールを受信すると、受信動作を中止してもエラーコードは表示されません。

電話のかけ方 / 取り方

ファクス機能が利用できる場合の電話のかけ方 / 取り方について説明します。

電話のかけ方

オプションの受話器（ハンドセット）を使って、電話をかける方法について説明します。

電話のかけ方には、次の 2 つの方法があります。

- 受話器を上げてダイヤルする（オフフックダイヤル）
- 受話器を置いたままダイヤルする（オンフックダイヤル）

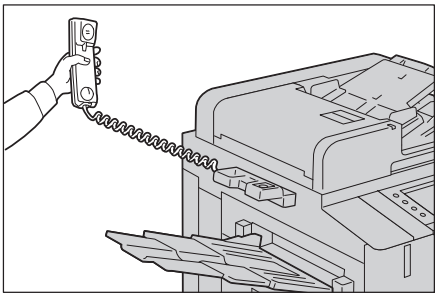
補足

- 受話器の代わりに、お手持ちの電話を使用できます。ただし、留守番電話の機能は使用できません。

オフフックダイヤル

受話器を上げてダイヤルする、オフフックダイヤルの方法について説明します。

1 受話器を上げます。
お手持ちの電話を使用している場合は、その受話器を上げます。



注記

- 節電中は、受話器を使って電話をかけられません。電話をかけるときは、〈節電〉ボタンを押して節電を解除してください。

2 宛先を指定します。

- 〈数字〉ボタン、短縮宛先番号、ワンタッチボタンなどで指定します。宛先表は使用できません。

- ［記　号］を押して表示されるキーボードも使用できます。



補足

- 操作を終了する場合は、［閉じる（操作終了）］を押します。
- 回線種別がプッシュ回線に設定されているときは、［トーン (:)］は表示されません。
- ダイヤル回線を使用している場合に、トーンを送出するとき（プッシュ回線用のサービスを受けるとき）は、［トーン (:)］を押します。
- サービスの種類によっては、トーン送出を設定しても、サービスが受けられないことがあります。

3 相手に電話がかかったら、通話します。

4 通話終了後、受話器を戻します。

注記

- 受話器はきちんと戻してください。きちんと戻さないと受話器が外れたまま「話し中」の状態が続きます。

5 ［閉じる（操作終了）］を押します。

オンフックダイヤル

受話器を置いたままダイヤルする、オンフックダイヤルの方法について説明します。

ラインモニターの音量は、お客様の聞き取りやすい大きさに設定してください。

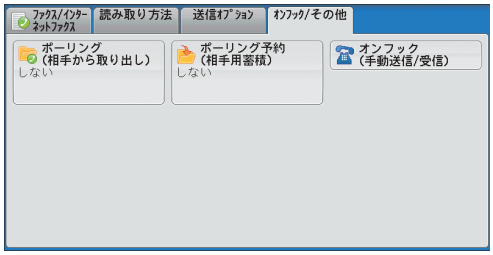
参照

- ラインモニターの音量は、仕様設定で変更できます。変更方法は、「ラインモニター音」(P.178)を参照してください。工場出荷時は、［小］に設定されています。

1 メニュー画面で［ファクス / インターネットファクス］を選択します。



2 ［オンフック / その他］タブを選択し、［オンフック (手動送信 / 受信)］を押します。



3 宛先を指定します。

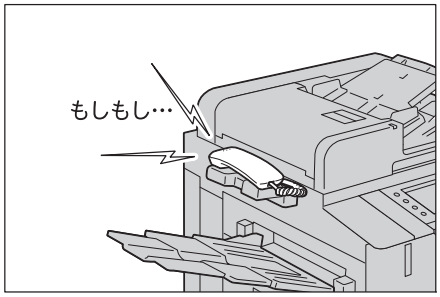
- 〈数字〉ボタン、短縮宛先番号、ワンタッチボタンなどで指定します。宛先表は使用できません。
- ［記　号］を押して表示されるキーボードも使用できます。



補足

- 操作を終了する場合は、［終了（回線切断)］を押します。
- 回線種別がプッシュ回線に設定されているときは、［トーン (:)］は表示されません。
- ダイヤル回線を使用している場合に、トーンを送出するとき（プッシュ回線用のサービスを受けるとき）は、［トーン (:)］を押します。
- サービスの種類によっては、トーン送出を設定しても、サービスが受けられないことがあります。

4 相手に電話がかかったら受話器を上げ、通話します。



5 通話終了後、受話器を戻します。

注記

- 受話器はきちんと戻してください。きちんと戻さないと受話器が外れたまま「話し中」の状態が続きます。

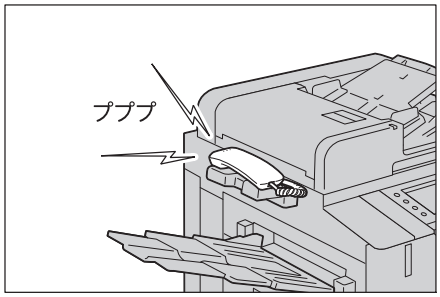
電話の取り方

オプションの受話器（ハンドセット）を使って電話を受ける方法について説明します。

補足

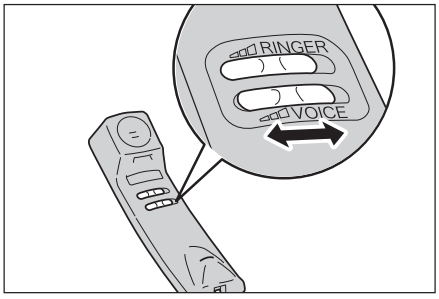
- 工場出荷時は、着信後すぐにファクスに切り替わるように設定されているため、電話の着信ベルが鳴りません。呼び出し音を鳴らす時間（ファクス切り替え時間）は、仕様設定で変更できます。変更方法は、「ファクス自動受信時の受信方式」(P.298）を参照してください。工場出荷時は、［指定時間後に受信］の時間が［0 秒］に設定されています。また、受話器の有無に関係なく、［指定時間後に受信］で呼び出し音が鳴るように設定できます。呼び出し音を鳴らす設定にすると、設定した時間の間、着信ベルが鳴るので、電話を取ることができます。

1 呼び出し音が鳴ったら受話器を上げ、通話をします。



補足

- 受話器から「ポー、ポー、ポー」などの発信音が聞こえた場合は、手動で受信してください。手動受信方法は、「ファクス受信モード」(P.153) を参照してください。



補足

- 受話器から聞こえる音量は、受話器の内側にある VOICE スイッチで調整します。

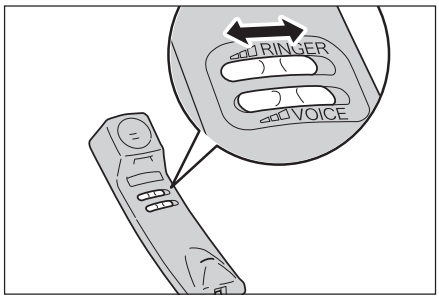
2 通話終了後、受話器を戻します。

注記

- 受話器はきちんと戻してください。きちんと戻さないと受話器が外れたまま「話し中」の状態が続きます。

呼び出しベル音量の調整

1 受話器の呼び出しベル音量は、受話器の内側にある RINGER スイッチで調整します。



通信管理レポート

通信管理レポートとは、送受信が正常に終了したかどうかを確認するためのレポートです。相手局名や通信結果 / 状態が発信と着信に分けて記録されます。

補足

- 通信管理レポートの着信時の相手先には、「ナンバー・ディスプレイ」で通知される番号を表示させることはできません。
- ApeosWare Management Suite（別売）を使用すると、通信管理レポートの内容をコンピューターに取り込めます。ApeosWare Management Suite については、ソフトウエアに付属のマニュアルを参照してください。

参照

- 通信管理レポートのプリント方法は、「レポート / リストの出力」（P.135）を参照してください。

項目	内容
No	発信、着信の連番がそれぞれ記録されます。
文書番号	通信を受け付けたときに、自動的に付けられる文書の番号が記録されます。
相手	通信した相手の情報が次の優先順位で記録されます。 • 発信時（短縮宛先使用時） ①宛先名 ②相手局名 ③ G3ID（スペース含む） ④電話番号 ⑤通信モード「ECM（または G3、SG3）」 IP ファクス（SIP）の場合 ④ SIP アドレス ⑤通信モード「IP Fax」、「IP Fax-ECM」、「IP Fax-SG3」 • 発信時（フルダイヤル使用時） ①相手局名 ② G3ID（スペース含む） ③電話番号 ④通信モード「ECM（または G3、SG3）」 IP ファクス（SIP）の場合 ③ SIP アドレス ④通信モード「IP Fax」、「IP Fax-ECM」、「IP Fax-SG3」 • 着信時 ①相手局名 ② G3ID（スペース含む） ③通信モード「ECM（または G3、SG3）」 IP ファクス（SIP）の場合 ③通信モード「IP Fax」、「IP Fax-ECM」、「IP Fax-SG3」
開始時刻	通信が開始された時刻が記録されます。 一括送信は、各文書の送信開始時刻が記録されます。
所要時間	通信が開始されてから終了するまでに要した時間、一括送信の場合は各文書の時間が記録されます。

項目	内容
ページ数	0 の場合は「-」で記録されます。 • 送信時 「/」より左は正常に送信完了した枚数、右は読み取った総ページ数が記録されます。手動送信の場合、総ページ数は記録されません。 • 受信 / ポーリング時 通信完了枚数だけが記録されます。 **補足** • 相手側の送信状況や、本機の設定によっては、［ページ数］が実際の出力枚数と異なることがあります。
モード	通信したときのモードが記録されます。 G3、ECM、SG3（Super G3）（左記以外の通信モードの場合表示されません。） IP ファクス（SIP）の場合 「IP Fax」または「IP Fax-ECM」
通信内容	以下の優先順位で通信の内容が記録されます。内容は重複して記録される場合もあります。 • 発信時 ①リモートサービス　②再送信　③親展 XXX ④同報 / 集信　⑤ポーリング　⑥中継同報指示 ⑦ファクス転送 ボックス XXX IP ファクス（SIP）の場合 • 発信時 ①再送信　②親展 XXX　③同報 / 集信　④ポーリング • 着信時 ①親展 XXX　②ポーリング　③ダイヤルイン ボックス XXX ④発信ファクス番号 ボックス XXX ⑤受信ライン ボックス XXX　⑥リモートメンテナンス IP ファクス（SIP）の場合 • 着信時 ①親展 XXX　②ポーリング　③受信ライン ボックス XXX XXX は、親展ボックス番号です。
通信結果	通信結果の内容が記録されます。 良好　：正常終了したもの 話中　：相手先が話し中で通信ができない、または応答がなかったもの 自動再送　：再送扱いになっていて再送回数を超えていないもの 中断　：通信を中止したもの 要相手確認　：通信中に相手方または回線網が原因と考えられるエラーが発生したもの 要再送信　：送信時のエラーにより、自動再送回数を超えているため、再度送信が必要なもの 要再受信　：ポーリング受信時のエラーにより、再度ポーリングの指示が必要なものまたは、受信中のエラーにより、相手側からの再送信を依頼する必要があるもの 要ケーブル確認　：回線が正しく接続されているか確認してください。 IP ファクス（SIP）の場合は、ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認してください。 XXX-XXX　：エラーコード

項目	内容
	参照 • 回線については『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「機械の構成」>「各部の名称と働き」>「電話回線接続部」を参照してください。 • XXX-XXX（エラーコード）については「エラーコード」(P.564) を参照してください。 • ネットワークケーブルの接続については、「Ethernet インターフェイスでの接続」(P.25) を参照してください。
合計ページ数	送受信の総ページ数が記録されます。

保守サービスについて

本機を安心してお使いいただくために、トータルサービス契約とスポット保守サービス方式の 2 種類の保守サービス方式があります。

トータルサービス契約

ドラムカートリッジ、トナーカートリッジなどの消耗品および保守サービス料金が含まれている保守サービス契約です。ただし、用紙代・ホチキス針代は含まれておりません。トータルサービス契約の有効期間は 5 年間です。

機械の修理と点検

機械が故障した場合は、お客様のご要請により当社技術員が訪問し修理をいたします。また、必要に応じて故障箇所以外の点検・調整を実施いたします。

トナーカートリッジなどの配送

機械をいつも正常な状態でご使用いただくために必要な、トナーカートリッジなどをお届けいたします。(用紙は除く)

部品の交換

修理や点検で、部品の交換が必要な場合には、これを交換いたします。

スポット保守サービス方式

お客様のご要請の都度、当社営業時間内に保守サービスを有料でお引き受けする方式です。ドラムカートリッジ、トナーカートリッジなどの消耗品は、機械本体とは別にお買い上げいただきます。

補修用性能部品の保有期間について

弊社は本製品の補修用性能部品(機械の機能を維持するために必要な部品)を機械本体の製造終了後 7 年間保有しています。

EP システムについて

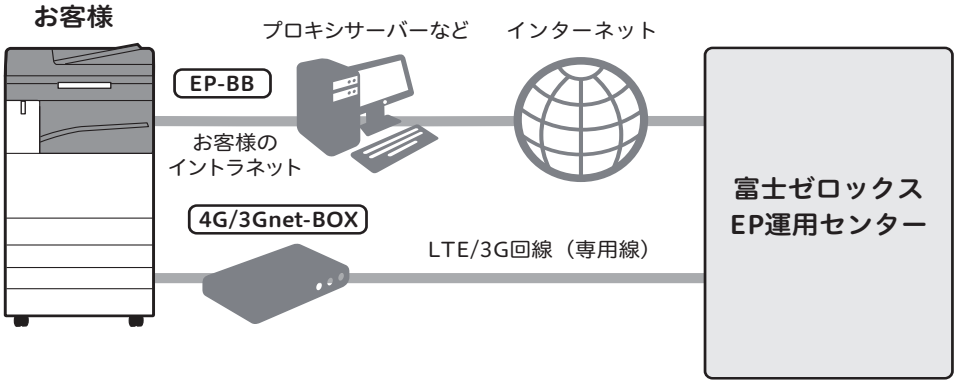
EP（エレクトロニック・パートナーシップ）とは、本機と弊社の EP 運用センターを結ぶことで、機械の管理業務を自動化するシステムです。

公衆回線を使用する場合と、インターネットを使用する場合があります。

本機で EP システムを使用する場合の操作について説明しています。

補足

- EP システムのサービスは、機械の電源が切られている状態ではご利用できません。
- EP システムは、一部の地域でご利用できない場合があります。適用については、担当の営業、または販売店にお問い合わせください。



EP システムで利用できるサービスは、次のとおりです。

メーターカウントの自動検針

毎月、設定した日時に、メーターのカウントを機械が自動的に弊社に通知します。この締め時カウントは、メーター確認ボタンを押すとディスプレイで確認できます。

補足

- ［締め時カウント］を表示するには、カストマーエンジニアの設定が必要です。詳しくは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

機械の点検 / 修理依頼

機械の点検や修理が必要になった場合、点検 / 修理の依頼を行うと、機械から弊社のカストマーコンタクトセンターに点検 / 修理依頼の連絡をします。連絡を受けると、必要に応じてカストマーエンジニアが訪問します。この操作は、機械を管理する機械担当者が行ってください。

機械異常時の自動通報

機械に異常が発生した場合、機械は自己診断をして、自動的に弊社のカストマーコンタクトセンターに異常発生の通報をします。

通報を受けると、カストマーエンジニアが訪問します。

機械消耗品の適時配送

トナーカートリッジなど、機械消耗品の使用数量を弊社に通知します。お客様の使用実績に基づき、機械消耗品を配送します。

各種設定のリモート変更

機械の各種設定を、ご要望に応じて弊社からリモートで変更できます。設定内容の詳細については、弊社のカストマーコンタクトセンターにお問い合わせください。

ソフトウェアの更新

本機のソフトウェアのバージョンアップが必要になったときは、お客様ご自身の操作で、新しいソフトウェアをダウンロードして、ソフトウェアバージョンアップを行うことができます。

補足

- 3Gnet-BOX 経由では、この機能は利用できません。

参照

- ソフトウェアバージョンアップについては、「ソフトウェアバージョンアップ」(P.194) を参照してください。

索引

記号・英数

1300Hz 無鳴動受信 302
1 通ごとのデータサイズ上限 312
2 色カラー - 抽出色の指定 231
2 色カラー - 抽出部外のコピー色 231
2 色カラー - 抽出部のコピー色 231
8.5 × 11” 原稿の A4 縮小 300
Account ID の代替表記 363
Account ID の入力表示 364
ART EX フォーム登録リスト 139
ART EX フォームメモリー 275
ART IV ユーザー定義用メモリー 276
ART IV, ESC/P, 201H フォームメモリー 276
ART IV, ESC/P ユーザー定義リスト 140
BMLinkS 244
BMLinkS 機能の設定 21, 435
BMLinkS 設定 330
BMLinkS ネットワーク保存 415
BMLinkS の設定 437
BMLinkS プリント 436
Bonjour 242
Bonjour の注意 / 制限 935
CentreWare Internet Services を使用したときのトラブル 555
CentreWare Internet Services の設定 381
CentreWare Internet Services を起動する 384
CentreWare Internet Services を使うための設置 382
Cookie の使用 328
DocuWorks ダイレクトプリントを使用するには 852
DocuWorks プリント設定リスト 140
EP システムについて 947
EP 診断 / 修理依頼 193
EP 通信確認 193
EP プロキシサーバー設定 254
ESC/P 設定リスト 139
ESC/P エミュレーションを使用するには 834
ESC/P メモリー登録リスト 139
Ethernet インターフェイスでの接続 25
Ethernet 設定 247
FTP 転送 1、FTP 転送 2 342
FTP クライアント 243
FTP 時のユーザー名 288
F コード通信 353
G3-ID の送出 -IP ファクス（SIP） 297
G3-ID の送出 - ファクス 297
Google クラウドプリント登録 278
GS1-128（旧 UCC/EAN128）バーコード（コンビニバーコード）出力についての注意 / 制限 937
GS1-128 バーコードサンプル 147
HDD の上書き消去 149
HP-GL/2 エミュレーションを使用するには 878
HP-GL/2 オートレイアウト用メモリー 276
HP-GL/2 設定リスト 140
HP-GL/2 パレットリスト 140
HP-GL/2 メモリー登録リスト 140
HTTPS プロキシサーバー - サーバー名 254, 255
HTTPS プロキシサーバー - 認証 254, 255
HTTPS プロキシサーバー - パスワード 254, 255
HTTPS プロキシサーバー - ポート番号 254, 255
HTTPS プロキシサーバー - ログイン名 254, 255
HTTP の通信を暗号化するための設定 469
HTTP プロキシサーバー - サーバー名 253, 255
HTTP プロキシサーバー - 認証 254, 255
HTTP プロキシサーバー - パスワード 254, 255
HTTP プロキシサーバー - ポート番号 254, 255
HTTP プロキシサーバー - ログイン名 254, 255
IC カード利用時の認証 / 解除 511
IC カード情報の確認 194
IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定 506
ID 印字 280
ID カードコピー選択時の倍率 237
IEEE802.1x 設定 272
IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2） 260
IP ファクス（SIP）の設定 439
IPP 242
IPsec 設定 271
IPsec を使用して暗号化するための設定 473
IPv4 に接続できないとき 558
IPv4 または IPv6 接続のトラブル 558
IPv6 でスキャンできないとき 559
IPv6 でプリントできないとき 559
IPv6 に接続できないとき 559

IP アドレス 133
IP ファクス（SIP）送信 339
Kerberos サーバー設定 262
LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定 ..263
LPD 241
LPD のプリント順序 283
Microsoft Office 形式設定 288
NGN を利用するための設定 449
OCR フォントのグリフ（0x5C）.....283
PC 保存機能設定初期値 288
PCL エミュレーションを使用するには 871
PCL 設定リスト 139
PCL フォントリスト 140
PCL マクロ登録リスト 139
PC-PR201H 設定リスト 140
PC-PR201H エミュレーションを使用するには 854
PC-PR201H メモリー登録リスト 140
PC 保存初期表示画面 284
PDF 署名 /DocuWorks 署名 /XPS 署名をするための設定（ApeosPort シリーズのみ）.....482
PDF/DocuWorks/XPS の署名設定 270
PDF 設定リスト 139
PDF ダイレクトプリントを使用するには 850
PDF の Web 表示用最適化 285
Ping 接続確認 252
POP3 サーバー設定 260
Port 9100 242
PostScript 使用メモリー 275
PostScript の用紙選択 282
PostScript のカラーモード初期値 281
PostScript 論理プリンター登録リスト 139
PostScript のフォント置き換え 282
PostScript フォントリスト 140
PS フォント未搭載時の処理 282
RTP 受信ポート番号 260
S/MIME 設定 269
S/MIME 用証明書 349
SIP 243
SIP サーバーアドレス取得方法 257
SIP サーバーの使用 257
SIP 設定 256
SIP トランスポートプロトコル設定 256
SIP プロキシサーバー設定 257
SIP 本体アドレス 256
SIP レジストラサーバー設定 258
Smart WelcomEyes 175
Smart WelcomEyes を無効にする 30
SMB 転送 1、SMB 転送 2 343
SMB クライアント 241
SMB サーバー設定 267
SMTP サーバー設定 261
SNMP 242
SOAP 245
SSL/TLS 設定 268
SSL 証明書検証失敗時の動作 328
T.38 設定 259
T.38 トランスポートプロトコル設定 259
TCP/IP - 共通設定 248
TCP/IP（LPD/Port9100）での設置 395
TCP/IP の注意 / 制限 933
TCP 受信ポート番号 260
ThinPrint 246
TIFF/JPEG 設定リスト 139
TIFF/JPEG 論理プリンター登録リスト 139
TIFF の形式 290
TLS1.0 の使用 328
UDPTL 受信ポート番号 259
UPnP ディスカバリー 243
URL 送信の URL 生成方法 292
URL 送信の件名 287
URL 送信の最大蓄積サイズ 292
URL 送信の文書保存期間 291
USB 240
USB インターフェイスでの接続 24
USB での設置 393
USB メモリー検出時の画面表示 180
User ID 358
User ID 認証 491
User ID の代替表記 363
User ID の入力表示 363
UUID 印字 204
VoIP ゲートウェイ登録 259
VoIP ゲートウェイ登録リスト 142
WebDAV 246
Web ブラウザー設定 328
WSD 244
XPS PrintTicket 処理 282

ア

合紙挿入 - 合紙用トレイ 235

アクセス制御 368
アクセス制限 / パスワード 333
アップダウンボタンの操作 181
宛先（ファクス番号）..... 351
宛先（メールアドレス）..... 348
宛先確認 - ファクス / インターネットファクス 180
宛先確認ボタン - ファクス / インターネット ... 180
宛先確認ボタン - メール 180
宛先確認 - メール 180
宛先グループ 143
宛先グループ登録 355
宛先指示方法の制限 227
宛先種別 348
宛先の再入力 296
宛先表検索の初期表示 314
宛先表設定 314
宛先表タイプ 314
宛先表登録（短縮宛先登録）..... 346
宛先表登録 / 変更の制限 228
宛先表によるファクス転送制限 309
宛先表の初期表示 - スキャナー 314
宛先表の初期表示 - ファクス 314
宛先名 348
アノテーション - スタンプ - 色 234
アノテーション - スタンプ - 大きさ 234
アノテーション - スタンプ - 種類 234
アノテーションスタンプ登録 239
アノテーション - スタンプの透過度 237
アノテーション - 日付 - 大きさ 235
アノテーション - ページ - 大きさ 235
アノテーション - ページ - 種類 235
誤った User ID を付けたプライベート
プリントのジョブを削除する 128
アライメント調整用チャートのプリント 795
アライメント調整の設定 194
暗号化と署名機能の概要 464
暗号化と署名機能の設定 463

イ

異サイズ原稿の裏面コピー 236
異常警告音 177
異常終了音 177
異常終了後のプリント処理 280
異常入力音 176
イメージログ管理 204, 206
イメージログ作成 206
イメージログ作成対象 206
イメージログ転送 207
色合い 232
色空間 286
色空間機能の表示 290
印刷の色 198
印刷の濃度 198
印字位置 204
印字位置の微調整 204
印字する日付の形式 197
インターネット / イントラネット接続の
注意 / 制限 927
インターネット / イントラネット接続の
トラブル 556
インターネット印刷（IPP）での設置 399
インターネットサービス（HTTP）..... 245
インターネットファクス 404
インターネットファクス受信文書転送 -2 316
インターネットファクス受信文書転送 -1 316
インターネットファクス送信 340
インターネットファクス動作制御 307
インターネットファクスの暗号化 295
インターネットファクスの概要 456
インターネットファクスの件名 295
インターネットファクスの設定 455
インターネットファクスプロファイル 295, 354
インターフェイスケーブルの接続 24

ウ

うら表紙トレイ -1 ～ 3 段目 230
裏写り防止 286
裏写り防止レベル 290
うら面の印字位置 204
上書き回数の設定 379

エ

エラー履歴レポート 136
エラーコード 564
エラー情報 154
エラー通知メールの自動プリント 311

オ

音の設定 176
オプション製品一覧 788
オフセット排出（センタートレイ） 209
オフセット排出（センタートレイ下段） 208
オフセット排出（センタートレイ上段） 208
オフセット排出（フィニッシャートレイ） 208
おもて表紙トレイ -1 ～ 3 段目 230
折り目あり分割製本のオフセット 209
オンデマンド印刷の有効時間 174

カ

カード認証 491
カード番号 360
回線 1 ～ 3 G3 回線種別 307
回線 1 ～ 3 発信元名 306
回線 1 ～ 3 G3 ID（ファクス番号） 307
回線 1 ～ 3 G3 ダイヤル種別 307
回線 1 ～ 3 付加サービス 300
回線 SIP G3 ID 307
回線 SIP 発信元名 307
回線 SIP 付加サービス 300
外部アクセス設定 323
外部アクセスバージョンの選択 328
開封確認 (MDN) 機能の使用 312
開封確認 (MDN) 要求への応答 312
外部取り出し後の文書削除 315
外部認証 491
外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定 262
カウンタ表示切り替え 238
課金情報 - 昼間料金、課金情報 - 夜間料金、課金情報 - 深夜料金 354
課金データリスト 143
各機能の集計 362
隠し印刷初期値 197
拡張機能設定リスト 141, 142
画質 / ファイルサイズ 287
画質の設定 188
画質の設定 / 色・カラーレジの補正 188
画質のトラブル 522
カストマーエンジニアの操作制限 226
紙折り位置の調整 816
紙折りユニット CD1 での紙づまり 730
紙づまり発生時のプリント処理 280
画面 / ボタンの設定 178
画面輝度調整 179
画面の明るさを調整する 45
カラー文書ファクス転送時の解像度 318
カラーモード 230, 285
カラーモード（らくらくコピー） 230
カラーモード自動時の印刷動作 227
カラーレジ補正 190
管理の権限 488
管理の権限と権限グループについて 488

キ

キーボード入力制限 181
機械確認 131
機械管理者 488
機械管理者 ID 366
機械管理者情報の設定 366
機械管理者のコピー集計確認 362
機械管理者パスワード 367
機械管理の権限 488
機械管理ユーザーの認証失敗アクセス拒否 373
機械起動時のプログラム診断 194
［機械構成］画面 134
機械状態 / レポート出力 133
機械情報 133
機械本体のトラブル 515
奇数ページ文書の両面処理 209
基点音 176
機能コード 329
機能設定リスト（共通項目）. 137, 139, 141, 142
機能別カウンターのリセット 159
機能別カウンターレポート 144
機能ボタン / 補助機能ボタンの配列を変更する 38
基本画面の表示機能 284, 293
基本コピー画面の表示機能 229
キャッシュの使用 328
強制アノテーション 202
強制印字の一時解除 378
強制複製管理 - クライアントプリント 198
強制複製管理 - コピー 198
強制複製管理 - ボックスプリント 199
強制複製管理 - メディアプリント 199
強制ペーパーセキュリティー 200
共通設定 171

共有名（SMB のみ） 350

ク

組み込みプラグイン一覧 208
組み込みプラグイン機能 208

ケ

ゲストの送信者アドレス 313
権限グループ 489
権限グループ登録 370
権限グループの追加 505
原稿送り装置による調整用チャートの読み込み 797
原稿送り装置の静音制御 227
原稿送り装置のローラー部の清掃 118
原稿ガイド位置の確認 227
原稿が詰まった場合 735
原稿カバー、原稿ガラスの清掃 114
原稿ガラスによる調整用チャートの読み込み 798
原稿サイズボタン 238
原稿セット向き指定 233, 286
原稿通過スタンプ 294
原稿の画質 231, 285, 294
原稿の画質 - うす紙原稿 237
原稿の画質 - 自動（白黒） 231
原稿の画質 - 自動（白黒以外） 231
検索キーワード 339
検索時間の上限 330
検索パケット有効期限（TTL） 330

コ

合計データサイズ上限 313
固定倍率ボタン 238, 289, 305
コピー位置 - うら面 233
コピー位置 - おもて面 233
コピー機能設定初期値 230
コピー設定 137, 229
コピーできない 529
コピー動作制御 235
コピー濃度 231
コピーのトラブル 529
コピー部数の制限 238
コメント登録 356
コメント登録リスト 143
コントラスト 231, 286

サ

サーバー証明書の検証を行う場合の設定 323
サーバー名 /IP アドレス 350
サービス起動待ち時間の上限 331
サービスの利用制限 358
サイズ検知切り替え 210
最大蓄積サイズ 352
最大蓄積ページ数 236, 290, 302
彩度 232, 290
サイドトレイでの紙づまり 706
再入力時のグループ宛先指示 296
再入力時の短縮指示 296
再入力時の同報指示 296
索引文字 348
サマータイム 173
サムネール - PC 保存 285
サムネール - メール送信 285
左右わく消し量 286, 300
サンプルコピー 234
サンプルリストの出力 199

シ

地色除去 232, 286
地色除去レベル 290
地色除去レベル（文字） 237
地色除去レベル（文字 / 写真） 237
自局情報 306
自局名 306
時刻 171
時刻サーバー（NTP）と同期 172
時刻サーバーアドレス 172
時刻サーバーの接続間隔 172
時刻指定 352
システム時計 / タイマー設定 171
システムのバージョン情報 133
次世代ネットワーク（NGN）接続 256
次世代ネットワーク（NGN）設定 255
次世代ネットワーク（NGN）を利用する 448
実行完了画面のジョブ表示 179
実行完了ジョブの表示設定 378

実行中 / 実行待ちのジョブ数について 902
実行中 / 待ちジョブの表示設定 378
指定可能な最大送信先数 311
自動解除時のトレイ 236
自動階調補正 190
自動階調補正を行う 120
自動回転送信 297
自動画像回転 233
自動画像回転 - 回転方向 233
自動縮小受信 299
自動的にプリントするレポート / リストについて 147
自動トレイ選択について 58
自動トレイ動作制御 186
自動プリント後の節電モード移行 175
自動リセット 172
自動リセット後の画面 178
自動リセット後の画面を変更する 36
自動リセット事前通知音 177
シャープネス 231, 286
写真画質の擬似階調方式 300
集計管理 357
集計管理機能について 492
集計管理機能の運用 362
集計管理情報の設定 363
集計管理するための設定 508
集計管理の権限 489
集信レポート 148
終了時の永続 Cookie 削除 328
終了時のキャッシュ削除 328
受信回線別排出先 305
受信回線別ボックスセレクター 301, 304
受信紙宣言 299
受信時の PJL 命令制御 374
受信制御 375
受信制限番号 302
受信パスワード 306
受信バッファ -IPP 277
受信バッファ - LPD 276
受信バッファ - Port9100 277
受信バッファ - USB 276
受信文書の排出先 309
受信文書の保存先 / 排出先 303
受信メールシートのプリント 309, 311
出力イメージの自動位置調整（自動アライメント調整）.....795
出力イメージの自動濃度調整（自動面内ムラ調整）.....808
出力イメージの手動位置調整（手動アライメント調整）.....801
出力イメージの手動濃度調整（手動面内ムラ調整）.....811
出力イメージの濃度調整（プリントヘッド縦ムラ調整）.....814
出力サイズボタン 289
出力時の PJL 命令制御 374
出力ファイル形式 285
手動送受信初期値 298
手動リダイヤル宛先保存数 297
手動リダイヤル対象宛先 297
取得失敗時の送信者アドレス 313
取得失敗時のメール送信制限 313
取得成功時の送信者アドレス 313
準備完了音 176
準標準紙 55
上下わく消し量 286, 300
仕様設定 161
使用できない用紙 56
使用できる用紙の種類 55
証明書失効確認の設定 273
証明書の一括削除 / 初期化 196
証明書の種類 464
証明書の状態 465
消耗品 / 定期交換部品の取り扱いについて 81
消耗品確認 155
消耗品情報画面の表示 181
消耗品の状態確認 81
消耗品を交換する 80
初期設定項目 196
初期表示画面 178
初期表示画面を変更する 35
初期表示言語 179
ジョブ一時停止後の処理 228
ジョブ自動解除 172
ジョブ確認 / 通信管理レポート 136
ジョブ終了時のメール通知設定 207
ジョブ操作の設定 378
ジョブチケット用メモリー 276
ジョブの終了通知 404
ジョブフロー設定 317
ジョブフローエラーレポート 148, 192
ジョブフロー検索キーワード登録 345

ジョブフロースキャン 415
ジョブフローと親展ボックスの認証 498
ジョブフロー登録 335
ジョブフローの関連付け 334
ジョブフローの新規作成 338
ジョブフローの設定 428
ジョブメモリー登録 335
ジョブメモリー登録音 177
ジョブメモリー呼び出し完了音 177
ジョブ履歴レポート 136, 191
シリアル番号 133
仕分け 234
仕分け - 仕切り合紙用トレイ 234
親展受信情報の表示優先順 1 ～ 5 302
親展受信レポート 148, 191
親展通信 352
親展ボックス登録リスト 144
親展ボックス文書の初期表示 315

ス

スキャナー（PC 保存 ） 414
スキャナー（PC 保存 ）の設定 418
スキャナー（URL 送信） 404, 415
スキャナー（URL 送信 ）の設定 430
スキャナー（USB メモリー保存 ） 414
スキャナー（USB メモリー保存 ）の設定 427
スキャナー（WSD） 415
スキャナー（WSD）の設定 432
スキャナー (ボックス保存 ） 414
スキャナー (ボックス保存 ）の設定 416
スキャナー（マイフォルダ保存） 414
スキャナー（マイフォルダ保存）の設定 421
スキャナー（メール送信） 404
スキャナー (メール送信 ） 414
スキャナー画面表示設定 284
スキャナー機能設定初期値 285
スキャナー設定 140, 284
スキャナーのトラブル 547
スキャン文書の暗号化と署名機能 468
スキャン文書をコンピューターに取り込めない 548
スキャン文書をネットワーク転送（FTP/SMB）できない 549
スキャン機能の設定 413
スタンプを交換する（自動両面原稿送り装置 B1-PC の場合） 107
スタンプを交換する（自動両面原稿送り装置 C1-PC の場合） 108
すべての登録内容を削除 360
スポット保守サービス方式 946
スリープモードの設定 176

セ

姓 349
正常終了音 1、2 177
正常入力音 176
製本 - 表紙トレイ 235
セカンダリーイーサネット（オプション）使用時の注意 / 制限 934
セキュリティ警告 - 機械管理者設定 182
セキュリティ警告 - グローバル IP アドレス 183
セキュリティ設定 268
接続先の登録 325
設定復元ツール 129
節電解除の制御 175
節電機能について 28
節電モード移行時間 174
節電モード移行時間を変更する 28
節電モードの設定 174
全機能の集計管理レポート 361
全文書選択時のプリント順 322
全ユーザーの機能制限 361
全ユーザーの権限グループ 361
全ユーザーの集計管理データ 361
全ユーザーの上限ページ数 361
全ユーザーの登録内容 361

ソ

操作パネルからのユーザー認証 / 解除 510
操作パネルで表示できる漢字一覧 781
操作パネルの設定変更について 35
送受信ドメイン制限リスト 141, 142
送受信ドメインの制限 274
送信画質 294, 351
送信経路 307
送信シート 351
送信中画面表示 293
送信濃度 294
送達確認方式 309

送達確認メールの自動プリント 312
その他の設定 208
ソフトウェアオプションの設定 193
ソフトウェアダウンロード 227
ソフトウェアバージョンアップ 194
［ソフトウェアバージョン］画面 135

タ

タイムゾーン 173
ダイレクトファクスの使用 302
タッチパネルの清掃 113
タッチパネルの使い方 46
タップ / ダブルタップ 48
ダブルタップの間隔 182
暖機モード動作 174
暖機モード動作を設定する 32
短縮番号入力の自動確定 228
単色カラー - 色指定 231
タンデムトレイモジュール内での紙づまり 713

チ

チェーンダイヤル 297
蓄積時の暗証番号最小桁数 321
蓄積プリント文書の保存設定 320
蓄積文書リスト 137
中継同報 353

ツ

通信インターバル 298
通信開始時刻 295
通信管理レポート 137, 191, 943
通信管理レポート - 相手表示 192
通信管理レポート - カード番号 192
通信の暗号化機能 466
通信モード 295, 351
通知対象ジョブ 207

テ

データの暗号化 224
データの一括削除 193
データランプの点灯パターン 228
定形化時のサイズしきい値 315
ディレクトリサービス 314
デジカメプリント - 用紙トレイ 1 ～ 5 段目 319
デジカメプリントのトラブル 562
デジタルコードの設定 200
デバイス利用許可 358
デフォルト権限グループの変更 504
点検 / 修理依頼 192
電源の自動制御 175
転写出力調整 196, 828
点筋の画像診断 196
転送プロトコル 288, 350
転送モニターレポート 192
電話のかけ方 / 取り方 938
電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター ..301, 303

ト

トータルサービス契約 946
同一宛先一括送信 298
等倍微調整 236
同報 / 集信レポート 191
同報切り替えボタンの表示 297
同報時の通信モード 308
同報時のプロファイル 308
同報レポート 148
登録 / 変更画面からのトレイ設定変更 184
登録 1 ～ 3 ボタン 178
登録宛先リスト 141, 143
登録色 238
登録内容の削除 / 集計リセット 361, 370
〈登録〉ボタンに機能を割り当てる 43
登録ユーザーの認証 510
トナー回収ボトル［R5］を交換する 84
トナーカートリッジを交換する 82
トナー残量警告音 177
ドメイン名 253
ドラッグ 46
トラブル対処 513
トラブルと思ったら 514
ドラムカートリッジ［R1］［R2］［R3］［R4］
を交換する（スポット保守のお客様のみ）..... 87
取消し文書の未送信レポート 191
取り出し時の画質 / ファイルサイズ 316
トレイ 5（手差し）定形サイズボタン 185
トレイセット時の用紙変更画面表示 184

ナ

名 349
内線 / 外線 351
内線設定 296
内蔵フォント 786
面内ムラ調整 195
内容確認（変更 / 削除） 345
中消し量 287
中とじホチキスカートリッジの針づまり
（中とじフィニッシャー C3 装着時） 747
中とじホチキスカートリッジを交換する
（フィニッシャー B1 中とじユニット装着時） 99
中とじ用ホチキス針を交換する
（中とじフィニッシャー C3 装着時） 101
名前 253

ニ

日常の管理 79
入力情報の照合 363
認証 / セキュリティ設定 366
認証 / プライベートプリントの設定 374
認証画面の自動表示 178
認証機能を使ったサービスの利用制限 496
認証サーバーによる集計管理 492
認証システムの設定 262
認証時の集計情報表示 364
認証情報送信時の確認画面 327
認証情報の設定 371
認証するための設定 501
認証と集計管理機能について 487
認証の設定 367, 501
認証方式の設定 367
認証方法 491
認証未登録ユーザー 488
認証ユーザー 488
認証ユーザー名の記載（PDF） 292
認証ユーザー名へのドメイン付加 273

ネ

ネット集計管理 362, 492
ネットワーク保存 436
ネットワーク設定 240
ネットワークのトラブル 553
ネットワークプリンターとして使用する場合 .. 390
ネットワークプロトコルレポート出力 252

ハ

ハードディスク初期化 193
ハードディスクの上書き消去設定 379
背景パターン 198
排出先 234
排出先（らくらくコピー） 234
配送 / 開封確認 295
倍率選択 230
倍率ボタン -2 ～ 5 段目 285
倍率ボタン -3、4 段目 230
倍率ボタン -3 ～ 5 段目 293
白紙スキップ 295
白紙スキップ機能 302
パスワードの変更 511
パスワードの運用 373
発信者 ID 256
発信者 ID 通知 256
発信元記録 295
発信元名 306
バナーシート出力 281
バナーシートトレイ 281
バナーシートのオフセット出力 281
パンチダストボックスの切りくずを捨てる
（フィニッシャー B1 装着時） 104
パンチダストボックスのパンチくずを捨てる
（フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー
C3 装着時） 105

ヒ

非通知番号の受信制限 302
日付 171
非定形文書転送時の定形化 315
秘密情報の暗号化キー 226
表示開始番号 - ファクス 314
表示するジョブフローの初期値 317
表示するファイルの種類 330
表紙付け - おもて表紙トレイ、表紙付け -
うら表紙トレイ 235
標準紙 55
平とじホチキスカートリッジの針づまり
（フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー

C3 装着時）.....744
平とじ用ホチキス針を交換する
（フィニッシャー C3 、中とじフィニッシャー
C3 装着時）.....97

フ

プールサーバーの使用 317
プールサーバーのログイン方法 317
プールサーバーへのログインについて
（ApeosPort シリーズのみ）.....338
ファイルプリント機能の使用 329
ファイル名の形式 291
ファクス回線選択の表示 294
ファクス初期表示画面 293
ファクス課金データ設定 364
ファクス画面表示設定 293
ファクス機能使用上の注意 / 制限 912
ファクス機能設定初期値 294
ファクス自動受信時の受信方式 298
ファクス受信制限リスト 142
ファクス受信モード 153, 299
ファクス設定 142, 293
ファクス送信 339
ファクス送信強制終了時の文書 298
ファクス転送時の上限データサイズ 310
ファクス転送時の発信元記録 310
ファクス動作制御 295
ファクスによる自動再送信 256
［ファクス認定番号］画面 134
ファクスのトラブル 537
ファクス保存文書の自動削除 298
ファクス未送信時の文書保存 298
フィニッシャー A2 での紙づまり 719
フィニッシャー B1 での紙づまり 720
フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー
C3 での紙づまり 722
フィニッシャーの調整 195
フィルム、原稿読み取りガラスの清掃 116
フォーム削除 277
フォントリスト 140
複製管理 197
プラグイン設定 208
プリセットボタンの設定 230
フリック / ダブルタップ操作 181
フリック操作 47
プリンター設定 138, 275
プリンター集計データ 361
プリンター集計レポート 145, 361
プリンターのトラブル 534
プリンターモード 149
プリント 344
プリント機能の設定 389
プリント起動 173
プリント禁止の設定 173
プリント時の確認画面表示 321
プリント文書一覧の詳細表示 321
プリント可能領域 278, 780
プリント時の削除確認画面表示 315
プリントジョブの追い越し 209
プリントできない 534
プリント文書一覧の初期表示 321
プリント文書保存時の向き指定 315
プリント用紙サイズ初期値 209
プレビュー 285, 294
プレビューイメージの作成 321
プレビューイメージの作成時間 321
プロキシサーバー指定方法 253, 255
プロキシサーバー設定 253
プロキシサーバーの使用 253
プロキシを使用しないアドレス 253
プロトコル設定 247
分割送信時の分割数上限 313
文書取り出し後の削除 334
文書プリントのトラブル 561
文書プリント - 用紙トレイ 2 ～ 5 段目 319

ヘ

ページ合成受信 299
ページ分割しきい値 299
ペーパーセキュリティー 199
ペーパーセキュリティーの初期値 201
ペーパーセキュリティーの動作制御 200
ヘルプ接続時のトラブル 560

ホ

ポート設定 240
ポート番号 351
ポーリング予約の発信元記録 297
ポーリング予約文書の自動削除 297

保守 192
保守・操作についてのお問い合わせ 133
保守サービスについて 946
補助項目 1 349
補助項目 2 349
補助項目 3 349
ホスト名 253
保存期間経過文書の削除 334
保存時の認証ユーザー 288
保存文書印刷 436
保存文書設定 320
ホチキスカートリッジの針づまり（フィニッシャー A2 の場合） 741
ホチキスカートリッジの針づまり（フィニッシャー B1 の場合） 742
ホチキスカートリッジを交換する（フィニッシャー A2 装着時） 92
ホチキスカートリッジを交換する（フィニッシャー B1 装着時） 94
ホチキスがうまく留められないとき 740
［ボックス削除］ボタンを選択した場合 335
ボックス設定 315
ボックスセレクター優先度 301
ボックスセレクターリスト 142
ボックス登録 332
ボックス文書の保存期間 320
ボックス保存時のファイル名の形式 301
ボックス名称 333
本体外部の清掃 110
本体集計管理 362, 492
本体集計管理で集計できるサービス 493
本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃 111
本体認証 490
本体の左側面下部カバー B での紙づまり 712
本体の左側面上部カバー A での紙づまり 707
本体メールアドレス / ホスト名 252
本体を清掃する 110

マ

まとめて 1 枚（N アップ） 233

ミ

未送信レポート 147, 191
ミックスサイズ原稿読み取りモード 302
ミックスサイズ原稿送り 232, 286, 294
未登録フォーム指定時の処理 280
未認証者の送信者アドレス 313
ミリ / インチ切り替え 224

ム

無線 LAN 設定 246

メ

メーター確認 157
メール / インターネットファクス機能使用上の注意 / 制限 914
メール / インターネットファクス設定 311
メール機能のトラブル 556
メール送信初期表示画面 284
メール送信できない 550
メールアドレス 252, 358
メールアドレス 1 ～ 5 207
メール機能の設定 403
メール受信 243
メール受信プロトコル 273
メール送受信設定 260
メール送信 243, 341
メール送信先の編集 313
メール送信動作制御 311
メール通知 344
メール通知（消耗品の状態通知） 404
メール通知サービス 243
メールの暗号化 287
メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定 476
メールの件名 287
メールの分割方式 312
メールプリント 404
メールプリントの排出先 273
メールプリントのトラブル 563
メール本文 208
名称 339
メディアプリント設定 319
メニュー画面の機能配列 40, 179
メニュー画面の補助機能配列 41, 179
メモリー設定 275
メモリーオーバーフローの処理 236, 290
メモリオーバフローの処理 301

モ

文字 / 写真（印刷写真）の原稿 237
文字 / 背景コントラスト 198
文字付ページ位置調整 - 左上、中上、右上、
左下、中下、右下 238
文字認識（OCR）.....287
文字認識時のページ向き 291
文字認識時の文字部分圧縮 288
文字認識する言語 287
文字の入力方法について 50
文字列初期値 197
文字列登録 1 ～ 3 199
文字列の大きさ 197
文字列の登録 203
モニターレポート 148, 295

ユ

ユーザー認証の操作 510
ユーザー用紙属性の名称設定 183
ユーザー登録 / 集計確認 357, 370
ユーザー入力項目 363
ユーザーの権限 359
ユーザーのアドレスを CC に追加 313
ユーザーのアドレスを宛先に追加 313
ユーザー別集計管理 145
ユーザー別メーター確認 158
ユーザー名 350, 358

ヨ

用紙 / トレイの設定 183
用紙が詰まった場合 706
用紙切れ警告音 177
用紙サイズを変更する 68
用紙種類の優先順位 185
用紙種類不一致時の処理 279
用紙種類別画質処理 186
用紙選択 230
用紙選択画面の補助属性表示 184
用紙トレイ 135
用紙トレイ 1 ～ 4 での紙づまり 713
用紙トレイ 1 ～ 4 に用紙をセットする 59
用紙トレイ 1 ～ 4 の用紙サイズを変更する 68
用紙トレイ 3 に用紙をセットする
（タンデムトレイモジュール装着時）.....61
用紙トレイ 3 の用紙サイズを変更する
（タンデムトレイモジュール装着時）.....69
用紙トレイ 4 に用紙をセットする
（タンデムトレイモジュール装着時）.....63
用紙トレイ 4 の用紙サイズを変更する
（タンデムトレイモジュール装着時）.....71
用紙トレイ 5（手差し）での紙づまり 715
用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする 64
用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））に
用紙をセットする 66
用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））での
紙づまり 716
用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））の
用紙サイズを変更する 72
用紙トレイにセットする用紙の種類について 58
用紙トレイの優先順位 185
用紙トレイボタン -2 段目～ 5 段目 230
用紙について 52
用紙の置き換え 278
用紙の設定を変更する 75
用紙のセット 51
用紙の保管と取り扱い 57
用紙補給について 59
用紙をセットする 58
呼び出しベル音 178
読み込み終了後の画面表示 290
読み込み濃度 286
読み取り解像度 286
読み取りサイズボタン 289, 305

ラ

ラインモニター音 178

リ

リダイヤル回数 297
リダイヤル間隔 297
リモートアシスタンス設定 331
利用制限について 489
両面 / 片面選択 232
両面プリント 300
両面読み取り色補正 190
両面読み取り色補正を行う 124

ル

累積ページ数のリセット 360

レ

レイアウトテンプレートの関連付け 203
レイアウトテンプレートの削除 203
レポート / リストの出力 135
レポート / リストをプリントする 127
レポート出力ボタンの表示 191
レポート設定 191
レポートの両面プリント 192

ロ

ローカルプリンターとして使用する場合 390

ワ

わく消し 286
わく消し - 原稿うら面 233
わく消し量 - 上 232
わく消し量 - 下 232
わく消し量 - 中 233
わく消し量 - 左 233
わく消し量 - 右 233
ワンタッチボタンの割り当て 178

困った！が解決しないときは



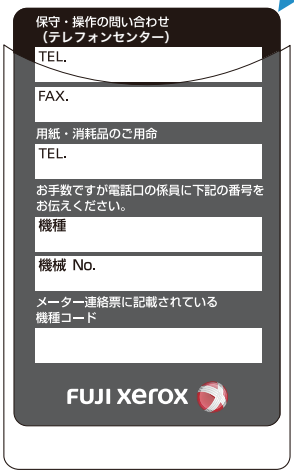
保守・操作・修理（内容・期間・費用など）のお問い合わせ、消耗品のご注文は、カストマーコンタクトセンター、または販売店にご連絡ください。

電話番号は、機械本体に貼付のカードやシールに書かれています。

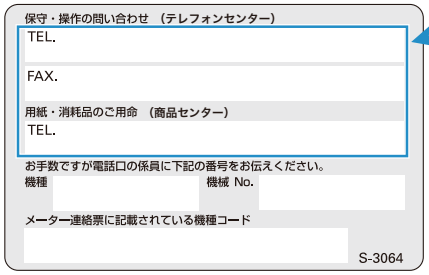
受付時間　土曜、日曜、祝日を除く **9時 ～ 17時30分**（一部の地域では異なります）

電話番号　機械本体の **貼付カード** をご確認ください。

カードの例 ❶



ここに書いてあります **電話番号**



カードの例 ❷



- カードは、名刺くらいの大きさです。
- 色やイメージが、イラストと異なる場合もあります。
- 問い合わせ先がわからない場合は、お客様相談センターで電話番号を確認してください。

- 本機を廃棄する場合は、弊社の営業担当者にご連絡ください。

ご意見やご相談の受付窓口

お客様相談センター　電話：0120-27-4100（通話料無料）
FAX：0120-05-5035（通話料無料）

- フリーダイヤルは、海外からはご利用いただけません。また、一部のIP電話からはつながらない場合があります。

土、日、祝日および弊社指定休業日を除く　9時～12時、13時～17時
お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

商品全般に関する情報

公式サイト　URL https://www.fujifilm.com/fb/

- 商品全般に関する情報、最新ソフトウェアなどを提供しています。

ApeosPort-VI C7771/C6671/C5571/C4471/C3371/C2271
DocuCentre-VI C7771/C6671/C5571/C4471/C3371/C2271
管理者ガイド

著作者 ― 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社
発行者 ― 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社

発行年月 ― 2026年 2月　第1版

ME8327J1-2